第六輯　文書　統計　國勢調査

第一章　文書

第一款　文庫

○內閣文庫圖書借覽規程（大正一〇、閣告一）……一

第二款　公文

○府縣往復規程（明治八、達一六）……一
○省令其ノ他陸軍大臣ノ發シタル命令ニ依ル文書ニ族稱記載方（大正四、陸令五）……一
○省令其ノ他海軍大臣ノ發シタル命令ニ依ル文書ニ族稱記載方（大正六、海令一）……一
○行政裁判所書類ノ公示送達揭示方（大正三、行告一）……一

第三款　請願　願伺屆

○請願令（大正六、勅令三七）……一
○地方廳ヲ經由セス【農商務大臣】ニ提出スル文書（明治三〇、農令一六）……二
○朝鮮總督府ニ提出スル願屆書等經由方（明治四三、朝令五）……二
○臺灣總督府ニ進達ノ願屆書等地方廳經由方（明治三二、臺令一九）……二
○關東廳ニ願屆書等提出方（大正一〇、關令三七）……二
○警務署等ニ爲スヘキ願屆ノ件（大正一一、關令九二）……二
○諸願屆書等ノ提出方ニ關スル件（大正一二、樺令五五）……二

第四款　署名　印章

○外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律（明治三二、法律五〇）……三
○官印寸法（明治三一、閣令五）……三
○【戸長】ノ印章用方（明治一六、內達乙二九）……三
○記名公債證書所有商事會社印鑑日本銀行ヘ差出方（明治二六、大令一八）……三
○印鑑證明規則（大正三、朝令一一〇）……三
○臺灣官署ヘ進達文書其他公事書類ニ署名方（明治三一、臺令一〇一）……四
○印鑑規則（明治三九、臺令四二）……四
○印鑑證明規則（大正一〇、關令五四）……四
○印鑑證明規則（大正一一、樺令二〇）……四
○印鑑證明規則（大正一二、南令一七）……五

第二章　官報

○官報、法令全書、職員錄、官廳刊行圖書目錄等ノ發行ニ關スル件（大正一一、閣令一）……五
○官報廣告料（大正九、閣告七）……五

第三章　統計

○統計資料實地調査ニ關スル法律（大正一一、法律五二）……五
○勞働統計實地調査令（大正一二、勅令二六六）……六
○勞働統計實地調査施行規則（大正一二、內令一六）……六
○勞働統計實地調査施行細則（昭和二、閣調二）……一一
○人口動態調査令（大正一一、勅令四七八）……一三
○人口動態調査令施行細則（大正一一、閣令八）……一四
○人口動態調査票及送致目錄作成心得（大正一一、閣調一）……一六
○人口動態調査ノ結果表章ニ用ウヘキ死因及疾病分類（大正一三、閣訓一）……三〇
○官廳ニ於テ調製スル統計表ニ用ウヘキ職業分類（大正九、閣訓一）……三三
○精神病者調査票樣式及記入方法（明治四二、內令二七）……三三
○農林省統計報告規則（大正一四、農令二五）……三六
○地方農林統計費補助規則（昭和二、農令一五）……三九
○商工省統計報告規則（大正一四、商令一一）……六五
○會社統計規則（大正一四、商令一二）……六七
○工場統計規則（大正一二、農令臨一五）……七八

第四章　國勢調査

○國勢調査ニ關スル法律（明治三五、法律四九）……八一
○國勢調査施行令（大正七、勅令三五八）……八一
○國勢調査施行細則（大正八、閣令六）……八一
○國勢調査地方事務取扱規程（大正八、閣訓二）……八二
○國勢調査員心得（大正八、閣訓三）……八四
○大正十四年國勢調査施行令（大正一四、勅令二
○一）……八七
○大正十四年國勢調査施行細則（大正一四、閣令一）……八八
○大正十四年國勢調査地方事務取扱規程（大正一四、閣訓二）……八八
○國勢調査員心得（大正一四、閣訓三）……八九
○各世帶ニ配付スヘキ國勢調査申告書用紙樣式（大正一四、閣告四）……九三
○市町村ニ於テ民勢調査妨害處罰方（明治四一、內令一五）……九四

第六輯

文書　統計　國勢調査

第六輯　文書　統計　國勢調査

第一章　文書

第一款　文庫

●内閣文庫圖書借覽規程（大正十年四月十一日内閣告示第一號）

内閣圖書借用購買規程左ノ通改正ス

内閣文庫圖書借覽規程

第一條　内閣文庫圖書ハ内閣部内各廳ノ請求ニ因リテ之ヲ貸出スモノトス

内閣部外ノ各官廳又ハ行政廳ヨリ内閣文庫圖書借用ノ需アリタルトキハ之ニ對シ貸出ヲ爲スコトヲ得

貴重圖書ハ前二項ノ規定ニ拘ラス之カ貸出ヲ爲ササルモノトス但シ文庫ニ就キ閲覽スルヲ妨ケス

第二條　各廳ニ於テ圖書ヲ借用セムトスルトキハ其ノ書名等ヲ詳細ニ記載シ期間ヲ定メ【内閣記錄課】長ニ照會スヘシ但シ期間ハ一月ヲ超ユルコトヲ得ス

各廳ニ於テ圖書ヲ借用シタルトキハ別紙樣式ニ依リ圖書借用證書ヲ提出スヘシ

第三條　各廳ニ於テ官吏ヲ派遣シ文庫ニ就キ圖書ヲ閲覽セシムル場合ニ於テハ照會書又ハ之ニ代ルヘキ書面ヲ携帶セシムヘシ

第四條　貸出中ノ圖書ニ付取戻ヲ要スルコトアリテ【内閣記錄課】長ヨリ返還ノ照會ヲ爲シタルトキハ借用期間内ト雖モ速ニ之ヲ返還スヘシ

第五條　圖書ヲ亡失毀損シ又ハ汚穢シタルトキハ其ノ事由ニ依リ同樣ノ圖書ヲ以テ償還セシムヘシ但シ事宜ニ依リ【内閣記錄課】ニ於テ新タニ圖書ヲ購入シ其ノ代價ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第六條　篤志者ニシテ學術研究ノ爲文庫ニ就キ圖書ノ閲覽ヲ願フ者ニハ詮議ノ上許可スルコトアルヘシ

（別紙）

圖書借用證書

一書名　號氏　册　（一部一紙ニ認ムルモノトス）

右正ニ借用致候也　但シ期間何月何日迄

何省（或ハ廳）

年　月　日　何局（或ハ課）長氏名印

【内閣記錄課】長宛

第二款　公文

●府縣往復規程（明治八年一月三十一日太政官達第十六號　改正　明治八年第三二號、第六〇號、一〇年第一八號）

院省【使】廳府縣

府縣東京出張所ノ儀來ル二月一日ヨリ相廢候ニ付諸事左ノ府縣往復規程ニ照準可取計此旨相達候事

府縣往復規程

第一條　府縣ヨリ進達スル諸願伺届等ハ總テ郵便ヲ以直ニ院省ヘ送達シ院省ノ指令及ヒ達等ノ文書モ亦郵便ニ附スヘキ事

第二條　府縣ヨリ當府下ヘ寄留ノ華士族平民ノ身分取扱ノ儀ハ總テ東京府ニ於テ管掌スヘキ事

但院省ニテ華士族平民呼出ノ節ハ直ニ本人ヘ相達スヘキ事

第三條　【府縣ヨリ當府下ヘ寄留ノ者ヘ家祿奉還金公債證書等交付ノ如キハ内務省ヲ經由シ東京府ニ於テ下ケ渡スヘキ事】

第四條　【府縣ヘ諸布告布達等ノ類ハ各其院省ヨリ郵送スヘキ事】

第五條　【處刑濟及ヒ脱籍ノ者ハ警視局ヨリ從前ノ手續ヲ以テ送還スヘキ事】

第六條　【府縣ヘ可下渡金穀是迄郵送ヲ以テ取扱來候分ハ總テ内務省ヨリ其府縣ヘ郵送方可取扱事】

【但府縣ヨリ租税其他上納ノ金穀ハ直ニ其主務ノ省ヘ郵送スヘキ事】

第七條　【家祿奉還公債證書モ亦前條ノ手續タルヘキ事】

第八條　院省ヨリ府縣ヘ郵送セシ諸公文其外到着ノ上速ニ領受ノ證書ヲ其院省ヘ郵致スヘシ府縣ヨリ院省ヘ郵送セシモノモ亦同樣可取計事

第九條　書面ニテ辨理シ難キ事件アリテ府縣主務ノ判任官出京セシ時ハ着京歸縣𪜈遲滞ナク内務省ヘ可届出事

第十條　府縣ヨリ郵達スル文書ノ上包ニハ其省名ヲ書記シ若シ其事機密ニ渉ルモノハ長官又ハ次官ノ名ヲ書シ傍ラニ親展等ノ文字ヲ記スヘキ事

第十一條　府縣ヨリ郵達セシ書類ニ若シ主管違ヒノ申牒等アル時ハ成丈ケ送還ノ手數ヲ省キ直ニ其主務ノ省ヘ回送スヘキ事

但名宛違ヒノ申牒ヘ指令スル時ハ添書ヲ以テ其旨可申達事

第十二條　院省ニ於テ若シ指令掩滞等ノ事アル時ハ直ニ郵便ヲ以其主務ノ長次官ヘ督促スヘキ事

第十三條　第九條ノ事件ニ付府縣判任官出京ノ節其長官ヨリ何々事件ニ付何ノ誰ヘ出京ヲ命候旨主務ノ院省ヘ届出有之分ハ其事ニ屬スル指令及ヒ金額共直ニ其者ヘ下渡シ候儀モ可有之事

第十四條　【第六條ノ金穀ハ主務ノ省寮ニ於テ内務省ノ假證書ヲ以テ交附シ追テ其府縣長官押印ノ證書ト交換スヘシ】

【但貸下金穀納受ノ儀ハ從前成規ノ通リタルヘシ】

第十五條　【前條ノ金穀内務省ヨリ其府縣ヘ郵送到達ノ上ハ從前書式ノ通其主務長官宛名ノ證書同省ヘ可差出事】

●省令其ノ他陸軍大臣ノ發シタル命令ニ依ル文書ニ族稱記載方（大正四年三月二十五日陸軍省令第五號）

省令其ノ他陸軍大臣ノ發シタル命令ニ依リ文書ニ族稱記載ヲ必要トスルモノアルトキハ其ノ華族又ハ士族ナルトキニ限リ之ヲ記載スルモノトス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●省令其ノ他海軍大臣ノ發シタル命令ニ依ル文書ニ族稱記載方（大正六年二月十三日海軍省令第一號）

省令其ノ他海軍大臣ノ發シタル命令ニ依リ文書ニ族稱記載ヲ必要トスルモノアルトキハ其ノ族稱華族又ハ士族ナルトキニ限リ之ヲ記載スルモノトス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●行政裁判所書類ノ公示送達掲示方（大正三年八月六日行政裁判所告示第一號）

書類ノ公示送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ行政裁判所正門前ノ掲示板ニ其ノ書類ヲ貼附ス

第三款　請願　願伺屆

●請願令（大正六年四月五日勅令第三十七號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ請願令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

請願令

第一條　請願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二條　請願ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

請願書ニハ侮辱誹毀ニ渉リ又ハ秩序風俗ヲ紊ルノ文辭ヲ用ウルコトヲ得ス

第三條　請願書ノ文字ハ端正鮮明ナルコトヲ要ス

第四條　請願書ニハ請願ノ要旨、理由、年月日、請願者ノ族稱、職業、住所、年齡ヲ記載シ請願者各自之ニ署名捺印スヘシ

第五條　法人請願者ナルトキハ其ノ名稱及住所ヲ記載シ法定ノ代表者各自請願書ニ署名捺印スヘシ

第六條　法人ハ其ノ目的ノ遂行ニ關係アル事項ニ非サレハ請願ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　未成年者及禁治産者ノ請願ハ其ノ法定代理人ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ請願書ニ代理ノ事由及法定代理人ノ族稱、職業、住所、年齡ヲ記載

シ法定代理人之ニ署名捺印スヘシ

第八條　署名スルコト能ハサル者ハ他人ヲシテ代署セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ代署者請願書ニ其ノ事由ヲ附記シ且其ノ族稱、職業、住所、年齡ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

第九條　請願ハ第七條ノ場合ヲ除クノ外代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　天皇ニ奉呈スル請願書ハ封皮ニ請願ノ二字ヲ朱書シ內大臣府ニ宛テ其ノ他ノ請願書ハ請願ノ事項ニ付職權ヲ有スル官公署ニ宛テ郵便ヲ以テ差出スヘシ

第十一條　左ニ揭クル事項ニ付テハ請願ヲ爲スコトヲ得ス

一　皇室典範及帝國憲法ノ變更ニ關スル事項

二　裁判ニ干預スル事項

第十二條　相當ノ敬禮ヲ守ラス又ハ本令ノ規定ニ違反スル請願書ハ之ヲ却下ス但シ官公署ニ對スル請願書ハ第三條乃至第五條、第七條第二項又ハ第八條ノ規定ニ違反スルモ之ヲ却下セサルコトヲ得

第十三條　請願ニ對シテハ指令ヲ與ヘス

第十四條　天皇ニ奉呈スル請願書ハ內大臣奏聞シ旨ヲ奉シテ之ヲ處理ス

第十五條　請願ニ關シ官公署ノ職員ニ强テ面接ヲ求メタル者ハ二月以下ノ禁錮若ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

二人以上共ニ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　行幸ノ際沿道又ハ行幸地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス行啓ノ際沿道又ハ行啓地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者亦同シ

第十七條　請願ヲ爲サシムル爲他人ヲ誘惑若ハ煽動シ又ハ名義ノ何タルヲ問ハス請願ニ關スル運動ノ爲金錢其ノ他ノ利益ヲ收受シ、要求シ若ハ其ノ收受ヲ約束シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

●地方廳ヲ經由セス【農商務大臣】ニ提出スル文書

（明治三十年九月十四日農商務省令第十六號）
（改正　明治三一年第七號、四二年第一一號）

本大臣ニ提出スル左記ノ文書ハ自今地方廳ヲ經由スルヲ要セス

一　一般人民及法人其他ノ團體ヨリ提出スル建議書請願書竝任意ノ報告書

二　一般人民及法人其他ノ團體ヨリ吏員派遣ノ申請書

三　產業若クハ技術ニ關スル質問調査竝紹介ノ申請書

四　獸醫及蹄鐵工免許試驗願

五　獸醫及蹄鐵工學校ノ學則認可願

六　認可獸醫及蹄鐵工學校ヨリ提出スル文書

【七　株式會社ヨリ提出スル左記ノ報告】

【一　總會ニ於テ認定シタル每事業年度ノ計算書財產目錄貸借對照表事業報告書利息又ハ配當金分配ノ事】

【二　會社又ハ役員訴訟ノ當事者トナリタルトキ其訴件ノ要旨及年月日】

【三　前號訴件結了シタルトキ其結果及年月日】

【八　債券發行ニ關シ株式會社ヨリ提出スル左記ノ屆書】

【一　債權者募集締切ノ年月日】

【二　募集金額】

【三　應募金額】

【四　申込價格ノ最昻、最低及平均】

【五　募集契約締結ノ最低價格及會社ノ實收スヘキ金額】

【六　每年債券拂込高旣往累年拂込總高及未拂込高】

【七　每年債券償還高旣往累年償還總高及未償還高】

【八　利子仕拂高】

【九　債券讓渡讓受ノ人員及償金高】

【十　每年末期現在債權者ノ員數】

九　取引所開業屆書

十　取引所仲買人營業免許願及免許狀受書廢業屆

十一　取引所仲買人免許狀再交付及書換ノ申請書

十二　取引所ヨリ提出スル左記ノ報告申請及屆書

一　每日公定相場表

二　每月賣買高表

三　每月商品集散及商況報告

四　收支豫算表

五　每半季財產目錄

六　每半季貸借對照表

七　每半季損益計算表

八　每半季末日現在會員株主仲買人氏名表

九　株式（債券）賣買舉行認可申請

十　賣買手數料徵收額認可申請

十一　取引所所有金、預リ金保管方法認可申請

十二　特別契約倉庫設置認可申請

十三　賣買證據金及仲買人口錢額徵收率

十四　賣買停止及解停屆書

十五　臨時休業屆書

十六　立會時間變更屆書

十七　代米格付表

十八　國債證券、地方債證券賣買舉行屆書

十九　仲買人ノ身元保證金供託ニ關スル屆書

【十三　商業會議所會員役員ノ就任退任屆書】

●朝鮮總督府ニ提出スル願屆書等經由方

（明治四十三年十月一日朝鮮總督府令第五號）

朝鮮總督府ニ提出スル願屆書等ハ法令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外總テ其ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣總督府ニ進達ノ願屆書等地方廳經由方

（明治三十二年三月二十六日臺灣總督府令第十九號）

臺灣總督府ニ差出スヘキ願屆書等ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外總テ其管轄地方廳ヲ經由スヘシ

●關東廳ニ願屆書等提出方

（大正十年六月三日關東廳令第三十七號）

關東廳ニ提出スヘキ願書、屆書又ハ申請書等ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外所轄民政署、民政支署、警務署又ハ警務支署ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年關東都督府令第四十號ハ之ヲ廢止ス

●警務署等ニ爲スヘキ願屆ノ件

（大正十一年十二月二十八日關東廳令第九十二號）

警務署又ハ警務支署ニ爲スヘキ願屆ハ書面ニ依ルヘキ定アル場合ヲ除クノ外口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ定ナシト雖書面ヲ以テ爲サヽルヘカラサルモノハ此ノ限ニ在ラス

口頭ヲ以テ願屆ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ願屆ニ添附スヘキ書類等ハ同時ニ之ヲ提出スヘシ

前各項ノ願屆ハ警察官吏派出所又ハ警察官吏駐在所ニ之ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●諸願屆書等ノ提出方ニ關スル件

（大正十二年十二月一日樺太廳令第五十五號）
（改正　大正一三年第四一號）

諸願屆書等ノ提出方ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　樺太廳ニ提出スル諸願屆書等ハ本令其ノ他別ニ規定アルモノノ外所轄町村役場樺太廳支廳出張所及樺太廳支廳ヲ經由スヘシ

前項ノ規定ハ樺太廳支廳ニ提出スル諸願屆書等ニ之ヲ準用ス

第二條　左ノ書類ハ所轄町村役場樺太廳支廳出張所及樺太廳支廳ヲ經由スルヲ要セス

一　恩給法ニ依ル請求書

二　家畜種付規則ニ依ル願屆書

三　種卵配付ニ關スル願書

四　產業組合理事監事ニ關スル屆書

五　產業組合原簿記載變更屆書

六　銀行業者ヨリ提出スル願屆書

七　漁業登錄ニ關スル申請及屆書

八　免許漁業ニ關スル出願申請及屆書但漁業組合ヨリ提出スルモノヲ除ク

第三條　左ノ書類ハ所轄町村役場ヲ經由スルヲ要セス

一　樺太廳支廳長ニ提出スル諸證明願書

二　小學校敎員試驗檢定願書

三　國稅ニ關スル申告及申請書類

四　樺太酒造稅規則第十六條但書ニ依ル證明書

五　保證擔保ニ關スル書類

六　地方賃金借入申込書

七　林產物賣拂代金延納願書

八　國有未開地特別處分令ニ依ル願屆書

九　土地臺帳規則ニ依ル請求及屆書

十　獸醫及蹄鐵工ニ關スル屆書

十一　家畜去勢願書

十二　家畜移入購入費補助願書

十三　家畜貸付願書

十四　移入鹽證明願書

十五　度量衡法ニ依ル願屆書

十六　會社屆出規則ニ依ル屆書

十七　產業組合ヨリ提出スル書類但產業組合設立認可申請書ヲ除ク

十八　競馬ニ關スル書類

十九　林產物賣拂ニ關スル願屆書

二十　木材ノ輸移出ニ關スル書類

附　則

本令ハ大正十二年十二月十日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年三月廳令第十七號ハ之ヲ廢止ス

第四款　署名　印章

●外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律

（明治三十二年三月十日法律第五十號）
（改正　大正一五年第七一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

第一條　法令ノ規定ニ依リ署名、捺印スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名スルヲ以テ足ル

捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺印ニ代フルコトヲ得

第二條　民事訴訟法第九十二條ニ依リ訴訟上ノ救助ヲ求ムル外國人ハ日本ニ住所、居所ヲ有セサルトキハ其ノ住所又ハ居所アル外國ノ管轄官廳ノ證明書ヲ以テ同法第九十三條ニ定メタル無資力ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ證明書ニハ日本ニ駐在スル其ノ外國ノ領事ノ認證ヲ受クヘシ

日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ハ其ノ住所地又ハ居住地ノ市町村長ノ證明書ヲ以テ前項ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ市町村長ノ證明書ヲ提出スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ證明カ不十分ナルトキハ裁判所ハ日本ニ駐在スル本國領事ノ認證アル本國管轄官廳ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

附　則

第三條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治三十二年勅令第三百二十七號ヲ以テ同年七月十七日ヨリ施行）

（大正十五年四月二十四日法律第七十一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治三十二年法律第五十號中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

明治三十二年法律第五十號中左ノ通改正ス

第二條　削除

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●官印寸法

（明治三十一年八月十二日閣令第五號）

明治八年太政官第百十號達ヲ左ノ通改正ス

公務ニ關シ長官或ハ主任ノ名ヲ以テ上申下達及往復スル書類ニ用井ル印章ハ勅任官ハ方九分（曲尺）奏任官ハ方七分（曲尺）判任官ハ方六分（曲尺）トシ官名ノミヲ彫刻スヘシ但シ現ニ使用ノ分ハ改刻スルニ及ハス

●【戶長】ノ印章用方

（明治十六年六月八日內務省達乙第二十九號）

府縣

【戶長】印章ノ義ハ【八年第百十號達】判任官同樣タルヘキ旨相達置候處布告達ニヨリ實印ヲ押捺スル分ハ自今官印ヲ用ユヘシ此旨相達候事

●記名公債證書所有商事會社印鑑日本銀行へ差出方

（明治二十六年九月五日大藏省令第十八號）

記名公債證書ヲ所有スル商事會社ハ印鑑ヲ差出シアル裁判所ノ證明ヲ經テ其印鑑ヲ日本銀行ニ差出スヘシ

●印鑑證明規則

（大正三年七月七日朝鮮總督府令第百十號）

印鑑證明規則左ノ通定ム

第一條　印鑑ノ證明ヲ受ケムトスル者ハ豫メ其ノ住所ヲ管轄スル府廳又ハ面事務所ニ印鑑ノ屆出ヲ爲スヘシ

屆出ノ印章ハ一人一種ニ限ル

第二條　府廳及面事務所ニハ第一號樣式ノ印鑑臺帳ヲ備フヘシ

第三條　印鑑ノ屆出ハ屆出人出頭シテ之ヲ爲スヘシ但シ出頭スルコト能ハサルトキハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ屆書ニハ府廳又ハ面事務所ニ印鑑ノ屆出ヲ爲シタル成年者二人以上連署スルコトヲ要ス

第四條　印鑑ノ屆出アリタルトキハ出頭シタル者カ屆出ノ本人ナルコトヲ確メタル後其ノ住所、本籍地、氏名及出生ノ年月日ヲ印鑑臺帳ノ相當欄ニ記入シ屆出人ヲシテ印章ヲ提出セシメ其ノ面前ニ於テ之ヲ印鑑欄ニ押捺シタル上直ニ屆出人ニ返付シ屆出ノ順序ヲ追フテ印鑑ニ番號ヲ附シ且屆出ノ年月日ヲ記入スヘシ

第五條　書面ヲ以テ印鑑ノ屆出ヲ爲ス場合ニ於テハ屆書ニ屆出人ノ住所、本籍地、氏名及出生ノ年月日ヲ記載シ且特別ノ事由アルモノヲ除クノ外方一寸ノ白紙ニ屆出ヲ爲ス印章ヲ鮮明ニ押捺シタル印鑑ヲ添附スヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ其ノ屆書ニ依リ印鑑臺帳ニ相當ノ記入ヲ爲シタル上屆書ニ添附シタル印鑑ヲ印鑑臺帳ノ印鑑欄ニ貼附シ臺紙ト印鑑トニ掛ケ契印ヲ爲スヘシ

第六條　印鑑ノ屆出ヲ爲シタル者其ノ氏名、住所又ハ本籍地ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ府廳又ハ面事務所ニ屆出ツヘシ

印鑑ノ屆出ヲ爲シタル者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ相續人ハ其ノ旨ヲ府廳又ハ面事務所ニ屆出ツヘシ

第七條　印鑑臺帳ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ

第八條　印鑑ノ證明ヲ受ケムトスル者ハ特別ノ事由アルモノヲ除クノ外第二號樣式ニ依ル印鑑ヲ貼附シタル願書ヲ府廳又ハ面事務所ニ提出スヘシ

印鑑ノ證明ヲ爲スニハ願書ノ末尾ニ左ノ證明文及年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且願書ト之ニ貼附シタル印鑑トニ掛ケ契印ヲ爲スヘシ

印鑑臺帳ニ照シ右印鑑ノ相違ナキコトヲ證明ス

第九條　第一條、第三條乃至第五條ノ規定ハ改印ノ屆出ニ、前條ノ規定ハ改印ノ證明ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

印鑑臺帳

何府廳（何面事務所）

印鑑番號	第　號		第　號		第　號		第　號
屆出ノ年月日	印鑑	屆出ノ年月日	印鑑	屆出ノ年月日	印鑑	屆出ノ年月日	印鑑
年　月　日		年　月　日		年　月　日		年　月　日	
改印　年　月　日		改印　年　月　日		改印　年　月　日		改印　年　月　日	
改印　年　月　日		改印　年　月　日		改印　年　月　日		改印　年　月　日	
備考							

住所	本籍地	氏名及出生ノ年月日	住所	本籍地	氏名及出生ノ年月日	住所	本籍地	氏名及出生ノ年月日	住所	本籍地	氏名及出生ノ年月日
		年　月　日生			年　月　日生			年　月　日生			年　月　日生

印鑑臺帳

印鑑番號	第　號		第　號		第　號		第　號	
	届出ノ年月日	印鑑	届出ノ年月日	印鑑	届出ノ年月日	印鑑	届出ノ年月日	印鑑
	年月日		年月日		年月日		年月日	
	改印年月日		改印年月日		改印年月日		改印年月日	
	改印年月日		改印年月日		改印年月日		改印年月日	
	備考							
	住所 本籍地 氏名及出生ノ年月日　年月日生		住所 本籍地 氏名及出生ノ年月日　年月日生		住所 本籍地 氏名及出生ノ年月日　年月日生		住所 本籍地 氏名及出生ノ年月日　年月日生	

（備考　用紙ハ厚紙ヲ用井印鑑欄ヲ方一寸トスルコト）

第二號樣式（用紙厚紙竪五寸橫一寸）

㊞　印鑑

住所

氏　　名

何年何月何日生

●臺灣官署ヘ進達文書其他公事書類ニ署名方

（明治三十一年十月三十日　臺灣總督府令第百一號　改正　明治三四年第七七號、三七年第六四號）

官署ニ差出スヘキ文書其他公事ニ關スル書類ニ署名スルハ自今氏名ニ限ルヘシ他ノ稱號等ヲ用井ルコトヲ得ス

本令ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●印鑑規則

（明治三十九年六月二十三日　臺灣總督府令第四十二號　改正　大正九年第六四號）

印鑑規則

第一條　印鑑ノ證明ヲ請求セムトスル者ハ別記樣式ニ依リ豫メ之ヲ廳、郡、市又ハ支廳ニ届置クヘシ其ノ改印シタルトキ亦同シ

第二條　印鑑ノ届出ヲ爲ス印形ハ一人一種ニ限ル

第三條　印鑑ニ關スル願、届ハ直接ニ之ヲ廳、郡、市又ハ支廳ニ提出スルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年一月府令第一號ハ之ヲ廢止ス

別記

樣式（用紙厚紙）　四寸　一寸

印鑑　○

本居地（寄留地アルモノハ寄留地）

氏　名

出生年月日

●印鑑證明規則

（大正十年七月十日　關東廳令第五十四號）

印鑑證明規則左ノ通定ム

印鑑證明規則

第一條　印鑑ノ證明ヲ受ケムトスル者ハ豫メ其ノ印鑑ヲ所轄民政署又ハ民政支署ニ届出ツヘシ

第二條　印鑑ノ届出ハ届書ニ別記樣式ノ印鑑箋ニ押捺シタル印鑑ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ印鑑箋ハ之ヲ届書ニ貼附シ其ノ表面ノ一端ト届書トニ掛ケ印鑑箋ノ印鑑ト同一ノ印章ヲ以テ之ニ契印スヘシ

第三條　印鑑ノ届出ハ届出人自身出頭スルコト能ハサル事情アル場合ニ限リ當該官署ニ印鑑ノ届出ヲ爲シタル成年者二人以上ノ連署アル届書ニ依リ代人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

代書業ニ從事スル者ハ前項ノ連署人タルコトヲ得ス

第四條　印鑑ノ届出ヲ爲シタル者其ノ本籍地、現住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ所轄民政署又ハ民政支署ニ届出ツヘシ

第五條　印鑑ノ證明ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ別記樣式ノ印鑑箋ニ押捺シタル印鑑ヲ添附シ所轄民政署又ハ民政支署ニ願出ツヘシ

第二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前印鑑ノ届出ヲ爲シタルモノハ本令ニ依リ其ノ届出ヲ爲シタルモノト看做ス

（樣式）　用紙厚紙　長五寸、幅一寸

印　鑑

本籍地
現住所

氏　名

年月日生

●印鑑證明規則

（大正十一年三月二十五日　樺太廳令第二十號　改正　大正一二年第五一號）

印鑑證明規則左ノ通定ム

印鑑證明規則

第一條　印鑑ノ證明ヲ受ケムトスル者ハ町村長ニ豫メ第一號樣式ニ依リ其ノ印鑑ヲ届置クヘシ其ノ届出テ爲シタル後改印ヲ爲サムトスルトキハ第二號樣式ニ依リ之ヲ届出ツヘシ

第二條　前條ニ依リ届出ヲ爲ス印鑑ハ一人一種ニ限ル

第三條　印鑑ハ其ノ本人ニ非サレハ證明ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　印鑑ノ證明ヲ受ケムトスルトキハ其ノ届出ヲ爲シタル町村長ニ第三號樣式ニ依リ請求スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年七月樺太廳告示第三十九號ハ之ヲ廢止ス但シ同告示ニ依リ届出ヲ爲シタル印鑑ハ之ヲ本令ニ依リ届出ヲ爲シタルモノト看做ス

第一號樣式

印鑑届

印鑑　㊞

本籍
現住所

職業

氏　名

生年月日

右届出候也

年　月　日　　氏　　名㊞

宛　名

備　考

一　區劃ヲ示セル部分ハ縦五寸横一寸ノ烏ノ子類ノ紙箋ニ之ヲ記載シ其ノ上部ヲ届書ニ貼付スヘシ

第二號樣式

改印届

印鑑　㊞

本籍
現住所

職業

氏　名

生年月日

右ハ從來所持ノ印形紛失（磨滅）（何々）ニ付改印致候間届出候也

住　所

年　月　日　　氏　　名印

宛　名

備　考

一　第一號樣式ノ備考ハ本樣式ニ之ヲ準用ス

第三號樣式

印鑑證明願

印鑑　㊞

本籍
現住所

氏　名

生年月日

右印鑑證明相成度請求候也

年　月　日　　氏　　名㊞

宛　名

備　考

一　第一號樣式ノ備考ハ本樣式ニ之ヲ準用ス

●印鑑證明規則

（大正十二年八月十七日　南洋廳令第十七號）

印鑑證明規則左ノ通定ム

印鑑證明規則

第一條　印鑑ノ證明ヲ受ケムトスル者ハ豫メ其ノ印鑑ヲ所轄支廳ニ届出テ置クヘシ其ノ改印シタルトキ亦同シ届出ヲ爲ス印章ハ一人一種ニ限ル

第二條　印鑑ノ届出ハ届書ニ別記樣式ノ印鑑箋ニ押捺シタル印鑑ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ印鑑箋ハ之ヲ届書ニ貼附シ其ノ表面ノ一端ト届書トニ掛ケ印鑑箋ノ印鑑ト同一ノ印章ヲ以テ之ニ契印スヘシ

第三條　印鑑ノ届出ハ届出人自身出頭シテ之ヲ爲スヘシ但シ自身出頭スルコト能ハサルトキハ當該支廳ニ印鑑ノ届出ヲ爲シタル成年者二人以上ノ連署アル届書ニ依リ代人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條　印鑑届書ハ届出ノ順序ニ依リ之ヲ編綴シ永久保存スヘシ

第五條　印鑑ノ届出ヲ爲シタル者其ノ本籍、現住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ速ニ所轄支廳ニ届出ツヘシ

第六條　印鑑ノ證明ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ別記樣式ノ印鑑箋ニ押捺シタル印鑑ヲ貼附シ所轄支廳ニ願出ツヘシ

第二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　印鑑ノ證明ヲ爲スニハ願書ノ末尾ニ朱書ニテ左ノ證明文及年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且願書ト之ニ貼附シタル印鑑トニ掛ケ契印スヘシ

「曩ニ届出テタル印鑑ニ照シ右印鑑ノ相違ナキコトヲ證明ス」

第八條　第二條乃至第四條ノ規定ハ改印ノ届出ニ、前條ノ規定ハ改印ノ證明ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式略ス）

第二章　官報

●官報、法令全書、職員錄、官廳刊行圖書目錄等ノ發行ニ關スル件

（大正十一年一月二十六日　閣令第一號　改正　昭和二年第四號）

官報、法令全書、職員錄、官廳刊行圖書目錄等ノ發行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　各官廳ハ官報報告主任ヲ定メ官報、職員錄及官廳刊行圖書目錄ニ登載スヘキ事項ノ原稿ヲ取纒メ（官廳刊行圖書目錄ニ付テハ之ニ登載セラルヘキ圖書ヲ添ヘ）內閣印刷局ニ之ヲ送付セシムヘシ

第二條　各官廳ノ廣告ニシテ官報ヲ以テスルモノハ廣告料ヲ要セス但シ登記ノ公告及一般廣告ノ部ニ掲載スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　官報ノ定價左ノ如シ

一　內地及內地ト同額ノ郵便料ヲ要スル地域

一月分　九十五錢

一部　五錢

二　前號ノ地域以外ノ地域

一月分　一圓八十錢

一部　八錢

官報ハ前項ニ規定スル代金ノ外別ニ配達料又ハ郵送料ヲ要セス

第一項ノ官報代金ハ官廳ヲ除クノ外之ヲ前納セシム

第四條　法令全書、職員錄及官廳刊行圖書目錄ノ定價、官報廣告料竝ニ法令全書、職員錄及官廳刊行圖書目錄ノ郵送料ハ內閣印刷局長之ヲ定メ官報ニ廣告スヘシ

第五條　官報ハ詔書、法令、豫算、條約、敍任、辭令、宮廷錄事、官廳彙報、帝國議會ニ關スル事項、地方行政彙報、學術技藝ノ事項、產業其ノ他ニ關スル雜報、官廳ノ廣告及一般ノ廣告等ヲ掲載スルモノトス

第六條　法令全書ハ詔書、皇室令、法律、豫算、豫算外國庫ノ負擔ト爲ルヘキ契約、勅令、條約、軍令、制令、律令、閣令、省令、府令、廳令、調令、達、告示及重要ナル議定書協約等ヲ掲載スルモノトス

第七條　職員錄ハ職官表、宮中席次令、各廳官制拔抄、官吏、委員、公吏、貴族院議員、衆議院議員及道府縣會議員等ヲ掲載スルモノトス

第七條ノ二　官廳刊行圖書目錄ハ官廳ニ於テ刊行スル圖書（機密ニ屬スルモノヲ除ク）ノ名稱、主管官廳部局課等ノ名稱、刊行年月竝ニ發賣スルモノハ其ノ販賣所名、定價及郵送料等ヲ掲載スルモノトス

第八條　內閣印刷局長ハ官報販賣所ヲシテ官報ノ販賣ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條　內閣印刷局長ハ官報販賣所及其ノ他ノ者ヲシテ法令全書、職員錄、官廳刊行圖書目錄其ノ他ノ刊行物ノ販賣ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條　前二條ノ規定ニ依リ官報販賣所又ハ其ノ他ノ販賣者ニ官報、法令全書、職員錄、官廳刊行圖書目錄其ノ他ノ刊行物ヲ賣渡ス場合ニハ內閣印刷局長ハ割引ヲ爲スコトヲ得

第十一條　官報販賣所ハ內閣印刷局長ノ定ムル販賣區域內ニ於ケル購求者ニ定價ヲ以テ官報ヲ販賣スルモノトス

內閣印刷局長ハ官報販賣所ヲシテ販賣セシムル官報ヲ直接購求者ニ郵送スルコトヲ得

第十二條　官報販賣所ハ內閣印刷局長ノ定ムル所ニ依リ擔保トシテ國債ヲ提供スヘシ

第十三條　前條ノ規定ニ依リ國債ヲ提供スル場合ニハ無記名國債證券ノ提供ニ在リテハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證書ヲ提出シ登錄國債ノ提供ニ在リテハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ提出スヘシ登錄國債ニシテ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證書ヲ提出スヘシ

附　則

左ノ太政官達及閣令ハ之ヲ廢止ス

明治十六年太政官達第二十二號

明治十六年太政官達第二十九號

明治三十二年閣令第二號

明治三十三年閣令第一號

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ三年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

●官報廣告料

（大正九年十月十六日　內閣告示第七號）

官報廣告料ハ大正十年一月一日ヨリ左ノ通改定ス

一　四號活字　一行「十七字詰」　金五十錢

一　五號活字　一行「二十二字詰」　金四十五錢

一　六號活字　一行「二十九字詰」　金四十錢

以上ノ活字ニ據ラサルモノハ掲載面ニ應シ六號活字ノ割合ニ依ル

登記ニ關スル公告ハ別ニ其ノ公告料ヲ定ムルコトヲ得

第三章　統計

●統計資料實地調査ニ關スル法律

（大正十一年四月十九日　法律第五十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル統計資料實地調査ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、農商務、內務、遞信、鐵道大臣副署）

第一條　政府ハ勞働ニ關スル統計資料蒐集ノ爲必要アルトキハ特ニ期日ヲ定メ全國ニ渉

リ又ハ一定ノ區域ヲ劃シテ實地調査ヲ行フ

前項ノ實地調査ノ期日、範圍、方法其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　實地調査ニ依リテ蒐集シタル個個ノ資料ハ統計上ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三條　實地調査ニ關スル事務ニ從事シタル者其ノ職務執行ニ關シ知得タル個人、法人、組合又ハ其ノ業務ニ關スル事項ヲ故ナク他ニ漏泄シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四條　實地調査ニ際シ調査ヲ忌避シ、申告ヲ拒ミ又ハ故意ニ不實ノ申告ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五條　虚僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計若ハ威力ヲ用井テ實地調査ヲ妨ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

●勞働統計實地調査令

（大正十二年五月二十三日勅令第二百六十六號）
（改正　大正一二年第四一九號　昭和二年第一一一號）

朕勞働統計實地調査令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、鐵道、陸軍、內務、農商務、大藏、遞信、海軍大臣副署）

勞働統計實地調査令

第一條　勞働統計實地調査ハ三年每ニ一回十月十日現在ニ依リ之ヲ行フ

第一回勞働統計實地調査ハ大正十三年ニ之ヲ行フ

第二條　本令ニ於テ鑛山ト稱スルハ鑛業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業場及工場ヲ謂フ

本令ニ於テ勞働者ト稱スルハ賃銀ヲ得テ工場又ハ鑛山ノ作業ニ從事スル職工、鑛夫、人夫其ノ他ノ勞役者ヲ謂フ

第三條　勞働統計實地調査ハ第一條第一項ノ期日ニ於テ三十人以上ノ勞働者ヲ使用スル工場又ハ五十人以上ノ勞働者ヲ使用スル鑛山ノ事業主及勞働者ニ付之ヲ行フ但シ左記第一號ニ該當スル工場ニ在リテハ三百人以上、第二號ニ該當スル工場ニ在リテハ百人以上、第三號ニ該當スル工場ニ在リテハ十五人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノニ付之ヲ行フ

一　綿絲紡績業又ハ麻絲紡績業ヲ營ムモノ
二　製絲業、絹絲紡績業、船舶車輛製造業、洋紙藁紙板紙類ノ製造業、燐寸製造業又ハセメント製造業ヲ營ムモノ
三　毛撚絲業、眞綿製造業、麻眞田製造業、絲組物經洋燈心類ノ製造業、活字製造業、漆器業、火藥ダイナマイト類ノ製造業、雷管導火線製造業、製油及製蠟業、籠簾籐織傘骨柳行李類ノ製造業又ハ藺莚麥稈眞田及經木眞田製造業ヲ營ムモノ

第四條　第一條第一項ノ期日ニ休業セル工場又ハ鑛山ニシテ引續キ十月二十日迄休業シタルモノニ關シテハ調査ヲ行ハス

第五條　事業主ニ付テハ左ノ事項ヲ調査ス
一　工場又ハ鑛山ノ名
二　工場又ハ鑛山ノ所在地
三　事業ノ種類
四　勞働者現在數
五　一日ノ所定勞働時間
六　一日ノ所定休憩時間
七　一箇月ノ所定休業日數
八　實物給與ノ種類及價額

勞働者ニ付テハ左ノ事項ヲ調査ス
一　氏名
二　男女ノ別
三　出生ノ年月
四　出生地
五　配偶者ノ有無
六　教育ノ程度
七　職名
八　就業ノ年數
九　賃銀
十　實物給與ノ有無

第六條　勞働統計實地調査ハ各工場又ハ鑛山ニ就キ之ヲ行フ但シ調査ヲ行フ際工場又ハ鑛山ニ出勤セサル者ニ付テハ其ノ居所ニ就キ之ヲ行フコトヲ得

第七條　事業主ハ第五條第一項各號ノ事項ヲ、勞働者ハ同條第二項各號ノ事項ヲ申告スル義務アルモノトス

第八條　事業主自ラ工場又ハ鑛山ノ管理ヲ爲ササルトキハ事實上之ヲ管理スル者ヲ以テ事業主ト看做ス

第九條　府縣知事ハ內閣總理大臣ノ命ヲ承ケ府縣內ノ工場ニ關スル調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第十條　鑛山監督局長ハ內閣總理大臣ノ命ヲ承ケ其ノ管轄區域內ノ鑛山ニ關スル調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第十一條　府縣支廳長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ管轄區域內ノ工場ニ關スル調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第十二條　市町村長ハ工場ニ關シテハ府縣知事（府縣支廳長ノ管轄區域內ノ町村長ハ府縣支廳長）、鑛山ニ關シテハ鑛山監督局長ノ指揮監督ヲ承ケ市町村內ノ調査ノ執行ヲ管掌ス

第十三條　削除

第十四條　勞働統計實地調査ノ事務ノ執行ヲ指導セシムル爲必要アルトキハ府縣、鑛山監督局、府縣支廳又ハ市町村ニ勞働調査指導員ヲ置クコトヲ得

第十五條　勞働統計實地調査ノ事務ヲ執行セシムル爲市町村ニ勞働調査員及勞働副調査員ヲ置ク

第十六條　勞働調査指導員、勞働調査員及勞働副調査員ハ府縣知事又ハ鑛山監督局長ノ推薦ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

勞働調査指導員、勞働調査員及勞働副調査員ハ名譽職トス

第十七條　勞働調査指導員ハ當該府縣知事、鑛山監督局長、府縣支廳長又ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ調査事務ノ執行ヲ指導ス

第十八條　勞働調査員及勞働副調査員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ事業票及勞働票ノ配付蒐集、調査事項ニ關スル質問記入其ノ他之ニ伴フ諸般ノ事務ヲ執行ス

第十九條　官營事業ニ關スル調査ニ付テハ主務大臣別ニ其ノ手續ヲ定ム

第二十條　本令中府縣支廳長、町村長ニ關スル規定ハ市制第六條及第八十二條ノ市ニ在リテハ市長、區長ニ之ヲ適用シ府縣知事トアルハ北海道廳長官ヲ、府縣支廳長トアルハ北海道廳支廳長ヲ、町村長トアルハ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

●勞働統計實地調査施行規則

（大正十二年六月一日內務省令第十六號）
（改正　昭和二年閣令第五號）

勞働統計實地調査施行規則左ノ通定ム

勞働統計實地調査施行規則

第一條　勞働調査員及勞働副調査員其ノ職務ヲ執行スル期間ハ九月三十日ヨリ十月二十日迄トス但シ調査事項ニ關シ質問ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　天災事變其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲勞働調査員及勞働副調査員前條ノ期間內ニ其ノ職務ヲ執行シ又ハ之ヲ完結スルコト能ハサルトキハ市町村長ハ該事故アル工場又ハ鑛山ニ限リ其ノ期間ヲ二十日以內延長スルコトヲ得

第三條　勞働調査員又ハ勞働副調査員故障アルトキハ市町村長ハ之ニ代ヘルヘキ適當ノ者ヲ選任シ其ノ職務ヲ執行セシムヘシ

第四條　事業票ハ別表第一號樣式、勞働票ハ別表第二號樣式ニ依ル

第五條　事業主ハ事業票ニ各調査事項ヲ記入シ署名又ハ捺印ノ上調査期日後五日以內ニ之ヲ勞働調査員ニ提出スヘシ

第六條　勞働調査員又ハ勞働副調査員ハ勞働者ニ就キ各調査事項ヲ問ヒ其ノ申告ニ基キ勞働票ニ記入シ之ヲ勞働者ニ示スヘシ

勞働者ハ自己ノ勞働票ノ記入事項ニ誤謬ナシト認メタルトキハ之ニ署名又ハ捺印スヘシ

第七條　勞働調査員又ハ勞働副調査員ハ調査期日後五日以內ニ前條ノ事務ヲ完結スヘシ

第八條　調査期日後十日ヲ經過スルモ其ノ居所不明ノ勞働者アルトキハ勞働調査員ハ勞働者名簿ノ備考欄ニ「調査不能」ト記入スヘシ

第九條　勞働統計實地調査令第二十條ノ規定ハ本則ニ之ヲ準用ス

（別表）

第一號樣式甲

準備調査簿番號	第　號
道府縣郡市區町村名	道府縣　市郡　區町村

（上の二欄は市區町村長之を記入す）

年十月十日現在

事業票

（工場用）

一 工場の名	
二 工場の所在地	道府縣　市郡　區町村字　番地
三 事業の種類	
四 勞働者現在數	總數　人 男　人 女　人
五 一日の所定勞働時間	時　分
六 一日の所定休憩時間	時　分
七 一箇月の所定休業日數	日

八 實物給與の種類及價額

	購入費又は評價月額	徵收月額	給與人員
賄	圓		人
米穀	圓		人
調味料	圓		人
被服	圓		人
光熱	圓		人
住宅	圓		人
寄宿舍	圓		人
其の他	圓		人

備考

右之通相違無之候也

申告者氏名　　捺印

勞働調査員　檢印

內閣統計局

切取線

書き入れかた（本票は事業主之を書き入れ署名又は捺印すること）

一　工場の名　工場の名稱又は商號を書き入れ、別段名稱又は商號のないものは工場主の氏名を書き入れること。

二　工場の所在地　工場の在る所の府縣、郡市、區町村、字の名及番地を書き入れること。

三　事業の種類　工場で經營する事業の種類をなるべく詳しく書き入れること、若し二種以上の事業を經營する場合には主なるものから順次書き入れること。

四　勞働者現在數　工場に使用する勞働者總數及其の男女の數を書き入れ、調査當日缺勤せる者も之に加へること。

五　一日の所定勞働時間　休憩時間をも含めた一日の所定の勞働時間を書き入れ、若し業務に依り勞働時間が異なる場合には其の業務別にそれぞれ時間及其の人員を書き入れること。

六　一日の所定休憩時間　一日の所定の休憩時間を書き入れ、若し業務に依り休憩時間の異なる場合には其の業務別にそれぞれ時間及其の人員を書き入れること。

七　一箇月の所定休業日數　九月中の所定の休業の日數を書き入れ、若し業務に依り休業日數の異なる場合には業務別にそれぞれ日數及其の人員を書き入れること。

八　實物給與の種類及價額　無償又は廉價にて勞働者に給與した實物に付左の區分に依り書き入れること、但し勞働者以外に給與して居るものは之を計算から除くこと。

（一）購入費又は評價月額の內

（い）賄の欄には買入れた米、麥、魚、肉、野菜等の賄材料費及之に使用する薪炭其の他の燃料費、炊事夫の給料等の合計九月分月額を書き入れること、但し工場で直營せず他に請負はせて居るときは其の請負支拂額を書き入れること。

（ろ）米穀の欄には實物で渡した米穀の購入代金九月分月額を書き入れること。

（は）調味料の欄には實物で渡した味噌、醬油、鹽等の調味料の購入代金九月分月額を書き入れること。

（に）被服の欄には最近一箇年に渡した被服の購入代金月割額を書き入れること。

（ほ）光熱の欄には燃料、燈火用として實物で渡した薪炭、電氣、瓦斯等の九月分評價額を書き入れること。

（へ）住宅と寄宿舍との欄には九月分の評價家賃（間代）を書き入れること。

（と）其の他の欄には以上の諸項目に入らない實物で渡したものの購入代金又は評價額の九月分月額を書き入れること。

（二）徵收月額の欄には給與した實物に對して勞働者から取立てた九月分月額をそれぞれ該當欄に書き入れ、若し金錢をとらぬときは斜線をひくこと。

（三）給與人員の欄には賄、米穀、調味料、被服、光熱等を給與した人員をそれぞれ該當欄に書き入れ、住宅に付いては貸與して居る人員を、寄宿舍に付いては收容して居る人員を書き入れること。

備考の欄には賃銀、實物給與又は勞働時間に關係ある特殊の事情あるときは其の事情を略記すること。

第一號樣式乙

準備調査簿番號	第　　號
道府縣市區町村名	道　縣　郡　市　區町村

（上の二欄は市區町村長之を記入す）

年十月十日現在

事業票

（鑛山用）

一　鑛山の名			
二　鑛山の所在地	道府縣　郡　市　區町村　字　番地		
三　事業の種類			
四　勞働者現在數	總數	坑內　男　人　女　人	坑外　男　人　女　人
五　一日の所定勞働時間		坑內　時　分	坑外　時　分
六　一日の所定休憩時間		坑內　時　分	坑外　時　分
七　一箇月の所定休業日數		坑內　日	坑外　日

八　實物給與の種類及價額

	購入費又は評價月額	徵收月額	給與人員
賄	圓		人
米穀	圓		人
調味料	圓		人
被服	圓		人
光熱	圓		人
住宅	圓		人
寄宿舍	圓		人
其の他	圓		人

備考

右之通相違無之候也

勞働調査員　檢印

申告者　氏名　捺印

內閣統計局

切取線

書き入れかた（本票は事業主之を書き入れ署名又は捺印すること）

一　鑛山の名　鑛山の名稱又は商號を書き入れ、別段名稱又は商號のないものは鑛山主の氏名を書き入れること。

二　鑛山の所在地　鑛山の在る所の府縣、郡市、區町村、字の名及番地を書き入れること。

三　事業の種類　鑛山で經營する事業の種類をなるべく詳しく書き入れること、若し二種以上の事業を經營する場合には主なるものから順次書き入れること。

四　勞働者現在數　鑛山に使用する勞働者總數及其の男女の數を坑內・坑外に別けて書き入れ、調査當日缺勤せる者も之に加へること。

五　一日の所定勞働時間　休憩時間をも含めた一日の所定の勞働時間を坑內・坑外に別けて書き入れ、若し業務に依り勞働時間が異なる場合には其の業務別にそれぞれ時間及其の人員を書き入れること。

六　一日の所定休憩時間　一日の所定の休憩時間を坑內・坑外に別けて書き入れ、若し業務に依り休憩時間の異なる場合には其の業務別にそれぞれ時間及其の人員を書き入れること。

七　一箇月の所定休業日數　九月中の所定の休業の日數を坑內・坑外に別けて書き入れ、若し業務に依り休業日數の異なる場合には業務別にそれぞれ日數及其の人員を書き入れること。

八　實物給與の種類及價額　無償又は廉價にて勞働者に給與した實物に付左の區分に依り書き入れること、但し勞働者以外に給與して居るものは之を計算から除くこと。

（一）購入費又は評價月額の內

（い）賄の欄には買入れた米、麥、魚、肉、野菜等の賄材料費及之に使用する薪炭其の他の燃料費、炊事夫の給料等の合計九月分月額を書き入れること、但し鑛山で直營せず他に請負はせて居るときは其の請負支拂額を書き入れること。

（ろ）米穀の欄には實物で渡した米穀の購入代金九月分月額を書き入れること。

（は）調味料の欄には實物で渡した味噌、醬油、鹽等の調味料の購入代金九月分月額を書き入れること。

（に）被服の欄には最近一箇年に渡した被服の購入代金月割額を書き入れること。

（ほ）光熱の欄には燃料、燈火用として實物で渡した薪炭、電氣、瓦斯等の九月分評價額を書き入れること。

（へ）住宅と寄宿舍との欄には九月分の評價家賃（間代）を書き入れること。

（と）其の他の欄には以上の諸項目に入らない實物で渡したものの購入代金又は評價額の九月分月額を書き入れること。

（二）徵收月額の欄には給與した實物に對して勞働者から取立てた九月分月額をそれぞれ該當欄に書き入れ、若し金錢をとらぬときは斜線をひくこと。

（三）給與人員の欄には賄、米穀、調味料、被服、光熱等を給與した人員をそれぞれ該當欄に書き入れ、住宅に付いては貸與して居る人員を、寄宿舍に付いては收容して居る人員を書き入れること。

備考の欄には賃銀、實物給與又は勞働時間に關係ある特殊の事情あるときは其の事情を略記すること。

第二號樣式甲

勞働者名簿番號	第　　號
工場所在地	道府縣　郡　市　區町村
工場名	

年十月十日現在

勞働票

（工場用）

一　氏名	
二　男女の別	男　女
三　出生の年月	年　月　日
四　出生地	道府縣　郡　市　區町村
五　配偶者の有無	有　無
六　教育の程度	
七　職名	
八　就業の年數	年　月間
九　賃銀	圓　錢　（　日分）
早出居殘時間合計	時間

十　實物給與の有無

賄	有　無
米穀	有　無
調味料	有　無
被服	有　無
光熱	有　無
住宅	有　無
寄宿舍	有　無
其の他	有　無

右之通相違無之候也

調査員檢印

申告者　氏名　捺印

內閣統計局

切取線

書き入れかた（本票は勞働調査員（勞働副調査員を置く工場に在りては勞働副調査員）勞働者の申告に基き書き入れ勞働者之に署名又は捺印すること）

一　氏名　名まへを書き入れること。

二　男女の別　男は「男」、女は「女」の文字の傍に○印をつけること。

三　出生の年月

（い）生れた年月日を書き入れること。

（ろ）生れた日の明でない者は「日」の上に斜線をひくこと。

（は）生れた月の明でない者は「月」の上に斜線をひくこと。

（に）生れた年の明でない者は見込の年齡を「何歲」と書き入れること。

四　出生地

（い）生れた道府縣、郡市、區町村の名を書き入れること。

（ろ）生れた郡市、區町村の明でない者は「郡市」、「區町村」の上に斜線をひくこと。

（は）朝鮮、臺灣、樺太、關東州等で生れた者はそれぞれ「朝鮮」、「臺灣」、「樺太」、「關東州」等と「道府縣」の上に書き入れること。

（に）外國で生れた者は其の國の名を「道府縣」の上に書き入れること。

五　配偶者の有無　現に妻又は夫ある者は籍は入れてなくとも「有」、なき者は「無」の文字の傍に○印をつけること。

六　教育の程度　教育の程度は左の區分に依り書き入れること、但し學校名に依り其の程度が分らないものに付いては（　）をつけて尋常小學校、高等小學校、中等學校、專門學校等のいづれにあたるか其の程度を書き入れること。

（い）最後に卒業した學校の名を書き入れること。

（ろ）中途で退學した者は「何學校何年修了」と書き入れること。

（は）學校へ入らぬ者は斜線をひくこと。

七　職名　現に自己の從事して居る仕事の職名をなるべく詳しく書き入れること、尙役付の者は職名と共に役名を書き入れること。

八　就業の年數　最初に工場に働き出してから現在迄の年數を書き入れること、若し中途で工場を止めたことのある者は其の止めて居つた期間を差引いて書き入れること。

九　賃銀

（い）最近の給料日に勘定濟の賃銀、手當、步增、賞與等の合計金額を書き入れること。

（ろ）前借金や實物で渡されたものは入れぬこと。

（は）（　日分）の欄には右の賃銀を受くるため實際働いた日數を書き、休んだ日を日數に算入せぬこと、但し月給の者は單に「月給」と書き入れること。

（に）早出居殘の欄には右の賃銀を受くるため實際働いた日數の內で早出居殘をした時間を全部合計して書き入れ早出居殘をしたことのない者は斜線をひくこと。

十　實物給與の有無　工場から賄、米穀、調味料、被服、光熱、住宅、寄宿舍、其の他の給與を無償又は廉價で受けて居る者は各該當欄の「有」、受けて居ない者は各該當欄の「無」の文字の傍に○印をつけること。

第二號樣式乙

勞働者名簿番號	第　　號
鑛山所在地	道府縣　郡市　區町村
鑛山名	

年十月十日現在

勞働票

（鑛山用）

一 氏名	
二 男女の別	男　女
三 出生の年月	年　月　日
四 出生地	道府縣　郡市　區町村
五 配偶者の有無	有　無
六 教育の程度	
七 職名	坑內坑外
八 就業の年數	年　月間
九 賃銀	圓　錢（　日分） 早出居殘 時間合計　時間
十 實物給與の有無	賄 有 無 米穀 有 無 調味料 有 無 被服 有 無 光熱 有 無 住宅 有 無 寄宿舍 有 無 其の他 有 無

右之通相違無之候也

調査員檢印

申告者氏名	
捺印	

內閣統計局

切取線

書き入れかた（本票は勞働調査員（勞働副調査員を置く鑛山に在りては勞働副調査員）勞働者の申告に基き書き入れ勞働者之に署名又は捺印すること）

一 氏名　名まへを書き入れること。

二 男女の別　男は「男」、女は「女」の文字の傍に○印をつけること。

三 出生の年月

（い）生れた年月日を書き入れること。

（ろ）生れた日の明でない者は「日」の上に斜線をひくこと。

（は）生れた月の明でない者は「月」の上に斜線をひくこと。

（に）生れた年の明でない者は見込の年齡を「何歳」と書き入れること。

四 出生地

（い）生れた道府縣、郡市、區町村の名を書き入れること。

（ろ）生れた郡市、區町村の明でない者は「郡市」、「區町村」の上に斜線をひくこと。

（は）朝鮮、臺灣、樺太、關東州等で生れた者はそれぞれ「朝鮮」、「臺灣」、「樺太」、「關東州」等と「道府縣」の上に書き入れること。

（に）外國で生れた者は其の國の名を「道府縣」の上に書き入れること。

五 配偶者の有無　現に妻又は夫ある者は籍は入れてなくとも「有」、なき者は「無」の文字の傍に○印をつけること。

六 教育の程度　教育の程度は左の區分に依り書き入れること、但し學校名に依り其の程度が分らないものに付いては（　）をつけて尋常小學校、高等小學校、中等學校、專門學校等のいづれにあたるか其の程度を書き入れること。

（い）最後に卒業した學校の名を書き入れること。

（ろ）中途で退學した者は「何學校何年修了」と書き入れること。

（は）學校へ入らぬ者は斜線をひくこと。

七 職名

（い）現に自己の從事して居る仕事の職名をなるべく詳しく書き入れること、尙役付の者は職名と共に役名を書き入れること。

（ろ）坑內で働いて居る者は「坑內」、坑外で働いて居る者は「坑外」の文字の傍に○印をつけること。

八 就業の年數　最初に鑛山に働き出してから現在迄の年數を書き入れること、若し中途で鑛山を止めたことのある者は其の止めて居つた期間を差引いて書き入れること。

九 賃銀

（い）最近の給料日に勘定濟の賃銀、手當、步合、賞與等の合計金額を書き入れること。

（ろ）前借金や實物で渡されたものは入れぬこと。

（は）（　日分）の欄には右の賃銀を受くる爲實際働いた日數を書き、休んだ日を日數に算入せぬこと、但し月給の者は單に「月給」と書き入れること。

（に）早出居殘の欄には右の賃銀を受くる爲實際働いた日數の內で早出居殘をした時間を全部合計して書き入れ早出居殘をしたことのない者は斜線をひくこと。

十 實物給與の有無　鑛山から賄、米穀、調味料、被服、光熱、住宅、寄宿舍、其の他の給與を無償又は廉價で受けて居る者は各該當欄の「有」、受けて居ない者は各該當欄の「無」の文字の傍に○印をつけること。

●勞働統計實地調査施行細則

（昭和二年五月十一日 內閣訓令第二號）

勞働統計實地調査施行細則左ノ通定ム

勞働統計實地調査施行細則

第一章　勞働調査指導員、勞働調査員及勞働副調査員ノ選任及職務執行期間

第一條　勞働調査員ハ各工場又ハ鑛山ニ一人ヲ置ク但シ情況ニ依リ數工場又ハ鑛山ヲ通シテ一人ノ勞働調査員ヲ置クコトヲ得

第二條　勞働者五十人以上ヲ使用スル工場又ハ鑛山ニ在リテハ凡ソ勞働者五十人毎ニ一人ノ割合ヲ以テ勞働副調査員ヲ置ク但シ情況ニ依リ增減スルコトヲ得

第三條　府縣知事又ハ鑛山監督局長ハ府縣、鑛山監督局、府縣支廳又ハ市町村ノ職員其ノ他ノ者ノ中ヨリ勞働調査指導員タルニ適當ト認ムル者ヲ、工場又ハ鑛山ノ事業主、職員其ノ他ノ者ノ中ヨリ勞働調査員タルニ適當ト認ムル者ヲ、職員、勞働者ノ中ヨリ勞働副調査員タルニ適當ト認ムル者ヲ選定シ八月十五日迄ニ內閣總理大臣ニ內申スベシ

第四條　勞働調査員及勞働副調査員ノ任命アリタルトキハ市町村長ハ勞働調査員及勞働副調査員ノ擔當スベキ工場又ハ鑛山ヲ指定スベシ

第五條　市町村長ハ勞働統計實地調査施行規則第三條ノ規定ニ依リ勞働調査員又ハ勞働副調査員ノ職務ヲ執行スル者ヲ選任シタルトキハ直ニ府縣知事又ハ鑛山監督局長ニ報告スベシ

第六條　天災事變其ノ他已ムヲ得ザル事故ノ爲勞働調査員及勞働副調査員勞働統計實地調査施行規則第一條ノ期間內ニ其ノ職務ノ執行ヲ完結スルコト能ハザルトキハ其ノ旨市町村長ニ申出デ指揮ヲ請フベシ

第七條　市町村長ハ勞働統計實地調査施行規則第二條ノ規定ニ依リ同第一條ノ期間ヲ延長シタルトキハ（府縣支廳長ノ管轄區域內ノ町村長ハ府縣支廳長ヲ經テ）府縣知事又ハ鑛山監督局長ニ直ニ其ノ旨報告スベシ

第八條　府縣知事又ハ鑛山監督局長ハ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨內閣總理大臣ニ報告スベシ

第二章　準備調査

第九條　市町村長ハ準備調査トシテ七月一日現在ニ依リ其ノ管內ニ於テ勞働統計實地調査令第三條ノ規定ニ該當スル各工場又ハ鑛山ニ就キ七月十五日迄ニ左ノ事項ヲ調査シ別表第一號樣式ノ準備調査簿ヲ作成スベシ

一　工場又ハ鑛山ノ名

二　工場又ハ鑛山ノ所在地

三　工場又ハ鑛山ノ勞働者數

前項ノ準備調査簿ハ組合町村ニ在リテハ各町村別ニ之ヲ作成スベシ

第十條　同一事業主ニ屬スル二以上ノ工場又ハ鑛山アルトキハ各別ニ之ヲ調査スベシ

第十一條　工場又ハ鑛山ノ所在地二以上ノ市町村ニ跨リ調査ニ關スル所屬分明ナラザルモノアルトキハ關係市町村長ハ協議ノ上其ノ所屬ヲ決スベシ協議調ハザルトキハ工場ニ關シテハ府縣知事、鑛山ニ關シテハ鑛山監督局長之ヲ指定スベシ

第十二條　市町村長ハ準備調査後調査期日迄ニ工場又ハ鑛山ノ新設、廢業其ノ他ノ事由ニ依リ調査スベキ工場又ハ鑛山ニ異動アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ都度準備調査簿ヲ加除スベシ

第十三條　勞働調査員ハ其ノ擔當スル工場又ハ鑛山ニ現在スル勞働者ニ就キ九月末日迄ニ別表第二號樣式ノ勞働者名簿ヲ作成シ勞働副調査員ノ分擔スベキ範圍ヲ指定スベシ

勞働調査員ハ前項指定ノ分擔每ニ勞働者名簿ノ寫ヲ作成シ之ヲ勞働副調査員ニ交付スベシ

第十四條　勞働調査員ハ勞働者名簿作成後調査期日迄ニ其ノ擔當スル工場又ハ鑛山ノ勞働者ニ異動アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ都度勞働者名簿ヲ加除シ之ヲ勞働副調査員ニ通知スベシ

第三章　事業票及勞働票ノ配付

第十五條　勞働統計實地調査ニ要スル事業票及勞働票其ノ他ノ印刷物ハ內閣總理大臣ヨリ工場ニ關スルモノハ府縣知事ニ、鑛山ニ關スルモノハ鑛山監督局長ニ送付ス

第十六條　府縣知事又ハ鑛山監督局長ハ事業票及勞働票其ノ他ノ印刷物ヲ受領シタルトキハ其ノ一部分ヲ豫備ノ爲保存シ其ノ他ハ八月末日迄ニ之ヲ市町村長ニ（府縣支廳長ノ管轄區域內ノ町村長ニ對シテハ府縣知事ハ府縣支廳長ヲ通シテ）送付スベシ

第十七條　府縣支廳長ハ事業票及勞働票其ノ他ノ印刷物ヲ受領シタルトキハ其ノ一部分ヲ豫備ノ爲保存シ其ノ他ハ八月末日迄ニ之ヲ管轄區域內ノ町村長ニ送付スベシ

第十八條　市町村長ハ事業票及勞働票其ノ他ノ印刷物ヲ受領シタルトキハ其ノ一部分ヲ豫備ノ爲保存シ其ノ他ハ九月二十五日迄ニ適當ノ方法ニ依リ之ヲ勞働調査員ニ交付スベシ

第十九條　市町村長ハ事業票ヲ勞働調査員ニ交付スルニ當リ準備調査簿ノ番號及道府縣郡市區町村名ヲ各票ニ記入スベシ

第二十條　勞働調査員ハ事業票及勞働票ノ交付ヲ受ケタルトキハ調査期日ノ前日迄ニ事業票ハ之ヲ事業主ニ配付シ勞働票ハ自ラ之ヲ保管スベシ但シ勞働副調査員ヲ置ク工場又ハ鑛山ニ在リテハ勞働副調査員ニ勞働票ヲ交付スベシ

第二十一條　勞働調査員又ハ勞働副調査員ハ其ノ保管スル各勞働票ニ勞働者名簿ノ番號ヲ記入スベシ

第二十二條　勞働調査員ハ事業票又ハ勞働票不足スベシト認メタルトキハ直ニ市町村長ニ請求シテ之ガ補給ヲ受クベシ

第二十三條　市町村長ハ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ豫備ノ爲保存シタル事業票又ハ勞働票ヲ交付シ尙不足ヲ生ジタルトキハ府縣知事（府縣支廳長ノ管轄區域內ノ町村長ハ府縣支廳長）又ハ鑛山監督局長ニ請求シ之ガ補給ヲ受クベシ

第四章　事業票及勞働票ノ檢査

第二十四條　勞働調査員又ハ勞働副調査員勞働統計實地調査施行規則第六條ノ事務ヲ完結シタルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スベシ

一　勞働票ノ番號及氏名ヲ勞働者名簿ト對照檢査スルコト

二　勞働票ノ記入事項ヲ一枚每ニ檢査スルコト

前項檢査ノ結果調査漏又ハ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ勞働統計實地調査施行規則第六條ノ規定ニ準ジ調査又ハ訂正スベシ

第二十五條　勞働調査員ハ自己ノ調査シタル勞働票又ハ勞働副調査員ヨリ提出シタル勞働票ニ就キ事業票記入ノ勞働者現在數ト勞働票ノ枚數トヲ對照檢査シ誤謬ナシト認メタルトキハ之ヲ番號順ニ整理シ事業票及勞働者名簿ト共ニ之ヲ一括シ十月二十日迄ニ市町村長ニ提出スベシ

第二十六條　市町村長ハ勞働調査員ヨリ事業票及勞働票ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スベシ

一　事業票ノ番號及工場又ハ鑛山ノ名ヲ準備調査簿ト對照檢査スルコト

二　事業票記入ノ勞働者現在數及勞働者名簿ト勞働票ノ總枚數トヲ對照檢査スルコト

三　事業票ノ記入事項ヲ一枚毎ニ檢査スルコト

前項檢査ノ結果誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ市町村長ハ勞働調査員ヲシテ之ガ訂正ノ手續ヲ爲サシムベシ

第二十七條　勞働調査員又ハ勞働副調査員調査漏ノ工場又ハ鑛山アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨市町村長ニ申出ヅベシ

第二十八條　市町村長ハ調査漏ノ工場又ハ鑛山アルコトヲ發見シタルトキハ勞働調査員ヲシテ速ニ調査ヲ爲サシメ又ハ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ調査スベシ

第五章　事業票及勞働票其ノ他ノ附屬書類ノ進達

第二十九條　市町村長ハ檢査濟ノ事業票ニ依リ工場ト鑛山トノ二種ニ分チ別表第三號樣式ノ市町村要計表ヲ作成スベシ

前項ノ要計表ハ組合町村ニ在リテハ各町村別ニ之ヲ作成スベシ

第三十條　市町村長ハ事業票、勞働者名簿及勞働票ヲ各工場又ハ鑛山毎ニ一括シ之ヲ準備調査簿ノ番號順ニ整理シ市町村要計表及準備調査簿ト共ニ適當ノ方法ニ依リ府縣知事又ハ鑛山監督局長ノ定メタル期限迄ニ工場ニ關スルモノハ（府縣支廳長ノ管轄區域内ノ町村長ハ府縣支廳長ヲ經テ）府縣知事ニ、鑛山ニ關スルモノハ鑛山監督局長ニ提出スベシ

第三十一條　府縣知事ハ市町村長ヨリ提出シタル市町村要計表ニ依リ府縣要計表ヲ作成シ事業票及勞働票其ノ他ノ附屬書類ト共ニ十二月末日迄ニ内閣總理大臣ニ進達スベシ

第三十二條　鑛山監督局長ハ市町村長ヨリ提出シタル市町村要計表ニ依リ各府縣別ニ府縣要計表ヲ作成シ事業票及勞働票其ノ他ノ附屬書類ト共ニ十二月末日迄ニ内閣總理大臣ニ進達スベシ

第三十三條　勞働統計實地調査施行規則第九條ノ規定ハ本細則ニ之ヲ準用ス

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年内務省訓令第十五號勞働統計實地調査施行細則ハ之ヲ廢止ス

（別表）

第一號樣式

年　月　日

工場（鑛山）準備調査簿

府縣　市（區）郡　町村

工場（鑛山）準備調査簿

番號	工場（鑛山）	工場（鑛山）所在地	勞働者數	備考

第二號樣式

年　月　日

勞働者名簿

工場（鑛山）

番號	勞働者氏名	備考	番號	勞働者氏名	備考

第三號樣式

市町村要計表（工場ノ分又ハ鑛山ノ分）

府縣　市（區）郡　町村

工場數（鑛山數）	勞働者數 總數	勞働者數 男	勞働者數 女

●人口動態調査令

（大正十一年十一月二日勅令第四百七十八號　改正　大正一五年第二四五號）

朕人口動態調査令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理大臣副署）

人口動態調査令

第一條　人口ノ動態ヲ調査スル爲必要ナル資料ハ本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵集ス

第二條　人口動態調査資料ハ婚姻、離婚、出生、死亡及死産ニ付人口動態調査票ヲ用ヰ市町村長之ヲ提出スヘシ

棄兒發見ニ因ル就籍ハ出生ニ準シ失踪及死亡確認ニ因ル除籍ハ死亡ニ準シ調査スヘシ

人口動態調査票ハ婚姻票、離婚票、出生票、死亡票及死産票ノ五種トシ其ノ樣式ハ別表第一號樣式乃至第五號樣式ニ依ル

第三條　人口動態調査票ハ本籍アル者ニ付テハ本籍地ノ市町村長、本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ニ付テハ届出地ノ市町村長之ヲ作成スヘシ但シ死産票ハ埋火葬認許證ヲ付與シタル市町村長之ヲ作成スヘシ

第四條　人口動態調査票ノ用紙ハ之ヲ市町村長ニ交付ス

第五條　市町村長人口動態調査票ヲ作成スル場合ニ於テハ戸籍法又ハ墓地及埋葬取締規則ニ依ル届書其ノ他ノ關係書類ニ基キ内閣總理大臣ノ定ムル人口動態調査票及送致目録作成心得ニ依リ記入スヘシ

第六條　人口動態調査票ハ毎月市町村長ハ府縣（府縣支廳長ノ管轄區域内ノ町村長ハ府縣支廳長ヲ經テ）府縣知事ニ、府縣知事ハ内閣總理大臣ニ之ヲ提出スヘシ

第七條　本令中府縣支廳長町村長ニ關スル規定ハ市制第六條及第八十二條ノ市ニ在リテハ市長區長ニ之ヲ適用シ府縣知事トアルハ北海道廳長官及樺太廳長官ヲ、府縣支廳長トアルハ北海道廳支廳長及樺太廳支廳長ヲ、町村長トアルハ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

第一號樣式

種類番號第　　號

（府縣）　（市郡）　（町村）　（役所役場）

大正　年　月　婚姻票

（一）種別		普通 入夫 壻養子
（二）本籍地	夫	（府縣）（市郡）（町村）
	妻	（府縣）（市郡）（町村）
（三）婚姻當時ノ所在地	夫	（府縣）（市郡）（町村）
	妻	（府縣）（市郡）（町村）
（四）届出ノ年月日		大正　年　月　日
（五）氏名	夫	
	妻	
（六）出生ノ年月日	夫	年　月　日
	妻	年　月　日
（七）配偶ノ關係	夫	初婚 死別 離別 不詳
	妻	初婚 死別 離別 不詳
（八）職業	夫	
	妻	

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第二號樣式

種類番號第　　號

（府縣）　（市郡）　（町村）　（役所役場）

大正　年　月　離婚票

（一）種別		妻カ籍ヲ去ルモノ 夫カ籍ヲ去ルモノ 同籍内
（二）本籍地	夫	（府縣）（市郡）（町村）
	妻	（府縣）（市郡）（町村）
（三）離婚當時ノ所在地	夫	（府縣）（市郡）（町村）
	妻	（府縣）（市郡）（町村）
（四）協議離婚	届出ノ年月日	大正　年　月　日
（五）裁判離婚	確定ノ年月日	大正　年　月　日
	訴ヘタル者	夫　妻
	原因	民法第八百十三條第　號
（六）婚姻ノ年月日		年　月　日
（七）氏名	夫	
	妻	
（八）出生ノ年月日	夫	年　月　日
	妻	年　月　日
（九）職業	夫	
	妻	

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第三號樣式

出生票

大正　年　月

種類番號第　號（　）

（府縣）（市郡）（町村）（役所役場）

（一）氏名及男女ノ別	（二）出生ノ場所	（三）出生ノ年月日	（四）嫡庶私ノ別	（五）父母ノ職業		（六）父母ノ出生ノ年月日	
				父	母	父	母
（氏名） 男 女	（府縣） （市郡） （町村）	大正　年　月　日	嫡出子 庶子 私生子			年　月　日	年　月　日

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第四號樣式

死亡票

大正　年　月

種類番號第　號（　）

（府縣）（市郡）（町村）（役所役場）

（一）氏名及男女ノ別	（二）死亡ノ場所	（三）死亡ノ年月日	（四）出生ノ年月日	（五）六歲未滿者ノ身分	（六）配偶ノ關係	（七）職業	（八）死亡ノ原因		
							病	自	其ノ他ノ變死—種類
（氏名） 男 女	（府縣） （市郡） （町村）	大正　年　月　日	年　月　日	嫡出子 庶子 私生子	未婚 有配偶 死別 離別	（甲）死亡者ノ職業 （乙）家計ノ主ナル職業	死—病名	殺—手段	

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第五號樣式

死產票

大正　年　月

埋火葬認許證番號第　號

（府縣）（市郡）（役所役場）

（一）分娩ノ場所	（二）男女ノ別	（三）分娩ノ年月日	（四）姙娠ノ月數	（五）嫡庶私ノ別	（六）父母ノ職業		（七）父母ノ出生ノ年月日	
					父	母	父	母
（府縣） （市郡） （町村）	男 女	大正　年　月　日	箇月	嫡出子 庶子 私生子			年　月　日	年　月　日

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

●人口動態調査令施行細則

（大正十一年十一月二日閣令第八號）

改正　大正一五年第四號

人口動態調査令施行細則左ノ通定ム

人口動態調査令施行細則

第一條　人口動態調査票ノ用紙ハ別表第一號樣式及第二號樣式ノ送致目錄用紙ト共ニ翌年中ノ需用枚數ヲ見積リ內閣總理大臣之ヲ毎年十月末日迄ニ府縣知事ニ交付ス

第二條　府縣知事ハ前條ノ用紙ヲ受領シタルトキハ府縣送致目錄用紙及豫備ノ爲保留スヘキ分ヲ除キ其ノ他ハ之ヲ其ノ年十一月三十日迄ニ市町村長ニ交付スヘシ

第三條　削除

第四條　府縣知事及市町村長ハ交付ヲ受ケタル用紙ニ不足ヲ生スル虞アリト認メタルトキ又ハ第一條及第二條ノ期限迄ニ之ヲ受領セサルトキハ府縣知事ハ內閣總理大臣ニ、市町村長ハ府縣知事ニ其ノ旨申出テ之カ交付ヲ受クヘシ

第五條　年末ニ於テ使用殘ノ用紙アリタルトキハ各種毎ニ其ノ枚數ヲ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ市町村長ハ府縣知事ニ、府縣知事ハ翌年二月二十日迄ニ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

前項ノ用紙ハ之ヲ翌年ニ繰越シ使用スヘシ

第六條　市町村長ハ內閣總理大臣ノ定ムル人口動態調査票及送致目錄作成心得ニ基キ左ノ各號ニ依リ人口動態調査票ヲ作成スヘシ

一　婚姻、離婚、出生及死亡ニ付テハ一事件毎ニ一枚ノ婚姻票、離婚票、出生票及死亡票用紙ヲ用ヰ婚姻票、離婚票及出生票ハ戸籍法ニ依ル屆書、戸籍簿及民法第七百七十六條ノ規定ニ基ク調査ニ依リ、死亡票ハ戸籍法ニ依ル屆書、戸籍簿、醫師ノ死亡診斷書又ハ檢案書、警察官ノ檢視調書、官公署ノ報告等ニ依リ、航海中ノ出生及死亡ニ關シテハ航海日誌ノ謄本ニ依リ、外國ニ在ル日本人カ其ノ國ノ方式ニ從ヒ屆出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ證書ノ謄本ニ依リ本籍地ノ市町村長之ヲ作成スヘシ但シ本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ニ關シテハ屆出地ノ市町村長之ヲ作成スヘシ

二　死產ニ付テハ一事件毎ニ一枚ノ死產票用紙ヲ用ヰ墓地及埋葬取締規則ニ依リ認許證ヲ請フ爲ノ屆書及之ニ添附シタル醫師又ハ產婆ノ死產證書又ハ死胎檢案書ニ依リ埋火葬認許證ヲ付與シタル市町村長作成スヘシ

三　棄兒ニ付テハ一事件毎ニ一枚ノ出生票用紙ヲ用ヰ戸籍法第七十八條第二項ノ調書ニ依リ其ノ就籍シタル地ノ市町村長作成スヘシ

四　失踪ニ付テハ一事件毎ニ一枚ノ死亡票用紙ヲ用ヰ戸籍法ニ依ル屆書及戸籍簿ニ依リ本籍地ノ市町村長作成スヘシ

五　監督區裁判所ノ許可ヲ得テ死亡確認ニ因ル除籍ノ手續ヲ爲シタル場合ニハ一事件毎ニ一枚ノ死亡票用紙ヲ用ヰ關係書類ニ依リ本籍地ノ市町村長作成スヘシ

第七條　市町村長ハ一月分ノ人口動態調査票ヲ作成シタルトキハ其ノ記入事項ヲ檢査シ誤謬ハ直ニ之ヲ訂正シ婚姻票、離婚票、出生票及死亡票ニ付テハ種類番號順ニ、死產票ニ付テハ埋火葬認許證番號順ニ之ヲ整ヘ各其ノ枚數ヲ檢査シ帶紙ヲ以テ一括ト爲スヘシ但シ本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻票、離婚票、出生票及死亡票ハ記入順ニ重ネ其ノ枚數ヲ檢査シ帶紙ヲ以テ一括ト爲スヘシ

前項ノ手續ヲ終ヘタルトキハ市町村送致目錄用紙ヲ用ヰ各種毎ニ其ノ枚數及番號、各票ノ屬スル年月及役所役場名ヲ記入シ捺印シ番號ニ同號又ハ缺號アルトキハ其ノ番號及理由ヲ備考欄ニ記入シテ市町村送致目錄ヲ作成シ其ノ記載順ニ各種ノ人口動態調査票ヲ總括スヘシ

組合市町村ニ在リテハ一市町村毎ニ市町村送致目錄ヲ別ニシ人口動態調査票ヲ別括ニスヘシ但シ組合市町村ヲ通シテ種類番號一貫スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　市町村長ハ前條ノ手續ヲ終ヘタルトキハ市町村送致目錄ニ進達ノ年月日ヲ記入シ人口動態調査票ニ之ヲ添附シ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ（府縣支廳長ノ管轄區域內ノ町村長ハ府縣支廳長ヲ經テ）府縣知事ニ之ヲ提出スヘシ

市町村長ハ進達スヘキ人口動態調査票ナキトキハ市町村送致目錄枚數欄ヘ夫々斜線ヲ畫シ前項ノ規定ニ準シ同目錄ノミヲ提出スヘシ

第九條　市町村ノ廢置分合、境界變更又ハ名稱變更アリタル場合ニ於テハ府縣知事ハ內閣總理大臣ニ其ノ旨直ニ報告スヘシ

第十條　府縣知事ハ市町村長ヨリ人口動態調査票ノ送付ヲ受ケタルトキハ市町村送致目錄ニ照シテ枚數及番號ヲ檢査シタル後更ニ各票ニ付記入事項ヲ檢査シ訂正ノ必要アルトキハ直ニ市町村長ニ通知シ之カ訂正ヲ爲サシムヘシ

第十一條　府縣知事ハ前條ノ手續ヲ終ヘタルトキハ一市町村毎ニ再ヒ帶紙ヲ以テ人口動態調査票ヲ各種別ニ一括シ更ニ之ヲ總括シテ市町村括ト爲シ市町村送致目錄ハ別ニ一括ト爲スヘシ

府縣知事ハ前項ノ手續ヲ終ヘタルトキハ市町村送致目錄ニ依リ府縣送致目錄ヲ作成スヘシ

第十二條　府縣知事ハ府縣支廳長ノ管轄區域內ノ町村ノ人口動態調査票ニ關シテハ當該支廳長ヲシテ第十條及前條第一項ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十三條　削除

第十四條　削除

第十五條　削除

第十六條　府縣知事ハ第十一條ノ手續ヲ終ヘタルトキハ府縣送致目錄ニ進達ノ年月日ヲ記入シ府縣送致目錄ハ郵便ニ依リ、各市町村ノ人口動態調査票及市町村送致目錄ハ適當ノ方法ニ依リ毎月十五日迄ニ前々月分ヲ內閣總理大臣ニ進達スヘシ

第十七條　府縣知事及市町村長ハ人口動態調査票及送致目錄ノ紛失毀損ヲ防ク爲保管及進達ニ付十分ナル注意ヲ爲スヘシ

第十八條　府縣知事ハ天災事變其ノ他避クヘカラサル事由ノ爲所定ノ期限迄ニ人口動態調査票ノ全部又ハ一部ヲ送致スルコト能ハサルトキハ內閣總理大臣ニ其ノ旨直ニ報告スヘシ

第十九條　內閣總理大臣ハ市町村長ノ作成シタル人口動態調査票ニ關シ照會ヲ要スル場合ニ於テハ內閣統計局長ヲシテ直接市町村長ト照復セシムルコトアルヘシ

第二十條　本令中府縣支廳長町村町村長ニ關スル規定ハ市制第六條及第八十二條ノ市ニ在リテハ市長區區長ニ之ヲ適用シ府縣トアルハ北海道及樺太ヲ、府縣知事トアルハ北海道廳長官及樺太廳長官ヲ、府縣支廳長トアルハ北海道廳支廳長及樺太廳支廳長ヲ、町村町村長トアルハ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

第一號樣式

府縣送致目錄（大正　年　月）

郡名又ハ支廳名	町村數	町村括數	町村送致目錄數	備考
計				

市名	區數	括數	送致目錄數	備考
計				

大正　年　月　日

府縣知事

內閣總理大臣　殿

第二號樣式

市町村送致目録（大正　年　月）

		枚數	番號	備考	訂正枚數（内書ニテ記入）	訂正番號（内書ニテ記入）
本籍アル者	婚姻		自第　號 至第　號			
	離婚		自第　號 至第　號			
	出生		自第　號 至第　號			
	死亡		自第　號 至第　號			
本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻、離婚、出生、死亡			／			
死産			自第　號 至第　號			

大正　年　月　日

（府縣）

（郡市）

（役所役場）

●人口動態調査票及送致目録作成心得（大正十一年十一月二日内閣訓令第一號）（改正　大正一五年第一號）

人口動態調査票及送致目録作成心得左ノ通定ム

人口動態調査票及送致目録作成心得

第一章　一般ノ記入心得

第一　人口動態調査票ハ戸籍法ニ基ク屆書ノ記載事項ヲ戸籍簿ニ記載ノ際又ハ墓地及埋葬取締規則ニ依ル死産ニ關スル埋火葬認許證付與ノ際直ニ之ヲ記入シ屆書其ノ他ノ關係書類ト校合スヘシ但シ本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ニ付テハ屆書受理ノ際之ヲ爲スヘシ

第二　婚姻票離婚票出生票及死亡票中「種類番號第　號」ト印刷シアル場所ニハ戸籍法施行細則第八條ノ規定ニ依リ屆書其ノ他ノ書類ニ記載シタル種類番號ヲ記入シ、死産票中「埋火葬認許證番號第　號」ト印刷シアル場所ニハ明治三十三年内務省訓令第二十一號ニ依ル死産埋火葬認許證ノ番號ヲ記入スヘシ

第三　人口動態調査票ノ右欄「府縣郡市町村及役所役場」ト印刷シアル場所ニハ本籍アル者ノ婚姻離婚出生及死亡ニ在リテハ本籍地タル府縣郡市町村名及市役所又ハ町村役場名ヲ、本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻離婚出生及死亡ニ在リテハ屆出地タル府縣郡市町村名及市役所又ハ町村役場名ヲ、死産ニ在リテハ本籍アル者タルト否トヲ問ハス死産ニ關スル埋火葬認許證ヲ付與シタル市役所又ハ町村役場名ヲ其ノ府縣又ハ府縣郡名ト共ニ記入スヘシ

第四　人口動態調査票上部ノ「大正　年　月」ト印刷シアル場所ニハ人口動態調査票ヲ作成シタル年月ヲ記入スヘシ

第五　人口動態調査票ノ記入事項中分明ナラサルモノハ推定記入ヲ爲シ推定記入モ爲シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記入スヘシ但シ年月日場所其ノ他ノ記入事項中一部分明ナラサル場合ニ於テハ全部不詳トセス其ノ分明ナラサル部分ノミヲ不詳ト記入スヘシ

第六　朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島、外國及航海中ニ於ケル婚姻、離婚、出生、死亡及死産ニ付婚姻及離婚當事者ノ本籍地及所在地、出生及死亡ノ場所並死胎分娩ノ場所ヲ記入スル場合ニハ人口動態調査票中「府縣郡市町村」ト印刷シアル場所ニ府縣郡市町村ノ區別ニ拘ラス屆書記載ノ儘ヲ記入スヘシ

第七　人口動態調査票ノ記入文字ハ墨又ハ黑インキニテ明瞭ニ書スヘシ

第八　外國文字及日本ノ年號以外ノ年號ハ成ルヘク之ヲ避ケ假名及日本ノ年號ニ依リ記入スヘシ

第二章　各票ノ記入心得

第一節　婚姻票

第九　夫妻ノ本籍市町村ヲ異ニスル婚姻ニ付テハ其ノ雙方ノ本籍市町村ニ於テ各別ニ婚姻票ヲ作成スヘシ

第十　婚姻票ノ記入事項(一)乃至(八)ハ左ノ各號ニ依リ記入スヘシ

一　種別欄ニハ妻カ夫ノ籍ニ入ル普通ノ婚姻ノ場合ニハ婚姻屆書ニ別段ノ記載ナキモ夫カ妻ノ籍ニ入ル入夫婚姻及壻養子婚姻ノ場合ニハ婚姻屆書ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「普通」「入夫」又ハ「壻養子」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附スヘシ

同一戸籍内ニ在ル者ノ婚姻ニ付テハ前同樣ニ處理スヘシ

二　本籍地欄ニハ夫妻共ニ婚姻前ノ本籍地ヲ記入スヘシ

本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ニ付テハ無籍又ハ本籍不明ト記入スヘシ但シ朝鮮、臺灣若ハ南洋群島ノ民籍ヲ有スル者又ハ外國ノ國籍ヲ有スル者ニ付テハ其ノ民籍又ハ國籍ヲ記入スヘシ

三　婚姻當時ノ所在地欄ニハ婚姻屆書ニ記載シアル所在地ヲ記入スヘシ但シ其ノ記載ナキ場合ニハ本籍地ヲ記入スヘシ

四　屆出ノ年月日欄ニハ婚姻屆書ニ記載シアル屆出ノ年月日ヲ記入スヘシ

五　氏名欄ニハ婚姻屆書ニ記載シアル夫妻ノ氏名ヲ記入スヘシ

六　出生ノ年月日欄ニハ婚姻屆書ニ記載シアル夫妻ノ出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

七　配偶ノ關係欄ニハ初メテ婚姻シタル者ニ付テハ戸籍簿ニ別段ノ記載ナキモ嘗テ婚姻シタルコトアリテ前配偶者ニ死別レタル者又ハ前配偶者ト離婚シタル者ハ戸籍簿ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「初婚」「死別」又ハ「離別」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附スヘシ但シ三婚以上ノ者ニ付テハ直前ノ配偶關係ニ依ルヘシ

他市町村ノ者ニ付テハ戸籍簿ニ依リ難キモ民法第七百七十六條ノ規定ニ依ル調査又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ前配偶關係判明シタルトキハ前同樣ニ處理シ前配偶關係判明セサルトキハ「不詳」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附スヘシ

八　職業欄ニハ婚姻屆書ニ記載シアル夫妻ノ職業ヲ記入スヘシ

第二節　離婚票

第十一　夫妻ノ本籍市町村ヲ異ニスル離婚ニ付テハ其ノ雙方ノ本籍市町村ニ於テ各別ニ離婚票ヲ作成スヘシ

第十二　離婚票ノ記入事項(一)乃至(九)ハ左ノ各號ニ依リ記入スヘシ

一　種別欄ニハ離婚屆書ニ依リ妻カ夫ノ籍ヲ去ル離婚、夫カ妻ノ籍ヲ去ル離婚及同一戸籍内ニ留ル離婚ノ別ヲ知リ得ヘキヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「夫カ籍ヲ去ルモノ」「妻カ籍ヲ去ルモノ」又ハ「同籍内」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附スヘシ

二　本籍地欄ニハ離婚後ノ本籍地ヲ記入スヘシ但シ朝鮮、臺灣若ハ南洋群島ノ民籍ヲ有スル者又ハ外國ノ國籍ヲ有スル者ニ付テハ其ノ民籍又ハ國籍ヲ記入スヘシ

三　離婚當時ノ所在地欄ニハ離婚屆書ニ記載シアル所在地ヲ記入スヘシ但シ其ノ記載ナキ場合ニハ本籍地ヲ記入スヘシ

四　協議離婚欄ニハ離婚屆書ニ記載シアル屆出ノ年月日ヲ記入スヘシ

五　裁判離婚欄ニハ戸籍法第百五條ノ規定ニ依リ離婚屆書ニ添附ノ裁判ノ謄本ニ記載シアル裁判確定ノ年月日ヲ記入シ訴ヘタル者夫ナルカ妻ナルカノ區別ニ從ヒ「夫」又ハ「妻」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附シ更ニ「原因（民法第八百十三條第　號）」ト印刷シアル場所ニ其ノ號數ヲ記入スヘシ

六　婚姻ノ年月日欄ニハ戸籍簿ニ記載シアル婚姻ノ年月日ヲ記入スヘシ

七　氏名欄ニハ離婚屆書ニ記載シアル夫妻ノ氏名ヲ記入スヘシ

八　出生ノ年月日欄ニハ離婚屆書ニ記載シアル夫妻ノ出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

九　職業欄ニハ離婚屆書ニ記載シアル夫妻ノ職業ヲ記入スヘシ

第三節　出生票

第十三　複産ノ場合ニ於テハ一出生兒毎ニ一枚ノ出生票ヲ作成シ且「種類番號第　號」ト印刷シアル下ノ括弧内ニ雙兒、三兒等ノ區別ヲ記入スヘシ

第十四　出生票ノ記入事項(一)乃至(六)ハ左ノ各號ニ依リ記入スヘシ但シ朝鮮、臺灣若ハ南洋群島ノ民籍ヲ有スル者又ハ外國ノ國籍ヲ有スル者ニ付テハ其ノ民籍又ハ國籍ヲ「種類番號第　號(　)」ト印刷シアル下ニ記入スヘシ

一　氏名及男女ノ別欄ニハ出生屆書ニ依リ男女ノ區別ニ從ヒ「男」又ハ「女」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附シ氏名ノ下ニ出生兒ノ氏名ヲ記入スヘシ

二　出生ノ場所欄ニハ出生屆書ニ記載シアル出生ノ場所ヲ記入スヘシ

三　出生ノ年月日欄ニハ出生屆書ニ記載シアル出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

四　嫡庶私ノ別欄ニハ嫡出子ノ場合ニハ出生屆書ニ別段ノ記載ナキモ庶子及私生子ノ場合ニハ出生屆書ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「嫡出子」「庶子」又ハ「私生子」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附スヘシ

五　父母ノ職業欄ニハ出生屆書ニ依リ嫡出子ニ在リテハ父母ノ、庶子ニ在リテハ父ノ、私生子ニ在リテハ母ノ職業ヲ記入スヘシ

六　父母ノ出生ノ年月日欄ニハ戸籍簿ニ依リ嫡出子ニ在リテハ父母ノ、庶子ニ在リテハ父ノ、私生子ニ在リテハ母ノ出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

第十五　棄兒ニ付テハ戸籍法第七十八條ノ規定ニ依ル棄兒ノ調書ニ基キ左ノ各號ニ依リ記入ヲ爲スノ外「種類番號第　號」ト印刷シアル下ノ括弧内ニ棄兒ト記入スヘシ

一　氏名及男女ノ別欄ニハ男女ノ區別ニ從ヒ「男」又ハ「女」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附シ氏名ノ下ニ棄兒ノ氏名ヲ記入スヘシ

二　出生ノ場所欄ニハ棄兒發見ノ場所ヲ記入スヘシ

三　出生ノ年月日欄ニハ出生ノ推定年月日ヲ記入シ其ノ下ニ棄兒發見ノ年月日ヲ記入スヘシ

四　嫡庶私ノ別、父母ノ職業及父母ノ出生ノ年月日ノ三欄ニハ記入スルコトヲ要セス

第四節　死亡票

第十六　死亡票ノ記入事項(一)乃至(八)ハ死亡屆書、診斷書、檢案書、檢視調書、官公署ノ報告、航海日誌ノ謄本、外國ノ方式ニ從ヒ作ラシメタル證書ノ謄本及戸籍簿ニ基キ左ノ各號ニ依リ記入ヲ爲スノ外本籍ナキ者又ハ本籍分明ナラサル者ニ付テハ「種類番號第　號」ト印刷シアル下ノ括弧内ニ無籍又ハ本籍不明ト記入スヘシ但シ朝鮮、臺灣若ハ南洋群島ノ民籍ヲ有スル者又ハ外國ノ國籍ヲ有スル者ニ付テハ其ノ民籍又ハ國籍ヲ「種類番號第　號(　)」ト印刷シアル下ニ記入スヘシ

一　氏名及男女ノ別欄ニハ死亡屆書其ノ他ノ關係書類ニ依リ男女ノ區別ニ從ヒ「男」又ハ「女」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附シ氏名ノ下ニ死亡者ノ氏名ヲ記入スヘシ

二　死亡ノ場所欄ニハ死亡屆書其ノ他ノ關係書類ニ記載シアル死亡ノ場所ヲ記入スヘシ

三　死亡ノ年月日欄ニハ死亡屆書其ノ他ノ關係書類ニ記載シアル死亡ノ年月日ヲ記入スヘシ

四　出生ノ年月日欄ニハ本籍アル者ニ在リテハ戸籍簿ニ記載シアル出生ノ年月日ヲ、其ノ他ノ者ニアリテハ關係書類ニ記載シアル出生ノ年月日又ハ推定年齢ヲ記入スヘシ

五　六歳未滿者ノ身分欄ニハ嫡出子ノ場合ニハ戸籍簿ニ別段ノ記載ナキモ庶子及私生子ノ場合ニハ戸籍簿ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「嫡出子」「庶子」又ハ「私生子」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附スヘシ

六　配偶ノ關係欄ニハ未タ婚姻セサル者ニ付テハ戸籍簿ニ別段ノ記載ナキモ現ニ配偶者アル者及現ニ配偶者ナキモ嘗テ婚姻シタルコトアリテ其ノ配偶者ニ死別レタル者又ハ配偶者ト離婚シタル者ハ戸籍簿ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ從ヒ「未婚」「有配偶」「死別」又ハ「離別」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附スヘシ但シ再婚以上ノ者ニ付テハ直前ノ配偶關係ニ依ルヘシ

夫妻同時ニ死亡シタル場合ニハ「有配偶」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附スヘシ

七　職業欄ニハ死亡診斷書、檢案書其ノ他ノ關係書類ニ記載シアル死亡者ノ職業及家計ノ主ナル職業ヲ「(甲)死亡者ノ職業」「(乙)家計ノ主ナル職業」ト印刷シアル下ニ記入スヘシ但シ家計ノ主ナル者ノ死亡シタル場合ニハ「(甲)死亡者ノ職業」ト印刷シアル下ニ其ノ職業ヲ記入シ「(乙)家計ノ主ナル職業」ト印刷シアル下ニ斜線ヲ畫スヘシ

八　死亡ノ原因欄ニハ死亡診斷書、檢案書其ノ他ノ關係書類ニ依リ病死シタル者、自殺シタル者其ノ他變死シタル者ノ區別ニ從ヒ「病死」「自殺」又ハ「其ノ他ノ變死」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附シ更ニ病死ノ場合ニハ腸加答兒流行性感冒等其ノ病名ヲ、自殺ノ場合ニハ入水縊死等其ノ手段ヲ、其ノ他ノ變死ノ場合ニハ溺死凍死等其ノ種類ヲ相當欄ニ成ルヘク詳細ニ記入スヘシ

第十七　失踪ノ宣告ヲ受ケタル者ニ付テハ左ノ各號ニ依リ記入ヲ爲スノ外「種類番號第　號」ト印刷シアル下ノ括弧内ニ失踪ト記入スヘシ

一　氏名及男女ノ別欄ニハ戸籍簿ニ依リ男女ノ區別ニ従ヒ「男」又ハ「女」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附シ氏名ノ下ニ失踪者ノ氏名ヲ記入スヘシ

二　死亡ノ年月日欄ニハ失踪宣告ノ届書ニ記載シアル民法第三十條ニ規定スル期間滿了ノ年月日ヲ記入スヘシ

三　出生ノ年月日欄ニハ戸籍簿ニ記載シアル出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

四　配偶ノ關係欄ニハ未タ婚姻セサル者ニ付テハ戸籍簿ニ別段ノ記載ナキモ現ニ配偶者アル者及現ニ配偶者ナキモ嘗テ婚姻シタルコトアリテ其ノ配偶者ニ死別レタル者又ハ配偶者ト離婚シタル者ハ戸籍簿ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ従ヒ「未婚」「有配偶」「死別」又ハ「離別」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附スヘシ但シ再婚以上ノ者ニ付テハ直前ノ配偶關係ニ依ルヘシ

五　死亡ノ場所、六歳未滿者ノ身分、職業及死亡ノ原因ノ四欄ニハ記入スルコトヲ要セス

第十八　戸籍法第六十四條第三項及第三十九條第二項ノ規定ニ依リ監督區裁判所ノ許可ヲ得テ死亡確認ニ因ル除籍ノ手續ヲ爲シタル者ニ付テハ左ノ各號ニ依リ記入ヲ爲スノ外「種類番號第　號」ト印刷シアル下ノ括弧內ニ戸籍抹消ト記入スヘシ

一　氏名及男女ノ別欄ニハ戸籍簿ニ依リ男女ノ區別ニ従ヒ「男」又ハ「女」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附シ氏名ノ下ニ戸籍ヲ抹消セラレタル者ノ氏名ヲ記入スヘシ

二　死亡ノ年月日欄ニハ戸籍簿ニ依リ死亡確認ノ年月日ヲ記入スヘシ

三　出生ノ年月日欄ニハ戸籍簿ニ記載シアル出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

四　配偶ノ關係欄ニハ未タ婚姻セサル者ニ付テハ戸籍簿ニ別段ノ記載ナキモ現ニ配偶者アル者及現ニ配偶者ナキモ嘗テ婚姻シタルコトアリテ其ノ配偶者ニ死別レタル者又ハ配偶者ト離婚シタル者ハ戸籍簿ニ其ノ旨記載シアルヲ以テ右ノ區別ニ従ヒ「未婚」「有配偶」「死別」又ハ「離別」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附スヘシ但シ再婚以上ノ者ニ付テハ直前ノ配偶關係ニ依ルヘシ

五　死亡ノ場所、六歳未滿者ノ身分、職業及死亡ノ原因ノ四欄ニハ記入スルコトヲ要セス

第五節　死産票

第十九　複死産ノ場合ニ於テハ一死産兒毎ニ一枚ノ死産票ヲ作成シ且「埋火葬認許證番號第　號」ト印刷シアル下ニ雙胎兒、三胎兒等ノ區別ヲ記入スヘシ

第二十　死産票ノ記入事項（一）乃至（七）ハ死産證書又ハ死胎檢案書ニ基キ左ノ各號ニ依リ記入スヘシ但シ朝鮮、臺灣若ハ南洋群島ノ民籍ヲ有スル者又ハ外國ノ國籍ヲ有スル者ニ付テハ其ノ民籍又ハ國籍ヲ「埋火葬認許證番號第　號」ト印刷シアル下ニ記入スヘシ

一　分娩ノ場所欄ニハ死胎分娩ノ場所ヲ記入スヘシ

二　男女ノ別欄ニハ男女ノ區別ニ従ヒ「男」又ハ「女」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附スヘシ

三　分娩ノ年月日欄ニハ死胎分娩ノ年月日ヲ記入スヘシ

四　姙娠ノ月數欄ニハ姙娠ノ月數ヲ記入スヘシ

五　嫡庶私ノ別欄ニハ嫡出子、庶子及私生子ノ區別ニ従ヒ「嫡出子」「庶子」又ハ「私生子」ト印刷シアル文字ノ右側ニ圏點ヲ附スヘシ

六　父母ノ職業欄ニハ嫡出子及庶子ニ在リテハ父ノ、私生子ニ在リテハ母ノ職業ヲ記入スヘシ

七　父母ノ出生ノ年月日欄ニハ嫡出子ニ在リテハ父母ノ、庶子ニ在リテハ父ノ、私生子ニ在リテハ母ノ出生ノ年月日ヲ記入スヘシ

第三章　送致目録ノ作成心得

第二十一　市町村送致目録ハ人口動態調査令施行細則第七條及第八條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ニ依リ之ヲ作成スヘシ

一　人口動態調査票中或種ニ限リ提出スヘキモノナキトキハ市町村送致目録中當該種類ノ下枚數欄ニ斜線ヲ畫シ尙備考欄ニナシト記入スヘシ

二　市町村ノ廢置分合アリタル場合ニ人口動態調査事務ノ引繼ヲ受ケタル市町村ハ引繼ヲ受ケタル人口動態調査票ニ付別ニ市町村送致目録ヲ作成シ「市町村送致目録（大正　年　月）」ト印刷シアル下ニ廢合ノ年月日及廢合セラレタル市町村名ヲ記入シ「役所役場」ト印刷シアル下ニ引繼ヲ受ケタル役所役場名ヲ記入スヘシ

三　市町村カ單ニ其ノ名稱ヲ變更シタル場合又ハ村カ町ト爲リ町カ村ト爲リ若ハ町カ市ト爲リタル等ノ場合ニハ前市町村名及其ノ變更アリタル年月日ヲ「市町村送致目録（大正　年　月）」ト印刷シアル下ニ記入スヘシ

四　市町村ノ一部カ分離シテ新ナル市町村創設セラレ又ハ他市町村ニ合併セラレタル場合ニハ分離前ノ市町村ニ於テハ「市町村送致目録（大正　年　月）」ト印刷シアル下ニ分離ノ年月日、一部分離何市町村創設又ハ何市町村ヘ合併ト記入シ一部分離シ創設セラレタル市町村ニ於テハ創設ノ年月日、何市町村ヨリ分離創設ト記入シ一部ヲ合併シタル市町村ニ於テハ合併ノ年月日、何市町村ノ一部本市町村ヘ合併ト記入スヘシ

五　組合市町村ノ場合ニ一市町村毎ニ市町村送致目録ヲ作成シタルトキハ「役所役場」ト印刷シアル下ニ組合市町村ノ役所又ハ役場名ヲ記入シ尙各其ノ市町村名ヲ「市町村送致目録（大正　年　月）」ト印刷シアル下ニ記入スヘシ

第二十二　府縣送致目録ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ作成スヘシ

一　慣用ノ順序ニ郡名又ハ支廳名ヲ記入シ各郡又ハ支廳毎ニ其ノ町村數、人口動態調査票ノ町村括數及町村送致目録ノ枚數並各其ノ合計ヲ相當欄ニ記入スヘシ但シ各種ヲ通シ人口動態調査票全部ノ提出ナキ町村アリタル場合ニ於テハ其ノ郡又ハ支廳備考欄ニ「何町村提出ナシ」ト記入スヘシ

二　慣用ノ順序ニ市名ヲ記入シ區アル市ハ區數欄ニ其ノ區數ヲ記入シ區ナキ市ハ斜線ヲ畫シ尙人口動態調査票ノ括數、送致目録ノ枚數及各其ノ合計ヲ相當欄ニ記入スヘシ

三　「府縣送致目録」ト印刷シアル下ノ括弧內ニハ人口動態調査票ノ屬スル年月ヲ記入スヘシ

四　前各號ノ手續ヲ終ヘタルトキハ提出ノ年月日及府縣名ヲ記入シ府縣知事其ノ下ニ捺印スヘシ

第四章　記入例

第一節　婚姻票ノ記入例

第一例　夫妻本籍地ヲ異ニスル爲一婚姻ニ對シ二枚ノ婚姻票ヲ要スル普通婚姻ノ例

夫ノ本籍町役場ヨリ提出スヘキモノ

種類番號第七號

(府縣)新潟縣　(郡市)佐渡郡　(町村)小木町　(役所役場)小木町役場

婚姻票

大正十二年一月

	夫	妻
(一)種別	[✓ 普通]　入夫　壻養子	
(二)本籍地	(府縣)新潟縣 (郡市)佐渡郡 (町村)小木町	(府縣)愛知縣 (郡市)丹羽郡 (町村)千秋村
(三)婚姻當時ノ所在地	(府縣)新潟縣 (郡市)佐渡郡 (町村)小木町	(府縣)愛知縣 (郡市)丹羽郡 (町村)千秋村
(四)届出ノ年月日	大正十二年一月七日	
(五)氏名	須田　金三	金山　くら
(六)出生ノ年月日	明治二十五年二月三日	明治二十八年一月二日
(七)配偶ノ關係	[✓ 初婚]　死別　離別　不詳	[✓ 初婚]　死別　離別　不詳
(八)職業	小學校教員	ナシ

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

妻ノ本籍村役場ヨリ提出スヘキモノ

種類番號第三號

(府縣)愛知縣　(郡市)丹羽郡　(町村)千秋村　(役所役場)千秋村役場

婚姻票

大正十二年一月

	夫	妻
(一)種別	[✓ 普通]　入夫　壻養子	
(二)本籍地	(府縣)新潟縣 (郡市)佐渡郡 (町村)小木町	(府縣)愛知縣 (郡市)丹羽郡 (町村)千秋村
(三)婚姻當時ノ所在地	(府縣)新潟縣 (郡市)佐渡郡 (町村)小木町	(府縣)愛知縣 (郡市)丹羽郡 (町村)千秋村
(四)届出ノ年月日	大正十二年一月七日	
(五)氏名	須田　金三	金山　くら
(六)出生ノ年月日	明治二十五年二月三日	明治二十八年一月二日
(七)配偶ノ關係	[✓ 初婚]　死別　離別　不詳	[✓ 初婚]　死別　離別　不詳
(八)職業	小學校教員	ナシ

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第二例　夫妻ノ本籍地ハ同一ニシテ所在地ハ本籍地外ニ在ル入夫婚姻ノ例

婚姻票

大正十二年九月

種類番號第一五五號

（府縣）宮城縣（郡市）仙臺市（町村）　（役所役場）仙臺市役所

（一）種別		普通　[✓ 入夫]　婿養子
（二）本籍地	夫	（府縣）宮城縣（郡市）仙臺市（町村）
	妻	（府縣）宮城縣（郡市）仙臺市（町村）
（三）婚姻當時ノ所在地	夫	（府縣）東京府（郡市）東京市（町村）麻布區
	妻	（府縣）東京府（郡市）北豐島郡（町村）板橋町
（四）届出ノ年月日		大正十二年九月十五日
（五）氏名	夫	阿部　定嵐
	妻	松島　ナミ
（六）出生ノ年月日	夫	明治三十六年十一月十八日
	妻	明治三十三年四月十日
（七）配偶ノ關係	夫	初婚　[✓ 死別]　離別　不詳
	妻	[✓ 初婚]　死別　離別　不詳
（八）職業	夫	銀行員
	妻	タイピスト

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第三例　妻カ外國人ニシテ外國ニ於テ作ラシメタル證書ノ謄本ニ依ル普通婚姻ノ例

婚姻票

大正十二年十二月

種類番號第二〇三號

（府縣）愛知縣（郡市）東春日井郡（町村）水野村（役所役場）水野村役場

（一）種別		[✓ 普通]　入夫　婿養子
（二）本籍地	夫	（府縣）愛知縣（郡市）東春日井郡（町村）水野村
	妻	（府縣）北米合衆國（郡市）（町村）
（三）婚姻當時ノ所在地	夫	（府縣）北米合衆國（郡市）桑港（町村）
	妻	（府縣）北米合衆國（郡市）桑港（町村）
（四）届出ノ年月日		大正十二年十月十五日
（五）氏名	夫	太田　富藏
	妻	ジョセフ、カロリナ
（六）出生ノ年月日	夫	明治十九年八月三日
	妻	明治三十四年三月二十三日
（七）配偶ノ關係	夫	初婚　死別　[✓ 離別]　不詳
	妻	初婚　死別　離別　[✓ 不詳]
（八）職業	夫	茶商
	妻	裁縫職

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第四例　內地ニ現在スル外國人間ノ普通婚姻ノ例

婚姻票

大正十二年三月

種類番號第一二號

（府縣）神奈川縣（郡市）橫濱市（町村）　（役所役場）橫濱市役所

（一）種別		[✓ 普通]　入夫　婿養子
（二）本籍地	夫	（府縣）佛蘭西共和國（郡市）（町村）
	妻	（府縣）佛蘭西共和國（郡市）（町村）
（三）婚姻當時ノ所在地	夫	（府縣）神奈川縣（郡市）橫濱市（町村）
	妻	（府縣）東京府（郡市）荏原郡（町村）大森町
（四）届出ノ年月日		大正十二年三月十一日
（五）氏名	夫	ポール、ルバッセール
	妻	ジャン、メーリー
（六）出生ノ年月日	夫	明治十四年一月一日
	妻	明治十七年三月三日
（七）配偶ノ關係	夫	[✓ 初婚]　死別　離別　不詳
	妻	初婚　[✓ 死別]　離別　不詳
（八）職業	夫	貴金屬商
	妻	ナシ

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第二節　離婚票ノ記入例

第一例　夫妻本籍地ヲ異ニスル爲一離婚ニ對シ二枚ノ離婚票ヲ要スル妻カ夫ノ籍ヲ去ル協議上ノ離婚ノ例

夫ノ本籍町役場ヨリ提出スヘキモノ

離婚票

大正十二年四月

種類番號第八號

（府縣）宮城縣（郡市）宮城郡（町村）鹽竈町（役所役場）鹽竈町役場

（一）種別		[✓ 妻カ籍ヲ去ルモノ]　夫カ籍ヲ去ルモノ　同籍內
（二）本籍地	夫	（府縣）宮城縣（郡市）宮城郡（町村）鹽竈町
	妻	（府縣）宮城縣（郡市）仙臺市（町村）
（三）離婚當時ノ所在地	夫	（府縣）宮城縣（郡市）宮城郡（町村）鹽竈町
	妻	（府縣）宮城縣（郡市）宮城郡（町村）鹽竈町
（四）協議離婚	届出ノ年月日	大正十二年四月十五日
（五）裁判離婚	確定ノ年月日	大正　年　月　日
	訴ヘタル者	夫　妻
	原因	民法第八百十三條第　號
（六）婚姻ノ年月日		大正十年五月二十六日
（七）氏名	夫	中村　正義
	妻	後藤　松子
（八）出生ノ年月日	夫	明治十四年五月七日
	妻	明治十二年六月九日
（九）職業	夫	小學校教員
	妻	裁縫教師

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

妻ノ本籍市役所ヨリ提出スヘキモノ

離婚票

大正十二年四月

種類番號第三二號

（府縣）宮城縣（郡市）仙臺市（町村）（役所役場）仙臺市役所

(一) 種別		妻°カ籍ヲ去ルモノ 夫カ籍ヲ去ルモノ 同籍内
(二) 本籍地	夫	（府縣）宮城縣（郡市）宮城郡（町村）鹽竈町
	妻	（府縣）宮城縣（郡市）仙臺市（町村）
(三) 離婚當時ノ所在地	夫	（府縣）宮城縣（郡市）宮城郡（町村）鹽竈町
	妻	（府縣）宮城縣（郡市）宮城郡（町村）鹽竈町
(四) 協議離婚	屆出ノ年月日	大正十二年四月十五日
(五) 裁判離婚	確定ノ年月日	大正　年　月　日
	訴ヘタル者	夫 妻
	原因	（民法第八百十三條）第　號
(六) 婚姻ノ年月日		大正十年五月二十六日
(七) 氏名	夫	中村　正義
	妻	後藤　松子
(八) 出生ノ年月日	夫	明治十四年五月七日
	妻	明治十二年六月九日
(九) 職業	夫	小學校教員
	妻	裁縫教師

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第二例　夫妻ノ本籍地ハ同一ニシテ所在地ハ本籍地外ニ在ル同籍内ノ裁判上ノ離婚ノ例

離婚票

大正十二年八月

種類番號第二號

（府縣）北海道（郡市）札幌郡（町村）白石村（役所役場）白石村役場

(一) 種別		妻カ籍ヲ去ルモノ 夫カ籍ヲ去ルモノ 同°籍内
(二) 本籍地	夫	（府縣）北海道（郡市）札幌郡（町村）白石村
	妻	（府縣）北海道（郡市）札幌郡（町村）白石村
(三) 離婚當時ノ所在地	夫	（府縣）東京府（郡市）東京市（町村）京橋區
	妻	（府縣）神奈川縣（郡市）横濱市（町村）
(四) 協議離婚	屆出ノ年月日	大正　年　月　日
(五) 裁判離婚	確定ノ年月日	大正十二年八月三日
	訴ヘタル者	夫 妻°
	原因	（民法第八百十三條）第八號
(六) 婚姻ノ年月日		明治三十七年十月十五日
(七) 氏名	夫	中村　武藏
	妻	中村　まつ
(八) 出生ノ年月日	夫	明治十二年八月十八日
	妻	明治十八年三月九日
(九) 職業	夫	稅務署屬
	妻	ナシ

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第三例　內地ニ現在スル朝鮮人間ノ妻カ夫ノ籍ヲ去ル離婚ノ例

離婚票

大正十二年五月

種類番號第八號

（府縣）福岡縣（郡市）八幡市（町村）（役所役場）八幡市役所

(一) 種別		妻°カ籍ヲ去ルモノ 夫カ籍ヲ去ルモノ 同籍内
(二) 本籍地	夫	（府縣）朝鮮（郡市）（町村）
	妻	（府縣）朝鮮（郡市）（町村）
(三) 離婚當時ノ所在地	夫	（府縣）福岡縣（郡市）八幡市（町村）
	妻	（府縣）朝鮮（郡市）咸鏡北道（町村）明川郡上古
(四) 協議離婚	屆出ノ年月日	大正十二年五月一日
(五) 裁判離婚	確定ノ年月日	大正　年　月　日
	訴ヘタル者	夫 妻
	原因	（民法第八百十三條）第　號
(六) 婚姻ノ年月日		大正九年十月三日
(七) 氏名	夫	林　金李
	妻	朴　金蘭
(八) 出生ノ年月日	夫	明治二十六年一月十日
	妻	明治三十三年十二月三日
(九) 職業	夫	製鐵所職工
	妻	ナシ

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第三節　出生票ノ記入例

第一例　嫡出子出生ノ例

出生票

大正十二年五月

種類番號第四一二號（　）

（府縣）東京府（郡市）東京市（町村）麴町區（役所役場）麴町區役所

(一) 氏名及男女ノ別		男° 女 （氏名）石丸太郎
(二) 出生ノ場所		（府縣）巖手縣（郡市）九戸郡（町村）山形村
(三) 出生ノ年月日		大正十二年五月一日
(四) 嫡庶私ノ別		嫡°出子 庶子 私生子
(五) 父母ノ職業	父	農業
	母	ナシ
(六) 父母ノ出生ノ年月日	父	明治十八年三月十八日
	母	明治二十九年十月十五日

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第二例　航海中ニ於ケル棄兒出生ノ例

出生票

大正十二年三月

種類番號第一〇二號（棄兒）

（府縣）北海道（郡市）函館市（町村）（役所役場）函館市役所

(一) 氏名及男女ノ別		男° 女 （氏名）沼田三郎
(二) 出生ノ場所		（府縣）太平洋（郡市）（町村）
(三) 出生ノ年月日		大正十二年一月三日
(四) 嫡庶私ノ別		嫡出子 庶°子 私生子
(五) 父母ノ職業	父	生絲仲買商
	母	
(六) 父母ノ出生ノ年月日	父	明治二十二年三月二日
	母	年　月　日

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

出生票
大正十二年三月
種類番號第一〇三號（發見）
（府縣）北海道（郡市）函館市（町村）（役所役場）函館市役所
（一）氏名及男女ノ別　[✓ 男]　女　（氏名）沼田四郎
（二）出生ノ場所　（府縣）太平洋（郡市）（町村）
（三）出生ノ年月日　大正十二年一月三日
（四）嫡庶私ノ別　嫡出子　[✓ 庶子]　私生子
（五）父母ノ職業　父　生絲仲買商　母
（六）父母ノ出生ノ年月日　父　明治二十二年三月二日　母　年月日
作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第三例　棄兒ノ例

出生票
大正十二年十二月
種類番號第二五號（棄兒）
（府縣）山梨縣（郡市）東山梨郡（町村）綿塚村（役所役場）休息村外三箇村組合役場
（一）氏名及男女ノ別　男　[✓ 女]　（氏名）金子ステ
（二）出生ノ場所　（府縣）山梨縣（郡市）東山梨郡（町村）綿塚村
（三）出生ノ年月日　大正十二年十一月一日大正十二年十二月六日發見
（四）嫡庶私ノ別　嫡出子　庶子　私生子
（五）父母ノ職業　父　母
（六）父母ノ出生ノ年月日　父　年月日　母　年月日
作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第四例　內地ニ現在スル臺灣人ノ嫡出子出生ノ例

出生票
大正十二年三月
種類番號第三號（　）臺灣
（府縣）長崎縣（郡市）北高來郡（町村）諫早町（役所役場）諫早町役場
（一）氏名及男女ノ別　[✓ 男]　女　（氏名）林六瑞
（二）出生ノ場所　（府縣）長崎縣（郡市）北高來郡（町村）諫早町
（三）出生ノ年月日　大正十二年三月三日
（四）嫡庶私ノ別　[✓ 嫡出子]　庶子　私生子
（五）父母ノ職業　父　牛乳商　母　ナシ
（六）父母ノ出生ノ年月日　父　明治二十九年十月八日　母　明治三十六年六月六日
作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第四節　死亡票ノ記入例

第一例　家計ノ主ナル者ノ病死ノ例

死亡票
大正十二年七月
種類番號第七號（　）
（府縣）東京府（郡市）八丈島（町村）鳥打村（役所役場）鳥打村役場
（一）氏名及男女ノ別　[✓ 男]　女　（氏名）小村熊吉
（二）死亡ノ場所　（府縣）東京府（郡市）八丈島（町村）宇津木村
（三）死亡ノ年月日　大正十二年五月十日
（四）出生ノ年月日　慶應元年十二月二十日
（五）六歳未滿者ノ身分　嫡出子　庶子　私生子
（六）配偶ノ關係　未婚　有配偶　[✓ 死別]　離別
（七）職業　（甲）死亡者ノ職業　大工　（乙）家計ノ主ナル職業　／
（八）死亡ノ原因　[✓ 病]死—病名　格魯布性肺炎　自殺—手段　其ノ他ノ變死—種類
作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第二例　家計ノ主ナル者ナラサル有業者ノ自殺ノ例

死亡票
大正十二年二月
種類番號第二九號（　）
（府縣）山口縣（郡市）豊浦郡（町村）阿川村（役所役場）阿川村役場
（一）氏名及男女ノ別　[✓ 男]　女　（氏名）山田一郎
（二）死亡ノ場所　（府縣）山口縣（郡市）豊浦郡（町村）阿川村
（三）死亡ノ年月日　大正十二年二月五日
（四）出生ノ年月日　明治元年十月三日
（五）六歳未滿者ノ身分　嫡出子　庶子　私生子
（六）配偶ノ關係　未婚　有配偶　死別　[✓ 離別]
（七）職業　（甲）死亡者ノ職業　荷車挽　（乙）家計ノ主ナル職業　荒物商
（八）死亡ノ原因　病死—病名　[✓ 自]殺—手段　縊死　其ノ他ノ變死—種類
作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第三例　家計ノ主ナル者ナラサル六歳未滿者ノ變死ノ例

死亡票
大正十二年一月
種類番號第二八號（　）
（府縣）京都府（郡市）相樂郡（町村）加茂村（役所役場）加茂村役場
（一）氏名及男女ノ別　男　[✓ 女]　（氏名）海野ユキ
（二）死亡ノ場所　（府縣）京都府（郡市）與謝郡（町村）加悦町
（三）死亡ノ年月日　大正十二年一月二十三日
（四）出生ノ年月日　大正十一年五月七日
（五）六歳未滿者ノ身分　[✓ 嫡出子]　庶子　私生子
（六）配偶ノ關係　[✓ 未婚]　有配偶　死別　離別
（七）職業　（甲）死亡者ノ職業　ナシ　（乙）家計ノ主ナル職業　吳服商
（八）死亡ノ原因　病死—病名　自殺—手段　[✓ 其]ノ他ノ變死—種類　墜死
作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第四例　本籍分明ナラサル者ノ自殺ノ例

死　亡　票

大正十二年八月

種類番號第一四〇號（本籍不明）

（府縣）新潟縣（市郡）新潟市（町村）　（役所役場）新潟市役所

（一）氏名及男女ノ別　男　女°　（氏名）不詳

（二）死亡ノ場所　（府縣）新潟縣（市郡）新潟市（町村）

（三）死亡ノ年月日　大正十二年八月十日

（四）出生ノ年月日　年　月　日　推定年齡五十七歲

（五）六歲未滿者ノ身分　嫡出子　庶子　私生子

（六）配偶ノ關係　未婚　有配偶　死別　離別　不詳

（七）職業　（甲）死亡者ノ職業不詳　（乙）家計ノ主ナル職業不詳

（八）死亡ノ原因　病死―病名　自°殺―手段　入水　其ノ他ノ變死―種類

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第五例　内地ニ現在スル外國人ノ病死ノ例

死　亡　票

大正十二年九月

種類番號第二一三號（　）イギリス

（府縣）東京府（市郡）東京市（町村）麻布區（役所役場）麻布區役所

（一）氏名及男女ノ別　男°　女　（氏名）ジョン、グラウント

（二）死亡ノ場所　（府縣）東京府（市郡）東京市（町村）麻布區

（三）死亡ノ年月日　大正十二年九月十日

（四）出生ノ年月日　安政元年三月十二日

（五）六歲未滿者ノ身分　嫡出子　庶子　私生子

（六）配偶ノ關係　未婚　有°配偶　死別　離別

（七）職業　（甲）死亡者ノ職業　音樂師　（乙）家計ノ主ナル職業　／

（八）死亡ノ原因　病°死―病名　老衰　自殺―手段　其ノ他ノ變死―種類

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第六例　失踪ノ例

死　亡　票

大正十二年九月

種類番號第一〇〇號（失踪）

（府縣）廣島縣（市郡）比婆郡（町村）口北村（役所役場）口北村役場

（一）氏名及男女ノ別　男°　女　（氏名）藤田平五郎

（二）死亡ノ場所　（府縣）（市郡）（町村）

（三）死亡ノ年月日　大正十二年八月五日

（四）出生ノ年月日　文久元年十二月十日

（五）六歲未滿者ノ身分　嫡出子　庶子　私生子

（六）配偶ノ關係　未婚　有°配偶　死別　離別

（七）職業　（甲）死亡者ノ職業　（乙）家計ノ主ナル職業

（八）死亡ノ原因　病死―病名　自殺―手段　其ノ他ノ變死―種類

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第七例　戸籍抹消ノ例

死　亡　票

大正十二年六月

種類番號第一四號（戸籍抹消）

（府縣）岡山縣（市郡）御津郡（町村）御野村（役所役場）御野村役場

（一）氏名及男女ノ別　男°　女　（氏名）太田六右衞門

（二）死亡ノ場所　（府縣）（市郡）（町村）

（三）死亡ノ年月日　大正十二年六月七日

（四）出生ノ年月日　安政二年五月十日

（五）六歲未滿者ノ身分　嫡出子　庶子　私生子

（六）配偶ノ關係　未婚　有配偶　死°別　離別

（七）職業　（甲）死亡者ノ職業　（乙）家計ノ主ナル職業

（八）死亡ノ原因　病死―病名　自殺―手段　其ノ他ノ變死―種類

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第五節　死産票ノ記入例

第一例　嫡出子死産ノ例

死産票
大正十二年二月

埋火葬認許證番號第二號

（府縣）長野縣（郡市）上水內郡（役所役場）柏原村役場

(一)分娩ノ場所		（府縣）長野縣（郡市）上水內郡（町村）柏原村
(二)男女ノ別		男　女　不詳
(三)分娩ノ年月日		大正十二年二月七日
(四)姙娠ノ月數		五箇月
(五)嫡庶私ノ別		[✓ 嫡出子]　庶子　私生子
(六)父母ノ職業	父	農業
	母	
(七)父母ノ出生ノ年月日	父	明治二十二年七月十五日
	母	明治二十八年十二月三十日

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第二例　雙胎兒死産ノ例

死産票
大正十二年五月

埋火葬認許證番號第九九號雙胎兒

（府縣）東京府（郡市）東京市（役所役場）芝區役所

(一)分娩ノ場所		（府縣）東京府（郡市）東京市（町村）麹町區
(二)男女ノ別		[✓ 男]　女
(三)分娩ノ年月日		大正十二年五月十八日
(四)姙娠ノ月數		六箇月
(五)嫡庶私ノ別		嫡出子　庶子　[✓ 私生子]
(六)父母ノ職業	父	
	母	煙草商
(七)父母ノ出生ノ年月日	父	年　月　日
	母	明治二十九年十月一日

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

死産票
大正十二年五月

埋火葬認許證番號第一〇〇號雙胎兒

（府縣）東京府（郡市）東京市（役所役場）芝區役所

(一)分娩ノ場所		（府縣）東京府（郡市）東京市（町村）麹町區
(二)男女ノ別		男　[✓ 女]
(三)分娩ノ年月日		大正十二年五月十八日
(四)姙娠ノ月數		六箇月
(五)嫡庶私ノ別		嫡出子　庶子　[✓ 私生子]
(六)父母ノ職業	父	
	母	煙草商
(七)父母ノ出生ノ年月日	父	年　月　日
	母	明治二十九年十月一日

作成心得ニ照シテ記入スヘシ

第六節　市町村送致目錄ノ記入例

第一例　人口動態調査票中或種ニ限リ提出スヘキモノナキ場合ノ例

市町村送致目錄（大正十二年二月）

		枚數	番號	備考	訂正枚數（內閣ニテ記入）	訂正番號（內閣ニテ記入）
本籍アル者	婚姻	七五	自第九〇號 至第一六四號			
	離婚	一二	自第一二號 至第二三號			
	出生	二〇八	自第二一二號 至第四一九號			
	死亡	一五七	自第一五七號 至第三一三號			
本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻、離婚、出生、死亡		一				
死産			自第　號 至第　號	ナシ		

大正十二年三月十日

（府縣）徳島縣（郡市）徳島市（役所役場）徳島市役所㊞

第二例　人口動態調査票全部提出スヘキモノナキ場合ノ例

市町村送致目錄（大正十二年一月）

		枚數	番號	備考	訂正枚數（內閣ニテ記入）	訂正番號（內閣ニテ記入）
本籍アル者	婚姻		自第　號 至第　號			
	離婚		自第　號 至第　號			
	出生		自第　號 至第　號			
	死亡		自第　號 至第　號			
本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻、離婚、出生、死亡						
死産			自第　號 至第　號			

大正十二年二月八日

（府縣）神奈川縣（郡市）足柄上郡（役所役場）山市場村役場㊞

第三例　市町村廢置分合ノ結果事務ノ引繼ヲ受ケタル村役場ニ於テ引繼ヲ受ケタル人口動態調査票ヲ提出スル例

市町村送致目錄（大正十二年二月）

大正十二年二月十二日住吉村廢村本村ヘ合併（合併前ノ住吉村ノ分）

		枚數	番號	備考	訂正枚數（內閣ニテ記入）	訂正番號（內閣ニテ記入）
本籍アル者	婚姻	二	自第五號 至第六號			
	離婚		自第　號 至第　號	ナシ		
	出生	五	自第二一號 至第二五號			
	死亡	四	自第一五號 至第一八號			
本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻、離婚、出生、死亡				ナシ		
死産		二	自第二號 至第三號			

大正十二年三月四日

（府縣）鳥取縣（郡市）西伯郡（役所役場）彦名村役場㊞

第四例　村カ市トナリタル市役所ヨリ提出スル例

市町村送致目錄（大正十二年四月）

大正十二年四月一日宇部村ヲ廢シ宇部市ヲ設置

		枚數	番號	備考	訂正枚數（內閣ニテ記入）	訂正番號（內閣ニテ記入）
本籍アル者	婚姻	三二	自第九五號 至第一二六號			
	離婚		自第　號 至第　號	ナシ		
	出生	一〇五	自第四一五號 至第五一九號			
	死亡	八四	自第二四五號 至第三二八號			
本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻、離婚、出生、死亡				ナシ		
死産		六	自第二二號 至第二七號			

大正十二年五月十日

（府縣）山口縣（郡市）宇部市（役所役場）宇部市役所㊞

第五例　甲町村ノ一部分離シ乙町村ニ合併シタル場合ノ例

甲町役場ヨリ提出スヘキモノ

市町村送致目錄（大正十二年三月）

大正十二年三月四日本町ノ一部分離鶴岡村ヘ合併

		枚數	番號	備考	訂正枚數（內閣ニテ記入）	訂正番號（內閣ニテ記入）
本籍アル者	婚姻	一〇	自第二〇號 至第二九號			
	離婚	三	自第四號 至第六號			
	出生	三八	自第一〇〇號 至第一三七號			
	死亡	二七	自第五〇號 至第七六號			
本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻、離婚、出生、死亡		二				
死産		二	自第五號 至第六號			

大正十二年四月十日

（府縣）大分縣（郡市）南海部郡（役所役場）佐伯町役場㊞

乙村役場ヨリ提出スヘキモノ

市町村送致目錄（大正十二年三月）

大正十二年三月四日佐伯町ノ一部分離本村ヘ合併

		枚數	番號	備考	
				訂正枚數（內譯ニテ記入）	訂正番號（內譯ニテ記入）
本籍アル者	婚姻	一〇	自第二〇號 至第二九號		
	離婚	三	自第四號 至第六號		
	出生	一八	自第四〇號 至第五七號		
	死亡	七	自第三〇號 至第三六號		
本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻、離婚、出生、死亡		二	／		
死産		二	自第二號 至第三號		

大正十二年四月十日

（府縣）大分縣（郡市）南海部郡（役所役場）鶴岡村役場㊞

第六例　組合市町村役場ニ於テ一市町村毎ニ提出スル例

豐原村ノ分（三川村ノ分亦同斷）

市町村送致目錄（大正十二年一月）　豐原村

		枚數	番號	備考	
				訂正枚數（內譯ニテ記入）	訂正番號（內譯ニテ記入）
本籍アル者	婚姻	五	自第一號 至第五號		
	離婚	二	自第一號 至第二號		
	出生	一一	自第一號 至第一一號		
	死亡	八	自第一號 至第八號		
本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ノ婚姻、離婚、出生、死亡		／	／	ナシ	
死産		／	自第　號 至第　號	ナシ	

大正十二年二月五日

（府縣）和歌山縣（郡市）西牟婁郡（役所役場）三川村豐原村組合役場㊞

第七節　府縣送致目錄ノ記入例

例

府縣送致目錄（大正十二年一月）

郡名又ハ支廳名	町村數	町村括數	町村送致目錄數	備考
西成郡	二〇	一九	二〇	中島村提出ナシ
東成郡	二四	二四	二四	
計	二九四	二九三	二九四	
市名	區數	括數	送致目錄數	備考
大阪市	四	四	四	
堺市	／	一	一	
計	四	五	五	

大正十二年三月十日

大阪府（縣）知事某㊞

内閣總理大臣某殿

●人口動態調査ノ結果表章ニ用ウヘキ死因及疾病分類

大正十三年三月二十四日
内閣訓令第一號

人口動態調査ノ結果表章ニ用ウヘキ死因及疾病分類左ノ通定ム

各官廳ニ於テ調製スル統計中死亡原因又ハ疾病ニ依リテ類別スルモノハ凡テ本分類ニ據ルヘシ但シ特ニ必要アルトキハ本分類ニ據ルモノト比較對照ノ便ヲ失ハサル程度ニ各項目ヲ轉約シ若ハ細別スルコトヲ得

死因及疾病分類（縱線ヲ附シタルモノハ疾病分類ノミニ用ウ）

第一　大分類

	小分類番號
一、流行病、地方病及傳染病	一乃至四二
二、全身病	四三乃至六九
三、神經系及感覺器ノ疾患	七〇乃至八六
四、血行器ノ疾患	八七乃至九六
五、呼吸器ノ疾患	九七乃至一〇七
六、消化器ノ疾患	一〇八乃至一二七
七、泌尿生殖器ノ疾患	一二八乃至一四二
八、姙娠及産	一四三乃至一五〇
九、皮膚及皮下組織ノ疾患	一五一乃至一五五
一〇、骨及運動器ノ疾患	一五六乃至一五八
一一、畸形	一五九
一二、乳兒	一六〇乃至一六三
一三、老年	一六四
一四、外因死	一六五乃至二〇三
一五、不明ノ診斷及不詳ノ原因	二〇四、二〇五

第二　中分類

	小分類番號
一、腸チフス及パラチフス	一
再揭　腸チフス	一（イ）
二、發疹チフス	二
三、マラリア	五
四、痘瘡	六
五、麻疹	七
六、猩紅熱	八
七、百日咳	九
八、ヂフテリア	一〇
九、流行性感冒	一一
一〇、コレラ	一四
一一、霍亂	一五
一二、其ノ他ノ流行病及地方病	三、四、一二、一三、一六乃至二五
再揭　赤痢	一六（イ）
再揭　ペスト	一七
再揭　流行性腦脊髓膜炎	二四
一三、肺結核	三一
一四、腦膜及中樞神經系ノ結核	三二
一五、其ノ他ノ結核	三三乃至三七
再揭　腸及腹膜ノ結核	三三
一六、癌及其ノ他ノ惡性腫瘍	四三乃至四九
再揭　癌	四三乃至四九ノ再揭
一七、腦膜炎	七一
一八、腦出血及腦軟化	七四、八三
一九、心臟ノ器質的疾患	八七、八八、九〇
二〇、急性氣管支炎	九九（イ）、（ハ）
二一、慢性氣管支炎	九九（ロ）、（ニ）
二二、肺炎及氣管支肺炎	一〇〇、一〇一
二三、其ノ他ノ呼吸器ノ疾患	九七、九八、一〇二乃至一〇七
再揭　肋膜炎	一〇二
二四、胃ノ疾患	一一一、一一二
二五、下痢及腸炎	一一三、一一四
二六、蟲様突起炎及盲腸炎	一一七
二七、腸及腸管閉塞	一一八
二八、肝臟硬化	一二二
二九、腎臟炎	一二八、一二九
三〇、女子生殖器ノ良性腫瘍及其ノ他ノ疾患	一三七乃至一四一
三一、産褥熱	一四六
三二、其ノ他ノ姙娠及産ニ因スル疾患	一四三乃至一四五、一四七乃至一五〇
三三、畸形、先天性弱質及乳兒ニ固有ノ疾患	一五九乃至一六三
再揭　畸形及先天性弱質	一五九、一六〇（イ）
三四、老衰	一六四
三五、外因死	一七五乃至二〇三
三六、自殺	一六五乃至一七四
三七、其ノ他ノ疾患	二六乃至三〇、三八乃至四二、五〇乃至七〇、七二、七三、七五乃至八二、八四乃至八六、八九、九一乃至九六、一〇八乃至一一〇、一一五、一一六、一一九乃至一二一、一二三乃至一二七、一三〇乃至一三六、一四二、一五一乃至一五八
再揭　黴毒	三八
再揭　脚氣	五五
再揭　糖尿病	五七
再揭　腹膜炎（産ニ因スルモノヲ除ク）	一二六
三八、不明ノ診斷及不詳ノ原因	二〇四、二〇五

第三　小分類

一、腸チフス及パラチフス
（イ）腸チフス
（ロ）パラチフス
二、發疹チフス
三、再歸熱
四、マルタ熱
五、マラリア
六、痘瘡
七、麻疹
八、猩紅熱
九、百日咳
一〇、ヂフテリア
一一、流行性感冒
（イ）肺炎併發ヲ明示セルモノ
（ロ）其ノ他
一二、粟粒熱
一三、流行性耳下腺炎
一四、コレラ
一五、霍亂
一六、赤痢及疫痢
（イ）赤痢
（ロ）疫痢
一七、ペスト
一八、黃熱
一九、黃疸出血性スピロヘータ病（ワイル氏病）
二〇、癩
二一、丹毒
二二、急性脊髓前角炎
二三、嗜眠性腦炎
二四、流行性腦脊髓膜炎
二五、其ノ他ノ流行病及地方病
（イ）二口蟲病
（ロ）恙蟲病
（ハ）日本住血吸蟲病
（ニ）其ノ他
二六、鼻疽及皮疽
二七、炭疽
二八、狂犬病
二九、破傷風
三〇、ミコーセ
再揭　アクチノミコーセ
三一、肺結核
三二、腦膜及中樞神經系ノ結核
三三、腸及腹膜ノ結核
三四、脊椎結核（ポット氏病）

三五、關節結核(白腫)
三六、其ノ他ノ臟器ノ結核
(イ)　皮膚及皮下組織ノ結核
(ロ)　骨ノ結核(脊椎骨ヲ除ク)
(ハ)　淋巴系ノ結核 (腸間膜腺及後腹膜腺ヲ除ク)、
(ニ)　泌尿生殖器ノ結核
(ホ)　其ノ他
三七、粟粒結核
再掲　結核性痔瘻
三八、黴毒
(イ)　第一期
(ロ)　第二期
(ハ)　第三期
(ニ)　其ノ他
再掲　遺傳黴毒
三九、軟性下疳
四〇、痳
再掲　痳毒性眼炎
四一、膿毒症及敗血症
四二、其ノ他ノ傳染病
四三、口腔ノ癌及其ノ他ノ惡性腫瘍
再掲　癌
四四、胃、肝臟ノ癌及其ノ他ノ惡性腫瘍
再掲　食道ノ癌
再掲　其ノ他ノ癌
四五、腹膜、腸、直腸ノ癌及其ノ他ノ惡性腫瘍
再掲　癌
四六、女子生殖器ノ癌及其ノ他ノ惡性腫瘍
再掲　癌
四七、乳房ノ癌及其ノ他ノ惡性腫瘍
再掲　癌
四八、皮膚ノ癌及其ノ他ノ惡性腫瘍
再掲　癌
四九、其ノ他ノ臟器ノ癌及其ノ他ノ惡性腫瘍
再掲　癌
五〇、良性腫瘍(女子生殖器ノ腫瘍ヲ除ク)
五一、急性關節レウマチス
五二、慢性レウマチス及痛風
五三、壞血病(スコルブート)
五四、ペラグラ

五五、脚氣
再掲　乳兒脚氣
五六、佝僂病
五七、糖尿病
五八、貧血病及萎黄病
五九、粘液腺ノ疾患
六〇、甲狀腺ノ疾患
(イ)　バセドー氏病
(ロ)　其ノ他ノ甲狀腺ノ疾患
六一、副甲狀腺ノ疾患
六二、胸腺ノ疾患
六三、副腎ノ疾患(アヂッソン氏病)
六四、脾臟ノ疾患
六五、白血病及假性白血病
六六、アルコホル中毒
六七、無機物質ニ依ル慢性中毒
六八、有機物質ニ依ル慢性中毒
六九、其ノ他ノ全身病
七〇、腦炎
七一、腦膜炎
七二、脊髓癆
七三、其ノ他ノ脊髓及延髓ノ疾患
再掲　脊髓炎
七四、腦出血及腦卒中
(イ)　腦出血
(ロ)　腦栓塞及腦血栓
七五、原因ヲ示サヽル麻痺
七六、麻痺性精神病
七七、其ノ他ノ精神病
七八、癲癇
七九、姙娠及產ニ因セサル痙攣
八〇、小兒ノ搐搦
八一、舞踏病
八二、神經炎
八三、腦軟化
八四、其ノ他ノ神經系ノ疾患
(イ)　神經痛
(ロ)　ヒステリー
(ハ)　神經衰弱
(ニ)　其ノ他
八五、眼及附屬器ノ疾患
再掲　トラホーム

八六、耳及乳嘴突ノ疾患
八七、心囊炎
八八、急性心臟內膜炎及急性心筋炎
再掲　急性心臟內膜炎
八九、狹心症
九〇、其ノ他ノ心臟ノ疾患
再掲　心臟瓣膜ノ疾患
九一、動脈ノ疾患
再掲　動脈硬化
九二、栓塞及血栓(腦ヲ除ク)
九三　靜脈ノ疾患
再掲　痔核
九四、淋巴系ノ疾患
九五、原因不明ノ出血
九六、其ノ他ノ血行器ノ疾患
九七、鼻腔及附屬器ノ疾患
九八、喉頭ノ疾患
九九、氣管支炎
(イ)　急性
(ロ)　慢性
(ハ)　其ノ他(五歲未滿)
(ニ)　其ノ他(五歲以上)
一〇〇、氣管支肺炎
一〇一、肺炎
一〇二、肋膜炎
一〇三、肺充血及肺梗狀出血
一〇四、肺壞疽
一〇五、喘息
一〇六、肺氣腫
一〇七、其ノ他ノ呼吸器ノ疾患
一〇八、口腔及附屬器ノ疾患
再掲　齒牙及齒齦ノ疾患
一〇九、咽頭及扁桃腺ノ疾患
一一〇、食道ノ疾患
一一一、胃及十二指腸ノ潰瘍
一一二、其ノ他ノ胃ノ疾患
一一三、下痢及腸炎(二歲未滿)
一一四、下痢及腸炎(二歲以上)
再掲　慢性下痢及腸炎
一一五、十二指腸蟲病
一一六、其ノ他ノ腸ノ寄生蟲病
一一七、蟲様突起炎及盲腸炎

一一八、脫腸及腸管閉塞
(イ)　脫腸
(ロ)　腸管閉塞
一一九、其ノ他ノ腸ノ疾患
再掲　肛門及直腸ノ疾患
一二〇、急性肝臟黄色萎縮
一二一、肝臟胞蟲
一二二、肝臟硬化
一二三、膽石
一二四、其ノ他ノ肝臟ノ疾患
一二五、膵臟ノ疾患
一二六、腹膜炎(產ニ因スルモノヲ除ク)
一二七、其ノ他ノ消化器ノ疾患
一二八、急性腎臟炎
一二九、慢性腎臟炎(ブライト氏病)
一三〇、乳糜尿
一三一、其ノ他ノ腎臟及附屬器ノ疾患
一三二、排尿道ノ結石
一三三、膀胱ノ疾患
一三四、尿道ノ疾患
一三五、攝護腺ノ疾患
一三六、男子生殖器ノ疾患
一三七、卵巢囊腫及其ノ他ノ卵巢腫瘍
一三八、喇叭管炎及女子骨盤膿瘍
一三九、子宮ノ良性腫瘍
一四〇、產ニ因セサル子宮出血
一四一、其ノ他ノ女子生殖器ノ疾患
(イ)　子宮炎
(ロ)　其ノ他
一四二、產ニ因セサル乳房ノ疾患
一四三、姙娠中ノ不慮ノ出來事
再掲　流產
一四四、產ニ因スル出血
一四五、其ノ他ノ產ニ因スル不慮ノ出來事
一四六、產褥熱
一四七、產ニ因スル白股腫、栓塞及頓死
一四八、產ニ因スル蛋白尿及子癇
一四九、其ノ他ノ產後異常
一五〇、產ニ因スル乳房ノ疾患
一五一、壞疽
一五二、癤
(イ)　癤
(ロ)　癰

一五三、蜂窠織炎及急性膿瘍
一五四、白癬、禿頭病及疥癬
(イ)　白癬及禿頭病
(ロ)　疥癬
一五五、其ノ他ノ皮膚ノ疾患
再掲　濕疹
再掲　象皮病
一五六、骨ノ疾患
一五七、關節ノ疾患
一五八、其ノ他ノ運動器ノ疾患
一五九、先天性畸形
一六〇、先天性弱質、初生兒黄疸及堅皮症
(イ)　先天性弱質
(ロ)　初生兒黄疸及堅皮症
一六一、早產兒又ハ出產ニ依ル產兒ノ傷害
一六二、其ノ他ノ乳兒ニ固有ノ疾患
一六三、養育ノ不注意
一六四、老衰
一六五、毒物ニ依ル自殺
一六六、腐蝕性毒物ニ依ル自殺
一六七、毒瓦斯ニ依ル自殺
一六八、縊首ニ依ル自殺
一六九、入水ニ依ル自殺
一七〇、銃器ニ依ル自殺
一七一、刄物ニ依ル自殺
一七二、落下ニ依ル自殺
一七三、轢壓ニ依ル自殺
一七四、其ノ他ノ自殺
一七五、食物ニ依ル中毒
再掲　河豚中毒
再掲　菌蕈類中毒
一七六、有毒動物ニ依ル中毒
一七七、其ノ他ノ不慮ノ急性中毒(瓦斯性ヲ除ク)
一七八、燒死
一七九、不慮ノ火傷
一八〇、不慮ノ窒息
一八一、不慮ノ有毒瓦斯中毒
一八二、不慮ノ溺死
一八三、不慮ノ銃創

一八四、刄物ニ依ル不慮ノ傷害
一八五、不慮ノ墜落死
一八六、鑛山及採石場ニ於ケル不慮ノ傷害
一八七、不慮ノ機械傷
一八八、轢壓ニ依ル不慮ノ傷害
再掲　不慮ノ轢死
一八九、不慮ノ獸害
一九〇、戰傷死
一九一、敵軍ニ依ル非戰鬪員ノ死刑
一九二、餓死
一九三、凍死
一九四、暑熱ニ依ル死
一九五、雷死
一九六、其ノ他ノ感電死
一九七、銃殺
一九八、斬殺
一九九、其ノ他ノ殺害
再掲　刑死
二〇〇、乳兒殺
二〇一(イ)骨折
二〇一(ロ)脫臼
二〇一(ハ)挫傷
二〇二、其ノ他ノ外因死
二〇三、原因不詳ノ外因死
二〇四、頓死
二〇五、不明ノ診斷及不詳ノ原因
再掲　感冒
再掲　心臟麻痺
再掲　水腫

●官廳ニ於テ調製スル統計表ニ用ウヘキ職業分類

大正九年十二月二十四日
內閣訓令第一號

各官廳

國勢調査ノ結果表章ニ用ウヘキ職業分類左ノ通定ム

各官廳ニ於テ調製スル統計中職業ニ依リテ類別スルモノハ凡テ本分類ニ據ルヘシ但シ特ニ必要アルトキハ本分類ニ據ルモノト比較對照ノ便ヲ失ハサル程度ニ各項目ヲ輯約シ若ハ細別スルコトヲ得

(大分類)
一、農業
二、水產業
三、鑛業
四、工業

(中分類)
一、農耕、畜產、蠶業
二、林業
三、漁業、製鹽業
四、採鑛、冶金業
五、土石採取業
六、窯業
七、金屬工業
八、機械器具製造業

(小分類)
一、農作
二、園藝、造園
三、牧畜、搾乳、養禽
四、養蠶、蠶種製造
五、其他ノ農業
六、森林業
七、林產物業
八、狩獵
九、漁撈、採藻
一〇、魚介藻養殖
一一、製鹽
一二、其他ノ水產業
一三、金屬鑛業
一四、石炭鑛業
一五、石油鑛業
一六、其他ノ鑛業
一七、土石採取業
一八、セメント、石膏、石灰類製造
一九、瓦、土管製造
二〇、煉瓦製造
二一、陶磁器、土器製造
二二、七寶燒、琺瑯品製造
二三、硝子、硝子品製造
二四、其他ノ窯業
二五、精錬業
二六、金屬壓延業
二七、釘、鋲、針類製造
二八、鐵葉職、鐵葉品製造
二九、鋼索、鐵鎖等製造、針金細工
三〇、鍛冶業
三一、鑄物業
三二、銅器、眞鍮器、靑銅器類製造
三三、其他ノ金屬工業
三四、度量衡器、計測器、科學的機械器具類製造
三五、時計製造
三六、電動機、電氣機械器具製造
三七、原動機製造(汽罐、瓦斯發生機等ヲ含ム)
三八、銃砲、彈丸、水雷製造
三九、紡織機械器具製造
四〇、農具、土工具製造

九、化學工業
一〇、纖維工業
一一、紙工業
一二、皮革、骨、角、甲、羽毛品類製

四一、機關車、車輛製造
四二、造船業
四三、金屬工用、木工用機械器具製造
四四、航空機製造
四五、其他ノ機械器具製造
四六、工業藥品、醫療藥品製造
四七、賣藥、賣藥類似品製造
四八、染料、顏料及其原料類製造
四九、石鹼製造
五〇、化粧品類製造
五一、燐寸、附木製造
五二、火藥、其他ノ爆發物製造
五三、油脂類製造
五四、蠟、蠟燭製造
五五、護謨、セルロイド、防水品製造
五六、漆、其他ノ塗料製造
五七、肥料製造
五八、化學分析、檢査ニ關スル業
五九、其他ノ化學工業
六〇、生絲製造
六一、人造絹絲製造
六二、撚絲製造
六三、眞綿、ベニー製造
六四、綿製造
六五、綿絲紡績業
六六、其他ノ紡績業
六七、織物業
六八、毛織物業
六九、莫大小、莫大小品製造
七〇、編物、組物製造
七一、綱、網類製造（藁製品ヲ除ク）
七二、麻絲維、絲返業
七三、染色、捺染、漂白及絲布加工業
七四、湯熨斗、浸拔、洗張、洗濯業
七五、西洋洗濯業
七六、紙製造
七七、板紙、壁紙製造
七八、パルプ及其他ノ紙料製造
七九、紙品製造
八〇、表具師
八一、皮革製造
八二、皮革品、擬革、擬革品製造

造業
一三、木、竹類ニ關スル製造業
一四、飲食料品、嗜好品製造業
一五、被服、身ノ廻リ品製造業

八三、骨、角、甲、牙、貝類ノ細工
八四、刷毛類、其他ノ羽毛品製造
八五、製材業
八六、木挽、屋根板製造
八七、刳物、木地、曲物製造
八八、樽、桶類製造
八九、建具、指物、木型、寄木、合板製造
九〇、漆器製造
九一、笊、籠、行李類製造
九二、疊表、茣蓙類製造
九三、疊職
九四、藁、麥稈、棕梠、經木細工
九五、其他ノ竹木草蔓品製造
九六、精穀、製粉業
九七、麵類、麩、湯葉、蒟蒻製造
九八、豆腐製造
九九、菓子、麵麭製造
一〇〇、砂糖類製造
一〇一、麴製造
一〇二、清酒製造
一〇三、麥酒製造
一〇四、其他ノ酒類製造
一〇五、味噌、醬油製造
一〇六、屠畜、肉類品製造
一〇七、罐詰、罎詰製造
一〇八、鹽乾魚介節類製造
一〇九、海藻、其他水產食料品製造
一一〇、清涼飲料製造
一一一、製茶業
一一二、煙草製造
一一三、製氷及冷藏業
一一四、其他ノ飲食料品製造
一一五、和服裁縫
一一六、洋服裁縫
一一七、帽子製造
一一八、シャツ、手套、股引、脚絆、足袋類製造
一一九、袋物製造
一二〇、扇子、團扇、提燈、傘、合羽類製造
一二一、洋傘、杖類製造
一二二、履物類製造
一二三、靴製造
一二四、其他ノ身ノ廻リ品製造

五、商業

一六、土木建築業
一七、製版、印刷、製本業
一八、學藝、娛樂、裝飾品製造業
一九、瓦斯、電氣及天然力利用ニ關スル業
二〇、其他ノ工業
二一、物品販賣業

一二五、土木建築請負業
一二六、土木建築ノ設計、測量等ニ關スル業
一二七、大工
一二八、左官、泥工、セメント工、煉瓦職
一二九、石工
一三〇、屋根職
一三一、ペンキ、漆、其他ノ塗料塗職
一三二、土方、鳶職
一三三、潛水業
一三四、其他ノ土木建築ニ關スル業
一三五、木版、金屬版、石版、其他ノ製版、印刷業
一三六、活字製造、活版印刷業
一三七、製本職
一三八、筆、墨製造
一三九、ペン、鉛筆、インキノ類製造
一四〇、其他ノ文房具製造
一四一、樂器製造
一四二、博物標本、模型、運動用具、遊戲品、玩具製造
一四三、造花、押繪、刺繡、其他ノ裝飾品製造
一四四、貴金屬、寶石、飾石細工
一四五、瓦斯發生、供給、其裝置業
一四六、電力發生、供給、其裝置業
一四七、其他ノ天然力利用ニ關スル業
一四八、其他ノ工業
一四九、穀類、粉類販賣
一五〇、蔬菜、果物類販賣
一五一、魚介藻類販賣
一五二、鳥獸肉類販賣
一五三、酒類、調味料、清涼飲料販賣
一五四、菓子、麵麭類販賣
一五五、茶販賣
一五六、其他ノ飲食料品販賣
一五七、肥料販賣
一五八、燃料販賣
一五九、木材、竹材販賣
一六〇、石材、其他ノ建築材料販賣
一六一、建具、家具、指物類販賣
一六二、疊、莚、蓙物類販賣
一六三、陶磁器、硝子、硝子品類販賣
一六四、地金、金屬器具販賣
一六五、機械、車輛、農具類販賣

六、交通業

二二、媒介周旋業
二三、金融保險業
二四、物品賃貸業、預リ業
二五、旅宿、飲食店、浴場業等
二六、其他ノ商業
二七、通信業
二八、運輸業

一六六、皮革、擬革、其製品販賣
一六七、織物、被服類販賣
一六八、綿、絲類、編物、組物類販賣
一六九、紙、紙製品、文房具、玩具、遊戲品販賣
一七〇、圖書、新聞、雜誌、其他ノ出版物ノ發行、販賣
一七一、小間物、唐物、履物、雨具、雜貨販賣
一七二、藥品、染料、顏料、香料等販賣
一七三、度量衡、科學的機械器具、時計、貴金屬、寶石類販賣
一七四、外國貿易商
一七五、古物商
一七六、葬具商
一七七、其他ノ物品販賣
一七八、賣買媒介業
一七九、周旋業
一八〇、興信業
一八一、銀行業
一八二、質屋業
一八三、貸金業
一八四、其他ノ金融業
一八五、生命保險業
一八六、其他ノ保險業
一八七、物品賃貸業
一八八、倉庫業、其他ノ物品預リ業
一八九、旅人宿、下宿業
一九〇、料理店、飲食店、席貸業
一九一、遊戲、興行ニ關スル業
一九二、理髮業、理容業
一九三、浴場業
一九四、其他ノ商業
一九五、郵便、電信、電話業
一九六、鐵道業
一九七、軌道業
一九八、人力車業
一九九、乘用ノ自働車、馬車業
二〇〇、其他ノ車馬運輸業

		二〇一、船舶運輸業
		二〇二、運輸取扱業
		二〇三、其他ノ運輸ニ關スル業
七、公務、自由業	二九、陸海軍人	二〇四、陸軍現役軍人
		二〇五、海軍現役軍人
	三〇、官吏、公吏、雇傭	二〇六、神官、神職、雇傭
		二〇七、宮內官吏、雇傭
		二〇八、官吏、雇傭
		二〇九、公吏、雇傭
	三一、宗教ニ關スル業	二一〇、神道ニ關スル業
		二一一、佛教ニ關スル業
		二一二、基督教ニ關スル業
		二一三、其他ノ宗教ニ關スル業
	三二、教育ニ關スル業	二一四、學校ニ勤務スル者
		二一五、圖書館、博物館、動植物園等ニ勤務スル者
		二一六、其他ノ教育ニ關スル業
	三三、醫術ニ關スル業	二一七、醫業
		二一八、齒科醫業
		二一九、調劑業
		二二〇、產婆業
		二二一、看護業
		二二二、按摩、鍼灸業
		二二三、其他ノ醫療ニ關スル業
		二二四、獸醫業
		二二五、蹄鐵業
	三四、法務ニ關スル業	二二六、裁判所ニ勤務スル者
		二二七、辯護士業、特許辨理士業
		二二八、執達吏業
		二二九、公證人業
	三五、記者、著述者	二三〇、新聞、雜誌、通信記者
		二三一、著述者
	三六、藝術家	二三二、文藝家
		二三三、畫家、彫刻家
		二三四、音樂家
		二三五、蒔繪業
		二三六、寫眞業
		二三七、其他ノ藝術ニ關スル業
	三七、其他ノ自由業	二三八、技藝、娛樂ニ關スル業
		二三九、學術、慈善、政治、社交、其他ノ團體ノ事務ニ從事スル者
		二四〇、代書業
		二四一、其他ノ自由業
八、其他ノ有業者	三八、其他ノ有業者	二四二、日傭業
		二四三、其他ノ有業者
九、家事使用人	三九、家事使用人	二四四、家事使用人
一〇、無職業	四〇、收入ニ依ル者	二四五、小作料ニ依ル者
		二四六、地代、家賃、有價證券ノ收入ニ依ル者
		二四七、恩給、年金、其他ノ收入ニ依ル者
	四一、無職業	二四八、準世帶ニ在ル學生、生徒
		二四九、精神病院、感化院、慈善病院等ニ在ル者
		二五〇、官公又ハ慈善團體等ノ救助ヲ受クル者
		二五一、在監人
		二五二、其他ノ無職者

●精神病者調査票樣式及記入方法

（明治四十二年十二月二十八日 內務省令第二十七號）

公私立精神病院及精神病者ヲ收容スル公私立病院ハ精神病者ノ退院毎ニ病者一名ニ付精神病者調査票一枚ヲ調製シ之ヲ半箇年分宛取纏メ一月一日ヨリ六月末日マテノ分ハ其ノ年七月末日マテニ七月一日ヨリ十二月末日マテノ分ハ翌年一月末日マテニ地方廳（東京府ニ於テハ警視廳）ヲ經テ【內閣統計局】ニ送附スヘシ

調査票ノ用紙ハ之ヲ【內閣統計局】ヨリ配附ス

調査票ノ樣式及記入方法ハ附錄ニ依ルヘシ

本令ニ於テ精神病者ト稱スルハ精神病者監護法ニ依リ監置シタルト否トヲ問ハス總テ精神病ニ罹リタル者ヲ謂フ

本令ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附錄

精神病者調査票樣式

精神病者調査票

【明治】　　年　｜　第　　號　｜　　府縣　｜　　病院

1.氏名及體性	氏名＿＿＿＿＿＿		男　女
	府縣及北海道	郡　市	町村　大字
2.出生地	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿
3.住居地	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿
4.發病地	＿＿＿＿	＿＿＿＿	＿＿＿＿
5.出生ノ年月日	＿＿年＿＿月＿＿日		
6.職業	病者ノ職業＿＿＿＿家計ノ主ナル職業＿＿＿＿		
7.戶主又ハ戶主ニ對スル關係	＿＿＿＿		
8.緣事上ノ關係	未婚者　配偶者ノ生存スル者　離婚セシ獨身者　配偶者ノ死亡セシ獨身者		
9.宗教	屬スル宗教ハ＿＿＿＿其宗教ニ對スル信仰　有　無		
10.教育	全ク文字ヲ讀ミ得ス　假字ヲ讀ミ得　漢字交リ文ヲ讀ミ得		
11.嗜好　飲酒	常用　時々　現ニ　嘗テ　其量＿＿＿＿不飲		
喫煙	喫　現ニ　嘗テ　不喫		
12.發病ノ年月日	＿＿年＿＿月＿＿日　＿＿＿＿發		
13.入院ノ年月日	【明治】＿＿年＿＿月＿＿日		
14.遺傳關係	精神病　誰カ＿＿＿＿神經病　誰カ＿＿＿＿何ヲ＿＿＿＿		
	異常氣質　誰カ＿＿＿＿飲酒多量　誰カ＿＿＿＿		
	自殺　誰カ＿＿＿＿犯罪　誰カ＿＿＿＿何ヲ＿＿＿＿		
	母ハ父ノ血族上何カ＿＿＿＿		
15.身體的關係	黴毒　酒精濫用　頭部ノ外傷　虛脫　何ノ＿＿＿＿		
	急性傳染病　何ノ＿＿＿＿　臟躁　癲癇　動脈硬化症		
	妊娠　產蓐　其他＿＿＿＿		
16.精神的關係	一時的刺戟　感動　何ノ＿＿＿＿過勞　何ノ＿＿＿＿		
	持續的刺戟　感動　何ノ＿＿＿＿過勞　何ノ＿＿＿＿		
	其他＿＿＿＿		
17.社會的關係	犯罪　種類＿＿＿＿不良行爲　其事態＿＿＿＿		
18.病名	(1)白痴　(2)癡愚　(3)變質性精神病		
	(4)早發性癡呆　(a)破瓜性　(b)緊張性　(c)妄想性　(5)偏執病		
	(6)躁鬱病　(a)發揚性　(b)鬱憂性　(c)定期性　(d)同歸性		
	(7)虛脫性精神病　(8)熱性傳染病性精神病　(9)臟躁性精神病		
	(10)癲癇性精神病　(11)其他ノ神經病性精神病　(12)麻痺性癡呆		
	(13)老耄性精神病　(14)其他ノ腦病性精神病　(15)中酒性精神病		
	(16)其他ノ中毒性精神病　(17)以上列記外ノ精神病		
19.退院（轉歸）	【明治】＿＿年＿＿月＿＿日		
	治癒　未治　死亡　死亡原因＿＿＿＿		
20.公費自費ノ別	公費　自費　其他		

精神病者調査票記入心得

第一條　調査票ニハ道府縣名、病院名、年次及番號ヲ記入スヘシ

番號ハ精神病者ノ治癒、死亡又ハ事故ニ依ル等退院シタル順序ニ從ヒ一年間繼續スルモノトス

第二條　第一項ハ病者ノ氏名及體性ヲ記入スルヲ要ス、體性ハ男女其ノ當レル文字ノ下ニ横線ヲ劃スヘシ

第三條　第二項、第三項及第四項ニハ病者ノ出生地、住居地及發病地ヲ劃線內ニ記入スヘシ但シ其ノ地臺灣、樺太又ハ外國タルトキハ行政區劃ニ拘ハラス其ノ地名又ハ國名ヲ記入シ航海中發病ノ場合ハ「航海中」ト記入スヘシ其ノ不詳ナル者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第四條　第五項ハ病者出生ノ年月日ヲ記入スヘシ日又ハ月不詳ノ者ニ在リテハ各其ノ部ニ「不詳」ト記入シ生年不詳ノ者ニ在リテハ年齡ヲ推定シ「推定年齡何歲」ト記入スヘシ

第五條　第六項ハ病者ノ從事セシ職業ヲ記入スルヲ原則トシ若シ病者自己ニ一定ノ職業無キ場合ニ於テハ「無シ」ト記入シ家計ノ主働者ノ主ナル職業ヲ記入スヘシ

職業ハ農、商、工等ノ總名ニ依ラス成ルヘク細別シテ記入スヘシ

職業不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第六條　第七項ハ病者ノ一家內ニ於ケル身分即チ戶主、家族、雇人等ノ別ヲ記入スヘシ身分不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第七條　第八項ハ病者ノ緣事上ノ關係ヲ未婚者、配偶者ノ生存スル者、離婚セシ獨身者、配偶者ノ死亡セシ獨身者ニ區別シ其ノ當レル文字ノ下ニ横線ヲ劃スヘシ

緣事上ノ關係不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト

記入スヘシ

第八條　第九項ハ病者ノ屬スル宗教及其ノ宗教ニ對スル信仰ノ有無チ記入スヘシ

宗教名ハ神道、佛教又ハ耶蘇教等ノ大別ニ依ラス其ノ宗派、教派ニ依リ成ルヘク細別シテ記入スヘシ

屬スル宗教無キ者ニ在リテハ「無シ」ト記入シ有無不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

其ノ宗教ニ對スル信仰ノ有無ハ其ノ當レル文字ノ下ニ横線チ劃スヘシ

第九條　第十項ハ病者ノ受ケタル教育ノ程度チ全ク文字チ讀ミ得ス、假字チ讀ミ得、漢字交リ文チ讀ミ得ニ區別シ其ノ當レル文字ノ下ニ横線チ劃スヘシ有無不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第十條　第十一項ハ病者ノ飲酒及喫煙ノ嗜好ニ付キテ入院當時現ニ其ノ嗜好アル者ハ「現ニ」ノ下ニ、既ニ之チ廢止シタル者ハ「曾テ」ノ下ニ横線チ劃スヘシ

飲酒ノ嗜好アル者ニ付キテハ其ノ常用ナルカ時々ナルカチ區別シ當レル文字ノ下ニ横線チ劃シ且ツ其ノ一日ノ酒量チ記入スヘシ

飲酒ノ嗜好無キ者ハ「不飲」ノ下ニ、喫煙ノ嗜好無キ者ハ「不喫」ノ下ニ横線チ劃スヘシ

第十一條　第十二項ハ發病ノ年月日及回數チ記入スヘシ

發病ノ回數ハ初發、再發、三發等ニ區別シ其數チ「發」字ノ前ニ記入スヘシ

發病ノ年月日及回數不詳ノ場合ハ各其ノ部ニ「不詳」ト記入スヘシ

第十二條　第十三項ハ入院ノ年月日チ記入スヘシ

第十三條　第十四項ハ遺傳關係チ記入スヘシ

一　遺傳ハ少クトモ三親等以內ノ血族ニ就キテ精神病、神經病、異常氣質、飲酒多量、自殺、犯罪ノ有無チ明カナラシムル樣其ノ當レル文字ノ下ニ横線チ劃シ其ノ「誰カ」ノ部ニ血族名チ記入スヘシ一人ニシテ數因アリ同因ノ者二人以上アル場合ハ悉ク之チ列記スヘシ但シ神經病ニ付キテハ「何チ」ノ部ニ腦膜炎、腦黴毒、脊髓癆、癲癇、臟躁、舞踏病等其ノ病名チ記入シ犯罪ニ付キテハ「何チ」ノ部ニ罪名チ記入スヘシ病名又ハ罪名不詳ノ場合ハ各其ノ部ニ「不詳」ト記入シ遺傳關係不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

二　病者ノ父母間ニ血族上ノ關係アルトキハ母ハ父ノ血族上何ナルヤチ記入スヘシ但シ五親等以上ナルカ又ハ全ク血族ノ關係ナキトキハ「無シ」ト記入シ關係不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第十四條　第十五項ハ病者ノ身體的原因關係チ記入スヘシ

身體的原因關係ハ列記中一又ハ一以上ノ當レル文字ノ下ニ横線チ劃シ若シ印刷シアル文字チ以テ示シ能ハサル事實ナルトキハ之チ「其他」ノ部ニ記入スヘシ身體的原因關係不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第十五條　第十六項ハ病者ノ精神的原因關係チ記入スヘシ

精神的原因關係ハ一時的精神刺戟ニ因ル者ナルカ持續的精神刺戟ニ因ル者ナルカチ區別シ其ノ當レル文字ノ下ニ横線チ劃スヘシ

尙其ノ精神刺戟ハ感動及過勞ニ別チ其ノ當レル文字ノ下ニ横線チ劃シ且ツ其ノ原因チ「何ノ」ノ部ニ記入スヘシ

前項チ以テ示シ能ハサル事實ナルトキハ「其他」ノ部ニ記入スヘシ

第十六條　第十七項ハ病者ノ社會的關係中主トシテ犯罪又ハ不良行爲ニ付キテ記入スヘシ

病者入院前ニ犯罪又ハ不良行爲アリタルトキハ其ノ當レル文字ノ下ニ横線チ劃シ其ノ種類又ハ事態チ記入スヘシ

犯罪又ハ不良行爲無キ者ニ在リテハ「無シ」ト記入シ其ノ不詳ナル者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第十七條　第十八項ハ十七綱七目ノ病名ノ中當レル文字ノ下ニ横線チ劃スヘシ

病名中第四綱及第六綱ハ綱及目ノ下ニ横線チ劃スルチ原則トシ目ノ明瞭ナラサル場合ニハ綱ノ下ニノミ横線チ劃スヘシ

病名不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第十八條　第十九項ハ退院ノ年月日チ記入シ且轉歸ニ付キテハ治癒、未治、死亡ニ區別シ其ノ當レル文字ノ下ニ横線チ劃スヘシ

死亡者ニ在リテハ其ノ直接ノ死因チ記入スヘシ例ヘハ麻痺性癡呆ノ如キ器質的原因チ有スル精神病ニシテ諸症增惡シ死亡轉歸チ取リタル者ニ在リテハ「本病ノ爲メ」ト記入シ又合併病ノ爲メ死亡ノ轉歸チ取リタル者ニ在リテハ其ノ病名チ記入シ若又自殺チ爲シタル者ニ在リテハ「自殺」ト記入スヘシ

第十九條　第二十項ハ病者ハ自費、公費又ハ其ノ他ノ費用ニ依ル入院者ナルヤチ區別シ其ノ當レル文字ノ下ニ横線チ劃スヘシ

（明治四十二年十二月二十八日内務省訓令第九號）

廳府縣

本年內務省令第二十七號ニ依ル精神病者調査票用紙ハ毎年十一月中ニ【內閣統計局】ヨリ之チ廳府縣ニ配附ス【但明治四十三年分ニ限リ本年十二月中ニ配附ス】廳府縣ハ其ノ所管內ニ於ケル精神病院竝ニ精神病者チ收容スル病院ノ翌年中ノ所要枚數チ見積リ毎年十二月中ニ之チ各病院ニ配附スヘシ

各病院ヨリ送附セル精神病者調査票ハ廳府縣ニ於テ其ノ枚數及番號チ檢査シ前半年分ハ其ノ年八月末日マテニ後半年分ハ翌年二月末日マテニ之チ【內閣統計局】ニ送附スヘシ

精神病者調査票ハ各病院毎ニ一括ト爲シ之ニ送致目錄及病院別送致目錄チ添フヘシ

甲　精神病者調査票送致目錄

【明治】　年（前後）期分

精神病者調査票送致目錄

一某病院　何枚
一某病院　何枚
一某病院　何枚
一某病院　無シ
備考

廳府縣名

其ノ期間ニ全ク退院者無キ病院ニ在リテハ病院名ノ下ニ無シト記入スヘシ

備考ニハ其ノ期間ニ於ケル病院新設廢止又ハ名稱變更等ノ事實チ記入スヘシ

乙　病院別精神病者調査票送致目錄

【明治】　年（前後）期分

病院別精神病者調査票送致目錄

一　病院名
二　其ノ所在地名
三　本期分調査票枚數　男女別
四　調査票番號　自第　號至第　號
五　備考
イ　收容シ得ヘキ患者ノ豫定數
ロ　前期ヨリ繰越患者數　男女別
ハ　本期中入院患者數　男女別
ニ　本期末殘留患者數　男女別

廳府縣名

本令ニ於ケル廳府縣ノ事務ハ東京府ニ於テハ警視廳之チ行フ

●農林省統計報告規則

（大正十四年十月二十八日農林省令第二十五號）

農林省統計報告規則左ノ通定ム

農林省統計報告規則

第一條　市町村長ハ別表統計樣式ニ揭クル事項チ調査シ各其ノ樣式ニ依リ之チ地方長官ニ報告スヘシ但シ其ノ報告期限ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二條　市町村長ハ前條ノ調査チ行フ爲市町村ニ調査區チ設ケ各調査區ニ調査員チ置クヘシ

第三條　調査區ハ大字、小字等地理上獨立ノ稱呼チ有スル區域又ハ調査事項ノ種類チ標準トシ當該市町村ニ於ケル産業ノ狀態又ハ調査ノ難易チ參酌シテ之チ定ムヘシ

第四條　調査員ハ市町村長ノ指揮監督チ承ケ擔當調査區內ニ於ケル農林省統計調査ノ事務チ執行スヘシ

第五條　市町村長調査員チ任免シタルトキハ其ノ擔當調査區ト共ニ遲滯ナク之チ地方長官ニ屆出ツヘシ

第六條　市町村長調査員ノ報告チ受ケタルトキハ其ノ內容チ檢査シ必要ト認ムルトキハ再調査チ爲サシムヘシ

第七條　地方長官第一條ノ規定ニ依リ市町村長ノ報告チ受ケタルトキハ之チ別表各樣式ニ依リ道府縣計ニ整理集計シ別表各樣式ニ揭クル期限迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第八條　本則ノ規定ニ依リ蒐集シタル資料ハ統計上ノ目的以外ニ之チ使用スルコトチ得ス

第九條　農林省統計調査ニ關スル事務ニ從事シタル者其ノ職務ノ執行ニ關シ個人、法人又ハ組合ノ業務ニ付知得シタル事項チ故ナク他ニ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條　本則中町村又ハ町村長トアルハ町村制チ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

本則ハ大正十五年一月一日ヨリ之チ施行ス

（別表）

農林省統計樣式

第一　耕地面積
第二　水稻作況
第三　米第一回豫想收穫高
第四　米第二回豫想收穫高
第五　米
第六　麥豫想收穫高
第七　麥
第八　食用農産物
第九　園藝農産物
第一〇　工藝農産物
第一一　綠肥用作物
第一二　果樹苗
第一三　茶畑
第一四　製茶
第一五　桑畑
第一六　桑苗
第一七　春蠶豫想掃立枚數
第一八　春蠶豫想收繭高
第一九　春蠶
第二〇　夏秋蠶豫想掃立枚數
第二一　夏秋蠶豫想收繭高
第二二　夏秋蠶
第二三　天蠶及柞蠶
第二四　蠶絲類
第二五　眞綿
第二六　天蠶絲及柞蠶絲
第二七　蠶網
第二八　藁製品
第二九　牛
第三〇　牛乳
第三一　馬
第三二　豚
第三三　緬羊
第三四　山羊
第三五　鷄
第三六　鶩
第三七　蜜蜂
第三八　屠殺
第三九　乳肉製品及罐詰
第四〇　水産業者
第四一　漁船
第四二　遠離漁船
第四三　沿岸漁獲物
第四四　遠洋漁業
第四五　水産養殖
第四六　水産製造物
第四七　寒天
第四八　公私有林野面積
第四九　公私有造林用苗木
第五〇　公私有林野人工造林
第五一　公私有林野天然造林
第五二　公私有林伐採

第五三 林野産物
第五四 公私有林野放牧
第五五 公私有林野被害

調査上ノ一般注意

一、本調査事項ハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外調査事實ノ存スル地ノ市町村ニ於テ之ヲ調査スヘシ

二、本調査ハ實地調査ヲ原則トスヘシ

三、本調査ニ於テ戸數ト稱スルハ個人タルト法人タルトヲ問ハス當該事業ヲ營ム者(事業主)ノ數ヲ謂フ數人共同シテ一個ノ事業ヲ營ム場合ニハ一戸トシテ計算スヘシ

四、本調査ニ於テ場數ト稱スルハ工場タルト家庭內ノ作業場タルトヲ問ハス當該生産事業ノ目的トスル作業ヲ爲ス一定ノ場所ノ數ヲ謂フ

五、學校、試驗場、講習所等ニ於ケル生産品及自家用生産品ニ關シテハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外之ヲ調査スヘシ

六、他ヨリ委託ヲ受ケ一定ノ工賃ヲ得テ行フ賃製造ニ關シテハ製造場數設備(製造場內ノ機械器具等)及職工數ハ賃業者所在地ノ市町村ニ於テ之ヲ調査シ製品ノ數量價額ハ委託者所在地ノ市町村ニ於テ之ヲ調査スヘシ

七、價額ハ一年ヲ通シテ生産セラルル物品ニ付テハ當該一年間ニ於ケル其ノ地方市場卸賣平均價格ニ依リ、季節ニ於テ生産セラルル物品ニ付テハ當該季節ニ於ケル其ノ地方市場卸賣平均價格ニ依ルヘシ

八、數量ノ單位ニシテ地方慣行ノモノカ樣式ニ定メタルモノト異ル場合ニ於テハ樣式所定ノ單位ニ之ヲ換算スヘシ

九、取引ノ慣行ニ於テ一斤ヲ百六十匁トシテ計算セサル場合ト雖本調査ニ於テハ總テ之ヲ百六十匁トシテ計算スヘシ

一〇、單位未滿ノ數ハ之ヲ四捨五入スヘシ

一一、調査事項ニ關シ事實ナキモノニ付テハ縱線(—)ヲ引クヘシ

一二、調査事實ニ關シ前年ニ比シ著シキ增減アリタル場合ニ於テハ其ノ理由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第一 耕地面積

大正何年 報告期翌年二月限

	年末現在	年內移動											
		擴張					潰廢					其ノ他	
		開墾	埋立及干拓	荒地復舊	地目變換	計	宅地竝工場及建物敷地	道路、鐵道、軌道、河川及水路敷地	荒地	地類及地目變換	計	增	減
田	段	段	段	段	段	段	段	段	段	段	段	段	段
畑													
計													
備考													

(注意)

一、土地臺帳面ノ地目面積ノ如何ニ拘ラス實際ノ面積ニ付調査スヘシ

二、耕地ニハ蓮根、慈姑、藺、芹等ヲ栽培シタル場所ト雖水田トシテ利用シ得ヘキモノナレハ田トシテ計算シ燒畑切替畑等ハ畑トシテ計算スヘシ耕作道路水路等ハ耕地面積ニ包含セサルモ畦畔ハ之ヲ算入スヘキモノトス

三、擴張トハ耕地ニアラサル土地ヲ耕地ト爲スコトヲ謂ヒ潰廢トハ耕地カ耕地ニアラサル土地ト爲ルコトヲ謂フ

四、開墾トハ山林、原野、牧場、池沼又ハ雜種地ヲ耕地ト爲スコトヲ謂フ

五、埋立及干拓トハ湖海其ノ他ノ公有水面ヲ埋立テ又ハ干拓シテ耕地ト爲スコトヲ謂フ

六、荒地トハ耕地カ山崩、川欠其ノ他天災ニ因リ耕地ニアラサル土地ト爲ルコトヲ謂ヒ荒地復舊トハ之ヲ耕地ニ復舊スルコトヲ謂フ

七、擴張ノ地目變換ノ欄ニハ宅地、鹽田、鑛泉地ヲ耕地ト爲シタル場合ヲ記載スヘシ

八、潰廢ノ宅地竝工場及建物敷地ノ欄ニハ電柱敷、鐵塔敷、公園等ノ如キモノヲ記載スヘシ

九、潰廢ノ地類及地目變換ノ欄ニハ耕地ヲ山林、原野、牧場、池沼又ハ雜種地ト爲シタル場合及耕地ヲ鹽田、鑛泉地ト爲シタル場合ヲ記載スヘシ

一〇、同一地域カ年內ニ於テ擴張シ且潰廢シ又ハ潰廢シ且擴張シタルトキハ年末現在ニ於ケル實狀ニ依リ差引ノ擴張又ハ潰廢面積ヲ當該欄ニ記載スヘシ

一一、其ノ他ノ欄ニハ田ヲ畑ト爲シ又ハ畑ヲ田ト爲シタル場合及實測ノ結果耕地面積ニ增減アリタル場合及各其ノ增減面積ヲ記載シ其ノ內譯ヲ備考欄ニ記載スヘシ

一二、前年末現在面積ニ年內ノ擴張、潰廢及其ノ他ニ依ル增減面積ヲ加除スルトキハ年末現在面積ト一致スヘキモノトス

一三、前年報告シタル數ヲ訂正シタル場合ハ其ノ旨備考欄ニ記載スヘシ

第二 水稻作況

大正何年八月十五日現在 報告期八月二十五日限

水稻作況ハ管內ヲ通シ左ノ標準ニ依リ良、稍良、普通、稍不良又ハ不良ノ一ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

一、良 普通作況ニ比シ增收五分ヲ超ユル見込ノ場合
二、稍良 普通作況ニ比シ增收五分以內ノ見込ノ場合
三、普通 普通作況ノ見込ノ場合
四、稍不良 普通作況ニ比シ減收五分以內ノ見込ノ場合
五、不良 普通作況ニ比シ減收五分ヲ超ユル見込ノ場合

(注意)

一、作況トハ作付段別ノ增減ニ關セス單ニ作柄ノ良否ノ狀況ヲ謂ヒ普通作況トハ前五箇年間ニ於ケル中庸ノ作柄ヲ謂フ

第三 米第一回豫想收穫高

大正何年九月二十日現在 報告期九月限

	作付段別	第一回豫想收穫高(玄米)	前年收穫高	前年收穫高ニ比シ增減
水稻	段	石	石	石
陸稻				
計				
備考				

(注意)

一、作付段別ノ調査ニ付テハ左ノ規定ニ依ルヘシ

(イ)農作者ニ對スル訊問又ハ農作者ノ申告其ノ他適當ト認ムル方法ニ依リ作付後適當ノ時期ニ於テ調査スヘシ

(ロ)土地臺帳面ノ地目面積ノ如何ニ拘ラス實際作付ヲ爲シタル地ノ段別ヲ調査スヘシ

(ハ)病蟲害、風水害等ノ爲收穫皆無ト爲ルヘキ見込ノ地ト雖作付ヲ爲シタルモノハ總テ其ノ段別ヲ調査スヘシ

(ニ)同一ノ地ニ二回作ヲ爲シタル場合ニ於テハ各期ノ段別ハ之ヲ合算スヘシ
但シ第二回作付ノ段別ハ備考欄ニ之ヲ記載スヘシ

二、豫想收穫高ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ調査スヘシ

調査員ニ於テ實際ノ狀況ヲ巡回調査シ且精農者數名ノ意見ヲ徵シ調査區ニ於ケル水稻及陸稻ニ付早中晚別ニ且作柄ノ良否ニ應シ數個ノ等級ニ分チ一段歩當ノ豫想收穫高ヲ決定シ之ヲ作付段別ヨリ無收穫見込段別ヲ控除シタル各該當ノ段別ニ乘スヘシ

三、前年收穫高ニ比シ增減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

四、氣候ノ適否、用水ノ過不足、施肥ノ多少、發育ノ經過及病蟲害、風水害等ノ有無ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第四 米第二回豫想收穫高

大正何年十月末日現在 報告期十一月十日限

	第二回豫想收穫高(玄米)	第一回豫想收穫高	第一回豫想收穫高ニ比シ增減
水稻	石	石	石
陸稻			
計			
備考			

(注意)

一、豫想收穫高ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ調査スヘシ

調査員ニ於テ實際ノ狀況ヲ巡回調査シ且精農者數名ノ意見ヲ徵シ調査區ニ於ケル水稻及陸稻ニ付早中晚別ニ且作柄ノ良否ニ應シ數個ノ等級ニ分チ一段歩當ノ豫想收穫高ヲ決定シ之ヲ作付段別ヨリ無收穫見込段別ヲ控除シタル各該當ノ段別ニ乘スヘシ

二、第一回豫想收穫高ニ比シ增減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

三、氣候ノ適否、用水ノ過不足、施肥ノ多少、發育ノ經過及病蟲害、風水害等ノ有無ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第五 米

大正何年 報告期翌年一月二十日限

		作付段別	收穫高(玄米)	價額	一段歩收穫高	單價
水稻	粳米	段	石	圓	合	錢
	糯米					
	計					
陸稻	粳米					
	糯米					
	計					
合計						
備考						

(注意)

一、水稻及陸稻ノ粳米糯米別作付段別ハ統計樣式第三米第一回豫想收穫高表ト共ニ報告スヘキ作付段別調査ノ際調査シ置クカ又ハ右ノ方法ニ準シ水稻及陸稻ニ付各糯米作付段別ノミヲ調査シ之ヲ第一回豫想收穫高報告ノ際報告シタル水稻及陸稻ノ各作付段別ヨリ控除シタルモノヲ以テ夫々水稻及陸稻ノ粳米作付段別トスヘシ

第一回豫想收穫高報告ノ際報告シタル段別ニ誤謬アリタルトキハ之ヲ訂正シ其ノ旨備考欄ニ記載スヘシ

二、收穫高ノ調査ハ農作者ニ對スル訊問又ハ農作者ノ申告ニ依ラシムルヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ調査員ニ於テ實際ノ狀況ヲ巡回調査シ且精農者數名ノ意見ヲ徵シ尙必要ニ應シ參考ノ爲標準ト認ムヘキ箇所ニ付坪刈ヲ行ヒ調査區ニ於ケル水稻及陸稻ニ付粳米糯米別及早中晚別ニ且作柄ノ良否ニ應シ數個ノ等級ニ分チ一段歩當ノ收穫高ヲ決定シ之ヲ作付段別ヨリ無收穫段別ヲ控除シタル各該當ノ段別ニ乘シテ算出スル等各市町村ノ情況ニ依リ最モ正確ナル數字ヲ得ヘキ方法ヲ選フヘシ

三、一段歩收穫高ハ無收穫段別ヲ控除セサル作付段別ヲ以テ收穫高ヲ除シタルモノトス

四、第二回豫想收穫高及前年收穫高ニ比シ增減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

五、氣候ノ適否、用水ノ過不足、施肥ノ多少、發育ノ經過及病蟲害、風水害等ノ有無ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第六 麥豫想收穫高

大正何年五月二十日現在 報告期五月限

		作付段別	豫想收穫高	前年收穫高	前年收穫高ニ比シ增減
大麥	田	段	石	石	石
	畑				
	計				
裸麥	田				
	畑				
	計				
小麥	田				
	畑				
	計				
備考					

（注意）

一、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟及長野ノ八縣ハ六月十日現在ヲ、北海道ハ七月一日現在ヲ調査シ各調査期日後十日限報告スヘシ

二、作付段別ノ調査ニ付テハ左ノ規定ニ依ルヘシ

（イ）農作者ニ對スル訊問又ハ農作者ノ申告其ノ他適當ト認ムル方法ニ依リ作付後適當ノ時期ニ於テ調査スヘシ

（ロ）土地臺帳面ノ地目面積ノ如何ニ拘ラス實際作付ヲ爲シタル地ノ段別ヲ調査スヘシ

（ハ）病蟲害、風水害等ノ爲收穫皆無ト爲ルヘキ見込ノ地ト雖作付ヲ爲シタルモノハ總テ其ノ段別ヲ調査スヘシ

三、豫想收穫高ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ調査スヘシ

調査員ニ於テ實際ノ狀況ヲ巡回調査シ且精農者數名ノ意見ヲ徴シ調査區ニ於ケル田畑各別ニ作柄ノ良否ニ應シ數個ノ等級ニ分チ一段歩當ノ豫想收穫高ヲ決定シ之ヲ作付段別ヨリ無收穫見込段別ヲ控除シタル各該當ノ段別ニ乘スヘシ

四、前年收穫高ニ比シ增減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

五、氣候ノ適否、施肥ノ多少、發育ノ經過及病蟲害、風水害等ノ有無ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第七　麥

大正何年　報告期其ノ年八月限

		作付段別	收穫高	一段歩收穫高	價額	單價
大麥	田	段	石	合	圓	錢
	畑					
	計					
裸麥	田					
	畑					
	計					
小麥	田					
	畑					
	計					
燕麥	田					
	畑					
	計					
備考						

（注意）

一、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟及長野ノ八縣ハ九月限、北海道ハ十月限報告スヘシ

二、大麥、裸麥及小麥ノ作付段別ハ改メテ之ヲ調査スルコトヲ要セス豫想收穫高報告ノ際報告シタル段別ヲ揭クヘシ但シ豫想收穫高報告ノ際報告シタル段別ニ付誤謬アリタルトキハ之ヲ訂正シ其ノ旨備考欄ニ記載スヘシ

燕麥ノ作付段別ハ統計樣式第六麥豫想收穫高注意第二號ノ定ムル所ニ準シ之ヲ調査スヘシ

三、收穫高ノ調査ハ農作者ニ對スル訊問又ハ農作者ノ申告ニ依ラシムルヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ調査員ニ於テ實際ノ狀況ヲ巡回調査シ且精農者數名ノ意見ヲ徴シ尚必要ニ應シ參考ノ爲標準ト認ムヘキ箇所ニ付坪刈ヲ行ヒ調査區ニ於ケル田畑各別ニ作柄ノ良否ニ應シ數個ノ等級ニ分チ一段歩當ノ收穫高ヲ決定シ之ヲ作付段別ヨリ無收穫段別ヲ控除シタル各該當ノ段別ニ乘シテ算出スル等各市町村ノ情況ニ依リ最モ正確ナル數字ヲ得ヘキ方法ヲ選フヘシ

四、一段歩收穫高ハ無收穫段別ヲ控除セサル作付段別ヲ以テ收穫高ヲ除シタルモノトス

五、豫想收穫高及前年收穫高ニ比シ增減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

六、氣候ノ適否、施肥ノ多少、發育ノ經過及病蟲害、風水害等ノ有無ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第八　食用農産物

大正何年　報告期翌年二月限

	作付段別	收穫高	價額	一段歩收穫高	單價
大豆	段	石	圓	合	錢
小豆					
アワ					
ヒエ					
キビ					
トウモロコシ					
ソバ					
サツマイモ（甘藷）		貫		貫	
サツマイモ切干	—			—	
ジャガイモ（馬鈴薯）					
計		—		—	—
備考					

（注意）

一、收穫ノ目的ヲ以テ栽培ヲ爲シタルモノヽミ調査スヘシ

二、作付段別ノ調査ニ付テハ左ノ規定ニ依ルヘシ

（イ）農作者ニ對スル訊問又ハ農作者ノ申告其ノ他適當ト認ムル方法ニ依リ作付後適當ノ時期ニ於テ調査スヘシ

（ロ）土地臺帳面ノ地目面積ノ如何ニ拘ラス實際作付ヲ爲シタル地ノ段別ヲ調査スヘシ

（ハ）病蟲害、風水害等ノ爲收穫皆無ノ地ト雖作付ヲ爲シタルモノハ總テ其ノ段別ヲ調査スヘシ

（ニ）年內ニ於テ同一ノ地ニ同一ノ作物ヲ數回栽培シタル場合ニ於テハ各期ノ作付段別ハ之ヲ合算スヘシ

（ホ）混作又ハ間作ハ相互ニ影響ヲ受ケタル限度ニ於テ各其ノ作付段別ヲ見積リ、畦畔其ノ他畑以外ニ作付ヲ爲シタルモノハ附近ノ畑段別ニ準シ其ノ段別ヲ見積ルヘシ

三、未成熟ノ儘採取シタルモノハ成熟シタル時ノ數量ニ之ヲ見積リ其ノ價額ハ採取當時ニ於ケル價額ニ依ルヘシ

四、一段歩收穫高ハ無收穫段別ヲ控除セサル作付段別ヲ以テ收穫高ヲ除シタルモノトス

五、サツマイモニハサツマイモ切干ト爲ス原料芋ヲモ含メ調査スヘシ

第九　園藝農産物

果實ノ一

自其ノ年二月至翌年一月　報告期翌年三月限

	樹數	收穫高	價額	單價
ミカン	本	貫	圓	錢
備考				

果實ノ二

自前年八月至其ノ年七月　報告期其ノ年九月限

	樹數	收穫高	價額	單價
ネーブルオレンジ	本	貫	圓	錢
ナツミカン				
其ノ他ノ柑橘類（ミカンヲ除ク）				
計	—	—		—
備考				

果實ノ三

大正何年　報告期其ノ年十一月限

	樹數	收穫高	價額	單價
ウメ	本	石	圓	錢
モモ		貫		
オウトウ（櫻桃）				
ビワ				
計	—	—		—
備考				

果實ノ四

大正何年　報告期翌年二月限

		樹數	收穫高	價額	單價
梨	日本梨	本	貫	圓	錢
	西洋梨				
リンゴ					
生柿					
干柿		—			
ブドウ					
計		—	—		—
備考					

蔬菜及花卉ノ一

大正何年　報告期其ノ年十月限

	作付段別	收穫高	價額	一段歩收穫高	單價
エンドウ	段	石	圓	合	錢
ソラマメ					
計		—		—	—
備考					

蔬菜及花卉ノ二

大正何年　報告期其ノ年十二月限

	作付段別	收穫高	價額	一段歩收穫高	單價
インゲンマメ	段	石	圓	合	錢
キウリ		貫		貫	
シロウリ					
カボチャ					

スイカ					
マクワウリ					
ナス					
トマト					
ハナユリ(花百合)		個		個	
計		—		—	—
備考					

蔬菜及花卉ノ三

大正何年　報告期翌年四月限

	作付段別	收穫高	價額	一段歩收穫高	單價
生大根	段	貫	圓	貫	錢
切干大根	—			—	
カブラ					
ニンジン					
ゴボウ					
サトイモ(里芋)					
レンコン					
ネギ					
タマネギ					
キヤベーツ					
ツケナ(漬菜)					
ラクカセイ(落花生)		莢ノ儘計算スヘシ 斤		斤	
計		—		—	—
備考					

（注意）

一、收穫ノ目的ヲ以テ栽培ヲ爲シタルモノノミヲ調査スヘシ

二、生柿ハ食用タルト澁用タルトヲ問ハス之ヲ調査スヘシ

三、生柿ニハ干柿ト爲ス原料ヲモ含メ生大根ニハ切干大根ト爲ス原料ヲモ含メ調査ス

ヘシ

四、果實ノ樹數ハ結實ノ年齡ニ達シタルモノニ付收穫期ニ於ケル現在樹數ヲ調査スヘシ但シ收穫皆無ノモノト雖總テ之ヲ調査スヘシ

五、作付段別ノ調査ニ付テハ左ノ規定ニ依ルヘシ

（イ）農作者ニ對スル訊問又ハ農作者ノ申告其ノ他適當ト認ムル方法ニ依リ作付後適當ノ時期ニ於テ調査スヘシ

（ロ）土地臺帳面ノ地目面積ノ如何ニ拘ラス實際作付ヲ爲シタル地ノ段別ヲ調査スヘシ

（ハ）病蟲害、風水害等ノ爲收穫皆無ノ地ト雖作付ヲ爲シタルモノハ總テ其ノ段別ヲ調査スヘシ

（ニ）年內ニ於テ同一ノ地ニ同一ノ作物ヲ數回栽培シタル場合ニ於テハ各期ノ作付段別ハ之ヲ合算スヘシ

（ホ）混作又ハ間作ハ相互ニ影響ヲ受ケタル限度ニ於テ各其ノ作付段別ヲ見積リ、畦畔其ノ他畑以外ニ作付ヲ爲シタルモノハ附近ノ畑段別ニ準シ其ノ段別ヲ見積ルヘシ

六、未成熟ノ儘採取シタルモノハ成熟シタル時ノ數量ニ之ヲ見積リ其ノ價額ハ採取當時ニ於ケル價格ニ依ルヘシ

七、一段歩收穫高ハ無收穫段別ヲ控除セサル作付段別ヲ以テ收穫高ヲ除シタルモノトス

第一〇　工藝農産物

其ノ一

自前年三月至其ノ年二月　報告期其ノ年五月限

	作付段別	收穫高	價額	一段歩收穫高	單價
コウゾ(楮)	段	皮ヲ乾燥シタルモノ 貫	圓	貫	錢
ミツマタ(三椏)		皮ヲ乾燥シタルモノ			
計		—		—	—
備考					

其ノ二

大正何年　報告期其ノ年十一月限

	作付段別	收穫高	價額	一段歩收穫高	單價
ナタネ	段	石	圓	合	錢
ゴマ					
タイマ(大麻)		皮ヲ乾燥シタルモノ(直チニ製麻トナスモノハ皮麻ニ見積リ計上スヘシ) 貫			
ラミー(苧麻)		製麻ヲ記入スヘシ			
アマ(亞麻)		莖ヲ乾燥シタルモノ			
アマ種子	—	斤		—	
イチビ(黃麻)		皮ヲ乾燥シタルモノ 貫			
ヰ(備後藺、其ノ他ノ丸藺)		乾燥シタルモノ			
シチトウヰ(七島藺)		乾燥シタルモノ			
ヘチマ		皮肉ヲ去リ乾燥シタルモノ(食用ヲ除ク) 個		個	
ハアイ(葉藍)		乾燥シタルモノ 貫		貫	
ジヨチユウキク(除蟲菊)		花ヲ乾燥シタルモノ			
計		—		—	—
備考					

其ノ三

大正何年　報告期翌年二月限

	作付段別	收穫高	價格	一段歩收穫高	單價
コンニヤク芋	段	生ノモノ 貫	圓	貫	錢
ミワタ(實棉)		乾燥シタルモノ			
コリヤナギ(杞柳)		乾燥シタルモノ			
ハクカ(薄荷)		乾燥シタルモノ			
ヤクヨウニンジン		乾燥シタルモノ			
ハゼ(櫨)					
計		—		—	—
備考					

（注意）

一、收穫ノ目的ヲ以テ栽培ヲ爲シタルモノノミヲ調査スヘシ

二、作付段別ノ調査ニ付テハ左ノ規定ニ依ルヘシ

（イ）農作者ニ對スル訊問又ハ農作者ノ申告其ノ他適當ト認ムル方法ニ依リ作付後適當ノ時期ニ於テ調査スヘシ

（ロ）土地臺帳面ノ地目面積ノ如何ニ拘ラス實際作付ヲ爲シタル地ノ段別ヲ調査スヘシ

（ハ）病蟲害、風水害等ノ爲收穫皆無ノ地ト雖作付ヲ爲シタルモノハ總テ其ノ段別ヲ調査スヘシ

（ニ）年內ニ於テ同一ノ地ニ同一ノ作物ヲ數回栽培シタル場合ニ於テハ各期ノ作付段別ハ之ヲ合算スヘシ

（ホ）コウゾ、ミツマタ、コリヤナギ及ハゼノ作付段別ニ付テハ其ノ收穫期ニ於ケル現在段別ヲ調査スヘシ但シ收穫皆無ノ地ト雖總テ之ヲ調査スヘシ

（ヘ）混作又ハ間作ハ相互ニ影響ヲ受ケタル限度ニ於テ各其ノ作付段別ヲ見積リ、畦畔其ノ他畑以外ニ作付ヲ爲シタルモノハ附近ノ畑段別ニ準シ其ノ段別ヲ見積ルヘシ

三、一段歩收穫高ハ無收穫段別ヲ控除セサル作付段別ヲ以テ收穫高ヲ除シタルモノトス

第一一　綠肥用作物

大正何年　報告期其ノ年九月限

	作付段別			收穫高			價額
	田	畑	計	田	畑	計	
レンゲ	段	段	段	貫	貫	貫	圓
モクシユク(苜蓿)							
ソラマメ・エンドウ							
靑刈大豆							
其ノ他							
計							
備考							

（注意）

一、綠肥ノ目的ヲ以テ栽培ヲ爲シタルモノノミヲ調査スヘシ

二、作付段別ノ調査ニ付テハ左ノ規定ニ依ルヘシ

（イ）農作者ニ對スル訊問又ハ農作者ノ申告其ノ他適當ト認ムル方法ニ依リ作付後適當ノ時期ニ於テ調査スヘシ

（ロ）土地臺帳面ノ地目面積ノ如何ニ拘ラス實際作付ヲ爲シタル地ノ段別ヲ調査スヘシ

（ハ）病蟲害、風水害等ノ爲收穫皆無ノ地ト雖作付ヲ爲シタルモノハ總テ其ノ段別ヲ調査スヘシ

（ニ）混作又ハ間作ハ相互ニ影響ヲ受ケタル限度ニ於テ各其ノ作付段別ヲ見積リ、畦畔其ノ他畑以外ニ作付ヲ爲シタルモノハ附近ノ畑段別ニ準シ其ノ段別ヲ見積ルヘシ

三、收穫高ハ秋蒔春蒔タルヲ問ハス總テ收穫期ニ於ケル生草ノ數量ヲ記載スヘシ

第一二　果樹苗

自前年七月至其ノ年六月　報告期其ノ年八月限

	生産戸數	數量（本）	價額（圓）	百本當價格（錢）
桃苗				
梨苗				
リンゴ苗				
柿苗				
カンキツ（柑橘）苗				
ブドウ苗				
其ノ他ノ果樹苗				―
計				―
備考				

（注意）

一、生産戸數ハ其ノ期間ニ於テ果樹苗ノ生産ニ從事シタル戸數ヲ記載スヘシ

二、苗木ハ移植シ又ハ移植ニ適スルモノトシテ配付若クハ販賣シタルモノヲ調査スヘシ

第一三　茶畑

大正何年六月末日現在　報告期其ノ年八月限

段別	畑（段）	其ノ他（段）	計（段）
備考			

（注意）

一、段別ハ土地臺帳面ノ地目面積ノ如何ニ拘ラス實際栽培ヲ爲シタル地ノ段別ヲ調査スヘシ

二、採葉ノ樹齡ニ達セサルモノト雖其ノ段別ヲ調査スヘシ

三、畑ノ欄ニハ茶ヲ主作物トスル畑ノ段別及混作間作セラレタルモノヲ附近ノ茶畑段別ニ準シ其ノ段別ヲ見積リ記載シ其ノ他ノ欄ニハ畦畔其ノ他畑以外ニ栽培セラレタルモノヲ附近ノ茶畑段別ニ準シ其ノ段別ヲ見積リ記載スヘシ

第一四　製茶

大正何年　報告期其ノ年十一月限

	製造戸數	數量（貫）	價額（圓）	單價（錢）
玉露				
煎茶				
番茶				
紅茶				
其ノ他				―
計				―
備考				

（注意）

一、製造戸數ハ其ノ季節ニ於テ製茶ニ從事シタル戸數ヲ記載スヘシ

二、玉露トハ覆ヲ掛ケタル畑ヨリ收メタル茶葉ヲ蒸熱シ之ヲ揉捻乾燥シテ製シタルモノヲ謂フ

三、煎茶トハ普通ノ茶葉ヲ蒸熱シ之ヲ揉捻乾燥シテ製シタルモノヲ謂フ

四、紅茶トハ普通ノ茶葉ヲ萎凋セシメ之ヲ揉捻醱酵セシメタル後乾燥シテ製シタルモノヲ謂フ

五、番茶トハ古葉莖枝等ヲ用ヰテ製シタルモノヲ謂フ

六、其ノ他ノ欄ニハ碾（ヒキ）茶、磚（ダム）茶、烏龍（ウーロン）茶、碁石茶等ヲ記載スヘシ

七、粉茶ハ各其ノ本茶ニ合算スヘシ

第一五　桑畑

大正何年六月末日現在　報告期其ノ年八月限

	段別			
	畑 本畑（段）	畑 其ノ他（段）	其ノ他（段）	計（段）
根刈				
中刈				
高刈				
立通				
計				
備考				

（注意）

一、根刈トハ地上一尺未滿ヲ、中刈トハ同一尺以上三尺未滿ヲ、高刈トハ同三尺以上ヲ主幹トシ枝條ヲ伐截スルモノヲ謂ヒ立通トハ一定ノ剪枝ヲ行ハサルモノヲ謂フ

二、段別ハ土地臺帳面ノ地目面積ノ如何ニ拘ラス實際栽培ヲ爲シタル地ノ段別ヲ調査スヘシ

三、採桑ノ樹齡ニ達セサルモノト雖其ノ段別ヲ調査スヘシ

四、畑ノ本畑欄ニハ桑ヲ主作物トスル畑ノ段別ヲ記載シ、畑ノ其ノ他ノ欄ニハ混作間作セラレタルモノヲ仕立方ニ依リ各其ノ附近ノ本畑段別ニ準シ其ノ段別ヲ見積リ記載シ、其ノ他ノ欄ニハ畦畔其ノ他畑以外ニ栽培ヲ爲シタルモノヲ仕立方ニ依リ各其ノ附近ノ本畑段別ニ準シ其ノ段別ヲ見積リ記載スヘシ

第一六　桑苗

自前年六月至其ノ年五月　報告期其ノ年七月限

	生産戸數	數量（本）	價額（圓）	百本當價額（錢）
實（ミ）生（シヨウ）				
接（ツギ）木（キ）				
代（シロ）出（ダシ）				
取（トリ）木（キ）				
其ノ他				
計				
備考				

（注意）

一、生産戸數ハ其ノ期間ニ於テ桑苗ノ生産ニ從事シタル戸數ヲ記載スヘシ

二、桑苗ハ苗トシテ養成濟ノモノノミヲ調査スヘシ

三、砧木（ダイキ）又ハ原苗トシテ使用セラルルモノハ調査ヲ要セス

四、代出（シロダシ）トハ根性化セル枝條ヲ原（モト）トシテ仕立タル苗ヲ謂フ

五、取木（トリキ）（傘取、橦木取（シユモクドリ）等）トハ枝條ノ一部ヲ土中ニ埋メ發根セシメタル後之ヲ株ヨリ切離シテ苗ト爲シタルモノヲ謂フ

第一七　春蠶豫想掃立枚數

大正何年四月末日現在　報告期五月十日限

	蠶種豫想掃立枚數	前年掃立枚數	前年掃立枚數ニ比シ増減	掃立時期 初	掃立時期 最盛	掃立時期 終
白繭種				月　日	月　日	月　日
黄繭種						
計						
備考						

（注意）

一、白繭種トハ白色又ハ笹色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂ヒ黄繭種トハ黄色、金黄色、紅色又ハ綠色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂フ

二、蠶種掃立枚數ハ框製、袋製又ハ平附ノ蠶種ニ在リテハ二十八蛾ヲ以テ一枚ニ換算シ散卵ニ在リテハ卵量二匁五分ヲ以テ一枚ニ換算スヘシ

三、前年掃立枚數ニ比シ増減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

四、掃立時期ノ初トハ其ノ地方ニ於テ概シテ掃立ヲ初ムル時期ヲ謂ヒ最盛トハ大部分掃立ヲ行フ時期ヲ謂ヒ終トハ概シテ掃立ヲ終ル時期ヲ謂フ

第一八　春蠶豫想收繭高

大正何年五月末日現在　報告期六月十日限

	豫想收繭高（生繭）（貫）	前年收繭高（貫）	前年收繭高ニ比シ増減（貫）
白繭種			
黄繭種			
計			
備考			

（注意）

一、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野及岐阜ノ一府十三縣ハ六月十五日現在ヲ、北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形及福島ノ一道六縣ハ六月末日現在ヲ調査シ各調査期日後十日限報告スヘシ

二、白繭種トハ白色又ハ笹色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂ヒ黄繭種トハ黄色、金黄色、紅色又ハ綠色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂フ

三、豫想收繭高ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ調査スヘシ

調査員ニ於テ實際ノ狀況ヲ巡回調査シ且當業者數名ノ意見ヲ徵シ調査區ニ於ケル蠶種一枚當ノ豫想收繭高ヲ決定シ之ヲ掃立枚數又ハ豫想掃立枚數ヨリ無收繭見込枚數ヲ控除シタルモノニ乘スヘシ

四、前年收繭高ニ比シ増減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

五、氣候ノ適否、飼育ノ經過及桑葉ノ過不足等ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第一九　春蠶

大正何年　報告期其ノ年八月限

	春蠶戸數	蠶種掃立枚數	白繭種 數量（貫）	白繭種 價額（圓）	白繭種 單價（錢）	黄繭種 數量（貫）	黄繭種 價額（圓）	黄繭種 單價（錢）	計 數量（貫）	計 價額（圓）
上繭（生繭）										
玉繭（生繭）										
屑繭（生繭）										
計					―			―		
備考										

（注意）

一、養蠶戶數ハ其ノ季節ニ於テ養蠶ニ從事シタル戶數ヲ記載スヘシ

二、白繭種トハ白色又ハ笹色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂ヒ黃繭種トハ黃色、金黃色、紅色又ハ綠色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂フ

三、蠶種掃立枚數ハ框製、袋製又ハ平附ノ蠶種ニ在リテハ二十八蛾ヲ以テ一枚ニ換算シ散卵ニ在リテハ卵量二匁五分ヲ以テ一枚ニ換算スヘシ

四、蠶種掃立枚數ハ中途投棄シタル蠶兒ニ係ルモノト雖總テ之ヲ調査スヘシ

五、上繭トハ普通ノ形態ヲ有シ且汚染セサル完全ナル繭ヲ謂ヒ玉繭トハ二以上ノ蠶兒ノ合同シテ營ミタル繭ヲ謂ヒ屑繭トハ上繭及玉繭以外ノ繭ヲ謂フ

六、收繭高ノ調査ハ飼育者ニ對スル訊問又ハ飼育者ノ申告ニ依ラシムルヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ調査員ニ於テ實際ノ狀況ヲ巡回調査シ且當業者數名ノ意見ヲ徵シ調査區ニ於ケル蠶種一枚當ノ收繭高ヲ決定シ之ヲ掃立枚數ヨリ無收繭枚數ヲ控除シタルモノニ乘シテ算出スル等各市町村ノ狀況ニ依リ最モ正確ナル數字ヲ得ヘキ方法ヲ選フヘシ

七、豫想收繭高及前年收繭高ニ比シ增減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

八、氣候ノ適否、飼育ノ經過及桑葉ノ過不足等ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第二〇　夏秋蠶豫想掃立枚數

大正何年九月一日現在　報告期九月十日限

	蠶種豫想掃立枚數	前年掃立枚數	前年掃立枚數ニ比シ增減	掃立時期 初	掃立時期 最盛	掃立時期 終
白繭種				月　日	月　日	月　日
黃繭種						
計						
備考						

（注意）

一、白繭種トハ白色又ハ笹色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂ヒ黃繭種トハ黃色、金黃色、紅色又ハ綠色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂フ

二、蠶種豫想掃立枚數ハ其ノ年ニ於テ掃立テラルヘキ夏秋蠶全部ニ通シテ之ヲ調査スヘシ

三、蠶種掃立枚數ハ框製袋製又ハ平附ノ蠶種ニ在リテハ二十八蛾ヲ以テ一枚ニ換算シ散卵ニ在リテハ卵量二匁五分ヲ以テ一枚ニ換算スヘシ

四、前年掃立枚數ニ比シ增減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

五、掃立時期ノ初トハ其ノ地方ニ於テ概シテ掃立ヲ初ムル時期ヲ謂ヒ最盛トハ大部分掃立ヲ行フ時期ヲ謂ヒ終トハ概シテ掃立ヲ終ル時期ヲ謂フ

第二一　夏秋蠶豫想收繭高

大正何年九月二十五日現在　報告期十月五日限

	豫想收繭高（生繭）	前年收繭高	前年收繭高ニ比シ增減
白繭種	貫	貫	貫
黃繭種			
計			
備考			

（注意）

一、白繭種トハ白色又ハ笹色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂ヒ黃繭種トハ黃色、金黃色、紅色又ハ綠色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂フ

二、豫想收繭高ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ調査スヘシ

調査員ニ於テ實際ノ狀況ヲ巡回調査シ且當業者數名ノ意見ヲ徵シ調査區ニ於ケル蠶種一枚當ノ豫想收繭高ヲ決定シ之ヲ掃立枚數又ハ豫想掃立枚數ヨリ無收繭見込枚數ヲ控除シタルモノニ乘スヘシ

三、前年收繭高ニ比シ增減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

四、氣候ノ適否、飼育ノ經過及桑樹ノ發育等ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第二二　夏秋蠶

大正何年　報告期其ノ年十二月限

	白繭種			黃繭種			計	
養蠶戶數								
內春蠶ヲモ飼育シタルモノ								
蠶種掃立枚數								
	數量	價額	單價	數量	價額	單價	數量	價額
上繭（生繭）	貫	圓	錢	貫	圓	錢	貫	圓
玉繭（生繭）								
屑繭（生繭）								
計			―			―		
備考								

（注意）

一、養蠶戶數ハ其ノ季節ニ於テ養蠶ニ從事シタル戶數ヲ記載スヘシ但シ其ノ季節ニ於テ數回飼育スルモ一戶トシテ之ヲ計算スヘシ

二、白繭種トハ白色又ハ笹色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂ヒ黃繭種トハ黃色、金黃色、紅色又ハ綠色ノ繭ヲ營ム蠶ノ種類ヲ謂フ

三、蠶種掃立枚數ハ框製、袋製又ハ平附ノ蠶種ニ在リテハ二十八蛾ヲ以テ一枚ニ換算シ散卵ニ在リテハ卵量二匁五分ヲ以テ一枚ニ換算スヘシ

四、蠶種掃立枚數ハ中途投棄シタル蠶兒ニ係ルモノト雖總テ之ヲ調査スヘシ

五、上繭トハ普通ノ形態ヲ有シ且汚染セサル完全ナル繭ヲ謂ヒ玉繭トハ二以上ノ蠶兒ノ合同シテ營ミタル繭ヲ謂ヒ屑繭トハ上繭及玉繭以外ノ繭ヲ謂フ

六、收繭高ノ調査ハ飼育者ニ對スル訊問又ハ飼育者ノ申告ニ依ラシムルヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ調査員ニ於テ實際ノ狀況ヲ巡回調査シ且當業者數名ノ意見ヲ徵シ調査區ニ於ケル蠶種一枚當リノ收繭高ヲ決定シ之ヲ掃立枚數ヨリ無收繭枚數ヲ控除シタルモノニ乘シテ算出スル等各市町村ノ狀況ニ依リ最モ正確ナル數字ヲ得ヘキ方法ヲ選フヘシ

七、豫想收繭高及前年收繭高ニ比シ增減ノ理由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

八、氣候ノ適否、飼育ノ經過及桑樹ノ發育等ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第二三　天蠶及柞蠶

大正何年　報告期其ノ年十二月限

	飼育戶數	飼育林段別	放養卵量	繭（生繭） 數量	繭（生繭） 價額	繭（生繭） 單價
天蠶			合	千粒	圓	錢
柞蠶 春						
柞蠶 秋						
柞蠶 計						
備考						

（注意）

一、飼育戶數ハ其ノ季節ニ於テ飼育ニ從事シタル戶數ヲ記載スヘシ但シ天蠶ト柞蠶トヲ併セ飼育シ又ハ柞蠶ヲ春秋二回飼育スルモ一戶トシテ之ヲ計算スヘシ

二、同一ノ飼育林ニ於テ天蠶及柞蠶ヲ飼育シ又ハ柞蠶ヲ春秋二回飼育スルモ其ノ段別ハ重複セサル樣之ヲ計算スヘシ

第二四　蠶絲類

大正何年　報告期翌年二月限

	器械絲						座繰絲					玉絲					計				
	製絲場數	繰絲釜數	緒數	職工數 男	職工數 女	職工數 計	製絲場數	繰絲釜數	職工數 男	職工數 女	職工數 計	製絲場數	繰絲釜數	職工數 男	職工數 女	職工數 計	製絲場數	繰絲釜數	職工數 男	職工數 女	職工數 計
十釜未滿																					
十釜以上五十釜未滿																					
五十釜以上百釜未滿																					
百釜以上三百釜未滿																					
三百釜以上五百釜未滿																					
五百釜以上千釜未滿																					
千釜以上																					
計																					

	數量	價額	單價	數量	價額	單價	數量	價額	單價	數量	價額
生絲 白絲	貫	圓	錢	貫	圓	錢	貫	圓	錢	貫	圓
生絲 黃絲											
生絲 計			―			―			―		
屑物 熨斗絲（ノシイト）											
屑物 生皮苧（キビツ）											
屑物 其ノ他											
屑物 計			―			―			―		
合計	―		―	―		―	―		―	―	
備考											

（注意）

一、自家用ハ調査ヲ要セス

二、製絲場數ハ其ノ年ニ於テ作業ヲ爲シタル場數ヲ記載スヘシ

三、繰絲釜數ハ其ノ年ニ於テ使用シタル釜數ヲ記載スヘシ

四、數人共通ノ繰絲湯ヲ用フル設備ニ依リ繰絲スルモノニ在リテハ繰絲者一人分ヲ一釜トシテ計算スヘシ

五、緒數ハ其ノ年ニ於テ使用シタル釜ノ總緒數ヲ記載スヘシ

六、職工數ニハ事業主及家族タルト被傭者タルトヲ問ハス製絲事業ノ本體タル作業ニ付勞働ニ從事シ又ハ直接之ヲ助成スル爲勞働ニ從事スル者ヲ調査シ其ノ年中通常ノ作業狀態ニ於ケル數ヲ記載スヘシ

七、器械製絲場、座繰製絲場又ハ玉絲製絲場ニシテ他ノ一方ノ作業ヲ兼ヌルモノハ場數、繰絲釜數及職工數ニ付テハ主ナル一方ニ之ヲ記載シ數量及價額ニ付テハ之ヲ區別シテ各相當欄ニ記載スヘシ

八、器械絲トハ繰枠ノ回轉、繰絲湯ノ給熱、用水ノ供給等ヲ悉ク機械的作用ニ依リテ任意ニ使用シ得ラルル裝置ニ依リ單繭ヨリ繰絲シテ爲シタルモノヲ謂ヒ座繰絲トハ個々分立スル簡單ナル製絲器ヲ用ヒ手ニテ繰枠ヲ回轉スルカ又ハ足踏器ヲ用ヒ足ニテ繰枠ヲ回轉シ單繭ヨリ繰絲ヲ爲シタルモノヲ謂ヒ玉絲トハ玉繭ヨリ繰絲ヲ爲シタルモノヲ謂フ

九、生皮苧（キビツ）トハ繰絲ニ際シ繭ヨリ手繰リ取リタル緒絲ヲ謂ヒ、熨斗絲トハ生皮苧ヲ引延シタルモノヲ謂フ

一〇、其ノ他ノ欄ニハ揚繭、蛹襯（サナギハダ）等ヲ記載スヘシ

第二五　眞綿

大正何年　報告期翌年二月限

	製造場數	數量	價額	單價
眞綿		貫	圓	錢
備考				

（注意）
一、自家用ハ調査ヲ要セス
二、製造場數ハ其ノ年ニ於テ作業ヲ爲シタル場數ヲ記載スヘシ

第二六　天蠶絲及柞蠶絲

大正何年　報告期翌年二月限

	製絲場數	繰絲釜數	職工數		
			男	女	計
十釜未滿					
十釜以上					
計					

		生絲	屑物			合計	備考
			生皮苧	其ノ他	計		
天蠶絲	數量	貫					
	價額	圓					
	單價	錢					
柞蠶絲	數量	貫					
	價額	圓					
	單價	錢					

（注意）
一、自家用ハ調査ヲ要セス
二、製絲場數ハ其ノ年ニ於テ作業ヲ爲シタル場數ヲ記載スヘシ但シ天蠶繭ト柞蠶繭トヲ併セ繰絲スルモ一場トシテ之ヲ計算スヘシ
三、繰絲釜數ハ其ノ年ニ使用シタル釜數ヲ記載スヘシ但シ同一ノ釜ヲ天蠶繭及柞蠶繭ノ繰絲ニ使用スルモ其ノ釜數ハ重複セサル樣之ヲ計算スヘシ
四、數人共通ノ繰絲湯ヲ用フル設備ニヨリ繰絲スルモノニ在リテハ繰絲者一人分ヲ一釜トシテ計算スヘシ
五、職工數ニハ事業主及家族タルト被傭者タルトヲ問ハス製絲事業ノ本體タル作業ニ付勞働ニ從事シ又ハ直接之ヲ助成スル爲勞働ニ從事スル者ヲ調査シ其ノ年中通常ノ作業狀態ニ於ケル數ヲ記載スヘシ
六、生皮苧トハ繰絲ニ際シ繭ヨリ手繰リ取リタル緒絲ヲ謂フ
七、其ノ他ノ欄ニハ揚繭、蛹、襭等ヲ記載スヘシ

第二七　蠶網

大正何年　報告期翌年四月限

製造戸數（年末現在）

	藺製	絲製	藁製	計	備考
數量	枚	反	枚		
價額	圓				
單價	錢				

第二八　藁製品

大正何年　報告期翌年四月限

製造戸數（年末現在）

	莚（皆川莚ヲ含ム）	縄類	叺及俵	マブシ（簇）	其ノ他	計	備考
價額	圓						

（注意）
一、自家用ハ調査ヲ要セス

第二九　牛

大正何年　報告期翌年三月限

飼養戸數（年末現在）	
一頭	
二頭	
三頭又ハ四頭	
五頭以上	
計	

			牝	牡	計	備考
年末現在	滿二年以上		頭			
	滿一年以上滿二年未滿		頭			
	滿一年未滿	頭數	頭			
		價額	圓			
		一頭當價額	錢			
	頭數計		頭			
年内移動	生産		頭			
	斃死	滿二年以上	頭			
		滿一年以上滿二年未滿	頭			
		滿一年未滿	頭			
		計	頭			

（注意）
一、官有ノモノヲ除キ總テ調査スヘシ
二、乳牛ヲモ調査スヘシ
三、牡ノ去勢シタルモノハ牡ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ
四、年内ニ産レ且死亡シタルモノハ生産ノ欄ト斃死ノ欄トノ雙方ニ之ヲ記載スヘシ
五、斃死ノ欄ニハ家畜傳染病等ノ爲殺シタルモノヲモ記載スヘシ但シ屠殺シタルモノハ之ヲ算入スヘカラス

第三〇　牛乳

大正何年　報告期翌年三月限

	搾乳場數（年末現在）	乳牛頭數		搾乳高		
		年末現在	年內斃死	數量	價額	單價
搾乳業者		頭		石	圓	錢
農家其ノ他		頭		石	圓	錢
計		頭		石	圓	
備考						

（注意）
一、自家用ハ調査ヲ要セス
二、搾乳業者トハ明治三十三年内務省令第十五號牛乳營業取締規則ニ依ル牛乳營業者ヲ謂フ但シ畜産組合産業組合等ニシテ牛乳ノ搾取販賣ヲ爲ス者ハ農家其ノ他ノ欄ニ記載スヘシ
三、乳牛トハ年内ニ搾乳シタル牛ヲ謂フ

第三一　馬

大正何年　報告期翌年三月限

飼養戸數（年末現在）	
一頭	
二頭	
三頭又ハ四頭	
五頭以上	
計	

			和種			雜種			洋種			計			備考
			牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計	
年末現在	明四歳以上		頭												
	明三歳		頭												
	明二歳		頭												
	當歳		頭												
	計		頭												
年内移動	生産		頭												
	斃死	明四歳以上	頭												
		明三歳	頭												
		明二歳	頭												
		當歳	頭												
		計	頭												

（注意）
一、官有ノモノヲ除キ總テ調査スヘシ
二、和種トハ内地産ニシテ洋種ノ血液ヲ混セサルモノヲ謂フ但シ朝鮮及支那在來種等和種以外ノ東洋産ハ和種ノ中ニ之ヲ算入シ其ノ旨備考欄ニ記載スヘシ
三、雜種トハ和種ト洋種トノ血液相混シタルモノヲ謂フ
四、洋種トハ外國種ノ總稱ニシテ外國種間ノ雜種ヲモ含ム
五、牡ノ去勢シタルモノハ牡ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ
六、年内ニ産レ且死亡シタルモノハ生産ノ欄ト斃死ノ欄トノ雙方ニ之ヲ記載スヘシ
七、斃死ノ欄ニハ家畜傳染病等ノ爲殺シタルモノヲモ記載スヘシ但シ屠殺シタルモノハ之ヲ算入スヘカラス

第三二　豚

大正何年　報告期翌年三月限

飼養戸數（年末現在） 一頭	二頭	三頭又ハ四頭	五頭以上	計

	年末現在 滿十箇月以上	滿十箇月未滿 頭數	價額	一頭當價格	頭數計	年內移動 生産	斃死 滿十箇月以上	滿十箇月未滿	計
牝	頭	頭	圓	錢	頭	頭	頭	頭	頭
牡									
計									
備考									

（注意）

一、官有ノモノヲ除キ總テ調査スヘシ

二、牡ノ去勢シタルモノハ牡ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ

三、年內ニ産レ且ツ死亡シタルモノハ生産ノ欄ト斃死ノ欄トノ雙方ニ之ヲ記載スヘシ

四、斃死ノ欄ニハ家畜傳染病等ノ爲殺シタルモノヲモ記載スヘシ但シ屠殺シタルモノハ算入スヘカラス

第三三　緬羊

大正何年　報告期翌年三月限

飼養戸數（年末現在） 一頭	二頭	三頭又ハ四頭	五頭以上	計

	年末現在 滿一年以上	滿一年未滿 頭數	價額	一頭當價格	頭數計	年內移動 生産	斃死 滿一年以上	滿一年未滿	計
牝	頭	頭	圓	錢	頭	頭	頭	頭	頭
牡									
計									
備考									

（注意）

一、官有ノモノヲ除キ總テ調査スヘシ

二、牡ノ去勢シタルモノハ牡ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ

三、年內ニ産シ且死亡シタルモノハ生産ノ欄ト斃死ノ欄トノ雙方ニ之ヲ記載スヘシ

四、斃死ノ欄ニハ家畜傳染病等ノ爲殺シタルモノヲモ記載スヘシ但シ屠殺シタルモノハ之ヲ算入スヘカラス

第三四　山羊

大正何年　報告期翌年三月限

飼養戸數（年末現在） 一頭	二頭	三頭又ハ四頭	五頭以上	計

	年末現在 滿一年以上	滿一年未滿 頭數	價額	一頭當價格	頭數計	年內移動 生産	斃死 滿一年以上	滿一年未滿	計
牝	頭	頭	圓	錢	頭	頭	頭	頭	頭
牡									
計									
備考									

（注意）

一、官有ノモノヲ除キ總テ調査スヘシ

二、牡ノ去勢シタルモノハ牡ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ

三、年內ニ産レ且死亡シタルモノハ生産ノ欄ト斃死ノ欄トノ雙方ニ之ヲ記載スヘシ

四、斃死ノ欄ニハ家畜傳染病等ノ爲殺シタルモノヲモ記載スヘシ但シ屠殺シタルモノハ之ヲ算入スヘカラス

第三五　鷄

大正何年六月末日現在　報告期其ノ年八月限

飼養戸數 十羽未滿	十羽以上五十羽未滿	五十羽以上	計

	數量	價額	單價
成鷄　雌	羽	圓	錢
雄			
計			
雛			
合計			
産卵（自前年七月至其ノ年六月）	個		
備考			

（注意）

一、成鷄トハ孵化後滿六箇月以上ノモノヲ謂ヒ雛トハ孵化後滿六箇月未滿ノモノヲ謂フ

第三六　鶩

大正何年六月末日現在　報告期其ノ年八月限

飼養戸數 十羽未滿	十羽以上五十羽未滿	五十羽以上	計

	數量	價額	單價
成鶩　雌	羽	圓	錢
雄			
計			
雛			
合計			
産卵（自前年七月至其ノ年六月）	個		
備考			

（注意）

一、成鶩トハ孵化後滿六箇月以上ノモノヲ謂ヒ雛トハ孵化後滿六箇月未滿ノモノヲ謂フ

第三七　蜜蜂

大正何年　報告期翌年二月限

飼養戸數（年末現在） 十箱未滿	十箱以上五十箱未滿	五十箱以上	計

箱數（年末現在） 內國種	外國種	計

	數量	價額	單價
蜂蜜	貫	圓	錢
蜜蠟			
計			
備考			

（注意）

一、內國種ニハ內地種ノ外ニ朝鮮種、臺灣種及之等ノ雜種ヲモ含ム

二、外國種ニハ外國種間ノ雜種ヲモ含ム

第三八　屠殺

大正何年　報告期翌年三月限

屠場數（年末現在）

	頭數 牝	牡	計	肉量 牝 數量	價額	單價	牡 數量	價額	單價	計 數量	價額
成牛				貫	圓	錢	貫	圓	錢	貫	圓
犢											
馬											
豚											
緬羊											
山羊											
計											

備考

（注意）

一、數量及價額ハ内臟及毛皮ヲ除キタルモノニシテ且檢査濟食用ニ適スルモノヲ調査スヘシ

二、成牛トハ生後滿一年以上ノモノヲ謂ヒ犢トハ生後滿一年未滿ノモノヲ謂フ

第三九　乳肉製品及罐詰

大正何年　報告期翌年四月限

	乳製品							
	製造場數	煉乳	粉乳	バター	人造バター	チーズ	其ノ他	計
數量		斤						
價額		圓						
單價		錢						

	肉製品				
	製造場數	ハム	ベーコン	其ノ他	計
數量		斤			
價額		圓			
單價		錢			

	罐詰																		
	製造場數	牛肉	豚肉	其ノ他ノ獸鳥肉	サケ	マス	カニ	イワシ	サバ	カツヲ	クヂラ	アハビ	サヾエ	カマボコ	果實	蔬菜	其ノ他	計	備考
數量		貫																	
價額		圓																	
單價		錢																	

（注意）

一、自家用ハ調査ヲ要セス

二、製造場數ハ其ノ年ニ於テ作業ヲ爲シタル場數ヲ記載スヘシ

三、乳製品、肉製品又ハ罐詰ノ製造場ニシテ他ノ一方ノ作業ヲ兼ヌル場合ニ於テモ場數ハ各別ニ之ヲ計上スヘシ

四、人造バタートハ乳脂以外ノ動植物脂肪ニ若干ノ乳脂ヲ混シ又ハ之ヲ混セスシテ製造シ其ノ外觀恰モバター狀ヲ呈スルモノヲ謂フ

五、乳製品ノ其ノ他ニハヨーグルト(Yoghurt)ケフヰール(Kephir)等ヲ、肉製品ノ其ノ他ニハソーセージ(Sausage)ショルダー(Soulder)等ヲ記載スヘシ

六、數量ハ罐又ハ容器ノ目方ノミヲ除キ内容ノ重量ニ依ルヘシ

第四〇　水產業者

大正何年末現在　報告期翌年三月限

		本業			副業			計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
漁撈	業主									
	被用者									
養殖	業主									
	被用者									
製造	業主									
	被用者									
計	業主									
	被用者									
備考										

（注意）

一、水產業者トハ業主又ハ十五歲以上ノ被用者ニシテ實際漁撈製造又ハ養殖ニ從事スルモノヲ謂フ

二、業主トハ業務ヲ主宰經營スル者ヲ謂ヒ被用者トハ業主ノ下ニ在リテ事務技術又ハ單ニ勞務ニ從事スル者ヲ謂フ

三、本業トハ主トシテ漁撈製造又ハ養殖ニ依リ生計ヲ營ムモノヲ謂ヒ副業トハ他ノ職業ヲ本業トスル者カ傍ラ漁撈、製造又ハ養殖ニ從事スルモノヲ謂フ

四、二種以上兼營ノ者ハ主タル一方ニ記載スヘシ

第四一　漁船

大正何年　報告期翌年三月限

	動力ヲ有セサル漁船				
	五噸未滿（五十石未滿）	五噸以上十噸未滿（五十石以上百石未滿）	十噸以上二十噸未滿（百石以上二百石未滿）	二十噸以上（二百石以上）	計
年末現在船數	隻				
新造船數	隻				
廢用船數	隻				

	動力ヲ有スル漁船												
	蒸汽機關ヲ有スルモノ				發動機ヲ有スルモノ						合計	總計	備考
	五十噸未滿	五十噸以上百噸未滿	百噸以上	計	五噸未滿	五噸以上十噸未滿	十噸以上二十噸未滿	二十噸以上五十噸未滿	五十噸以上	計			
年末現在船數													
新造船數													
廢用船數													

（注意）

一、本表ハ船籍所在地ノ市町村ニ於テ之ヲ調査スヘシ

二、漁船トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ヲ謂フ

(イ)漁業ニ從事スルコトヲ目的トスル船舶

(ロ)漁場ニ於テ自己ノ漁獲物ノ處理製造ニ從事スルコトヲ目的トスル船舶

(ハ)漁場ヨリ自己ノ漁獲物又ハ其ノ製品ヲ運搬スルコトヲ目的トスル船舶

三、動力ヲ有スル漁船トハ主タルト補助タルトヲ問ハス動力ニ依リテ航走スルモノヲ謂フ

四、發動機ヲ有スルモノノ欄ニハ蒸汽以外ノ動力ヲ有スル漁船ヲ記載スヘシ

五、噸數ハ總噸數ニ依リテ區別スヘシ

六、新造船トハ其ノ年内ニ於テ竣工シタルモノヲ謂フ

七、廢用漁船トハ漁用ニ堪ヘスシテ其ノ年内ニ於テ使用ヲ廢シタルモノヲ謂フ此内ニハ難破ノ爲廢用シタルモノヲモ含ム

第四二　遭難漁船

大正何年　報告期翌年三月限

	動力ヲ有セサル漁船					動力		
						蒸汽機關ヲ有スルモノ		
遭難ノ種類	五噸未滿（五十石未滿）	五噸以上十噸未滿（五十石以上百石未滿）	十噸以上二十噸未滿（百石以上二百石未滿）	二十噸以上（二百石以上）	計	五十噸未滿	五十噸以上百噸未滿	百噸以上
沈沒	隻							
破壞	隻							
坐礁又ハ坐洲	隻							
行衞不明	隻							
其ノ他	隻							
計	隻							

ヲ有スル漁船								總計	損害高				乘組員			備考
計	發動機ヲ有スルモノ						合計		漁船	漁具	其ノ他	計	死亡又ハ行衛不明ノ者	生存者（負傷者ヲモ含ム）	計	
	五噸未滿	五噸以上十噸未滿	十噸以上二十噸未滿	二十噸以上五十噸未滿	五十噸以上	計										
									圓				人			
									圓				人			
									圓				人			
									圓				人			
									圓				人			
									圓				人			

（注意）

一、本表ハ船籍所在地ノ市町村ニ於テ之ヲ調査スヘシ

二、遭難ハ暴風雨其ノ他ノ天災ニ因ルト人爲ニ因ルトヲ問ハス

三、陸上ケ又ハ海岸ニ繋留セルモノノ遭難ニ付テモ之ヲ調査スヘシ

四、漁船遭難シタル場合船體ニハ損害ナキモ漁具其ノ他ニ損害ヲ受ケ又ハ乘組員ニ死傷行衛不明ノ者ヲ生シタルトキハ總テ之ヲ調査スヘシ

五、動力ヲ有スル漁船トハ主タルト補助タルトヲ問ハス動力ニ依リテ航走スル漁船ヲ謂フ

六、發動機ヲ有スルモノノ欄ニハ蒸汽以外ノ動力ヲ有スル漁船ヲ記載スヘシ

七、噸數ハ總噸數ニ依リテ區別スヘシ

八、遭難ノ種類二種以上ニ亙ルトキハ主ナル一方ニ之ヲ記載スヘシ

九、遭難ノ種類其ノ他ノ欄ニハ漂流、轉覆、火災等ヲ記載スヘシ

一〇、損害高ハ遭難當時ノ實損額ヲ記載スヘシ

第四三　沿岸漁獲物

大正何年　報告期翌年三月限

	魚類																						
	ニシン	イワシ	カツヲ	サバ	マグロ（シビ）	カジキ	ブリ	タラ（「スケトウダラ」ヲモ含ム）	フカ（サメ）	タヒ	クロダヒ	カレヒ・ヒラメ	サハラ	アヂ	トビウヲ	サンマ	ボラ	コノシロ	サケ	マス（「アメマス」ヲモ含ム）	アユ	ワカサギ（「チカ」ヲモ含ム）	コヒ
數量	貫																						
價額	圓																						
單價	錢																						

	魚類			貝類										其ノ他ノ水產動物								藻類							合計	備考
	ウナギ	其ノ他	計	アワビ	カキ	ハマグリ	サザエ	トリガヒ	アカガヒ	ホクキガヒ	アサリ	其ノ他	計	イカ	タコ	エビ	イセエビ	タラバカニ	ナマコ	其ノ他	計	コンブ	アマノリ	ワカメ	テングサ	フノリ	其ノ他	計		
數量																														
價額																														
單價																														

（注意）

一、本表ハ漁撈業者ノ住所所在地ノ市町村ニ於テ之ヲ調査スヘシ但シ他市町村ニ居所ヲ置キテ漁獲セルモノハ居所所屬ノ市町村ニ於テ調査スヘシ

二、本表ニハ河川湖沼ニ於ケル漁獲物ヲモ含ム但シ遠洋漁業、汽船トロール漁業、汽船捕鯨業及水產養殖並露領棒太、朝鮮、關東州、臺灣及委任統治ノ下ニ在ル南洋諸島ノ出漁ニ關スルモノハ之ヲ除ク

三、漁獲物ハ水揚ヲ爲シタルモノノ總額ヲ調査スヘシ

四、藻類ハ水ヲ切リタル時ノ數量ヲ調査シ貝類ハ殼附ノ儘之ヲ計算スヘシ

第四四　遠洋漁業

大正何年　報告期翌年三月限

	漁船（年末現在）									漁					
	動力ヲ有セサルモノ			動力ヲ有スルモノ			計								
	船數	噸數	乘組員	船數	噸數	乘組員	船數	噸數	乘組員		イワシ	カツヲ	サバ	マグロ（シビ）	タラ
旋網漁業										數量	貫				
										價額	圓				
沖曳網漁業										數量	貫				
										價額	圓				
刺網漁業										數量	貫				
										價額	圓				
延繩漁業										數量	貫				
										價額	圓				
一本釣漁業										數量	貫				
										價額	圓				
鰹釣漁業										數量	貫				
										價額	圓				
其ノ他										數量	貫				
										價額	圓				
計										數量	貫				
										價額	圓				
										單價	錢				

獲						高		備考
フカ（サメ）	タヒ	カレヒ・ヒラメ	サハラ	サンマ	サンゴ	其ノ他	計	
						|	|	

（注意）

一、本表ハ漁撈業者ノ住所所在地ノ市町村ニ於テ之ヲ調査スヘシ但シ他市町村ニ居所ヲ置キテ遠洋漁業ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ居所所屬ノ市町村ニ於テ調査スヘシ

二、總噸數五噸以上ノ船舶ヲ以テ沖合又ハ遠洋ニ於テ漁撈ニ從事スルモノヲ調査スヘシ但シ沿岸漁獲物表ニ掲クルモノ及汽船トロール漁業、汽船捕鯨業竝露領、樺太、朝鮮、關東州、臺灣及委任統治ノ下ニ在ル南洋諸島ニ根據ヲ有スル出漁ハ之ヲ除ク

三、動力ヲ有スルモノトハ主タルト補助タルトヲ問ハス動力ニ依リテ航走スル漁船ヲ謂フ

四、噸數ハ總噸數ヲ記載スヘシ

五、漁船ニシテ石數ヲ以テ計算スルモノハ十石ヲ以テ一噸ニ換算スヘシ

六、二種以上ノ漁業ニ從事スル漁船ハ主ナル一方ニ記載シ漁獲物ノ數量及價額ニ付テハ各相當欄ニ之ヲ記載スヘシ

七、旋網漁業トハ巾着網、揚繰網類ノ漁業ヲ謂ヒ沖曳網漁業トハ沖手繰網機船底曳網、打瀬網及珊瑚漁業ヲ謂ヒ刺網漁業ニハ流網漁業ヲモ含ム

八、漁獲物ハ水揚ヲ爲シタルモノノ總額ヲ調査スヘシ

第四五　水產養殖

大正何年　報告期翌年三月限

		稻田	コヒ		ウナギ	
			養魚池	溜池、沼其ノ他	養魚池	溜池、沼其ノ他
養殖場數（年末現在）						
養殖場面積（年末現在）	坪					
收獲高	數量 貫					
	價額 圓					
	單價 錢					

		ボラ		キンギョ	マス（アメマスヲモ含ム）	カキ	アサリ	シンジュ貝		アマノリ	其ノ他	計	備考
		養魚池	溜池、沼其ノ他					眞珠	眞珠介				
養殖場數（年末現在）													
養殖場面積（年末現在）													
收獲高	數量			百尾	貫			個		貫	|	|	
	價額												
	單價												

（注意）

一、二種以上ヲ混養スルモノハ養殖場數及面積ニ付テハ主ナル一方ニ之ヲ記載シ收獲高ニ付テハ各相當欄ニ之ヲ記載スヘシ

二、養魚池トハ人工ヲ加ヘ集約的ニ魚類ノ養殖ヲ爲ス池ヲ謂フ

三、養殖ノ目的以外ノ收獲物ハ之ヲ除ク

四、收獲高ハ水揚ヲ爲シタルモノノ總額ヲ調査スヘシ

五、藻類ハ水ヲ切リタル時ノ數量ヲ調査シ、貝類ハ殼附ノ儘之ヲ計算スヘシ

第四六　水產製造物

大正何年　報告期翌年三月限

	節					類	
	カツヲ節	マグロ（シビ）節	サバ節	イワシ節	其ノ他	計	スルメ
數量 貫							
價額 圓							
單價 錢					|	|	

	食																								
	素				乾				鹽		乾					煮				乾				燻	
	フカヒレ	ミカキニシン	カヅノコ	ゴマメ（田作）	タラ	コンブ	ワカメ	其ノ他	計	イワシ	アヂ	トビウヲ	サバ	タラ	其ノ他	計	イワシ	イカナゴ（玉筋魚）	イリコ（海參）	カヒバシラ（貝柱）	アハビ	エビ	其ノ他	計	サケ	ニシン
數量																									
價額																									
單價								|	|						|	|							|	|		

	乾		鹽								藏			雜							類	合計	肥			
								料																		
	其ノ他	計	イワシ	サバ	ブリ	サケ	マス	タラ	ニシン	サンマ	クヂラ	其ノ他	計	ナマリブシ（生節）	カマボコ・チクワ	ツクダニ	ミリンボシ	ホシノリ（乾海苔）	ウニ	シホカラ	計		ニシン粕	イワシ粕	タラ粕	クヂラ粕
數量																										
價額																										
單價	|	|										|	|								|	|				

料						魚油							スキフノリ	總計	備考
カレヒ粕	アラ粕（荒粕）	ホシカ（干鰯）	ドウニシン（胴鰊）	其他	計	イワシ油	ニシン油	タラ油	クヂラ油	フカ（サメ）油	其ノ他	計			

（注意）
一、罐詰ハ之ヲ除ク
二、ホシノリノ如ク製造期ノ二年ニ跨ルモノハ前年製造初期ヨリ其ノ年製造終期ニ至ル迄ノモノヲ記載スヘシ
三、數量ニハ容器ノ目方ヲ含マス總テ内容ノ重量ヲ記載スヘシ

第四七　寒天

自前年四月
至其ノ年三月　報告期其ノ年五月限

製造場數		細寒天	角寒天	計	備考
	數量	貫			
	價額	圓			
	單價	錢			

（注意）
一、自家用ハ調査ヲ要セス
二、製造場數ハ其ノ季節ニ於テ作業ヲ爲シタル場數ヲ記載スヘシ

第四八　公私有林野面積

大正何年末現在　報告期翌年四月限

		立木地					無立木地	合計	備考
		針葉樹林	闊葉樹林	針闊混淆樹林	竹林	計			
公有	道府縣	段							
	市町村	段							
	部落	段							
	其ノ他ノ公共團體	段							
	計	段							
社寺有	神社	段							
	寺院	段							
	計	段							
私有		段							
合計		段							

（注意）
一、本表ハ大正十六年ノ調査ヲ以テ第一回トシ以後三年毎ニ之ヲ調査スヘシ
二、林野面積ハ土地臺帳面ノ地目面積ノ如何ニ拘ラス現在樹林狀態ヲ爲セル箇所ハ之ヲ立木地トシ然ラサル箇所ハ之ヲ無立木地トシ各其ノ實際面積ヲ調査スヘシ
三、地上權其ノ他土地ノ使用又ハ收益ヲ爲ス權利ニ依リ立木ヲ所有スルモノハ土地所有ノ如何ニ拘ラス立木所有者所屬ノ相當欄ニ之ヲ記載スヘシ
四、共有ノ林野ハ持分ニ依リ、部分林（國有林野又ハ府縣有林野ニ私人カ植栽シ其ノ樹木ヲ兩者ノ共有トシ之ヲ分收スルカ如シ）ハ分收歩合ニ依リ夫々區分シ各相當欄ニ之ヲ記載スヘシ但シ公有林野官行造林地ニ付テハ分收歩合ニ依リ區分セス其ノ全面積ヲ當該公有林野所屬ノ欄ニ記載スヘシ
五、市町村組合若クハ町村組合ノ所有ニ係ル林野又ハ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ノ區ノ所有ニ係ル林野ハ市町村ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ

第四九　公私有造林用苗木

大正何年末現在　報告期翌年四月限

		苗圃面積	苗木數													備考
			スギ	ヒノキ	マツ	カラマツ	サハラ	ヒバ	クス	カシ	ケヤキ	クリ	クヌギ	其他	計	
道府縣有		坪	本													
市町村有		坪	本													
部落有		坪	本													
森林組合有		坪	本													
個人及會社有	苗木商	坪	本													
	其ノ他	坪	本													
其ノ他ノ團體有		坪	本													
計		坪	本													

（注意）
一、苗圃面積ハ現在直接苗木養成ノ爲ニ使用スル地ノ全體ヲ調査スヘシ
二、苗木ハ次年ニ於テ山地移植ニ適スルモノ（山行）ノミヲ調査スヘシ
三、市町村組合若クハ町村組合ノ所有ニ係ルモノ又ハ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ノ區ノ所有ニ係ルモノハ市町村有ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ

第五〇　公私有林野人工造林

大正何年　報告期翌年五月限

新植

			針葉樹								闊葉樹							合計	竹				
			スギ	ヒノキ	マツ	カラマツ	サハラ	ヒバ	其ノ他	計	クス	カシ	ケヤキ	クリ	クヌギ	其ノ他	計		マダケ	ハチク	モウソウ	其ノ他	計
公有	道府縣	面積	段																				
		數量	本																				
	市町村	面積	段																				
		數量	本																				
	部落	面積	段																				
		數量	本																				
	其ノ他ノ公共團體	面積	段																				
		數量	本																				
	計	面積	段																				
		數量	本																				
社寺有		面積	段																				
		數量	本																				
私有		面積	段																				
		數量	本																				
合計		面積	段																				
		數量	本																				

補植

		針葉樹								闊
		スギ	ヒノキ	マツ	カラマツ	サハラ	ヒバ	其ノ他	計	クス
公有	道府縣	本								
	市町村	本								
	部落	本								
	其ノ他ノ公共團體	本								
	計	本								
社寺有		本								
私有		本								
合計		本								

葉樹	カシ								
	ケヤキ								
	クリ								
	クヌギ								
	其ノ他								
	計								
合計									
備考									

（注意）

一、公有林野官行造林地ニ付テハ調査ヲ要セス

二、播種シタルモノハ數量ヲ別記シ升ヲ以テ之ヲ表示スヘシ但シ面積ハ植付ノモノニ之ヲ合算スヘシ

三、混淆植栽ノモノハ各樹種ニ區別シ相當欄ニ之ヲ記載スヘシ

四、地上權其ノ他ノ權利ニ依リ植栽シタルモノハ土地所有ノ如何ニ拘ラス其ノ權利者所屬ノ相當欄ニ之ヲ記載スヘシ

五、共有ノ林野ニ植栽シタルモノハ林野ノ持分ニ依リ、部分林（國有林野又ハ府縣有林野ニ私人カ植栽シ其ノ樹木ヲ兩者ノ共有トシテ之ヲ分收スルカ如シ）ニ植栽シタルモノハ分收歩合ニ依リ夫々區分シ各相當欄ニ之ヲ記載スヘシ

六、市町村組合若クハ町村組合ノ所有ニ係ル林野ニ植栽シタルモノ又ハ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ノ區ノ所有ニ係ル林野ニ植栽シタルモノハ市町村ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ

第五一　公私有林野天然造林

大正何年　報告期翌年五月限

		公有					社寺有	私有	合計
		道府縣	市町村	部落	其ノ他ノ公共團體	計			
針葉樹林	伐採跡地	段	段	段	段	段	段	段	段
	無立木地								
	計								
闊葉樹林	伐採跡地								
	無立木地								
	計								
針闊混淆樹林	伐採跡地								
	無立木地								
	計								
計	伐採跡地								
	無立木地								
	計								
備考									

（注意）

一、本表ハ下種又ハ萌芽ニ依リ成林ノ見込確實ナル箇所ヲ當該年ニ於テ調査スヘシ一旦報告シタル面積中見込ヲ誤リ成林セサルモノアルコトヲ發見セルトキハ其ノ誤謬ニ係ル面積及報告年次ヲ備考欄ニ記載スヘシ

二、伐採跡地ノ天然造林トハ當該年伐採セシ箇所中天然造林ニ附シ將來成林ノ見込確實ナル箇所ヲ謂ヒ無立木地ノ天然造林トハ右以外ノ地ニ於テ防火線設置搔キ起シ其ノ他ニヨリ成林ノ見込確實トナリタル箇所ヲ謂フ

三、共有ノ林野ハ持分ニ依リ、部分林（國有林野又ハ府縣有林野ニ私人カ植栽シ其ノ樹木ヲ兩者ノ共有トシ之ヲ分收スルカ如シ）ハ分收歩合ニ依リ夫々區分シ各相當欄ニ之ヲ記載スヘシ

四、市町村組合若クハ町村組合ノ所有ニ係ル林野又ハ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ノ區ノ所有ニ係ル林野ハ市町村ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ

五、地上權其ノ他ノ權利ニ依リ森林ヲ造成シタルモノハ土地所有ノ如何ニ拘ラス其ノ權利者所屬ノ各相當欄ニ之ヲ記載スヘシ

第五二　公私有林伐採

大正何年　報告期翌年五月限

			公有		社寺有		私有		計	
伐採面積	用材	針葉樹林	段		段		段		段	
		闊葉樹林								
		針闊混淆樹林								
		計								
	薪炭材									
	竹材									
	合計									
			數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
用材	針葉樹	スギ	石	圓	石	圓	石	圓	石	圓
		ヒノキ								
		マツ								
		カラマツ								
		サハラ								
		ヒバ								
		モミ・シラベ・タウヒ								
		ヒメコマツ・ゴヨウマツ・チヨウセンマツ								
		ツガ・トガサハラ								
		エゾマツ・トヾマツ								
		ビヤクシン・アララギ								
		其ノ他								
		計								
	闊葉樹	クス								
		カシ								
		ケヤキ								
		ツゲ								
		シホヂ・ハリギリ・ヤチダモ								
		カヘデ・トチ								
		ホウノキ								
		カツラ								
		クルミ								
		サクラ・ミネハリ・ミヅメ・シラカバ								
		クリ								
		ナラ								
		カシワ								
		アベマキ・クヌギ								
		ブナ								
		ドロ・ヤマナラシ・イモノキ								
		キリ								
		其ノ他								
		計								
	合計									
薪炭材			棚		棚		棚		棚	
竹材		マダケ	束		束		束		束	
		ハチク								
		モウソウ								
		其ノ他								
		計								
備考										

（注意）

一、公有林野官行造林地ニ付テハ調査ヲ要セス

二、點狀擇伐（拔伐）ノ面積ハ調査ヲ要セス但シ竹林ニ付テハ點狀擇伐セルモノト雖伐竹ノ占領面積ヲ計上スヘシ

三、伐採面積中用材薪炭材ノ兩者ヲ包含スルトキハ各其ノ割合ニ依リ雙方ニ區分計上スヘシ

四、薪炭以外ノ用途ニ充ツル木材ハ總テ用材ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ

五、用材トシテ伐採シタルモノノ枝條根株ニシテ薪炭用ニ供スルモノハ其ノ數量及價額ノミ薪炭材ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ

六、桐ニ付テハ林地以外ノモノヲモ調査スヘシ但シ伐採ノ面積ハ調査ヲ要セス

七、數量ハ伐倒シタル儘ノ材積ヲ記載シ價額ハ山元相場（立木賣渡價額）ニ依ルヘシ

八、一石トハ尺角長サ十尺ニ相當スルモノ即チ實積十立方尺ヲ謂ヒ一棚トハ長サ二尺ノモノヲ高サ五尺幅十尺ニ積立テタルモノ即チ層積百立方尺ヲ謂フ（此ノ棚ノ層積ニハ間隙アルヲ以テ其ノ實積ハ三割ヲ減スルモノト看做シ一棚ノ用材ハ七石ニ相當スルモノトス）

九、一束ノ數量ハ地方慣行ノモノニ依ルヘシ但シ其ノ數量ハ備考欄ニ之ヲ記載スヘシ

一〇、地上權其ノ他土地ノ使用又ハ收益ヲ爲ス權利ニ依リ所有スル立木ヲ伐採シタルモノハ土地所有ノ如何ニ拘ラス立木所有者所屬ノ相當欄ニ之ヲ記載スヘシ

一一、共有ノ森林ヲ伐採シタルモノハ森林ノ持分ニ依リ、部分林（國有林野又ハ府縣有

林野ニ私人カ植栽シ其ノ樹木ヲ兩者ノ共有トシ之ヲ分收スルカ如シ）ヲ伐採シタルモノハ分收歩合ニ依リ夫々區分シ各相當欄ニ之ヲ記載スヘシ

第五三　林野產物

大正何年　報告期翌年四月限

	造林用種子					樹實					樹皮							竹皮	柴草（生ノモノ）	蔓及莖（フジ、アケビ、シダ、クズ）	フシ（五倍子）	マツタケ（生ノモノ）
	スギ	ヒノキ	マツ	カラマツ	計	クリ	ツバキ	アブラギリ	クルミ	計	スギ	ヒノキ	カシハ	アベマキ	モチノキ	シユロ	計					
數量	升					石					坪		束			斤		貫		束	斤	
價額	圓																					
單價	錢																					

	シイタケ（乾燥シタルモノ）	タケノコ	ワサビ	マツヤニ	木タール	醋酸石灰	木炭			合計	備考
							白炭	黑炭	計		
數量		貫		斤	石	貫					
價額											
單價											

（注意）

一、御料、國有、公有、社寺有及私有ノ林野其ノ他ニ於ケル總産額ヲ調査スヘシ

二、一坪トハ六尺平方ヲ謂フ

三、一束ノ數量ハ地方慣行ノモノニ依ルヘシ但シ其ノ數量ハ備考欄ニ之ヲ記載スヘシ

四、白炭トハ白消法（通常窯外消火法卽チ炭窯又ハ炭窯ト看做スヘキ裝置ヨリ取出シテ消火スル方法）ニ依リ製シタルモノヲ謂ヒ黑炭トハ黑消法（通常窯内消火法卽チ炭窯又ハ炭窯ト看做スヘキ裝置内ニテ消火スル方法）ニ依リ製シタルモノヲ謂フ

第五四　公私有林野放牧

大正何年九月末日現在　報告期翌年一月限

		立木地				無立木地				計				備考
		面積	放牧頭數			面積	放牧頭數			面積	放牧頭數			
			牛	馬	其ノ他		牛	馬	其ノ他		牛	馬	其ノ他	
公有	道府縣	段				段				段				
	市町村	段				段				段				
	部落	段				段				段				
	其ノ他	段				段				段				
	計	段				段				段				
社寺有		段				段				段				
私有		段				段				段				
合計		段				段				段				

（注意）

一、本表ハ大正十六年ノ調査ヲ以テ第一回トシ以後三年毎ニ之ヲ調査スヘシ

二、本表ハ牧場ノ目的ヲ有スルト否トニ拘ラス野飼スル爲メニ放牧セル場所ニ付テ調査スヘシ

三、土地臺帳面ノ地目面積ノ如何ニ拘ラス現在樹林狀態ヲ爲セル箇所ハ之ヲ立木地トシ、然ラサル箇所ハ之ヲ無立木地トシ各其ノ實際面積ヲ調査スヘシ

四、路傍畦畔堤塘等牧野狀態ヲ爲サヽル面積ハ之ヲ除ク

五、土地所有ノ區別ハ地上權其ノ他ノ權利ノ設定如何ニ拘ラス實際ノ土地所有ノ區別ニ依リ放牧頭數ハ其ノ所有ノ如何ニ拘ラス放牧シタル地ノ當該欄ニ記載スヘシ

六、立木地、無立木地ノ雙方ニ放牧シタル場合ニ在リテハ其ノ主ナル一方ニ記載スヘシ

七、市町村組合又ハ町村組合ノ所有ニ係ルモノ又ハ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ノ區ノ所有ニ係ルモノハ市町村ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ

第五五　公私有林野被害

大正何年　報告期翌年四月限

		立木地										無立木地							合計	備考
		火災				風害	病蟲害	水害	雪害	其ノ他	計	火災				水害	其ノ他	計		
		失火	放火	其ノ他	計							失火	放火	其ノ他	計					
公有	面積	段																		
	價額	圓																		
社寺有	面積	段																		
	價額	圓																		
私有	面積	段																		
	價額	圓																		
計	面積	段																		
	價額	圓																		

（注意）

一、公有林野官行造林地ニ付テハ調査ヲ要セス

二、一市町村ニ於ケル一災害ノ被害面積一町歩以上ノモノノミヲ調査スヘシ但シ一災害ノ被害面積數市町村ニ跨リ一町歩以上トナルコト明ナル場合ニ於テハ一市町村トシテノ被害面積一町歩未滿ナリト雖總テ之ヲ調査スヘシ

三、竹林ノ被害ハ立木地ノ欄ニ之ヲ合算スヘシ

四、被害價額ハ被害當時ノ實損額ヲ記載スヘシ

●地方農林統計費補助規則

（昭和二年六月七日農林省令第十五號）

地方農林統計費補助規則左ノ通定ム

地方農林統計費補助規則

第一條　農林大臣ハ農林統計ノ改善ヲ圖ル爲道府縣及市町村ニ對シ本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條　補助金ハ左ニ揭グル經費ニ對シテ之ヲ交付ス

一　道府縣ニ於テ市町村ノ農林統計ニ關スル指導監督ノ爲設置スル專任職員ノ俸給及旅費

二　市町村ニ於テ農林統計調査ニ要スル經費

第三條　補助金ノ交付ヲ受ケムトスル道府縣ハ申請書ニ樣式第一號ニ依ル收支豫算書ヲ添ヘ毎年度二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

第四條　補助金ノ交付ヲ受ケムトスル市町村ハ申請書ニ樣式第二號ニ依ル收支豫算書ヲ

添ヘ地方長官ヲ經由シ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ申請書ハ前年度三月三十一日迄ニ地方長官ニ之ヲ提出スベシ

第五條　補助金交付ノ申請者又ハ補助金ノ交付ヲ受ケタル者前二條ノ書類ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨遲滯ナク農林大臣ニ屆出ヅベシ

前項ノ規定ニ依リ市町村ノ提出スベキ書類ハ地方長官ヲ經由スベシ

第六條　補助金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ翌年度七月三十一日迄ニ樣式第一號ニ依ル收支計算書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第七條　補助金ノ交付ヲ受ケタル市町村ハ樣式第二號ニ依ル收支計算書ヲ地方長官ヲ經由シ農林大臣ニ提出スベシ

前項ノ收支計算書ハ翌年度七月三十一日迄ニ地方長官ニ之ヲ提出スベシ

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

一　本則ノ規定ニ違反シタルトキ

二　農林統計事務ノ處理不適當ト認メタルトキ

三　支出額ガ豫算額ニ達セザルトキ

第九條　本則中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中前年度二月末日迄及第四條中前年度三月三十一日迄トアルハ昭和二年度ニ限リ昭和二年七月十五日迄トス

樣式

第一號

何年度道府縣統計費收支豫算書（收支計算書）

收入

科目	本年度豫算額（決算額）	前年度豫算額（豫算額）	增減	備考
農林省補助	圓	圓	圓	
何々補助				何省統計費補助何圓
國庫負擔額				内俸給何圓何人分、旅費何圓其ノ他何圓
道府縣負擔額				
計				

支出

科目	本年度豫算額（決算額）	前年度豫算額（豫算額）	增減	備考
俸給	圓	圓	圓	内農林統計指導監督職員何人、月額何圓、何年設置
事務費				
旅費				内農林統計指導監督旅費何圓、出張回數何回、延日數何日分
講習會費				
何々				
市町村統計費道府縣費補助				内農林統計ニ關スル分何圓
計				

注意

一　收入中農林省補助欄ニハ其ノ年度ノ補助申請額ヲ記載スベシ

二　收入中何々補助欄ニハ其ノ年度ニ於テ農林省以外ヨリ道府縣統計費ニ對シテ受クベキ補助見込額ヲ記載スベシ

三　收入中國庫負擔額欄ニハ國庫補助金以外ニ於テ國費ヲ以テ支辨スル統計職員ノ俸給、旅費其ノ他ノ經費ニ關スル國費負擔額ヲ記載スベシ

四　支出科目ノ分類ハ當該道府縣經費ノ區分ニ依ルベシ但シ區分シ難キ經費ニ付テハ大體ノ見積額ヲ記載スベシ

五　支出中各費目ニハ國費支辨ノ分ヲモ合算シ備考欄ニ其ノ内譯ヲ國費ト道府縣費トニ分チ尙第二條第一號ノ經費ニ付テハ備考欄例示ノ如ク記載スベシ

六　備考欄ニ例示セルモノハ凡テ其ノ年度ノ收支豫算額又ハ收支決算額ニ付記載スベシ

七　增減欄ノ減ニハ△印ヲ附スベシ

第二號

何年度市町村統計費收支豫算書（收支計算書）

收入

科目	本年度豫算額（決算額）	前年度豫算額（豫算額）	增減	備考
農林省補助	圓	圓	圓	
何々補助				
道府縣費補助				
市町村負擔額				
計				

支出

科目	本年度豫算額（決算額）	前年度豫算額（豫算額）	增減	備考
給料（俸給）	圓	圓	圓	
調査員手當				内農林統計調査員手當總額何圓（調査區數何區、調査員數何人、一人當手當何圓）
事務費				
何々				
計				内農林統計ニ關スル見積額何圓

注意

一　收入中農林省補助欄ニハ其ノ年度ノ補助申請額ヲ記載スベシ

二　收入中何々補助欄ニハ其ノ年度ニ於テ農林省及道府縣以外ヨリ市町村統計費ニ對シテ受クベキ補助見込額ヲ記載スベシ

三　收入中道府縣費補助欄ニハ其ノ年度ニ於テ道府縣費ヨリ市町村統計費ニ對シテ受クベキ補助見込額ヲ記載スベシ

四　收入中市町村負擔額欄ニハ當該市町村ニ於テ統計ニ要スル費用中國及道府縣ヨリ受クル補助金以外ニ自ラ負擔スル費用ノ全額ヲ記載スベシ

五　支出科目ハ市町村ニ於テ事實上統計ノ調査、編整、報告等ニ要スル費用ヲ適當ニ區分シ區分シ難キ費用ニ付テハ大體ノ見積額ヲ記載スベシ

六　支出中給料（俸給）欄ニハ市町村ニ於テ統計事務ニ從事スル職員（調査員ヲ除ク）ニ支給スル給料（俸給）額ヲ記載シ其ノ員數ヲ專務者兼務者別ニ備考欄ニ附記スベシ

七　支出中調査員手當欄ニハ調査員手當タル名稱ノ有無ニ拘ラズ事實調査員ノ活動ニ對スル報酬ノ性質ヲ有スル經費ヲ記載スベシ若シ他ノ目的ニ對スル報酬ト合セ支給スル場合ニ於テハ大體ノ見積額ヲ掲上シ其ノ内農林統計ニ關スル分ヲ備考欄ニ例示ノ如ク記載スベシ

八　支出中事務費欄ニハ統計ニ關スル調査票、報告用紙、基礎帳簿等ノ作製ニ要スル費用其ノ他ヲ掲上シ其ノ内主ナルモノヲ備考欄ニ記載スベシ

九　統計主任會議、統計講習會等ノ出席者ニ對スル旅費其ノ他ノ支給額又ハ臨時特別ニ統計事務ノ爲ニノミ支出スル經費ハ支出中適當ノ科目ヲ設ケ之ヲ記載スベシ

十　增減欄ノ減ニハ△印ヲ附スベシ

●商工省統計報告規則

大正十四年十月二十八日
商工省令第十一號

商工省統計報告規則左ノ通定ム

商工省統計報告規則

第一條　市町村長ハ別表樣式ニ揭クル事項ヲ調査シ各其ノ樣式ニ依リ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ但シ其ノ報告期限ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第二條　市町村長ハ前條ノ調査ヲ行フ爲市町村ニ調査區ヲ設ケ各調査區ニ調査員ヲ置クヘシ

第三條　調査區ハ大字、小字等地理上獨立ノ稱呼ヲ有スル區域又ハ調査事項ノ種類ヲ標準トシ當該市町村ニ於ケル産業ノ狀態又ハ調査ノ難易ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ

第四條　調査員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ擔當調査區內ニ於ケル商工省統計調査ノ事務ヲ執行スヘシ

第五條　市町村長調査員ヲ任免シタルトキハ其ノ擔當調査區ト共ニ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第六條　市町村長調査員ノ報告ヲ受ケタルトキハ其ノ内容ヲ檢査シ必要ト認ムルトキハ再調査ヲ爲サシムヘシ

第七條　地方長官第一條ノ規定ニ依リ市町村長ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ別表各樣式ニ依リ道府縣計ニ整理集計シ別表各樣式ニ揭クル期限迄ニ商工大臣ニ報告スヘシ

第八條　本則ノ規定ニ依リ蒐集シタル資料ハ統計上ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第九條　商工省統計調査ニ關スル事務ニ從事シタル者其ノ職務ノ執行ニ關シ個人、法人又ハ組合ノ業務ニ付知得シタル事項ヲ故ナク他ニ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條　本則中町村又ハ町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

附則

本則ハ大正十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

商工省統計様式

第一 綿織物
第二 絹織物及絹綿交織物
第三 麻織物及麻交織物
第四 毛織物及毛交織物
第五 晒及染物
第六 メリヤス製品
第七 帽子
第八 陶磁器
第九 瓦及土管
第一〇 漆器
第一一 製革
第一二 皮革製品
第一三 製藍
第一四 植物油
第一五 澱粉
第一六 木製品
第一七 竹製品
第一八 籐製品
第一九 杞柳製品
第二〇 刷子（ブラッシュ）及刷毛（ハケ）
第二一 麥稈、經木及麻眞田
第二二 疊表、莫蓙及花莚
第二三 石材、土石及鑛水

調査上ノ一般注意

一、本調査事項ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外調査事實ノ存スル地ノ市町村ニ於テ之ヲ調査スヘシ

二、本調査ニ於テ場數ト稱スルハ工場タルト家庭内ノ作業場タルトヲ問ハス當該生產事業ノ目的トスル作業ヲ爲ス一定ノ場所ノ數ヲ謂フ

三、職工數ニハ事業主又ハ其ノ家族ト雖事實其ノ業務ニ從事スルモノヲ含ム

四、場數及職工數ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外總テ年末現在ニ依リ調査スヘシ但シ特別ノ事情ニ依リ年末ニ於テ作業場及職工ナク又ハ其ノ甚シク多數又ハ少數ナル事業ニ付テハ其ノ通常ノ作業狀態ニ於ケル場數及職工數ヲ記載スヘシ

五、學校、試驗場、講習所等ニ於ケル生產品及自家用生產品ニ關シテハ調査ヲ爲スコトヲ要セス

六、他ノ製造品ノ副產物トシテ產出セラルル物品（大豆油粕ノ副產物トシテ產出セラルル大豆油ノ如シ）ニ關シテハ其ノ數量及價額ノミヲ調査スルヲ以テ足リ製造場數、設備（製造場内ノ機械器具等）及職工數ニ付テハ調査ヲ要セス

七、他ヨリ委託ヲ受ケ一定ノ工賃ヲ得テ行フ賃製造（織元ヨリ委託ヲ受ケテ行フ賃織ノ如シ）ニ關シテハ製造場數、設備（製造場内ノ機械器具等）及職工數ハ賃業者所在地ノ市町村ニ於テ之ヲ調査シ製品ノ數量及價額ハ委託者所在地ノ市町村ニ於テ之ヲ調査スヘシ

八、價額ハ調査期間内ニ於ケル其ノ地方市場卸賣平均價格ニ依ルヘシ

九、數量ノ單位ニシテ地方慣行ノモノカ様式ニ定タルモノト異ル場合ニ於テハ様式所定ノ單位ニ之ヲ換算スヘシ

一〇、取引ノ慣行ニ於テ一斤ヲ百六十匁トシテ計算セサル場合アリト雖本調査ニ於テハ總テ之ヲ百六十匁トシテ計算スヘシ

一一、單位未滿ノ數ハ之ヲ四捨五入スヘシ

一二、調査事項ニ關シ事實ナキモノニ付テハ縱線（—）ヲ引クヘシ

一三、調査事實ニ關シ前年ニ比シ著シキ增減アリタル場合ニ於テハ其ノ理由ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第一 綿織物

大正何年 報告期翌年三月限

	機業場數（年末現在）	機臺數（年末現在）				職工數（年末現在）		
		力織機		手織機	計	男	女	計
		廣幅	小幅					
十臺未滿								
十臺以上五十臺未滿								
五十臺以上								
計								

	廣幅物													
	綾綿布	綿繻子	金巾	粗布（シーチング）	天竺木綿	綿縮	綿小倉	綿ネル（生地ヲモ含ム）	綿帆布	綿ビロード（コール天ヲ含ム）	其ノ他			計
											白及生平織綿布	縞木綿及織色無地	其ノ他	
數量	碼													
價額	圓													
單價	錢													

	小幅物							
	白木綿	縞木綿	絣木綿	織色木綿	綿縮	綿蚊帳地	其ノ他	計
數量	反							
價額								
單價								

	特殊物								合計	備考
	綿緞通	タオル	敷布	綿毛布（肩、膝掛ヲモ含ム）	調帯及ホース	テープ類	其ノ他	計		
數量	疊	打		枚	碼					
價額										
單價										

（注意）

一、綿織物ト他ノ織物トヲ併セ織ルモノハ機業場數、機臺數及職工數ニ付テハ主ナル一方ニ之ヲ記載シ製品ノ數量及價額ニ付テハ之ヲ區別シテ關係各表ニ記載スヘシ

二、力織機トハ水力、汽力、瓦斯力、電力等ノ動力ニ依リ運轉スル機械織機ヲ謂フ足踏織機ハ手織機ニ之ヲ算入スヘシ

三、廣幅物トハ幅鯨尺一尺三寸以上ノモノ、小幅物トハ幅鯨尺一尺三寸未滿ノモノヲ謂ヒ特殊物トハ廣幅物及小幅物中揭ケラレタル普通ノ反又ハ匹物以外ノモノヲ謂フ

四、綿ネルノ生地ヲ買入レ製品ト爲スモノハ本表ニ之ヲ算入スヘカラス

第二 絹織物及絹綿交織物

大正何年 報告期翌年三月限

	機業場數（年末現在）	機臺數（年末現在）				職工數（年末現在）		
		力織機		手織機	計	男	女	計
		廣幅	小幅					
五臺未滿								
五臺以上十臺未滿								
十臺以上五十臺未滿								
五十臺以上								
計								

	絹織									
	廣幅物									
	縮緬及壁	羽二重	絹紬	富士絹	繻子	洋傘地	其ノ他			計
							生絹及白絹	縞物及色無地	其ノ他	
數量	碼									
價額	圓									
單價	錢									

	小幅物										帶
	御召	縮緬及壁	羽二重及平絹	絽及紗	銘仙及節著尺物	其ノ他ノ著尺物	袴地	其ノ他		計	男物
								生絹及白絹	其ノ他		
數量	反										本
價額											
單價											

物 特殊物 帶地 女物 片側	物 特殊物 帶地 女物 廣幅	物 特殊物 リボン及絹テープ類	物 特殊物 其ノ他	物 特殊物 計	合計	絹綿交織物 廣幅物 繻子（紋繻子ヲ含ム）	絹綿交織物 廣幅物 ビロード	絹綿交織物 廣幅物 其ノ他	絹綿交織物 廣幅物 計	絹綿交織物 小幅物 御召及縮緬	絹綿交織物 小幅物 其ノ他ノ著尺物	絹綿交織物 小幅物 繻子（紋繻子ヲ含ム）	絹綿交織物 小幅物 其ノ他	絹綿交織物 小幅物 計	絹綿交織物 特殊物 帶地 男物	絹綿交織物 特殊物 帶地 女物 片側	絹綿交織物 特殊物 帶地 女物 廣幅	絹綿交織物 特殊物 其ノ他	絹綿交織物 特殊物 計	絹綿交織物 合計	總計	備考
		碼	—	—	—			—	—	反			—	—	本			—	—	—	—	
			—	—	—			—	—				—	—				—	—	—	—	

（注意）

一、人造絹絲ハ絹絲ト看做シテ調査スヘシ

二、絹織物及絹綿交織物ト他ノ織物トヲ併セ織ルモノハ機業場數、機臺數及職工數ニ付テハ主ナル一方ニ之ヲ記載シ製品ノ數量及價額ニ付テハ之ヲ區別シテ關係各表ニ記載スヘシ

三、力織機トハ水力、汽力、瓦斯力、電力等ノ動力ニ依リ運轉スル機械織機ヲ謂フ足踏織機ハ手織機ニ之ヲ算入スヘシ

四、廣幅物トハ幅鯨尺一尺三寸以上ノモノ、小幅物トハ幅鯨尺一尺三寸未滿ノモノヲ謂ヒ特殊物トハ廣幅物及小幅物中掲ケラレタル普通ノ反又ハ匹物以外ノモノヲ謂フ

五、帶地ニハ兵子帶ヲ含マス

第三　麻織物及麻交織物

大正何年　報告期翌年三月限

	機業場數（年末現在）	機臺數（年末現在） 力織機 廣幅	機臺數（年末現在） 力織機 小幅	機臺數（年末現在） 手織機	機臺數（年末現在） 計	職工數（年末現在） 男	職工數（年末現在） 女	職工數（年末現在） 計
五臺未滿								
五臺以上十臺未滿								
十臺以上五十臺未滿								
五十臺以上								
計								

	廣幅物 黄麻布 帆布	廣幅物 黄麻布 其ノ他	廣幅物 黄麻以外ノ麻布 帆布	廣幅物 黄麻以外ノ麻布 蚊帳地	廣幅物 黄麻以外ノ麻布 其ノ他	廣幅物 計	小幅物 生麻布及晒麻布	小幅物 縞絣麻布	小幅物 蚊帳地	小幅物 其ノ他	小幅物 計
數量	碼	—	碼		—	—	反			—	—
價額	圓										
單價	錢	—	錢		—	—				—	—

特殊物 麻緞通	特殊物 調帶及ホース	特殊物 其ノ他	特殊物 計	合計	備考
[illegible]	碼	—	—	—	
		—	—	—	

（注意）

一、麻織物及麻交織物ト他ノ織物トヲ併セ織ルモノハ機業場數、機臺數及職工數ニ付テハ主ナル一方ニ之ヲ記載シ製品ノ數量及價額ニ付テハ之ヲ區別シテ關係各表ニ記載スヘシ

二、力織機トハ水力、汽力、瓦斯力、電力等ノ動力ニ依リ運轉スル機械織機ヲ謂フ足踏織機ハ手織機ニ之ヲ算入スヘシ

三、廣幅物トハ幅鯨尺一尺三寸以上ノモノ、小幅物トハ幅鯨尺一尺三寸未滿ノモノヲ謂ヒ特殊物トハ廣幅物及小幅物中掲ケラレタル普通ノ反又ハ匹物以外ノモノヲ謂フ

第四　毛織物及毛交織物

大正何年　報告期翌年三月限

	機業場數（年末現在）	機臺數（年末現在） 力織機	機臺數（年末現在） 手織機	機臺數（年末現在） 計	職工數（年末現在） 男	職工數（年末現在） 女	職工數（年末現在） 計
十臺未滿							
十臺以上五十臺未滿							
五十臺以上							
計							

	モスリン	フランネル	著尺セルヂ	洋服用セルヂ	ラシャ	毛布（肩、膝掛ヲモ含ム）	地氈（フエルトヲ含マス）	緞通	プラッシュ及毛ビロード	其ノ他	計	備考
數量	碼					枚	碼	疊	碼	—	—	
價額	圓											
單價	錢									—	—	

（注意）

一、毛織物及毛交織物ト他ノ織物トヲ併セ織ルモノハ機業場數、機臺數及職工數ニ付テハ主ナル一方ニ之ヲ記載シ製品ノ數量及價額ニ付テハ之ヲ區別シテ關係各表ニ記載スヘシ

二、力織機トハ水力、汽力、瓦斯力、電力等ノ動力ニ依リ運轉スル機械織機ヲ謂フ足踏織機ハ手織機ニ之ヲ算入スヘシ

第五　晒及染物

大正何年　報告期翌年三月限

染物業場數（年末現在）	職工數（年末現在） 男	職工數（年末現在） 女	職工數（年末現在） 計

	絹 無地物	絹 捺染物	絹 其ノ他	絹 計	無地物 綿繻子	無地物 金巾及天竺	無地物 綾木綿	無地物 其ノ他	無地物 計
數量	反		—	—	碼			—	—
染賃	圓								
單價	錢		—	—				—	—

綿	捺染物	機械製	廣幅	碼		
			小幅	反		
		其ノ他				
		計				
	絞纈類					
	其ノ他					
	計					
毛	無地物					
	捺染物					
	其ノ他					
	計					
其ノ他	無地物					
	捺染物					
	其ノ他					
	計					
合計	無地物					
	捺染物					
	其ノ他					
	計					

晒業場數（年末現在）		
職工數（年末現在）	男	
	女	
	計	

	數量 貫	晒賃 圓	單價 錢
白木綿			
天竺布			
粗布（シーチング）			
金巾			
綾木綿			
其ノ他			
計			
備考			

（注意）
一、絲類ノ染色及晒ハ調査ヲ要セス
二、染直シ賃ハ調査ヲ要セス
三、晒ト染物トヲ併セ行フモノハ場數及職工數ニ付テハ主ナル一方ニ之ヲ記載シ數量及晒賃若クハ染賃ニ付テハ之ヲ區別シテ各相當欄ニ記載スヘシ
四、晒白ノ後直ニ染色スルモノニ在リテハ晒白ハ染色ノ一工程ト看做シ染色ノ部ニ記載スヘシ

第六　メリヤス製品

大正何年　　報告期翌年四月限

製造場數（年末現在）		
職工數（年末現在）	男	
	女	
	計	

		數量 打	價額 圓	單價 錢
綿	シャツ及ズボン下			
	靴下			
	手袋			
	其ノ他			
	計			
毛及綿	シャツ及ズボン下			
	靴下			
	手袋			
	其ノ他			
	計			
絹	靴下			
	手袋			
	其ノ他			
	計			
其ノ他	シャツ及ズボン下			
	靴下			
	手袋			
	其ノ他			
	計			
合計				
備考				

（注意）
一、製造場數及職工數ハ生地ノ編立ノミヲ爲ス場合ト雖總テ之ヲ調査スヘシ但シ其ノ生地ノ數量及價額ハ之ヲ記載スヘカラス
二、生地ヲ買入レテ製品ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ價額ハ製品トシテノ全價額ヲ記載スヘシ

第七　帽子

大正何年　　報告期翌年四月限

製造場數（年末現在）		
職工數（年末現在）	男	
	女	
	計	

	數量 打	價額 圓	單價 錢
フェルト製			
ラシヤ、セルヂ、其ノ他ノ布帛製			
模造パナマ製			
麥稈製			
其ノ他			
計			
備考			

（注意）
一、製造場數及職工數ハ帽體ノミヲ製造スル場合ト雖總テ之ヲ調査スヘシ但シ其ノ帽體ノ數量及價額ハ之ヲ記載スヘカラス
二、帽體ヲ買入レテ製品ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ價額ハ製品トシテノ全價額ヲ記載スヘシ

第八　陶磁器

大正何年　　報告期翌年四月限

製造場數（年末現在）			
窯數（年末現在）	本焼窯	窯數	
		室數	
	錦窯		
	素焼窯		
職工數（年末現在）	男		
	女		
	計		

	價額 圓
飲食用器物	
家具及裝飾品	
工業用品	
碍子	
玩具	
其ノ他	
計	
備考	

（注意）
一、半製品又ハ製品ニ繪ヲ書キ焼成スル繪附ヲモ調査スヘシ
二、素地焼窯及釉焼窯ハ本焼窯中ニ之ヲ算入スヘシ
三、本焼窯室數ノ計算ニ付テハ器物ノ焼成ニ直接使用スルモノニ限ルヘシ
四、錦窯トハ主トシテ繪附ニ使用スル窯ヲ謂フ
五、素焼窯トハ釉焼ヲ爲サヽル素焼成品ヲ焼成スル窯ヲ謂フ

六、炮烙、朝顏鉢類ノ如キ素燒品又ハ陶器素地面ニ漆或ハニスノ如キ塗料ヲ塗布シタル陶漆器ト稱スルモノヲモ調査スヘシ
七、便所、浴場等ノ壁又ハ床ノ張附ニ用フルモノ又ハ電線管ト雖陶磁器タル以上名稱ノ如何ニ拘ラス本表其ノ他ノ欄ニ之ヲ記載スヘシ
八、博多人形類ノ如キ燒成セサルモノハ本表ニ之ヲ算入スヘカラス

第九　瓦及土管

大正何年　報告期翌年四月限

	製造場數（年末現在）	職工數（年末現在）男	女	計
瓦				
土管				

		數量	價額	單價
瓦	屋根用平瓦	貫	圓	錢
	其ノ他	—		—
	計	—		—
土管				
備考				

（注意）
一、燒成ノモノニ限リ調査スヘシ
二、瓦ト土管トヲ併セ製造スルモノハ製造場數及職工數ニ付テハ主ナル一方ニ之ヲ記載シ製品ノ數量及價額ニ付テハ之ヲ區別シテ各相當欄ニ記載スヘシ
三、其ノ他ノ欄ニハ鬼瓦、丸瓦、壁用瓦等ヲ記載スヘシ

第一〇　漆器

大正何年　報告期翌年四月限

製造場數（年末現在）	職工數（年末現在）男	女	計

	價額
飲食用器物	圓
家具及裝飾品	
其ノ他	
計	
備考	

（注意）
一、普通漆器ト稱スルモノヲ調査スヘシ
二、其ノ他ノ欄ニハ佛壇、佛具等ヲ記載スヘシ

第一一　製革

大正何年　報告期翌年四月限

製造場數（年末現在）	職工數（年末現在）男	女	計

	數量	價額	單價
牛革	枚	圓	錢
馬革			
其ノ他	—		—
計	—		—
備考			

（注意）
一、獸革ノミヲ調査スヘシ但シ毛皮ハ之ヲ除ク
二、枚數ハ一頭分ヲ以テ一枚ニ計算スヘシ

第一二　皮革製品

大正何年　報告期翌年四月限

製造場數（年末現在）	職工數（年末現在）男	女	計

	價額
靴	圓
鞄	
馬具	
調帶	
袋物（蟇口、紙入、莨入等）	
計	
備考	

（注意）
一、擬革製品ハ本表ニ之ヲ算入スヘカラス

第一三　製藍

自前年七月至其ノ年六月　報告期其ノ年十月限

製造場數	職工數 男	女	計

	數量	價額	單價
蒅（スクモ）	貫	圓	錢
藍玉			
備考			

（注意）
一、製造場數及職工數ハ製藍季節中通常ノ作業狀態ニ於ケル數ヲ記載スヘシ
二、蒅（スクモ）ノ欄ニハ藍玉ノ原料ニ供シタルモノヲモ記載スヘシ

第一四　植物油

大正何年　報告期翌年四月限

製造場數（年末現在）	職工數（年末現在）男	女	計

		數量	價額	單價
	菜種油	斤	圓	錢
	胡麻（ゴマ）油			
脂肪油	荏（エ）ノ油			
	棉實（メンジツ）油			
	亞麻仁油			
	椿油			
	桐（トー）油			
	大豆油			
	落花生油			
	椰子（ヤシ）油			
	其ノ他	—		—
	計	—		—
揮發油	松根（ショウコン）油			
	松精（ショウセイ）油			
	計	—		—
合計		—		—
備考				

第一五　澱粉

自前年七月至其ノ年六月　報告期其ノ年八月限

製造場數

	數量	價額	單價
馬鈴薯（ジャガイモ）	斤	圓	錢
甘藷（サツマイモ）			
其ノ他	—		—
計	—		—
備考			

（注意）
一、製造場數ハ其ノ期間ニ於テ作業ヲ爲シタル場數ヲ記載スヘシ
二、其ノ他ノ欄ニハ葛（クズ）、蕨（ワラビ）等ノ澱粉ヲ記載スヘシ

第一六　木製品

大正何年　報告期翌年四月限

製造場數（年末現在）		
職工數（年末現在）	男	
	女	
	計	
價額	履物（素地）	圓
	挽物	
	曲物	
	指物	
	箱類	
	桶、樽類	
	木箸	
	計	
備考		

第一七　竹製品

大正何年　報告期翌年四月限

製造場數（年末現在）		
職工數（年末現在）	男	
	女	
	計	
價額	籠及笊	圓
	簾	
	行李	
	バスケット	
	計	
備考		

第一八　籐製品

大正何年　報告期翌年四月限

製造場數（年末現在）		
職工數（年末現在）	男	
	女	
	計	
價額	履物表	圓
	敷物	
	卓子及椅子類	
	バスケット	
	計	
備考		

第一九　杞柳製品

大正何年　報告期翌年四月限

製造場數（年末現在）		
職工數（年末現在）	男	
	女	
	計	
價額	行李	圓
	籠及バスケット	
	計	
備考		

第二〇　刷子（ブラッシユ）及刷毛（ハケ）

大正何年　報告期翌年四月限

製造場數（年末現在）				
職工數（年末現在）	男			
	女			
	計			
		數量	價額	單價
齒磨用		打	圓	錢
理髪用				
糊附用				
其ノ他		－		－
計		－		－
備考				

第二一　麥稈、經木及麻眞田

大正何年　報告期翌年四月限

製造場數（年末現在）			
	數量	價額	單價
麥稈眞田	束	圓	錢
經木眞田			
麥稈經木交眞田			
マニラ麻眞田			
計			－
備考			

（注意）

一、一束ハ六十碼ヲ以テ計算スヘシ

第二二　疊表、英蓙及花莚

大正何年　報告期翌年四月限

		疊表	英蓙及花莚
製造場數（年末現在）			
職工數（年末現在）	男		
	女		
	計		

		數量	價額	單價
疊表	備後	枚	圓	錢
	琉球			
	計			－
英蓙及花莚	四十碼物	本		
	其ノ他	枚		－
	計	－		－
備考				

（注意）

一、疊表ト英蓙及花莚トヲ併セ製造スルモノハ製造場數及職工數ニ付テハ主ナル一方ニ之ヲ記載シ製品ノ數量及價額ニ付テハ之ヲ區別シテ各相當欄ニ記載スヘシ

二、備後表ノ欄ニハ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハス丸藺（備後藺又ハ單ニ藺ト謂フ）ヲ以テ製織セル總テノ疊表ヲ記載スヘシ

三、琉球表ノ欄ニハ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハス三角藺（芏苡又ハ七島藺ト謂フ）ヲ以テ製織セル總テノ疊表ヲ記載スヘシ

第二三　石材、土石及鑛水

大正何年　報告期翌年三月限

	數量	價額	單價
花崗岩	才	圓	錢
安山岩			
凝灰岩及灰岩			
砂岩			
大理石			
砂利	立坪		
硅砂	貫		
浮石砂			
陶石及陶土			
粘土（煉瓦、瓦、土管原料及耐火材料）			
火山灰			
石灰岩（セメント原料）			

クレー（製紙紡織用）			
石膏			
鑛水	石		
計			
備考			

（注意）

一、一オトハ一尺立方ヲ謂フ

●會社統計規則

（大正十四年十月二十八日商工省令第十二號）

會社統計規則左ノ通定ム

會社統計規則

第一條　會社ノ代表者ハ別記樣式ノ會社票ニ毎年十二月末日ニ於ケル狀況ニ基キ該當事項ヲ記入シ翌年一月十五日迄ニ其ノ本店又ハ主タル事務所所在地ノ市町村長ニ提出スヘシ但シ淸算中又ハ破産手續中ノ會社ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　市町村長前條ノ會社票ヲ受理シタルトキハ之ヲ取纏メ二月十日迄ニ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官前項ノ會社票ヲ受理シタルトキハ之ヲ取纏メ番號ヲ記入シ三月末日迄ニ商工大臣ニ提出スヘシ

第三條　第一條ノ規定ニ依リ提出シタル會社票ハ統計上ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四條　第一條ノ規定ニ依ル會社票ノ提出ヲ怠リ又ハ之ニ虛僞ノ事項ヲ記入シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五條　當該官吏若ハ吏員又ハ其ノ職ニ在リタル者本則ニ依ル職務ニ依リ知得シタル會社ニ關スル事項ヲ故ナク他ニ漏洩シタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六條　本則中町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式）

第　　號	會　社　票		大正　年十二月末日現在	
商號又ハ名稱		資本金又ハ出資額	出資額	圓
種類		資本金	總額	
			拂込額	
本店又ハ主タル事務所所在地	道府縣　郡市　町村　番地	社債額		
主タル業務		積立金		
		純益金		
		配當金		
設立年月	年　月	純損金		
備考				

大正　年　月　日

代表者氏名及捺印

●裏面の記載注意を熟讀の上記入せられたし

記載注意

一、商號又は名稱

登錄したる商號又は名稱を記入すへし

二、種類

合名會社、合資會社、株式會社、株式合資會社又は相互會社と記入すへし

三、主たる業務

當該會社の業務の內容を成るへく明瞭に記入すへし（二種以上の業務を併せ行ふ場合に於ては其の中の主たる業務一種を限り記入すること）

四、設立年月

登記したる設立年月を記入すへし

五、出資額又は資本金

最近の決算期に於ける現在額を記入すへし但し株式合資會社に付ては出資總額を出資額欄に、株金總額を資本金總額欄に、株金拂込額を資本金拂込額欄に記入すへし又相互會社に付ては基金總額を資本金總額欄に、拂込額を資本金拂込額欄に記入すへし

六、社債額

最近の決算期に於ける現在額を記入すへし（商法の規定に依り社債券を發行したるもののみを記入すること）

七、積立金

最近の決算期に於ける法定積立金其の他一切の積立金の合計を記入すへし（但し保險會社に於ける責任準備金及支拂備金は之を記入せさること）

八、純益金、配當金、純損金

最近の決算期より前一年間の決算額を通算したるものを記入すへし但し決算期を過ぎたるも決算未了の場合には其の前の決算期より遡りて一年間の決算額を通算したるものを記入すへし

相互會社の純益金には剩餘金を、配當金には基金に對する利息及分配金を記入すへし

右何れの場合に於ても純益金及純損金には前期よりの繰越益金又は繰越損金を算入すへからす

九、前年報告後商號又は名稱、種類、本店又は主たる事務所所在地、出資額又は資本金を變更したるとき又は前年の報告事項中誤謬ありたるときは其の旨を備考欄に記入すへし

一〇、本票に記入する數字は1、2、3等の如きアラビア數字を用ゐるへし

一一、本票中記入事項なき欄には横線を引くへし

一二、會社の代表者は番號を記入せすして其の儘會社票を提出すへし

●工場統計規則

（大正十二年十二月十一日農商務省令第九號　改正　大正一五年商工省令第十五號）

工場統計報告規則左ノ通改正ス

工場統計規則

第一條　常時五人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ其ノ工場毎ニ別記樣式ノ工場票ニ毎年十二月末日ニ於ケル狀況ニ基キ該當ノ事項ヲ調査記入シ翌年一月十五日迄ニ其ノ工場所在地ノ市町村長ニ提出スヘシ但シ鑛業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ヲ行フ工場及官立工場ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　市町村長前條ノ工場票ヲ受理シタルトキハ之ヲ取纏メ二月十五日迄ニ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官前項ノ工場票ヲ受理シタルトキハ之ヲ取纏メ番號ヲ記入シタル上四月十五日迄ニ商工大臣ニ提出スヘシ

第三條　第一條ノ規定ニ依リ提出シタル工場票ハ統計上ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四條　第一條ノ規定ニ依ル工場票ノ提出ヲ怠リ又ハ之ニ虛僞ノ事項ヲ記入シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五條　工業主カ法人、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ前條ノ罰則ハ法人ノ代表者又ハ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　當該官吏若ハ吏員又ハ其ノ職ニ在リタル者本則ニ依ル職務ニ依リ知得シタル工場ニ關スル事項ヲ故ナク他ニ漏洩シタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七條　本則中町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式）

第　　號		工			
(1) 工場名					
(2) 工場所在地	道府縣　郡市　町村　番地				
(3) 事業開始年月					
(4) 主要事業					
(5) 一年間作業總日數					
(6) 常時使用職工數					
(7) 一年間生産額	品目	數量	單位	價額	
				圓	

		場　票			
(8) 從業者數	職員	事務ニ從事スル者			
		技術ニ從事スル者			
	職工		男	女	計
		十六歳未滿			
		十六歳以上			
		計			
	其ノ他ノ從業者				
(9)	普通職工一人一日ノ實收賃金		錢	錢	
(10) 原動機			箇數	實馬力數	
	蒸汽機關			馬力 •	
	蒸汽タービン			•	
	瓦斯機關			•	
	石油機關			•	
	タービン水車			•	
	ペルトン水車			•	
	日本形水車			•	
	電動機			•	
(11) 一年間消費額			數量		
	石炭		斤		
	コークス		斤		
	石油（揮發油、輕油、機械油及重油ヲ含ム）		石 [illegible]		
	瓦斯（天然瓦斯ヲ含ム）		立方呎		
	木炭		貫		
	電力		キロワット時		

大正　年十二月末日現在
備考

大正　年　月　日

工業主氏名及捺印

記載注意

一、工場名

鐘淵紡績株式會社兵庫工場、池田工具製作所、今井織物工場等の如く當該工場の稱呼を記入すへし特別の稱呼なき場合には其の工場の主たる事業及工業主の氏、名稱等に依り假りに名稱を附して記すへし例へは中村「レンズ」工場、旭合名會社鑄物工場、吉田組染物工場と謂ふか如し

二、工場所在地

道府縣郡市町村番地其の他之に準すへきものを記入すへし

三、事業開始年月

（一）事業繼承又は營業組織變更の場合と雖其の工場の最初の事業開始の年月を記入すへし

（二）事業全部を變更したる場合には現在の主たる事業を開始したる年月を記入すへし

四、主要事業

當該工場に於ける主要なる事業を成るへく明瞭に記入すへし例へは織物業に在りては綿織物業、絹織物業、絹綿交織物業等と記入し、機械製造業に在りては蒸汽機關製造業、石油機關製造業、電氣機械製造業、紡績機械製造業、建築用機械製造業、採鑛用機械製造業、製鍊用機械製造業等と記入し、器具製造業に在りては製圖器製造業、度量衡器製造業、農具製造業、刃物製造業等と記入し、釀造業に在りては淸酒釀造業、麥酒釀造業、醬油釀造業等と記入するか如し

五、一年間作業總日數

既往一年間（事業開始後一年に滿たさるものは開始後の期間）に於て作業したる總日數を記入すへし但し作業季節か前年より本年に跨るものは其の期間に於ける作業總日數を記入すへし

六、常時使用職工數

當該工場の通常の作業狀態に於ける一日使用職工數を記入すへし

七、一年間生產額

（一）既往一年間に於て實際生產したるものゝ總額を記入すへし但し作業季節か前年より本年に跨るものは其の期間に於ける生產額を記入すへし

（二）賃仕事として他に出し當該工場に於ては全然製造、加工又は修理を爲さゝるものに付ては記入を爲すへからす

（三）品目

（イ）品目は成るへく細別して記入すへし

（ロ）加工又は修理を爲したる品目に付ては總て其の目に「加工」又は「修理」と附記すへし

（ハ）賃仕事として他より注文を受け製造を爲したる品目に付ては總て其の目に「賃仕事」と附記すへし

（四）數量

（イ）單位は箇、枚、組、打、貫、瓩、封度、英噸、佛噸、尺、米、碼、立方尺、立方米等の如く計算の單位を記入すへし

（ロ）束、斤、反、疋、叺、梱、樽、函等の如く慣用の單位にして品目又は地方に依り實數量に差異あるものは備考に說明を記入すへし

（ハ）雜多の物件を修理する場合等の如く數量を記入すること著しく困難なるときは其の記入を省略し次の價額の欄に價額のみを記入するも妨なし

（五）價額

（イ）價額は既に賣却したるものに付ては其の賣上金額、未た賣却せさるものに付ては十二月末日現在の市價に依り計算し各品目每に其の合計額を記入すへし

（ロ）加工に係る品目に付ては價額に代へて加工料又は其の見積額を記入すへし

（ハ）修理に係る品目に付ては價額に代へて修繕料又は其の見積額を記入すべし

（ニ）賃仕事に付ては價額に代へて工賃額を記入すへし

八、從業者數

（一）從業者數には工業主及雇傭關係なき其の家族を含ます

（二）季節的事業を行ふ工場にして十二月末日に於て從業者を有せさるもの又は從業者甚しく少數なるものに在りては其の作業季節に於ける通常の狀態に依り從業者數を記入し備考に其の調査の時期を記入すへし

（三）前項の外特別の事情に依り十二月末日に於て從業者を有せす又は從業者甚しく少數なる工場に在りては其の通常の作業狀態に於ける從業者數を記入し備考に其の調査の時期を記入すへし

（四）職員

（イ）工場の業務に直接從事するものに限り記入すへし

（ロ）事務と技術とを兼務するものに付ては其の主たる職務に依り孰れか一方のみに記入を爲すへし

（五）職工

（イ）職工とは主として作業場構內に在りて工場の目的とする作業の本體たる業務に付勞働に從事し又は直接に其の業務を助成する爲勞働に從事する者を謂ふ（職工長、伍長、工長、普通職工、臨時職工、日雇職工は勿論工場建設物の修繕等に從事する常備の大工、左官をも含む）

（ロ）徒弟は之を職工と看做す

（ハ）職工の年齡は數へ年に依らす滿年に依るへし

（六）其の他の從業者

其の他の從業者とは給仕、小使、門衞、掃除夫、賄方、專ら作業場構外に在りて運搬に從事する者等職工以外の勞務者を謂ふ

九、普通職工一人一日の實收賃金

（一）當該工場の目的とする作業の本體たる業務に從事する普通の職工の一人一日の實收賃金を記入すへし

（二）實收賃金には手當、步合、賞與等を含む

（三）賄、被服、住居等實物を給與する場合に於ては其の價額を見積り之を合算記入すへし

一〇、原動機

（一）原動機は運轉休止中のものと雖總て之を記入すへし

（二）暖房用、沸湯用、乾燥用等に使用する汽罐は蒸汽機關にあらす

（三）發電機及蓄電池は電動機にあらす

（四）原動機と直結の發電機あるときと雖其の原動機のみを記入すへし

（五）實馬力數は單位以下一位迄記入し二位以下は切捨つるものとす

一一、一年間消費額

燃料、原料其の他用途の如何を問はす既往一年間（作業季節か前年より本年に跨るものは其の期間）に於て消費したるものの總額を各所定の單位に依り記入すへし

一二、本票に記入する數字は1、2、3等の如きアラビア數字を用ゐるへし

一三、本票中記入事實なき欄には橫線を引くへし

一四、番號の欄には工業主に於て記入することを要せす

第四章　國勢調査

●國勢調査ニ關スル法律

（明治三十五年十二月二日法律第四十九號）
（改正　明治三八年第一三號　大正一一年第五一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國勢調査ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　國勢調査ハ各〻十箇年每ニ一回帝國版圖內ニ施行ス

前項ノ規定ニ依ル調査後五年ニ該ル年ニ於テ簡易ナル國勢調査ヲ施行ス

第二條　國勢調査ノ範圍、方法及經費ノ國庫ト地方分擔トノ割合其ノ他必要ノ事項ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　第一回國勢調査ヲ行フヘキ時期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●國勢調査施行令

（大正七年九月二十六日勅令第三百五十八號）

朕國勢調査施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

國勢調査施行令

第一條　第一回國勢調査ハ大正九年十月一日午前零時ノ現在ニ依リ之ヲ行フ

第二條　第一回國勢調査ハ前條ノ時期ニ於テ帝國版圖內ニ現在スル者ニ付左ノ事項ヲ調査ス

一　氏名
二　世帶ニ於ケル地位
三　男女ノ別
四　出生ノ年月日
五　配偶ノ關係
六　職業及職業上ノ地位
七　出生地
八　民籍別又ハ國籍別

前條ノ時期前ニ帝國ノ港灣ヲ發シ途中寄港セスシテ前條ノ時期後四日以內ニ始メテ帝國ノ港灣ニ入リタル者ハ大正九年十月一日午前零時ニ帝國版圖內ニ現在シタル者ト看做ス

第三條　前條ノ調査ハ各世帶ニ就キ之ヲ執行ス

本令ニ於テ世帶ト稱スルハ住居及家計ヲ共ニスル者ヲ謂フ

一人ニシテ住居ヲ有シ家計ヲ立ツル者亦一世帶トス

家計ヲ共ニスルモ別ニ住居ヲ有スル者又ハ住居ヲ共ニスルモ別ニ家計ヲ立ツル者ハ一世帶トス其ノ一人ナル場合亦同シ

寄宿舍、病院、旅店、下宿屋其ノ他家計ヲ共ニセサル者ノ集合スル場屋又ハ船舶ニ在ル者ニシテ其ノ家計ヲ共ニセサルモノハ一場屋又ハ一船舶每ニ一世帶ニ準ス

第四條　世帶主又ハ世帶ノ管理者ハ其ノ世帶ニ現在スル者ニ就キ國勢調査申告書ヲ以テ第二條第一項各號ノ事項ヲ申告スルノ義務アルモノトス

第五條　國勢調査申告書用紙ハ之ヲ各世帶ニ配付ス

第六條　府縣知事ハ內閣總理大臣ノ命ヲ承ケ府縣內ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第七條　郡長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ郡內ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第八條　市長ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ市內ノ調査ノ執行ヲ管掌ス

第九條　町村長ハ郡長ノ指揮監督ヲ承ケ町村內ノ調査ノ執行ヲ管掌ス

第十條　市町村長ハ調査ヲ執行スル爲府縣知事ノ認可ヲ經テ市町村ノ區域ヲ調査區ニ分割ス但シ特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ一町村ヲ以テ一調査區ト爲スコトヲ得

第十一條　內閣總理大臣ハ府縣知事ノ具申ニ依リ船舶ノ輻湊スル水面ノ調査ヲ府縣知事ヲシテ直接ニ管掌セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ其ノ直接ニ管掌スル區域ヲ關係郡市町村長ニ通知ス

府縣知事ノ直接ニ管掌スル水面ノ調査ニ關シテハ府縣知事ハ關係官公署ノ職員及實況ニ通シタル者ニ囑託シテ其ノ事務ヲ補助セシムルコトヲ得

府縣知事ノ直接ニ管掌スル水面ノ調査ニ關シテハ府縣知事ハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ調査區ノ分割及調査ニ關スル手續ヲ定ム

第十二條　國勢調査ノ事務ヲ執行セシムル爲市町村ニ國勢調査員ヲ置ク

府縣知事直接ニ調査ヲ管掌スル場合ニ於テハ府縣ニ國勢調査員ヲ置ク

第十三條　國勢調査員ハ府縣知事ノ推薦ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

國勢調査員ハ名譽職トス

第十四條　國勢調査員ニハ別ニ定ムル徽章ヲ交付シ職務執行ノ際之ヲ佩用セシム

第十五條　國勢調査員ハ府縣知事又ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ擔當調査區內ニ於ケル國勢調査申告書用紙ノ配付、國勢調査申告書ノ蒐集其ノ他之ニ伴フ諸般ノ事務ヲ執行ス

第十六條　國勢調査員各世帶ニ就キ前條ノ職務ヲ執行スル期間ハ九月二十一日ヨリ十月五日迄トス但シ蒐集シタル國勢調査申告書ノ記載事項ニ關シ質問ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　國勢調査申告書及附屬書類ハ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ町村長ハ之ヲ郡長ニ、郡長及市長ハ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ內閣總理大臣ノ定メタル期限迄ニ之ヲ內閣總理大臣ニ提出スヘシ

第十八條　天災事變ノ爲國勢調査員第十六條ノ期間內ニ其ノ職務ヲ執行シ又ハ之ヲ完結スルコト能ハサルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ旨ヲ內閣總理大臣ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ區域ヲ限リ別ニ期間ヲ定メ又ハ其ノ期間ヲ延長ス

府縣知事別ニ期間ヲ定メ又ハ期間ヲ延長シタルトキハ之ヲ告示ス

第十九條　內閣總理大臣ノ要求アリタルトキハ各省大臣ハ所管ノ官廳、官吏及吏員ニ命シ內閣總理大臣又ハ其ノ指定シタル職員ノ指揮ヲ承ケ國勢調査ノ事務ニ服セシムヘシ

第二十條　本令中府縣知事ニ關スル規定ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官ニ、郡郡長市町村市町村長ニ關スル規定ハ郡制市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ相當スル地區吏員ニ、郡郡長市市長ニ關スル規定ハ市制第六條及第八十二條ノ市ニ在リテハ市長區長ニ之ヲ準用ス

第二十一條　本令ヲ適用シ難キ場所ニ關スル調査ニ付テハ內閣總理大臣別ニ其ノ手續ヲ定ム

第二十二條　朝鮮、臺灣及樺太ニ於テハ第二條第一項ニ揭クル事項ノ外朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官ノ必要ト認ムル事項ヲ併セ調査スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ內閣總理大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第二十三條　朝鮮、臺灣及樺太ニ執行スル國勢調査ニ關シテハ第四條乃至第二十一條ノ規定ヲ適用セス朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官內閣總理大臣ノ承認ヲ得テ別ニ其ノ手續ヲ定ム

●國勢調査施行細則

（大正八年五月二十八日閣令第六號）

國勢調査施行細則左ノ通定ム

國勢調査施行細則

第一條　世帶ニ於テ世帶主ナキトキ又ハ不在ナルトキハ事實上之ヲ管理スル者、世帶ニ在ル者ノ選定シタル者又ハ國勢調査員ノ指定シタル者ヲ以テ世帶ノ管理者トス

第二條　府縣知事ハ船舶ノ輻湊スル水面ノ調査ヲ直接ニ管掌スルヲ適當ト認メタルトキハ當該水面ノ區域及大正八年十月一日現在ニ碇泊船舶ノ種類隻數ヲ具シ同月三十一日迄ニ特別調査水面區域ノ指定ヲ申請スヘシ

前項ノ指定アリタルトキハ府縣知事ハ直ニ當該水面調査區ノ分割及調査ニ關スル手續ヲ定メ認可ヲ申請スヘシ

第三條　市町村ノ境界未定若ハ不明ノ場所又ハ入會ノ場所ハ關係市町村長ノ協議ニ依リ調査區ノ境界ヲ定ムヘシ協議調ハサルトキハ府縣知事之ヲ指定ス

第四條　府縣知事ハ管內ニ於ケル國勢調査員ノ氏名ヲ告示スヘシ

第五條　市町村長ハ調査區ノ番號、區域及各

區擔當國勢調査員ノ氏名竝豫備國勢調査員ノ氏名ヲ告示スヘシ

特別調査水面區域ニ在リテハ府縣知事前項ノ告示ヲ爲スヘシ

第六條　國勢調査ノ申告ハ申告義務者國勢調査申告書用紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ用紙ハ大正九年九月二十一日ヨリ同月三十日迄ノ間ニ於テ國勢調査員之ヲ各世帶ニ配付ス

第七條　申告義務者前條第二項ノ期間內ニ國勢調査申告書用紙ノ配付ヲ受ケサルトキハ當該區域ノ擔當國勢調査員又ハ所屬市町村長ニ其ノ旨申出テ之カ交付ヲ受クヘシ

第八條　申告義務者ハ大正九年十月一日午前八時迄ニ國勢調査申告書ヲ作成シ國勢調査員ノ巡回ヲ待チ之ヲ提出スヘシ

第九條　大正九年十月一日午前零時ニ帝國版圖內ニ現在シタル者何レノ世帶ニ於テモ申告セラレサリシコトヲ知リタルトキハ同月四日迄ニ最寄市町村長又ハ國勢調査員ニ其ノ旨申出ツヘシ

第十條　國勢調査施行令第二十一條ノ規定ニ依リ別ニ調査手續ヲ定ムヘキモノ左ノ如シ

一　宮城、離宮、皇族ノ殿邸其ノ他之ニ準スヘキ箇所

二　外國ノ大使館、公使館及軍艦

三　陸海軍ノ部隊及艦船

四　司法大臣ノ管理ニ屬スル監獄

第十一條　國勢調査申告書ハ統計上ノ目的ニノミ使用シ如何ナル場合ト雖之ヲ公表スルコトヲ得ス

第十二條　國勢調査ノ事務ニ從事シタル者ハ其ノ職務執行中知得シタル個人ニ關スル事項ヲ故ナク他ニ漏洩スヘカラス

第十三條　府縣知事、郡長及市町村長ハ管內ニ諭告シ共進會展覽會各種ノ大會總會ノ開催、團體旅行其ノ他國勢調査ニ際シ人口分布ノ常態ヲ激變シ延テ調査ヲ阻害スルノ虞アル一切ノ行爲ヲ成ルヘク避ケシムヘシ

第十四條　國勢調査ニ際シ調査ヲ忌避シ、申告ヲ拒ミ又ハ故意ニ不實ノ申告ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス申告義務者ヲシテ申告ヲ爲スコトヲ得サラシメ又ハ不實ノ申告ヲ爲サシメタル者亦同シ

第十五條　虛僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用ヰテ國勢調査ヲ妨ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十七條　國勢調査施行令第二十條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

●國勢調査地方事務取扱規程

（大正八年五月二十八日 內閣訓令第二號）

國勢調査地方事務取扱規程左ノ通定ム

國勢調査地方事務取扱規程

第一章　府縣

第一條　府縣知事ハ府縣廳內ニ臨時國勢調査部ヲ設ケ管內ニ於ケル國勢調査ノ事務ヲ處理セシムヘシ

第二條　臨時國勢調査部ニハ部長一人副部長一人ヲ置キ部長ハ府縣內務部長ヲシテ之ニ當ラシメ副部長ハ府縣理事官中ヨリ府縣知事之ヲ命スヘシ

府縣知事ハ前項職員ノ外府縣官吏中ヨリ臨時國勢調査部員ヲ命シ部長ノ指揮ヲ承ケ部ノ事務ニ從事セシムヘシ

第三條　府縣知事ハ臨時國勢調査局長官ノ要求ニ應シ臨時國勢調査部ノ職員三名ヲ臨時國勢調査局ニ派遣シ國勢調査事務ニ關スル協議ヲ爲サシムヘシ但シ內一名ハ部長又ハ副部長、一名ハ統計事務ノ主任者タルコトヲ要ス

第四條　府縣知事ハ大正九年五月十五日迄ニ郡市長ヲ府縣廳ニ招集シ國勢調査事務ニ關スル指示ヲ爲スヘシ

第五條　府縣知事市町村ノ調査區ノ設定ヲ認可シタルトキハ直ニ市町村別調査區數ヲ臨時國勢調査局長官ニ報告スヘシ

第六條　府縣知事ハ調査區ノ實況ニ通シ國勢調査員タルニ適當ナル者ヲ內申スヘシ

第七條　府縣ニ於テ調査事務ニ要スル印刷物及國勢調査員徽章竝郡市町村ニ要スル印刷物ノ豫備ハ臨時國勢調査局長官之ヲ府縣知事ニ交付ス

第八條　府縣知事ハ郡市長ヨリ提出シタル調査書類ヲ檢査シ郡市要計表及特別調査水面區域要計表ニ依リ府縣要計表ヲ作成シ府縣要計表及郡市要計表ハ郵便ニ依リ其ノ他ノ調査書類ハ適當ノ方法ニ依リ大正九年十二月十二日迄ニ臨時國勢調査局長官宛發送スヘシ

第九條　天災事變ノ爲國勢調査施行令第十六條ノ期間內ニ調査ヲ完了スルコト能ハサルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ旨臨時國勢調査局長官ニ電報スヘシ

第十條　府縣知事ハ調査ノ準備及實施ノ期間中適當ノ時期ニ於テ臨時國勢調査部員ヲ管內ニ派遣シ調査事務ノ指導監督ヲ爲サシムヘシ

第二章　郡

第十一條　郡長ハ國勢調査事務ニ關スル指示ヲ受クル爲府縣知事ノ招集ニ應スヘシ

第十二條　郡長ハ大正九年五月三十一日迄ニ町村長ヲ郡役所ニ招集シ國勢調査事務ニ關スル指示ヲ爲スヘシ

第十三條　郡町村ニ於テ調査事務ニ要スル印刷物及國勢調査員徽章ハ臨時國勢調査局長官ヨリ郡長ニ交付シ町村所要ノ分ハ郡長ヨリ更ニ町村長ニ交付スヘシ

第十四條　郡長ハ町村長ヨリ提出シタル調査書類ヲ檢査シ町村要計表ニ依リ郡要計表ヲ作成シ調査書類ト共ニ適當ノ方法ニ依リ之ヲ府縣知事ニ進達スヘシ

第十五條　天災事變ノ爲國勢調査施行令第十六條ノ期間內ニ調査ヲ完了スルコト能ハサルトキハ郡長ハ直ニ其ノ旨府縣知事ニ電報スヘシ

第十六條　郡長ハ調査ノ準備及實施ノ期間中適當ノ時期ニ於テ所屬官吏ヲ管內ニ派遣シ調査事務ノ指導監督ヲ爲サシムヘシ

第三章　市町村

第一節　總則

第十七條　市町村長ハ國勢調査員ヲ指揮監督シ市町村內ノ國勢調査ノ執行ヲ管掌ス

第十八條　市長ハ國勢調査事務ニ關スル指示ヲ受クル爲府縣知事ノ招集ニ應スヘシ

町村長ハ國勢調査事務ニ關スル指示ヲ受クル爲郡長ノ招集ニ應スヘシ

第十九條　國勢調査ニ關スル市町村長ノ事務ハ左ノ如シ

一　調査區ノ設定

二　國勢調査員擔當區ノ指定

三　國勢調査員ノ訓練及準備調査

四　申告書用紙ノ交付

五　申告書及照査表ノ檢査

六　市町村要計表ノ作成、申告書及照査表ノ整理竝提出

七　以上ノ附帶事務

第二十條　市町村長ハ適當ノ方法ニ依リ管內ニ國勢調査ノ趣旨ノ普及ヲ圖ルヘシ

第二十一條　調査事務ニ要スル印刷物及國勢調査員徽章ハ市ニ在リテハ臨時國勢調査局長官ヨリ市長ニ、町村ニ在リテハ郡長ヨリ町村長ニ之ヲ交付ス

第二十二條　天災事變ノ爲國勢調査施行令第十六條ノ期間內ニ調査ヲ完了スルコト能ハサルトキハ市長ハ府縣知事ニ、町村長ハ郡長ニ直ニ其ノ旨報告スヘシ

第二節　調査區ノ設定

第二十三條　市町村長ハ左ノ各號ニ依リ管內ヲ分割シテ調査區ヲ設定シ大正九年六月十五日迄ニ府縣知事ノ認可ヲ申請スヘシ

一　調査區ハ一調査員一日中ニ區內各世帶ニ申告書用紙ノ配付又ハ申告書ノ蒐集ヲ完結シ得ルヲ程度トシ大要左ノ標準ニ依ルコト

市町村ノ人口	一調査員平均受持世帶數
人口十萬以上	一二〇
同　五萬以上	一〇〇
同　三萬以上	八〇
同　一萬以上	六〇
同　一萬未滿	五〇

二　調査區ノ區域ハ成ルヘク大字小字等地理上獨立ノ稱呼ヲ有スル區域ニ依リ之ニ依リ難キトキハ山岳、丘陵、河川、溝渠、道路、鐵道、電信電話線等判明ナルモノヲ以テ境界トスルコト

三　多數ノ人員集合住居スル官公私ノ場屋

例ヘハ寄宿舍、病院、旅店、下宿屋等ノ存在スル場所ハ第一號ノ標準世帶數ニ拘ラス其ノ人員ニ應シテ調査區ヲ設定スルコト

四　特別ノ事情アリ分割セサルヲ便トスル場合ニ於テハ一町村ヲ以テ一調査區トスルコト

第二十四條　市町村長調査區ヲ設定スルニハ其ノ市町村ノ區域ニ屬スル陸上及水面ニ重複脫漏ナキヲ期スヘシ

第二十五條　調査區設定ノ認可申請書ニハ調査區ノ番號、區域、世帶概數及人口概數ヲ記シ調査區ニ分割シタル市町村略圖ヲ添附スヘシ

町村組合ニ在リテハ調査區番號ハ其ノ一町村每ニ一號ヨリ始ムヘシ

第三節　國勢調査員擔當區ノ指定

第二十六條　一調査區ノ調査ハ一人ノ國勢調査員之ヲ擔當スルモノトス

第二十七條　國勢調査員ノ任命アリタルトキハ市町村長ハ各國勢調査員ノ擔當調査區ヲ定メ辭令書及徽章ニ照査表ヲ添ヘ大正九年七月三十一日迄ニ之ヲ本人ニ交付スヘシ但シ調査區ヲ擔當セシメサル國勢調査員ニハ照査表ヲ交付セス豫備員タル旨ヲ通知スヘシ

第二十八條　國勢調査員ニ交付スヘキ照査表ハ一人ニ付二通トシ市町村長ハ豫メ各通指定ノ箇所ニ府縣郡市町村役所役場名、調査區番號、國勢調査員氏名、調査區區域ヲ記入シ役所役場名ノ下ニ其ノ印ヲ押捺スヘシ

第二十九條　國勢調査員疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲調査ニ從事シ難キトキハ市町村長ハ直ニ豫備員中ヨリ之ニ代ラシメ其ノ旨告示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ照査表其ノ他一切ノ印刷物及書類ヲ回收シ國勢調査員ノ氏名ヲ書換ヘ新擔當國勢調査員ニ交付スヘシ

第四節　國勢調査員ノ訓練及準備調査

第三十條　市町村長ハ國勢調査員ノ擔當調査區ヲ指定シタル後速ニ國勢調査員ヲ招集シ國勢調査員心得、照査表用紙、申告書用紙及申告書記入心得各一通ヲ交付シ且國勢調査員ノ心得ヘキ要項ヲ指示スヘシ

第三十一條　市町村長ハ適當ノ時期ニ於テ國勢調査員ヲ招集シ調査事務ノ研究又ハ協議ヲ爲サシムヘシ

第三十二條　市町村長ハ國勢調査員ノ職務上ノ參考トナルヘキ地圖其ノ他ノ書類ヲ國勢調査員ニ示スヘシ

第三十三條　市町村長ハ調査期日ニ先チ期間ヲ定メ國勢調査員ヲシテ擔當調査區ノ各世帶ニ就キ準備調査ヲ爲サシムヘシ

第三十四條　市町村長ハ準備調査執行ニ必要ナル世帶番號札ヲ調製シ國勢調査員ニ交付スヘシ

前項世帶番號札ノ品質形狀ハ市町村長適宜之ヲ定ムヘシ

第五節　申告書用紙ノ交付

第三十五條　國勢調査員準備調査ヲ終リ照査表ヲ提示シタルトキハ市町村長ハ檢査ノ上之ヲ還付スルト同時ニ各世帶ニ配付スヘキ申告書用紙ヲ國勢調査員ニ交付スヘシ

申告書用紙ノ枚數ハ照査表ニ記入アル世帶數ニ百分ノ十ノ豫備ヲ加ヘタルモノトス

第三十六條　市町村長前條ノ交付ヲ終リタルトキハ交付總數及殘餘ノ數ヲ市長ハ府縣知事ニ、町村長ハ郡長ニ速ニ報告スヘシ

殘餘ナキトキ又ハ殘餘アルモ交付總數ノ百分ノ五ニ滿タサルトキハ其ノ旨併セテ報告スヘシ

第三十七條　申告書用紙ノ交付ニ際シ不足ヲ生シタルトキハ市長ハ府縣知事ニ、町村長ハ郡長ニ請求シテ其ノ補給ヲ受ケ速ニ之ヲ國勢調査員ニ交付スヘシ

第三十八條　世帶又ハ世帶員增加ノ爲申告書用紙ニ不足ヲ生シ國勢調査員ヨリ補給ノ請求アリタルトキハ市町村長ハ豫備ノ中ヨリ之ヲ交付スヘシ

市町村長ノ有スル豫備數交付總數ノ百分ノ五ヲ下リタルトキハ之カ補給ヲ市長ハ府縣知事ニ、町村長ハ郡長ニ請求スヘシ

豫備數缺乏セル場合ニ於テ卽時補給ヲ要スルトキハ市町村長ハ國勢調査員ノ有スル豫備ノ中ヨリ回收シテ之ヲ交付スヘシ

第三十九條　國勢調査員ニ交付スル申告書用紙ニハ指定ノ箇所ニ調査區番號及府縣郡市町村名ヲ記入スヘシ

前條第三項ノ規定ニ依リ申告書用紙ヲ國勢調査員ヨリ回收シテ交付スル場合ニハ調査區番號其ノ他ニ必要ナル訂正ヲ爲スヘシ

第六節　申告書及照査表ノ檢査

第四十條　國勢調査員準備調査後照査表ヲ提示シタルトキハ市町村長ハ其ノ調査ノ成績ヲ檢査スヘシ

前項檢査ノ結果調査ニ重複、脫漏又ハ誤謬ノ疑アルトキハ市町村長ハ之ヲ國勢調査員ニ質シ照査表ノ訂正ヲ命シ必要ト認ムルトキハ再調査ヲ命スヘシ

第四十一條　國勢調査員申告書ノ蒐集ヲ終リ申告書、照査表及照査表寫ヲ提出シタルトキハ市町村長ハ之ヲ檢査スヘシ

第四十二條　前條檢査ノ結果申告書又ハ照査表及照査表寫ノ記入ニ誤謬脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ市町村長ハ國勢調査員ヲシテ之ヲ訂正セシムヘシ

申告書記入ノ文字不明ナルトキハ國勢調査員ヲシテ淨寫セシメ申告義務者氏名ノ次ニ「國勢調査員何某淨寫」ト記入シ原書左上部ニ「淨寫濟原書」ト附記セシムヘシ

第四十三條　市町村長ハ調査ノ結果調査漏ノ世帶アリト認メタルトキハ國勢調査員ヲシテ之カ調査ヲ爲サシメ既ニ調査ヲ經タル世帶ニ關シ必要ト認メタルトキハ再調査ヲ爲サシムヘシ

第四十四條　市町村長ハ申告書、照査表及照査表寫ノ檢査訂正ヲ終リタルトキハ照査表及照査表寫ノ末尾ニ日附ヲ記入シ記名捺印スヘシ

第七節　市町村要計表ノ作成、申告書及照査表ノ整理竝提出

第四十五條　市町村長前數條ノ手續ヲ終リタルトキハ市町村要計表二通ヲ作成スヘシ但シ町村組合ニ在リテハ其ノ一町村每ニ之ヲ作成スヘシ

市町村要計表ノ作成ハ市町村要計表用紙ヲ用ヰ調査區番號ノ順序ニ從ヒ照査表ニ依リ一調査區每ニ調査區番號、申告書ノ通數及人員實數ヲ記入シ次ニ其ノ合計ヲ算出記入スルモノトス但シ用紙二枚以上ヲ用ヰタルトキハ合計ハ之ヲ一枚每ニ、總計ハ之ヲ最終ノ用紙ニ記入シ且各用紙指定ノ箇所ニ順次其ノ枚數及號數ヲ記入スヘシ

前項ノ場合ニ於テ照査表ニ依リ記入シタル數字ハ必ス照査表ニ對照シ且合計及總計ハ更ニ檢算スヘシ

第四十六條　市町村長前條ノ手續ヲ終リタルトキハ市町村要計表末尾ニ日附ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ用紙二枚以上ヲ用ヰタルトキハ最終ノ用紙ニ日附ヲ記入シ記名捺印スヘシ

第四十七條　市町村長市町村要計表ノ作成ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　各調査區ノ申告書ヲ照査表ニ對照シ通數枚數ヲ檢査シ申告書番號順ニ重ネ一調査區每ニ一括トシ更ニ其ノ各括ヲ市町村要計表ニ對照シ調査區番號順ニ重ネ市町村全部ヲ一括トスルコト但シ一市町村分ヲ一括ト爲シ難キ場合ハ便宜分割シ「何市町村何括ノ內第何號」ト記入セル札ヲ附シ且市町村要計表欄外ニ其ノ括數ヲ記入スヘシ

二　照査表ヲ調査區番號順ニ重ネ市町村要計表一通ヲ添ヘ一綴トスルコト

三　照査表寫ヲ調査區番號順ニ重ネ市町村要計表ノ他ノ一通ヲ添ヘ一綴トスルコト

四　國勢調査員ノ淨寫シタル申告書アルトキハ淨寫ノ分ヲ括中ニ入レ原書ハ之ヲ除キ置クコト

第四十八條　市町村長ハ府縣知事ノ定メタル期日迄ニ申告書括竝市町村要計表照査表綴ヲ取纏メ市長ハ府縣知事ニ、町村長ハ郡長ニ之ヲ提出スヘシ

前條第三號ノ市町村要計表照査表寫綴及同

條第四號ノ原書ハ次回國勢調査ノ時期迄市町村長之ヲ保存スヘシ

第四十九條　市町村長ハ進達調査書類ノ紛失毀損ヲ防ク爲其ノ發送ニ際シ特ニ包裝及遞送ノ方法ニ注意スヘシ

第五十條　市町村長ハ調査書類提出後ト雖該書類ノ記入事項ニ關シ監督官廳ヨリ照會アリタルトキハ保存書類ニ依リ又ハ國勢調査員タリシ者ニ質シ若ハ實地ニ就キ調査シ速ニ答申スヘシ

補則

本規程中府縣府縣知事ニ關スル規定ハ北海道ニ在リテハ北海道北海道廳長官ニ、郡郡長市町村市町村長ニ關スル規定ハ郡制市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ相當スル地區吏員ニ、郡郡長市市長ニ關スル規定ハ市制第六條及第八十二條ノ市ニ在リテハ市市長區區長ニ之ヲ準用ス

●國勢調査員心得　大正八年五月二十八日（内閣訓令第三號）

國勢調査員心得左ノ通定ム

國勢調査員心得

第一章　總則

第一條　國勢調査員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ一調査區ヲ擔當シ左ノ職務ヲ行フ

一　準備調査

二　申告書用紙ノ配付

三　申告書ノ蒐集及檢査

四　申告書ノ整理及提出

五　以上ノ附帶事務

第二條　國勢調査員ハ世帶ニ就キ職務ヲ執行スル際國勢調査員徽章ヲ佩用スヘシ

第三條　國勢調査員ハ世帶ニ就キ職務ヲ執行スル際國勢調査ニ關スル諸規程及照査表ヲ携帶スヘシ

第四條　國勢調査員ハ世帶ニ就キ職務ヲ執行スル際必要ナキ事項ヲ質問スヘカラス

第五條　國勢調査員ハ職務執行中知得シタル事項ヲ故ナク他ニ漏洩スヘカラス

第六條　國勢調査員ハ擔當調査區ト隣接調査區トノ間ニ重複、脱漏又ハ所屬不明ノ地域アリト認メタルトキハ直ニ其ノ旨市町村長ニ申出テ指揮ヲ請フヘシ

第七條　國勢調査員ハ職務執行ニ便スル爲豫メ區内巡回ノ順路ヲ定メ準備調査、申告書用紙配付及申告書蒐集ノ際ハ總テ此ノ順路ニ依ルヘシ

第八條　國勢調査員ハ申告書及照査表提出後ニ於テモ市町村長ヨリ説明又ハ再調査ヲ命セラレタルトキハ調査ノ上速ニ答申スヘシ

第二章　準備調査

第九條　國勢調査員ハ市町村長ノ定メタル期間内ニ準備調査トシテ左ノ事務ヲ行フヘシ

一　各住居ニ就キ世帶ノ有無及其ノ數ヲ調査シ各世帶ノ住居ニ世帶番號札ヲ貼付スルコト

二　世帶所在地ノ地番號ヲ調査スルコト

三　準世帶ニ在リテハ其ノ種類及名稱ヲ調査スルコト

四　各世帶ノ申告義務者ノ氏名ヲ調査スルコト

五　各世帶ノ人員概數ヲ調査スルコト

世帶員不在ノ爲前項ノ調査ヲ爲スコト能ハサルトキハ重ネテ巡回シ又ハ近隣ノ者ニ質シ之ヲ調査スヘシ

第十條　世帶番號札ヲ貼附スル場合ニ於テハ左記ノ點ニ注意スルコトヲ要ス

一　普通ノ家屋ハ勿論社寺學校工場倉庫物置等ノ建物、舟筏其ノ他掛小屋葭簀張パラツク天幕等臨時ニ設ケタルモノト雖其ノ内ニ世帶アルトキハ世帶毎ニ悉ク世帶番號札ヲ貼附スルコト

二　一棟ノ家屋内ニ數箇ノ世帶アルトキハ一世帶毎ニ世帶番號札ヲ貼附シ數棟又ハ母屋及附屬建物ニ跨リ一世帶アルトキハ其ノ主タル住居ニ世帶番號札ヲ貼附スルコト

三　舟筏ニハ十月一日以後迄繋留スヘキ見込アルモノニ限リ世帶番號札ヲ貼附スルコト

第十一條　國勢調査員一世帶ニ就キ第九條ノ調査ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ結果ヲ照査表第一欄乃至第五欄ニ記入スヘシ但シ再調ヲ要スル場合ハ當該欄ヲ空欄ト爲シ置キ備考欄ニ「要再調」ト記入スヘシ

前項但書ノ場合ニ在リテハ重ネテ巡回シ調査ノ結果ヲ當該欄ニ記入シ備考欄「要再調」ノ文字ヲ抹消スヘシ

準備調査後照査表第一欄乃至第五欄記入ノ事項ニ異動又ハ誤謬アルコトヲ知リタルトキハ其ノ都度訂正加除スヘシ

住家以外ノ住居ノ種類其ノ他必要ト認メタル事項ハ之ヲ備考欄ニ記入スヘシ

（記入例第一參照）

第十二條　國勢調査員準備調査ヲ終リタルトキハ市町村長ノ定メタル期限迄ニ照査表ヲ市町村長ニ提示シテ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第十三條　前條檢査ノ結果不備ノ點アルトキハ市町村長ヨリ照査表記入ノ訂正加除又ハ再調査ヲ命セラルヘシ

第十四條　申告書用紙ハ照査表記入ノ世帶數ニ應シ約百分ノ十ノ豫備ヲ加ヘテ市町村長ヨリ交付セラルヘシ

第十五條　國勢調査員ハ申告書用紙ノ配付前ニ於テ調査區内ノ世帶數又ハ其ノ人員ニ異動アリタル爲用紙不足スヘシト認メタルトキハ市町村長ニ照査表ヲ提示シ其ノ補給ヲ受クヘシ

第三章　申告書用紙ノ配付

第十六條　國勢調査員ハ市町村長ノ定メタル期日ニ於テ擔當調査區内ノ各世帶ニ申告書用紙ヲ配付スヘシ

申告義務者又ハ之ニ代ルヘキ者共ニ不在ノ世帶ニハ重ネテ巡回シ又ハ便宜近隣ノ申告義務者ニ依託シテ配付スルコトヲ得

第十七條　各世帶ニ配付スヘキ申告書用紙ノ數ハ現在員十人以内ノ世帶ハ一枚トシ十人ヲ超ユル毎ニ一枚ヲ加フ但シ人ノ出入頻繁ナル世帶ニ在リテハ見込ヲ以テ必要ノ枚數ヲ配付スルコトヲ得

第十八條　國勢調査員ハ申告書用紙配付前豫メ照査表ニ依リ用紙指定ノ箇所ニ地番號及世帶番號、準世帶ナルトキハ尚其ノ種類及名稱ヲ記入シ配付ノ際更ニ相違ナキヲ確ムヘシ

第十九條　國勢調査員ハ申告書用紙配付ノ際各世帶ノ申告義務者ニ對シ十月一日午前八時迄ニ申告書ヲ作成シ置クヘキ旨ヲ告クヘシ申告義務者以外ノ者ニ配付シタル場合亦同シ

國勢調査員必要ト認メタルトキハ申告書ノ記入方ヲ懇切ニ指示スヘシ

第二十條　國勢調査員申告書用紙配付ノ際世帶ニ異動アルコトヲ知リタルトキハ直ニ左ノ各號ニ依リ處理スヘシ但シ舟筏ニ在リテハ十月一日以後迄繋留スヘキモノニ限ル

一　照査表ニ記載アル世帶擔當調査區外ニ移轉シタルトキハ世帶番號札ヲ取去リ照査表第一欄乃至第五欄ノ記入ヲ讀ミ得ル樣抹消シ備考欄ニ「移轉」ト記入スルコト

二　照査表ニ記載ナキ世帶アリタルトキハ新ニ世帶番號札ヲ貼附シ世帶所在地ノ地番號、申告義務者ノ氏名及人員概數ヲ、準世帶ニ在リテハ尚其ノ種類及名稱ヲ調査シ照査表第一欄乃至第五欄ノ記入ヲ爲シ備考欄ニ「追加」ト記入シ當該世帶ニ申告書用紙ヲ配付スルコト

三　照査表ニ記載アル世帶擔當調査區内ニ於テ移轉シタルトキハ前二號ニ準シテ處理シ照査表備考欄ニ「區内移轉」ト記入スルコト

（記入例第二參照）

第四章　申告書ノ蒐集及檢査

第二十一條　國勢調査員ハ市町村長ノ定メタル期日ニ擔當調査區ノ各世帶ニ就キ漏ナク申告書ヲ蒐集スヘシ

第二十二條　國勢調査員ハ申告書蒐集ノ際新ニ發見シタル世帶ニ配付スル爲申告書用紙ヲ携帶スヘシ

第二十三條　國勢調査員申告書蒐集ノ際世帶ニ異動アルコトヲ知リタルトキ又ハ新ニ世帶ヲ發見シタルトキハ第十九條及第二十條ニ依リ處理シ申告義務者ヲシテ直ニ申告書ノ記入ヲ爲サシメ之ヲ蒐集スヘシ

第二十四條　國勢調査員ハ申告書蒐集ノ際世帶人員ノ增加又ハ申告書用紙ノ毀損若ハ紛

失ノ爲用紙ノ追給ヲ要スルモノアルトキハ携帶セル豫備ノ用紙ヲ申告義務者ニ交付シ直ニ記入ヲ爲サシメ之ヲ蒐集スヘシ

第二十五條　申告義務者ニシテ申告書ノ記入ヲ爲シ能ハサルモノアルトキハ國勢調査員ハ申告書蒐集ノ際口頭ヲ以テ申告セシメ代リテ記入ヲ爲シ讀ミ聞カセタル上之ヲ蒐集スヘシ此ノ場合ハ申告書末尾ニ「代筆　國勢調査員何某」ト附記スヘシ

第二十六條　國勢調査員申告書ヲ受取リタルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スヘシ

一　申告書ノ世帶番號、世帶ノ所在地及申告義務者ノ氏名ヲ、準世帶ニ在リテハ尚其ノ種類及名稱ヲ照査表ト對照シ相違ノ點ヲ發見シタルトキハ事實ニ依リテ之ヲ訂正スルコト

二　申告書各項ノ記入ヲ檢査シ補正ヲ要スルモノアルトキハ申告義務者ヲシテ訂正セシメ又ハ質問ノ上之ヲ訂正スルコト

三　申告書記入ノ文字不明ナルトキ又ハ訂正ノ爲不明トナリタルトキハ申告義務者ニ申告書用紙ヲ交付シ更ニ申告書ヲ作成セシメ又ハ自ラ淨寫スルコト但シ淨寫ノ場合ニ於テハ申告義務者氏名ノ次ニ「國勢調査員何某淨寫」ト附記シ原書ニハ左上部ニ「淨寫濟」ト附記シ保存スヘシ

四　一通二枚以上ノ申告書ニハ其ノ枚數及號數ヲ指定ノ箇所ニ記入シ枚數ハ之ヲ照査表第七欄ニ記入スルコト

（記入例第三參照）

第二十七條　國勢調査員申告書ノ蒐集ヲ終リタルトキハ更ニ申告書ノ記入事項ヲ檢査シ補正ヲ要スルモノアルトキハ事實ニ依リテ訂正シタル後左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　申告書「人員合計」ノ記入ニ依リ照査表第八欄ノ記入ヲ爲スコト

二　照査表記入ノ順序ニ依リ申告書及照査表第六欄ニ申告書通シ番號ヲ記入スルコト

三　照査表第七欄及第八欄ノ各合計ヲ算出記入シ檢算スルコト但シ一通二枚以上ナルトキハ一枚毎ニ合計ヲ記入シ最終ノ用紙ニ總計ヲ算出記入スヘシ

四　國勢調査員申告書ヲ淨寫シタルトキハ照査表備考欄ニ「淨寫」ト記入スルコト

（記入例第四參照）

第二十八條　國勢調査員ハ記入ヲ終リタル照査表ト各申告書トヲ對照シテ符合スルヤ否ヤヲ檢査シ誤謬アルトキハ直ニ之ヲ訂正スヘシ

第五章　申告書ノ整理及提出

第二十九條　國勢調査員前條ノ手續ヲ終リタルトキハ照査表寫ヲ作成スヘシ

第三十條　國勢調査員ハ申告書ヲ其ノ番號順ニ重ネテ之ヲ一括シ照査表及照査表寫ノ末尾ニ日附ヲ記入シ記名捺印ノ上申告書ト共ニ市町村長ノ定メタル期限迄ニ之ヲ市町村長ニ提出スヘシ

國勢調査員淨寫濟ノ原書ハ別ニ一括シテ前項ノ書類ト共ニ之ヲ市町村長ニ提出スヘシ

補則

本規程ニ依ル市町村長ノ職務ハ東京、京都、大阪及名古屋ノ四市ニ在リテハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ相當スル吏員之ヲ行フモノトス

記入例第一

照査表

道府縣「滋賀縣」一郡「蒲生郡」一市町村役所役場「岡山村役場」

調査區第「一」號

區域「大字山川一圓及大字宮下ノ内學校ニ沿ヒ東北三ツ目土橋ヨリ南青木材木店マテ」

國勢調査員「國本調一」

（「　」内ハ黒色、其他ハ赭色）

第一欄	第二欄	第三欄	第四欄	第五欄	第六欄	第七欄	第八欄			備考
世帶番號	世帶所在地（大字、小字、地番號屋敷番號等）	準世帶ノ種類及名稱	申告義務者ノ氏名	人員概數	申告書通シ番號	申告書枚數	人員實數 男	女	計	
「一」號	「大字山川字水無三番地」		「甲田乙太郎」	「五」	號	枚				
「二」號	「大字山川字水無四番地」		「家村甚藏」	「七」	號	枚				
「三」號	「大字山川字水無四番地」	「下宿業、水無館」	「家村甚藏」	「一四」	號	枚				
「四」號	「大字山川字瀧口一番地先」		「酒井菊造」	「三」	號	枚				「船」
「五」號	「大字山川字瀧口三番地」	「寄宿舎、縣立瀧口中學校寄宿舎」	「賀川竹松」	「六四」	號	枚				
「六」號	「大字宮下字鳥居十三番地」		「山本武一」		號	枚				「要再調」
「七」號	「大字宮下字鳥居十三番地」		「長尾早太」	「三」	號	枚				
號					號	枚				
號					號	枚				
號					號	枚				
號					號	枚				
號					號	枚				
合計						枚				
總計						枚				

右之通相違無之候也

大正九年十月　日

國勢調査員

右檢査候處相違無之候也

大正九年十月　日

市町村長

記入例第二

照査表

道府縣「滋賀縣」一郡「蒲生郡」一市町村役所役場「岡山村役場」

調査區第「一」號

區域「大字山川一圓及大字宮下ノ内學校ニ沿ヒ東北三ツ目土橋ヨリ南青木材木店マテ」

國勢調査員「國本調一」

第一欄 世帶番號	第二欄 世帶所在地（大字、小字、地番號屋敷番號等）	第三欄 準世帶ノ種類及名稱	第四欄 申告義務者ノ氏名	第五欄 人員概數	第六欄 申告書通シ番號	第七欄 申告書枚數	第八欄 人員實數 男	女	計	備考
~~「一」號~~	~~「大字山川字水無三番地」~~		~~「甲田乙太郎」~~	~~「五」~~	號	枚				「移轉」
「二」號	「大字山川字水無四番地」		「家村甚藏」	「七」	號	枚				
「三」號	「大字山川字水無四番地」	「下宿業、水無館」	「家村甚藏」	「一四」	號	枚				
「四」號	「大字山川字瀧口一番地先」		「酒井菊造」	「三」	號	枚				「船」
「五」號	「大字山川字瀧口三番地」	「寄宿舍、縣立瀧口中學校寄宿舍」	「賀川竹松」	「六四」	號	枚				
「六」號	「大字宮下字島居十三番地」		「山本武一」		號	枚				「要再調」
~~「七」號~~	~~「大字宮下字島居十三番地」~~		~~「長尾早太」~~	~~「三」~~	號	枚				「區內移轉」
「八」號	「大字山川字水無三番地」		「若木武夫」	「九」	號	枚				「追加、掛ケ小屋」
「九」號	「大字山川字瀧口四番地」		「長尾早太」	「三」	號	枚				「追加」
號			「新谷權助」		號	枚				「追加、要再調」
號					號	枚				
號					號	枚				
合計						枚				
總計						枚				

右之通相違無之候也

大正九年十月　日

國勢調査員

右檢査候處相違無之候也

大正九年十月　日

市町村長

記入例第三

照査表

道府縣　郡　市町村役所役場
「滋賀縣」「蒲生郡」「岡山村役場㊞」

調査區第「一」號

區域「「大字山川一圓及大字宮下ノ內學校ニ沿ヒ東北三ッ目土橋ヨリ南青木村木店マテ」」　國勢調査員「國本調一」

第一欄 世帶番號	第二欄 世帶所在地（大字、小字、地番號屋敷番號等）	第三欄 準世帶ノ種類及名稱	第四欄 申告義務者ノ氏名	第五欄 人員概數	第六欄 申告書通シ番號	第七欄 申告書枚數	第八欄 人員實數 男	女	計	備考
~~「一」號~~	~~「大字山川字水無三番地」~~		~~「甲田乙太郎」~~	~~「五」~~	號	枚				「移轉」
「二」號	「大字山川字水無四番地」		「家村甚藏」	「七」	號	「一」枚				
「三」號	「大字山川字水無四番地」	「下宿業、水無館」	「家村甚藏」	「一四」	號	「二」枚				
「四」號	「大字山川字瀧口一番地先」		「酒井菊造」	「三」	號	「一」枚				「船」
「五」號	「大字山川字瀧口三番地」	「寄宿舍、縣立瀧口中學校寄宿舍」	「賀川竹松」	「六四」	號	「六」枚				
「六」號	「大字宮下字島居十三番地」		「山本武一」	「六」	號	「一」枚				~~「要再調」~~
~~「七」號~~	~~「大字宮下字島居十三番地」~~		~~「長尾早太」~~	~~「三」~~	號	枚				「區內移轉」
「八」號	「大字山川字水無三番地」		「若木武夫」	「七」	號	「一」枚				「追加、掛ケ小屋」
「九」號	「大字山川字瀧口四番地」		「長尾早太」	「九」	號	「一」枚				「追加」
「10」號	「大字山川字水無五番地」		「新谷權助」	「二一」	號	「二」枚				「追加」 ~~「要再調」~~
號					號	枚				
號					號	枚				
合計						枚				
總計						枚				

右之通相違無之候也

大正九年十月　日

國勢調査員

右檢査候處相違無之候也

大正九年十月　日

市町村長

記入例第四

照査表

道府縣　郡　市町村役所役場
「滋賀縣」「蒲生郡」「岡山村役場㊞」

調査區第「一」號

區域「「大字山川一圓及大字宮下ノ內學校ニ沿ヒ東北三ッ目土橋ヨリ南青木村木店マテ」」　國勢調査員「國本調一」

第一欄 世帶番號	第二欄 世帶所在地（大字、小字、地番號屋敷番號等）	第三欄 準世帶ノ種類及名稱	第四欄 申告義務者ノ氏名	第五欄 人員概數	第六欄 申告書通シ番號	第七欄 申告書枚數	第八欄 人員實數 男	女	計	備考
~~「一」號~~	~~「大字山川字水無三番地」~~		~~「甲田乙太郎」~~	~~「五」~~	號	枚				「移轉」
「二」號	「大字山川字水無四番地」		「家村甚藏」	「七」	「一」號	「一」枚	「四」	「三」	「七」	
「三」號	「大字山川字水無四番地」	「下宿業、水無館」	「家村甚藏」	「一四」	「二」號	「二」枚	「七」	「六」	「一三」	「浮寫」
「四」號	「大字山川字瀧口一番地先」		「酒井菊造」	「三」	「三」號	「一」枚	「二」	「一」	「三」	「船」
「五」號	「大字山川字瀧口三番地」	「寄宿舍、縣立瀧口中學校寄宿舍」	「賀川竹松」	「六四」	「四」號	「六」枚	「五九」	「一」	「五九」	
「六」號	「大字宮下字島居十三番地」		「山本武一」	「六」	「五」號	「一」枚	「三」	「三」	「六」	~~「要再調」~~
~~「七」號~~	~~「大字宮下字島居十三番地」~~		~~「長尾早太」~~	~~「三」~~	號	枚				「區內移轉」
「八」號	「大字山川字水無三番地」		「若木武夫」	「七」	「六」號	「一」枚	「三」	「四」	「七」	「追加、掛ケ小屋」
「九」號	「大字山川字瀧口四番地」		「長尾早太」	「九」	「七」號	「一」枚	「五」	「五」	「一〇」	「追加」
「10」號	「大字山川字水無五番地」		「新谷權助」	「一一」	「八」號	「二」枚	「六」	「五」	「一一」	「追加」 ~~「要再調」~~
號					號	枚				
號					號	枚				
合計				「一二二」		「一五」枚	「八九」	「二七」	「一一六」	
總計						枚				

右之通相違無之候也

大正九年十月　日

國勢調査員

右檢査候處相違無之候也

大正九年十月　日

市町村長

●大正十四年國勢調査施行令

（大正十四年五月二十三日勅令第二百一號）

朕大正十四年國勢調査施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

大正十四年國勢調査施行令

第一條　大正十四年國勢調査ハ大正十四年十月一日午前零時ノ現在ニ依リ之ヲ行フ

第二條　大正十四年國勢調査ハ前條ノ時期ニ於テ帝國版圖內ニ現在スル者ニ付左ノ事項ヲ調査ス

一　氏名

二　男女ノ別

三　出生ノ年月

四　配偶ノ關係

前條ノ時期前ニ帝國ノ港灣ヲ發シ途中寄港セスシテ前條ノ時期後四日以內ニ始メテ帝國ノ港灣ニ入リタル者ハ大正十四年十月一日午前零時ニ帝國版圖內ニ現在シタル者ト看做ス

第三條　前條ノ調査ハ各世帶ニ就キ之ヲ執行ス

本令ニ於テ世帶ト稱スルハ住居及家計ヲ共ニスル者ヲ謂フ

一人ニシテ住居ヲ有シ家計ヲ立ツル者亦一世帶トス

家計ヲ共ニスルモ別ニ住居ヲ有スル者又ハ住居ヲ共ニスルモ別ニ家計ヲ立ツル者ハ一世帶トス其ノ一人ナル場合亦同シ

寄宿舍、病院、旅店、下宿屋其ノ他家計ヲ共ニセサル者ノ集合スル場屋又ハ船舶ニ在ル者ニシテ其ノ家計ヲ共ニセサル者ハ一場屋又ハ一船舶毎ニ一世帶ニ準ス

第四條　世帶主又ハ世帶ノ管理者ハ其ノ世帶ニ現在スル者ニ就キ國勢調査申告書ヲ以テ第二條第一項各號ノ事項ヲ申告スルノ義務アルモノトス

第五條　國勢調査申告書用紙ハ之ヲ各世帶ニ配付ス

第六條　府縣知事ハ內閣總理大臣ノ命ヲ承ケ府縣內ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第七條　郡長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ郡內ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第八條　市長ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ市內ノ調査ノ執行ヲ管掌ス

第九條　町村長ハ郡長ノ指揮監督ヲ承ケ町村內ノ調査ノ執行ヲ管掌ス

第十條　市町村長ハ調査ヲ執行スル爲府縣知事ノ認可ヲ經テ市町村ノ區域ヲ調査區ニ分割ス但シ特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ一町村ヲ以テ一調査區ト爲スコトヲ得

第十一條　國勢調査ノ事務ヲ執行セシムル爲市町村ニ國勢調査員ヲ置ク

第十二條　國勢調査員ハ府縣知事ノ推薦ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

國勢調査員ハ名譽職トス

第十三條　國勢調査員ニハ別ニ定ムル徽章ヲ交付シ職務執行ノ際之ヲ佩用セシム

第十四條　國勢調査員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ擔當調査區內ニ於ケル國勢調査申告書用紙ノ配付、國勢調査申告書ノ蒐集其ノ他之ニ伴フ諸般ノ事務ヲ執行ス

第十五條　國勢調査員各世帶ニ就キ前條ノ職務ヲ執行スル期間ハ九月二十一日ヨリ十月五日迄トス但シ蒐集シタル國勢調査申告書ノ記載事項ニ關シ質問ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　郡市町村長ハ管內國勢調査ノ結果ヲ取纏メ國勢調査申告書及附屬書類ト共ニ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ町村長ハ之ヲ郡長ニ、郡長及市長ハ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ內閣總理大臣ノ定メタル期限迄ニ管內國勢調査ノ結果ヲ取纏メ之ヲ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

第十七條　天災事變ノ爲國勢調査員第十五條ノ期間內ニ其ノ職務ヲ執行シ又ハ之ヲ完結スルコト能ハサルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ旨ヲ內閣總理大臣ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ內閣總理大臣ノ認可ヲ經テ區域ヲ限リ別ニ期間ヲ定メ又ハ其ノ期間ヲ延長ス

府縣知事別ニ期間ヲ定メ又ハ期間ヲ延長シタルトキハ之ヲ告示ス

第十八條　內閣總理大臣ノ要求アリタルトキハ各省大臣ハ所管ノ官廳、官吏又ハ吏員ニ命シ內閣總理大臣又ハ其ノ指定シタル職員ノ指揮ヲ承ケ國勢調査ノ事務ニ服セシムヘシ

第十九條　本令中府縣知事ニ關スル規定ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官ニ、郡郡長町村町村長ニ關スル規定ハ郡長ヲ置カサル地及町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ相當スル地區官吏吏員ニ、市制

第六條及第八十二條ノ市ニ在リテハ市市長區區長ニ之ヲ準用ス

第二十條　本令ヲ適用シ難キ場所ニ關スル調査ニ付テハ内閣總理大臣別ニ其ノ手續ヲ定ム

第二十一條　朝鮮、臺灣及樺太ニ於テハ第二條第一項ニ掲クル事項ノ外朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官ノ必要ト認ムル事項ヲ併セ調査スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ内閣總理大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第二十二條　朝鮮、臺灣及樺太ニ執行スル國勢調査ニ關シテハ第四條乃至第二十條ノ規定ヲ適用セス朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官内閣總理大臣ノ承認ヲ經テ別ニ其ノ手續ヲ定ム

第二十三條　府縣市町村ニ於テ國勢調査ニ附帶シテ其ノ區域ノ全部又ハ一部ニ對シ必要ナル事項ヲ調査セムトスルトキハ其ノ事項及方法ヲ具シ内閣總理大臣ノ認可ヲ受クヘシ

●大正十四年國勢調査施行細則

（大正十四年五月二十三日閣令第一號）

大正十四年國勢調査施行細則左ノ通定ム

大正十四年國勢調査施行細則

第一條　世帶ニ於テ世帶主ナキトキ又ハ不在ナルトキハ事實上之ヲ管理スル者、世帶ニ在ル者ノ選定シタル者又ハ國勢調査員ノ指定シタル者ヲ以テ世帶ノ管理者トス

第二條　市町村ノ境界未定若ハ不明ノ場所又ハ入會ノ場所ハ關係市町村長ノ協議ニ依リ調査區ノ境界ヲ定ムヘシ協議調ハサルトキハ府縣知事之ヲ指定ス

第三條　府縣知事ハ管内ニ於ケル國勢調査員ノ氏名ヲ告示スヘシ

第四條　市町村長ハ各調査區ノ番號、區域及擔當國勢調査員ノ氏名竝豫備國勢調査員ノ氏名ヲ告示スヘシ

第五條　國勢調査ノ申告ハ申告義務者國勢調査申告書用紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ用紙ハ大正十四年九月二十一日ヨリ同月三十日迄ノ間ニ於テ國勢調査員之ヲ各世帶ニ配付ス

第六條　申告義務者前條第二項ノ期間内ニ國勢調査申告書用紙ノ配付ヲ受ケサルトキハ當該區域ノ擔當國勢調査員又ハ所屬市町村長ニ其ノ旨申出テ之カ交付ヲ受クヘシ

第七條　申告義務者ハ大正十四年十月一日午前八時迄ニ國勢調査申告書ヲ作成シ國勢調査員ノ巡回ヲ待チ之ヲ提出スヘシ

第八條　大正十四年十月一日午前零時ニ帝國版圖内ニ現在シタル者何レノ世帶ニ於テモ申告セラレサリシコトヲ知リタルトキハ同月四日迄ニ最寄市町村長又ハ國勢調査員ニ其ノ旨申出ツヘシ

第九條　大正十四年國勢調査施行令第二十條ノ規定ニ依リ別ニ調査手續ヲ定ムヘキモノ左ノ如シ

一　宮城、離宮、皇族ノ殿邸其ノ他之ニ準スヘキ箇所
二　外國ノ大使館、公使館及軍艦
三　陸海軍ノ部隊及艦船
四　司法大臣ノ管理ニ屬スル刑務所

第十條　國勢調査申告書ハ統計上ノ目的ニノミ使用シ如何ナル場合ト雖之ヲ公表スルコトヲ得ス

第十一條　國勢調査ノ事務ニ從事シタル者ハ其ノ職務執行中知得シタル個人ニ關スル事項ヲ故ナク他ニ漏洩スヘカラス

第十二條　國勢調査ニ際シ調査ヲ忌避シ、申告ヲ拒ミ又ハ故意ニ不實ノ申告ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス申告義務者ヲシテ申告ヲ爲スコトヲ得サラシメ又ハ不實ノ申告ヲ爲サシメタル者亦同シ

第十三條　虚僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用ヒテ國勢調査ヲ妨ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　第十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十五條　大正十四年國勢調査施行令第十九條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

●大正十四年國勢調査地方事務取扱規程

（大正十四年五月二十五日内閣訓令第二號）

大正十四年國勢調査地方事務取扱規程左ノ通定ム

大正十四年國勢調査地方事務取扱規程

第一章　府縣

第一條　府縣知事市町村ノ調査區ノ設定ヲ認可シタルトキハ直ニ市町村別調査區數ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二條　府縣知事ハ調査區ノ實況ニ通シ國勢調査員タルニ適當ナル者ヲ内申スヘシ

第三條　府縣ニ於テ調査事務ニ要スル印刷物及用紙ハ内閣總理大臣之ヲ府縣知事ニ交付ス

第四條　府縣知事ハ郡市長ヨリ提出シタル郡市要計表ヲ檢査シ郡市要計表ニ依リ府縣要計表ヲ作成シ郡市要計表ト共ニ大正十四年十一月末日迄ニ之ヲ内閣總理大臣ニ進達スヘシ

第五條　府縣知事ハ郡市長ヨリ提出シタル調査書類ヲ檢査シ郡市調査結果表ニ依リ府縣調査結果表ヲ作成シ郡市町村調査結果表ト共ニ大正十五年二月末日迄ニ之ヲ内閣總理大臣ニ進達スヘシ

第六條　天災事變ノ爲大正十四年國勢調査施行令第十五條ノ期間内ニ調査ヲ完了スルコト能ハサルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ旨内閣總理大臣ニ電報スヘシ

第二章　郡

第七條　郡町村ニ於テ調査事務ニ要スル印刷物及用紙ハ内閣總理大臣ヨリ郡長ニ交付シ町村所要ノ分ハ郡長ヨリ更ニ町村長ニ交付スヘシ

第八條　郡長ハ町村長ヨリ提出シタル町村要計表ヲ檢査シ町村要計表ニ依リ郡要計表ヲ作成シ町村要計表ト共ニ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ之ヲ府縣知事ニ進達スヘシ

第九條　郡長ハ町村長ヨリ提出シタル調査書類ヲ檢査シ町村調査結果表ニ依リ郡調査結果表ヲ作成シ其ノ他ノ調査書類ト共ニ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ之ヲ府縣知事ニ進達スヘシ

第十條　天災事變ノ爲大正十四年國勢調査施行令第十五條ノ期間内ニ調査ヲ完了スルコト能ハサルトキハ郡長ハ直ニ其ノ旨府縣知事ニ電報スヘシ

第三章　市町村

第一節　總則

第十一條　國勢調査ニ關スル市町村長ノ職務ハ左ノ如シ

一　調査區ノ設定
二　國勢調査員擔當區ノ指定
三　國勢調査員ノ指導及準備調査
四　申告書用紙ノ交付
五　申告書及照査表ノ檢査
六　市町村要計表及調査結果表ノ作成竝申告書及照査表ノ整理提出
七　以上ノ附帶事務

第十二條　調査事務ニ要スル印刷物及用紙ハ市ニ在リテハ内閣總理大臣ヨリ市長ニ、町村ニ在リテハ郡長ヨリ町村長ニ之ヲ交付ス

第十三條　天災事變ノ爲大正十四年國勢調査施行令第十五條ノ期間内ニ調査ヲ完了スルコト能ハサルトキハ市長ハ府縣知事ニ、町村長ハ郡長ニ直ニ其ノ旨報告スヘシ

第二節　調査區ノ設定

第十四條　市町村長ハ左ノ各號ニ依リ管内ヲ分割シテ調査區ヲ設定シ大正十四年七月二十日迄ニ府縣知事ノ認可ヲ申請スヘシ

一　調査區ハ一調査員一日中ニ區内各世帶ニ申告書用紙ノ配付又ハ申告書ノ蒐集ヲ完結シ得ル程度トスルコト
二　調査區ノ區域ハ成ルヘク大字小字等地理上獨立ノ稱呼ヲ有スル區域ニ依リ之ニ依リ難キトキハ山岳、丘陵、河川、溝渠、道路、鐵道、電信電話線等判明ナルモノヲ以テ境界トスルコト
三　多數ノ人員集合住居スル官公私ノ場屋例ヘハ寄宿舍、病院、旅店、下宿屋等又ハ船舶ノ存在スル場所ハ其ノ人員ニ應シテ調査區ヲ設定スルコト
四　特別ノ事情アリ分割セサルヲ便トスル場合ニ於テハ一町村ヲ以テ一調査區トスルコト

第十五條　市町村長調査區ヲ設定スルニハ其ノ市町村ノ區域ニ屬スル陸上及水面ニ重複脱漏ナキヲ期スヘシ

第十六條　調査區設定ノ認可申請書ニハ調査區ノ番號、區域、世帶概數及人口概數ヲ記シ調査區ニ分割シタル市町村略圖ヲ添附スヘシ

町村組合ニ在リテハ調査區番號ハ其ノ一町村毎ニ一號ヨリ始ムヘシ

第三節　國勢調査員擔當區ノ指定

第十七條　一調査區ノ調査ハ一人ノ國勢調査員之ヲ擔當スルモノトス但シ水面ノ調査其ノ他特別ノ事情アル場合ニハ二人以上ノ國勢調査員ヲシテ一調査區ノ調査ヲ擔當セシムルコトヲ得

第十八條　國勢調査員ノ任命アリタルトキハ市町村長ハ各國勢調査員ノ擔當調査區ヲ定メ辭令書ニ照査表ヲ添ヘ之ヲ本人ニ交付スヘシ但シ調査區ヲ擔當セシメサル國勢調査員ニハ照査表ヲ交付セス豫備員タル旨ヲ通知スヘシ

第十九條　國勢調査員ニ交付スヘキ照査表ハ一人ニ付二通トシ市町村長ハ豫メ各通指定ノ箇所ニ府縣郡市町村役所役場名、調査區番號、國勢調査員氏名、調査區區域ヲ記入シ役所役場名ノ下ニ其ノ印ヲ押捺スヘシ

第二十條　國勢調査員疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲調査ニ從事シ難キトキハ市町村長ハ直ニ豫備員中ヨリ之ニ代ラシメ其ノ旨告示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ照査表其ノ他一切ノ印刷物及書類ヲ回收シ國勢調査員ノ氏名ヲ書換ヘ新擔當國勢調査員ニ交付スヘシ

第四節　國勢調査員ノ指導及準備調査

第二十一條　市町村長ハ國勢調査員ノ擔當調査區ヲ指定シタル後速ニ國勢調査員ヲ招集シ國勢調査員ノ心得ヘキ要項ヲ指示スヘシ

第二十二條　市町村長ハ適當ノ時期ニ於テ國勢調査員ヲ招集シ調査事務ノ打合又ハ協議ヲ爲サシムヘシ

第二十三條　市町村長ハ國勢調査員ノ職務上ノ參考トナルヘキ地圖其ノ他ノ書類ヲ國勢調査員ニ示スヘシ

第二十四條　市町村長ハ調査期日ニ先チ期間ヲ定メ國勢調査員ヲシテ擔當調査區ノ各世帶ニ就キ準備調査ヲ爲サシムヘシ

第二十五條　市町村長ハ準備調査執行ニ必要ナル世帶番號札ヲ調製シ國勢調査員ニ交付スヘシ

前項世帶番號札ノ品質形狀ハ市町村長適宜之ヲ定ムヘシ

第五節　申告書用紙ノ交付

第二十六條　國勢調査員準備調査ヲ終リ照査表ヲ提示シタルトキハ市町村長ハ檢査ノ上之ヲ還付スルト同時ニ各世帶ニ配付スヘキ申告書用紙ヲ國勢調査員ニ交付スヘシ

前項國勢調査員ニ交付スヘキ申告書用紙ノ枚數ハ照査表ニ記入アル人員概數ニ百分ノ二十五ノ豫備ヲ加ヘタルモノトス

第二十七條　市町村長前條ノ交付ヲ終リタルトキハ交付總數及殘餘ノ數ヲ市長ハ府縣知事ニ、町村長ハ郡長ニ速ニ報告スヘシ

殘餘ナキトキ又ハ殘餘アルモ交付總數ノ百分ノ五ニ滿タサルトキハ其ノ旨併セテ報告スヘシ

第二十八條　申告書用紙ノ交付ニ際シ不足ヲ生シタルトキハ市長ハ府縣知事ニ、町村長ハ郡長ニ請求シテ其ノ補給ヲ受ケ速ニ之ヲ國勢調査員ニ交付スヘシ

第二十九條　人員増加ノ爲申告書用紙ニ不足ヲ生シ國勢調査員ヨリ補給ノ請求アリタルトキハ市町村長ハ豫備ノ中ヨリ之ヲ交付スヘシ

第三十條　國勢調査員ニ交付スル申告書用紙ニハ指定ノ箇所ニ郡市町村名及調査區番號ヲ記入スヘシ

第六節　申告書及照査表ノ檢査

第三十一條　國勢調査員準備調査後照査表ヲ提示シタルトキハ市町村長ハ其ノ調査ノ成績ヲ檢査スヘシ

前項檢査ノ結果調査ニ重複、脱漏又ハ誤謬ノ疑アルトキハ市町村長ハ之ヲ國勢調査員ニ質シ照査表ノ訂正ヲ命シ必要アリト認メタルトキハ再調査ヲ命スヘシ

第三十二條　國勢調査員申告書ノ蒐集ヲ終リ申告書、照査表及照査表寫ヲ提出シタルトキハ市町村長ハ之ヲ檢査スヘシ

第三十三條　前條檢査ノ結果申告書又ハ照査表及照査表寫ノ記入ニ誤謬脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ市町村長ハ國勢調査員ヲシテ之ヲ訂正セシムヘシ

申告書記入ノ文字不明ナルトキハ國勢調査員ヲシテ淨寫セシメ申告義務者氏名ノ次ニ「國勢調査員何某淨寫」ト記入シ原書左上部ニ「淨寫濟原書」ト附記セシムヘシ

第三十四條　市町村長ハ調査ノ結果調査漏ノ世帶アリト認メタルトキハ國勢調査員ヲシテ之カ調査ヲ爲サシメ既ニ調査ヲ經タル世帶ニ關シ必要アリト認メタルトキハ再調査ヲ爲サシムヘシ

第七節　市町村要計表及調査結果表ノ作成竝申告書及照査表ノ整理提出

第三十五條　市町村長前數條ノ手續ヲ終リタルトキハ照査表ニ依リ市町村要計表ヲ作成シ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ市長ハ府縣知事ニ、町村長ハ郡長ニ之ヲ提出スヘシ

第三十六條　市町村長前條ノ手續ヲ終リタルトキハ申告書及照査表ニ依リ市町村調査結果表二通ヲ作成スヘシ

第三十七條　市町村長市町村調査結果表ノ作成ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　申告書ハ最終ニ分類セラレタルママ帶封シ更ニ之ヲ適當ナル束ニ纏ムルコト
二　照査表及照査表寫ハ各別ニ調査區番號順ニ重ネ一綴トスルコト

第三十八條　市町村長前條ノ手續ヲ終リタルトキハ市町村調査結果表一通、照査表及申告書ヲ府縣知事ノ定メタル期限迄ニ市長ハ府縣知事ニ、町村長ハ郡長ニ之ヲ提出シ市町村調査結果表ノ他ノ一通、照査表寫及第三十三條ノ淨寫濟原書ハ次回國勢調査ノ時期迄市町村長之ヲ保存スヘシ

第三十九條　市町村長ハ進達調査書類ノ紛失毀損ヲ防ク爲其ノ發送ニ際シ特ニ包裝及遞送ノ方法ニ注意スヘシ

第四十條　市町村長ハ調査書類提出後ト雖該書類ノ記入事項ニ關シ監督官廳ヨリ照會アリタルトキハ保存書類ニ依リ又ハ國勢調査員タリシ者ニ質シ若ハ實地ニ就キ調査シ速ニ答申スヘシ

第四章　補則

第四十一條　本規程中府縣府縣知事ニ關スル規定ハ北海道ニ在リテハ北海道廳北海道廳長官ニ、郡郡長町村町村長ニ關スル規定ハ郡長ヲ置カサル地及町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ相當スル地區官吏吏員ニ、東京市、京都市、大阪市及名古屋市ニ在リテハ市市長區區長ニ之ヲ準用ス

第四十二條　前條ノ市ニ在リテハ區長ノ作成スヘキ調査結果表ハ府縣知事ノ承認ヲ經テ市長之ヲ作成スルコトヲ得

●國勢調査員心得

（大正十四年五月二十五日内閣訓令第三號）

國勢調査員心得左ノ通定ム

國勢調査員心得

第一章　總則

第一條　國勢調査員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ調査區ヲ擔當シ左ノ職務ヲ行フ

一　準備調査
二　申告書用紙ノ配付
三　申告書ノ蒐集及檢査
四　申告書ノ整理及提出
五　以上ノ附帶事務

第二條　國勢調査員ハ世帶ニ就キ職務ヲ執行スル際徽章ヲ佩用スヘシ

第三條　國勢調査員ハ世帶ニ就キ職務ヲ執行スル際國勢調査ニ關スル諸規程及照査表ヲ携帶スヘシ

第四條　國勢調査員ハ世帶ニ就キ職務ヲ執行スル際必要ナキ事項ヲ質問スヘカラス

第五條　國勢調査員ハ職務執行中知得シタル事項ヲ故ナク他ニ漏洩スヘカラス

第六條　國勢調査員ハ擔當調査區ト隣接調査區トノ間ニ重複、脱漏又ハ所屬不明ノ地域

アリト認メタルトキハ直ニ其ノ旨市町村長ニ申出テ指揮ヲ請フヘシ

第七條　國勢調査員ハ職務執行ニ便スル爲豫メ區內巡回ノ順路ヲ定メ準備調査、申告書用紙配付及申告書蒐集ノ際ハ總テ此ノ順路ニ依ルヘシ

第八條　國勢調査員ハ申告書及照査表提出後ニ於テモ市町村長ヨリ說明又ハ再調査ヲ命セラレタルトキハ調査ノ上速ニ答申スヘシ

第二章　準備調査

第九條　國勢調査員ハ市町村長ノ定メタル期間內ニ準備調査トシテ左ノ事務ヲ行フヘシ

一　各住居ニ就キ世帶ノ有無及其ノ數ヲ調査シ各世帶ノ住居ニ世帶番號札ヲ貼附スルコト

二　世帶所在地ノ地番號ヲ調査スルコト

三　準世帶ニ在リテハ其ノ種類及名稱ヲ調査スルコト

四　各世帶ノ申告義務者ノ氏名ヲ調査スルコト

五　各世帶ノ人員概數ヲ調査スルコト

世帶員不在ノ爲前項ノ調査ヲ爲スコト能ハサルトキハ重ネテ巡回シ又ハ近隣ノ者ニ質シ之ヲ調査スヘシ

第十條　世帶番號札ヲ貼附スル場合ニ於テハ左記ノ點ニ注意スルコトヲ要ス

一　普通ノ家屋ハ勿論社寺學校工場倉庫物置等ノ建物、舟筏其ノ他掛小屋葭簀張バラック天幕等臨時ニ設ケタルモノト雖其ノ內ニ世帶アルトキハ世帶每ニ悉ク世帶番號札ヲ貼附スルコト

二　一棟ノ家屋內ニ數個ノ世帶アルトキハ一世帶每ニ世帶番號札ヲ貼附シ數棟又ハ母屋及附屬建物ニ跨リ一世帶アルトキハ其ノ主タル住居ニ世帶番號札ヲ貼附スルコト

三　舟筏ニハ十月一日以後迄繫留スヘキ見込アルモノニ限リ世帶番號札ヲ貼附スルコト

第十一條　國勢調査員一世帶ニ就キ第九條ノ調査ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ結果ヲ照査表第一欄乃至第五欄ニ記入スヘシ但シ再調ヲ要スル場合ハ當該欄ヲ空欄ト爲シ置キ備考欄ニ「要再調」ト記入スヘシ

前項但書ノ場合ニ在リテハ重ネテ巡回シ調査ノ結果ヲ當該欄ニ記入シ備考欄「要再調」ノ文字ヲ抹消スヘシ

準備調査後照査表第一欄乃至第五欄記入ノ事項ニ異動又ハ誤謬アルコトヲ知リタルトキハ其ノ都度訂正スヘシ

住家以外ノ住居ノ種類其ノ他必要ト認メタル事項ハ之ヲ備考欄ニ記入スヘシ

（記入例第一參照）

第十二條　國勢調査員準備調査ヲ終リタルトキハ市町村長ノ定メタル期限迄ニ照査表ヲ市町村長ニ提示シテ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第十三條　前條檢査ノ結果不備ノ點アルトキハ市町村長ヨリ照査表記入ノ訂正又ハ再調査ヲ命セラルヘシ

第十四條　申告書用紙ハ照査表記入ノ人員概數ニ應シ約百分ノ二十五ノ豫備ヲ加ヘテ市町村長ヨリ交付セラルヘシ

第十五條　國勢調査員ハ申告書用紙ノ配付前ニ於テ調査區內ノ世帶數又ハ其ノ人員ニ異動アリタル爲用紙不足スヘシト認メタルトキハ市町村長ニ照査表ヲ提示シ其ノ補給ヲ受クヘシ

第三章　申告書用紙ノ配付

第十六條　國勢調査員ハ市町村長ノ定メタル期日ニ於テ擔當調査區內ノ各世帶ニ申告書用紙ヲ配付スヘシ

申告義務者及之ニ代ルヘキ者共ニ不在ノ世帶ニハ重ネテ巡回シ又ハ便宜近隣ノ申告義務者ニ依託シテ配付スルコトヲ得

第十七條　各世帶ニ配付スヘキ申告書用紙ノ數ハ世帶現在員ノ數トス但シ必要ト認メタルトキハ見込ノ枚數ヲ配付スルコトヲ得

第十八條　國勢調査員ハ申告書用紙配付前豫メ照査表ニ依リ用紙指定ノ箇所ニ地番號及世帶番號ヲ記入シ且其ノ世帶ノ種類ニ應シ「普通世帶」又ハ「準世帶」ノ文字ノ傍ニ圏點ヲ附シ配付ノ際更ニ相違ナキヲ確ムヘシ

第十九條　國勢調査員ハ申告書用紙配付ノ際各世帶ノ申告義務者ニ對シ十月一日午前八時迄ニ申告書ヲ作成スヘキ旨ヲ告クヘシ申告義務者以外ノ者ニ配付シタル場合亦同シ

國勢調査員必要ト認メタルトキハ申告書ノ記入方ヲ懇切ニ指示スヘシ

第二十條　國勢調査員申告書用紙配付ノ際世帶ニ異動アルコトヲ知リタルトキハ直ニ左ノ各號ニ依リ處理スヘシ但シ舟筏ニ在リテハ十月一日以後迄繫留スヘキモノニ限ル

一　照査表ニ記載アル世帶擔當調査區外ニ移轉シタルトキハ世帶番號札ヲ取去リ照査表第一欄乃至第五欄ノ記入ヲ讀ミ得ル樣抹消シ備考欄ニ「移轉」ト記入スルコト

二　照査表ニ記載ナキ世帶アリタルトキハ新ニ世帶番號札ヲ貼附シ世帶所在地ノ地番號、申告義務者ノ氏名及人員概數ヲ、準世帶ニ在リテハ尙其ノ種類及名稱ヲ調査シ照査表第一欄乃至第五欄ノ記入ヲ爲シ備考欄ニ「追加」ト記入シ當該世帶ニ申告書用紙ヲ配付スルコト

三　照査表ニ記載アル世帶擔當調査區內ニ於テ移轉シタルトキハ前二號ニ準シテ處理シ照査表備考欄ニ「區內移轉」ト記入スルコト

（記入例第二參照）

第四章　申告書ノ蒐集及檢査

第二十一條　國勢調査員ハ市町村長ノ定メタル期日ニ擔當調査區內ノ各世帶ニ就キ漏ナク申告書ヲ蒐集スヘシ

第二十二條　國勢調査員ハ申告書蒐集ノ際世帶又ハ人員ノ增加其ノ他ノ必要ニ應スル爲豫備ノ申告書用紙ヲ携帶スヘシ

第二十三條　國勢調査員申告書蒐集ノ際世帶ニ異動アルコトヲ知リタルトキ又ハ新ニ世帶ヲ發見シタルトキハ第十九條及第二十條ノ規定ニ依リ處理シ申告義務者ヲシテ直ニ申告書ノ記入ヲ爲サシメ之ヲ蒐集スヘシ

第二十四條　國勢調査員ハ申告書蒐集ノ際世帶人員ノ增加又ハ申告書用紙ノ毀損若ハ紛失ノ爲用紙ノ追給ヲ要スルモノアルトキハ豫備ノ申告書用紙ヲ申告義務者ニ交付シ直ニ記入ヲ爲サシメ之ヲ蒐集スヘシ

第二十五條　申告義務者ニシテ申告書ノ記入ヲ爲シ能ハサルモノアルトキハ國勢調査員ハ申告書蒐集ノ際口頭ヲ以テ申告セシメ代リテ記入ヲ爲シ讀ミ聞カセタル上之ヲ蒐集スヘシ此ノ場合ニ於テハ申告書末尾ニ「代筆　國勢調査員何某」ト附記スヘシ

第二十六條　國勢調査員申告書ヲ受取リタルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スヘシ

一　申告書ノ世帶番號、世帶ノ所在地、世帶ノ種類及申告義務者ノ氏名ヲ照査表ト對照シ相違ノ點ヲ發見シタルトキハ事實ニ依リテ之ヲ訂正スルコト

二　申告書各欄ノ記入ヲ檢査シ誤謬脫漏アルトキハ申告義務者ヲシテ訂正セシメ又ハ質問ノ上之ヲ訂正スルコト

三　申告書記入ノ文字不明ナルトキ又ハ訂正ノ爲不明トナリタルトキハ申告義務者ニ申告書用紙ヲ交付シ更ニ申告書ヲ作製セシメ又ハ自ラ淨寫スルコト但シ淨寫ノ場合ニ於テハ申告義務者氏名ノ次ニ「國勢調査員何某淨寫」ト附記シ原書ニハ左上部ニ「淨寫濟原書」ト附記シ保存スヘシ

四　一世帶每ニ申告書ノ枚數及號數ヲ檢査シ枚數ハ之ヲ照査表第七欄ニ記入スルコト

（記入例第三參照）

第二十七條　國勢調査員申告書ノ蒐集ヲ終リタルトキハ更ニ申告書ノ記入事項ヲ檢査シ補正ヲ要スルモノアルトキハ事實ニ依リテ訂正シタル後左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　各世帶ニ付申告書ノ記入ニ依リ照査表第八欄ノ記入ヲ爲スコト

二　照査表記入ノ順序ニ依リ照査表第六欄ニ世帶通シ番號ヲ記入スルコト

三　照査表第七欄及第八欄ノ各合計ヲ算出記入シ檢算スルコト但シ一通二枚以上ナルトキハ一枚每ニ合計ヲ記入シ最終ノ用紙ニ總計ヲ算出記入スヘシ

四　國勢調査員申告書ヲ淨寫シタルトキハ照査表備考欄ニ「淨寫」ト記入スルコト

五　以上ノ記入ヲ終リタルトキハ照査表ト各世帶ノ申告書トヲ對照シテ符合スルヤ否ヤヲ檢査シ誤謬アルトキハ直ニ之ヲ訂正スルコト

第二十八條　國勢調査員前條ノ手續ヲ終リタルトキハ照査表ニ依リ世帶數、人員實數及申告書枚數ヲ普通世帶及準世帶ニ分チテ算出シ之ヲ末尾ノ摘要ニ記入スヘシ

（記入例第四參照）

第五章　申告書ノ整理及提出

第二十九條　國勢調査員前條ノ手續ヲ終リタルトキハ照査表寫ヲ作成スヘシ

第三十條　國勢調査員ハ申告書ヲ世帶番號順ニ重ネテ之ヲ一括帶封シ「第何調査區」ト記入シ照査表及照査表寫ノ末尾ニ日附ヲ記入シ記名捺印ノ上申告書ト共ニ市町村長ノ定メタル期限迄ニ之ヲ市町村長ニ提出スヘシ

國勢調査員淨寫濟ノ原書ハ別ニ一括シテ前項ノ書類ト共ニ市町村長ニ提出スヘシ

第六章　補則

第三十一條　本規程ニ依リ市町村長ノ職務ハ東京市、京都市、大阪市及名古屋市ニ在リテハ區長、町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ相當スル吏員之ヲ行フモノトス

記入例第一

照査表

（「　」內ハ黑色、其他ハ赭色）

調査區第「一」號

區域「大字山川一圓及大字宮下ノ內學校ニ沿ヒ東北三ツ目土橋ヨリ南青木材木店マテ」

道府縣「滋賀縣」　郡「蒲生郡」　市町村役所役場「岡山村役場」

國勢調査員「岡本調一」

第一欄 世帶番號	第二欄 世帶所在地（大字、小字、地番號記入ノ事）	第三欄 準世帶ノ種類及名稱	第四欄 申告義務者ノ氏名	第五欄 人員概數	第六欄 世帶通シ番號	第七欄 申告書枚數	第八欄 人員實數 男	女	計	備考
「一」號	「大字山川字水無三番地」		「甲田乙太郎」	「五」	號	枚				
「二」號	「大字山川字水無四番地」		「家村甚藏」	「七」	號	枚				
「三」號	「大字山川字水無四番地」	「下宿業、水無館」	「家村甚藏」	[illegible]	號	枚				
「四」號	「大字山川字瀧口一番地先」		「酒井菊造」	[illegible]	號	枚				「船」
「五」號	「大字山川字瀧口三番地」	「[illegible]中學校寄宿舍」	「賀川竹松」	[illegible]	號	枚				
「六」號	「大字宮下字島居十三番地」		「山本武一」		號	枚				「要再調」
「七」號	「大字宮下字島居十三番地」		「長尾早太」	[illegible]	號	枚				
號					號	枚				
號					號	枚				
號					號	枚				
號					號	枚				
號					號	枚				
號					號	枚				
合計 [illegible]						枚				
總計 [illegible]						枚				

右欄內記入ノ完備ヲ確メタル後之ニ基キ記入ヲ爲スヘシ（一通二枚以上ナルトキハ最終ノ用紙ニ記入スヘシ）

摘要

世帶種別	世帶數	人員實數 男	女	計	申告書枚數
普通世帶					
準世帶					
總數					

大正十四年十月　日　國勢調査員

市町村長檢印　□

記入例第二

照査表

調査區第「一」號

區域「大字山川一圓及大字宮下ノ內學校ニ沿ヒ東北三ツ目土橋ヨリ南青木材木店マテ」

道府縣「滋賀縣」　郡「蒲生郡」　市町村役所役場「岡山村役場」

國勢調査員「岡本調一」

第一欄 世帶番號	第二欄 世帶所在地（大字、小字、地番號記入ノ事）	第三欄 準世帶ノ種類及名稱	第四欄 申告義務者ノ氏名	第五欄 人員概數	第六欄 世帶通シ番號	第七欄 申告書枚數	第八欄 人員實數 男	女	計	備考
~~「一」號~~	~~「大字山川字水無三番地」~~		~~「甲田乙太郎」~~	~~「五」~~	號	枚				「移轉」
「二」號	「大字山川字水無四番地」		「家村甚藏」	「七」	號	枚				
「三」號	「大字山川字水無四番地」	「下宿業、水無館」	「家村甚藏」	[illegible]	號	枚				
「四」號	「大字山川字瀧口一番地先」		「酒井菊造」	[illegible]	號	枚				「船」
「五」號	「大字山川字瀧口三番地」	「[illegible]中學校寄宿舍」	「賀川竹松」	[illegible]	號	枚				
「六」號	「大字宮下字島居十三番地」		「山本武一」		號	枚				「要再調」
~~「七」號~~	~~「大字宮下字島居十三番地」~~		~~「長尾早太」~~	[illegible]	號	枚				「區內移轉」

「八」號	「大字山川字水無三番地」		「若木武夫」	「七」	號	枚				「追加、掛ケ小屋」
「九」號	「大字山川字瀧口四番地」		「長尾早太」	「九」	號	枚				「追加」
號			「新谷權助」		號	枚				「追加、要再調」
號					號	枚				
號					號	枚				
號					號	枚				
合計	（通一枚ナルトキハ合計ノミヲ記入シ通二枚以上ナルトキハ一枚毎ニ合計ヲ記入シ最終ノ用紙ニ總計ヲ算出記入スヘシ）	／	／		／	枚				／
總計		／	／		／	枚				／

右欄内記入ノ完備ヲ確メタル後之ニ基キ下ノ記入ヲ爲スヘシ（一通二枚以上ナルトキハ最終ノ用紙ニ記入スヘシ）

摘要

世帯種別	世帯數	人員實數 男	女	計	申告書枚數
普通世帯					
準世帯					
總數					

大正十四年十月　日　國勢調査員

市町村長 検印 □

記入例第三

照査表

調査區第「一」號

區域（「大字山川一圓及大字宮下ノ内學校ニ沿ヒ東北三ツ目土橋ヨリ南青木材木店マテ」）

道府縣　郡　市町村役所役場「滋賀縣」「蒲生郡」「岡山村役場㊞」

國勢調査員「國本調一」

第一欄 世帯番號	第二欄 世帯所在地（大字、小字、地番號等）	第三欄 準世帯ノ種類及名稱	第四欄 申告義務者ノ氏名	第五欄 人員概數	第六欄 世帯通シ番號	第七欄 申告書枚數	第八欄 人員實數 男	女	計	備考
~~「一」號~~	~~「大字山川字水無三番地」~~		~~「甲田乙太郎」~~	~~「五」~~	號	枚				「移轉」
「二」號	「大字山川字水無四番地」		「家村甚藏」	「七」	號	「七」枚				
「三」號	「大字山川字水無四番地」	「下宿業、水無館」	「家村甚藏」	「一四」	號	「一三」枚				
「四」號	「大字山川字瀧口一番地先」		「酒井菊造」	「三」	號	「三」枚				「船」
「五」號	「大字山川字瀧口三番地」	「寄宿舍、縣立瀧口中學校寄宿舍」	「賀川竹松」	「六四」	號	「五九」枚				
「六」號	「大字宮下字島居十三番地」		「山本武一」	「六」	號	「六」枚				~~「要再調」~~
~~「七」號~~	~~「大字宮下字島居十三番地」~~		~~「長尾早太」~~	~~「三」~~	號	枚				「區内移轉」
「八」號	「大字山川字水無三番地」		「若木武夫」	「七」	號	「七」枚				「追加、掛ケ小屋」
「九」號	「大字山川字瀧口四番地」		「長尾早太」	「九」	號	「一〇」枚				「追加」
「一〇」號	「大字山川字水無五番地」		「新谷權助」	「一一」	號	「一一」枚				「追加」~~「要再調」~~
號					號	枚				
號					號	枚				
號					號	枚				
合計	（通一枚ナルトキハ合計ノミヲ記入シ通二枚以上ナルトキハ一枚毎ニ合計ヲ記入シ最終ノ用紙ニ總計ヲ算出記入スヘシ）	／	／		／	枚				／
總計		／	／		／	枚				／

右欄内記入ノ完備ヲ確メタル後之ニ基キ下ノ記入ヲ爲スヘシ（一通二枚以上ナルトキハ最終ノ用紙ニ記入スヘシ）

摘要

世帯種別	世帯數	人員實數 男	女	計	申告書枚數
普通世帯					
準世帯					
總數					

大正十四年十月　日　國勢調査員

市町村長 検印 □

記入例第四

照査表

調査區第「一」號

區域（「大字山川一圓及大字宮下ノ内學校ニ沿ヒ東北三ツ目土橋ヨリ南青木材木店マテ」）

道府縣　郡　市町村役所役場「滋賀縣」「蒲生郡」「岡山村役場㊞」

國勢調査員「國本調一」

第一欄 世帯番號	第二欄 世帯所在地（大字、小字、地番號等）	第三欄 準世帯ノ種類及名稱	第四欄 申告義務者ノ氏名	第五欄 人員概數	第六欄 世帯通シ番號	第七欄 申告書枚數	第八欄 人員實數 男	女	計	備考
~~「一」號~~	~~「大字山川字水無三番地」~~		~~「甲田乙太郎」~~	~~「五」~~	號	枚				「移轉」
「二」號	「大字山川字水無四番地」		「家村甚藏」	「七」	「一」號	「七」枚	「四」	「三」	「七」	
「三」號	「大字山川字水無四番地」	「下宿業、水無館」	「家村甚藏」	「一四」	「二」號	「一三」枚	「七」	「六」	「一三」	「浄寫」
「四」號	「大字山川字瀧口一番地先」		「酒井菊造」	「三」	「三」號	「三」枚	「二」	「一」	「三」	「船」
「五」號	「大字山川字瀧口三番地」	「寄宿舍、縣立瀧口中學校寄宿舍」	「賀川竹松」	「六四」	「四」號	「五九」枚	「五九」	「—」	「五九」	
「六」號	「大字宮下字島居十三番地」		「山本武一」	「六」	「五」號	「六」枚	「三」	「三」	「六」	~~「要再調」~~
~~「七」號~~	~~「大字宮下字島居十三番地」~~		~~「長尾早太」~~	~~「三」~~	號	枚				「區内移轉」
「八」號	「大字山川字水無三番地」		「若木武夫」	「七」	「六」號	「七」枚	「三」	「四」	「七」	「追加、掛ケ小屋」
「九」號	「大字山川字瀧口四番地」		「長尾早太」	「九」	「七」號	「一〇」枚	「五」	「五」	「一〇」	「追加」
「一〇」號	「大字山川字水無五番地」		「新谷權助」	「一一」	「八」號	「一一」枚	「六」	「五」	「一一」	「追加」~~「要再調」~~
號					號	枚				
號					號	枚				
號					號	枚				
合計	（通一枚ナルトキハ合計ノミヲ記入シ通二枚以上ナルトキハ一枚毎ニ合計ヲ記入シ最終ノ用紙ニ總計ヲ算出記入スヘシ）	／	／	「一二一」	／	「一一六」枚	「八九」	「二七」	「一一六」	／
總計		／	／		／	枚				／

右欄内記入ノ完備ヲ確メタル後之ニ基キ下ノ記入ヲ爲スヘシ（一通二枚以上ナルトキハ最終ノ用紙ニ記入スヘシ）

摘要

世帯種別	世帯數	人員實數 男	女	計	申告書枚數
普通世帯	「六」	「二三」	「二一」	「四四」	「四四」
準世帯	「二」	「六六」	「六」	「七二」	「七二」
總數	「八」	「八九」	「二七」	「一一六」	「一一六」

大正十四年十月　日　國勢調査員

市町村長 検印 □

●各世帯ニ配付スヘキ國勢調査申告書用紙樣式

大正十四年五月二十五日
内閣告示第四號

大正十四年國勢調査施行令第五條ノ規定ニ依リ各世帯ニ配付スヘキ國勢調査申告書用紙樣式左ノ通定ム

樣式

表

郡市町村名

調査區　第　號

（うらの注意がきに從ひ墨又は黒インキにてかきいれること）

（緒色）

○

國勢調査申告書

大正十四年十月一日

大字番地番屋敷	
世帯	第　號
世帯の種類	普通世帯　準世帯
一 氏名	
二 男女の別	男　女
三 出生の年月	年　月
四 配偶の關係	未婚　有配偶　死別　離別
五 申告書	枚の内第　號
六 世帯主又は世帯管理者氏名	捺印

國勢調査員検印 □

（かきいれ終つたときは申告書の番號順に重れてとぢること）

内閣統計局

裏

今度の調べは、一人に一枚の申告書をつくるのであります。世帯主又は世帯の管理者は、左記（い）（ろ）（は）に示すところにより、もれなく申告書をつくられたい。

（い）十月一日午前零時（九月三十日より十月一日にうつる夜半）に世帯に在つた者は、家族たると否とを問はず、その世帯から申告すること。

（ろ）十月一日午前零時にたまたま屋外に在り、又は夜業、夜勤、宿直などのため世帯のないところに在つても、十月一日中に自分の世帯に歸るべき者に付ては、その世帯から申告すること。

（は）十月一日午前零時に汽車、電車、世帯のない舟筏又は陸路の旅行中であることが、前から明である者は、最後に出發した世帯に、又前から明でない者は、十月一日午前に始めて着いた世帯に在つた者として、その世帯から申告すること。

かきいれかた

世帯主又は世帯の管理者が、かきいれるところは、一から六までとある。

一 氏名　まだ名のついてない者は、「名ツケズ」とかきいれること。

二 男女の別　男は「男」、女は「女」の文字の傍に、○印をつけること。

三 出生の年月

（い）生れた年月をかきいれること。

（ろ）生れた月の明でない者は、「月」の上に「不明」とかきいれること。

（は）生れた年も明でない者は、見込の年齢を「何歳」とかきいれること。

（に）外國人は、その本國の暦による年月をかきいれてもよい。

四 配偶の關係　未婚、有配偶、死別、離別の區別により、それぞれの文字の傍に、○印をつけること。

以上一から四までをかきいれてから、まちがひのないことをたしかめた上、世帯から出す申告書全部を調べて、五のところに申告書の枚數と番號とをかきいれ、最後に六のところに自分の氏名を認め、捺印して、國勢調査員が集めに來たときに、これを渡

（緒色）

されたい。もしかきいれた事柄に付、國勢調査員から質問があれば、はつきり答へられたい。

●市町村ニ於テ民勢調査妨害處罰方

（明治四十一年八月十一日内務省令第十五號）

市（北海道區制及沖縄縣區制ニ依ル區ヲ含ム）町村ニ於テ條例ヲ定メ民勢ノ調査ヲ爲スニ當リ故意ニ申告ヲ拒ミ若ハ虚僞ノ申告ヲ爲シ又ハ其ノ調査ヲ忌避シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス虚說造言ヲ放チ僞計威力ヲ用ヰテ調査ヲ妨害スル者亦同シ

第七輯

外事

第七輯

外事

第七輯　外事

第一章　平和條約及萬國條約

第一款　平和條約及附屬議定書

○平和克復ノ詔（大正九、一、一〇、詔書）……一
○對獨平和條約及附屬議定書（大正九、條約一）……一
○國際聯盟規約第四條改正議定書（大正一五、條約二）……五八
○國際聯盟規約第六條改正議定書（大正一三、條約一三）……五九
○國際聯盟規約第十二條改正議定書（大正一三、條約一四）……五九
○國際聯盟規約第十三條改正議定書（大正一三、條約一五）……六〇
○國際聯盟規約第十五條改正議定書（大正一三、條約一六）……六一
○對獨平和條約第八編（賠償）第二附屬書中改正決議（大正一〇、外告二六）……六一
○「ヴェルサイユ」條約第八編第二附屬書ノ修正議定書（大正一四、外告二九）……六二
○「ヴェルサイユ」條約第八編第二附屬書中修正議定書（大正一四、外告三五）……六三
○對獨平和條約第八編第一款第一附屬書第一號等ニ該當スル損害申告方（大正九、外令三）……六三
○獨、墺、洪及勃國トノ平和條約及補充協定ノ適用ニ關スル或種ノ問題ヲ解決スル爲ノ同盟國間ノ協定（大正一四、外告二五）……六五
○「ヴェルサイユ」條約ノ規定ニ基キ損害總額ヲ決定シタル賠償委員會ノ決議（大正一四、外告二六）……六七
○「ヴェルサイユ」條約ノ規定ニ從ヒ獨逸國ノ負擔スル一切ノ賠償義務ノ保障竝履行ノ時期及方法ヲ規定スル支拂計畫（大正一四、外告二七）……六七
○倫敦協定（大正一四、外告二八）……六九
○倫敦協定第二附屬書ノ規定ニ基ク實物引渡規程（大正一五、外告一九）……七八
○對獨賠償債權讓渡ノ件（大正一五、大告一三一）……八四
○倫敦協定ニ依ル專門家計畫（「ドーズ」案）（大正一四、外告三〇）……八五
○「ドーズ」年次金ノ分配ニ關スル協定（大正一四、外告六五）……一二一
○「ライン」地方占領軍、同盟國「ライン」地方高級委員會及同盟國軍事監督委員會ニ對シ第二年度ノ「ドーズ」年次金中ヨリ割當テラルヘキ金額ニ關スル協定（大正一五、外告一七）……一二七
○平和條約ノ實施ニ伴フ流通證券及工業所有權ニ關スル法律（大正九、法律一）……一二七
○同盟及聯合國ト墺、勃、洪、土國トノ平和條約ノ實施ニ伴フ流通證券及工業所有權ニ關スル件（大正九、勅令四八七）……一二八
○對墺平和條約及附屬議定書（大正九、條約三）……一二八
○對洪平和條約及附屬議定書（大正一〇、條約三）……一八〇
○二十年間洪牙利國ニ課セラルヘキ條約上ノ負擔額ニ關スル賠償委員會ノ決定（大正一四、外告三二）……二二九
○對勃平和條約及附屬議定書（大正一〇、條約二）……二三〇
○同盟國國際委員會ト勃牙利國政府間ニ協定シタル支拂計畫書ノ修正及追補（大正一四、外告三一）……二六七
○對土平和條約、海峽制度ニ關スル條約、「トラース」國境ニ關スル條約、居住及裁判管轄ニ關スル條約、通商條約、「ローザンヌ」ニ於テ署名セラレタル文書中一定ノ規定ニ對スル白耳義國及葡萄牙國ノ加入ニ關スル議定書、「カラガッチ」ノ領域竝「インブロス」島及「テネドス」島ニ關スル議定書、主タル同盟國及希臘國間締結希臘國ニ於ケル少數民族ノ保護ニ關スル條約ニ關スル竝同國間締結「トラース」ニ關スル條約ニ關スル議定書及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ署名ニ關スル議定書（大正一三、條約九）……二六九
○希臘國以外ノ同盟國國民カ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約及羅馬尼亞國ノ同條約ニ對スル署名ノ權限ニ關スル議定書（大正一三、條約一〇）……二九六
○希臘國以外ノ同盟國國民カ土耳其國ニ於テ被リタル戰爭ニ因ル損害ノ評價及賠償ニ關スル條約ニ規定スル損害賠償請求方（大正一四、外令五）……二九八
○「メーメル」ニ關スル條約（大正一四、條約一〇）……二九八

第二款　常設國際司法裁判
混合仲裁裁判

○常設國際司法裁判所規程ニ關スル署名議定書竝常設國際司法裁判所規程（大正一〇、條約六）……三〇三
○國際聯盟國ニ非サル國及國際聯盟規約附屬書所載ノ國ニ非サル國ニ對シ常設國際司法裁判所ヲ開クノ條件ニ關スル決議（大正一一、外告三七）……三〇七
○帝國ト獨逸國トノ間ニ設置スル混合仲裁裁判所ニ關スル件（大正九、勅令八七）……三〇八
○日獨混合仲裁裁判所手續準則（大正一〇、外告二）……三〇八
○帝國ト墺地利國トノ間ニ設置スル混合仲裁裁判所ニ關スル件（大正九、勅令四八五）……三〇九
○日墺混合仲裁裁判所手續準則（大正一〇、外告三二）……三〇九
○帝國ト洪牙利國トノ間ニ設置スル混合仲裁裁判所ニ關スル件（大正一〇、勅令三七五）……三一〇

第三款　萬國條約

○メートル條約（明治一九、四、二〇、勅令）……三一一
○（一）メートル法ノ國際的統一及其完成ヲ確保セムカ爲千八百七十五年五月二十日巴里ニ於テ署名セラレタル條約及（二）同條約附錄規則ノ修正ニ關スル國際條約（大正一四、條約一）……三一二
○赤十字條約（明治一九、一一、一六、勅令）……三一四
○海上法要義ニ關スル宣言（明治二〇、三、二四、勅令）……三一四
○窒息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ散布スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ各自ニ禁止スル宣言書（明治三三、一一、二二、勅令）……三一五
○外包硬固ナル彈丸ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人體内ニ入テ容易ニ開展シ又ハ扁平トナルヘキ彈丸ノ使用ヲ各自ニ禁止スル宣言

書（明治三三、一一、二二、勅令）……三一六
○萬國平和會議最終決議書（明治三三、外告四七）……三一六
○第二回萬國平和會議最終決議書（明治四五、外告二）……三一九
○病院船ニ關スル條約（明治四〇、條約一）……三二六
○戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル條約（明治四一、條約一）……三二七
○國際阿片會議決議（明治四二、五、一三、官報）……三三三
○黃浦江ニ關スル追加假協定竝國際阿片條約及國際阿片會議最終議定書（大正九、一、一〇、官報）……三三四
○萬國農事協會ニ關スル條約（明治四三、條約三）……三四三
○文學的及美術的著作物保護修正ベルヌ條約（明治四三、條約五）……三四四
○文學的及美術的著作物保護修正ベルヌ條約追加議定書（大正四、條約一）……三四七
○膃肭獸保護條約（明治四四、條約一三）……三四八
○國際紛爭平和的處理條約（明治四五、條約一）……三五〇
○契約上ノ債務回收ノ爲ニスル兵力使用ノ制限ニ關スル條約（明治四五、條約二）……三五七
○開戰ニ關スル條約（明治四五、條約三）……三六〇
○陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約（明治四五、條約四）……三六四
○陸戰ノ場合ニ於ケル中立國及中立人ノ權利義務ニ關スル條約（明治四五、條約五）……三六九
○開戰ノ際ニ於ケル敵ノ商船取扱ニ關スル條約（明治四五、條約六）……三七四
○商船ヲ軍艦ニ變更スルコトニ關スル條約（明治四五、條約七）……三七七
○自動觸發海底水雷ノ敷設ニ關スル條約（明治四五、條約八）……三八〇
○戰時海軍力ヲ以テスル砲擊ニ關スル條約（明治四五、條約九）……三八四
○ジュネヴァ條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約（明治四五、條約一〇）……三八七
○海戰ニ於ケル捕獲權行使ノ制限ニ關スル條約（明治四五、條約一一）……三九二
○海戰ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ニ關スル條約（明治四五、條約一二）……三九六
○千九百年十二月十四日菲律悉及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書（大正二、條約二）……四〇〇
○世界戰爭ニ因リ影響セラレタル工業所有權ノ保存又ハ回復ニ關スル取極（大正九、條約七）……四〇四
○船舶衝突ニ付テノ規定ノ統一ニ關スル條約（大正三、條約一）……四〇五
○海難ニ於ケル救援救助ニ付テノ規定ノ統一ニ關スル條約（大正三、條約二）……四〇九
○國際貿易統計作成ニ關スル協約（大正三、條約四）……四一二
○國際貿易統計局ノ組織ニ關スル規則（大正三、外告六）……四一五
○燐寸製造ニ於ケル黃燐使用ノ禁止ニ關スル國際條約（大正一〇、條約五）……四二三
○阿弗利加ニ於ケル火酒類取締ニ關スル條約及附屬議定書（大正一一、條約一）……四二三
○千八百八十五年二月二十六日ノ伯林一般議定書竝千八百九十年七月二日ノ「ブリュッセル」一般議定書及宣言書ノ改正ニ關スル條約（大正一一、條約二）……四二五
○航空ニ關スル條約及議定書（大正一一、條約四）……四二七
○千九百十九年十月十三日ノ航空法規ニ關スル條約第五條ノ修正ニ關スル議定書（大正一五、條約七）……四四九
○千九百十九年十月十三日ノ航空法規ニ關スル條約第三十四條ノ修正ニ關スル議定書（大正一五、條約八）……四五〇
○國際航空條約ニ關スル國際航空委員會決議（大正一二、外告二三）……四五一
○失業ニ關スル條約（大正一一、條約六）……四六六
○海員ニ對スル職業紹介所設置ニ關スル條約（大正一一、條約七）……四六六
○海軍軍備制限ニ關スル條約（大正一二、條約二）……四六八
○太平洋方面ニ於ケル島嶼タル屬地及島嶼タル領地ニ關スル四國條約竝同條約追加協定（大正一二、條約三）……四七五
○農業ニ使用シ得ル兒童ノ年齡ニ關スル條約（大正一二、條約四）……四七七
○通過ノ自由ニ關スル條約及規程（大正一三、條約一）……四七八
○無海岸國ノ船旗ニ關スル權利ヲ承認スル宣言書（大正一三、條約二）……四八七
○國際冷凍協會ヲ巴里ニ創設スルコトヲ目的トスル國際條約（大正一三、條約三）……四八八
○公衆衞生國際事務局設置ニ關スル千九百七年ノ羅馬協定（大正一三、條約四）……四九〇
○海上ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齡ヲ定ムル條約（大正一三、條約七）……四九二
○海上ニ使用セラルル兒童及年少者ノ強制體格檢查ニ關スル條約（大正一三、條約八）……四九二
○支那ニ關スル九國條約（大正一四、條約八）……四九三
○支那ノ關稅ニ關スル條約（大正一四、條約九）……四九四
○軍備制限會議ニ於テ採用セラレタル諸決議（大正一四、外告六二）……四九六
○婦人及兒童ノ賣買禁止ニ關スル國際條約（大正一四、條約一七）……四九九
○醜業ヲ行ハシムル爲ノ婦女賣買禁止ニ關スル國際條約（大正一四、條約一八）……五〇四
○工業ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齡ヲ定ムル條約（大正一五、條約一）……五〇九
○鐵道ノ國際制度ニ關スル條約（大正一五、條約四）……五〇九
○海港ノ國際制度ニ關スル條約及規程（大正一五、條約五）……五一五
○萬國郵便條約及最終議定書（第十七輯第一章第二款ニ收ム）
○價格表記ノ書狀及箱物ニ關スル約定竝最終議定書（第十七輯第一章第二款ニ收ム）
○小包郵便物ニ關スル約定及最終議定書（第十七輯第一章第二款ニ收ム）
○郵便爲替ニ關スル約定（第十七輯第一章第三款ニ收ム）
○郵便振替ニ關スル約定及最終議定書（第十七輯第一章第四款ニ收ム）
○萬國電信條約書（第十七輯第一章第六款ニ收ム）
○海底電信線保護萬國聯合條約（第十七輯第一章第六款ニ收ム）
○國際無線電信條約（第十七輯第一章第六款ニ收ム）

第二章　各國條約　附外國政府承認

第一款　亞米利加合衆國

○日米通商航海條約（明治四四、條約一）……五二〇
○日米兩國犯罪人引渡條約（明治一九、一〇、八、勅令）……五二二
○日米仲裁裁判條約（明治四一、條約六）……五二三
○日米仲裁裁判條約有效期間延長ニ關スル協約（大正三、條約三）……五二四
○日米仲裁裁判條約ノ有效期間再延長ニ關スル協約（大正八、條約一）……五二四
○日米仲裁裁判條約ノ有效期間第三回延長ニ關スル協約（大正一三、條約五）……五二四
○日米間著作權保護ニ關スル條約（明治三九、五、一一、勅令）……五二五
○支那ニ於ケル發明意匠商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日米條約（明治四一、條約五）……五二六
○ヤップ島及他ノ赤道以北ノ太平洋委任統治諸島ニ關スル日米條約（大正一一、條約五）……五二六
○亞米利加合衆國船舶ノ檢查ニ關スル件（明治三九、遞令四九）……五二八
○日米兩國間交換外交文書（明治四一、一二、二、官報）……五二九
○日米間船舶ノ運用ヨリ生スル所得ニ對スル二重課稅ニ關スル件（大正一五、外告四二）……五三〇
○移民ニ非サル者ノ旅券查證料ニ關スル協定（大正一五、外告四三）……五三〇

第二款　亞爾然丁國

○日亞修好通商航海條約（明治三四、一〇、一、勅令）……五三〇

第三款　墺地利國

○日墺兩國間通商、關稅及航海ニ關スル事項ニ付相互ニ最惠國待遇ヲ許與スルノ件ニ關シ公文交換（大正一二、外告三八）……五三一
○日墺兩國間入國滯在、生業、職業、產業及內國稅等ニ關シ相互的待遇ヲ約スル追加公文交換（大正一四、外告七八）……五三二

第四款　白耳義國

○日本國白耳義國間通商航海條約（大正一四、條約七）……五三二

第五款　伯剌西爾國

○日伯修好通商航海條約（明治三〇、二、二二、勅令）……五三六

第六款　ボリヴィア國

○日本「ボリヴィア」通商條約（大正五、條約一）……五三七

第七款　智利國

○日智修好通商航海條約竝追加條款（明治三九、一一、六、勅令）……五三八

第八款　支那國

○日淸通商航海條約（明治二九、一〇、二九、勅令）……五三九
○追加日淸通商航海條約（明治三七、一、二〇、勅令）……五四二
○難破船救助費用償還ニ關スル約定（明治三一、一〇、一三、勅令）……五四三
○滿洲ニ關スル條約（明治三九、一、三一、勅令）……五四四
○日淸間協約（明治四二、九、八、官報）……五四五
○南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約（大正四、條約三）……五四五
○山東省ニ關スル條約（大正四、條約二）……五四八
○山東懸案解決ニ關スル條約（大正一一、條約三）……五四九
○日本帝國及支那共和國間ノ山東懸案細目協定及同附屬書、同了解事項竝山東懸案鐵道細目協定及同了解事項（大正一一、外告六四）……五五二
○山東懸案細目協定及同協定附屬書ニ依リ青島鹽ノ日本向輸出ニ關シ日支主務官廳間協定（大正一五、大告二九）……五五七
○山東懸案解決ニ關スル條約ニ依リ補償ヲ受クヘキ製鹽業者ニ支那國國庫證券交付ニ關スル件（大正一二、勅令六）……五五八
○日支兩國間公文交換（大正七、五、三一、官報）……五五八
○日淸合同材木會社章程（明治四一、外告三）……五五九
○新奉及吉長鐵道ニ關スル協約（明治四〇、外告八）……五五九
○國境列車直通運轉ニ關スル日淸協約（明治四四、一一、一五、官報）……五六一
○鮮滿國境通過鐵道貨物關稅輕減取極（大正二、六、一一、官報）……五六二
○大連海關設置竝內水汽船航行ニ關スル協定（明治四〇、外告一三）……五六二
○蘇州日本居留地取極書（明治三〇、外告三）……五六五
○杭州日本居留地取極書及同追加取極書（明治三〇、外告六）……五六五
○沙市日本居留地章程（明治三一、外告一九）……五六七
○天津日本居留地取極書及同續約（明治三一、外告二二）……五六八
○天津日本擴張居留地取極書（明治三六、外告四）……五六九
○在天津帝國專管居留地ノ土地ニ關スル件（明治三五、外令五）……五七〇
○在支帝國專管居留地內土地建物ノ屆出ニ關スル件（大正一四、外令八）……五七〇
○漢口日本居留地取極書（明治三一、外告二四）……五七〇
○漢口日本擴張居留地取極書（明治四〇、外告一七）……五七一
○福州日本專管居留地取極書及同別約書（明治三二、外告一二）……五七一
○厦門日本專管居留地取極書（明治三二、外告一三）……五七一
○厦門日本專管居留地追加取極書（明治三四、外告一六）……五七二
○重慶日本專管居留地取極書（明治三四、外告二一）……五七三
○開港開市地（明治三二、外告六）……五七三
○黃浦江水路改良ニ關スル約定（明治三八、一〇、二八、官報）……五七五

第九款　チェッコ、スロヴァキア國

○日本國「チェッコスロヴァキア」共和國間通商條約（大正一五、條約三）……五七六
○同盟及聯合國ト「チェッコ、スロヴァキア」國トノ條約（大正九、條約四）……五七八

第十款　哥倫比亞國

○日哥修好通商航海條約（明治四一、條約七）……五八一

第十一款　丁抹國

○日丁通商航海條約（明治四五、條約一四）……五八二
○日丁特別相互關稅條約（明治四五、條約一五）……五八四
○「シュレスウィヒ」ニ關スル條約（大正九、條約八）……五八五
○丁抹國船舶登簿噸數交互承認（明治二四、遞令一五）……五八六

第十二款　西班牙國

○日西修好交通條約（大正四、條約四）……五八六
○日西特別通商條約（明治三四、四、八、勅令）……五八九
○版圖境界宣言（明治二八、八、一七、官報）……五九一

第十三款　エクアドル國

○日本「エクアドル」修好通商航海條約（大正八、條約二）……五九二
○日本「エクアドル」間修好通商航海條約調印ニ關スル交換公文（大正八、四、五、官報）……五九三

第十四款　佛蘭西國

○日佛通商航海條約（明治四五、條約一三）……五九三
○日佛協約（明治四〇、六、一七、官報）……五九八
○日佛兩國間原產地證明手數料相互免除ノ件（大正二、外告八）……五九八
○摩洛哥國佛領地帶ニ於テ領事裁判權ヲ撤廢シ日佛兩國間ニ存スル條約ヲ適用スル件ニ關シ外務大臣及在本邦佛國特命全權大使ノ間ニ交換セル宣言書（大正四、外告二四）……五九八
○支那ニ於ケル發明意匠商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日佛條約（明治四四、條約三）……五九九

第十五款　フィンランド國

○日本國「フィンランド」國間通商航海條約（大正一五、條約六）……五九九

第十六款　獨逸國

○獨逸國ト帝國間ニ旅券ノ査證相互廢止ニ關スル件（大正一五、外告一八）……六〇一

第十七款　大不列顚國

○日英通商航海條約（明治四四、條約二）……六〇一
○日英兩國間原產地證明手數料相互免除ニ關スル外交文書（大正元、一一、四、官報）……六〇七
○日印通商ニ關スル條約（明治三八、三、一六、勅令）……六〇八
○英吉利版圖內ニ於テ日本船舶ノ登簿噸數承認（明治一八、外告五）……六〇八
○英國商船條例中甲板上貨物搭載ニ關スル條款ヲ外國船ニ適施（明治二〇、外告二）……六〇九
○英國政府ト取極ヲ結ビタル帝國旅客汽船檢查證明方（明治四二、遞告一一六二）……六〇九

第十八款　希臘國

○日希修好通商航海條約（明治三二、一〇、一二、勅令）……六〇九
○小數民族ニ關スル主タル同盟及聯合國ト希臘國トノ條約（大正一三、條約一一）……六一二
○「トラース」ノ主權ニ關スル主タル同盟及聯合國ト希臘國トノ條約（大正一三、條約一二）……六一五

第十九款　伊太利國

○日伊通商航海條約（大正二、條約六）……六一六
○日伊通商航海條約存續取極ニ關スル件（大正七、外告二三）……六二〇

第二十款　メキシコ國

○日本國「メキシコ」國間通商航海條約（大正一四、條約六）……六二一
○醫術自由開業ニ關スル日墨協定（大正六、五、八、官報）……六二四

第二十一款　諾威國

○日諾通商航海條約（明治四四、條約七）……六二四
○日諾特別相互關稅條約（明治四四、條約八）……六二六
○「スピッツベルゲン」ニ關スル條約（大正一四、條約三）……六二六

第二十二款　和蘭國

○日蘭通商航海條約（大正二、條約八）……六二九
○和蘭國ノ海外領地及殖民地ニ關スル日蘭領事職務條約（明治四一、條約三）……六三一
○日蘭兩國間船舶積量測度證書互認ニ關スル外交文書（明治四五、六、一五、官報）……六三三
○船舶積量互認ノ件ニ關シ和蘭國政府ト取極條規（明治四五、遞令三三）……六三三

第二十三款　祕露國

○日祕通商航海條約（明治三〇、一一、九、勅令）……六三四

第二十四款　パラグアイ國

○日本「パラグアイ」國間通商條約（大正一〇、條約四）……六三七

第二十五款　波蘭國

○日本國波蘭國間通商航海條約（大正一四、條約二）……六三八
○波蘭國ニ關スル條約（大正九、條約二）……六四一

第二十六款　露西亞國

○日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約並關係議定書（大正一四、條約五）……六四四
○露西亞國講和條約（明治三八、一〇、一六、勅令）……六四七
○日露漁業協約（明治四〇、條約五）……六四九
○滿洲ニ於ケル日露鐵道接續業務ニ關スル假條約、追加條款及附屬議定書（明治四〇、八、三、官報）……六五〇
○逃亡犯罪人引渡條約（明治四四、條約一二）……六五二
○日露兩國間會社互認ニ關スル協約（明治四四、條約四）……六五三
○工業所有權相互保護ニ關スル日露條約（大正元、條約一）……六五三
○清國ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日露條約（大正元、條約二）……六五四
○日露協約（明治四〇、八、一五、官報）……六五四
○日露協約（大正五、七、八、官報）……六五五
○樺太島日露境界劃定書及境界劃定事業承認ニ關スル外交文書（明治四一、九、一〇、官報）……六五五
○日露兩國間原產地證明手數料相互免除ニ關スル外交文書（明治四三、一、一五、官報）……六五六
○船舶積量互認ノ件ニ關シ露西亞國政府ト取極條規（明治四三、遞令五）……六五六
○日露兩國間船舶積量測度證書互認ニ關スル外交文書（明治四三、三、一、官報）……六五七

第二十七款　羅馬尼亞國

○同盟及聯合國ト羅馬尼亞國トノ條約（大正九、條約六）……六五七

第二十八款　暹羅國

○日本國暹羅國間通商航海條約（大正一三、條約一七）……六五九

第二十九款　瑞典國

○日瑞通商航海條約（明治四四、條約五）……六六三
○日瑞特別相互關稅條約（明治四四、條約六）……六六五
○支那ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日本瑞典條約（大正六、條約一）……六六五
○瑞典及諾威國政府ト船舶積量互認取極條規（明治三五、遞令一一）……六六六

第三十款　瑞西國

○日本瑞西間居住通商條約（明治四四、條約一四）……六六六
○日本國及瑞西國間司法的解決條約（大正一四、條約一六）……六六八

第三十一款　セルブ、クロアート、スロヴェーヌ國

○日本國「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國間通商航海條約（大正一四、條約四）……六六九
○同盟及聯合國ト「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國トノ條約（大正九、條約五）……六七一
○「グレート、ブリテン」國、佛蘭西國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國間協定ニ帝國政府加入（大正一四、外告七五）……六七四

第三十二款　外國政府承認

○葡萄牙共和國承認（明治四四、九、一六、官報）……六七四
○エストニア、ラトヴィア、ジョルジア三國政府承認（大正一〇、外告一〇）……六七四
○リスアニア國政府承認（大正一一、外告六二）……六七四

第三章　開港（第十七輯第二章第十二款ニ收ム）

第四章　渡航及在留

○外國旅券規則（明治四〇、外令一）……六七四
○移民保護法（明治二九、法律七〇）……六七五
○移民保護法施行細則（明治四〇、外令三）……六七七
○移民保護法第三條ニ依リ移民ヲシテ保證人ヲ定メシムヘキ地（明治四〇、外告一四）……六八〇
○移民保護法第二十條ノ二ニ依リ命令ヲ以テ定メシムヘキ地（明治四〇、外告一五）……六八〇
○【清國】及【朝鮮國】在留帝國臣民取締法（明治二九、法律八〇）……六八〇
○居留民團法（明治三八、法律四一）……六八一
○居留民團法施行規則（大正一三、外令九）……六八一
○外國在留帝國臣民登錄規則（明治四二、外令五）……六八五
○外國人入國ニ關スル件（大正七、內令一）……六八五
○外國旅券規則（明治四三、朝令二七）……六八六
○移民保護法（明治三九、統告六八）……六八六
○移民保護法施行細則（明治三九、統告七四）……六八七
○在朝鮮各國居留地制度廢止ニ關スル朝鮮總督府外事局長及當該締約國領事官協議會議定書（大正三、朝告一〇三）……六八八
○在朝鮮支那共和國居留地廢止ニ關スル協定（大正三、朝告一〇四）……六八九
○外國人渡來ニ關スル件（大正七、朝令一四）……六八九
○外國人勞働從事者取締方（明治四三、統令五二）……六八九
○外國人勞働從事ノ種類及許可方（明治四三、朝令一七）……六八九
○外國旅券規則（明治四〇、臺令八六）……六九〇
○本島人亞米利加合衆國及其ノ領土內渡航證明規則（明治三五、臺令八〇）……六九〇
○外國人入國ニ關スル件（大正七、臺令七）……六九一
○船乘營業上備人支那人開港市場外上陸出願方（明治三一、臺令二〇）……六九一
○支那勞働者取締規則（明治三七、臺令六八）……六九二
○外國旅券規則（明治四〇、樺令六八）……六九二
○外國人入國ニ關スル件（大正七、樺令二）……六九三
○關東州居住支那人露領旅行證明規則（大正三、關令一九）……六九三
○外國人取締規則（大正七、關令一五）……六九三
○外國旅券規則（大正一一、南令二七）……六九四
○外國人入島ニ關スル件（大正一四、南令一）……六九四

第五章　特殊財産管理

○獨逸國等ニ屬スル財産管理ノ件（大正九、勅令四八）……六九五
○特殊財産管理ニ關スル勅令施行ニ關スル件（大正九、內令三）……六九五
○朝鮮ニ於ケル特殊財産管理ニ關スル件（大正一〇、內令三）……六九八
○大正九年勅令第四十八號施行ニ關スル件（大正九、關令二二）……七〇〇
○大正九年勅令第四十八號ニ依ル管理財産タル國債ニ關スル取扱手續（大正九、大令一一）……七〇一
○同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ依ル財産處理ニ關スル件（大正九、勅令一七一）……七〇一
○同盟及聯合國ト墺地利國トノ平和條約ニ依ル財産處理ニ關スル件（大正九、勅令五三四）……七〇一
○同盟及聯合國ト洪牙利國トノ平和條約ニ依ル財産處理ニ關スル件（大正一〇、勅令三七六）……七〇一
○特殊財産ノ現金ニ對シ利子ヲ附スルノ件（大正一二、勅令三八九）……七〇一

第七輯　外事

第一章　平和條約及萬國條約

第一款　平和條約及附屬議定書

●平和克復ノ詔　大正九年一月十日（詔書）

朕惟フニ今次ノ大戰亂ハ兵戈五年ニ彌リ世界ヲ聳動セシメタルモ我カ聯合諸友邦勇奮努力ノ威烈ニ賴リ戰氣一掃平和全ク復スルニ至リタルハ朕ノ甚タ懌フ所ナリ今斯ノ紛擾ノ局ヲ收メ安寧ヲ將來ニ規ルハ固ヨリ諸友邦ノ協同燮理ニ須タサルヘカラス爰ニ講和會議ノ佛國ニ開カルルヤ朕亦全權委員ヲ簡派シ其ノ商議ニ參セシメシニ平和永遠ノ協定新ニ成リ國際聯盟ノ規模斯ニ立ツ是レ朕カ中心實ニ欣幸トスル所ナルト共ニ又今後國家負荷ノ重大ナルヲ感セスムハアラサルナリ

今ヤ世運一展シ時局丕ニ變ス宜シク奮勵自彊隨時順應ノ道ヲ講スヘキノ秋ナリ爾臣民其レ深ク之ニ省ミ進ミテハ萬國ノ公是ニ循ヒ世界ノ大經ニ仗リ以テ聯盟平和ノ實ヲ擧ケムコトヲ思ヒ退イテハ重厚堅實ヲ旨トシ浮華驕奢ヲ戒メ國力ヲ培養シテ時世ノ進運ニ伴ハムコトニ勉メサルヘカラス

朕ハ永ク友邦ト偕ニ和平ノ慶ニ賴リ休明ノ澤ヲ同クセムコトヲ期シ朕カ忠良ナル臣民ノ一心協力ニ倚藉シ衆庶ノ康福ヲ充足シ文明ノ風化ヲ廣敷シ益ミ祖宗ノ洪業ヲ光恢セムコトヲ庶幾フ爾臣民其レ克ク朕カ旨ヲ體セヨ（各大臣副署）

●對獨平和條約及附屬議定書　大正九年一月十日（條約第一號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正八年六月二十八日佛蘭西國「ヴェルサイユ」ニ於テ帝國全權委員ノ同盟及聯合國全權委員並獨逸國全權委員ト共ニ署名調印シタル平和條約及附屬議定書ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國及日本國

右諸國ヲ以テ本條約ニ謂フ主タル同盟及聯合國トス

白耳義國、「ボリヴィア」國、伯剌西爾國、支那國、玖馬國、「エクアドル」國、希臘國、「グァテマラ」國、「ハイチ」國、「ヘヂァーズ」國、「ホンヂュラス」國、「リベリア」國、「ニカラグァ」國、巴奈馬國、祕露國、波蘭國、葡萄牙國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國、暹羅國、「チェッコ、スロヴァキア」國及「ウルグァイ」國

右諸國ハ前記ノ主タル諸國ト共ニ同盟及聯合國ヲ構成ス

以上ヲ一方トシ

獨逸國

之ヲ他ノ一方トス

此等諸國ハ主タル同盟及聯合國カ獨逸帝國政府ノ請求ニ基キ獨逸國ト平和條約ヲ締結セムカ爲千九百十八年十一月十一日獨逸國ニ對シ休戰ヲ許諾シタルコトヲ思ヒ

且同盟及聯合國ハ其ノ相次キテ直接又ハ間接ニ參加スルニ至リタル戰爭即チ千九百十四年七月二十八日塞爾比亞國ニ對スル墺地利洪牙利國ノ宣戰、千九百十四年八月一日露西亞國ニ對スル及千九百十四年八月三日佛蘭西國ニ對スル獨逸國ノ宣戰並白耳義國侵入ニ依リテ開始セラレタル戰爭ニ代フルニ鞏固公正且恆久ノ平和ヲ以テセムコトヲ均シク希望シ

之カ爲締約國ハ左ノ如ク代表セラレ

亞米利加合衆國大統領
　亞米利加合衆國大統領「ウードロー、ウィルソン」
　　自己ノ名ニ於テ且自己ノ固有ノ權限ニ基キ行動ス
　國務卿「ロバート、ランシング」
　前伊太利國及佛蘭西國駐剳亞米利加合衆國特命全權大使「ヘンリー、ホワイト」
　「エドワード、エム、ハウス」
　最高軍事會議亞米利加合衆國軍事代表者陸軍大將「タスカー、エッチ、ブリス」
大不列顚愛蘭聯合王國及大不列顚海外領土皇帝印度皇帝陛下
　總理大臣國庫尙書國會議員「デーヴィッド、ロイド、ジョージ」
　國璽尙書國會議員「アンドリュー、ボナ、ロー」
　殖民大臣子爵「ミルナー」
　外務大臣國會議員「アーサー、ジェームス、バルフォア」
　無任所大臣國會議員「ジョージ、ニコル、バーンス」
加奈陀
　司法大臣「チャールス、ジョーセフ、ドハティー」
　關稅大臣「アーサー、リュイス、シフトン」
濠太利聯邦
　總理大臣檢事總長「ウィリアム、モーリス、ヒュース」
　海軍大臣「サー、ジョーセフ、クック」
南阿弗利加聯邦
　總理大臣土民事務大臣陸軍大將「ルイ、ボータ」
　國防大臣陸軍中將「ジァン、クリスチアーン、スマッツ」
新西蘭
　總理大臣勞働大臣「ウィリアム、ファーガソン、マッセー」
印度
　印度大臣國會議員「エドウィン、サミュエル、モンタギュー」
　侍從武官陸軍少將「ビカネール」王「サー、ガンガ、シン」殿下
佛蘭西共和國大統領
　內閣議長陸軍大臣「ジョルジ、クレマンソー」
　外務大臣「ステファン、ピション」
　大藏大臣「ルイ、リュシアン、クロッツ」
　佛米軍事辨務長官「アンドレ、タルデュー」
　特命全權大使「ジュール、カムボン」
伊太利國皇帝陛下
　衆議院議員男爵「エセ、ソンニノ」
　英國駐剳伊太利國特命全權大使參議院議員侯爵「ジー、イムペリアリ」
　衆議院議員「エセ、クレスピ」
日本國皇帝陛下
　前內閣總理大臣侯爵西園寺公望
　臨時外交調査委員會委員前外務大臣男爵牧野伸顯
　英國駐剳日本國特命全權大使子爵珍田捨巳
　佛蘭西國駐剳日本國特命全權大使松井慶四郎
　伊太利國駐剳日本國特命全權大使伊集院彥吉
白耳義國皇帝陛下
　外務大臣國務大臣「ポール、イーマンス」
　特命全權公使國務大臣「ジュール、ヴァン、デンユーヴェル」
　司法大臣國務大臣「エミル、ヴァンデルヴェルド」
「ボリヴィア」共和國大統領
　佛蘭西國駐剳「ボリヴィア」共和國特命全權公使「イスマエル、モンテス」
伯剌西爾共和國大統領
　前大藏大臣衆議院議員「ホアオ、パンテイア、カロジェラス」
　衆議院議員「ラウル、フェルナンデス」
　「リオ、デ、ジァネイロ」國際法教授「ロドリゴ、オクタヴィオ、デ、エル、メネセス」
支那共和國大總統
　外交總長陸徵祥
　前農商總長王正廷
玖馬共和國大統領
　「ハヴァナ」大學法學部長玖馬國際法學會會長「アントニオ、サンチェス、デ、ブスタマンテ」
「エクアドル」共和國大統領
　佛蘭西國駐剳「エクアドル」共和國特命全權公使「エンリケ、ドルン、イ、デ、アルスーア」
希臘國皇帝陛下
　內閣議長「エレフテリオス、カバ、ヴェニ

セロス」

外務大臣「ニコラス、ポリティス」

「グァテマラ」共和國大統領

亞米利加合衆國駐箚「グァテマラ」共和國特命全權公使巴里特派特命全權公使前土木大臣前文部大臣「ホアキン、メンデス」

「ハイチ」共和國大統領

佛蘭西國駐箚「ハイチ」共和國特命全權公使「テルテュリアン、ギルボー」

「ヘヂァーズ」國皇帝陛下

「ルステム、ハイダール」

「アブダル、ハディ、アウーニ」

「ホンヂュラス」共和國大統領

華盛頓特派使節特命全權公使前「ホンヂュラス」共和國大統領「ドクトル、ポリカルポ、ボニーヤ」

「リベリア」共和國大統領

國務大臣「チァールス、ダンバー、バージエス、キング」

「ニカラグァ」共和國大統領

衆議院議長「サルヴァドル、チァモーロ」

巴奈馬共和國大統領

西班牙國駐箚巴奈馬共和國特命全權公使「アントニオ、ブルゴス」

祕露共和國大統領

佛蘭西國駐箚祕露共和國特命全權公使「カルロス、ヘー、カンダモ」

波蘭共和國大統領

內閣議長外務大臣「イグナス、ジェー、パデレフスキー」

波蘭國民委員會議長「ロマン、ドゥモフスキー」

葡萄牙共和國大統領

前內閣議長「ドクトル、アフォンソ、アウグスト、ダ、コスタ」

前外務大臣「ドクトル、アウグスト、ルイス、ヴィエイラ、ソアレス」

羅馬尼亞國皇帝陛下

內閣議長外務大臣「イオン、ヨタ、カパ、ブラティアノ」

軍團長侍從武官陸軍大將前內閣議長「コンスタンチン、コアンダ」

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國皇帝陛下

前內閣議長「ニコラス、ピー、パチッチ」

外務大臣「アント、トルンビック」

佛蘭西國駐箚「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國特命全權公使「ミレンコ、ヴェスニッチ」

暹羅國皇帝陛下

佛蘭西國駐箚暹羅國特命全權公使公爵「シァルーン」

外務次官公爵「トライドス、プラバンドウ」

「チェッコ、スロヴァキア」共和國大統領

內閣議長「カーレル、クラマール」

外務大臣「エドゥアルド、ベネシュ」

「ウルグァイ」共和國大統領

外務大臣前工務大臣「フアン、アントニオ、ブエロ」

獨逸國

外務大臣「ヘルマン、ミュルレル」

國務大臣「ドクトル、ベル」

以上二名ハ獨逸帝國及獨逸各邦ノ名ニ於テ行動ス

右各員ハ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

戰爭狀態ハ本條約實施ノ時ヨリ終了スヘシ同盟及聯合國ト獨逸國及獨逸各邦トノ公關係ハ其ノ時以後且本條約ノ規定ニ依リ恢復セラルヘシ

第一編　國際聯盟規約

締約國ハ

戰爭ニ訴ヘサルノ義務ヲ受諾シ

各國間ニ於ケル公明正大ナル關係ヲ規律シ

各國政府間ノ行爲ヲ律スル現實ノ規準トシテ國際法ノ原則ヲ確立シ

組織アル人民ノ相互ノ交涉ニ於テ正義ヲ保持シ且嚴ニ一切ノ條約上ノ義務ヲ尊重シ

以テ國際協力ヲ促進シ且各國間ノ平和安寧ヲ完成セムカ爲

玆ニ國際聯盟規約ヲ協定ス

第一條

本規約附屬書列記ノ署名國及留保ナクシテ本規約ニ加盟スル該附屬書列記ノ爾餘諸國ヲ以テ國際聯盟ノ原聯盟國トス右加盟ハ本規約實施後二月以內ニ宣言書ヲ聯盟事務局ニ寄託シテ之ヲ爲スヘシ右ニ關シテハ一切ノ他ノ聯盟國ニ通告スヘキモノトス

附屬書ニ列記セサル國、領地又ハ殖民地ニシテ完全ナル自治ヲ有スルモノハ其ノ加入ニ付聯盟總會三分ノ二ノ同意ヲ得ルニ於テハ總テ聯盟國ト爲ルコトヲ得但シ其ノ國際義務遵守ノ誠意アルコトニ付有效ナル保障ヲ與ヘ且其ノ陸海及空軍ノ兵力其ノ他ノ軍備ニ關シ聯盟ノ定ムルコトアルヘキ準則ヲ受諾スルコトヲ要ス

聯盟國ハ二年ノ豫告ヲ以テ聯盟ヲ脫退スルコトヲ得但シ脫退ノ時迄ニ其ノ一切ノ國際上及本規約上ノ義務ハ履行セラレタルコトヲ要ス

第二條

本規約ニ依ル聯盟ノ行動ハ聯盟總會及聯盟理事會並附屬ノ常設聯盟事務局ニ依リテ之ヲ爲スヘキモノトス

第三條

聯盟總會ハ聯盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス

聯盟總會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトアルヘキ地ニ於テ定期ニ及必要ニ應シ隨時ニ之ヲ開ク

聯盟總會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス

聯盟國ハ聯盟總會ノ會議ニ於テ各一箇ノ表決權ヲ有スヘク且三名ヲ超エサル代表者ヲ出スコトヲ得

第四條

聯盟理事會ハ主タル同盟及聯合國ノ代表者並他ノ四聯盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス該四聯盟國ハ聯盟總會其ノ裁量ニ依リ隨時之ヲ選定ス聯盟總會カ第一次ニ選定スル四聯盟國ニ於テ其ノ代表者ヲ任命スル迄ハ白耳義國、伯剌西爾國、西班牙國及希臘國ノ代表者ヲ以テ聯盟理事會員トス

聯盟理事會ハ聯盟總會ノ過半數ノ同意アルトキハ聯盟理事會ニ常ニ代表者ヲ出スヘキ聯盟國ヲ追加指定スルコトヲ得聯盟理事會ハ同會ニ代表セシムル爲聯盟總會ノ選定スヘキ聯盟國ノ數ヲ前同樣ノ同意ヲ以テ增加スルコトヲ得

聯盟理事會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトアルヘキ地ニ於テ必要ニ應シ隨時ニ且少クトモ每年一回之ヲ開ク

聯盟理事會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス

聯盟理事會ニ代表セラレサル聯盟各國ハ特ニ其ノ利益ニ影響スル事項ノ審議中聯盟理事會會議ニ理事會員トシテ列席スル代表者一名ノ派遣ヲ招請セラルヘシ

聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟各國ハ聯盟理事會會議ニ於テ一箇ノ表決權ヲ有スヘク且一名ノ代表者ヲ出スコトヲ得

第五條

本規約中又ハ本條約ノ條項中別段ノ明文アル場合ヲ除クノ外聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ノ議決ハ其ノ會議ニ代表セラルル聯盟國全部ノ同意ヲ要ス

聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ニ於ケル手續ニ關スル一切ノ事項ハ特殊事項調査委員ノ任命ト共ニ聯盟總會又ハ聯盟理事會之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ其ノ會議ニ代表セラルル聯盟國ノ過半數ニ依リテ之ヲ決定スルコトヲ得

聯盟總會ノ第一回會議及聯盟理事會ノ第一回會議ハ亞米利加合衆國大統領之ヲ招集スヘシ

第六條

常設聯盟事務局ハ聯盟本部所在地ニ之ヲ設置ス聯盟事務局ニハ事務總長一名並必要ナル事務官及屬員ヲ置ク

第一次ノ事務總長ハ附屬書ニ之ヲ指定シ爾後ノ事務總長ハ聯盟總會過半數ノ同意ヲ以テ聯盟理事會之ヲ任命ス

聯盟事務局ノ事務官及屬員ハ聯盟理事會ノ同意ヲ以テ事務總長之ヲ任命ス

事務總長ハ聯盟總會及聯盟理事會ノ一切ノ會議ニ於テ其ノ資格ニテ行動ス

聯盟事務局ノ經費ハ萬國郵便聯合總理局ノ經費分擔ノ割合ニ從ヒ聯盟國之ヲ負擔ス

第七條

聯盟本部所在地ハ「ジュネーヴ」トス

聯盟理事會ハ何時タリトモ其ノ議決ニ依リ他ノ地ヲ以テ聯盟本部所在地ト爲スコトヲ得

聯盟ニ關シ又ハ之ニ附帶スル一切ノ地位ハ聯盟事務局ノ地位ト共ニ男女均シク之ニ就クコトヲ得

聯盟國代表者及聯盟職員ハ聯盟ノ事務ニ從事スル間外交官ノ特權及免除ヲ享有ス

聯盟、聯盟職員又ハ聯盟會議參列代表者ノ使用スル建物其ノ他ノ財產ハ之ヲ不可侵トス

第八條

聯盟國ハ平和維持ノ爲ニハ其ノ軍備ヲ國ノ安全及國際義務ヲ協同動作ヲ以テスル强制ニ支障ナキ最低限度迄縮少スルノ必要アルコトヲ承認ス

聯盟理事會ハ各國政府ノ審議及決定ニ資スル爲各國ノ地理的地位及諸般ノ事情ヲ參酌シテ軍備縮少ニ關スル案ヲ作成スヘシ

該案ハ少クトモ十年每ニ再審議ニ付セラルヘク且更正セラルヘキモノトス

各國政府前記ノ案ヲ採用シタルトキハ聯盟理事會ノ同意アルニ非サレハ該案所定ノ軍備ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス

聯盟國ハ民業ニ依ル兵器彈藥及軍用器材ノ製造カ重大ナル非議ヲ免レサルモノナルコトヲ認ム仍テ聯盟理事會ハ該製造ニ伴フ弊害ヲ防遏シ得ヘキ方法ヲ具申スヘシ尤モ聯盟國中其ノ安全ニ必要ナル兵器彈藥及軍用器材ヲ製造シ得サルモノノ需要ニ關シテハ相當斟酌スヘキモノトス

聯盟國ハ其ノ軍備ノ規模、陸海及空軍ノ企畫並軍事上ノ目的ニ供用シ得ヘキ工業ノ狀況ニ關シ充分ニシテ隔意ナキ報道ヲ交換スヘキコトヲ約ス

第九條

第一條及第八條ノ規定ノ實行並陸海及空軍問題全般ニ關シテハ聯盟理事會ニ意見ヲ具申スヘキ常設委員會ヲ設置スヘシ

第十條

聯盟國ハ聯盟各國ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且外部ノ侵略ニ對シ之ヲ擁護スルコトヲ約ス右侵略ノ場合又ハ其ノ脅威若ハ危險アル場合ニ於テハ聯盟理事會ハ本條ノ義務ヲ履行スヘキ手段ヲ具申スヘシ

第十一條

戰爭又ハ戰爭ノ脅威ハ聯盟國ノ何レカニ直接ノ影響アルト否トヲ問ハス總テ聯盟全體ノ利害關係事項タルコトヲ玆ニ聲明ス仍テ聯盟ハ國際ノ平和ヲ擁護スル爲適當且有效ト認ムル措置ヲ執ルヘキモノトス此ノ種ノ事變發生シタルトキハ事務總長ハ何レカノ聯盟國ノ請求ニ基キ直ニ聯盟理事會ノ會議ヲ招集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ注意ヲ喚起スルハ聯盟各國ノ友誼的權利ナルコトヲ併セテ玆ニ聲明ス

第十二條

聯盟國ハ聯盟國間ニ國交斷絕ニ至ルノ虞アル紛爭發生スルトキハ當該事件ヲ仲裁裁判ニ付シ又ハ聯盟理事會ノ審査ニ付スヘク且仲裁裁判官ノ判決後又ハ聯盟理事會ノ報告後三月ヲ經過スル迄如何ナル場合ニ於テモ戰爭ニ訴ヘサルコトヲ約ス

本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ仲裁裁判官ノ判決ハ相當期間內ニ、聯盟理事會ノ報告ハ紛爭事件付託後六月以內ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條

聯盟國ハ聯盟國間ニ仲裁裁判ニ付シ得ト認ムル紛爭ヲ生シ其ノ紛爭カ外交手段ニ依リテ滿足ナル解決ヲ得ルコト能ハサルトキハ當該事件全部ヲ仲裁裁判ニ付スヘキコトヲ約ス

條約ノ解釋、國際法上ノ問題、國際義務ノ違反ト爲ルヘキ事實ノ存否並該違反ニ對スル賠償ノ範圍及性質ニ關スル紛爭ハ一般ニ仲裁裁判ニ付シ得ル事項ニ屬スルモノナルコトヲ聲明ス

審理ノ爲紛爭事件ヲ付託スヘキ仲裁裁判所ハ當事國ノ合意ヲ以テ定メ又ハ當事國間ニ現存スル條約ノ規定ノ定ムル所ニ依ル

聯盟國ハ一切ノ仲裁判決ヲ誠實ニ履行スヘク且判決ニ服スル聯盟國ニ對シテハ戰爭ニ訴ヘサルコトヲ約ス判決ヲ履行セサルモノアルトキハ聯盟理事會ハ其ノ履行ヲ期スル爲必要ナル處置ヲ提議スヘシ

第十四條

聯盟理事會ハ常設國際司法裁判所設置案ヲ作成シ之ヲ聯盟國ノ採擇ニ付スヘシ該裁判所ハ國際的性質ヲ有スル一切ノ紛爭ニシテ其ノ當事國ノ付託ニ係ルモノヲ裁判スルノ權限ヲ有ス尙該裁判所ハ聯盟理事會又ハ聯盟總會ノ諮問スル一切ノ紛爭又ハ問題ニ關シ意見ヲ提出スルコトヲ得

第十五條

聯盟國間ニ國交斷絕ニ至ルノ虞アル紛爭發生シ第十三條ニ依ル仲裁裁判ニ付セラレサルトキハ聯盟國ハ當該事件ヲ聯盟理事會ニ付託スヘキコトヲ約ス何レノ紛爭當事國モ紛爭ノ存在ヲ事務總長ニ通告シ以テ前記ノ付託ヲ爲スコトヲ得事務總長ハ之カ充分ナル取調及審理ニ必要ナル一切ノ準備ヲ爲スモノトス

此ノ目的ノ爲紛爭當事國ハ成ルヘク速ニ當該事件ニ關スル陳述書ヲ一切ノ關係事實及書類ト共ニ事務總長ニ提出スヘク聯盟理事會ハ直ニ其ノ公表ヲ命スルコトヲ得

聯盟理事會ハ紛爭ノ解決ニ力ムヘク其ノ努力效ヲ奏シタルトキハ其ノ適當ト認ムル所ニ依リ當該紛爭ニ關スル事實及說明並其ノ解決條件ヲ記載セル調書ヲ公表スヘシ

紛爭解決ニ至ラサルトキハ聯盟理事會ハ全會一致又ハ過半數ノ表決ニ基キ當該紛爭ノ事實ヲ述ヘ公正且適當ト認ムル勸告ヲ載セタル報告書ヲ作成シ之ヲ公表スヘシ

聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟國ハ何レモ當該紛爭ノ事實及之ニ關スル自國ノ決定ニ付陳述書ヲ公表スルコトヲ得

聯盟理事會ノ報告書カ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タルモノナルトキハ聯盟國ハ該報告書ノ勸告ニ應スル紛爭當事國ニ對シ戰爭ニ訴ヘサルヘキコトヲ約ス

聯盟理事會ニ於テ聯盟理事會員全部ノ同意アル報告書ヲ得ルニ至ラサルトキハ聯盟國ハ正義公道ヲ維持スル爲必要ト認ムル處置ヲ執ルノ權利ヲ留保ス

紛爭當事國ノ一國ニ於テ紛爭カ國際法上專ラ該當事國ノ管轄ニ屬スル事項ニ付生シタルモノナルコトヲ主張シ聯盟理事會之ヲ是認シタルトキハ聯盟理事會ハ其ノ旨ヲ報告シ且之カ解決ニ關シ何等ノ勸告ヲモ爲ササルモノトス

聯盟理事會ハ本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ紛爭ヲ聯盟總會ニ移スコトヲ得紛爭當事國一方ノ請求アリタルトキハ亦之ヲ聯盟總會ニ移スヘシ但シ右請求ハ紛爭ヲ聯盟理事會ニ付託シタル後十四日以內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

聯盟理事會ノ行動及權限ニ關スル本條及第十二條ノ規定ハ聯盟總會ニ移シタル事件ニ關シ總テ之ヲ聯盟總會ノ行動及權能ニ適用ス但シ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟各國代表者及爾餘過半數聯盟國ノ代表者ノ同意ヲ得タル聯盟總會ノ報告書ハ紛爭當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タル聯盟理事會ノ報告書ト同一ノ效力ヲ有スヘキモノトス

第十六條

第十二條、第十三條又ハ第十五條ニ依ル約束ヲ無視シテ戰爭ニ訴ヘタル聯盟國ハ當然他ノ總テノ聯盟國ニ對シ戰爭行爲ヲ爲シタルモノト看做ス他ノ總テノ聯盟國ハ之ニ對シ直ニ一切ノ通商上又ハ金融上ノ關係ヲ斷絕シ自國民ト違約國國民トノ一切ノ交通ヲ禁止シ且聯盟國タルト否トヲ問ハス他ノ總テノ國ノ國民ト違約國國民トノ間ノ一切ノ金融上通商上又ハ個人的交通ヲ防遏スヘキコトヲ約ス

聯盟理事會ハ前項ノ場合ニ於テ聯盟ノ約束擁護ノ爲使用スヘキ兵力ニ對スル聯盟各國ノ陸海又ハ空軍ノ分擔程度ヲ關係各國政府ニ提案スルノ義務アルモノトス

聯盟國ハ本條ニ依リ金融上及經濟上ノ措置ヲ執リタル場合ニ於テ之ニ基ク損失及不便ヲ最

少限度ニ止ムル爲相互ニ支持スヘキコト、聯盟ノ一國ニ對スル違約國ノ特殊ノ措置ヲ抗拒スル爲相互ニ支持スヘキコト並聯盟ノ約束擁護ノ爲協力スル聯盟國軍隊ノ版圖內通過ニ付必要ナル處置ヲ執ルヘキコトヲ約ス

聯盟ノ約束ニ違反シタル聯盟國ニ付テハ聯盟理事會ニ代表セラルル他ノ一切ノ聯盟國代表者ノ聯盟理事會ニ於ケル一致ノ表決ヲ以テ聯盟ヨリ之ヲ除名スル旨ヲ聲明スルコトヲ得

第十七條

聯盟國ト非聯盟國トノ間又ハ非聯盟國相互ノ間ニ紛爭ヲ生シタルトキハ此ノ種紛爭解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ヲ該非聯盟國カ聯盟理事會ノ正當ト認ムル條件ヲ以テ受諾スルコトヲ之ニ勸誘スヘシ勸誘ノ受諾アリタル場合ニ於テハ第十二條乃至第十六條ノ規定ハ聯盟理事會ニ於テ必要ト認ムル修正ヲ加ヘテ之ヲ適用ス

前項ノ勸誘ヲ爲シタルトキハ聯盟理事會ハ直ニ紛爭事情ノ審査ヲ開始シ當該事情ノ下ニ於テ最善且最有效ト認ムル行動ヲ勸告スヘシ

勸誘ヲ受ケタル國カ此ノ種紛爭解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ミ聯盟國ニ對シ戰爭ニ訴フル場合ニ於テハ第十六條ノ規定ハ該行動ヲ執ル國ニ之ヲ適用ス

勸誘ヲ受ケタル紛爭當事國ノ雙方カ此ノ種紛爭解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ム場合ニ於テハ聯盟理事會ハ敵對行爲ヲ防止シ紛爭ヲ解決スヘキ措置及勸告ヲ爲スコトヲ得

第十八條

聯盟國カ將來締結スヘキ一切ノ條約又ハ國際約定ハ直ニ之ヲ聯盟事務局ニ登錄シ聯盟事務局ハ成ルヘク速ニ之ヲ公表スヘシ右條約又ハ國際約定ハ前記ノ登錄ヲ了スル迄其ノ拘束力ヲ生スルコトナカルヘシ

第十九條

聯盟總會ハ適用不能ト爲リタル條約ノ再審議又ハ繼續ノ結果世界ノ平和ヲ危殆ナラシムヘキ國際狀態ノ審議ヲ隨時聯盟國ニ慫慂スルコトヲ得

第二十條

聯盟國ハ本規約ノ條項ト兩立セサル聯盟國相互間ノ義務又ハ了解カ各自國ノ關スル限リ總テ本條約ニ依リ廢棄セラルヘキモノナルコトヲ承認シ且今後本規約ノ條項ト兩立セサル一切ノ約定ヲ締結セサルヘキコトヲ誓約ス

聯盟國ト爲ル以前本規約ノ條項ト兩立セサル義務ヲ負擔シタル聯盟國ハ直ニ該義務ノ解除ヲ得ルノ處置ヲ執ルコトヲ要ス

第二十一條

本規約ハ仲裁裁判條約ノ如キ國際約定又ハ「モンロー」主義ノ如キ一定ノ地域ニ關スル了解ニシテ平和ノ確保ヲ目的トスルモノノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス

第二十二條

今次ノ戰爭ノ結果從前支配シタル國ノ統治ヲ離レタル殖民地及領土ニシテ近代世界ノ激甚ナル生存競爭狀態ノ下ニ未タ自立シ得サル人民ノ居住スルモノニ對シテハ該人民ノ福祉及發達ヲ計ルハ文明ノ神聖ナル使命ナルコト及其ノ使命遂行ノ保障ハ本規約中ニ之ヲ包容スルコトノ主義ヲ適用ス

此ノ主義ヲ實現スル最善ノ方法ハ該人民ニ對スル後見ノ任務ヲ先進國ニシテ資源、經驗又ハ地理的位置ニ因リ最此ノ責任ヲ引受クルニ適シ且之ヲ受諾スルモノニ委任シ之ヲシテ聯盟ニ代リ受任國トシテ右後見ノ任務ヲ行ハシムルニ在リ

委任ノ性質ニ付テハ人民發達ノ程度、領土ノ地理的地位、經濟狀態其ノ他類似ノ事情ニ從ヒ差異ヲ設クルコトヲ要ス

從前土耳其帝國ニ屬シタル或部族ハ獨立國トシテ假承認ヲ受ケ得ル發達ノ程度ニ達シタリ尤モ其ノ自立シ得ル時期ニ至ル迄施政上受任國ノ助言及援助ヲ受クヘキモノトス前記受任國ノ選定ニ付テハ主トシテ當該部族ノ希望ヲ考慮スルコトヲ要ス

他ノ人民殊ニ中央阿弗利加ノ人民ハ受任國ニ於テ其ノ地域ノ施政ノ責ニ任スヘキ程度ニ在リ尤モ受任國ハ公ノ秩序及善良ノ風俗ニ反セサル限リ良心及信敎ノ自由ヲ許與シ、奴隸ノ賣買又ハ武器若ハ火酒類ノ取引ノ如キ弊習ヲ禁止シ竝築城又ハ陸海軍根據地ノ建設及警察又ハ地域防衞以外ノ爲ニスル土民ノ軍事敎育ヲ禁遏スヘキコトヲ保障シ且他ノ聯盟國ノ通商貿易ニ對シ均等ノ機會ヲ確保スルコトヲ要ス

西南阿弗利加及或南太平洋諸島ノ如キ地域ハ人口ノ稀薄、面積ノ狹小、文明ノ中心ヨリ遠キコト又ハ受任國領土ト隣接セルコト其ノ他ノ事情ニ因リ受任國領土ノ構成部分トシテ其ノ國法ノ下ニ施政ヲ行フヲ以テ最善トス但シ受任國ハ土著人民ノ利益ノ爲前記ノ保障ヲ與フルコトヲ要ス

各委任ノ場合ニ於テ受任國ハ其ノ委託地域ニ關スル年報ヲ聯盟理事會ニ提出スヘシ

受任國ノ行フ權限、監理又ハ施政ノ程度ニ關シ豫メ聯盟國間ニ合意ナキトキハ聯盟理事會ハ各場合ニ付之ヲ明定スヘシ

受任國ノ年報ヲ受理審査セシメ且委任ノ實行ニ關スル一切ノ事項ニ付聯盟理事會ニ意見ヲ具申セシムル爲常設委員會ヲ設置スヘシ

第二十三條

聯盟國ハ現行又ハ將來協定セラルヘキ國際條約ノ規定ニ遵由シ

(イ)　自國內ニ於テ及其ノ通商産業關係ノ及フ一切ノ國ニ於テ男女及兒童ノ爲ニ公平ニシテ人道的ナル勞働條件ヲ確保スルニ力メ且之カ爲必要ナル國際機關ヲ設立維持スヘシ

(ロ)　自國ノ監理ニ屬スル地域內ノ土著住民ニ對シ公正ナル待遇ヲ確保スルコトヲ約ス

(ハ)　婦人及兒童ノ賣買竝阿片其ノ他ノ有害藥物ノ取引ニ關スル取極ノ實行ニ付一般監視ヲ聯盟ニ委託スヘシ

(ニ)　武器及彈藥ノ取引ヲ共通ノ利益上取締ルノ必要アル諸國トノ間ニ於ケル該取引ノ一般監視ヲ聯盟ニ委託スヘシ

(ホ)　交通及通過ノ自由竝一切ノ聯盟國ノ通商ニ對スル衡平ナル待遇ヲ確保スル爲方法ヲ講スヘシ右ニ關シテハ千九百十四年乃至千九百十八年ノ戰役中荒廢ニ歸シタル地方ノ特殊ノ事情ヲ考慮スヘシ

(ヘ)　疾病ノ豫防及撲滅ノ爲國際利害關係事項ニ付措置ヲ執ルニ力ムヘシ

第二十四條

一般條約ニ依ル既設ノ國際事務局ハ當該條約當事國ノ承諾アルニ於テハ總テ之ヲ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムヘシ國際利害關係事項處理ノ爲今後設ケラルヘキ國際事務局及委員會ハ總テ之ヲ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムヘキモノトス

一般條約ニ依リ規定セラレタル國際利害關係事項ニシテ國際事務局又ハ委員會ノ管理ニ屬セサルモノニ關シテハ聯盟事務局ハ當事國ノ請求ニ基キ聯盟理事會ノ同意ヲ得テ其ノ一切ノ關係情報ヲ蒐集頒布シ其ノ他必要又ハ望マシキ一切ノ援助ヲ與フヘシ

聯盟理事會ハ聯盟ノ指揮下ニ屬セシメタル事務局又ハ委員會ノ經費ヲ聯盟事務局ノ經費中ニ編入スルコトヲ得

第二十五條

聯盟國ハ全世界ニ亙リ健康ノ增進、疾病ノ豫防及苦痛ノ輕減ヲ目的トスル公認ノ國民赤十字篤志機關ノ設立及協力ヲ獎勵促進スルコトヲ約ス

第二十六條

本規約ノ改正ハ聯盟理事會ヲ構成スル代表者ヲ出ス聯盟各國及聯盟總會ヲ構成スル代表者ヲ出ス過半數聯盟國之ヲ批准シタルトキ其ノ效力ヲ生スルモノトス

右改正ハ之ニ不同意ヲ表シタル聯盟國ヲ拘束スルコトナシ但シ此ノ場合ニ於テ當該國ハ聯盟國タラサルニ至ルヘシ

附屬書

一　國際聯盟原聯盟國

平和條約署名國

亞米利加合衆國
白耳義國
「ボリヴィア」國
伯剌西爾國
英帝國
　加奈陀
　濠太利
　南阿弗利加
　新西蘭
　印度

支那國
玖馬國
「エクアドル」國
佛蘭西國
希臘國
「グァテマラ」國
「ハイチ」國
「ヘヂァーズ」國
「ホンヂュラス」國
伊太利國
日本國
「リベリア」國
「ニカラグァ」國
巴奈馬國
秘露國
波蘭國
葡萄牙國
羅馬尼亞國
「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國
暹羅國
「チェッコ、スロヴァキア」國
「ウルグァイ」國

聯盟規約ニ加盟ヲ招請セラレタル國

亞爾然丁國
智利國
哥倫比亞國
丁抹國
和蘭國
諾威國
「パラグァイ」國
波斯國
「サルヴァドル」國
西班牙國
瑞典國
瑞西國
「ヴェネズエラ」國

二　國際聯盟第一次事務總長

「サー、ジェームス、イーリック、ドラモンド」

第二編　獨逸國ノ境界

第二十七條

獨逸國ノ境界ハ左ノ通之ヲ決定ス

一　白耳義國トノ境界

白耳義、和蘭及獨逸ノ三國國境ノ交會點ヨリ南方ニ向ヒ舊「モレスネ」中立地帶ノ北東境、「オイペン」郡ノ東境、白耳義國及「モンジョア」郡間ノ國境、「マルメディー」郡ノ北東境及東境ヲ經テ盧森堡國境トノ接合點ニ至ル

二　盧森堡國トノ境界

千九百十四年八月三日ノ國境ニ依リ千八百七十年七月十八日ノ佛蘭西國境トノ接合點ニ至ル

三　佛蘭西國トノ境界

盧森堡國ヨリ瑞西國ニ至ルノ間ハ第三編第四款(「ザール」河流域)第四十八條ノ規定ニ從フノ外千八百七十年七月十八日ノ國境ニ依ル

四　瑞西國トノ境界

現在ノ國境ニ依ル

五　墺地利國トノ境界

瑞西國ヨリ次ニ定ムル「チェッコ、スロヴァキア」國ニ至ルノ間千九百十四年八月三日ノ國境ニ依ル

六　「チェッコ、スロヴァキア」國トノ境界

千九百十四年八月三日ノ獨墺兩國間ノ國境ト「ボヘミア」及上部墺地利州間ノ舊行政境界トノ接合點ヨリ「ノイスタット」ノ東方約八吉米ニ於ケル舊墺地利國領「シレジア」州ノ凸出部ノ北端ニ至ルノ間右獨墺兩國間ノ國境ニ依ル

七　波蘭國トノ境界

前記北端ヨリ「ロルツェンドルフ」ノ東方約二吉米ニ於テ實査ノ上確定セラルヘキ地點ニ至ルノ間

第八十八條ニ依リ定メラルヘキ國境ニ依ル

次テ北方ニ進ミ「ポズナニア」行政境界ト「バルチュ」河トノ會合點ニ至ルノ間「スコリシャウ」「ライヒタール」「トレムバチャウ」「クンツェンドルフ」「シュライセ」「グロース、コーセル」「シュライベルスドルフ」「リッピン」「フェルストリッヒ、ニーフケン」「バウェラウ」「チェッシエン」「コンラダウ」「ヨハンニスドルフ」「モダェノウェ」「ボグダイ」ノ各地ヲ波蘭國ニ屬セシメ「ロルツェンドルフ」「カウルウィッツ」「グラウシェ」「ダルベルスドルフ」「レーセウィッツ」「ストラーダム」「グロース、ヴルテンベルグ」「クラッシェン」「ノイ、ミッテルヴルデ」「ドマスラウィッツ」「ウェーテルスドルフ」「チェッシェン、ハムメル」ノ各地ヲ獨逸國ニ屬セシムルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポズナニア」ノ境界ヲ北西方ニ進ミ之ト「ラウィッチュ」－「ヘルンスタット」鐵道トノ交叉點ニ至ル

次テ「ポズナニア」ノ行政境界ト「ライセン」－「チルナウ」街道トノ交叉點ニ至ルノ間

「トリーアッシュ」「ガーベル」ノ西方、「ザーボルウィッツ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポズナニア」ノ行政境界ヲ進ミ「フラウスタット」郡ノ東方行政境界トノ接合點ニ至ル

次テ北西方ニ進ミ「ウンルースタット」「コブニッツ」兩村落間ノ街道上ニ選定スヘキ地點ニ至ルノ間

「ガイエルスドルフ」「アレンノ」「フェーレン」「アルトクロステル」「クレーベル」ノ西方、「ウルベルスドルフ」「アーフヲルド」「イルゲン」「ワイネ」「ルヒッツエ」「シュウェンテン」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ向ヒ「クロッブ」湖ノ北端ニ至ルノ間

諸湖ノ中央線ニ從ヒ實査ノ上境界線ヲ定ム但シ「ベンチェン」ノ市街及停車場(「シュウィーブス」－「ベンチェン」「チュリッヒャウ」－「ベンチェン」兩鐵道ノ接合點ヲ含ム)ハ引續キ波蘭ノ版圖トス

次テ北東方ニ向ヒ「シュウェリン」「ビルンバウム」及「メセリッツ」ノ三郡境界ノ交會點ニ至ルノ間

「ベッチェ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ向ヒ「シュウェリン」「ビルンバウム」兩郡間ノ境界ニ從ヒ次ニ東方ニ向ヒ「ポズナニア」ノ北境ヲ進ミ「ネッツェ」河トノ交叉點ニ至ル

次テ「ネッツェ」河ヲ溯リ「キュッドウ」河トノ會流點ニ至ルノ間

「ネッツェ」河ノ河流ニ依ル

次テ「キュッドウ」河ヲ溯リ「シュナイデミュール」ノ南東方約六吉米ニ於テ選定スヘキ地點ニ至ルノ間

「キュッドウ」河ノ河流ニ依ル

次テ北東方ニ向ヒ「スターレン」ノ西方約五吉米ニ於ケル「ポズナニア」北境凹入部ノ南端ニ至ルノ間

此ノ地方ニ於ケル「シュナイデミュール」－「コーニッツ」鐵道ヲ獨逸國版圖內ニ全部留ムルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポズナニア」ノ境界ヲ北東方ニ進ミ「フラトウ」ノ東方約十五吉米ニ於ケル凸出部ノ尖端ニ至ル

次テ北東方ニ向ヒ「グルーナウ」ノ北東方約三吉米ニ於ケル「カミオンカ」河ト「コーニッツ」郡南境トノ會合點ニ至ルノ間

「ヤスドロウォ」「グロース、ルーダウ」「クライン、ルーダウ」及「ウイットカウ」ノ各地ヲ波蘭國ニ屬セシメ「グロース、アーチッヒ」「チスコウォ」「パットロウ」「ベック」及「グルーナウ」ノ各地ヲ獨逸國ニ屬セシムルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北方ニ向ヒ「コーニッツ」「シュロッハウ」兩郡間ノ境界ヲ進ミ之ト「ブラーヘ」河トノ交叉點ニ至ル

次テ「ポメラニア」ノ境界上「ルムメルスブルグ」ノ東方十五吉米ノ地點ニ至ルノ間

「コナルチン」「ケルピン」「アドレル、ブリーセン」ノ各地ヲ波蘭國ニ屬セシメ「ザムボール」「ノイグート」「スタイン

フォルト」「グロース、ペーテルカウ」ノ各地ヲ獨逸國ニ屬セシムルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ポメラニア」ノ境界ヲ東方ニ進ミ「コーニッツ」「シュロッハウ」兩郡間ノ境界トノ接合點ニ至ル

次テ北方ニ向ヒ「ポメラニア」西普魯西間ノ境界ヲ進ミ「ゴーラ」ノ北西方約三吉米ニ於ケル「レダ」河ト北西方ヨリ來ル一支流トノ會流點ニ至ル

次テ「ヲルシュカウ」ノ北西方約一吉米半ニ於ケル「ピアスニッツ」河ノ彎曲部ニ於テ選定スヘキ地點ニ至ルノ間

實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ピアスニッツ」河ヲ下リ「ツァルノウィッツ」湖ノ中央線、西普魯西ノ舊境界ヲ進ミ波羅的海ニ至ル

八　丁抹國トノ境界

第三編第十二款（「シュレスウィヒ」）第百九條乃至第百十一條ニ依リ定ムル國境ニ依ル

第二十八條

東普魯西ノ境界ハ第三編第九款（東普魯西）ノ規定ニ從フノ外左ノ通之ヲ決定ス

「プレッベルナウ」教會堂ノ北方約一吉米半ノ波羅的海岸ノ地點ヨリ該地點ヲ通スル眞子午線ノ東方約百五十九度ノ方位ニ向ヒ

約二吉米ノ間實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ北緯五十四度十九分半緑威東經十九度二十六分ノ邊ニ在ル「エルビング」水道彎曲部ノ燈臺ニ向ヒ一直線ニ進ミ

次テ同地點ヨリ眞子午線ノ東方約二百九度ノ方位ニ向ヒ「ノガット」河口ノ東端ニ達ス

次テ「ノガット」河ノ河流ヲ溯リ同河カ「ヴィスチュラ」河（「ワイクセル」河）ト分岐スル點ニ至ル

次テ「ヴィスチュラ」河主要航行水道ヲ溯リ「マリエンウェルデル」郡及「ローゼンベルグ」郡ノ南境ヲ東方ニ進ミ東普魯西舊境界トノ接合點ニ至ル

次テ東西普魯西間ノ舊境界竝「オステローデ」及「ナイデンブルグ」兩郡間ノ境界ヲ進ミ「スコッタウ」河ノ河流ヲ下リ更ニ「ナイデ」河ノ河流ヲ溯リ「ピアルッテン」ノ西方約五吉米ニ於ケル露西亞國舊國境ニ最近キ地點ニ至ル

次テ東方ニ向ヒ「ナイデンブルグ」—「ムラヴア」街道ト露西亞國舊國境トノ交叉點直南ノ地點ニ至ルノ間

「ピアルッテン」ノ北方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ露西亞國舊國境ニ沿ヒ「シュマルレニンケン」東方ノ地點ニ至リ「ニーメン」河（「メーメル」河）ノ主要航行水道ヲ下リ三角洲ノ「スキルウィート」入江ヨリ「クーリッシェス、ハフ」ニ至ル

次テ直線ヲ以テ「クーリッシェ、ネールング」ノ東岸ト「ニッテン」南西方約四吉米ニ於ケル行政境界トノ接合點ニ至ル

次テ此ノ行政境界ヲ進ミ「クーリッシェ、ネールング」ノ西岸ニ達ス

第二十九條

前記ノ境界ハ本條約附屬百萬分一地圖（地圖第一號）上ニ赤線ヲ以テ之ヲ表示ス

本條約ノ本文ト前項ノ地圖又ハ他ノ附屬地圖トノ間ニ相違アル場合ニ於テハ本文ニ從フモノトス

第三十條

水路ヲ以テ境界ヲ決定スル場合ニ於テ本條約ニ使用スル「河流」及「水道」ナル語ハ航行不能河川ニ在リテハ水路ノ又ハ其ノ本流ノ中央線、航行可能河川ニ在リテハ主要航行水道ノ中央線ヲ謂フ河流又ハ水道ノ移動ニ從ヒ國境線ノ變更ヲ生スヘキヤ或ハ本條約實施當時ニ於ケル河流又ハ水道ノ位置ニ依リ國境線ヲ確定スヘキヤハ本條約ニ定ムル境界委員會ニ於テ各場合ニ付之ヲ決定ス

第三編　歐洲政治條項

第一款　白耳義國

第三十一條

獨逸國ハ戰前ニ於ケル白耳義國ノ地位ヲ確立シタル千八百三十九年四月十九日ノ條約カ既ニ現時ノ要求ニ適合セサルニ至リタルコトヲ認メ該條約ノ廢棄ニ同意シ且前記千八百三十九年ノ條約ニ代フル爲主タル同盟及聯合國又ハ其ノ何レカノ國カ白耳義國政府及和蘭國政府ト共ニ締結スヘキ一切ノ條約ヲ直ニ承認遵守スルコトヲ約ス該條約又ハ其ノ何レカノ條項ニ對シ獨逸國ノ正式加入ヲ求メラルル場合ニ於テハ獨逸國ハ直ニ之ニ加入スヘキコトヲ約ス

第三十二條

獨逸國ハ「モレスネ」係爭地域（所謂「モレスネ」中立地帶）全部ニ對スル白耳義國ノ完全ナル主權ヲ承認ス

第三十三條

獨逸國ハ「リエージュ」ヨリ「エークス、ラ、シャペル」ニ至ル道路ノ西方ニ位スル普魯西領「モレスネ」地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ白耳義國ノ爲ニ拋棄ス該道路ニシテ右地域ノ境界タル部分ハ白耳義國ニ歸屬スヘシ

第三十四條

獨逸國ハ「オイペン」「マルメディー」兩郡ノ全部ニ亙ル地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ白耳義國ノ爲ニ拋棄ス

本條約實施後六月間白耳義國官憲ハ「オイペン」及「マルメディー」ニ於テ登錄簿ヲ公開スヘク前記地域ノ住民ハ同地域ノ全部又ハ一部カ引續キ獨逸國主權ノ下ニ立タムコトヲ希望スル旨右登錄簿ニ記入スルノ權利ヲ有ス

白耳義國政府ハ右民意公表ノ結果ヲ國際聯盟ニ通告スヘク白耳義國ハ聯盟ノ決定ヲ受諾スヘキコトヲ約ス

第三十五條

經濟上ノ要素及交通機關ノ關係ヲ參酌シテ白耳義獨逸兩國間ノ新國境線ヲ實査ノ上確定スル爲本條約實施後十五日以內ニ主タル同盟及聯合國ノ任命スル五名ノ委員竝獨逸國及白耳義國ノ任命スル各一名ノ委員計七名ヨリ成ル委員會ヲ設置スヘシ

該委員會ノ決定ハ過半數ニ依ルヘク且當事國ヲ拘束スヘシ

第三十六條

前揭地域ニ對スル主權ノ移轉確定シタルトキハ該地域ニ定住スル獨逸國民ハ當然確定的ニ白耳義國國籍ヲ取得シ獨逸國國籍ヲ喪失ス

尤モ千九百十四年八月一日以後該地域ノ住民ト爲リタル獨逸國民ハ白耳義國政府ノ許可ヲ得ルニ非サレハ白耳義國國籍ヲ取得セサルモノトス

第三十七條

本條約ニ基キ白耳義國ニ讓渡シタル地域ニ定住スル十八歲以上ノ獨逸國民ハ該地域ニ對スル主權ノ移轉完了後二年以內ニ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有ス

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歲未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ爾後十二月以內ニ獨逸國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス

右選擇權行使者ハ白耳義國ノ取得シタル地域ニ在ル其ノ不動產ヲ保有スルノ權利ヲ有ス各種ノ動產ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク該財產ノ移動ニ關シテハ一切ノ輸出稅又ハ輸入稅ヲ課スルコトヲ得ス

第三十八條

獨逸國政府ハ白耳義國ノ主權ノ下ニ移シタル地域內ニ於ケル民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル記錄、登錄簿、圖面、證書其ノ他各種ノ文書ヲ遲滯ナク白耳義國政府ニ引渡スヘシ

獨逸國政府ハ戰時中獨逸國官憲カ白耳義國官公署殊ニ「ブリュッセル」ニ於ケル外務省ヨリ持去リタル各種ノ記錄及文書ヲ同樣白耳義國政府ニ返付スヘシ

第三十九條

白耳義國カ其ノ讓渡ヲ受ケタル地域ニ關シ負擔スヘキ獨逸國及普魯西ノ債務ノ割合及性質ハ第九編（財政條項）第二百五十四條及第二百五十六條ニ依リテ之ヲ決定スヘシ

第二款　盧森堡國

第四十條

盧森堡大公國ニ關シ獨逸國ハ千八百四十二年二月八日、千八百四十七年四月二日、千八百六十五年十月二十日—二十五日、千八百六十六年八月十八日、千八百六十七年二月二十一日、同五月十一日、千八百七十一年五月十日、千八百七十二年六月十一日及千九百二年十一月十一日ノ諸條約竝此等條約ニ基ク一切ノ條約中獨逸國ノ爲ニ設ケタル一切ノ規定ノ利益ヲ拋

棄ス

獨逸國ハ盧森堡大公國カ千九百十九年一月一日以後獨逸關稅同盟ヲ脫退シタルコトヲ承認シ、鐵道經營ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ、大公國ノ永世局外中立ノ終了ニ同意シ且同盟及聯合國カ大公國ニ關シテ締結スヘキ一切ノ國際協定ヲ豫メ承認ス

第四十一條

獨逸國ハ主タル同盟及聯合國カ之ヲ要求スル場合ニ於テハ經濟問題竝運送及航空ニ關スル問題ニ付該諸國又ハ其ノ國民ノ爲ニ本條約中ニ規定シタル諸種ノ權利及便益ヲ盧森堡大公國ニ許與スヘキコトヲ約ス

第三款　萊因河左岸

第四十二條

獨逸國ハ萊因河ノ左岸又ハ同河ノ東方五十吉米ニ引キタル線ノ西方ニ在ル同河右岸ニ於テ築城ヲ保有シ又ハ構設スルコトヲ得ス

第四十三條

前條規定ノ境域內ニ於テハ武裝シタル兵力ノ永久又ハ一時ノ駐屯及集合竝各種ノ軍事演習ヲ禁ス動員ノ爲ニスル一切ノ永久施設ノ保持ニ付亦同シ

第四十四條

獨逸國ニシテ其ノ方法ノ如何ヲ問ハス第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違反シタルトキハ本條約ノ署名國ニ對シ敵對行爲ヲ爲シ且世界ノ平和ヲ攪亂スルモノト看做サルヘシ

第四款　「ザール」河流域

第四十五條

獨逸國ハ佛蘭西國北部ノ炭鑛破壞ニ對スル補償トシテ又戰爭ニ基ク損害ニ付獨逸國ノ負擔スル全賠償額ノ一部支拂トシテ第四十八條ニ規定スル「ザール」河流域ニ在ル炭鑛ニ對スル完全且絕對ナル所有權及之カ採掘ノ獨占權ヲ何等ノ金錢債務及負擔ヲモ伴フコトナク佛蘭西國ニ讓渡ス

第四十六條

住民ノ權利及福祉ヲ確保シ且佛蘭西國ニ對シ鑛山經營ニ關スル完全ナル自由ヲ保障スル爲獨逸國ハ本款附屬書第一章及第二章ノ規定ニ同意ス

第四十七條

「ザール」河流域ノ施政ニ關シ相當期間內ニ於テ住民ノ希望ニ適應スル永久ノ規定ヲ設クルノ目的ヲ以テ佛蘭西國及獨逸國ハ本款附屬書第三章ノ規定ニ同意ス

第四十八條

本條款ニ揭クル「ザール」河流域地方ノ境界ハ左ノ通之ヲ決定ス

南方及南西方方面　本條約ニ定ムル佛蘭西國境ニ依ル

北西方及北方方面　「メルチッヒ」郡北方行政境界ト佛蘭西國境トノ接合點ヨリ該行政境界ヲ進ミ「ザールヘルツバッハ」「アリッテン」兩村間ノ行政境界トノ接合點ニ至ル次テ該兩村ノ境界ヲ南進シ「メルチッヒ」區ノ行政境界ニ達シ「アリッテン」村ヲ除クノ外「メットラッハ」區ヲ「ザール」河流域地方ニ包含セシメ次テ前記「ザール」河流域ニ編入セラレタル「メルチッヒ」及「ハウスタット」兩區ノ北方行政境界ヲ進ミ更ニ「ザールルイス」「オットワイレル」及「サン、ウェンデル」各郡ト「メルチッヒ」「トレーヴ」（「トリエール」）兩郡及「ビルケンフェルド」公國トノ行政境界ヲ進ミ「フルシュワイレル」村落ノ北方約五百米ノ地點（即チ「メッツェルベルグ」ノ最高點）ニ至ル

北東方及東方方面　前記ノ地點ヨリ「サン、ウェンデル」ノ東北東方約三吉米半ノ地點ニ至ルノ間

「フルシュワイレル」ノ東方、「ロッシュベルグ」ノ西方及標高四一八及三二九（「ロッシュベルグ」ノ南方）ノ東方、「ライテルスワイレル」ノ西方、標高四六四ノ北東方ヲ過キ分水線ヲ南方ニ進ミ「クーセル」郡行政境界トノ接合點ニ至ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ南方ニ向ヒ「クーセル」郡ノ境界ヲ進ミ更ニ「ホムブルグ」郡ノ境界ヲ南南東方ニ進ミ「ドゥンツワイレル」ノ西方約千米ノ地點ニ至ル

次テ「ホルンバッハ」ノ南方約一吉米ノ地點ニ至ルノ間

標高四二四（「ドゥンツワイレル」ノ南東方約千米）、標高三六三（「フックス、ベルグ」）、標高三二二（「ワルドモール」ノ南西方）ヲ過キ「エーゲルスブルグ」及「エルバッハ」ノ東方ヲ經テ「ホムブルグ」ヲ繞回シ標高三六一（「ホムブルグ」市街ノ北東微東方約二吉米半）、標高三四二（「ホムブルグ」市街南東方約二吉米）、標高三五七（「シュライネルス、ベルグ」）、標高三五六、標高三五〇（「シュワルツェンバッハ」ノ南東方約一吉米半）ヲ經テ「アインネエド」ノ東方、標高三二二及三三三ノ南東方、「ウェーベンハイム」ノ東方約二吉米及「ミームバッハ」ノ東方約二吉米ヲ過キ更ニ「ミームバッハ」—「ベックワイレル」街道ニ依リ橫截セラルル高地ノ東方ヲ經テ（該街道ヲ「ザール」河流域地方ニ包含セシメ）「アルトハイム」ノ北方約二吉米ニ於ケル「ベックワイレル」及「アルトハイム」ヨリ來ル兩街道ノ接合點ノ直北ヲ過キ「リンゲワイレルホーフ」ノ南方及標高三二二ノ北方ヲ過キ「ホルンバッハ」ノ南方約一吉米佛蘭西國境ノ凸角部ニ於テ之ト合スルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム（本條約附屬十萬分一地圖第二號參照）

前記國境線ノ實査劃定ヲ行フ爲本條約實施後十五日以內ニ佛蘭西國ノ任命スル委員一名、獨逸國ノ任命スル委員一名及國際聯盟理事會ニ於テ右二國外ノ國ノ國民中ヨリ選任スル委員三名合セテ五名ヨリ成ル委員會ヲ設置スヘシ

前記境界線中行政境界ト一致セサル部分ニ付テハ委員會ハ能フ限リ地方ノ經濟上ノ利益及現在ノ市町村ノ境界ヲ斟酌シ指定ノ境界線ニ依ルコトニ力ムヘシ

右委員會ノ決定ハ過半數ニ依ルヘク且當事國ヲ拘束スヘキモノトス

第四十九條

獨逸國ハ受託者トシテノ國際聯盟ノ爲ニ前記地域上ノ施政權ヲ拋棄ス

本條約實施後十五年ノ終ニ於テ前記地域ノ住民ヲシテ何レノ主權ニ服スルコトヲ希望スルヤヲ表示セシムヘシ

第五十條

「ザール」河流域ニ於ケル鑛山ノ讓渡實行ニ關スル規定ハ住民ノ權利福祉及該地域ノ施政ノ保障ヲ目的トスル措置竝前條ノ民意表示ニ關スル條件ト共ニ本款附屬書ニ之ヲ規定ス該附屬書ハ本條約ノ一部ヲ爲スモノト認メラルヘク且獨逸國ハ之ヲ遵守スヘキコトヲ聲明ス

附屬書

第四十五條乃至第五十條ノ規定ニ依リ獨逸國ノ佛蘭西國ニ對スル「ザール」河流域鑛山ノ讓渡ノ實行ニ關スル規定、住民ノ權利及福祉ヲ尊重シ及該地域ノ施政ヲ確保スルコトヲ目的トスル措置竝該住民ニ對シ其ノ何レノ主權ニ服スルコトヲ希望スルヤヲ表示セシムルコトヲ求ムル條件ヲ規定スルコト左ノ如シ

第一章　鑛山ノ讓渡及採掘

一

第四十八條ニ規定スル「ザール」河流域地方ニ在ル一切ノ炭田ハ本條約實施ノ日以後完全且絕對ニ佛蘭西國ノ財產ト爲ルモノトス

佛蘭西國ハ豫メ認諾ヲ經ルコトナク又ハ何等ノ手續ヲ履ムコトナク該鑛山ヲ採掘シ若ハ採掘セサルノ權利又ハ之カ採掘權ヲ第三者ニ讓渡スルノ權利ヲ有スヘシ

佛蘭西國ハ其ノ權利ヲ確實ニスル爲何時タリトモ左記ノ獨逸國鑛業法令ノ適用ヲ請求スルコトヲ得

二

佛蘭西國ノ所有權ハ未タ特許ヲ付與セラレサル未著手ノ炭田ニ及フノミナラス既ニ特許ヲ付與セラレタル炭田ト雖現所有者ノ何人タルヲ問ハス即チ其ノ普魯西國ニ屬スルト巴威國ニ屬スルト其ノ他ノ國若ハ團體ニ屬スルト會社若ハ個人ニ屬スルトヲ問ハス又現ニ採掘セラルルト否トヲ又ハ地表所有者ノ權利ト別個ノ採掘權カ認メラレタルト否トニ拘ラス總テ之ニ及フヘシ

三

現ニ採掘中ノ鑛山ニ在リテハ佛蘭西國ニ對スル所有權讓渡ノ效力ハ該鑛山ニ關スル一切ノ附帶機關殊ニ地表及地下ニ於ケル其ノ諸設備及機械、採掘機、石炭ヲ電力ニ變形スル工場設備、作業場、交通機關、電線、引水

及配水ノ設備、土地、事務所支配人被用者及勞働者ノ住宅學校病院藥局等ノ建築物、各種ノ在庫品及供給品、記錄及圖面竝槪言スレハ鑛山ヲ所有シ又ハ採掘スル者カ鑛山及其ノ附帶機關經營ノ爲占有シ又ハ享有スル一切ノモノニ及フヘシ

前記讓渡ノ效力ハ佛蘭西國ノ占有前本條約署名後ノ交付ニ係ル產出物ノ代金及取引先ノ爲シタル供託金ニ及フ但シ取引先ノ權利ハ佛蘭西國之ヲ保障スヘシ

四

佛蘭西國ハ一切ノ金錢債務及負擔ヲ負フコトナク前記ノ財產ヲ取得スヘシ但シ鑛山及其ノ附帶機關ノ被用者カ本條約實施ノ日ニ於テ養老又ハ癈疾年金ニ關シ既ニ取得シ又ハ取得ノ中途ニ在ル權利ハ之ニ因リテ影響ヲ受クルコトナカルヘシ獨逸國ハ右代償トシテ佛蘭西國ニ對シ該被用者ノ受クヘキ年金ニ對スル保險統計上ノ積立金ヲ支拂フコトヲ要ス

五

右佛蘭西國ニ讓渡サレタル財產ノ價額ハ第八編（賠償）第二百三十三條ノ賠償委員會之ヲ決定スヘシ

右價額ハ賠償金額ノ一部支拂トシテ之ヲ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシ

獨逸國ハ當該財產ノ所有者又ハ利害關係人ノ何人タルヲ問ハス之ニ賠償ヲ爲スヘキモノトス

六

獨逸國ノ鐵道及運河ニ於テハ鑛山及其ノ附帶機關ノ人員若ハ產出物又ハ經營ニ必要ナル材料ノ運送ニ不利益ナル直接又ハ間接ノ差別料金率ヲ設クルコトヲ得ス右運送ニ關シテハ佛蘭西國原產ノ同種產出物ニ對シ國際鐵道條約ノ保障スル一切ノ權利及特權ヲ許與スヘシ

七

鑛山及其ノ附帶機關ノ產出物ノ發送及運送竝勞働者及被用者ノ運搬ヲ確保スル爲必要ナル設備及人員ハ「ザール」河流域ノ地方鐵道管理者之ヲ提供スヘシ

八

佛蘭西國カ鑛山及其ノ附帶機關ノ產出物ノ發送及運送ヲ確保スル爲必要ト認ムル鐵道又ハ水路ノ改良例ヘハ複線工事、停車場ノ擴張竝構內設備及附屬物ノ建設等ニ對シテハ何等ノ障礙ヲ設クルコトヲ得ス費用ノ分擔ニ付協議調ハサルトキハ之ヲ仲裁裁判ニ付スヘシ

佛蘭西國ハ又鑛山ノ採掘ニ必要ト認ムル道路、電線及電話聯結ノ如キ新交通機關ヲ開設スルコトヲ得

佛蘭西國ハ其ノ所有スルコトアルヘキ交通機關殊ニ鑛山及其ノ附帶機關ト佛蘭西國版圖內ニ在ル交通機關トヲ連結スルモノヲ自由ニ且何等ノ制限ナク經營スルコトヲ得

九

佛蘭西國ハ鑛山及其ノ附帶機關ノ經營ノ爲必要ト認ムル土地ヲ取得スル爲何時タリトモ千九百十八年十一月十一日現行ノ獨逸國鑛業法令ノ適用ヲ要求スルノ權利ヲ有ス但シ戰爭狀態ニ鑑ミ特ニ設ケラレタル規定ハ此ノ限ニ在ラス

右鑛山及其ノ附帶機關ノ經營ニ依リ不動產ニ及ホシタル損害ニ對スル支拂ハ前記獨逸國鑛業法令ニ依リ之ヲ行フヘシ

十

鑛山及其ノ附帶機關經營ノ權利ノ全部又ハ一部ニ付佛蘭西國カ自己ニ代位セシムル者ハ本附屬書所定ノ特權ノ利益ヲ享受スヘシ

十一

佛蘭西國ノ所有ニ歸シタル鑛山其ノ他ノ不動產ハ失權、買戾、公用徵收又ハ徵發其ノ他財產權ニ影響ヲ及ホス何等ノ處分ノ目的ト爲ルコトナシ

鑛山又ハ其ノ附帶機關ノ經營ニ關係アル人員及設備竝鑛山ヨリ採掘シ又ハ其ノ附帶機關ニ依リ製造シタル產出物ハ如何ナル場合ニ於テモ何等徵發處分ノ目的ト爲ルコトナシ

十二

佛蘭西國ノ所有ニ歸シタル鑛山及其ノ附帶機關ノ經營ハ本附屬書二十三ノ規定ニ從フノ外千九百十八年十一月十一日現行ノ獨逸國法令ニ依リ定メラレタル制度ニ引續キ遵由スヘシ但シ戰爭狀態ニ鑑ミ特ニ設ケラレタル規定ハ此ノ限ニ在ラス

勞働者ノ權利ハ右二十三ノ規定ニ從フノ外前記獨逸國法令ニ依リ定メラレタル千九百十八年十一月十一日現在ノ通維持セラルヘシ

右流域外ノ地ノ勞働者ヲ鑛山及其ノ附帶機關ニ傭入レ又ハ之ヲ使用スルニ對シテハ何等ノ障礙ヲ設クルコトヲ得ス

佛蘭西國國籍ヲ有スル被用者及勞働者ハ佛蘭西勞働組合ニ屬スルノ權利ヲ有スヘシ

十三

鑛山及其ノ附帶機關ヨリ「ザール」河流域地方ノ地方歲入又ハ市町村收入中ニ納付スヘキ金額ハ鑛山ノ價額ト該流域ニ於ケル課稅シ得ヘキ一切ノ富トノ割合ヲ案シテ之ヲ決スヘシ

十四

佛蘭西國ハ常ニ鑛山ノ附帶事業トシテ被用者及其ノ兒童ノ爲小學校又ハ技藝學校ヲ建設維持シ且該學校ニ於テ佛蘭西國ノ選定スル課程及教師ニ依リ佛蘭西語ヲ以テ教育ヲ授クルノ權利ヲ有スヘシ

佛蘭西國ハ又病院、藥局、勞働者ノ住宅及庭園其ノ他慈善的及社會的ノ設備ヲ建設維持スルノ權利ヲ有スヘシ

十五

佛蘭西國ハ鑛山及其ノ附帶機關ノ產出物ノ分配、發送及賣價ニ關シ完全ナル自由ヲ享有スヘシ

尤モ鑛山全產出額ノ多少ニ拘ラス佛蘭西國政府ハ產業用及家事用ノ地方的消費ニ充ツル爲千九百十三年ニ於ケル「ザール」河流域ノ地方的消費額ト該流域全產出額トノ比例ニ依リ常ニ右產出物ヲ供給スヘキコトヲ約ス

第二章　「ザール」河流域地方ノ施政

十六

「ザール」河流域地方ノ施政ハ國際聯盟ヲ代表スル委員會ニ之ヲ委任スヘシ該委員會ハ「ザール」河流域地方ニ之ヲ設置ス

十七

本附屬書十六ニ規定スル施政委員會ハ國際聯盟理事會ノ選定スル五名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織シ佛蘭西國人民一名、佛蘭西國人民ニ非サル「ザール」河流域土著ノ住民一名及佛蘭西獨逸兩國以外ノ三國ニ屬スル者三名ヲ以テ之ニ充ツ

施政委員會委員ノ任期ハ一年トシ重任スルコトヲ得國際聯盟理事會ハ該委員ヲ罷免スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該理事會ハ其ノ後任者ヲ定ムヘシ

施政委員會委員ハ俸給ヲ受クルノ權利ヲ有ス俸給ノ額ハ國際聯盟理事會之ヲ定ム該俸給ハ地方收入ノ支辨トス

十八

施政委員會ノ委員長ハ委員中ヨリ國際聯盟理事會之ヲ任命ス其ノ任期ハ一年トシ再任スルコトヲ得

委員長ハ委員會ノ執行機關トシテ行動ス

十九

施政委員會ハ「ザール」河流域地方ニ於テ從來獨逸帝國、普魯西又ハ巴威ニ屬シタル一切ノ施政權ヲ保有スヘシ該施政權中ニハ官吏ヲ任免シ竝其ノ必要ト認ムル行政機關及代表機關ヲ創設スルノ權能ヲ包含ス

右委員會ハ鐵道、運河其ノ他ノ公企業ヲ管理及經營スルノ全權ヲ有スヘシ

右委員會ノ決議ハ過半數ニ依ルヘシ

二十

獨逸國ハ「ザール」河流域地方又ハ其ノ住民ノ權利ニ關スル一切ノ公文書及記錄ニシテ獨逸國、獨逸各邦又ハ地方官憲ノ管理ノ下ニ在ルモノヲ施政委員會ノ使用ニ供スヘシ

二十一

施政委員會ハ其ノ適當ト認ムル手段及條件ニ依リ「ザール」河流域地方住民ノ利益ヲ其ノ地方外ニ於テ確實ニ保護スルノ責ニ任ス

二十二

施政委員會ハ「ザール」河流域地方ニ於テ公物又ハ私物上ニ存在シ獨逸帝國政府又ハ獨逸各邦政府ニ屬スル鑛山以外ノ一切ノ財產ニ對シ完全ナル使用收益ノ權利ヲ有スヘシ

鐵道ニ付テハ「ザール」河流域地方政廳ト獨逸諸鐵道トヲ代表スル混合委員會ハ車輛ノ衡平ナル分配ヲ爲スヘシ

「ザール」河流域ニ出入スル人、貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ハ第十二編（港、水路及鐵道）ニ規定スル通過及運送ニ關スル一切ノ權利及特權ヲ享有スヘシ

二十三

「ザール」河流域地方ニ於テハ千九百十八年十一月十一日現行ノ法令ハ戰爭狀態ニ基キ制定セラレタルモノヲ除クノ外引續キ之ヲ適用スヘシ

一般的理由ニ依リ又ハ本條約ノ規定ト合致セシムル爲右諸法令ニ修正ヲ加フルノ必要アルトキハ施政委員會ハ其ノ定ムル方法ニ依リ住民ノ選出代表者ト協議シタル後該修正ヲ決定シ且施行スヘシ

本附屬書十二ニ規定スル鑛山採掘ニ關スル法制ハ豫メ佛蘭西國ト協議スルニ非サレハ之ヲ修正スルコトヲ得ス但シ國際聯盟ノ採用シタル勞働ニ關スル一般規定ニ基ク修正ハ此ノ限ニ在ラス

男子、婦人及兒童ノ勞働條件及時間ヲ決定スルニ當リテハ施政委員會ハ地方勞働團體ノ表示シタル希望及國際聯盟ノ採用シタル原則ヲ參酌スルコトヲ要ス

二十四

「ザール」河流域ノ住民カ本條約實施ノ日ニ於テ既ニ取得シ又ハ取得ノ中途ニ在ル權利ニシテ獨逸國ノ保險制度又ハ各種ノ年金ニ關スルモノハ本條約ノ規定ニ依リ何等影響ヲ受クルコトナシ但シ第四項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

獨逸國及「ザール」河流域地方政廳ハ一切ノ前記ノ權利ヲ存續セシムヘシ

二十五

「ザール」河流域地方ノ民事及刑事ノ裁判所ハ之ヲ存續スヘシ

右裁判所ノ裁判ニ對スル上訴ヲ審理シ及其ノ權限外ノ事件ヲ裁判スル爲施政委員會ハ一ノ民刑事裁判所ヲ設置スヘシ

施政委員會ハ該裁判所ノ構成及管轄ヲ決定スルノ責任ヲ有ス

裁判ハ施政委員會ノ名ニ於テ之ヲ行フ

二十六

「ザール」河流域地方ニ於ケル租稅及手數料ハ施政委員會獨リ之ヲ徵收スルノ權能ヲ有ス

右ノ租稅及手數料ハ專ラ之ヲ該地域ノ需用ニ充ツ

千九百十八年十一月十一日現行ノ財政制度ハ成ルヘク之ヲ維持スヘシ又豫メ住民ノ選出代表者ト協議シタル場合ヲ除クノ外新ニ關稅以外ノ何等ノ租稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

二十七

本諸規定ハ「ザール」河流域地方ノ住民ノ現ニ有スル國籍ニ影響スルコトナシ

他國籍ヲ取得セムコトヲ希望スル者ニ對シテハ何等ノ障礙ヲ設クルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ新國籍ノ取得ハ其ノ他ノ國籍ヲ喪失セシムルモノトス

二十八

住民ハ施政委員會ノ監督ノ下ニ其ノ地方議會、信教ノ自由、學校及言語ヲ保持スヘシ

投票權ハ地方議會以外ノ議會ニ關シ行使セラルルコトナカルヘク又男女ノ別ナク二十歲以上ノ總テノ住民之ヲ有スヘシ

二十九

「ザール」河流域ノ住民ニシテ該地域ヲ退去セムト欲スル者ハ其ノ不動產ヲ該地域內ニ保有シ又ハ相當ノ價格ヲ以テ之ヲ賣却シ且何等ノ負擔ヲ課セラルルコトナクシテ其ノ動產ヲ撤去スルノ完全ナル自由ヲ有ス

三十

「ザール」河流域地方ニ於テハ强制タルト志願タルトヲ問ハス何等ノ兵役制度ヲ設クルコトナカルヘシ又同地域內ニ於テハ築城ノ構設ヲ禁止ス

秩序維持ノ爲ニスル地方憲兵ノミハ之ヲ置クコトヲ得

施政委員會ハ一切ノ場合ニ於テ「ザール」河流域內ニ於ケル人及財產ノ保護ニ任スルノ義務ヲ有ス

三十一

第四十八條ニ揭クル「ザール」河流域地方ニ於テハ佛蘭西國ノ關稅制度ニ依ルヘキモノトス

地方消費ノ爲仕向ケラレタル貨物ニ對スル關稅收入ハ一切ノ徵收費ヲ控除シタル上之ヲ該地域ノ豫算ニ編入スヘシ

右地域ヨリ獨逸國ニ輸出スル冶金生產品又ハ石炭ニ對シテハ何等ノ輸出稅ヲ賦課セス「ザール」河流域地方ノ產業ニ使用スル獨逸國ノ輸出品ニ付亦同シ

獨逸國ノ版圖ヲ通過スル右流域原產ノ天產物又ハ製造品ハ何等ノ關稅ヲ賦課セラルルコトナシ該流域ヲ通過スル獨逸國產物亦同シ

右流域ノ原產ニシテ右流域ヨリ獨逸國ニ入ル生產物ニ對シテハ本條約實施ノ日以後五年間輸入稅ヲ免除スヘシ地方消費ノ爲獨逸國ヨリ右流域ニ輸入スル貨物ニ對シ亦同シ

佛蘭西國政府ハ前記五年ノ期間獨逸國ヨリ無稅ニテ右流域ニ輸入セラレタル原料品及半製品ヲ含ム一切ノ貨物ニシテ同流域ヨリ佛蘭西國ニ運送セラルルモノノ數量ヲ千九百十一年乃至千九百十三年ニ「アルザス、ロレーヌ」及佛蘭西國ニ輸入セラレタル數量ノ平均年額迄制限スルノ權利ヲ留保ス右平均額ハ一切ノ公ノ情報及統計ヲ參照シテ之ヲ決定スヘシ

三十二

「ザール」河流域地方ニ於テハ佛蘭西國貨幣ノ流通ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得ス

佛蘭西國ハ鑛山又ハ其ノ附帶機關ノ經營ニ關スル一切ノ購買、支拂及契約ニ於テ佛蘭西國貨幣ヲ使用スルノ權利ヲ有ス

三十三

施政委員會ハ前記諸規定ノ解釋ヨリ生スル一切ノ問題ヲ決定スルノ權能ヲ有ス

佛蘭西國及獨逸國ハ前記諸規定ノ解釋ニ關スル意見ノ相違ニ基ク一切ノ爭議ヲ均シク施政委員會ニ付議スヘキコトヲ承諾ス過半數ニ依ル該委員會ノ決定ハ兩國ヲ拘束スヘシ

第三章　人民一般投票

三十四

「ザール」河流域地方ノ住民ハ本條約實施後十五年ノ期間滿了ノ時ニ於テ左ノ方法ニ依リ其ノ希望ヲ表示スルコトヲ求メラルヘシ

市町村又ハ區每ニ左ノ三者中ノ一ヲ選フ爲投票ヲ行フヘシ

（イ）本條約及本附屬書ニ依リ設定セラレタル制度ノ維持
（ロ）佛蘭西國トノ合併
（ハ）獨逸國トノ合併

投票ノ日ニ於テ二十歲以上ニシテ本條約署名ノ日ニ右地域內ニ居住シタル者ハ男女ノ別ナク悉ク投票權ヲ有ス

右ノ外ノ投票ノ要件、方法及期日ハ投票ノ自由、祕密及確實ヲ保障シ得ヘキ方法ニ依リ國際聯盟理事會之ヲ決定ス

三十五

國際聯盟ハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望ヲ考量シ右地域ノ歸屬スヘキ主權ヲ決定スヘシ

（イ）國際聯盟カ右地域ノ全部又ハ一部ニ對シ本條約及本附屬書ニ依リ設定セラレタル制度ヲ維持スルコトニ決定シタル場合ニ於テハ獨逸國ハ國際聯盟ノ必要ト認ムル所ニ從ヒ國際聯盟ノ爲ニ主權ヲ拋棄スルコトヲ茲ニ承諾ス國際聯盟ハ確定的ニ採用セラレタル前記制度ヲ右地域ノ永久ノ福祉及一般ノ利益ニ適應セシムル爲適當ナル處置ヲ講スルノ義務ヲ有ス

（ロ）國際聯盟カ右地域ノ全部又ハ一部ヲ佛蘭西國ニ合併スルコトニ決定シタル場合ニ於テハ獨逸國ハ國際聯盟ノ決定ニ從ヒ佛蘭西國ニ對シ聯盟ノ指定スル地域ニ於ケル一切ノ權利及權原ヲ讓渡スヘキコトヲ承諾ス

（ハ）國際聯盟カ右地域ノ全部又ハ一部ヲ獨逸國ニ合併スルコトニ決定シタル場合ニ於テハ國際聯盟ハ其ノ指定スル地域ニ對シ獨逸國政府ヲシテ其ノ施政ヲ再興セシムヘキ義務ヲ有ス

三十六

國際聯盟カ「ザール」河流域地方ノ全部又ハ一部ヲ獨逸國ニ合併スルコトニ決定シタルトキハ該地域ニ在ル鑛山ニ對スル佛蘭西國ノ所有權ハ金貨拂ノ價格ヲ以テ全部獨逸國之ヲ買戾スヘシ其ノ價格ハ獨逸國ノ指名スル一名、佛蘭西國ノ指名スル一名、國際聯盟理事會ニ於テ佛蘭西人及獨逸人ニ非サル者ヨリ指名スル一名計三名ノ專門家之ヲ決定スヘシ右專門家ノ決定ハ過半數ニ依ル

前記獨逸國ノ支拂義務ハ賠償委員會之ヲ考量スヘシ獨逸國ハ右支拂ニ充ツル爲同委員會ノ

同意シタル細目條件ニ依リ其ノ財産又ハ收入ノ上ニ優先權ヲ設定スルコトヲ得

獨逸國カ支拂期日後一年内ニ右支拂ヲ爲ササルトキハ賠償委員會ハ國際聯盟ノ訓令ニ從ヒ支拂ノ方法ヲ講シ又必要ノ場合ニ於テハ當該鑛山ヲ清算シ右支拂ニ充ツヘシ

三十七

本附屬書三十六ノ規定ニ依ル買戻ノ結果鑛山又ハ其ノ一部ノ所有權カ獨逸國ニ移轉シタルトキハ佛蘭西國及同國國民ハ其ノ産業用及家事用ノ爲其ノ當時必要ト認メラルル數量ノ「ザール」河流域ノ石炭ヲ購買スルノ權利ヲ有スヘシ

石炭ノ數量、契約ノ存續期間及價格ニ關スル衡平ナル協定ハ適當ナル時期ニ於テ國際聯盟理事會之ヲ決定スヘシ

三十八

佛蘭西國及獨逸國ハ鑛山買戻ノ價格支拂期日以前ニ締結スル特別取極ヲ以テ本附屬書三十六及三十七ノ規定ヲ修正スルコトヲ得

三十九

國際聯盟理事會ハ本附屬書三十五ニ規定スル國際聯盟ノ決定實施後行ハルヘキ制度ノ設定ノ爲必要ナル規定ヲ設クヘシ該規定中ニハ委員會ノ起債ニ依リ又ハ其ノ他ノ原因ニ依リ生シタル「ザール」河流域地方政廳ノ債務ノ衡平ナル分配ヲ含ムヘシ

施政委員會ノ權能ハ新制度實施ノ時ヨリ消滅ス但シ本附屬書三十五(イ)號ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

四十

本附屬書ニ揭クル一切ノ事項ニ關スル國際聯盟理事會ノ決定ハ過半數ニ依ル

第五款　「アルザス、ロレーヌ」

締約國ハ佛蘭西國ノ權利ニ對シ竝「ボルドー」會議ニ於ケル「アルザス」及「ロレーヌ」代表者ノ嚴重ナル抗議ニ拘ラス祖國ヨリ分離セラレタル右兩州人民ノ希望ニ對シ千八百七十一年獨逸國ノ加ヘタル非行ヲ是正スヘキ德義上ノ義務アルコトヲ認メ左ノ諸條ヲ約定ス

第五十一條

千八百七十一年二月二十六日「ヴェルサイユ」ニ於テ署名セラレタル講和豫備條約及千八百七十一年五月十日ノ「フランクフルト」條約ニ依リ獨逸國ニ讓渡セラレタル地域ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約締結ノ日以後佛蘭西國主權ノ下ニ復歸ス

千八百七十一年以前ニ於ケル國境劃定ニ關スル諸條約ノ規定ハ其ノ效力ヲ回復スヘキモノトス

第五十二條

獨逸國政府ハ佛蘭西國主權ノ下ニ復歸シタル地域ノ民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル一切ノ記錄、登錄簿、圖面、證書其ノ他各種ノ文書ヲ遲滯ナク佛蘭西國政府ニ引渡スヘシ若シ以上ノ文書、記錄、登錄簿、證書又ハ圖面中他ニ移シタルモノアルトキハ獨逸國政府ハ佛蘭西國政府ノ請求ニ應シ之ヲ還付スヘシ

第五十三條

第五十一條ノ地域ニ於ケル住民ノ利益殊ニ其ノ私權、營業及業務執行ニ關シテハ佛蘭西國ト獨逸國トノ間ニ別個ノ取極ヲ締結スヘシ但シ獨逸國ハ今後本款附屬書中ニ揭ケタル右地域内ノ住民又ハ原住者ノ國籍ニ關スル規定ヲ承認受諾シ、既ニ佛蘭西人タルコトヲ何等ノ理由ニ依ルヲ問ハス宣明セラレタル者ニ對シテハ如何ナル時又ハ如何ナル場所ニ於テモ之ヲ獨逸國民ナリト主張スルコトナク、其ノ他ノ者ハ總テ之ヲ其ノ領土内ニ引取リ且第五十一條ノ地域ニ於ケル獨逸國民ノ財産ニ付テハ第十編（經濟條項）第二百九十七條及同第四款附屬書ノ規定ニ準據スヘキコトヲ約シタルモノトス

獨逸國民ニシテ佛蘭西國國籍ヲ取得スルコトナクシテ佛蘭西國政府ヨリ前記地域内ニ居住スルノ許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ同條ノ規定ヲ適用セス

第五十四條

本款附屬書一ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ回復シタル者ハ本款ノ適用ニ付テハ之ヲ「アルザス、ロレーヌ」人ト看做ス

同附屬書二ニ揭クル者ハ其ノ佛蘭西國國籍ヲ請求シタル日ヨリ之ヲ「アルザス、ロレーヌ」人ト看做スヘク其ノ效力ハ千九百十八年十一月十一日ニ溯及ス其ノ請求ヲ却下セラレタル者ハ却下ノ日ニ於テ其ノ特權ヲ喪失スヘシ

法人ニシテ佛蘭西國行政官憲又ハ司法裁判ニ依リ其ノ資格ヲ有スト認定セラレタルモノハ亦「アルザス、ロレーヌ」人タルノ資格ヲ享有スヘシ

第五十五條

第五十一條ノ地域ハ第九編（財政條項）第二百五十五條ニ規定スル條件ニ依リ一切ノ公債ヲ負擔スルコトナク佛蘭西國ニ復歸スヘシ

第五十六條

佛蘭西國ハ第九編（財政條項）第二百五十六條ノ規定ニ依リ第五十一條ノ地域内ニ於テ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ノ所有スル一切ノ財産及土地ヲ取得スヘク之カ爲該地域ヲ讓渡スル各邦ニ對シ支拂ヲ爲シ又ハ債權ヲ認ムルコトナカルヘシ

本規定ハ獨逸帝國、獨逸各邦又ハ其ノ行政區劃ニ屬スル公私ノ財産タル一切ノ動産又ハ不動産竝一切ノ權利ニ之ヲ適用ス

帝室財産及前獨逸皇帝其ノ他ノ獨逸君主ノ財産ハ之ヲ公財産ト同視スヘシ

第五十七條

獨逸國ハ其ノ版圖ノ他ノ部分ニ於テ均シク適用セラルルニ非サル極印其ノ他立法上又ハ行政上ノ措置ニ依リ本條約署名ノ日ニ於テ法定通用力ヲ有シ且其ノ日ニ於テ佛蘭西國政府カ所有スル獨逸國ノ金錢證券又ハ貨幣ノ法律上ノ價値又ハ償還力ヲ毀損スヘキ何等ノ手段ヲ執ルコトヲ得ス

第五十八條

戰時中「アルザス、ロレーヌ」又ハ「アルザス、ロレーヌ」ニ於ケル公共團體カ獨逸帝國ノ爲獨逸國ノ法律ニ從ヒ支出シタル特別戰時費例ヘハ動員者ノ家族手當、徵發、軍隊宿舍料、追放民救助費等ニ對シ「麻」ヲ以テスル辨償ノ條件ハ特別協定ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

右費用ニ充ツル爲獨逸帝國ニ對シ「アルザス、ロレーヌ」カ貢納スヘカリシ金額ハ前記金額ヲ決定スルニ當リ之ヲ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシ尤モ右貢納額ハ千九百十三年ニ於ケル「アルザス、ロレーヌ」ヨリ生シタル獨逸帝國ノ歲入ノ割合ニ依リ之ヲ算定スヘシ

第五十九條

第五十一條ノ地域ニ於テ賦課シ得ヘキ各種ノ獨逸帝國ノ租稅、賦課金及手數料ニシテ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約ノ當時未徵收ニ係ルモノハ佛蘭西國政府自己ノ爲ニ之ヲ徵收スヘシ

第六十條

獨逸國政府ハ遲滯ナク「アルザス、ロレーヌ」人（自然人、法人及營造物法人）ニ對シ千九百十八年十一月十一日ニ於テ其ノ所有シタル一切ノ財産、權利及利益ニシテ獨逸國版圖内ニ存スルモノヲ還付スヘシ

第六十一條

獨逸國政府ハ休戰條約ニ規定シタル「アルザス、ロレーヌ」ニ關スル財政條項ノ實行ヲ繼續シ且遲滯ナク之ヲ完了スルコトヲ約ス

第六十二條

獨逸國政府ハ千九百十八年十一月十一日迄ニ「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ權利ヲ取得セラレ且其ノ支出カ獨逸帝國ノ豫算ノ負擔タリシ軍人及非軍人ノ一切ノ恩給費ヲ負擔スルコトヲ約ス

獨逸國政府ハ「アルザス、ロレーヌ」カ依然獨逸國法權ノ下ニ在リタル場合ニ於テハ「アルザス、ロレーヌ」居住者カ請求權ヲ有スヘキ「麻」計算ノ金額ヲ當該年度平均爲替相場ニ依リ「法」ヲ以テ支拂フ爲ニ必要ナル基金ヲ每年提供スヘシ

第六十三條

同盟及聯合國ノ普通人民カ罰金ノ形式ニ於テ被リタル損害ノ賠償トシテ獨逸國カ第八編（賠償）ニ於テ承認シタル義務ニ付テハ第五十一條ノ地域ニ於ケル住民ハ之ヲ前記人民ト同視スヘシ

第六十四條

萊因河及「モーゼル」河ノ管理ニ關スル規則ハ第十二編（港、水路及鐵道）ニ於テ之ヲ定ム

第六十五條

本條約實施後三週間以内ニ於テ「ストラスブルグ」及「ケール」ノ兩港ハ其ノ利用ノ爲七年ヲ期間トシテ一組織ヲ爲スヘシ

右組織ノ經理ハ萊因河中央委員會ノ任命シタル一名ノ經理長之ヲ執行スヘシ該委員會ハ經理長ヲ罷免スルノ權能ヲ有スヘシ

右經理長ハ佛蘭西國國籍ヲ有スル者タルヘシ

經理長ハ「ストラスブルグ」ニ居住シ萊因河中央委員會ノ監督ヲ受クヘシ

第十二編（港、水路及鐵道）ノ規定ニ依リ前記兩港ニ自由地域ヲ設定スヘシ

佛蘭西國及獨逸國ハ其ノ特殊條約ニ依リ前記組織殊ニ其ノ財政ニ關スル細目ヲ規定スヘク右條約ハ萊因河中央委員會ノ承認ヲ經ヘシ

本條ノ關スル限リ「ケール」港ニハ同港ノ交通及出入列車ノ運轉ニ必要ナル全地域竝同港ノ設備ヲ構成スル港内、埠頭及鐵道、步廊、起重機、上屋及倉庫、地下室、昇降機及水力發電裝置ヲ包含ス

獨逸國政府ハ萊因河ノ左右兩岸ニ於テ「ケール」發着列車ノ一切ノ組立及入換作業カ能フ限リ完全ニ處理セラルルコトヲ保障スル爲必要ナル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

一切ノ財産權ハ保障セラルヘシ殊ニ前記兩港經理ノ爲佛蘭西又ハ「バーデン」ノ鐵道ノ財産權ハ何等毀損セラルルコトナカルヘシ

前記兩港ニ於テハ各國ノ國民、船舶及貨物ノ運送ニ關シ均等ノ待遇ヲ保障スヘシ

佛蘭西國ハ第六年ノ終ニ當リ「ストラスブルグ」港改良進步ノ程度カ尙此ノ假制度ノ期間延長ヲ要スト思考スルトキハ之ヲ萊因河中央委員會ニ要求スルコトヲ得該委員會ハ三年ヲ超エサル期間右延長ヲ許可スルコトヲ得

前記ノ自由地域ハ延長ノ全期間之ヲ維持スヘシ

萊因河中央委員會カ第一次經理長ヲ任命スル迄ハ主タル同盟及聯合國ハ前記規定ニ依リ佛蘭西國人タル一名ノ假經理長ヲ任命スルコトヲ得

本條ノ關スル限リ萊因河中央委員會ノ決定ハ總テ表決ノ過半數ニ依ル

第六十六條

現ニ「アルザス、ロレーヌ」内ニ於テ萊因河上ニ架シタル鐵道橋梁其ノ他ノ橋梁ハ其ノ各部分及其ノ全長共佛蘭西國ノ財産ト爲ルヘク佛蘭西國ハ之カ維持ヲ確保スヘシ

第六十七條

佛蘭西國政府ハ獨逸帝國鐵道廳ノ管理ニ屬シ現ニ事業ヲ行ヒ又ハ建設中ニ在ル一切ノ鐵道ニ對スル獨逸帝國ノ一切ノ權利ニ付代位ス

右ノ規定ハ第五十一條ノ地域ニ於ケル鐵道及軌道ノ特許ニ關スル同帝國ノ權利ニ付亦之ヲ適用スヘシ

佛蘭西國ハ右代位ノ爲何等ノ支拂ヲ爲ササルヘシ

國境鐵道停車場ハ追テ締結スヘキ取極ニ依リ設置セラルヘシ但シ萊因河國境ニ於テハ停車場ハ同河ノ右岸ニ在ルヘキコトヲ玆ニ豫メ規定ス

第六十八條

第五十一條ノ地域内ニ原產シ且其ノ地域ヨリ來ル天產物又ハ製造品ハ第十編（經濟條項）第一款第一章第二百六十八條ノ規定ニ依リ本條約實施後五年間獨逸國ノ關稅地域内ニ輸入セラルルニ當リ一切ノ關稅ヲ免除セラルヘシ

佛蘭西國政府ハ此ノ免除ヲ享受スヘキ物品ノ性質及數量ヲ每年命令ヲ以テ定メ其ノ命令ハ獨逸國政府ニ之ヲ通告スヘシ

右ニ依リ每年獨逸國内ニ仕向ケ得ル各種物品ノ數量ハ千九百十一年乃至千九百十三年ニ仕向ケラレタル每年ノ數量ノ平均額ヲ超過スヘカラス

右五年ノ期間獨逸國政府ハ又漂白、染色、捺染、「マーセライズ」、瓦斯燒、撚掛又ハ糊付艷付ノ如キ仕上工程ヲ經ル爲獨逸國ヨリ第五十一條ノ地域内ニ仕向ケラルル一切ノ種類及一切ノ狀態ニ於ケル織絲、織物其ノ他ノ織物原料又ハ織物製品ニ對シ獨逸國ヨリノ輸出及獨逸國ヘノ再輸入ヲ自由ナラシメ一切ノ關稅其ノ他ノ課金（內國課稅金ヲ含ム）ヲ免除スヘシ

第六十九條

第五十一條ノ地域又ハ永久若ハ一時獨逸國ヨリ佛蘭西國ニ經營ヲ移シタル各種ノ施設ニ對シ從來電力ヲ供給シタル獨逸國版圖内ノ電氣供給中央作業場ハ千九百十八年十一月十一日現存ノ諸契約ニ相當スル消費高以内ノ供給ヲ本條約實施後十年間繼續スルノ義務アルモノトス

前記ノ供給ハ現存ノ契約ニ依リ且該作業場ニ對シ獨逸國民ノ支拂フ料金率ヨリ高カラサル率ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十條

佛蘭西國政府ハ第五十一條ノ地域ニ於テ左記事項ニ付テノ一切ノ新ナル獨逸ノ關與ヲ將來禁止スルノ權利ヲ留保ス

一　鐵道、航行可能水路竝水道、瓦斯及電力ノ配給等ノ如キ公物及公企業ノ經理又ハ經營

二　各種ノ鑛山及採石場ノ所有及之ニ關聯スル諸事業

三　冶金事業其ノ鑛山ノ經營ト關聯セサルモノト雖異ルコトナシ

第七十一條

第五十一條ノ地域ニ於テハ獨逸國ハ加里鑛取引ニ關スル千九百十年五月二十五日ノ法律及一般ニ加里鑛山ノ經營ニ對スル獨逸國諸團體ノ干與ニ關スル法規ニ基ク一切ノ權利ヲ千九百十八年十一月十一日以後自國及其ノ國民ノ名ニ於テ拋棄ス獨逸國ハ又右地域ニ於ケル他ノ生產物ニ關シ其ノ利益ノ爲存在スル取極又ハ法令ニ基ク一切ノ權利ヲ自國及其ノ國民ノ名ニ於テ拋棄ス

第七十二條

千九百十八年十一月十一日以前一方獨逸帝國及獨逸各邦又ハ其ノ國民ニシテ獨逸國ニ居住スルモノト他方「アルザス、ロレーヌ」人トノ間ニ契約シタル金錢債務ニ關スル問題ノ解決ハ第十編（經濟條項）第三款ノ規定ニ依リ之ヲ行フヘシ但シ該條項中「戰前」ノ語ハ「千九百十八年十一月十一日以前」ノ語ヲ以テ之ニ代フヘシ右解決ニ際シ適用スヘキ爲替相場ハ千九百十八年十一月十一日ヲ以テ終ル一月間ノ「ジュネーヴ」取引所ニ於ケル平均相場ニ依ルヘキモノトス

第十編（經濟條項）第三款規定ノ條件ニ依リ前記金錢債務ノ決濟ヲ爲ス爲第五十一條ノ地域内ニ特別ノ清算所ヲ設置スルコトヲ得該清算所ハ之ヲ同款附屬書一ノ「中央清算所」ト看做スヘシ

第七十三條

獨逸國ニ於ケル「アルザス、ロレーヌ」人ノ私財產、權利及利益ハ第十編（經濟條項）第四款ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第七十四條

佛蘭西國政府ハ千九百十八年十一月十一日ニ於テ獨逸國民又ハ獨逸國ノ管理ノ下ニ在ル會社カ第五十一條ノ地域内ニ於テ有スル一切ノ財產、權利及利益ヲ前記第五十三條末項ノ條件ノ下ニ保有清算スルノ權利ヲ留保ス

獨逸國ハ前記清算ニ依リ財產、權利及利益ヲ喪失シタル獨逸國民ニ對シ直接補償スヘシ

右清算ノ殘高ハ第十編（經濟條項）第三款及第四款ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第七十五條

第十編（經濟條項）第五款ノ規定ニ拘ラス千九百十八年十一月三十日ノ佛蘭西國ノ命令カ「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ公布セラレタル日以前一方「アルザス、ロレーヌ」人（自然人又ハ法人）其ノ他ノ「アルザス、ロレーヌ」居住者ト他方獨逸帝國若ハ獨逸各邦又ハ其ノ國民ニシテ獨逸國ニ居住スルモノトノ間ニ締結セラレタル一切ノ契約ハ休戰條約又ハ其ノ後ノ佛蘭西國法令ニ依リ履行ヲ停止セラレタルモノト雖其ノ效力ヲ持續スヘシ

然レトモ本條約實施ノ日以後六月以内ニ佛蘭西國政府ヨリ獨逸國ニ對シ一般利益ノ爲其ノ取消ヲ通告シタル契約ハ總テ取消サルヘキモノトス但シ千九百十八年十一月十一日以前該契約ニ基キ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ行爲ヲ爲シタルニ因リ生スル金錢債務其ノ他ノ金錢上ノ債務ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス取消ノ爲當事者ノ一方カ著シク損害ヲ被リタルトキハ該當事者ニ對シ衡平ナル補償ヲ與フヘシ右補償ハ專ラ使用資本額ニ依リテ之ヲ計算シ其ノ得ヘカリシ利潤ノ額ヲ計上セサルモノトス

「アルザス、ロレーヌ」ニ於ケル時效、出訴期間及失權ニ關シテハ第十編（經濟條項）第五款第

三百條及第三百一條ノ規定ヲ適用ス但シ「開戰」ノ語ハ「千九百十八年十一月十一日」、「戰時中」ノ語ハ「千九百十八年十一月十一日ヨリ本條約實施ノ日ニ至ル期間」ノ語ヲ以テ之ニ代フヘキモノトス

第七十六條

「アルザス、ロレーヌ」人ノ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付テノ問題ハ第十編（經濟條項）第七款ノ一般規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ但シ獨逸國法令ニ從ヒ此ノ種ノ權利ヲ有スル「アルザス、ロレーヌ」人ハ獨逸國版圖內ニ於テ依然該權利ヲ完全ニ享有スルモノトス

第七十七條

獨逸國政府ハ老癈保險ノ目的ヲ以テ獨逸帝國又ハ之ニ從屬スル公私團體ニ於テ積立テタル一切ノ準備金中「ストラスブルグ」老癈保險基金ニ屬スヘキ部分ヲ佛蘭西國政府ニ交付スルコトヲ約ス

前項ノ規定ハ獨逸國內ニ積立テラレタル資金及準備金ニシテ本來前項ノ外ノ社會保險基金、鑛夫養老基金、「アルザス、ロレーヌ」ニ於ケル鐵道基金及「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ勤務スル諸官署及營造物法人ノ職員ノ爲ニ設ケラレタル他ノ養老機關ニ屬スヘキモノニ關シ竝「アルザス、ロレーヌ」居住ノ私的使用人タル被保險者ノ利益ノ爲ニ締結セラレタル契約ニ基キ伯林ニ於ケル私的使用人保險基金ノ負擔スル資金及準備金ニ關シ之ヲ適用スヘシ

前記交付ノ條件及手續ハ特別條約ニ依リ之ヲ決定ス

第七十八條

判決ノ執行、上訴及公訴ニ關シテハ左ノ規定ヲ適用ス

一　千九百十四年八月三日以後「アルザス、ロレーヌ」ノ裁判所ニ於テ「アルザス、ロレーヌ」人相互間、「アルザス、ロレーヌ」人ト外國人トノ間又ハ外國人相互間ノ民事及商事事件ニ付下シタル一切ノ判決ニシテ千九百十八年十一月十一日前ニ上訴セラレサリシモノハ之ヲ確定ト認メ更ニ手續ヲ履ムコトナク直ニ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノト認ム

「アルザス、ロレーヌ」人ト獨逸國人間又ハ「アルザス、ロレーヌ」人ト獨逸國ノ同盟國ノ臣民トノ間ノ事件ニ付下シタル判決ハ第五十一條ノ復歸地域ニ於ケル當該新裁判所ノ執行ノ命令カ發セラレタル場合ニ於テノミ之ヲ執行スルコトヲ得

二　「アルザス、ロレーヌ」人ニ對シ政治犯罪ニ付千九百十四年八月三日以後獨逸國裁判所ノ下シタル一切ノ判決ハ無效タルヘシ

三　「アルザス、ロレーヌ」ノ裁判所ノ判決ニ對スル上訴ニ付千九百十八年十一月十一日以後「ライプチッヒ」帝國大審院ノ下シタル一切ノ判決ハ無效タルヘク且其ノ旨宣言セラルヘシ上記ノ判決アリタル裁判事件ニ關スル記錄ハ「アルザス、ロレーヌ」ノ當該裁判所ニ之ヲ返還スヘシ

「アルザス、ロレーヌ」ノ裁判所ノ判決ニ對シ帝國大審院ニ提起セラレタル一切ノ上訴ハ之ヲ停止スヘク其ノ關係記錄ハ直ニ之ヲ該事件決定ノ權限アル佛蘭西國大審院ニ移送スル爲前記條件ニ依リ返還スヘシ

四　千九百十八年十一月十一日以後本條約實施以前ニ犯シタル犯罪ニ對スル「アルザス、ロレーヌ」ニ於ケル一切ノ公訴ハ佛蘭西國官憲カ該地ニ於テ合法ニ公布シタル命令ニ依リ變更セラレサル限リ獨逸國法令ニ依リ之ヲ處理スヘシ

五　裁判上ノ權限、手續又ハ處理ニ關スル他ノ一切ノ問題ハ佛蘭西獨逸兩國間ノ特別條約ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第七十九條

本款附屬書ノ國籍ニ關スル規定ハ本款ノ規定ト同一ノ效力ヲ有スルモノト認メラルヘシ

「アルザス、ロレーヌ」ニ關スル他ノ一切ノ問題ニシテ本款、本款附屬書又ハ本條約ノ一般條項中ニ規定セラレサルモノハ追テ佛蘭西獨逸兩國間ニ締結スル條約ニ依ルヘシ

附屬書

一

左記ノ者ハ千九百十八年十一月十一日以後當然佛蘭西國國籍ヲ回復スヘシ

一　千八百七十一年五月十日ノ佛蘭西獨逸兩國間條約ノ適用ノ結果佛蘭西國國籍ヲ喪失シ其ノ後獨逸國國籍以外ノ國籍ヲ取得セサリシ者

二　前號ニ揭ケタル者ノ嫡出又ハ私生ノ直系卑屬但シ父系直系尊屬中ニ千八百七十年七月十五日以後「アルザス、ロレーヌ」ニ移住シタル獨逸人ヲ有スル者ヲ除ク

三　「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ出生シタル者ニシテ其ノ父母不明ナル者又ハ其ノ國籍不明ナル者

二

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ本條約實施後一年以內ニ佛蘭西國國籍ヲ請求スルコトヲ得

一　本附屬書一ノ規定ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ回復セサル者ニシテ其ノ直系尊屬中ニ一ニ揭クル事情ニ因リ佛蘭西國國籍ヲ喪失シタル佛蘭西人タル男子又ハ女子ヲ有スル者

二　獨逸各邦ノ國民ニ非サル外國人ニシテ千九百十四年八月三日以前「アルザス、ロレーヌ」ノ人民タル資格ヲ取得シタル者

三　「アルザス、ロレーヌ」ニ住所ヲ有スル獨逸人ニシテ千八百七十年七月十五日以前ヨリ同地方ニ住所ヲ有スル者又ハ其ノ直系尊屬ノ一人カ該期日以前ニ於テ「アルザス、ロレーヌ」ニ住所ヲ有シ居リタル者

四　「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ出生シ又ハ住所ヲ有スル獨逸人ニシテ本戰爭中同盟及聯合國軍隊ニ從軍シタル者及其ノ直系卑屬

五　千八百七十一年五月十日以前「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ外國人ヲ父母トシテ出生シタル者及其ノ直系卑屬

六　本附屬書一ノ規定ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ回復シ又ハ前各號ノ規定ニ依リ佛蘭西國國籍ヲ請求取得シタル者ノ配偶者

未成年者ノ法定代理人ハ該未成年者ノ爲佛蘭西國國籍請求權ヲ行使スルコトヲ得若シ該權利ニシテ行使セラレサルトキハ該未成年者ハ其ノ成年ニ達シタル後一年以內ニ佛蘭西國國籍ヲ請求スルコトヲ得

第六號ニ揭クル場合ヲ除クノ外佛蘭西國官憲ハ個々ノ場合ニ付佛蘭西國國籍ノ請求ヲ拒否スルノ權利ヲ留保ス

三

本附屬書二ニ規定スル場合ヲ除クノ外「アルザス、ロレーヌ」ニ於テ出生シ又ハ住所ヲ有スル獨逸人ハ其ノ既ニ「アルザス、ロレーヌ」ノ人民タル資格ヲ有スル者ト雖「アルザス、ロレーヌ」ノ復歸ニ因リテ佛蘭西國國籍ヲ取得スルコトナシ

右獨逸人ハ歸化ニ依リテノミ佛蘭西國國籍ヲ取得スルコトヲ得但シ千九百十四年八月三日以前ヨリ「アルザス、ロレーヌ」ニ住所ヲ有スルコトヲ要シ且千九百十八年十一月十一日以後三年間繼續シテ該復歸地域內ニ居住シタルコトノ證據ヲ提出スルコトヲ要ス

佛蘭西國歸化ノ請求ヲ爲シタル日以後ハ前記獨逸人ニ對スル外交官及領事官ニ依ル保護ハ佛蘭西國專ラ其ノ責ニ任スヘシ

四

佛蘭西國政府ハ佛蘭西國國籍回復權ノ實行ニ要スル手續竝本附屬書規定ノ國籍請求及歸化請求ノ許否ニ關スル條件ヲ定ムヘシ

第六款　墺地利國

第八十條

獨逸國ハ墺地利國ト主タル同盟及聯合國トノ條約ニ依リ決定セラルヘキ國境內ニ於ケル墺地利國ノ獨立ヲ承認シ且嚴ニ之ヲ尊重スヘシ獨逸國ハ國際聯盟理事會ノ同意アル場合ヲ除クノ外該獨立ノ動カスヘカラサルモノナルコトヲ承諾ス

第七款　「チェッコ、スロヴァキア」國

第八十一條

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ既ニ執リタル措置ニ從ヒ「カルパート」山脈南方「ルテーヌ」人ノ自治地域ヲ含ム「チェッコ、スロヴァキア」國ノ完全ナル獨立ヲ承認シ且之ト共ニ獨逸國ハ主タル同盟及聯合國竝他ノ利害關係國ノ決定シタル「チェッコ、スロヴァキア」國ノ國境ヲ承認ス

第八十二條

千九百十四年八月三日ニ於ケル墺地利洪牙利國ト獨逸帝國トノ舊國境ハ獨逸國ト「チェッコ、スロヴァキア」國トノ國境ヲ構成スヘシ

第八十三條

獨逸國ハ「シレジア」ノ地域中左ノ區域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ爲ニ抛棄ス

「カッチェル」ノ南東方約二吉米ニ於ケル「レオブシュッツ」及「ラティボール」兩郡間ノ境界上ノ地點ヨリ發シ

右兩郡間ノ境界ニ從ヒ

次テ「ラティボール」—「オーデルベルグ」鐵道ノ南方ニ接スル「オーデル」河上ノ一點ニ至ル迄獨逸及墺地利洪牙利兩國ノ舊境界ニ依リ

次テ北西方ニ向ヒ「カッチェル」ノ南東方約二吉米ノ地點ニ至ルノ間

「クラノウィッツ」ノ西方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

波蘭國及「チェッコ、スロヴァキア」國間ノ國境線ヲ實查ノ上確定スル爲本條約實施後十五日ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ指名スル五名、波蘭國及「チェッコ、スロヴァキア」國ノ指名スル各一名計七名ヨリ成ル委員會ヲ設クヘシ

前記委員會ノ決議ハ過半數ニ依リ之ヲ決シ且關係當事國ヲ拘束スヘシ

獨逸國ハ獨逸波蘭兩國ノ國境確定ノ結果「レオブシュッツ」郡中左ノ境界線內ニ在ル部分カ獨逸國ヨリ隔離シタル場合ニ於テ此ノ部分ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ爲ニ抛棄スルコトヲ約ス

「レオブシュッツ」ノ西方約五吉米ニ於ケル墺地利國舊國境凸出部ノ南東端ヨリ南方ニ進ミ「レオブシュッツ」及「ラティボール」兩郡間ノ境界トノ接合點ニ至ルノ間

獨逸及墺地利洪牙利兩國ノ舊國境ニ依リ

次テ北方ニ向ヒ「カッチェル」ノ南東方約二吉米ノ地點ニ至ル迄「レオブシュッツ」及「ラティボール」兩郡間ノ行政境界ニ依リ

次テ北西方ニ進ミ前記出發點ニ至ルノ間

「カッチェル」ノ東方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

第八十四條

「チェッコ、スロヴァキア」國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル獨逸國民ハ當然「チェッコ、スロヴァキア」國國籍ヲ取得シ且其ノ獨逸國國籍ヲ喪失スヘシ

第八十五條

「チェッコ、スロヴァキア」國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル十八歲以上ノ獨逸國國民ハ本條約實施後二年以內ニ於テ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ獨逸國內ニ定住スル獨逸國民タル「チェッコ、スロヴァキア」人ハ前同樣「チェッコ、スロヴァキア」國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歲未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ爾後十二月以內ニ其ノ選擇シタル國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス

右ノ者ハ其ノ選擇權ノ行使前ニ住所ヲ有シタル他ノ國ノ領土內ニ其ノ不動產ヲ保有スルノ權利ヲ有ス各種ノ動產ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク該財產ノ移動ニ關シテハ一切ノ輸出稅又ハ輸入稅ヲ課スルコトヲ得ス

獨逸國民タル「チェッコ、スロヴァキア」人ニシテ外國ニ在ルモノハ當該外國ノ法令ニ何等反對ノ規定ナク且未タ該外國ノ國籍ヲ取得セサル場合ニ於テ前記期間內ニ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ定ムル要件ニ從ヒ「チェッコ、スロヴァキア」國國籍ヲ取得シ且獨逸國國籍ヲ離脫スルノ權利ヲ有スヘシ

第八十六條

「チェッコ、スロヴァキア」國ハ其ノ多數ノ住民ト人種、言語又ハ宗教ヲ異ニスル其ノ住民ノ利益ヲ保護スル爲主タル同盟及聯合國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

「チェッコ、スロヴァキア」國ハ何他ノ國民ニ對シ通過ノ自由ト通商ノ衡平ナル取扱トヲ保護スル爲前記諸國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

獨逸國及普魯西ノ財政上ノ義務ニシテ「チェッコ、スロヴァキア」國カ「シレジア」ノ地域ヲ其ノ主權ノ下ニ置キタル結果負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編（財政條項）第二百五十四條ニ依リ之ヲ決定スヘシ

前記領土ノ割讓ノ結果生スヘキ一切ノ問題ニシテ本條約ニ依リテ決定セラレサルモノハ後日ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第八款　波蘭國

第八十七條

獨逸國ハ主タル同盟及聯合國ノ既ニ執リタル措置ニ從ヒ波蘭國ノ完全ナル獨立ヲ承認シ且波羅的海、「ロルツェンドルフ」ノ東方約二吉米ノ地點ニ至ル迄第二編（獨逸國ノ境界）第二十七條ニ定メタル獨逸國ノ東方國境、次ニ「シムメナウ」ノ北西方約三吉米ニ於テ上部「シレジア」ノ北方境界カ鋭角ヲ爲ス箇所ニ至ル線、次ニ獨逸及露西亞兩國間ノ舊國境トノ接合點ニ至ル迄右上部「シレジア」境界、次ニ「ニーメン」河ノ河流トノ交叉點ニ至ル迄右兩國間ノ舊國境竝前揭第二編第二十八條ニ定メタル東普魯西ノ北境ニ依リ圍繞セラルル地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ波蘭國ノ爲ニ抛棄ス

本條ノ規定ハ第二編（獨逸國ノ境界）第二十八條及本編第十一款（「ダンチッヒ」）第百條ニ定メタル東普魯西及「ダンチッヒ」自由市ノ地域ニハ之ヲ適用セス

波蘭國ノ境界ニシテ本條約ニ於テ定メサルモノハ主タル同盟及聯合國追テ之ヲ決定スヘシ

波蘭國ト獨逸國トノ國境線ヲ實查劃定スル爲本條約實施後十五日以內ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ指名スル五名、獨逸國及波蘭國ノ指名スル各一名計七名ヨリ成ル委員會ヲ設クヘシ

委員會ノ決議ハ表決ノ過半數ニ依リ之ヲ決シ且當事國ヲ拘束スヘシ

第八十八條

上部「シレジア」中左記境界內ニ在ル部分ニ於テハ住民ヲシテ其ノ獨逸國又ハ波蘭國ノ何レニ屬スルコトヲ希望スルヤヲ投票ニ依リ表示セシムヘシ

「ノイスタット」ノ東方約八吉米ニ於ケル舊墺地利國領「シレジア」州ノ凸出部ノ北端ヨリ獨逸國及墺地利國間ノ舊國境ニ依リ「レオブシュッツ」、「ラティボール」兩郡間ノ境界トノ接合點ニ至ル

次テ北方ニ向ヒ「カッチェル」ノ南東方約二吉米ノ地點ニ至ル迄

「レオブシュッツ」、「ラティボール」兩郡間ノ境界ニ依ル

次テ南東方ニ向ヒ「ラティボール」—「オーデルベルグ」鐵道ノ南方ニ接スル「オーデル」河流上ノ一點ニ至ルノ間

「クラノヴィッツ」ノ南方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ獨逸國及墺地利國間ノ舊國境、次テ獨逸國及露西亞國間ノ舊境界ニ依リ「ポズナニア」及上部「シレジア」間ノ行政境界トノ接合點ニ至ル

次テ該行政境界ニ依リ上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ行政境界トノ接合點ニ至ル

次テ西方ニ向ヒ右行政境界カ「ジムメナウ」ノ北西方約三吉米ニ於テ鋭角ヲ以テ南東方ニ轉スル地點ニ至ルノ間

上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ境界ニ依ル

次テ西方ニ向ヒ「ロルツェンドルフ」ノ東方約二吉米ニ於テ實查ノ上定メラルヘキ地點ニ至ルノ間

「クライン、ヘンネルスドルフ」ノ北方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ南方ニ向ヒ上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ境界ト「ステッテル」—「カールスルーエ」街道トノ交叉點ニ至ルノ間

「ヘンネルスドルフ」、「ポルコウィッツ」、「ノルダウ」、「スタイネルスドルフ」及「ダムメル」ノ西方竝「ストレーリッツ」、「ナッサデル」、「エックルスドルフ」、「シュウィルッツ」及「ステッテル」ノ東方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ上部「シレジア」及中部「シレジア」間ノ境界ニ依リ「ファルケンベルゲ」郡ノ東境トノ接合點ニ至ル

次テ「ファルケンベルゲ」郡ノ東境ニ依リ「プシネ」ノ東方三吉米ニ位スル凸出部地點ニ至

ル

次テ「ノイスタット」ノ東方約八吉米ニ位スル舊墺地利國領「シレジア」州凸出部ノ北端ニ至ルノ間

「ツュルッ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

前記ノ人民一般投票ノ執行及其ノ效果ニ關スル制度ハ本條附屬書ニ之ヲ規定ス

波蘭國及獨逸國ノ政府ハ本條附屬書ニ規定スル制度ノ存續中及該地方ノ終局ノ地位ノ確定スル迄上部「シレジア」ニ於テ爲シタル一切ノ政治上ノ行動ニ對シ相互ニ其ノ領土ニ於テ訴追ヲ爲サス且何等ノ例外的手續ヲ執ラサルコトヲ約ス

獨逸國ハ上部「シレジア」中人民一般投票ノ結果トシテ主タル同盟及聯合國ノ定メタル境界線内ノ區域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ波蘭國ノ爲ニ玆ニ抛棄ス

附屬書

一

獨逸國軍隊及本附屬書二ノ規定ニ依リ設置シタル委員會ノ指定スル獨逸國官吏ハ本條約實施後十五日以内ニ人民一般投票區域ヲ撤退スヘシ右軍隊及官吏ハ其ノ撤退完了ニ至ル迄形式ノ如何ヲ問ハス金錢又ハ物品ノ徵發及該地方ノ物質上ノ利益ヲ害スル虞アル一切ノ行爲ヲ爲スコトナカルヘシ

右區域ニ於テ設立シタル勞兵會ハ前記期間内ニ解散スヘク同會會員中他地方人ニシテ本條約實施ノ時ニ其ノ職務ヲ行フ者又ハ千九百十九年三月一日以後其ノ職務ヲ罷メタル者ハ撤退スヘシ

右區域ニ於テ其ノ住民ノ組織シタル一切ノ軍事的及准軍事的團體ハ直ニ之ヲ解除セシムヘシ右軍事團體ノ團員ニシテ該區域内ニ住所ヲ有セサル者ハ退去セシムヘシ

二

人民一般投票區域ハ直ニ北米合衆國、佛蘭西國、英帝國及伊太利國ノ任命スヘキ四名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置カルヘシ同區域ハ同盟及聯合國ニ屬スル軍隊ヲ以テ之ヲ占領スヘク獨逸國政府ハ該軍隊ヲ上部「シレジア」ニ輸送スルニ付便宜ヲ供スヘキコトヲ約ス

三

右委員會ハ立法及課税ニ關スル場合ヲ除クノ外獨逸國又ハ普魯西政府ノ行使シタル一切ノ權能ヲ有シ且州及縣ノ行政廳ニ代ルヘシ

本項ニ依リ付與セラレタル權能ニ關シ解釋ヲ下シ且如何ナル範圍ニ於テ其ノ權能ヲ行使シ又ハ之カ行使ヲ現存官憲ニ委スヘキカヲ決定スルハ右委員會ノ權限ニ屬スルモノトス

現行法律及現行租税ノ變更ハ委員會ノ同意ヲ經ルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

委員會ハ其ノ使用ニ供セラレタル軍隊ノ助力ニ依リ及其ノ必要ト認ムル限度ニ於テ地方住民中ヨリ募集シタル憲兵ヲ以テ秩序ヲ維持スヘシ

委員會ハ速ニ撤退獨逸國官吏ノ補充ニ力メ且必要ナル場合ニ於テハ自ラ獨逸國官憲ノ撤退ヲ命シ且必要ナル地方官憲ノ補充ヲ爲スヘシ

委員會ハ投票ノ自由、公正及祕密ヲ確保スル爲其ノ適當ト思量スル一切ノ手段ヲ執ルヘク殊ニ方法ノ如何ニ拘ラス贈賄又ハ威赫ノ手段ニ依リ人民一般投票ノ結果ヲ紛更セムト企テタル者ノ追放ヲ命スルノ權利ヲ有スヘシ

委員會ハ本條項ノ實施ヨリ生スル一切ノ問題ヲ決定スルノ全權ヲ有スルモノトス委員會ハ其ノ地方住民中ヨリ選任シタル專門事項顧問ヲ以テ其ノ補佐トスヘシ

委員會ノ決議ハ表決ノ過半數ニ依ルヘシ

四

投票ハ主タル同盟及聯合國ノ定ムヘキ期日ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ前記區域ニ委員會ヲ設置シタル時ヨリ六月以後十八月以前ナルコトヲ要ス

投票權ハ男女ノ別ナク左記ニ該當スル一切ノ者ニ之ヲ付與ス

（イ）人民一般投票施行ノ年ノ一月一日ニ於テ滿二十歲以上ニシテ

（ロ）人民一般投票區域内ニ出生シタル者、千九百十九年一月一日前ニ於テ委員會ノ決定スヘキ日以來同區域内ニ住所ヲ有スル者又ハ獨逸國官憲ニ依リ追放セラレ右地域ニ住所ヲ有セサル者

政治犯罪ニ付有罪ノ宣告ヲ受ケタル者モ其ノ投票權ヲ行使スルコトヲ得

投票ハ各自ノ住所ヲ有スル市町村ニ於テ、投票區域内ニ住所ヲ有セサル者ニ在リテハ其ノ出生シタル市町村ニ於テ之ヲ行フヘシ

投票ノ結果ハ市町村毎ニ各其ノ投票ノ多數ニ依リ之ヲ決定スヘシ

五

投票終了シタルトキハ委員會ハ主タル同盟及聯合國ニ對シ各市町村ニ於ケル投票數ヲ通告スルト共ニ投票施行ニ關スル詳細ナル報告及上部「シレジア」ニ於テ獨逸國ノ國境トシテ採用スヘキ境界線ニ關スル意見ヲ提出スヘシ右意見ノ中ニ於テハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望竝該地方ノ地理上及經濟上ノ事情ヲ考慮スヘシ

六

主タル同盟及聯合國ニ於テ國境ヲ確定シタル時ハ國際委員會ハ直ニ獨逸國官憲ニ對シ獨逸國領タルヘシト認メラレタル地域ノ施政ノ引繼ヲ受クルコトヲ得ヘキ旨通牒スヘシ該官憲ハ右通牒後一月以内ニ委員會ノ指定スル方法ニ依リ之カ引繼ヲ受クルコトニ著手スルコトヲ要ス

波蘭國政府ハ同期間内ニ委員會ノ指定シタル方法ヲ以テ波蘭國領タルヘシト認メラレタル地域ノ施政ノ引繼ヲ受クルコトニ著手スルコトヲ要ス

委員會ノ權能ハ獨逸國及波蘭國ノ官憲カ各當該地域ノ施政ニ任スル時ヲ以テ終了ス

占領軍ノ費用及委員會ノ經費ハ其ノ職務執行ノ爲ナルト當該地域ノ施政ノ爲ナルトヲ問ハス同區域ノ負擔トス

第八十九條

波蘭國ハ東普魯西ト獨逸國ノ他ノ地域トノ間ニ運送セラルル人、貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ニ對シ波蘭國領土（領水ヲ含ム）通過ノ自由ヲ許與シ且便宜、制限其ノ他一切ノ事項ニ付少クトモ波蘭國又ハ之ヨリ有利ナル待遇ヲ受クル國ノ國民及此等ノ國ヲ原產地、輸入地若ハ出發地ト爲シ又ハ此等ノ國ノ國民ノ所有ニ屬スル貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ト同等ノ待遇ヲ爲スヘキコトヲ約ス

通過中ノ貨物ハ一切ノ關税其ノ他之ニ類スル税ヲ免除セラルヘシ

通過ノ自由ハ第九十八條ニ揭クル條約ヲ以テ定メタル條件ノ下ニ電信及電話ニ及フヘシ

第九十條

波蘭國ハ本條約ニ依リ同國ニ讓渡サレタル上部「シレジア」ノ鑛產物ノ獨逸國ヘノ輸出ヲ十五年間許スヘキコトヲ約ス

右鑛產物ハ一切ノ輸出税其ノ他ノ課金又ハ輸出制限ヲ受クルコトナカルヘシ

波蘭國ハ波蘭國又ハ他ノ各國ノ購買者ニ同樣ノ事情ノ下ニ於テ賣却セラルル同種產物ニ對スルト同等ニ有利ナル條件ヲ以テ前記鑛產物カ獨逸國ノ購買者ニ賣却セラルルコトヲ確保スル爲必要ナル措置ヲ執ルコトニ同意ス

第九十一條

波蘭國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル獨逸國民ハ當然波蘭國國籍ヲ取得シ且其ノ獨逸國國籍ヲ喪失スヘシ

尤モ千九百八年一月一日以後ニ於テ右地域ニ居住スルニ至リタル獨逸國民又ハ其ノ子孫ハ波蘭國ノ特別ノ許可アルニ非サレハ波蘭國國籍ヲ取得スルコトナカルヘシ

波蘭國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル地域ニ定住スル十八歲以上ノ獨逸國民ハ本條約實施後二年以内ニ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ

獨逸國ニ定住スル獨逸國民タル十八歲以上ノ波蘭人ハ前同樣波蘭國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歲未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ爾後十二月以内ニ其ノ選擇シタル國ニ住所ヲ移スコトヲ得

前記ノ者ハ其ノ選擇權ノ行使前住所ヲ有シタル他ノ國ノ領土内ニ其ノ不動產ヲ保有スルノ權利ヲ有ス

各種ノ動產ハ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘク該財產ノ移動ニ關シテハ一切ノ輸出税、輸入税又

ハ課金ヲ課スルコトヲ得ス

獨逸國民タル波蘭人ニシテ外國ニ在ルモノハ當該外國ノ法令ニ何等反對ノ規定ナク且未タ該外國ノ國籍ヲ取得セサル場合ニ於テ前記期間内ニ波蘭國ノ定ムル要件ニ從ヒ波蘭國國籍ヲ取得シ且獨逸國國籍ヲ離脫スルノ權利ヲ有スヘシ

上部「シレジア」中人民一般投票ニ付シタル地域ニ於テハ本條ノ規定ハ右地域ノ所屬確定ノ時ヨリノミ其ノ效力ヲ生スヘシ

第九十二條

獨逸國及普魯西ノ財政上ノ義務ニシテ波蘭國カ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編（財政條項）第二百五十四條ニ依リ之ヲ決定スヘシ

右財政上ノ義務中前記第二百五十四條ニ規定スル賠償委員會ノ判定ニ依レハ獨逸國及普魯西ノ政府カ波蘭國ニ於ケル獨逸殖民ノ爲ニ執リタル措置ニ因リ發生シタル部分ハ波蘭國ノ分擔額ヨリ之ヲ除外スヘシ

領土ノ移轉ト共ニ波蘭國ニ引渡スヘキ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スル財產及所有物ノ價額ヲ第二百五十六條ニ依リ決定スルニ當リテハ賠償委員會ハ舊波蘭王國ニ屬シタル建物、森林其ノ他ノ國有財產ヲ該評價額ヨリ除外スヘク波蘭國ハ一切ノ費用及賦課ヲ負フコトナク此等ノ財產ヲ取得スヘシ

本條約ニ依リ讓渡サレ且確定的ニ波蘭國ノ一部ヲ爲スト認メラレタル獨逸國ノ領土ニ於ケル獨逸國民ノ財產、權利及利益ニ付テハ波蘭國政府ハ左ノ規定ニ依ルニ非サレハ第二百九十七條ノ淸算ヲ行フコトヲ得ス

一　淸算殘高ハ直接所有者ニ之ヲ支拂フヘシ

二　所有者カ第十編（經濟條項）第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所又ハ同裁判所ノ任命スル仲裁人ニ對シ波蘭國政府ノ一般法令ノ規定外ニ亘リテ執リタル措置又ハ賣却條件カ取得價格ニ付所有者ニ不當ニ損害ヲ與ヘタルモノナルコトヲ證明スルトキハ同裁判所又ハ仲裁人ハ波蘭國政府ヲシテ所有者ニ衡平ナル賠償ヲ爲サシムルノ判定ヲ與フルノ裁量ヲ有ス

前記領土ノ讓渡ヨリ生スル諸問題ニシテ本條約ニ規定セサルモノハ總テ今後ノ取極ニ依リテ之ヲ規定スヘシ

第九十三條

波蘭國ハ其ノ多數ノ住民ト人種、言語又ハ宗教ヲ異ニスル其ノ住民ノ利益ヲ保護スル爲主タル同盟及聯合國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ該諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

波蘭國ハ尙他ノ國民ニ對シ通過ノ自由ト通商ノ衡平ナル取扱トヲ保護スル爲前記諸國ニ於テ必要ト認ムル規定ヲ此等諸國トノ條約中ニ設クルコトヲ約諾ス

第九款　東普魯西

第九十四條

第二編（獨逸國ノ境界）第二十八條ニ揭クル東普魯西ノ南方境界ト左記ノ線トノ間ニ在ル地域ニ於テハ住民ヲシテ投票ニ依リ其ノ所屬ヲ希望スル國ヲ指示セシムヘシ

「アレンスタイン」縣ノ西方及北方境界ニ從ヒ「オレツコ」及「アンゲルアルグ」兩郡間ノ境界線トノ接合點ニ至リ次テ「オレツコ」郡ノ北方境界ニ從ヒ東普魯西ノ舊境界トノ接合點ニ至ル

第九十五條

獨逸國ノ軍隊及官憲ハ本條約實施後十五日以内ニ前揭地域ヨリ撤退スヘシ該撤退完了ニ至ル迄右軍隊及官憲ハ一切ノ金錢又ハ物品ノ徵發及該地方ノ經濟上ノ利益ニ害アル一切ノ處置ヲ爲スコトナカルヘシ

前記ノ期間滿了シタルトキハ右地域ハ之ヲ主タル同盟及聯合國ノ任命シタル五名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置クヘシ該委員會ハ施政上ノ一般權能ヲ有シ殊ニ投票ノ準備ヲ爲スノ任務及其ノ自由、公正及祕密ヲ確保スルニ必要ト認ムル措置ヲ執ルノ任務ヲ負ヒ尙此等規定ノ施行ニ因リテ生スヘキ各問題ヲ決定スルニ必要ナル一切ノ權限ヲ有ス委員會ハ地方住民中ヨリ其ノ選任シタル吏員ヲシテ其ノ職務ノ實行ヲ幫助セシムル爲必要ナル措置ヲ講スヘシ委員會ノ決議ハ過半數ニ依ル

左記ニ該當スル者ハ男女ノ別ナク總テ投票ノ權利ヲ有ス

（イ）本條約實施ノ日ニ於テ滿二十歲以上ニシテ且

（ロ）投票ヲ行フヘキ地域内ニ出生シタル者又ハ委員會ノ決定スヘキ日以來同地域内ニ定住シタル者

投票ハ各自ノ定住スル市町村ニ於テ、右地域内ニ定住セサル者ニ在リテハ其ノ出生シタル市町村ニ於テ之ヲ行フヘシ

投票ノ結果ハ市町村毎ニ各其ノ投票ノ過半數ニ依リ之ヲ決定スヘシ

投票終了シタルトキハ委員會ハ主タル同盟及聯合國ニ對シ各市町村ニ於ケル投票數ヲ通告スルト共ニ投票施行ニ關スル詳細ナル報告及該地方ニ於テ東普魯西ノ國境トシテ採用スヘキ境界線ニ關スル意見ヲ提出スヘシ右意見中ニハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望及該地方ノ地理上及經濟上ノ事情ヲ考慮スヘキモノトス主タル同盟及聯合國ハ乃チ此ノ地方ニ於ケル東普魯西及波蘭國間ノ國境ヲ確定スヘシ

主タル同盟及聯合國ニ依リ確定セラレタル境界線ニシテ第九十四條ニ揭クル地域ノ一部分ヲ東普魯西ヨリ除外スルモノナルトキハ獨逸國カ第八十七條ノ規定ニ依リ波蘭國ノ爲ニスル權利抛棄ハ右除外セラレタル地方ニ及フヘシ

主タル同盟及聯合國ニ於テ境界線ヲ確定シタルトキハ國際委員會ハ直ニ東普魯西ノ施政ニ任スヘキ官憲ニ對シ該境界線ノ北方ニ當ル地域ノ施政ヲ引繼クコトヲ得ヘキ旨通牒スヘシ該官憲ハ右通牒後一月以内ニ委員會ノ指定スル方法ニ依リ之カ引繼ニ著手スヘシ波蘭國政府ハ同期間内ニ委員會ノ指定ニ從ヒ同境界線ノ南方ニ當ル地域ノ施政ノ引繼ニ著手スルコトヲ要ス委員會ノ權能ハ東普魯西及波蘭國ノ官憲カ各自當該地域ノ施政ニ任スル時ヲ以テ終了ス

委員會ノ經費ハ其ノ職務執行ノ爲ナルト當該地域ノ施政ノ爲ナルトヲ問ハス該地方ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス東普魯西ハ主タル同盟及聯合國カ決定スヘキ不足金ノ割當額ヲ負擔スヘシ

第九十六條

「ストゥーム」及「ローゼンベルグ」兩郡、「ノカット」河ノ東ニ在ル「マリエンアルグ」郡ノ一部竝「ヴィスチュラ」河東方ノ「マリエンウェルデル」郡ノ一部ヲ包含スル地域ニ於テハ住民ヲシテ市町村毎ニ施行セラルヘキ投票ニ依リ該地域ノ各市町村カ波蘭國又ハ東普魯西ノ何レニ屬スルコトヲ希望スルカヲ表示セシムヘシ

第九十七條

獨逸國ノ軍隊及官憲ハ本條約實施後十五日以内ニ第九十六條ニ揭クル地域ヨリ撤退スヘシ該撤退完了ニ至ル迄右軍隊及官憲ハ一切ノ金錢又ハ物品ノ徵發及該地方ノ經濟上ノ利益ニ害アル一切ノ處置ヲ爲スコトナカルヘシ

前記ノ期間滿了シタルトキハ右地域ハ之ヲ主タル同盟及聯合國ノ任命シタル五名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置クヘシ該委員會ハ必要ノ場合ニ於テハ所要兵力ノ支持ヲ受クヘク施政上ノ一般權能ヲ有シ殊ニ投票ノ準備ヲ爲スノ任務及其ノ自由、公正及祕密ヲ確保スルニ必要ト認ムル措置ヲ執ルノ任務ヲ負フヘシ委員會ハ能フ限リ「アレンスタイン」地方ニ於ケル人民一般投票ニ關スル本條約ノ規定ニ從フヘシ委員會ノ決議ハ過半數ニ依ル

投票終了シタルトキハ委員會ハ主タル同盟及聯合國ニ對シ市町村ニ於ケル投票數ヲ通告スルト共ニ投票ノ施行ニ關スル詳細ナル報告及該地方ニ於テ東普魯西ノ境界トシテ採用スヘキ境界線ニ關スル意見ヲ提出スヘシ右意見ノ中ニ於テハ投票ニ依リ表示セラレタル住民ノ希望竝該地方ノ地理上及經濟上ノ事情ヲ考慮スヘキモノトス主タル同盟及聯合國ハ乃チ此ノ地方ニ於ケル東普魯西及波蘭國間ノ境界ヲ確定スヘシ但シ如何ナル場合ニ於テモ「ヴィスチュラ」河沿岸區域全部ニ亘リ同河ニ對ス

ル完全ナル管理權ヲ波蘭國ニ保有セシムヘク該管理權ハ「ヴィスチュラ」河ノ取締及改良ニ必要ナル範圍ニ於テ其ノ東岸一帶ニ及フヘシ

獨逸國ハ引續キ獨逸領タル前記地域中ノ何レノ部分ニ於テモ又如何ナル時ニ於テモ築城ヲ構設セサルコトヲ約ス

主タル同盟及聯合國ハ之ト同時ニ東普魯西ノ人民ニ對シ充分ニ且衡平ナル條件ノ下ニ該人民竝其ノ通商及船舶ノ爲「ヴィスチュラ」河ニ往來シ及之ヲ使用スルコトヲ確保スヘキ規則ヲ設クヘシ

國境ノ確定及前記ノ規則ハ一切ノ當事國ヲ拘束ス

委員會ノ權能ハ東普魯西及波蘭國ノ官憲カ各自當該地域ノ施政ニ任スル時ヲ以テ終了ス

第九十八條

獨逸國及波蘭國ハ本條約實施後一年以内ニ一方ニ於テハ獨逸國ニ對シ東普魯西ト獨逸國ノ他ノ地域トノ間ノ交通ノ爲其ノ間ニ介在スル波蘭國領土ニ於テ充分且適當ナル鐵道、電信及電話ノ便益ヲ確保シ又他方ニ於テハ波蘭國ニ對シ波蘭國ト「ダンチッヒ」自由市トノ間ノ交通ノ爲「ヴィスチュラ」河ノ右岸ニ於テ波蘭國ト「ダンチッヒ」自由市トノ間ニ介在スルコトアルヘキ獨逸國ノ領土ニ於テ充分且適當ナル鐵道、電信及電話ノ便益ヲ確保スルノ目的ヲ以テ條約ヲ締結スヘク且其ノ條項ニ關シ爭議アルトキハ國際聯盟理事會ヲシテ之ヲ決定セシムヘキコトヲ約ス

第十款　「メーメル」

第九十九條

獨逸國ハ波羅的海、第二編（獨逸國ノ境界）第二十八條ニ定メタル東普魯西ノ北東方國境及獨逸露西亞兩國間ノ舊國境ヲ以テ包括シタル地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

獨逸國ハ右地域ニ關シ殊ニ其ノ住民ノ國籍ニ付主タル同盟及聯合國ノ爲シタル決定ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第十一款　「ダンチッヒ」自由市

第百條

獨逸國ハ左記境界内ノ地域ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

波羅的海ヨリ南方ニ進ミ「ノガット」河及「ヴィスチュラ」河（「ワイクセル」河）主要航行水道ノ會ハ點ニ至ルノ間

第二編（獨逸國ノ境界）第二十八條ニ規定スル東普魯西ノ境界ニ依ル

次テ「ヴィスチュラ」河主要航行水道ヲ下リ「アイルシャウ」橋ノ北方約六吉米半ノ地點ニ至ル

次テ北西方ニ向ヒ「ギュットランド」教會堂ノ南東方一吉米半標高五ノ地點ニ至ルノ間

實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ略西方ニ向ヒ「シェーネック」ノ北東方八吉米半ニ於ケル「ベーレント」郡境界ノ凸出部ニ至ルノ間

「ミュールバンツ」ノ北方、「ラムベルチュ」ノ南方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ベーレント」郡ノ境界ヲ西方ニ進ミ「シェーネック」ノ北北西方六吉米ノ凹入部ニ至ル

次テ「ロンケネル、セー」ノ中央線上ノ一點ニ至ルノ間

「ノイ、フィーツ」及「シャタルヒ」ノ北方、「バーレンヒュッテ」及「ロンケン」ノ南方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ロンケネル、セー」ノ中央線ニ從ヒ其ノ北端ニ至ル

次テ「ボレンチーネル、セー」ノ南端ニ至ルノ間

實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ「ボレンチーネル、セー」ノ中央線ニ從ヒ其ノ北端ニ至ル

次テ北東方ニ向ヒ「コリープケン」教會堂ノ南方約一吉米ニ於ケル「ダンチッヒ」―「ノイスタット」鐵道カ小河ヲ横斷スル地點ニ至ルノ間

「カメーレン」、「クリッサウ」、「フィドリン」、「ズルミン」（「リヒトホーフ」）、「マッテルン」、「シエーフェライ」ノ南東方ヲ過キ「ノイエンドルフ」、「マルシャウ」、「ツアヒールケン」、「ホッホ、ケルビン」、「クライン、ケルビン」、「プルフェルミュール」、「レンネベルグ」及「オリヴァ」、「ツォポット」兩市街ノ北西方ヲ過ルモノトシ實査ノ上境界線ヲ定ム

次テ前記小河ノ河流ニ從ヒ波羅的海ニ至ル

本條ノ境界ハ本條約附屬十萬分一獨逸地圖（地圖第三號）ニ之ヲ表示ス

第百一條

市町村ノ現在ノ境界ヲ能フ限リ參酌シテ實査ノ上前記地域ノ境界ヲ劃定セムカ爲本條約實施後十五日以内ニ委員會ヲ設置スヘシ該委員會ハ主タル同盟及聯合國ノ任命スル三名（委員長タル高級委員ヲ含ム）、獨逸國及波蘭國ノ任命スル各一名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第百二條

主タル同盟及聯合國ハ「ダンチッヒ」市ヲ第百條ニ揭クル爾餘ノ地域ト共ニ自由市ト爲スコトヲ約ス右自由市ハ國際聯盟ノ保護ノ下ニ置カルヘシ

第百三條

「ダンチッヒ」自由市ノ憲法ハ該自由市ノ正當ニ任命スル代表者ニ於テ國際聯盟ノ任命スル高級委員ト協議ノ上之ヲ起草スヘシ該憲法ハ國際聯盟之ヲ保障スヘシ

高級委員ハ本條約又ハ之ニ基ク協定若ハ取極ニ關シ波蘭國ト「ダンチッヒ」自由市トノ間ニ發生スル一切ノ紛議ヲ第一次ニ處理スルノ任務ヲ付託セラルヘシ

高級委員ハ「ダンチッヒ」ニ駐在スヘシ

第百四條

主タル同盟及聯合國ハ波蘭國政府ト「ダンチッヒ」自由市トノ間ニ同自由市ノ設立ト同時ニ實施スヘキ左ノ目的ヲ有スル條約ノ商議ヲ爲スコトヲ約ス

一　「ダンチッヒ」自由市ヲ波蘭國關稅地域ニ編入シ且同港ニ一ノ自由地域ヲ設定スルコト

二　自由市地域内ニ存スル波蘭國ノ輸出入品ノ爲必要ナル一切ノ水路、船渠、泊船渠、埠頭其ノ他ノ工作物ノ自由使用ヲ波蘭國ニ對シ何等ノ制限ナク保障スルコト

三　波蘭國ニ對シ「ヴィスチュラ」河及右自由市内ニ在ル鐵道系全部竝「ダンチッヒ」波蘭國間ノ郵便、電信及電話ノ管理經營權ヲ保障スルコト但シ主トシテ同自由市ノ用ニ供セラルル市街鐵道其ノ他ノ鐵道ハ此ノ限ニ在ラス

四　波蘭國ニ對シ水路、船渠、泊船渠、埠頭、鐵道其ノ他本條ニ揭クル工作物及交通機關ヲ改良シ發達セシムルノ權利竝右目的ノ爲必要ナル土地其ノ他ノ財産ヲ適當ナル手續ニ依リ賃借又ハ買收スルノ權利ヲ保障スルコト

五　「ダンチッヒ」自由市内ニ於テ波蘭國人民及波蘭系ニ屬シ又ハ波蘭語ヲ用ヰル人民ニ不利益ナル差別待遇ヲ爲サヽル規定ヲ設クルコト

六　波蘭國政府ヲシテ「ダンチッヒ」自由市ノ外交關係ヲ處理シ且外國ニ在ル該市人民ノ外交上ノ保護ニ當ラシムルノ規定ヲ設クルコト

第百五條

第百條ニ揭クル地域内ニ定住スル獨逸國民ハ本條約實施ト同時ニ「ダンチッヒ」自由市ノ人民ト爲ル爲當然獨逸國國籍ヲ離脫スヘシ

第百六條

第百條ニ揭クル地域内ニ定住スル十八歲以上ノ獨逸國民ハ本條約實施後二年内ニ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有ス

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歲未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ總テ爾後十二月以内ニ獨逸國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス

右選擇權行使者ハ「ダンチッヒ」自由市地域内ニ其ノ不動産ヲ保有スルノ權利ヲ有ス其ノ各種ノ動産ハ之ヲ携帶スルコトヲ得右ニ關シテハ輸出稅又ハ輸入稅ヲ課スヘカラス

第百七條

「ダンチッヒ」自由市ノ地域内ニ存スル一切ノ財産ニシテ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スルモノハ主タル同盟及聯合國ノ衡平ナリト思惟スル所ニ從ヒ「ダンチッヒ」自由市又ハ波蘭國ニ之ヲ引渡ス爲右同盟及聯合國ニ移轉ス

第百八條

獨逸國及普魯西ノ財政上ノ義務ニシテ「ダンチッヒ」自由市カ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編（財政條項）第二百五十四條ノ規定ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第百條ニ揭クル領土ノ讓渡ヨリ生スル他ノ一切ノ問題ハ今後ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第十二款　「シュレスウィヒ」

第百九條

獨逸丁抹兩國間ノ國境ハ住民ノ希望ニ從ヒ之ヲ決定ス

此ノ目的ノ爲東方ヨリ西方ニ向ヒ劃シタル左記ノ線（本條約附屬地圖第四號ノ褐色線）ノ北方ニ位スル舊獨逸帝國版圖内ノ住民ヲシテ本條第一號乃至第四號ノ條件ノ下ニ行フヘキ投票ニ依リ其ノ希望ヲ表示セシムヘシ

「フレンスブルグ」ノ東北東方約十三吉米ニ於テ波羅的海ヲ離レ

南西方ニ走リ「シゲム」、「リングスベルグ」、「ムンクブラルップ」、「アデルビー」、「タストルップ」、「ヤルプルンド」、「オーヴェルセー」ノ南東方及「ランゲバリックホルツ」、「ランゲバリック」、「ベンストルップ」、「リュルシャウ」、「ウェセビー」、「クラインウォルストルップ」、「グロース、ゾルト」ノ北西方ヲ過キ

次テ西方ニ向ヒ「フレールップ」ノ南方、「ヴァンデルップ」ノ北方ヲ過キ

次テ南西方ニ進ミ「オッタスルンド」、「スティーゲルンド」及「オステナウ」ノ南東方及「ワンデルップ」―「コルンド」街道上ニ在ル諸村ノ北西方ヲ過キ

次テ北西方ニ向ヒ「レーヴェンステット」、「ヨルデルンド」、「ゴルデルンド」ノ南西方及「コルケルハイデ」、「ヘーゲル」ノ北東方ヲ過キ「ゾホルム」ノ東方約一吉米、「ゾホルメル、アウ」ト「トンデルン」郡ノ南境トノ會合點ニ於ケル「ゾホルメル、アウ」ノ彎曲部ニ至リ

次テ該境界ヲ進ミ北海ニ至リ

次テ「フォール」、「アムルム」兩島ノ南方及「オランド」、「ランゲネス」兩島ノ北方ヲ過ク

一　獨逸國軍隊及官憲（州知事、縣知事、郡長、警察區長、市長ヲ含ム）ハ本條約實施後十日以内ニ前記境界線ノ北ニ位スル地帶ヨリ撤退スヘシ

右地帶内ニ設立セラレタル勞兵會ハ同期間内ニ解散スヘシ該會員ニシテ他ノ地方ニ出生シ且本條約實施ノ際其ノ職務ヲ行フ者又ハ千九百十九年三月一日以後其ノ職務ヲ去リタル者ハ共ニ右地帶ヨリ撤退セシムヘシ

前記地帶ハ直ニ之ヲ五名ノ委員ヨリ成ル國際委員會ノ權限ノ下ニ置クヘシ該委員ノ中三名ハ主タル同盟及聯合國之ヲ任命シ諾威國政府及瑞典國政府ニ對シ其ノ各一名ノ任命ヲ委囑スヘシ右兩國政府任命ヲ爲サヽルトキハ右二名ノ委員ハ主タル同盟及聯合國之ヲ選任ス

右委員會ハ施政上ノ一般權能ヲ有シ必要ノ場合ニ於テハ所要兵力ノ援助ヲ受クヘシ殊ニ委員會ハ撤退シタル獨逸國官憲ノ地位ヲ充ス爲直ニ措置ヲ講シ且必要アルトキハ自ラ獨逸國官憲ニ撤退ヲ命シ及必要ナル地方官憲ノ地位ヲ充スヘシ委員會ハ投票ノ自由公正及祕密ヲ確保スル爲其ノ適當ト認ムル一切ノ手段ヲ執ルヘシ委員會ハ地方人民中ヨリ選任シタル獨逸人及丁抹人ノ專門事項顧問ヲ其ノ補佐トスヘシ委員會ノ決議ハ過半數ニ依ル

委員會ノ經費及人民一般投票ニ要シタル經費ハ獨逸國其ノ半額ヲ支拂フヘシ

二　投票ノ權利ハ男女ノ別ナク左記ニ該當スル一切ノ者ニ之ヲ付與ス

（イ）本條約實施ノ日ニ於テ滿二十歲以上ニシテ且

（ロ）人民一般投票ヲ行フ地帶ニ出生シタル者、千九百年一月一日前ヨリ該地帶内ニ住所ヲ有スル者又ハ獨逸國官憲ニ依リ追放セラレ該地帶内ニ住所ヲ有セサル者

各人ハ其ノ住所地又ハ出生地タル市町村ニ於テ投票ヲ行フヘシ

人民一般投票ヲ行フ「シュレスウィヒ」ノ地帶ニ出生シタル獨逸國陸軍ノ軍人、將校又ハ下士卒ハ其ノ鄕里ニ於ケル投票ニ參加スル爲歸鄕スルノ機會ヲ與ヘラルヘシ

三　撤退地帶中東方ヨリ西方ニ向ヒ劃シタル左記ノ線（本條約附屬地圖第四號ノ赤線）ノ北方ニ位スル區域内ニ於ケル前記ノ投票ハ獨逸國ノ軍隊及官憲カ該地方ヲ撤退シタル後三週間以内ニ之ヲ行フヘシ

「アルセン」島ノ南方ヲ過キ「フレンスブルグ、フィヨールド」ノ中央線ヲ進ミ

次テ「フレンスブルグ」ノ北方約六吉米ニ於テ「フィヨールド」ヲ離レ「クップフェルミューレ」ヲ過ル小河ノ河流ヲ溯リ「ニーフース」ノ北方ノ地點ニ至リ

次テ「パットブルグ」、「エルンド」ノ北方及「フレスレー」ノ南方ヲ過キ「トンデルン」郡ノ東境ト舊「スロッゲス」及「クェール」管轄區域（「スロッゲス、ヘレッド」及「クェール、ヘレッド」）間ノ境界トノ接合點ニ至ル

次テ前記舊管轄區域間ノ境界ヲ進ミ其ノ「シャイテベック」河ト會合スル所ニ至リ

次テ「シャイテベック」（「アルテ、アウ」）、「シューアル、アウ」及「ウィード、アウ」ノ河流ニ從ヒ「ルッテビュル」ノ西方約千五百米ニ於テ「ウィード、アウ」ノ河流カ北方ニ彎曲スル地點ニ至リ

次テ西北西方ニ向ヒ「ジールトフト」ノ北方ニ於テ北海ニ至リ

次テ「ジルト」島ノ北方ヲ過ク

投票ノ結果ハ右區域ノ全部ニ於テ行ヒタル投票ノ過半數ヲ以テ決スヘシ此ノ結果ハ委員會直ニ之ヲ主タル同盟及聯合國ニ通告シ且公表スヘシ

投票ノ結果右地域ヲ再ヒ丁抹王國ニ合併スルヲ可トスルニ至リタルトキハ丁抹國政府ハ委員會ノ同意ヲ經テ前記公表ノ後直ニ其ノ軍隊及行政官憲ヲ以テ之カ占領ヲ行フノ權利ヲ有ス

四　撤退地帶中前號ノ區域ノ南方、「フレンスブルグ」ヨリ十三吉米ニ於テ波羅的海ヲ離レ「オランド」、「ランゲネス」兩島ノ北方ニ至ル線ノ北方ニ位スル區域ニ於ケル人民一般投票ハ第一區域ニ於ケル投票ノ後五週間以内ニ於テ之ヲ行フヘシ

投票ノ結果ハ市町村毎ニ各其ノ投票ノ過半數ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第百十條

實査劃定ニ至ル迄國境線ハ投票ノ結果ニ基キ且國際委員會ニ依リ提議セラレタル境界線ニ依リ更ニ當該地方ノ地理上及經濟上ノ特殊ノ事情ヲ參酌シテ主タル同盟及聯合國之ヲ決定ス

右決定ノ後ハ丁抹國政府ハ其ノ文武官憲ヲ以テ前記地域ノ占領ヲ行フコトヲ得又獨逸國政府ハ曩ニ撤退シタル獨逸國ノ文武官憲ヲ前記國境線迄復歸セシムルコトヲ得

獨逸國ハ右ノ規定ニ依リ決定セラレタル國境線ノ北方ニ在ル地域ニ對スル主權ノ全部ヲ茲ニ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ確實ニ拋棄ス主タル同盟及聯合國ハ該地域ヲ丁抹國ニ引渡スヘキモノトス

第百十一條

國境線ノ實査劃定ノ爲投票ノ最終結果判明ノ日ヨリ十五日以内ニ七人ノ委員ヨリ成ル委員會ヲ組織スヘシ該委員ノ中五名ハ主タル同盟及聯合國、一名ハ丁抹國、他ノ一名ハ獨逸國之ヲ指名スヘシ

右委員會ノ決議ハ過半數ニ依リ且當事國ヲ拘束スヘシ

第百十二條

丁抹國ニ還付セラレタル地域ノ住民ハ總テ當然丁抹國國籍ヲ取得シ且獨逸國國籍ヲ喪失スヘシ

尤モ千九百十八年十月一日以後右地域内ニ定住スルニ至リタル者ハ丁抹國政府ノ許可ヲ得ルニ非サレハ丁抹國國籍ヲ取得スルコトヲ得ス

第百十三條

人民一般投票ヲ行ヒタル「シュレスウィヒ」地域ノ全部又ハ一部ニ對スル主權カ丁抹國ニ復歸シタル日ヨリ二年以内ニ

丁抹國ニ復歸シタル地域ニ出生シ該地方ニ定住セス且獨逸國國籍ヲ有スル十八歲以上ノ者ハ丁抹國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有ス

丁抹國ニ復歸シタル地域ニ定住スル十八歲以上ノ者ハ獨逸國國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有ス

夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歲未滿ノ子ニ及フ

右選擇權ヲ行使シタル者ハ總テ爾後十二月以内ニ其ノ選擇シタル國ニ住所ヲ移スコトヲ要ス

右選擇權行使者ハ選擇權行使前ニ定住シタル他ノ國ノ領土内ニ其ノ不動產ヲ保有スルノ權利ヲ有ス其ノ各種ノ動產ハ之ヲ携帶スルコトヲ得右財產ノ移動ニ關シテハ一切ノ輸出稅又ハ輸入稅ヲ課スルコトヲ得ス

第百十四條

獨逸國及普魯西ノ財政上其ノ他ノ義務ニシテ丁抹國カ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編（財政條項）第二百五十四條ノ規定ニ依リ之ヲ決定スヘシ

丁抹國カ千八百六十四年十月三十日ノ條約ニ依リ奪取セラレタル地域ノ全部又ハ一部ヲ丁抹國ニ引渡ス結果生スヘキ他ノ諸問題ハ今後ノ取極ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第十三款　「ヘリゴランド」

第百十五條

「ヘリゴランド」島及「デューネ」島ノ築城、軍事建設物及港ハ主タル同盟國政府ノ監視ノ下ニ其ノ定ムル期間内ニ獨逸國ノ勞力ニ依リ且獨逸國ノ費用ヲ以テ之ヲ破壞スヘシ

「港」ナル語ニハ東北突堤、西岸壁、内外防波堤及其ノ内方ニ在ル埋立地竝千九百十八年四月十九日ノ英國海軍省海圖第百二十六號ニ揭クル左ノ諸點ヲ連結スル諸線ノ間ニ在ル構設濟又ハ構設中ノ一切ノ海陸軍用ノ工作物、築城及建物ヲ包含スヘシ

（イ）北緯五十四度十分四十九秒　東經七度五十三分三十九秒
（ロ）北緯五十四度十分三十五秒　東經七度五十四分十八秒
（ハ）北緯五十四度十分十四秒　東經七度五十分
（ニ）北緯五十四度十分十七秒　東經七度五十三分三十七秒
（ホ）北緯五十四度十分四十四秒　東經七度五十三分二十六秒

前記ノ築城、軍事建設物及港ハ之ヲ再構設スヘカラス又將來何等之ニ類スル工作物ヲ構設スヘカラス

第十四款　露西亞及露西亞諸國

第百十六條

獨逸國ハ千九百十四年八月一日ニ於テ前露西亞帝國ノ一部タリシ一切ノ地域ノ獨立ヲ永久不變ノモノトシテ承認シ且之ヲ尊重スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ第九編（財政條項）第二百五十九條及第十編（經濟條項）第二百九十二條ノ規定ニ從ヒ「ブレスト、リトウスク」條約竝其ノ露西亞過激派政府ト締結シタル一切ノ條約及取極ノ失效ヲ確認ス

同盟及聯合國ハ露西亞國カ本條約ノ原則ニ基ク回復及賠償ヲ獨逸國ヨリ取得スルノ權利ヲ明確ニ留保ス

第百十七條

獨逸國ハ同盟及聯合國カ千九百十四年八月一日ニ於テ前露西亞帝國ノ全部又ハ一部ニ於テ現ニ存シ又ハ將來成立スル諸國ト締結スヘキ一切ノ條約又ハ取極ノ完全ナル效力ヲ承認シ且右條約又ハ取極中ニ決定スル此等諸國ノ國境ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第四編　獨逸國外ニ於ケル獨逸國ノ權利及利益

第百十八條

獨逸國ハ本條約ニ定メタル其ノ歐羅巴ニ於ケル國境外ノ地域ニ於テ自國又ハ其ノ同盟國ノ領土内ニ又ハ該領土ニ關シテ有スル一切ノ權利、權原及特權發生事由ノ如何ヲ問ハス同盟及聯合國ニ對シテ有スル一切ノ權利、權原及特權ヲ拋棄ス

獨逸國ハ前項ノ規定實行ノ爲主タル同盟及聯合國カ必要ナル場合ニハ第三國ト協議シテ現在又ハ將來ニ於テ執ルコトアルヘキ措置ヲ承認シ且之ニ遵由スルコトヲ玆ニ約ス

獨逸國ハ殊ニ特定事項ニ關スル左ノ各條ヲ受諾スルコトヲ聲明ス

第一款　獨逸國殖民地

第百十九條

獨逸國ハ其ノ海外屬地ニ關スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

第百二十條

前記地域ニ於ケル一切ノ動產及不動產ニシテ獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スルモノハ總テ第九編（財政條項）第二百五十七條ニ規定スル條件ニ從ヒ該地域ニ對シ權限ヲ行使スル政府ニ歸屬スヘシ右財產ノ性質ニ關スル爭議ニ付テハ該地方ノ裁判所ノ判決ヲ以テ確定ト爲スヘシ

第百二十一條

第十編（經濟條項）第一款及第四款ノ規定ハ前記地域ニ對スル施政ノ形式如何ニ拘ラス該地域ニ付之ヲ適用スヘシ

第百二十二條

前記地域ニ對シ權限ヲ行使スル政府ハ該地域内ニ在ル獨逸國民ノ送還ニ關シ及歐羅巴系獨逸國臣民ノ該地域ニ於ケル居住、財產保有、營業又ハ職業ヲ許可シ又ハ禁止スルノ條件ニ關シ其ノ適當ト認ムル處置ヲ執ルコトヲ得

第百二十三條

第九編（財政條項）第二百六十條ノ規定ハ獨逸國海外屬地ニ於ケル公共工事ノ實行又ハ經營ノ爲獨逸國民ト締結シタル一切ノ取極及該取極ニ基キ獨逸國民ニ許與シ又ハ之ト締結シタル下請負又ハ契約ニ之ヲ適用スヘシ

第百二十四條

獨逸國ハ佛蘭西國政府カ提出シテ賠償委員會ノ承認ヲ受クヘキ見積ニ從ヒ佛蘭西國民カ千九百年一月一日ヨリ千九百十四年八月一日ニ至ル期間ニ「カメルーン」又ハ其ノ國境地帶ニ於テ獨逸國文武官憲及獨逸國私人ノ行爲ニ因リ受ケタル損害ノ賠償ヲ支拂フコトヲ玆ニ約ス

第百二十五條

獨逸國ハ赤道地帶阿弗利加ニ關スル千九百十一年十一月四日及千九百十二年九月二十八日ノ佛蘭西國トノ條約及取極ニ基ク一切ノ權利ヲ拋棄ス獨逸國ハ佛蘭西國政府カ提出シテ賠償委員會ノ承認ヲ受クヘキ見積ニ從ヒ右條約及取極ニ依リ獨逸國ノ爲ニ爲シタル一切ノ保證金、貸金、前貸金等ヲ佛蘭西國政府ニ支拂フコトヲ約ス

第百二十六條

獨逸國ハ武器及火酒ノ取引ニ關シ竝千八百八十五年二月二十六日ノ伯林一般議定書、千八百九十年七月二日ノ「ブリュッセル」一般議定書及之ヲ補足シ又ハ變更スル條約ニ規定スル事項ニ關シ同盟及聯合國又ハ其ノ數國ト他國トノ間ニ締結シタル又ハ締結スルコトアルヘキ取極ヲ受諾シ且遵守スルコトヲ約ス

第百二十七條

舊獨逸國海外屬地ノ土人ハ該地域ニ對シ權限ヲ行使スル政府ノ外交上ノ保護ヲ受クルノ權利ヲ有スヘシ

第二款　支那國

第百二十八條

獨逸國ハ千九百一年九月七日北京ニ於テ署名シタル最終議定書ノ規定竝之ヲ補足スル一切ノ附屬書、公文及文書ヨリ生スル利益及特權ヲ總テ支那國ノ爲ニ拋棄ス獨逸國ハ又該議定書ニ基ク千九百十七年三月十四日以後ノ償金請求權ヲ支那國ノ爲ニ拋棄ス

第百二十九條

締約國ハ本條約實施後各自國ノ關スル限リ左ノ協定ヲ適用スヘシ

一　支那新關稅率ニ關スル千九百二年八月二十九日ノ協定

二　黃浦江ニ關スル千九百五年九月二十七日ノ協定及千九百十二年四月四日ノ追加假協定

但シ支那國ハ前記協定ニ依リ獨逸國ニ許與シタル利益又ハ特權ヲ今後獨逸國ニ認ムルノ義務ナシ

第百三十條

獨逸國ハ天津及漢口ニ在ル獨逸專管居留地其ノ他支那國領土内ニ存在シ又ハ存在スルコトアルヘキ獨逸國政府所屬ノ一切ノ建築物、埠頭及躉船、兵營、堡壘、兵器及軍需品、各種艦船、無線電信設備其ノ他ノ公財產ヲ支那國ニ讓渡ス但シ本編第八款ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

外交官又ハ領事官ノ住宅又ハ事務所ニ使用シタル土地建物ハ之ヲ前記讓渡物件中ニ包含セス又支那國政府ハ千九百一年九月七日ノ最終議定書ノ本條約實施當時ノ當事國タル列國ノ外交代表者ノ同意アルニ非サレハ所謂北京公使館區域内ニ在ル獨逸ノ公私財產ノ處分ニ付何等ノ處置ヲ執ルコトヲ得ス

第百三十一條

獨逸國ハ千九百年千九百一年ニ於テ其ノ軍隊カ支那國ヨリ撤去シタル天文機械ノ全部ヲ本條約實施後十二月以内ニ支那國ニ還付シ且該機械ノ取外、荷造、運搬、保險及北京ニ於ケル据附等該機械ノ還付實行ノ爲要スヘキ一切ノ費用ヲ支辨スルコトヲ約ス

第百三十二條

獨逸國ハ支那國政府ヨリ取得シ漢口及天津ニ於テ獨逸專管居留地ヲ現ニ保有スルノ基礎タル租地權ノ失效ニ同意ス

支那國ハ前記地域ニ於テ其ノ主權ノ完全ナル行使ヲ回復スルト共ニ各國人ノ居住及通商ノ爲之ヲ開放スルノ意思ヲ聲明ス尙支那國ハ前記專管居留地ヲ現ニ保有スルノ基礎タル租地權ノ失效カ其ノ專管居留地内ニ於ケル地區ノ保有者タル同盟及聯合國國民ノ財產權ニ影響ナカルヘキコトヲ聲明ス

第百三十三條

獨逸國ハ支那國ニ於ケル獨逸國民ノ抑留及送還ニ因リ生スル支那國政府又ハ同盟國若ハ聯合國政府ニ對スル一切ノ請求ヲ拋棄ス尙獨逸國ハ千九百十七年八月十四日以後支那國ニ於ケル獨逸船舶ノ拿捕及捕獲又ハ獨逸ノ財產、權利及利益ニ對スル淸算、保管若ハ管理ニ因リ生スル一切ノ請求ヲ拋棄ス但シ淸算殘高ニ對スル利害關係人ノ權利ハ第十編（經濟條項）ノ規定ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ本條ノ規定ハ其ノ權利ニ影響スルコトナカルヘシ

第百三十四條

獨逸國ハ廣東沙面ニ於ケル英吉利專管居留地内ニ在ル獨逸國有財產ヲ大不列顚國政府ノ爲ニ拋棄シ又上海ニ於ケル佛蘭西專管居留地内ニ在ル獨逸學校ノ財產ヲ佛蘭西支那兩國政府ノ爲ニ拋棄ス

第三款　暹羅國

第百三十五條

獨逸國ハ其ノ暹羅國トノ間ニ締結シタル一切ノ條約及取極竝之ニ基ク一切ノ權利、權原及特權ハ治外法權ニ關スル一切ノ權利ト共ニ千九百十七年七月二十二日以後消滅シタルコトヲ承認ス

第百三十六條

暹羅國内ニ於ケル獨逸帝國又ハ獨逸各邦所屬ノ一切ノ物件及財產ハ外交官又ハ領事官ノ住宅又ハ事務所トシテ使用スル土地建物ヲ除クノ外當然且無償ニテ暹羅國政府ニ歸屬ス

暹羅國ニ於ケル獨逸國民ノ物件、財產及私權ハ第十編（經濟條項）ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第百三十七條

獨逸國ハ獨逸船舶ノ拿捕及捕獲、獨逸財產ノ淸算又ハ暹羅國ニ於ケル獨逸國民ノ抑留ニ因リ生シタル暹羅國政府ニ對スル一切ノ請求權ヲ自國又ハ其ノ國民ノ名ニ於テ拋棄ス但シ淸算殘高ニ對スル利害關係人ノ權利ハ第十編（經濟條項）ノ規定ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ本條ノ規定ハ其ノ權利ニ影響スルコトナカルヘシ

第四款　「リベリア」國

第百三十八條

獨逸國ハ「リベリア」國ニ關スル千九百十一年及千九百十二年ノ協定ニ基ク一切ノ權利及特權ヲ、殊ニ「リベリア」國ニ於テ獨逸國人ノ關稅徵收官ヲ任命スルノ權利ヲ拋棄ス

獨逸國ハ尙「リベリア」國回復ノ爲採用セラルヘキ措置ニ干與スルノ一切ノ請求權ヲ拋棄ス

第百三十九條

獨逸國ハ獨逸國ト「リベリア」國トノ間ノ一切ノ條約及協定カ千九百十七年八月四日以後消滅シタルコトヲ承認ス

第百四十條

「リベリア」國ニ於ケル獨逸國人ノ財產、權利及利益ハ第十編（經濟條項）ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第五款　摩洛哥國

第百四十一條

獨逸國ハ千九百六年四月七日ノ「アルヘシラス」一般議定書竝千九百九年二月九日及千九百十一年十一月四日ノ佛蘭西獨逸兩國間ノ取極ニ依リ獨逸國ニ付與セラレタル一切ノ權利、權原及特權ヲ拋棄ス獨逸國カ摩洛哥帝國ト締結シタル一切ノ條約、取極、協定及契約ハ千九百十四年八月三日以後廢棄セラレタルモノト看做ス

獨逸國ハ如何ナル場合ニ於テモ前記文書ヲ援用スルコトヲ得ス又佛蘭西國ト他ノ諸國トノ間ニ生スルコトアルヘキ摩洛哥國ニ關スル商議ニ何等干涉セサルコトヲ約ス

第百四十二條

獨逸國ハ摩洛哥國ニ於ケル佛蘭西國ノ保護權ヲ承認シタルニ因リ玆ニ其ノ保護權確立ノ一切ノ結果ヲ容認シ且摩洛哥國ニ於ケル治外法權ヲ拋棄ス

右拋棄ハ千九百十四年八月三日ヨリ其ノ效力ヲ有スルモノトス

第百四十三條

摩洛哥國政府ハ摩洛哥國ニ於ケル獨逸國民ノ地位及其ノ居住營業ノ條件ヲ定ムルコトニ付行動ノ完全ナル自由ヲ有スヘシ

獨逸ノ保護民、仲買人及農業組合員ハ千九百十四年八月三日以後其ノ地位ニ伴フ特權ヲ享有セサルニ至リタルモノト看做シ普通法ノ適用ヲ受ケシムヘシ

第百四十四條

摩洛哥帝國内ニ於ケル獨逸帝國及獨逸各邦ノ一切ノ財產及所有物ハ無償ニテ摩洛哥國政府ニ歸屬ス

右條項ノ適用ニ付テハ獨逸帝國及各邦ノ財產及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財產及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財產ヲ包含スルモノト認ムヘシ

摩洛哥帝國内ニ於ケル獨逸國民所屬ノ一切ノ動產及不動產ハ第十編（經濟條項）第三款及第四款ニ依リ之ヲ處理スヘシ

摩洛哥國鑛業法令ニ依リ設置セラレタル仲裁裁判所ニ於テ獨逸國民ニ屬スト認定セラレタル鑛業權ハ仲裁人ニ委囑シ其ノ評價ヲ經タル上摩洛哥國内ニ於ケル獨逸國民所屬ノ財產ト同樣ニ之ヲ取扱フヘシ

第百四十五條

獨逸國政府ハ摩洛哥國立銀行ノ資本金中獨逸國ノ持分ニ相當スル株券ヲ佛蘭西國政府ノ指定シタル者ニ讓渡スルコトヲ確保スヘシ該株券ノ價額ハ賠償委員會ノ評定ヲ經タル上賠償金額ニ充當スル爲獨逸國ノ貸方トシテ賠償委員會ニ之ヲ支拂フヘシ獨逸國政府ハ之ニ依リ權利ヲ喪失シタル獨逸國民ニ對シ賠償ノ責ニ任スヘシ

前記讓渡ハ獨逸國民カ摩洛哥國立銀行ニ對シ負擔シタル金錢債務ノ辨濟ヲ害スルコトナクシテ行ハルヘシ

第百四十六條

獨逸國ニ輸入スル摩洛哥國ノ貨物ハ佛蘭西國ノ貨物ニ許與セラルル待遇ヲ享受スヘシ

第六款　埃及國

第百四十七條

獨逸國ハ千九百十四年十二月十八日大不列顚國カ宣言シタル埃及國ニ對スル保護權ヲ承認シ且埃及國ニ於ケル治外法權ヲ拋棄スルコトヲ聲明ス

右拋棄ハ千九百十四年八月四日ヨリ其ノ效力ヲ有ス

第百四十八條

獨逸國カ埃及國ト締結シタル一切ノ條約、取極、協定及契約ハ千九百十四年八月四日以後廢棄セラレタルモノト看做ス

獨逸國ハ如何ナル場合ニ於テモ前記文書ヲ援用スルコトヲ得ス又大不列顚國ト他ノ諸國トノ間ニ生スルコトアルヘキ埃及國ニ關スル商議ニ何等干涉セサルコトヲ約ス

第百四十九條

一般管轄權ヲ有スル裁判所ヲ設置スル埃及國裁判所構成法施行ニ至ル迄ハ埃及國王殿下ノ發布スル命令ニ依リ英國領事裁判所ニ於テ獨逸國ノ國民及財產ニ對スル裁判權ヲ行使シ得ルノ規定ヲ設クヘシ

第百五十條

埃及國政府ハ埃及國ニ於ケル獨逸國民ノ地位及其ノ居住營業ノ條件ヲ定ムルコトニ付行動ノ完全ナル自由ヲ有スヘシ

第百五十一條

獨逸國ハ埃及太守殿下カ埃及國公債委員會ニ關シ發布シタル千九百四年十一月二十八日ノ命令ヲ廢棄シ又ハ埃及國政府ノ希望スル變更ヲ同命令ニ加フルコトニ同意ス

第百五十二條

獨逸國ハ自國ノ關スル限リ蘇士運河ノ自由航行ニ付千八百八十八年十月二十九日「コンスタンティノーブル」ニ於テ署名シタル條約ニ依

リ土耳其國皇帝陛下ニ付與セラレタル權能ヲ英國政府ニ移轉スルコトニ同意ス

獨逸國ハ埃及國ノ衛生、海事及檢疫委員會ニ干與スル一切ノ權利ヲ抛棄シ又其ノ關スル限リ右委員會ノ權能ヲ埃及國官憲ニ移轉スルコトニ同意ス

第百五十三條

埃及國ニ於ケル獨逸帝國及獨逸各邦ノ一切ノ財産及所有物ハ無償ニテ埃及國政府ニ歸屬ス

右條項ノ適用ニ付テハ獨逸帝國及各邦ノ財産及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財産及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財産ヲ包含スルモノト認ムヘシ

埃及國內ニ於ケル獨逸國民所屬ノ一切ノ動産及不動産ハ第十編（經濟條項）第三款及第四款ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第百五十四條

獨逸國ニ輸入スル埃及國ノ貨物ハ英國ノ貨物ニ許與セラルル待遇ヲ享受スヘシ

第七款　土耳其國及勃爾牙利國

第百五十五條

獨逸國ハ土耳其國及勃爾牙利國ニ於テ獨逸國又ハ其ノ國民ノ請求スルコトアルヘキ一切ノ權利、利益及特權ニシテ本條約ニ其ノ規定ヲ設ケサルモノニ關シ同盟及聯合國カ土耳其國及勃爾牙利國ト爲スコトアルヘキ一切ノ協定ヲ認諾スヘキコトヲ約ス

第八款　山東

第百五十六條

獨逸國ハ千八百九十八年三月六日獨逸國ト支那國トノ間ニ締結シタル條約及山東省ニ關スル他ノ一切ノ協定ニ依リ取得シタル權利、權原及特權ノ全部殊ニ膠州灣地域、鐵道、鑛山及海底電信線ニ關スルモノヲ日本國ノ爲ニ抛棄ス

青島濟南府間ノ鐵道（其ノ支線ヲ含ミ竝各種ノ附屬財産、停車場、工場、固定物件及車輛、鑛山、鑛業用設備及材料ヲ包含ス）ニ關スル一切ノ獨逸ノ權利ハ之ニ附帶スル一切ノ權利及特權ト共ニ日本國之ヲ取得保持ス

青島上海間及青島芝罘間ノ獨逸國有海底電信線ハ之ニ附帶スル一切ノ權利、特權及財産ト共ニ無償且無條件ニテ日本國之ヲ取得ス

第百五十七條

膠州灣地域內ニ於ケル獨逸國有ノ動産及不動産竝該地域ニ關シ獨逸國カ直接又ハ間接ニ施設若ハ改良ヲ爲シ又ハ費用ヲ負擔シタル爲其ノ主張シ得ヘキ一切ノ權利ハ無償且無條件ニテ日本國之ヲ取得保持ス

第百五十八條

獨逸國ハ膠州灣地域ノ民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル記錄、登錄簿、圖面、證書其ノ他各種ノ文書ヲ其ノ所在ノ如何ニ拘ラス本條約實施後三月以內ニ日本國ニ引渡スヘシ

獨逸國ハ前二條ニ規定シタル權利、權原又ハ特權ニ關スル一切ノ條約、協定又ハ取極ニ付其ノ詳細ヲ前記期間內ニ日本國ニ通告スヘシ

第五編　陸軍海軍及航空條項

各國軍備ノ一般的制限ノ企圖ヲ實現セシムル爲獨逸國ハ左ニ揭クル陸軍海軍及航空條項ヲ嚴ニ遵守スルコトヲ約ス

第一款　陸軍條項

第一章　獨逸國陸軍ノ兵力及幹部

第百五十九條

獨逸國陸軍ハ左ニ規定スル所ニ從ヒ復員シ且縮少スヘシ

第百六十條

一　獨逸國陸軍ハ千九百二十年三月三十一日迄ニ之ヲ步兵七師團及騎兵三師團以下ト爲スコトヲ要ス

獨逸國ヲ組織スル諸邦ノ陸軍總兵員數ハ前記ノ期限以後將校及補充部隊要員ヲ合セ十萬人ヲ超ユルコトヲ得ス獨逸國陸軍ハ專ラ其ノ版圖內ノ秩序維持及國境ノ警備ニ從事スヘキモノトス

將校ノ總員數ハ其ノ編成ノ如何ヲ問ハス司令部ノ要員ヲ合セ四千人ヲ超ユルコトヲ得ス

二　師團及軍團司令部ノ編制ハ本款第一附屬表ニ依ル

前記附屬表ニ揭クル步兵、砲兵及工兵ノ部隊竝特種勤務部隊ノ數竝人員數ハ超過スヘカラサル最大限ヲ示スモノトス

左ノ部隊ハ各其ノ補充部隊ヲ有スルコトヲ得

步兵聯隊
騎兵聯隊
野戰砲兵聯隊
工兵大隊

三　師團ハ之ヲ二箇ヲ超ユル軍團司令部ノ下ニ編合スルコトヲ得ス

軍隊ノ統率又ハ戰爭準備ノ爲右ト異リテ編合セラレタル軍隊又ハ他ノ機關ヲ維持シ又ハ設クルコトヲ禁止ス

獨逸國參謀本部及之ニ類似スル一切ノ機關ハ之ヲ廢止スヘク且如何ナル形式ヲ以テスルモ再ヒ之ヲ設置スルコトヲ得ス

獨逸國各邦ノ陸軍省及其ノ附屬諸官衙ニ在ル將校又ハ之ト同一ノ地位ニ在ル者ノ員數ハ三百人ヲ超ユヘカラス尙此ノ人員ハ本條第一號第三項ニ規定スル最大限四千人ノ中ニ包含セラルルモノトス

第百六十一條

本條約規定ノ兵員中ニ包含セサル文官ヲ以テ組織スル軍政諸機關ノ人員ハ其ノ各級ニ於テ千九百十三年度豫算ニ計上シタルモノノ十分ノ一ニ之ヲ減スヘシ

第百六十二條

獨逸國各邦ニ於ケル税關吏、森林看守及海岸監視者ノ如キ官吏又ハ傭員ノ數ハ千九百十三年ノ現在數ヲ超ユヘカラス

地方又ハ市町村警察ノ憲兵及官吏又ハ傭員ノ數ハ當該地方又ハ市町村ニ於ケル千九百十三年以後ノ人口增加ニ相應スル範圍ニ限リ之ヲ增員スルコトヲ得

前記ノ官吏及傭員ハ軍事教育ノ爲之ヲ召集スルコトヲ得ス

第百六十三條

第百六十條ニ規定スル獨逸國陸軍兵力ノ縮少ハ左ノ方法ニ依リ漸次之ヲ施行スルコトヲ得

本條約實施後三月以內ニ總兵力ヲ二十萬人ニ縮少スルコトヲ要ス但シ其ノ部隊ノ數ハ第百六十條ニ規定スルモノノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間滿了ノ時及爾後每三月ノ終ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ軍事專門家ノ會議ハ次ノ三月間ニ行フヘキ縮少ノ程度ヲ決定シ以テ遲クトモ千九百二十年三月三十一日迄ニ獨逸國ノ總兵力ヲ第百六十條ニ規定スル最大限十萬人ヲ超エサルニ至ラシムルモノトス右各次ノ縮少ニ際シテハ同條ニ規定スル將校數ト下士卒數トノ比率及各種部隊間ノ比率ヲ維持スヘシ

第二章　兵器、彈藥及材料

第百六十四條

獨逸國カ國際聯盟加入ヲ許容セラルルニ至ル迄同國陸軍ハ本款第二附屬表ノ定數ヲ超ユル數ノ兵器ヲ有スルコトヲ得ス但シ專ラ臨時必要ノ補充ニ供スル爲携帶兵器ニ在リテハ二十五分ノ一、火砲ニ在リテハ五十分ノ一ヲ超エサル範圍內ニ於テ任意其ノ數ヲ增加スルコトヲ得

獨逸國ハ前記附屬表ノ兵器ノ定數カ其ノ國際聯盟ノ一國ト爲リタル後ト雖聯盟理事會ニ於テ之ヲ修正スル迄引續キ效力ヲ有スヘキコト及此ノ問題ニ關シ聯盟理事會ノ決定ヲ嚴守スヘキコトヲ約ス

第百六十五條

本條約實施ノ時ヨリ第百六十條ニ規定スル千九百二十年三月三十一日ニ至ル期間ニ於テ獨逸國カ有スルコトヲ得ヘキ火砲、機關銃、迫擊砲及小銃ノ最大數竝彈藥及裝備ノ量ト本款第三附屬表ノ定數トノ比率ハ第百六十三條ニ依リ逐次縮少セラルル獨逸國陸軍兵力ト第百六十條ニ依リ承認セラルル兵力トノ比率ニ均シカルヘシ

第百六十六條

獨逸國陸軍カ任意ニ處分シ得ヘキ彈藥ノ貯藏量ハ千九百二十年三月三十一日ニ於テ本款第三附屬表ノ定數ヲ超エルコトヲ得ス

獨逸國政府ハ右期限迄ニ前項ノ貯藏彈藥ヲ特定ノ地點ニ集積シ其ノ地點ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ通知スヘシ獨逸國政府ハ右ノ外彈藥ノ貯藏所、補給廠又ハ豫備彈藥ヲ存置スルコトヲ得ス

第百六十七條

獨逸國カ存置ヲ許サレタル築城工事、堡壘、陸地要塞及海岸要塞ノ兵備ヲ構成スル火砲ノ數及口徑ハ本條約實施ノ日ノ現在ニ依リ獨逸國政府ヨリ之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ通知スヘク且之ヲ以テ超過シ得サル最大限ト爲スヘシ

前記火砲用ノ彈藥ノ最大貯藏量ハ本條約實施後二月以內ニ之ヲ左ノ定率ニ低減シ且之ヲ持續スヘシ

口徑十珊半以下ノ火砲　一門ニ付千五百發
口徑十珊半ヲ超ユル火砲　一門ニ付五百發

第百六十八條

兵器、彈藥其ノ他ノ軍用材料ハ主タル同盟及聯合國政府ニ通告シテ其ノ承認ヲ經タル地ノ工場又ハ製造所ニ限リ之ヲ製造スルコトヲ得主タル同盟及聯合國政府ハ右工場又ハ製造所ノ數ヲ制限スルノ權利ヲ留保ス

兵器、彈藥其ノ他一切ノ軍用材料ノ製造、準備、貯藏又ハ設計ヲ目的トスル前記以外ノ設備ハ本條約實施後三月以內ニ總テ之ヲ閉鎖スヘシ承認セラレタル彈藥ノ補給廠トシテ使用スルモノヲ除クノ外一切ノ軍用工場ニ付亦同シ右軍用工場ニ使用スル人員ハ同一期間內ニ之ヲ解雇スヘシ

第百六十九條

獨逸國內ニ在ル獨逸國ノ兵器、彈藥及軍用材料（對航空機材料ヲ含ム）ニシテ承認セラレタル數量ヲ超ユルモノハ本條約實施後二月以內ニ破壞又ハ廢棄ノ爲之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡スコトヲ要ス承認セラレタル獨逸國陸軍ノ裝備ニ必要ト認メラルルモノヲ除クノ外軍用材料ノ製造ヲ目的トスル特別設備ニ付亦同シ

前項ノ引渡ハ主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル獨逸國版圖內ノ地點ニ於テ之ヲ實行スヘシ

獨逸國ノ原產ニ非サル兵器、彈藥及軍用材料（對航空機材料ヲ含ム）ハ其ノ狀態ノ如何ヲ問ハス右期間內ニ之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡スヘク同政府ハ其ノ處分ヲ決スヘシ

獨逸國陸軍兵力ノ逐次縮少ノ結果第二及第三附屬表ノ定數ヲ超過スルニ至リタル兵器、彈藥ハ第百六十三條ノ會議ニ於テ決定スル期間內ニ右同樣之ヲ引渡スコトヲ要ス

第百七十條

獨逸國ニ對スル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ輸入ハ嚴ニ之ヲ禁止ス

前項ノ規定ハ外國ノ爲ニスル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ製造及外國ニ對スル其ノ輸出ニ之ヲ適用ス

第百七十一條

窒息性、毒性其ノ他ノ瓦斯及之ニ類似スル一切ノ液體、材料又ハ考案ハ其ノ使用ヲ禁止セラレアルニ因リ獨逸國內ニ於テ之ヲ製造シ又ハ輸入スルコトヲ嚴禁ス

前項ノ規定ハ特ニ右物品又ハ考案ノ製造、貯藏及使用ヲ目的トスル材料ニ付之ヲ適用ス

裝甲車「タンク」及軍用ニ供シ得ヘキ之ニ類似スル一切ノ製品亦之カ製造及獨逸國ヘノ輸入ヲ禁止ス

第百七十二條

獨逸國政府ハ戰時中獨逸國ノ使用シ又ハ使用ノ目的ヲ以テ準備シタル一切ノ爆藥、有毒材料其ノ他類似ノ化學製品ノ性質及製造方法ヲ本條約實施後三月以內ニ主タル同盟及聯合國政府ニ開示スヘシ

第三章　募兵及軍事教育

第百七十三條

獨逸國ニ於ケル一般義務兵役制度ハ之ヲ廢止スヘシ

獨逸國陸軍ハ志願兵制度ノミニ依リ之ヲ組織シ且補充スルコトヲ得

第百七十四條

下士及兵卒ノ服役期間ハ繼續十二年タルコトヲ要ス

服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラルル下士及兵卒ノ數ハ每年第百六十條第一號第二項ノ總兵員定數ノ百分ノ五ヲ超ユヘカラス

第百七十五條

獨逸國陸軍ニ引續キ在職スル將校ハ少クトモ四十五歲迄服役スルノ義務ヲ約スルコトヲ要ス

新ニ任命セラルル將校ハ少クトモ繼續二十五年間ノ現役服務ヲ約スルコトヲ要ス

從前獨逸國陸軍ノ編成ニ屬シタル將校ニシテ存置ヲ承認セラレタル部隊ニ引續キ在職スルニ非サルモノハ學理ト實地トヲ問ハス一切ノ軍事教育ニ參加スルコトヲ得ス且何等軍事上ノ義務ヲ負擔スルコトナカルヘシ

服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラルル將校ノ數ハ每年第百六十條第一號第三項ノ將校總員定數ノ百分ノ五ヲ超ユヘカラス

第百七十六條

本條約實施後二月ノ終ニ於ケル獨逸國內陸軍學校ノ數ハ承認セラレタル部隊ノ將校ヲ補充スル爲絕對ニ必要ナルモノニ限ル右學校ハ各兵科ニ付一校ノ割合ヲ以テ專ラ其ノ兵科將校ノ補充ヲ目的トスヘキモノトス

前記學校ノ課程ヲ修ムルノ許可ヲ得タル學生ノ數ハ將校定員中ニ充足スヘキ闕員ノ數ト嚴ニ比例スルコトヲ要ス此等學生及幹部ノ數ハ第百六十條第一號第二項及第三項ノ兵員定數中ニ算入スヘキモノトス

依テ獨逸國內ニ在ル陸軍大學校又ハ之ニ類似スル機關及將校、將校候補者（アスピランテン）、幼年生徒、下士又ハ下士候補者（アスピランテン）ノ爲設置シタル各種陸軍學校ハ右ニ規定スルモノヲ除クノ外右期間內ニ總テ之ヲ廢止スヘシ

第百七十七條

教育機關、大學、在鄕軍人會、射擊協會、旅行協會其ノ他團員ノ年齡ヲ問ハス各種ノ團體ハ何等軍事上ノ事項ニ干與スヘカラサルモノトス

前項ノ團體ハ殊ニ軍事又ハ兵器ノ使用ニ付其ノ團員ヲ教育訓練シ又ハ其ノ團員ヲシテ教育訓練ヲ受ケシムルコトヲ禁止セラルヘシ

前記ノ會、團體、教育機關及大學ハ陸軍省其ノ他ノ陸軍官憲ト何等ノ關係ヲ有スルコトヲ得ス

第百七十八條

動員又ハ之ニ關スル一切ノ措置ハ之ヲ禁止ス

如何ナル場合ト雖軍隊、官衙又ハ司令部ハ定員外ノ幹部ヲ有スルコトヲ得ス

第百七十九條

獨逸國ハ本條約實施後陸軍、海軍又ハ航空委員ヲ外國ニ駐剳セシメ若ハ派遣セス又ハ其ノ出國ヲ容認セサルコトヲ約ス又獨逸國ハ其ノ國民ニシテ外國ノ陸海若ハ空軍ニ編入セラルル爲又ハ外國ニ於テ陸海若ハ空軍ノ訓練ヲ援助シ其ノ他其ノ教育ヲ爲スノ目的ヲ以テ外國ノ陸海若ハ空軍ニ附屬スル爲獨逸國領土ヲ離ルルモノヲ防止スヘキ適當ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

同盟及聯合國ハ其ノ關スル限リ本條約實施後其ノ陸海又ハ空軍ノ軍事教育ヲ援助セシムル目的ヲ以テ獨逸國民ヲ其ノ陸海又ハ空軍ニ編入シ又ハ附屬セシメ其ノ他陸海又ハ空軍ノ教官トシテ獨逸國民ヲ雇入レサルコトヲ約ス

尤モ本條ノ規定ハ佛蘭西國カ佛蘭西國陸軍法令ニ依リ外人聯隊ノ募兵ヲ爲スノ權利ヲ妨ケサルモノトス

第四章　築城

第百八十條

萊因河ノ東方五十吉米ニ引カレタル線ノ西方ニ位スル獨逸國版圖內ニ在ル一切ノ築城工事、堡壘及陸地要塞ハ其ノ武裝ヲ解除シ且防備ヲ撤廢スヘシ

前記ノ築城工事、堡壘及陸地要塞ニシテ同盟及聯合軍ノ占領地域內ニ在ラサルモノハ本條約實施後二月以內ニ其ノ武裝ヲ解除シ爾後四月以內ニ其ノ防備ヲ撤廢スヘシ同盟及聯合軍ノ占領地域內ニ在ルモノハ同盟軍最高統帥部ノ定ムル期間內ニ其ノ武裝ヲ解除シ且防備ヲ撤廢スヘシ

本條第一項ノ地帶內ニ於テハ其ノ性質ノ如何及重要ノ程度ヲ論セス新築城ノ構設ヲ禁止ス

獨逸國ノ南方及東方國境ニ於ケル築城工事ハ現狀ノ儘之ヲ存置スヘキモノトス

第一附屬表　軍團司令部、步兵師團及騎兵師團ノ編制

左ノ諸表ハ獨逸國ニ課スヘキ確定ノ編制ヲ示スモノニ非サルモ諸表中ニ揭クル員數（部隊及人員數）ハ如何ナル場合ニ於テモ超過スヘカラサル最大限ヲ示スモノトス

一　軍團司令部

部隊	承認最大數	各部隊ノ最大人員	
		將校	下士卒

軍團司令部	二	三〇	一五〇
軍團司令部合計	—	六〇	三〇〇

二　歩兵師團ノ編制

部隊	一師團内各部隊ノ最大數	各部隊ノ最大人員	
		將校	下士卒
歩兵師團司令部	一	二五	七〇
師團歩兵司令部	一	四	三〇
師團砲兵司令部	一	四	三〇
歩兵聯隊（各歩兵聯隊ハ歩兵大隊三ヨリ又各大隊ハ歩兵中隊三及機關銃中隊一ヨリ成ル）	三	七〇	二、三〇〇
迫擊砲中隊	三	六	一五〇
師團騎兵中隊	一	六	一五〇
野戰砲兵聯隊（各野戰砲兵聯隊ハ砲兵大隊三ヨリ又各大隊ハ砲兵中隊三ヨリ成ル）	一	八五	一、三〇〇
工兵大隊（本工兵大隊ハ工兵中隊二、橋[illegible]隊一、探照燈班一ヨリ成ル）	一	一二	四〇〇
通信隊（本通信隊ハ電話隊一、聽取班一、軍用鳩班一ヨリ成ル）	一	一二	三〇〇
師團衛生隊	一	二〇	四〇〇
諸廠及輜重隊	—	一四	八〇〇
歩兵師團合計	—	四一〇	一〇、八三〇

三　騎兵師團ノ編制

部隊	一師團内各部隊ノ最大數	各部隊ノ最大人員	
		將校	下士卒
騎兵師團司令部	一	一五	五〇
騎兵聯隊（各聯隊ハ中隊四ヨリ成ル）	六	四〇	八〇〇
騎砲兵大隊（中隊三）	一	二〇	四〇〇
騎兵師團合計	—	二七五	五、二五〇

第二附屬表　歩兵師團七、騎兵師團三及軍團司令部二ニ對スル兵器最大限數表

品目	歩兵師團（一）	歩兵師團七ニ對スル分（二）	騎兵師團（三）	騎兵師團三ニ對スル分（四）	軍團司令部二（五）	（二）（四）（五）欄ノ合計（六）
歩兵銃	一二、〇〇〇	八四、〇〇〇	—	—		八四、〇〇〇
騎銃	—	—	六、〇〇〇	一八、〇〇〇	本編制ノ所要數ハ師團歩兵ノ過剩兵器ヨリ補給スルコトヲ要ス	一八、〇〇〇
重機關銃	一〇八	七五六	一二	三六		七九二
輕機關銃	一六二	一、一三四	—	—		一、一三四
中迫擊砲	九	六三	—	—		六三
輕迫擊砲	二七	一八九	—	—		一八九
七・七糎野砲	二四	一六八	一二	三六		二〇四
一〇・五糎榴彈砲	一二	八四	—	—		八四

第三附屬表　承認最大貯藏量表

品目		承認兵器最大數	一銃一砲ノ彈藥定數	最大數合計
歩兵銃		八四、〇〇〇	四〇〇發	四〇、八〇〇、〇〇〇發
騎銃		一八、〇〇〇		
重機關銃		七九二	八、〇〇〇發	一五、四〇八、〇〇〇發
輕機關銃		一、一三四		
中迫擊砲		六三	四〇〇發	二五、二〇〇發
輕迫擊砲		一八九	八〇〇發	一五一、二〇〇發
野戰砲	七・七糎野砲	二〇四	一、〇〇〇發	二〇四、〇〇〇發
	一〇・五糎榴彈砲	八四	八〇〇發	六七、二〇〇發

第二款　海軍條項

第百八十一條

本條約實施後二月ノ期間滿了後ニ於テ獨逸國常備海軍力ハ左ノ定數ヲ超エサルコトヲ要ス

「ドイチュランド」又ハ「ロートリンゲン」型戰艦　六隻
輕巡洋艦　六隻
驅逐艦　十二隻
水雷艇　十二隻

又ハ第百九十條ノ規定ニ依リ右艦艇ノ代艦トシテ建造セラルル同數ノ艦艇

前項ノ海軍力中ニハ潛水艦ヲ包含セサルモノトス

剩餘ノ艦艇ハ本條約中ニ反對ノ規定ナキ限リ總テ之ヲ豫備ニ編入シ又ハ商業上ノ目的ニ專用スルコトヲ要ス

第百八十二條

第百九十三條ニ規定スル機雷掃海ノ完了ニ至ル迄獨逸國ハ主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル隻數ノ機雷掃海船ヲ常備スヘシ

第百八十三條

本條約實施後二月ノ期間滿了後ニ於テ獨逸國海軍所屬總人員ハ艦隊乘員及沿岸防禦、望樓、官衙其ノ他ノ陸上勤務者ヲ合セ各兵種及各階級ノ准士官以上及下士卒ヲ通シテ一萬五千人ヲ超エサルコトヲ要ス

准士官以上ノ總員數ハ千五百人ヲ超ユヘカラス

前記員數ヲ超過スル人員ハ本條約實施後二月以内ニ之ヲ復員スヘシ

獨逸國ニ於テハ前記員數以外ニ海軍ニ關係アル海上若ハ陸上ノ部隊又ハ豫備兵力ヲ編成スルコトヲ得ス

第百八十四條

獨逸國港灣ニ現在セサル一切ノ獨逸國水上艦艇ハ本條約實施後獨逸國ニ屬セス獨逸國ハ該艦艇ニ對スル一切ノ權利ヲ拋棄ス

千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約ニ依リ現ニ同盟及聯合國港灣ニ抑留セラルル獨逸國船舶ハ確實ニ之ヲ引渡シタルモノト聲明ス

現ニ中立國港灣ニ抑留セラルル獨逸國船舶ハ該港灣ニ於テ主タル同盟及聯合國ニ之ヲ引渡スヘシ獨逸國政府ハ本條約實施ノ時ニ其ノ旨中立國ニ通告スルコトヲ要ス

第百八十五條

次ニ列記スル獨逸國水上艦艇ハ本條約實施後二月以内ニ主タル同盟及聯合國政府ニ其ノ指定スル同盟國港灣ニ於テ之ヲ引渡スヘシ

此等艦艇ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約第二十三條ノ規定ニ依リ豫メ其ノ武裝ヲ解除スヘシ但シ砲全部ハ之ヲ艦内ニ存置スルコトヲ要ス

戰艦
「オルデンブルグ」　「ポーゼン」
「テューリンゲン」　「ウェストファーレン」
「オストフリースランド」　「ラインランド」
「ヘルゴランド」　「ナッサウ」

輕巡洋艦
「ステッティン」　「ストラールズンド」
「ダンチッヒ」　「アウグスブルグ」
「ミュンヒッツ」　「コールベルグ」
「リューベック」　「ストゥットガルト」

右ノ外主タル同盟及聯合國政府ノ選定スル新式驅逐艦四十二隻及新式水雷艇五十隻

第百八十六條

獨逸國政府ハ本條約實施ノ時ニ現ニ建造中ノ一切ノ獨逸國水上艦艇ノ解體ヲ主タル同盟及聯合國政府ノ監視ノ下ニ行フコトヲ要ス

第百八十七條

左ニ列記スル獨逸國補助巡洋艦及補助特務船ハ武裝ヲ解除シ商船トシテ之ヲ取扱フヘシ

中立國ニ抑留中ノモノ
「ベルリン」　「ザイドリッツ」
「サンタ、フエ」　「ヨルク」

獨逸國ニ在ルモノ
「アムモン」　「フュールスト、ビューロー」
「アンスワルド」　「ゲルトルード」
「ボスニア」　「キゴマ」
「コルドバ」　「ルギア」
「カッセル」　「サンタ、エレナ」
「ダニア」　「シュレスウィヒ」
「リオ、ネグロ」　「モエーウエ」
「リオ、パルド」　「シエラ、ヴェンタナ」
「サンタ、クルーズ」　「ケムニッツ」
「シュワーベン」　「エミル、ゲオルグ、フォン、ストラウス」
「ゾーリンゲン」　「ハアスブルグ」
「スタイゲルワルド」　「メテオル」
「フランケン」　「ワルトラウテ」
「アンドマール」　「シャルンホルスト」

第百八十八條

獨逸國潛水艦、潛水艦救難船及潛水艦用船渠（管狀船渠ヲ含ム）ハ本條約實施後一月ノ終ニ於テ總テ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡濟ナルコトヲ要ス

此等潛水艦、救難船及船渠中主タル同盟及聯合國政府カ自力航行又ハ被曳航ニ堪フト認メタルモノハ指定セラレタル同盟國港灣ニ獨逸國政府之ヲ回航スヘシ

剩餘ノモノ及建造中ノモノハ主タル同盟及聯合國政府ノ監視ノ下ニ獨逸國政府全部之ヲ解體スヘシ該解體作業ハ本條約實施後遲クトモ三月以内ニ之ヲ完了スルコトヲ要ス

第百八十九條

水上艦艇タルト潛水艦タルトヲ問ハス各種ノ獨逸國艦艇ノ解體ニ因リテ生シタル物品、機械及材料ハ純然タル産業上又ハ商業上ノ目的外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ物品、機械及材料ハ之ヲ外國ニ賣却シ又ハ讓渡スコトヲ得ス

第百九十條

獨逸國ハ第百八十一條ニ規定スル常備艦艇ノ代艦ノ外如何ナル艦艇ヲモ建造又ハ取得スルコトヲ得ス

前項ノ代艦ハ左記排水量ヲ超ユルコトヲ得ス

裝甲艦　一萬噸
輕巡洋艦　六千噸
驅逐艦　八百噸
水雷艇　二百噸

各種艦艇ハ喪失ノ場合ヲ除クノ外進水ヨリ起算シ戰艦及巡洋艦ハ二十年、驅逐艦及水雷艇ハ十五年ノ期間ノ終ニ非サレハ代艦ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ス

第百九十一條

獨逸國ニ於テハ如何ナル潛水艦船ヲモ建造又ハ取得スルコトヲ得ス其ノ商業上ノ目的ニ供セラルルモノト雖異ルコトナシ

第百九十二條

獨逸國常備艦艇ハ主タル同盟及聯合國ノ指定スル數量ノ兵器、彈藥及軍用材料ノミヲ艦内ニ備ヘ又ハ豫備トシテ保有スヘシ

現ニ獨逸國政府ノ保有スル兵器、彈藥及各種軍用材料（機雷及魚雷ヲ含ム）ニシテ前項ノ數量ヲ超ユルモノハ該數量指定後一月以内ニ主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ同政府ニ引渡スヘシ右ノ兵器、彈藥及軍用材料ハ之ヲ破壞シ又ハ廢棄スヘシ

前記以外ノ兵器、彈藥又ハ各種海軍軍用材料ノ貯藏品、補充品又ハ豫備品ハ之ヲ保有スルコトヲ得ス

獨逸國版圖内ニ於テ外國ノ爲ニスル前記物件ノ製造及外國ニ對スル其ノ輸出ハ之ヲ禁止ス

第百九十三條

獨逸國ハ本條約實施後直ニ綠威東經四度以東左ノ區域内ノ北海ニ於テ機雷掃海ヲ行フヘシ

一　北緯五十三度ト北緯五十九度トノ間
二　北緯六十度三十分以北

獨逸國ハ前項ノ區域内ニ機雷ノ存在スルモノナカラシムルコトヲ要ス

獨逸國ハ又今後主タル同盟及聯合國政府ノ指定スル區域内ノ波羅的海ニ於テ掃海ヲ行ヒ且機雷ノ存在スルモノナカラシムルコトヲ要ス

第百九十四條

獨逸國海軍人員ハ准士官以上ハ繼續二十五年、下士卒ハ繼續十二年ヲ最短期間トスル志願契約ニ依リ總テ之ヲ採用スヘシ

服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラルル人員ノ補充數ハ毎年本款（第百八十三條）ノ總人員定數ノ百分ノ五ヲ超ユヘカラス

海軍ノ服役ヲ免セラルル者ハ各種ノ海陸軍軍事教育ヲ受ケス又ハ再ヒ海陸軍ノ勤務ニ服セサルコトヲ要ス

獨逸國海軍ニ屬スル准士官以上ニシテ復員セラレサルモノハ正當ノ理由ニ因リ服役ヲ免セラルル場合ヲ除クノ外四十五歳迄ノ服役ヲ約スルコトヲ要ス

獨逸國商船ノ高級船員又ハ乘組員ハ海軍ニ於テ何等ノ教育ヲ受クルコトヲ得ス

第百九十五條

波羅的海ニ至ル自由航行ヲ各國ニ保障スル爲獨逸國ハ北緯五十五度二十七分及北緯五十四度ノ兩緯線ト綠威東經九度及同東經十六度ノ兩子午線トヲ以テ劃シタル區域内ニ於テ要塞ヲ構築スルコトヲ得ス又北海波羅的海間ノ海路ヲ管制スヘキ砲ヲ裝備スルコトヲ得ス右區域内ニ現存スル要塞ハ同盟國政府ノ監視ノ下ニ且其ノ指定期間内ニ之ヲ破壞シ其ノ砲ヲ除去スヘシ

獨逸國政府ハ波羅的海北海間ノ海峽及隣接水域ニ關スル一切ノ水路圖誌ニシテ其ノ現ニ有スルモノヲ主タル同盟及聯合國政府ニ提供スヘシ

第百九十六條

第百九十五條及第三編（歐洲政治條項）第十三款（「ヘリゴランド」）ニ掲クルモノノ外ノ築城工事及築城ニシテ現ニ獨逸國海岸ヨリ五十吉米以内ニ在ルモノ又ハ獨逸國沿岸ノ獨逸國島嶼内ニ在ルモノハ總テ防禦ノ性質ヲ有スルモノト認メ現狀ノ儘之ヲ存置スルコトヲ得

前項ノ限界内ニハ新ニ要塞ヲ構築スルコトヲ得ス又前項防備ノ兵裝ハ砲數及口徑ニ付本條

約實施當時現存ノ兵裝ヲ超ユルコトヲ得ス獨逸國政府ハ速ニ右兵裝ニ關スル細項ヲ歐洲各國政府ニ通報スヘシ

本條約實施後二月ノ期間滿了ノ時ニ於ケル前記砲用ノ彈藥ノ貯藏量ハ最大限ニ於テ口徑四・一吋以下ノ砲ニ在リテハ一門ニ付千五百發、之ヨリ大ナル口徑ノ砲ニ在リテハ一門ニ付五百發ニ低減シ之ヲ持續スヘシ

第百九十七條

本條約實施後三月ノ期間「ナウエン」「ハノーヴァー」及伯林ノ大電力無線電信所ハ主タル同盟及聯合國政府ノ承認アルニ非サレハ獨逸國又ハ戰時中獨逸國ト同盟シタル各國ニ利害關係アル海陸軍事又ハ政治ノ問題ノ通信ニ之ヲ使用スヘカラス此等無線電信所ハ前記政府ノ監視ノ下ニ於テノミ商業上ノ目的ニ之ヲ使用スルコトヲ得其ノ使用スル波長ハ右政府之ヲ決定ス

前項ノ期間獨逸國ハ其ノ版圖內又ハ墺地利國、洪牙利國、勃爾牙利國若ハ土耳其國ノ版圖內ニ大電力無線電信所ヲ增設スルコトヲ得ス

第三款　航空條項

第百九十八條

獨逸國軍ニハ陸軍又ハ海軍ノ航空隊ヲ包含セサルコトヲ要ス

獨逸國ハ千九百十九年十月一日迄ノ期間水中機雷ノ搜索ニ專ラ使用セラレ且此ノ目的ノ爲必要ナル裝備ヲ有スル水上飛行機又ハ飛行艇百隻以內ヲ存置スルコトヲ得該水上飛行機又ハ飛行艇ハ如何ナル場合ニ於テモ何等ノ兵器、彈藥又ハ爆彈ヲ携行スルコトヲ得ス

前項ノ水上飛行機又ハ飛行艇ニ對シテハ之ニ裝置スル發動機ノ外各機艇ノ各發動機ニ付一個ノ豫備發動機ヲ準備シ置クコトヲ得

航空船ハ之ヲ保有スルコトヲ得ス

第百九十九條

獨逸國陸海軍軍人名簿ニ錄セラルル航空隊ノ兵員ハ本條約實施後二月以內ニ復員スルコトヲ要ス尤モ獨逸國ハ千九百十九年十月一日ニ至ル迄ノ間一切ノ軍隊及官衙等ニ於テ幹部及兵員（飛行者及非飛行者共）ヲ合セ將校ヲ含ミ總員千人ヲ存置スルコトヲ得

第二百條

同盟及聯合國ノ航空機ハ同盟及聯合國軍隊ノ獨逸國版圖內ヨリ完全ニ撤退スルニ至ル迄ノ間獨逸國內ニ於テ航空ノ自由並通過及著陸ノ自由ヲ有ス

第二百一條

航空機、航空機ノ部品、航空機用發動機及航空機用發動機ノ部品ノ製造及輸入ハ本條約實施後六月間獨逸國全版圖內ニ於テ之ヲ禁止ス

第二百二條

第百九十八條第二項及第三項ニ揭クル航空器材ヲ除クノ外一切ノ陸海軍用航空材料ハ本條約實施ノ時ニ之ヲ主タル同盟及聯合國政府ニ引渡スコトヲ要ス

前項ノ引渡ハ前記政府ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ行ヒ且三月以內ニ之ヲ完了スルコトヲ要ス

前記ノ材料ニハ軍用ノ目的ヲ以テ使用セラル若ハ使用セラレタル又ハ設計セラレタル左記各項ノ物件ヲ特ニ包含スルモノトス

飛行機及水上飛行機ニシテ完成シタルモノ並製造、修理又ハ取纏中ノモノ

航空船ニシテ飛行ニ堪フルモノ又ハ製造、修理又ハ取纏中ノモノ

水素製造裝置

航空船格納庫及航空機用各種格納庫

航空船ハ交付ノ時迄獨逸國ノ費用ヲ以テ水素ヲ充タシ置クヘク水素製造裝置及航空船格納庫ハ前記諸國ノ裁量ニ依リ航空船交付ノ時迄之ヲ獨逸國ニ存置スルコトヲ得

航空機用發動機

座框及胴體

武裝（火砲、機關銃、輕機關銃、爆彈投下機、魚雷投下機、同調機、照準機）

彈藥（藥筒、彈丸、填實シ又ハ填實セサル爆彈、貯藏爆藥及此等ノ製造ニ用ヰル原料）

航空機用器械

航空機用ノ無線電信機、無線電話機及寫眞機又ハ活動寫眞機

以上諸項ニ列記スル各品目ニ屬スル部品

右ノ材料ハ前記政府ノ特別ノ許可アルニ非サレハ之ヲ移動スルコトヲ得ス

第四款　同盟國國際監督委員會

第二百三條

本條約中ノ陸軍海軍及航空條項ニシテ其ノ履行ニ付期限ヲ定メタルモノハ總テ主タル同盟及聯合國ノ之カ爲特ニ任命シタル同盟國國際監督委員會ノ監督ノ下ニ獨逸國之ヲ履行スヘシ

第二百四條

同盟國國際監督委員會ハ本條約ニ依リ獨逸國政府ノ費用ヲ以テ實行スヘキ引渡、破壞、爆破及廢棄ノ完了ヲ監視スルノ任務ヲ特ニ委託セラルヘシ

右委員會ハ主タル同盟及聯合國カ其ノ留保シタル權利ニ基キテ爲シ又ハ陸軍海軍及航空條項ノ履行上ノ必要ニ基キテ爲サレタル決定ヲ獨逸國官憲ニ通告スヘシ

第二百五條

同盟國國際監督委員會ハ獨逸國中央政府ノ所在地ニ其ノ機關ヲ設置スルコトヲ得

右委員會ハ隨時獨逸國版圖內ノ各地ニ移動シ、小委員會ヲ派遣シ又ハ一名若ハ數名ノ委員ヲ出張セシムルノ權利ヲ有ス

第二百六條

獨逸國政府ハ同盟國國際監督委員會及其ノ委員ニ對シ其ノ任務ノ遂行上必要ナル一切ノ便宜ヲ供與スルコトヲ要ス

獨逸國政府ハ各同盟國國際監督委員會ニ權能アル一名ノ代表者ヲ附屬セシメ該委員會ヨリ獨逸國政府ニ宛テ發送スル通告ヲ受領シ且該委員會ノ爲必要ナル一切ノ情報又ハ文書ヲ供給又ハ蒐集セシムヘシ

獨逸國政府ハ毎ニ其ノ費用ヲ以テ本條約ニ規定スル引渡並破壞、防備撤廢、爆破及廢棄ノ作業ノ實行ニ必要ナル一切ノ勞力及材料ヲ提供スルコトヲ要ス

第二百七條

監督委員會ノ維持及費用並其ノ事業上ノ費用ハ獨逸國之ヲ負擔スヘシ

第二百八條

同盟國國際陸軍監督委員會ハ陸軍條項ノ履行ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國政府トノ交涉ニ於テ主タル同盟及聯合國政府ヲ代表ス

右委員會ハ特ニ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置、獨逸國ニ於テ存置ヲ承認セラレタル築城工事、堡壘及要塞ノ兵備並兵器、彈藥及軍用材料ヲ製造スル工場又ハ製造場ノ位置及其ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ獨逸國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ有ス

同委員會ハ兵器、彈藥及軍用材料ノ引渡ヲ受ケ、該交付ノ行ハルヘキ地點ヲ指定シ且本條約ニ依リ實行スヘキ破壞、爆破及廢棄ノ作業ヲ監視ス

獨逸國政府ハ同盟國國際陸軍監督委員會ニ於テ陸軍條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル情報及文書殊ニ一切ノ立法上及行政上ノ文書竝規則ヲ該委員會ニ提供スルコトヲ要ス

第二百九條

同盟國國際海軍監督委員會ハ海軍條項ノ履行ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國政府トノ交涉ニ於テ主タル同盟及聯合國政府ヲ代表ス

右委員會ハ特ニ造船所ニ就キテ建造中ノ艦艇ヲ監視シ、一切ノ水上艦艇、潛水艇、救難船、船渠及管狀船渠ノ引渡ヲ受ケ且所定ノ破壞及解體ヲ監視スルノ任務ヲ有ス

獨逸國政府ハ同盟國國際海軍監督委員會ニ於テ海軍條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル情報及文書殊ニ艦艇ノ設計、其ノ兵裝ノ組織、砲熕、彈藥、魚雷、機雷、爆藥、無線電信機其ノ他一切ノ海軍軍用材料ニ關スル細目及模型竝一切ノ立法上若ハ行政上ノ文書又ハ規則ヲ該委員會ニ提供スルコトヲ要ス

第二百十條

同盟國國際航空監督委員會ハ航空條項ノ履行ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國政府トノ交涉ニ於テ主タル同盟及聯合國政府ヲ代表ス

右委員會ハ特ニ獨逸國版圖內ニ在ル航空用材料ノ目錄ヲ調製シ、飛行機、氣球及發動機ノ製造所並航空機ニ使用シ得ヘキ兵器、彈藥及爆藥ノ製造場ヲ檢閱シ、一切ノ飛行場、格納庫、著陸場、集積場及補給廠ヲ臨檢シ、必要ノ場合ニハ材料ノ移動ヲ許シ且該材料ノ引渡ヲ受クルノ任務ヲ有ス

獨逸國政府ハ同盟國國際航空監督委員會ニ於テ航空條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル一切ノ情報及立法上行政上其ノ他ノ文書殊ニ獨逸國航空勤務總人員表、現存材料及製造中又ハ註文中ノ材料ノ目錄竝航空ニ關スル一切ノ設備、其ノ位置及一切ノ格納庫著陸場ニ關スル表ヲ該委員會ニ提供スルコトヲ要ス

第五款　一般規定

第二百十一條

獨逸國ノ法令ハ本條約實施後三月ノ期間滿了迄ニ之ヲ修正シテ本編ノ規定ニ適應セシメ且之ヲ維持スヘシ

本編ノ履行ニ關スル行政上其ノ他ノ措置ハ總テ前記期間內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十二條

千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約中第六條、第七條第一項第二項第六項第七項、第九條、第二附屬書第一項第二項第五項及右休戰條約ニ追加セラルル千九百十九年四月四日ノ議定書ハ前記諸規定ニ反セサル限リ引續キ其ノ效力ヲ有ス

第二百十三條

本條約カ效力ヲ有スル限リ獨逸國ハ國際聯盟理事會カ所要ノ場合ニ其ノ過半數決ヲ以テ必要ト認メタル一切ノ調查ニ付各種ノ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

第六編　俘虜及墳塋

第一款　俘虜

第二百十四條

俘虜及抑留人民ノ送還ハ本條約實施後成ルヘク速ニ之ニ著手シ且最迅速ニ之ヲ實行スヘシ

第二百十五條

獨逸俘虜及抑留獨逸人民ノ送還ハ第二百十四條ニ依リ同盟及聯合國ノ代表者竝獨逸國政府ノ代表者ヲ以テ組織スル委員會ニ於テ之ヲ實行スヘシ

各同盟及聯合國ニ在リテハ當該國代表者及獨逸國政府ノ代表委員ノミヲ以テ組織スル小委員會ニ於テ俘虜送還ノ實施ニ關スル細目ヲ定ムヘシ

第二百十六條

獨逸國官憲ハ前記俘虜及抑留人民ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ各自ノ鄕里ニ歸還セシムヘシ

前記俘虜及抑留人民中同盟及聯合國軍隊ノ占領地域內ニ戰爭前常住シタル者ハ亦之ヲ各自ノ鄕里ニ歸還セシムヘシ尤モ同盟及聯合國ノ占領軍官憲ノ許可及監督ヲ受クルモノトス

第二百十七條

獨逸國政府ハ送還ニ要スル出發以後ノ一切ノ費用ヲ負擔シ且第二百十五條ノ委員會ニ於テ必要ト認ムル海陸輸送方法及職員ヲ準備スヘシ

第二百十八條

紀律違反ノ犯行ニ付取調中又ハ處罰中ノ俘虜及抑留人民ハ其ノ處罰又ハ取調手續ノ完了スルト否トヲ問ハス之ヲ送還スヘシ

前項ノ規定ハ千九百十九年五月一日以後ノ犯行ニ付罰ヲ受クル俘虜及抑留人民ニハ之ヲ適用セス

送還未了ノ間俘虜及抑留人民ハ總テ引續キ現行ノ規則殊ニ作業及紀律ニ關スル規則ノ適用ヲ受クヘシ

第二百十九條

紀律違反以外ノ犯行ニ付取調中又ハ處罰中ノ俘虜及抑留人民ハ尙之ヲ抑留スルコトヲ得

第二百二十條

獨逸國政府ハ送還セラルヘキ一切ノ者ニ對シ差別ヲ設クルコトナク之ヲ自國版圖內ニ入國セシムルコトヲ約ス

俘虜其ノ他ノ獨逸國民ニシテ送還ヲ欲セサル者ハ之ヲ送還セサルコトヲ得但シ同盟及聯合國政府ハ右ノ者ヲ送還シ、中立國ニ送致シ又ハ自國版圖內ノ居住ヲ之ニ許可スルノ權利ヲ留保ス

獨逸國政府ハ右ノ者又ハ其ノ家族ニ對シ何等例外的取扱方法ヲ設ケス又從テ何等抑壓的若ハ煩瑣ナル措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

第二百二十一條

同盟及聯合國政府ハ獨逸國政府ヲシテ同國內ニ俘虜トシテ殘存スルコトアルヘキ自國民ニ關シ直ニ通告ヲ爲サシメ且直ニ之ヲ解放セシムルコトヲ以テ其ノ權內ニ在ル獨逸俘虜及獨逸國民送還ノ條件ト爲スノ權利ヲ留保ス

第二百二十二條

獨逸國ハ左ノ事項ヲ約ス

一　失踪者調查委員ニ對シ一切ノ便宜ヲ供與シ必要ナル一切ノ輸送手段ヲ提供シ收容所、監獄、病院其ノ他一切ノ場所ニ出入スルコトヲ許容シ及調查ヲ容易ナラシムヘキ公私一切ノ書類ヲ其ノ使用ニ供スルコト

二　同盟及聯合國國民ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ其ノ所在ヲ知リタル後之カ報告ヲ怠リタル獨逸國官吏又ハ人民ヲ處罰スルコト

第二百二十三條

獨逸國ハ同盟及聯合國國民ニ屬シ獨逸國官憲ノ押收シタル一切ノ物品、現金、證券及書類ヲ本條約實施後遲滯ナク返還スルコトヲ約ス

第二百二十四條

締約國ハ各自國版圖內ニ於ケル俘虜收容ニ因ル費用ノ償還ノ要求ヲ總テ相互的ニ拋棄ス

第二款　墳墓

第二百二十五條

同盟及聯合國政府竝獨逸國政府ハ各其ノ版圖內ニ埋葬セラレタル陸海軍軍人ノ墳墓ヲ尊重シ且保存スヘシ

前記諸國政府ハ同盟國又ハ聯合國政府ニ於テ右墳墓ノ識別、登錄若ハ管理ノ爲又ハ其ノ上ニ適當ナル記念碑ヲ建設スル爲任命シタル委員ヲ承認シ且其ノ職務執行ニ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

尙前記諸國政府ハ自國ノ法令上及公共衞生上差支ナキ限リ陸海軍軍人ノ遺骸ヲ其ノ本國ニ移サムトスル要求ヲ實現スル爲一切ノ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

第二百二十六條

各交戰國國民タル俘虜及抑留人民ニシテ拘束中死亡シタルモノノ墳墓ハ第二百二十五條ニ依リ適當ニ之ヲ保存スヘシ

同盟及聯合國政府竝獨逸國政府ハ相互ニ左記ノモノヲ提供スルコトヲ約ス

一　死亡者全表及識別上必要ナル一切ノ情報

二　識別セラレスシテ埋葬セラレタル者ノ墳墓ノ數及其ノ位置ニ關スル一切ノ情報

第七編　制裁

第二百二十七條

同盟及聯合國ハ國際道義ニ反シ條約ノ神聖ヲ瀆シタル重大ノ犯行ニ付前獨逸皇帝「ホーヘンツォルレルン」家ノ維廉二世ヲ訴追ス

右被告審理ノ爲特別裁判所ヲ設置シ被告ニ對シ辯護權ニ必要ナル保障ヲ與フ該裁判所ハ五名ノ裁判官ヲ以テ之ヲ構成シ亞米利加合衆國、大不列顚國、佛蘭西國、伊太利國及日本國各一名ノ裁判官ヲ任命ス

右裁判所ハ國際間ノ約諾ニ基ク嚴正ナル義務ト國際道義ノ儼存トヲ立證セムカ爲國際政策ノ最高動機ノ命スル所ニ從ヒ判決スヘシ其ノ至當ト認ムル刑罰ヲ決定スルハ該裁判所ノ義務ナリトス

同盟及聯合國ハ審理ノ爲前皇帝ノ引渡ヲ和蘭國政府ニ要求スヘシ

第二百二十八條

獨逸國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ訴追セラルル者ヲ軍事裁判所ニ出廷セシムル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス上記ノ者有罪ト決シタルトキハ之ヲ法ノ定ムル刑罰ニ處スヘシ本規定ハ獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ裁判所ニ於ケル訴訟手續又ハ公訴ノ爲其ノ適用ヲ妨ケラルルコトナシ

獨逸國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ訴追セラルル者ニシテ其ノ氏名又ハ獨逸國官憲ノ下ニ於テ其ノ有シタル地位官職ヲ明示セラレタルモノハ總テ之ヲ同盟及聯合國又ハ引渡ヲ要求スル其ノ一國ニ引渡スヘシ

第二百二十九條

同盟及聯合國中ノ一國ノ國民ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ該國ノ軍事裁判所ノ裁判ニ付ス

同盟及聯合國中ノ二國以上ノ國民ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ該諸國ノ軍事裁判所ノ職員ヲ以テ組織スル軍事裁判所ノ裁判ニ付ス

被告ハ何レノ場合ニ於テモ自己ノ辯護人ヲ指定スルノ權ヲ有ス

第二百三十條

獨逸國政府ハ犯罪行爲ノ知悉、犯罪者ノ發見

及責任ノ適正ナル量定ニ必要ト認メラルル一切ノ文書及資料ノ提供ヲ約ス

第八編　賠償

第一款　一般規定

第二百三十一條

同盟及聯合國政府ハ獨逸國及其ノ同盟國ノ攻撃ニ因リテ強ヒラレタル戰爭ノ結果其ノ政府及國民ノ被リタル一切ノ損失及損害ニ付テハ責任ノ獨逸國及其ノ同盟國ニ在ルコトヲ斷定シ獨逸國ハ之ヲ承認ス

第二百三十二條

同盟及聯合國政府ハ獨逸國ノ資源カ本條約ノ他ノ規定ノ結果永遠ニ減少スヘキコトヲ考量シ其ノ右損失及損害ノ全部ニ對シ完全ナル賠償ヲ爲スニ充分ナラサルコトヲ認ム

然レトモ同盟及聯合國政府ハ其ノ各國ト獨逸國トノ交戰期間内其ノ陸上海上及空中ノ攻撃ニ因リ同盟及聯合國ノ普通人民及其ノ財産ニ對シ加ヘラレタル一切ノ損害概言スレハ本款第一附屬書ニ揭クル一切ノ損害ニ付補償ヲ要求シ獨逸國ハ之カ補償ヲ爲スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ本編中別ニ規定スル損害ヲ補償スル外ニ白耳義國ノ完全ナル回復ニ關シ其ノ既ニ與ヘタル誓約ニ遵ヒ白耳義國カ千九百十八年十一月十一日前ニ於テ同盟及聯合國政府ヨリ借入レタル一切ノ金額及之ニ對スル年五分ノ利息ヲ千八百三十九年ノ條約ニ違反シタル結果トシテ償還スヘキコトヲ約ス右金額ハ賠償委員會之ヲ決定スヘク獨逸國政府ハ該決定後直ニ千九百二十六年五月一日又ハ其ノ選擇ニ從ヒ千九百二十六年以前ノ年ノ五月一日「麻」金貨ヲ以テ支拂フヘキ右金額相當ノ無記名債券ヲ特ニ發行スルコトヲ約ス上記規定ニ依ルノ外該債券ノ樣式ハ賠償委員會之ヲ定ム該債券ハ之ヲ賠償委員會ニ引渡スヘク同委員會ハ白耳義國ニ代リテ之ヲ受領シ且受領ヲ通牒スルノ權限ヲ有ス

第二百三十三條

獨逸國ノ補償スヘキ前記損害ノ總額ハ賠償委員會ト稱スル同盟國國際委員會之ヲ決定スヘシ該委員會ノ組織及權能ハ本款及本款第二乃至第七附屬書ノ定ムル所ニ依ル

右委員會ハ請求ヲ審査シ且意見陳述ノ公平ナル機會ヲ獨逸國政府ニ與フヘシ

前記損害額ニ關スル委員會ノ查定ハ獨逸國政府ノ債務ノ範圍ヲ示スモノトシテ千九百二十一年五月一日前ニ之ヲ確定シ且獨逸國政府ニ通告スヘシ

委員會ハ同時ニ千九百二十一年五月一日以後三十年ノ期間内ニ獨逸國カ右債務全部ヲ辨濟スヘキ時期及方法ヲ定ムル支拂一覽表ヲ調製スヘシ但シ獨逸國カ右期間内ニ其ノ債務ヲ辨濟セサル場合ニ於テハ未拂額ハ委員會ノ裁量ニ依リ其ノ決濟ヲ後年ニ延期シ又ハ同盟及聯合國政府カ本編所定ノ手續ニ從ヒ決定スヘキ方法ニ依リ之ヲ處理スルコトヲ得

第二百三十四條

賠償委員會ハ千九百二十一年五月一日以後隨時獨逸國ノ資源及能力ヲ審査シ且意見陳述ノ公平ナル機會ヲ獨逸國ノ代表者ニ與ヘタル後第二百三十三條ニ依リ定ムル支拂拂期ヲ延長シ又ハ其ノ方法ヲ變更スルノ裁量ヲ有ス但シ委員會ニ代表セラルル各國政府ノ特定ノ承認アル場合ヲ除クノ外債務ノ何レノ部分ヲモ免除スルコトヲ得ス

第二百三十五條

獨逸國ハ同盟及聯合國ヲシテ其ノ請求額ノ確定ニ先チ速ニ其ノ産業及經濟生活ノ回復ニ着手スルコトヲ得シムル爲賠償委員會ノ定ムル割賦及方法ニ從ヒ（金、貨物、船舶、有價證券其ノ他ヲ以テ）千九百十九年及千九百二十年中竝千九百二十一年四月末日迄ニ二百億「麻」金貨ニ相當スル額ヲ支拂フヘシ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約以後ニ於ケル占領軍ノ費用ハ右金額中ヨリ先ツ之ヲ支拂スヘシ主タル同盟及聯合國政府ニ於テ獨逸國ヲシテ其ノ賠償義務ヲ履行セシムル爲必要ナリト認メタル糧食及原料ノ供給ニ對シテハ右政府ノ承認ヲ經テ該金額中ヨリ亦之カ支拂ヲ爲スコトヲ得殘額ハ賠償義務額ノ淸算ニ之ヲ充當スヘシ

獨逸國ハ右ノ外尙本款第二附屬書十二ノ（ハ）號ニ揭クル債券ヲ供託スヘシ

第二百三十六條

獨逸國ハ尙商船、物質的回復、石炭及其ノ製品竝染料其ノ他ノ化學製品ニ付各第三乃至第六附屬書ニ依リ直接其ノ經濟資源ヲ賠償ニ充ツルコトニ同意ス但シ右各附屬書ニ依リ獨逸國ノ讓渡シタル財産及履行シタル役務ノ價額ハ常ニ上記各附屬書ニ揭クル方法ヲ以テ之ヲ評價シ前各條ニ依ル債務ノ淸算ニ際シ獨逸國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

第二百三十七條

前記請求ニ應シ獨逸國ノ支拂ヒタル累次ノ割賦（前記ノ額ヲ含ム）ハ同盟及聯合國政府ニ於テ一般的衡平及各國政府ノ權利ヲ基礎トシテ豫メ決定シタル割合ヲ以テ同政府間ニ之ヲ分配スヘシ

右分配ニ付テハ第二百四十三條及第三乃至第七附屬書ニ依リ讓渡シタル財産及履行シタル役務ノ價額ハ之ヲ當該年度ニ於ケル現金支拂ト同樣ニ計算スヘシ

第二百三十八條

前記支拂ノ外獨逸國ハ尙賠償委員會ノ定ムル手續ニ從ヒ其ノ奪取シ差押ヘ又ハ保管シタル現金ハ現金ヲ以テ還付スヘク又奪取シ差押ヘ又ハ保管シタル動物、各種物件及有價證券ハ獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ領土内ニ於テ之ヲ識別シ得ヘキ場合ニ於テハ之ヲ還付スルコトヲ要ス

右手續ノ決定ニ至ル迄還付ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約、其ノ更新取極及同附屬議定書ノ規定ニ依リ之ヲ繼續スヘシ

第二百三十九條

獨逸國政府ハ第二百三十八條ニ定ムル還付ヲ直ニ實行シ且第二百三十三條乃至第二百三十六條ニ定ムル支拂及引渡ヲ實行スヘキコトヲ約ス

第二百四十條

獨逸國政府ハ第二百三十三條ノ委員會ヲ第二附屬書ニ依リ同盟及聯合國政府ノ組織スヘキ委員會トシテ承認シ且該委員會カ本條約ニ依リ付與セラレタル權能及權限ヲ有シ且之ヲ行使スルコトニ確實ニ同意ス

獨逸國政府ハ金融ノ狀態及作用、獨逸國及其ノ國民ノ財産及生産力竝其ノ原料及製造品ノ貯藏額及當時ノ産額ニ關シ賠償委員會ノ要求スヘキ一切ノ情報其ノ他第一附屬書ニ規定スル獨逸國賠償債務ノ查定上該委員會ノ必要ト認ムヘキ軍事行動ニ關スル情報ヲ該委員會ニ提供スヘシ

獨逸國政府ハ其ノ友好國ノ正式ニ任命シタル外交官カ獨逸國ニ於テ享有スルト同一ノ權利及免除ヲ賠償委員會ノ委員及其ノ權限アル吏員ニ許與スヘシ

獨逸國ハ尙委員會及其ノ使用スル職員ノ俸給及費用ヲ支拂スルコトニ同意ス

第二百四十一條

獨逸國ハ此等諸規定ノ完全ナル實行ニ必要ナル法律命令ヲ制定シ、公布シ及施行スルコトヲ約ス

第二百四十二條

本編ノ規定ハ第十編（經濟條項）第三款及第四款ニ揭クル財産、權利及利益竝其ノ淸算殘高ニ之ヲ適用セス但シ第二百四十三條第一項（イ）號ニ依リ獨逸國ノ受取勘定ト爲ルヘキ最終殘額ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第二百四十三條

左ニ揭クルモノハ獨逸國ノ賠償債務ニ關シ其ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

（イ）第三編（歐洲政治條項）第五款（「アルザス、ロレーヌ」）竝第十編（經濟條項）第三款及第四款ノ規定ニ依リ獨逸國ノ受取勘定ト爲ルヘキ最終殘額

（ロ）第三編（歐洲政治條項）第四款（「ザール」河流域）、第九編（財政條項）及第十二編（港、水路及鐵道）ニ依ル讓渡ニ關シ獨逸國ニ支拂フヘキ額

（ハ）右ノ外本條約ニ依リ財産、權利、利權其ノ他ノ利益ヲ讓渡シタル結果賠償委員會ニ於テ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシト決定シタル額

本編第二百三十八條ノ規定ニ依リ還付シタル財産ハ如何ナル場合ニ於テモ獨逸國ノ貸方ニ之ヲ計上スルコトナシ

第二百四十四條

本條約ニ特別ノ規定ヲ設ケサル獨逸海底電信線ノ讓渡ハ本款第七附屬書ノ規定ニ依ル

第一附屬書

補償ハ第二百三十二條ニ依リ左記種目ノ全損害ニ付之ヲ獨逸國ニ請求スルコトヲ得

一　戰爭ノ行爲（陸上、海上又ハ空中ノ砲撃其ノ他ノ攻撃、其ノ一切ノ直接ノ結果及場所ノ如何ヲ問ハス交戰國ノ雙方ノ行ヘル軍事行動ノ一切ノ直接ノ結果ヲ含ム）ニ因ル普通人民ノ傷害又ハ死亡ノ爲該負傷者及生存被扶養者ノ受ケタル損害

二　場所ノ如何ヲ問ハス獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ殘忍、殘暴又ハ虐待行爲（監禁、追放、拘留、退去命令、海上遺棄又ハ強制勞働ノ結果タル生命又ハ健康ノ危害ヲ含ム）ノ犧牲ト爲リタル普通人民及其ノ生存被扶養者ノ損害

三　獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ領土、占領地又ハ侵入地ニ於テ該國國カ行ヒタル健康、活動力又ハ名譽ヲ害スル一切ノ行爲ノ犧牲ト爲リタル普通人民及其ノ生存被扶養者ノ損害

四　俘虜ニ對スル各種ノ虐待ニ基ク損害

五　同盟及聯合國國民ノ被リタル損害トシテ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ又ハ不具廢疾ト爲リテ戰爭ノ犧牲ト爲リタル陸海軍軍人（空軍軍人ヲ含ム）及其ノ被扶養者ニ對スル一切ノ恩給金及恩給金ノ性質ヲ有スル一切ノ補償金但シ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘキ右金額ハ本條約實施ノ日ニ於ケル佛蘭西國現行ノ率ヲ基礎トシ同時期ニ於テ恩給金及補償金ヲ一時金ニ換算シタル額ニ依リ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ

六　俘虜竝其ノ家族及被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ扶助費

七　動員セラレタル者又ハ軍務ニ服シタル者ノ家族及被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ給與額但シ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘキ給與額ハ戰時狀態ニ在リタル各曆年毎ニ當該年ニ於テ佛蘭西國ニ行ハレタル此ノ種支拂ノ平均率ヲ基礎トシ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ

八　獨逸國又ハ其ノ同盟國カ正當ノ報酬ナクシテ勞働ヲ強制シタル爲普通人民ノ受ケタル損害

九　陸海軍ノ工作物又ハ材料ヲ除クノ外同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ國民ニ屬スル一切ノ財産ニシテ其ノ所在地ノ如何ヲ問ハス陸上、海上又ハ空中ニ於ケル獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ行爲ニ因リ撤去、差押、毀損又ハ破壞セラレタルモノニ關スル損害竝敵對行爲又ハ軍事行動ノ直接ノ結果タル損害

十　獨逸國又ハ其ノ同盟國カ普通人民ニ課シタル賦金、罰金其ノ他之ニ類スル強制徵收ノ形式ニ依ル損害

第二附屬書

一

第二百三十三條ノ委員會ニハ「賠償委員會」ノ名稱ヲ附スヘク以下之ヲ「委員會」ト稱ス

二

本委員會ノ委員ハ亞米利加合衆國、大不列顚國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、白耳義國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國之ヲ任命スヘシ右諸國ハ各委員一名副委員一名ヲ任命スヘシ副委員ハ委員ノ病氣又ハ已ムヲ得サル闕席ノ場合ニ於テ之ニ代ルヘク其ノ他ノ場合ニ於テハ單ニ會議ニ出席スルノ權利ヲ有シ議事ニ參與スルコトヲ得ス

上記諸國ニシテ其ノ委員カ委員會ノ議事ニ參與シ且表決ノ數ニ加ハルノ權利ヲ有スルモノハ如何ナル場合ニ於テモ五國ヲ超ユルコトナシ亞米利加合衆國、大不列顚國、佛蘭西國及伊太利國ノ委員ハ一切ノ場合ニ於テ此ノ權利ヲ有ス白耳義國ノ委員ハ以下ノ場合ヲ除クノ外一切ノ場合ニ於テ此ノ權利ヲ有ス日本國ノ委員ハ海上ニ於ケル損害ニ關スル問題及第九編（財政條項）第二百六十條ニ基キ發生シ日本國ノ利害ニ關係アル問題ヲ審議スル場合ニ於テ此ノ權利ヲ有ス「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ委員ハ墺地利國、洪牙利國又ハ勃牙利國ニ關スル問題ヲ審議スル場合ニ於テ此ノ權利ヲ有ス

委員會ニ代表セラルル各政府ハ委員會ニ對スル十二月前ノ豫告及該豫告ノ日以後第六月中ニ屬スル確認ニ依リ委員會ヨリ脫退スルノ權利ヲ有ス

三

前記以外ノ同盟及聯合國ニシテ利害關係ヲ有スルモノハ各自國ノ請求及利益ノ審査討議中ニ限リ陪席委員トシテ出席シ且行動スル委員一名ヲ任命スルノ權利ヲ有ス該委員ハ表決ノ數ニ加ハルコトナシ

四

委員、副委員又ハ陪席委員ノ死亡、辭任又ハ召還ノ場合ニ於テハ成ルヘク速ニ後任者ヲ任命スヘシ

五

委員會ハ其ノ常設事務局本部ヲ巴里ニ設ケ本條約實施後成ルヘク速ニ其ノ第一回會議ヲ巴里ニ開クヘシ爾後ハ其ノ便宜ナリト認メ且其ノ職務ノ最敏活ナル執行ニ必要ナル地及時期ニ於テ開會スヘシ

六

委員會ハ其ノ第一回會議ニ於テ前記委員中ヨリ議長一名及副議長一名ヲ選擧スヘシ議長及副議長ノ任期ハ一年トシ再選ヲ妨ケス任期中議長及副議長ニ闕員ヲ生シタルトキハ委員會ハ當該任期ノ殘餘ニ對シ新ニ選擧ヲ行フヘシ

七

委員會ハ其ノ職務ノ執行ニ必要ナル一切ノ役員、吏員及使用人ヲ任命シ、其ノ給與額ヲ定メ、必シモ本委員會ノ委員タルコトヲ要セサル委員ヨリ成ル小委員會ヲ組織シ、任務ノ遂行ニ必要ナル一切ノ執行手段ヲ講シ且役員、吏員及小委員會ニ其ノ權限及裁量ヲ委任スルノ權限ヲ有ス

八

委員會ノ一切ノ議事ハ之ヲ公開セス但シ特殊ノ理由ニ因リ委員會カ特ニ別段ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

九

委員會ハ獨逸國政府ノ請求アルトキハ隨時期間ヲ定メ獨逸國ノ支拂能力ニ關スル問題ニ付其ノ證明及辯論ヲ聽取スヘシ

十

委員會ハ各請求ヲ審査シ且意見陳述ノ公平ナル機會ヲ獨逸國政府ニ與フヘシ但シ獨逸國政府ハ委員會ノ決定ニ何等參與スルコトナシ委員會ハ問題[illegible]コトヲ認[illegible]意見陳述[illegible]

十一

委員會ハ何等特定ノ法典、法規又ハ證據若ハ手續ニ關スル何等特定ノ規則ニ拘束セラルルコトナク正義、衡平及信義ニ準據スヘシ委員會ノ決定ハ其[illegible]シテ同一ノ[illegible]

委員會ハ請求ノ證明方法ニ關スル規則ヲ設クヘシ委員會ハ[illegible]ニモ準據スルコトヲ得

十二

委員會ハ本條約ニ依リ[illegible]切ノ權能ヲ有シ且[illegible]職務ヲ行フヘシ

委員會ハ本編ノ規定ニ依リ賠償問題全部ノ管掌及處理ニ付[illegible]ノ規定ヲ解釋[illegible]定ニ依ル[illegible]スヘキ賠償[illegible]前記二及三[illegible]ノ唯一ノ代[illegible]

委員會ハ左[illegible]要ス

（イ）確定シタル請求全額中金ヲ以テ又ハ船舶、有價證券、貨物[illegible]サル部分[illegible]金錢債務[illegible]同額ノ[illegible]決定ス[illegible]スヘシ

（ロ）委員會[illegible]定スル[illegible]賠償額[illegible]ヲ獨逸國[illegible]般ニ獨逸國[illegible]ラルル[illegible]

其ノ負擔決シテ輕カラサル事實ニ付確信ヲ得ル爲獨逸國ノ租税制度ヲ檢査スヘシ

（ハ）同盟及聯合國ノ經濟生活ノ即時ノ囘復ヲ容易ナラシメ且之ヲ繼續セシムル爲委員會ハ第二百三十五條ノ規定ニ從ヒ獨逸國ヨリ其ノ金錢債務ノ保證及承認トシテ金貨無記名債券ノ第一囘割賦ヲ受領スヘシ該債券ハ獨逸帝國若ハ獨逸各邦ノ政府又ハ之ニ屬スル官憲ノ課シ又ハ課スルコトアルヘキ各種ノ租税及負擔ヲ總テ免除セラルヘシ右債券ハ内金拂トシテ左記ノ通三分シテ之ヲ交付スヘシ其ノ「麻」金貨ノ支拂ニ付テハ第九編（財政條項）第二百六十二條ニ依ル

（一）千九百二十一年五月一日迄ニ支拂フヘキ二百億「麻」金貨ノ無利息無記名債券ヲ直ニ發行スルコト　獨逸國カ第二百三十五條ニ從ヒ履行ヲ約シタル支拂額ハ占領軍隊ノ費用ノ償還竝食料及原料ノ支拂ニ供シタル金額ヲ控除シタル上特ニ之ヲ本債券ノ償却ニ充當スヘシ右債券ニシテ千九百二十一年五月一日迄ニ償却セラレサルモノハ次（十二ノ（ハ）號ノ（二））ニ規定スル債券ト同一樣式ノ新債券ヲ以テ之ト引換フヘシ

（二）前記ノ外尚四百億「麻」金貨ノ無記名債券ヲ直ニ發行スルコト　本債券ニハ千九百二十一年ヨリ千九百二十六年迄ハ年二分五厘、爾後ハ年五分ノ利息ヲ附シ更ニ千九百二十六年ヨリ開始スヘキ償還ノ爲發行總額ニ對シ一分ヲ添加セシム

（三）獨逸國カ前記ノ利息及減債基金ノ債務ヲ履行シ得ルコトヲ委員會ニ於テ確認スルニ至リタルトキ始メテ更ニ四百億「麻」金貨年五分利附無記名債券ヲ發行スヘキ旨ノ約束書ヲ直ニ委員會ニ交付スルコト　本債券ノ元利支拂ノ時期及方法ハ委員會之ヲ決定スヘシ

債券ノ利息支拂期、減債基金ノ使用方法及其ノ他一切ノ問題ニシテ發行、管理及債券發行規則ニ關スルモノハ委員會隨時之ヲ決定ス

委員會ハ爾後尚隨時其ノ決定スル所ニ依リ債務ノ承認及保證トシテ更ニ債券ノ發行ヲ要求スルコトヲ得

（ニ）賠償金錢債務ノ保證又ハ承認トシテ獨逸國ノ發行シタル債券、債務證書其ノ他ノ債務證憑ニシテ獨逸國ノ原賠償債務ヲ發生セシメタル諸政府以外ノ者ニ擔保ノ爲ニ非スシテ完全ニ讓渡サレタル場合ニ於テハ該賠償金錢債務額ハ右ノ如ク完全ニ讓渡サレタル債券等ノ券面價額ニ相當スル額ヲ限リ消滅シタルモノト看做サルヘシ此ノ債券ニ關スル獨逸國ノ債務ハ債券所持人ニ對スル券面記載ノ義務ニ限定セラルヘシ

（ホ）侵略及暴掠ヲ受ケタル地方ノ財産ノ修繕、再造及再建（家具、機械其ノ他ノ設備ノ再裝置ヲ含ム）ニ因ル損害ハ其ノ作業ヲ實行シタル時期ニ於ケル費額ニ依リ之ヲ計算スヘシ

（ヘ）獨逸國ノ確定金錢債務ノ元本又ハ利息ノ全部又ハ一部ノ免除ニ關スル委員會ノ決定ニハ其ノ理由ヲ附スルコトヲ要ス

十三

委員會ハ表決ニ關シ左ノ規則ヲ遵守スヘシ

委員會ノ決定ヲ爲スニ當リテハ表決權ヲ有スル各委員ノ表決、其ノ闕席ノ場合ニ於テハ其ノ副委員ノ表決ヲ記錄スヘシ表決ノ棄權ハ審議中ノ議案ニ反對スル表決トシテ之ヲ取扱フヘシ陪席委員ハ表決權ヲ有セス

左記ノ問題ニ關シテハ全會ノ一致ヲ要ス

（イ）同盟及聯合國中ノ一國ノ主權ニ關スル問題又ハ獨逸國ノ金錢債務若ハ債務ノ全部若ハ一部ノ免除ニ關スル問題

（ロ）獨逸國政府ノ發行スヘキ債券其ノ他ノ債務證書ノ金額及條件ヲ定ムル問題及該債券ノ賣却、讓渡又ハ分配ノ時期及方法ヲ定ムル問題

（ハ）千九百二十一年五月一日以後千九百二十六年末日以前支拂期ニ達スヘキ割賦ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ千九百三十年末日ヨリ後ニ延期スルコト

（ニ）千九百二十六年ヨリ後ニ於テ支拂期ニ達スヘキ割賦ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ三年ヲ超ユル期間延期スルコト

（ホ）特定ノ場合ニ於テ從來同樣ノ場合ニ適用シタルモノト異ナル損害計算方法ヲ適用スル問題

（ヘ）本編ノ規定ノ解釋ニ關スル問題

前記ノ外一切ノ問題ハ表決ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

一ノ問題カ其ノ決定ニ全會一致ヲ要スルモノナリヤ否ヤニ付委員間ニ意見ノ相違アリテ其ノ本國政府ニ請訓スルモ尚解決スルコト能ハサル場合ニ於テハ遂ニ之ヲ各本國政府ノ同意シタル公平ナル人士ノ仲裁ニ付スヘク同盟及聯合國政府ハ其ノ裁定ヲ承認スルコトヲ約ス

十四

委員會カ其ノ付與セラレタル權能ニ依リテ下シタル決定ハ即時ニ其ノ拘束力ヲ有スヘク且更ニ他ノ手續ヲ經スシテ直ニ之ヲ執行スルコトヲ得

十五

委員會ハ其ノ定ムル樣式ニ依リ關係各國ニ對シ左ノ證明書ヲ發スヘシ

一　委員會カ當該國ノ計算ニ於テ前記發行ノ債券ヲ保有スル旨ヲ記載シタル證明書　本證明書ハ當事國ノ要求アルトキハ五箇ヲ超エサル部分ニ之ヲ分割スルコトヲ得

二　委員會カ獨逸國ニ依リ其ノ賠償金錢債務ニ基キテ引渡サレ且當該國ノ計算ニ於テ保有スル物品ヲ記載シタル時時ノ證明書

右證明書ハ登錄セラルヘク且委員會ニ通知シタル後裏書ヲ以テ之ヲ讓渡スルコトヲ得

債券カ賣買又ハ讓渡ノ爲發行セラレタルトキ及物品カ委員會ヨリ引渡サレタルトキハ其ノ價額ニ相當スル證明書ハ之ヲ囘收スルコトヲ要ス

十六

委員會ニ於テ決定シタル獨逸國ノ金錢債務中現金ノ支拂若ハ之ニ相當スルモノニ依リ、委員會ニ對シ獨逸國ノ發行シタル債券ニ依リ又ハ第二百四十三條ニ依リ既ニ辨濟シタル金額ヲ控除シタル殘額ニ對シ千九百二十一年五月一日以後ノ利息ハ之ヲ獨逸國ノ借方ニ計上スヘシ其ノ利率ハ將來委員會ニ於テ其ノ變更ヲ正當トスル事情アリト決定シタル場合ヲ除クノ外年五分トス

委員會ハ千九百二十一年五月一日ニ於テ獨逸國ノ金錢債務總額ヲ決定スルニ當リ物質的損害ノ賠償額ニ對スル千九百十八年十一月十一日ヨリ千九百二十一年五月一日ニ至ル迄ノ間ノ利息ヲ算入スルコトヲ得

十七

獨逸國本編規定ノ義務ヲ履行セサル場合ニ於テハ委員會ハ遂ニ之ヲ關係各國ニ通知シ且右不履行ノ爲執ルヘキ行動ニ付必要ト認ムル建議ヲ爲スコトヲ得

十八

獨逸國カ故意ニ履行ヲ怠リタル場合ニ同盟及聯合國カ執ルノ權利ヲ有スル措置ニハ經濟上及金融上ノ禁止及報復其ノ他ノ一般ニ各當該國政府ニ於テ事情ニ應シ必要ト決定シタル措置ヲ包含ス獨逸國ハ右措置ヲ以テ戰爭行爲ト認メサルコトヲ約ス

十九

同盟及聯合國ノ確定請求ニ基キ金又ハ之ニ相當スルモノヲ以テ爲スヘキ支拂ハ委員會ニ於テ獨逸國領土ノ内外ニ在ル動産、不動産、貨物、營業、權利若ハ利權、船舶、債券、株券若ハ各種ノ有價證券又ハ獨逸國若ハ他ノ國ノ通貨ヲ以テ何時ニテモ之ヲ受領スルコトヲ得右金ノ代物ノ價額ハ委員會自ラ公平且正當ナリト認ムル額ニ於テ之ヲ定ム

二十

委員會ハ特定ノ財産又ハ權利ヲ以テスル支拂ヲ確定シ又ハ受領スルニ當リ同盟及聯合國若ハ中立國又ハ其ノ國民カ之ニ對シ有スル法律上又ハ衡平上ノ利益ヲ相當尊重スヘシ

二十一

委員會ノ委員ハ委員トシテノ作爲又ハ不作爲ニ付任命國ニ對スルノ外其ノ責ニ任セス各同盟及聯合國政府ハ他ノ政府ニ關シテハ何等ノ責ニ任スルコトナシ

二十二

本條約ノ規定ニ依ルノ外、本附屬書ハ時時委員會ニ代表セラルル政府ノ一致ノ決定ヲ以テ之ヲ修正スルコトヲ得

二十三

委員會ハ本條約又ハ委員會ノ決定ニ依リ獨逸國及其ノ同盟國カ負擔スル總額ノ辨濟ヲ受ケ且受領シタル一切ノ金額又ハ之ニ相當スルモノヲ關係諸國ニ分配ヲ了シタルトキハ解散スヘシ

第三附屬書

一

獨逸國ハ戰爭ニ因リ喪失シ又ハ損害ヲ受ケタル一切ノ商船及漁船ニ對シ噸數對噸數（總噸數）及等級對等級ノ現物代償ヲ受クル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス

尤モ獨逸國ノ現存船舶ノ噸數ハ其ノ攻擊ニ因リ同盟及聯合國ニ於テ喪失シタル船舶ノ噸數ニ比スレハ遙ニ小ナリト雖右承認セラレタル權利ハ左記條件ニ依リ獨逸船舶ニ對シテ之ヲ行使スヘシ

獨逸國政府ハ自己ノ名ニ於テ且一切ノ關係者ヲ拘束シテ總噸數千六百噸以上ノ獨逸商船全部、總噸數千噸以上千六百噸未滿ノ船舶ノ噸數計算ニ依ル二分ノ一、「トロール」汽船ノ噸數計算ニ依ル四分ノ一及其ノ他ノ漁船ノ噸數計算ニ依ル四分ノ一ニ對スル所有權ヲ同盟及聯合國政府ニ讓渡ス

二

獨逸國政府ハ本條約實施後二月以内ニ一ニ掲クル一切ノ船舶ヲ賠償委員會ニ引渡スヘシ

三

一ニ掲クル船舶ニハ（イ）獨逸商船旗ヲ掲揚スル又ハ掲揚スルノ權利アルモノ（ロ）獨逸國ノ國民、會社若ハ法人ノ所有ニ屬スルモノ又ハ同盟及聯合國ニ非サル國ノ會社若ハ法人ニシテ獨逸國民ノ管理若ハ指揮ノ下ニ在ルモノノ所有ニ屬スルモノ（ハ）（一）獨逸國内ニ於テ建造中ノモノ（二）獨逸國ノ國民、會社又ハ法人ノ計算ニ於テ同盟及聯合國ニ非サル國ニ於テ建造中ノモノノ全數ヲ含ム

四

獨逸國政府ハ右ノ如ク引渡スヘキ船舶ニ對スル權原證書ヲ提供スル爲

（イ）各船舶ニ付一切ノ負擔、擔保及留置權ヲ附帶セシムルコトナクシテ船舶ノ全所有權ヲ賠償委員會ニ移轉シタルコトヲ證明スル賣渡證書其ノ他ノ權原證書ヲ賠償委員會ノ要求ニ從ヒ同委員會ニ交付スヘシ

（ロ）船舶ヲ賠償委員會ノ處分ニ委スルコトヲ確保スル爲其ノ指示スル一切ノ措置ヲ執ルヘシ

五

獨逸國ハ賠償ノ附加トシテ同盟及聯合國政府ノ爲ニ獨逸造船所ニ於テ左ノ商船ヲ建造セシムルコトヲ約ス

（イ）賠償委員會ハ本條約實施後三月以内ニ其ノ三月ニ續ク二年間毎年獨逸造船所ニ於テ起工スヘキ噸數ヲ獨逸國政府ニ通告スヘシ

（ロ）賠償委員會ハ本條約實施後二年以内ニ前號ノ二年ニ續ク三年間毎年起工スヘキ噸數ヲ獨逸國政府ニ通告スヘシ

（ハ）毎年起工スヘキ噸數ハ總噸數合計二十萬噸ヲ超エサルモノトス

（ニ）建造スヘキ船舶ノ細目、建造及引渡ノ條件、賠償委員會ノ計算ニ供スヘキ噸當リ價格其ノ他一切ノ問題ニシテ船舶ノ計算、注文、建造及引渡ニ關スルモノハ委員會之ヲ決定スヘシ

六

獨逸國ハ千九百十四年八月一日以後如何ナル手段ニ依ルヲ問ハス自國又ハ自國民ノ占有ニ歸シタル内地航行用ノ船舶其ノ他ノ可動具ニシテ之ヲ識別シ得ルモノヲ賠償委員會ノ定ムル手續ニ依リ本條約實施後二月以内ニ現物ノ儘普通ノ保存狀態ニ於テ同盟及聯合國ニ還付スヘキコトヲ約ス

戰時中原因ノ如何ヲ問ハス同盟及聯合國ノ被リタル内地航行船舶ノ損失ニシテ前記ノ還付ニ依リ塡補スルコト能ハサルモノヲ補償スル爲獨逸國ハ右損失ノ總額ニ達スル迄獨逸國河川船隊ノ一部ヲ賠償委員會ニ讓渡スルコトニ同意ス但シ該讓渡ハ千九百十八年十一月十一日現在ノ河川船隊ノ二割ヲ超エサルヘシ

右讓渡ノ條件ハ特定ノ河川ニ適用セラルヘキ新國際制度ニ因リ又ハ該河川ニ關係ヲ有スル領土ノ變更ニ因リ生スヘキ河川航行船舶ノ分配ニ關スル紛爭ヲ裁定スルノ任務ヲ有スル第十二編（港、水路及鐵道）第三百三十九條ノ仲裁委員之ヲ決定スヘシ

七

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ同意ナクシテ戰時中中立國國籍ニ移轉シ又ハ現ニ移轉ノ中途ニ在ル一切ノ船舶ニ對シ完全ナル所有權ヲ取得スル爲賠償委員會ノ指示スル一切ノ措置ヲ執ルコトニ同意ス

八

獨逸國ハ一切ノ獨逸船舶ノ抑留、使用、喪失又ハ損害ニ付同盟及聯合國政府竝其ノ國民ニ對スル各種ノ請求權ヲ拋棄ス但シ千九百十九年一月十三日ノ休戰取極及其ノ後ノ取極ニ依ル船舶使用ニ關スル支拂ハ此ノ限ニ在ラス

獨逸商船ノ引渡ハ中斷スルコトナク右取極ニ從ヒ之ヲ繼續スルコトヲ要ス

九

獨逸國ハ同盟國若ハ聯合國政府又ハ其ノ國民カ所有者、傭船者、保險者其ノ他トシテ利害關係ヲ有スル船舶又ハ其ノ載貨ニシテ海軍ノ行動ニ依リ又ハ其ノ結果トシテ沈沒シ其ノ後救助セラレタルモノニ對シ獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ捕獲審檢所ニ於テ捕獲ノ宣告アリタル場合ト雖一切ノ請求權ヲ拋棄ス

第四附屬書

一

同盟及聯合國ハ獨逸國カ本編ニ掲クル其ノ債務ノ一部履行トシテ以下規定スル所ニ從ヒ同盟及聯合國ノ被侵入地ノ物質的囘復ノ爲該諸國ノ決定スル範圍内ニ於テ獨逸國ノ經濟的資源ヲ直接提供スヘキコトヲ要求シ獨逸國ハ之ヲ爲スコトヲ約ス

二

同盟及聯合國政府ハ左記ノ品目表ヲ賠償委員會ニ提出スルコトヲ得

（イ）獨逸國カ差押ヘ消費シ若ハ破壞シ又ハ軍事行動ノ直接ノ結果破壞セラレタル動物、機械、設備、器具其ノ他商的性質ヲ有スル類似ノ物品ニシテ同盟及聯合國政府ニ於テ即時緊急ノ必要ニ應スル爲本條約實施ノ日ニ於テ獨逸國領土内ニ現存スル同種ノ動物及物品ヲ以テ代償セラルルコトヲ欲スルモノ

（ロ）再築材料（石材、煉瓦、硬質煉瓦、瓦、木材、窗硝子、鋼鐵、石灰、「セメント」等）、機械、煖房具、家具其ノ他商的性質ヲ有スル類似ノ物品ニシテ同盟及聯合國政府ニ於テ被侵入地ノ囘復ノ爲獨逸國ニ於テ生產又ハ製造セシメ且交付セシメムコトヲ欲スルモノ

三

右二ノ（イ）號ニ掲クル物品ノ品目表ハ本條約實施後六十日以内ニ之ヲ提出スヘシ

二ノ（ロ）號ニ掲クル物品ノ品目表ハ千九百十九年十二月三十一日以前ニ之ヲ提出スヘシ

品目表ニハ當該物品ノ取引ニ關スル商業契約ノ慣習ニ從ヒ品種、引渡期日（但シ四年ヲ超ユルコトヲ得ス）及引渡地ヲ含ム一切ノ細目ヲ記載スヘシ尤モ物品ノ價格又ハ價額ハ左記ノ規定ニ從ヒ委員會之ヲ決定スヘシ

四

右品目表委員會ニ提出セラレタルトキハ委員會ハ直ニ獨逸國ニ要求スヘキ前記品目表ニ記載スル材料及動物ノ數量ヲ審査スヘシ委員會ハ此ノ決定ヲ爲スニ當リ獨逸國ノ社會的及經濟的生活ノ維持ニ緊要ナリト思考スル獨逸國ノ國内需要、獨逸品ニ對シ定ムヘキ價格及期日ト同盟及聯合國ニ於テ同種物品ヲ取得スル價格及期日トノ差等竝他ノ賠償義務ヲ履行スル獨逸國ノ能力ヲ阻礙スルニ至ルヘキ獨逸國ノ產業生活ノ攪亂ヲ生セシメサルコトニ付同盟及聯合國ノ一般的利益ヲ考量スヘシ

現ニ產業ニ使用中ノ機械、設備、器具及商的性質ヲ有スル類似ノ物品ハ現ニ使用セラレサル貯藏額ニシテ利用シ得ヘキモノナキ限リ獨逸國ニ之ヲ要求スルコトヲ得但シ其ノ要求額ハ一事業所又ハ一企業ヨリ各其ノ使用量三割以內ニ限ルヘシ

委員會ハ前記材料、物品及動物ヲ供給シ得ル獨逸國政府ノ能力ニ關シ意見陳述ノ機會及時間ヲ獨逸國政府ノ代表者ニ與フヘシ

委員會ノ決定ハ其ノ法定後成ルヘク速ニ獨逸國政府及利害關係ヲ有スル各同盟及聯合國政府ニ之ヲ通告スヘシ

獨逸國政府ハ該通告中ニ指定スル材料、物品及動物ヲ交付スヘキコトヲ約シ利害關係ヲ有スル同盟及聯合國政府ハ其ノ提出スル細目ニ該當セサル場合又ハ委員會ニ於テ回復作業ニ利用スルニ適セスト認ムル場合ヲ除クノ外此等ノ物品ヲ受領スヘキコトヲ各自ニ承諾ス

五

委員會ハ右規定ニ依リ交付セラルヘキ材料、物品及動物ノ價額ヲ決定スヘシ該物件ヲ受領スル各同盟及聯合國ハ該價額ヲ引受クヘキコトヲ承諾シ其ノ額ハ之ヲ本編第二百三十七條ノ規定ニ依リテ分配スヘキ獨逸國ノ支拂トシテ取扱フヘシ

前記物質的回復ヲ要求スル權利ヲ行使シタル場合ニ於テハ委員會ハ獨逸國ノ賠償義務ニ對シ其ノ貸方ニ計上セラルヘキ額カ獨逸國ノ爲シタル役務又ハ供給シタル材料ノ公正ナル價額タルヘキコト及關係國ノ要求ハ物質的回復ヲ以テ現ニ補償セラレタル損害ニ付テハ其ノ請求全損害額ニ對スル既補償損害額ノ割合ヲ限度トシテ控除セラルヘキコトヲ確保スヘシ

六

二ノ(イ)號ニ揭クル動物ニ付テハ獨逸國ハ即時ノ前渡トシテ本條約實施後三月內ニ均一ノ月賦ヲ以テ左記頭數ノ家畜ヲ交付スヘキコトヲ約ス

一　佛蘭西國政府ニ

種牡馬（三歲乃至七歲）	五百頭
仔牝馬及牝馬（十八月乃至七歲） 馬種ハ「アルデゥネー」、「ブーロンネー」又ハ白耳義種	三萬頭
牡牛（十八月乃至三歲）	二千頭
乳牛（二歲乃至六歲）	九萬頭
牡緬羊	一千頭
緬羊	十萬頭
山羊	一萬頭

二　白耳義國政府ニ

種牡馬（三歲乃至七歲）	大白耳義種	二百頭
牝馬（三歲乃至七歲）	大白耳義種	五千頭
仔牝馬（十八月乃至三歲）	大白耳義種	五千頭
牡牛（十八月乃至三歲）		二千頭
乳牛（二歲乃至六歲）		五萬頭
仔牝牛		四萬頭
牡緬羊		二百頭
緬羊		二萬頭
牝豚		一萬五千頭

引渡動物ハ普通ノ健康及狀態ヲ有スルモノタルヘシ

引渡サレタル動物ニシテ奪取セラレ又ハ差押ヘラレタルモノト識別シ得サルトキハ該動物ノ價額ハ本附屬書五ニ依リ獨逸國ノ賠償債務ニ對シ其ノ貸方ニ計上スヘシ

七

獨逸國ハ本附屬書四ニ揭クル委員會ノ決定ヲ俟ツコトナク千九百十九年一月十六日ノ休戰更新取極第三條ニ依ル佛蘭西國ニ對スル農業材料ノ引渡ヲ繼續スルコトヲ要ス

第五附屬書

一

獨逸國ハ下記ノ本條約署名國ニ對シ石炭及石炭製品ノ引渡ニ付左ノ選擇權ヲ付與ス

二

獨逸國ハ十年間每年石炭七百萬噸ヲ佛蘭西國ニ引渡スコトヲ約ス尙獨逸國ハ十年ヲ超エサル期間戰爭ノ結果破壞セラレタル「ノール」及「パ、ド、カレー」兩縣內ノ炭鑛ノ戰前年產額ト右期間ニ於ケル同地ノ炭鑛ノ產額トノ差額ニ相當スル石炭ヲ每年佛蘭西國ニ引渡スコトヲ約ス該引渡ハ最初ノ五年間ハ年二千萬噸、其ノ後ノ五年間ハ年八百萬噸ヲ超エサルヘシ「ノール」及「パ、ド、カレー」兩縣內ノ破壞セラレタル炭鑛ノ回復ニ付テハ相當ノ努力爲サルヘキモノトス

三

獨逸國ハ十年間每年石炭八百萬噸ヲ白耳義國ニ引渡スコトヲ約ス

四

獨逸國ハ伊太利國ニ對シ左記數量迄ノ石炭ヲ引渡スコトヲ約ス

千九百十九年七月ヨリ千九百二十年六月ニ至ル間	四百五十萬噸
千九百二十年七月ヨリ千九百二十一年六月ニ至ル間	六百萬噸
千九百二十一年七月ヨリ千九百二十二年六月ニ至ル間	七百五十萬噸
千九百二十二年七月ヨリ千九百二十三年六月ニ至ル間	八百萬噸
千九百二十三年七月ヨリ千九百二十四年六月ニ至ル間及其ノ後ノ五年間每年	八百五十萬噸

現實引渡量ノ少クトモ三分ノ二ハ陸上輸送タルヘシ

五

獨逸國ハ賠償委員會ノ指定アルトキハ更ニ盧森堡國ニ對シ戰前同國ニ於ケル獨逸石炭ノ消費年額ニ相當スル石炭ヲ每年引渡スコトヲ約ス

六

前記選擇權ニ基キ引渡サルル石炭ニ對シ支拂フヘキ價格ハ左ノ通トス

(イ)　陸上引渡（艀船ニ依ル引渡ヲ含ム）ニ對シテハ獨逸國民ニ對スル獨逸國坑口渡値段ニ佛蘭西國、白耳義國、伊太利國又ハ盧森堡國境ニ至ル運賃ヲ加ヘタルモノタルヘシ但シ右獨逸國坑口渡値段ハ輸出向英吉利國石炭坑口渡値段ヲ超エサルコトヲ條件トス白耳義國船用炭ノ場合ニ於テハ其ノ價格ハ和蘭國船用炭ノ價格ヲ超ユヘカラス

鐵道及艀船運賃ハ獨逸國ニ於テ支拂ハルル同種最低率ヲ超ユヘカラス

(ロ)　海上引渡ニ對シテハ獨逸港ニ於ケル船渡輸出値段又ハ英吉利港ニ於ケル船渡輸出値段ノ中低廉ナルモノニ依ル

七

關係同盟及聯合國政府ハ石炭四噸ニ對シ骸炭三噸ノ割合ヲ以テ石炭ノ代リニ冶金用骸炭ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得

八

獨逸國ハ本條約實施後三年間每年左記生產品ヲ佛蘭西國ニ引渡シ且鐵道又ハ水路ニ依リ佛蘭西國境迄之ヲ輸送スルコトヲ約ス

「ベンゾール」	三萬五千噸
「コールタール」	五萬噸
硫酸安母尼亞	三萬噸

「コールタール」ノ全部又ハ一部ハ佛蘭西國政府ノ選擇ニ依リ之ニ相當スル數量ノ輕油、重油、「アンスラシーン」、「ナフタリン」又ハ「ピッチ」ノ如キ乾溜生產品ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

九

骸炭及前項記載ノ物品ノ價格ハ發送及佛蘭西國境又ハ獨逸港迄ノ運送ニ關スル一切ノ條件カ同種生產品ニ付獨逸國民ニ許容セラルル最有利ナルモノナル場合ニ於テ獨逸國民ノ支拂フモノト同額タルヘシ

十

前記ノ選擇權ハ賠償委員會ノ仲介ヲ經テ之ヲ行使スヘシ該委員會ハ之ニ關スル特別規定ニ依リ手續、生產品ノ品質及數量、石炭ニ代リ得ヘキ骸炭ノ數量竝引渡及支拂ノ時期及方法ニ關スル一切ノ問題ヲ決定スル權能ヲ有ス委員會ハ獨逸國政府ニ對シ右選擇權ノ通告ヲ爲スニ當リ千九百二十年一月一日ヨリ後ニ於テ行ハルヘキ引渡ニ付テハ少クトモ百二十日前、千九百二十年一月一日前ニ於テ行ハルヘキ引渡ニ付テハ少クトモ三十日前ニ豫告スヘシ千九百十八年十二月二十五日ノ議定書（千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約第六條ノ施行）ノ規定ハ獨逸國カ本規定中ニ揭クル要求ヲ接受スル迄其ノ效力ヲ有ス七及八ニ依リ付與セラレタル代物要求權ノ行使ニ付獨逸國政府ニ與フヘキ豫告ハ賠償委員會ニ於テ充分ト認ムル期間ヲ存スヘシ委員會前記選擇權ノ全部ノ行使ヲ以テ獨逸國ノ產業上ノ需要ヲ過當ニ阻礙スヘシト認メタルトキハ引渡ノ延期又ハ取消ヲ爲シ且之ニ伴フ優先ニ關スル一切ノ問題ヲ決定スルノ權限ヲ有ス但シ破壞セラレタル炭鑛ノ石炭ヲ代償スヘキ石炭ハ他ノ引渡ニ對シ優先スヘシ

第六附屬書

一

獨逸國ハ本條約實施ノ日ニ於テ獨逸國ニ現存シ又ハ其ノ管理ニ屬スル各種染料及化學藥品貯藏額總量ノ各百分ノ五十ヲ超エサル範圍內ニ於テ委員會ノ指定スル數量及種類ノ染料及化學藥品ヲ引渡スコトヲ賠償ノ一部トシテ獨逸國ニ要求スルノ選擇權ヲ賠償委員會ニ許與ス

右選擇權ハ委員會ニ於テ其ノ必要ト認ムル貯藏額明細書ヲ受領シタル後六十日以內ニ之ヲ行使スヘシ

二

獨逸國ハ更ニ本條約實施ノ日ヨリ千九百二十年一月一日ニ至ル期間及爾後千九百二十五年一月一日ニ至ル迄每六月ノ期間各前六月間ニ於ケル獨逸國ノ全產額ノ百分ノ二十五ヲ超エサル限度ニ於テ各種特定ノ染料及化學藥品ヲ引渡スコトヲ要求スルノ選擇權ヲ賠償委員會ニ許與ス委員會上記各前六月間ノ生產額カ普通ノ生產額ヨリ少カリシコトヲ認ムルトキハ何レノ場合ニ於テモ其ノ要求額ヲ普通生產額ノ百分ノ二十五ト爲スコトヲ得

右選擇權ハ委員會ニ於テ其ノ必要ト認ムル形式ヲ具フル生產明細書ヲ受領シタル後四週間以內ニ之ヲ行使スヘシ該明細書ハ每六月ノ期間滿了後直ニ獨逸國政府ヨリ之ヲ提出スヘシ

三

一ニ依リ引渡サレタル染料及化學藥品ノ價格ハ其ノ戰前ノ純輸出價格及爾後ノ生產費增加ヲ參酌シテ委員會之ヲ決定ス

二ニ依リ引渡サレタル染料及化學藥品ノ價格ハ其ノ戰前ノ純輸出價格及爾後ノ生產費變動又ハ他ノ購買者ニ對スル同種染料及化學藥品ノ最低純賣價ヲ參酌シテ委員會之ヲ決定ス

四

選擇權行使及引渡ノ方法及時期其ノ他ノ一切ノ細目竝本協定ノ下ニ發生スル他ノ一切ノ問題ハ賠償委員會之ヲ決定ス獨逸國政府ハ委員會ニ對シ其ノ要求スル一切ノ必要ナル情報其ノ他ノ援助ヲ供與スヘシ

五

前記「染料及化學藥品」ニハ販賣ノ目的ヲ以テ製造スル一切ノ人造染料、人造藥品及染色ニ關聯シテ使用セラルル中間生產物其ノ他ノ生產物ヲ含ム本協定ハ規那皮及規那鹽類ニ對シ亦之ヲ適用ス

第七附屬書

獨逸國ハ自己及其ノ國民ノ名ニ於テ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ左記海底電信線又ハ其ノ一部ニ關スル各種ノ權利、權原又ハ特權ヲ抛棄ス

「エムデン」―「ヴィゴー」	「ドーヴァー」海峽ヨリ「ヴィゴー」沖ニ至ル
「エムデン」―「ブレスト」	「シェルブール」沖ヨリ「ブレスト」ニ至ル
「エムデン」―「テネリッフェ」	「ダンケルク」沖ヨリ「テネリッフェ」沖ニ至ル
「エムデン」―「アゾーレス」(一)	「ドーヴァー」海峽ヨリ「ファヤール」ニ至ル
「エムデン」―「アゾーレス」(二)	「ドーヴァー」海峽ヨリ「ファヤール」ニ至ル
「アゾーレス」―紐育(一)	「ファヤール」ヨリ紐育ニ至ル
「アゾーレス」―紐育(二)	「ファヤール」ヨリ「ハリファックス」ノ經度ニ至ル
「テネリッフェ」―「モンロヴィア」	「テネリッフェ」沖ヨリ「モンロヴィア」沖ニ至ル
「モンロヴィア」―「ローム」	北緯二度三十分、綠威西經七度四十分ノ邊ヨリ北緯二度二十分、綠威西經五度三十分ノ邊ニ至ル及北緯三度四十八分、經度零度零分ノ邊ヨリ「ローム」ニ至ル
「ローム」―「デュアラ」	「ローム」ヨリ「デュアラ」ニ至ル
「モンロヴィア」―「ペルナンブコ」	「モンロヴィア」沖ヨリ「ペルナンブコ」沖ニ至ル
「コンスタンティノープル」―「コンスタンザ」	「コンスタンティノープル」ヨリ「コンスタンザ」ニ至ル
「ヤップ」―上海、「ヤップ」―「グアム」及「ヤップ」―「メナド」（「セレベス」）	「ヤップ」島ヨリ上海ニ、「ヤップ」島ヨリ「グアム」島ニ及「ヤップ」島ヨリ「メナド」ニ至ル

前記各海底電信線又ハ其ノ一部ニシテ私有ニ屬スルモノニ對スル價額ハ相當ナル減價見積額ヲ控除シタル原經費ヲ基礎トシテ計算シ賠償計算ニ於テ之ヲ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシ

第二款　特別規定

第二百四十五條

獨逸國政府ハ佛蘭西國政府ノ送付スル目錄ニ照シ千八百七十年―千八百七十一年ノ戰爭中及今次ノ戰爭中獨逸國官憲カ佛蘭西國ヨリ奪取シタル戰利品、記錄、歷史的記念物又ハ美術品殊ニ千八百七十年―千八百七十一年ノ戰爭中ニ奪取シタル佛蘭西國國旗及千八百七十年十月十日前國務大臣「ルーエル」氏カ當時所有シタル「アリューノア」（「セーヌ、エ、オアーズ」縣）附近「セルセイ」ノ城ニ於テ獨逸國官憲ノ奪取シタル一切ノ政治文書ヲ本條約實施後六月以內ニ佛蘭西國政府ニ還付スルコトヲ要ス

第二百四十六條

獨逸國ハ土耳其國官憲カ前皇帝維廉二世ニ贈與スル爲「メディナ」ヨリ持去リタル「カリフ、オスマン」ノ「コーラン」原本ヲ本條約實施後六月以內ニ「ヘヂァーズ」國皇帝陛下ニ還付スヘシ

獨逸國ハ獨逸國東亞弗利加保護領ヨリ獨逸國ニ移サレタル「サルタン、ムクワワ」ノ髑髏ヲ同期間內ニ英國政府ニ引渡スヘシ

前記物件ノ引渡ハ各其ノ返還ヲ受クヘキ政府ノ指定スル地及條件ニ於テ之ヲ實行スヘシ

第二百四十七條

獨逸國ハ「ルーヴァン」大學ノ提出シタル要求カ賠償委員會ヲ經由シテ傳達セラレタル後三月以內ニ其ノ「ルーヴァン」圖書館ノ燒燬ニ因リ滅失シタル寫本、「インキュナブュラ」、版本、地圖及蒐集品ト個數及價額ニ於テ相當スル同種ノ物ヲ同大學ニ供給スルコトヲ約ス右代償ニ關スル一切ノ細目ハ賠償委員會之ヲ決定スヘシ

獨逸國ハ白耳義國ヲシテ二大美術品ヲ回復セシムル爲本條約實施後六月以內ニ賠償委員會ヲ經由シ左ノ物件ヲ白耳義國ニ引渡スコトヲ約ス

一　以前「ガン」ノ「サン、バヴォン」教會堂內ニ在リ現ニ伯林博物館ニ藏スル「ヴァン、エイク」兄弟筆「羔羊」ノ三對畫

二　以前「ルーヴァン」ノ「サン、ピエール」教會堂內ニ在リ現ニ其ノ二個ハ伯林博物館ニ、他ノ二個ハ「ミュンヒェン」ノ古「ピナコテーク」ニ藏スル「ディーリック、ブーツ」筆「最後ノ晚餐」ノ三對畫

第九編　財政條項

第二百四十八條

賠償委員會ノ承認スヘキ例外ノ場合ヲ除クノ外本條約又ハ其ノ附屬ノ條約若ハ取極竝休戰期間及其ノ延長期間中獨逸國ト同盟及聯合國トノ間ニ締結セラレタル協定ニ依リ生シタル賠償額其ノ他一切ノ費額ハ獨逸帝國及其ノ各邦ノ一切ノ資產及收入ノ上ニ第一順位ノ優先權ヲ有ス

獨逸國政府ハ千九百二十一年五月一日ニ至ル迄ハ同盟及聯合國ヲ代表スル賠償委員會ノ承

認ヲ徵メ受クルコトナクシテ金ヲ輸出シ又ハ處分スルコトナカルヘク又其ノ輸出又ハ處分ヲ許スコトナカルヘシ

第二百四十九條

獨逸國政府ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約署名ノ日ヨリ獨逸國版圖內ノ占領地ニ在ル同盟及聯合國ノ一切ノ軍隊ノ經費全額ヲ支拂フヘシ右經費中ニハ兵員及軍用動物ノ給養、宿舍、俸給、手當及賃銀、寢具、煖房、燈火、被服、裝具、馬具、兵器、車輛、航空勤務、傷病者手當、獸醫勤務及軍用動物補充勤務、各種輸送（鐵道、河海、自動貨車ニ依ルモノ等）通信其ノ他一般ニ軍隊ヲ訓練シ其ノ兵力ヲ維持シ及其ノ軍事上ノ能率ヲ保存スル爲必要ナル一切ノ行政上又ハ專門事項上ノ施設費ヲ包含スヘシ

前項ニ掲クル各種ノ經費ニシテ占領地ニ於タル同盟及聯合國政府ノ買入又ハ徵發ニ關スルモノハ其ノ當時ノ爲替相場又ハ協定爲替相場ヲ以テ換算シタル「麻」金貨ヲ以テ獨逸國政府ヨリ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘク其ノ他一切ノ經費ハ「麻」金貨ヲ以テ之ヲ支拂フヘシ

第二百五十條

獨逸國ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約及其ノ後ノ休戰取極ニ依リ同盟及聯合國ニ交付シタル一切ノ物資ノ讓渡ヲ確認シ且其ノ物資ニ對スル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス

千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約第七條及千九百十九年一月十六日ノ休戰取極第三條ニ依リ交付セラレタル物資並右十一月十一日ノ休戰條約及其ノ後ノ休戰取極ニ依リ交付セラレタル他ノ一切ノ物資ニシテ第八編（賠償）第二百三十三條ノ賠償委員會カ軍事上ノ價値ナク獨逸國ノ貸方ニ計上スヘシト認メタルモノニ付テハ賠償委員會其ノ價額ヲ評定シ同盟及聯合國ノ爲獨逸國政府ノ負擔スル金額ニ對シ獨逸國政府ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

休戰條約及休戰取極ニ依リ現物ヲ以テ回收セラレ又ハ引渡サレタル同盟及聯合國ノ政府又ハ國民ニ屬スル財產ハ獨逸國政府ノ貸方ニ計上セラルルコトナシ

第二百五十一條

第二百四十八條ニ依ル優先權ノ順位ハ本條第二項ノ特例ヲ除クノ外左ノ如シ

（イ） 休戰期間及其ノ延長期間ニ於ケル占領軍ノ經費ニシテ第二百四十九條ニ定ムルモノ

（ロ） 本條約實施後ニ於ケル占領軍ノ經費ニシテ第二百四十九條ニ定ムルモノ

（ハ） 本條約又ハ其ノ附屬ノ條約ヨリ生スル賠償額

（ニ） 休戰條約及休戰取極又ハ本條約若ハ其ノ附屬條約ニ依リ獨逸國ノ負擔スル他ノ一切ノ債務額

食料品及原料品ノ供給ニ對スル支拂其ノ他獨逸國ノ爲スヘキ支拂ニシテ同盟及聯合國カ獨逸國ヲシテ其ノ賠償ノ債務ヲ履行セシムル爲必要ナリト認メタルモノハ右諸國政府ノ定メタル又ハ定ムヘキ範圍及條件ノ下ニ優先ノ順位ヲ有スヘシ

第二百五十二條

前數條ノ規定ハ各同盟及聯合國カ本條約實施ノ日ニ於テ其ノ法權內ニ在ル敵ノ資產及財產ヲ處分スルノ權利ニ影響スルコトナシ

第二百五十三條

前數條ノ規定ハ各同盟及聯合國カ其ノ獨逸國トノ開戰ノ日ニ先チ獨逸帝國若ハ其ノ各邦又ハ獨逸國民カ當時其ノ所有シタル資產ノ上ニ該同盟及聯合國又ハ其ノ國民ノ爲適法ニ設定シタル擔保權ニ何等影響スルコトナシ

第二百五十四條

獨逸國ノ領土ノ讓渡ヲ受クル諸國ハ第二百五十五條ノ制限ノ下ニ左ノ支拂義務ヲ引受クヘシ

一 千九百十一年、千九百十二年及千九百十三年ノ三會計年度ニ於ケル讓渡地域ノ收入平均額及同年度ニ於ケル獨逸帝國全版圖ノ收入平均額ニシテ賠償委員會ニ於テ此等地域ノ相對的支拂能力ヲ表示スルニ最適當ナリト認メタルモノノ割合ヲ基礎トシテ算出シタル千九百十四年八月一日現在ノ獨逸帝國ノ金錢債務ノ一部分

二 當該讓渡地域ノ屬シタル獨逸各邦ノ千九百十四年八月一日現在ノ金錢債務中前號ノ原則ニ依リ定メラルヘキ部分

前記引受部分ハ賠償委員會之ヲ定ムヘシ

前記引受債務ノ履行方法ハ元金及利息ニ付賠償委員會之ヲ定ムヘシ其ノ一方法トシテ領土讓受國カ獨逸國民ノ有スル獨逸國公債ニ對スル獨逸國ノ義務ヲ引受クルノ形式ヲ採ルコトヲ得獨逸國政府ニ對シ金錢ノ支拂ヲ要スルカ如キ方法ヲ採用シタル場合ニ於テハ獨逸國賠償額未拂部分ノ存スル限リ之ニ充當スル爲該支拂金ハ之ヲ賠償委員會ニ交付スヘシ

第二百五十五條

一 右ノ例外トシテ且千八百七十一年獨逸國カ佛蘭西國公債ノ引受ヲ拒絕シタルノ事實ニ顧ミ佛蘭西國ハ「アルザス、ロレーヌ」ニ付テハ第二百五十四條ニ依ル支拂義務ヲ負フコトナカルヘシ

二 波蘭國ニ付テハ賠償委員會ニ於テ獨逸國及普魯西ノ政府ノ波蘭ニ於ケル獨逸殖民政策ニ基因スルモノト認メタル公債ニ限リ第二百五十四條ニ依ル其ノ割當中ヨリ之ヲ除外スヘシ

三 「アルザス、ロレーヌ」以外ノ一切ノ讓渡地域ニ付テハ賠償委員會ニ於テ獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ政府カ第二百五十六條ノ官有財產ノ爲ニ費シタル支出ニ該當スト認メタル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ公債ニ限リ第二百五十四條ニ依ル割當中ヨリ之ヲ除外スヘシ

第二百五十六條

獨逸國ノ領土ノ讓渡ヲ受クル諸國ハ其ノ讓受地域內ニ在ル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ニ屬スル一切ノ財產及所有物ヲ取得スヘシ其ノ取得物ノ價額ハ賠償委員會之ヲ定メ且獨逸國政府ノ貸方トシテ其ノ賠償金額ニ計上セシムル爲該讓受國ヨリ賠償委員會ニ之ヲ拂込ムヘシ

本條ノ獨逸帝國及其ノ各邦ノ財產及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財產及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財產ノ全部ヲ包含ス

千八百七十一年「アルザス、ロレーヌ」ヲ獨逸國ニ讓渡シタル條件ニ顧ミ佛蘭西國ハ「アルザス、ロレーヌ」ニ在ル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ財產及所有物ニ對シテ本條ニ依リ支拂ヲ爲シ又ハ貸方ニ計上スルコトナカルヘシ

白耳義國ハ本條約ニ依リ同國ニ讓渡セラルル獨逸國ノ領土內ニ在ル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ財產及所有物ニ對シ亦本條ニ依リ支拂ヲ爲シ又ハ貸方ニ計上スルコトナカルヘシ

第二百五十七條

獨逸國ノ舊領土（殖民地、保護領又ハ屬領地ヲ含ム）ニシテ本條約第一編（國際聯盟）第二十二條ニ依リ受任國ニ於テ施政ヲ行フニ付テハ該領土又ハ受任國ハ共ニ獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ公債ノ何レノ部分ヲモ負擔スルコトナカルヘシ

前記領土內ニ在ル獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スル一切ノ財產及所有物ハ受任國タル資格ニ於テ讓受クヘク且其ノ對價トシテ獨逸國又ハ獨逸各邦ノ政府ニ對シ何等支拂ヲ爲シ又ハ貸方ニ計上スルコトナカルヘシ

本條ノ獨逸帝國及獨逸各邦ノ財產及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財產及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財產ノ全部ヲ包含ス

第二百五十八條

獨逸國ハ各同盟及聯合國、墺地利國、洪牙利國、勃爾牙利國、土耳其國、右諸國ノ屬領地又ハ前露西亞帝國ニ於テ管理又ハ行政ノ權能ヲ行使スル委員會、國立銀行、代表機關其ノ他國際的性質ヲ有スル金融上又ハ經濟上ノ機關ノ管理又ハ行政ニ付各種ノ條約又ハ取極ニ依リ獨逸國又ハ其ノ國民ニ許與セラレタル一切ノ代表權又ハ參加權ヲ拋棄ス

第二百五十九條

一 獨逸國ハ本條約實施後一月以內ニ土耳其國政府紙幣第一回發行ノ保證トシテ土耳其國公債管理委員會ノ名ヲ以テ獨逸帝國銀行ニ寄託スヘカリシ額ノ金ヲ主タル同盟及聯合國ノ指定スル官憲ニ引渡スコトヲ約ス

二 獨逸國ハ土耳其國政府紙幣第二回及其ノ後ノ發行ニ對スル保證トシテ土耳其國公債管理委員會ノ名ヲ以テ獨逸國カ時時寄託シタル獨逸國大藏省證券面ノ規定ニ依リ十二年間每年金ヲ以テ支拂ヲ爲スノ義務ヲ承認ス

三 獨逸國ハ千九百十五年五月五日ノ協定ニ依リ土耳其國公債管理委員會ヨリ土耳其國政府ニ對スル金ヲ以テシタル貸出ノ殘高タル獨逸帝國銀行其ノ他ニ預入ノ金ヲ本條約實施後一月以內ニ主タル同盟及聯合國ノ指定スル官憲ニ引渡スコトヲ約ス

四 獨逸國ハ千九百十九年五月支拂ヲ爲スヘキ土耳其國內國公債ノ元利償還ノ爲千九百十八年十一月中土耳其國大藏省ニ交付シタル金銀ノ額ニ對シ獨逸國ノ有スヘキ權利ヲ主タル同盟及聯合國ニ讓渡スルコトヲ約ス

五 獨逸國ハ獨逸國又ハ其ノ國民カ墺地利洪牙利國政府ニ對シ爲シタル貸付金ニ關聯シ擔保トシテ獨逸國又ハ其ノ國民ニ引渡サレタル額ノ金ヲ本條約實施後一月以內ニ主タル同盟及聯合國ニ引渡スコトヲ約ス

六 獨逸國ハ「ブカレスト」條約及「ブレスト、リトウスク」條約並其ノ附屬條約ニ規定シタル利益ヲ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約第十五條ニ依リ拋棄スルコトヲ確認ス但シ第十編（經濟條項）第二百九十二條ノ適用ヲ妨ケス

七 獨逸國ハ前記諸條約ニ依リ收受シタル一切ノ金錢證書、正金、有價證券及流通證券又ハ物品ヲ羅馬尼亞國又ハ主タル同盟及聯合國ニ夫々引渡スコトヲ約ス

本條ノ規定ニ依リ引渡シ支拂ヒ又ハ讓渡セラルヘキ現金、一切ノ有價證券、證書及物品ハ主タル同盟及聯合國其ノ今後決定スヘキ方法ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第二百六十條

本條約ノ他ノ規定ニ依リ獨逸國カ自國又ハ其ノ國民ニ屬スル權利ヲ拋棄スル場合ヲ除クノ外賠償委員會ハ本條約實施後一年以內ニ露西亞國、支那國、土耳其國、墺地利國、洪牙利國及勃爾牙利國ニ於テ、此等諸國ノ屬地屬領地內ニ於テ又ハ本條約ニ依リ受任國カ施政ヲ行フヘキ若ハ他國ニ讓渡セラルヘキ獨逸國若ハ其ノ同盟國ノ舊領土內ニ於テ經營セラルル公共事業又ハ特許事業ニ關スル獨逸國民ノ權利及利益ヲ獨逸國政府カ取得スルコトヲ要求スルコトヲ得ヘク且該政府ニ對シ其ノ取得シタル一切ノ前記ノ權利又ハ利益及同政府自身ノ有スル同種ノ權利及利益ヲ右要求ノ日ヨリ六月以內ニ賠償委員會ニ讓渡スルコトヲ求ムルコトヲ得

獨逸國ハ右ニ依リ權利及利益ヲ失ヒタル其ノ國民ニ對シ賠償ノ責ヲ負フヘシ賠償委員會ハ讓渡セラレタル權利及利益ノ價格トシテ其ノ評定シタル金額ヲ獨逸國ノ賠償負擔額ニ對シ其ノ貸方ニ計上スヘシ前記一切ノ權利及利益ハ其ノ既ニ付與セラレタルト條件附ナルト未タ行使セラレサルトヲ問ハス本條約實施後六月以內ニ獨逸國政府ハ賠償委員會ニ之ヲ通知スヘク其ノ通知ニ洩レタル權利及利益ハ獨逸國ハ自國トシテ及其ノ國民ニ代リテ同盟及聯合國ノ爲ニ總テ之ヲ拋棄スヘシ

第二百六十一條

獨逸國ハ墺地利國、洪牙利國、勃爾牙利國又ハ土耳其國ノ政府ニ對シ有スル支拂又ハ償還ノ請求權殊ニ獨逸國カ戰時中右諸國政府ト締結シタル約定ノ履行ノ結果發生スル現在又ハ今後ノ一切ノ請求權ヲ同盟及聯合國ニ讓渡スルコトヲ約ス

第二百六十二條

本條約ニ依リ發生シ且「麻」金貨ナル文字ニテ表示セラルル獨逸國ノ金錢上ノ債務ハ債權者ノ選擇ニ從ヒ倫敦拂「磅」金貨、紐育拂亞米利加合衆國「弗」金貨、巴里拂「法」金貨又ハ羅馬拂「利」金貨ニテ之ヲ支拂フヘシ

右金貨ハ本條ノ適用上千九百十四年一月一日現在ノ法定重量及法定品位ヲ有スヘキモノトス

第二百六十三條

獨逸國ハ漢堡「ブレーメン」、「アンヴェルス」及「トリエスト」ノ諸港ニ於テ賣却シタル「サン、パウロ」州所有ノ珈琲ノ代金トシテ在伯林「ブライヒレーデル」銀行ニ預入シタル總金額ヲ今後協定スヘキ利息ヲ附シ辨償スヘキコトヲ伯刺西爾國政府ニ保證ス又獨逸國ハ前記金額ヲ正當ノ時期ニ「サン、パウロ」州ニ引渡スコトヲ妨ケタルニ依リ右辨償ハ預入當時ノ爲替相場ヲ以テ行ハルヘキコトヲ保證ス

第十編　經濟條項

第一款　通商關係

第一章　稅關規則、稅金及制限

第二百六十四條

獨逸國ハ其ノ版圖內ニ輸入セラルル同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ生產又ハ製造ニ係ル貨物ニ對シ其ノ何レノ地ヨリ來ルヲ問ハス他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ外國ノ生產又ハ製造ニ係ル同種ノ貨物ニ對シ課スルト異ルカ又ハ之ヨリ高キ稅金又ハ課金（內國課稅金ヲ含ム）ヲ課セサルコトヲ約ス

獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ版圖內ノ生產又ハ製造ニ係ル貨物ノ獨逸國ノ版圖內ヘノ輸入ニ對シ其ノ何レノ地ヨリ來ルヲ問ハス他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ外國ノ生產又ハ製造ニ係ル同種ノ貨物ノ輸入ニ對シ均シク及ホササル禁止若ハ制限ヲ加ヘ又ハ之ヲ存續スルコトナカルヘシ

第二百六十五條

獨逸國ハ又輸入ニ適用スヘキ制度ニ關シ同盟及聯合國ノ一國ノ通商ニ對シ稅關規則若ハ稅關手續、檢定若ハ分析方法、稅金納付ノ條件、稅率表ノ分類若ハ解釋又ハ專賣制ノ作用ノ如キ間接ノ方法ニ依リテモ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ外國ニ比シ何等差別アル取扱ヲ爲ササルコトヲ約ス

第二百六十六條

輸出ニ關スル一切ノ事項ニ付獨逸國ハ其ノ版圖ヨリ同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ版圖ニ輸出セラルル天產物又ハ製造品タル貨物ニ對シ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ外國ニ輸出セラルル同種ノ貨物ニ對シ課スルト異ルカ又ハ之ヨリ高キ稅金又ハ課金（內國課稅金ヲ含ム）ヲ課セサルコトヲ約ス

獨逸國ハ其ノ版圖ヨリ同盟國又ハ聯合國ノ一國ニ仕向ケラルル貨物ノ輸出ニ對シ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ外國ニ仕向ケラルル天產物又ハ製造品タル同種ノ貨物ノ輸出ニ對シ均シク及ホササル禁止若ハ制限ヲ加ヘ又ハ之ヲ存續スルコトナカルヘシ

第二百六十七條

貨物ノ輸入、輸出又ハ通過ニ關シ獨逸國カ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ他ノ外國ニ許與スル一切ノ恩典、免除又ハ特權ハ卽時且無條件ニテ又請求ヲ俟タス且無償ニテ一切ノ同盟及聯合國ニ及ホサルヘシ

第二百六十八條

本章第二百六十四條乃至第二百六十七條及第十二編（港、水路及鐵道）第三百二十三條ノ規定ニ左ノ例外ヲ設ク

（イ） 佛蘭西國ニ復歸シタル「アルザス」及「ロレーヌ」ノ地域內ニ原產シ且其ノ地域ヨリ來ル天產物又ハ製造品ハ本條約實施後五年間獨逸國ノ關稅地域內ニ輸入セラルルニ當リ一切ノ關稅ヲ免除セラルヘシ

佛蘭西國政府ハ此ノ免除ヲ享受スヘキ生產品ノ性質及數量ヲ每年命令ヲ以テ定ムヘク其ノ命令ハ獨逸國政府ニ之ヲ通告スヘシ

右ニ依リ每年獨逸國內ニ仕向ケ得ル各種生產品ノ數量ハ千九百十一年乃至千九百十三年ニ仕向ケラレタル每年ノ數量ノ平均額ヲ超過スヘカラス

前記ノ期間獨逸國政府ハ又漂白、染色、捺染、「マーセライズ」、「瓦斯燒」、撚掛又ハ撚付ノ如キ仕上工程ヲ經ル爲獨逸國ヨリ「アルザス」又ハ「ロレーヌ」ノ地域內ニ仕向ケラルル一切ノ種類及一切ノ狀態ニ於ケル絲、織物其ノ他ノ織物原料又ハ織物製品ニ對シ獨逸國ヨリノ輸出及獨逸國ヘノ再輸入ヲ自由ナラシメ一切ノ關稅其ノ他ノ課金（內國課稅金ヲ含ム）ヲ免除スヘシ

（ロ） 戰爭前獨逸國ノ一部ナリシ波蘭國ノ版圖內ニ原產シ且其ノ版圖ヨリ來ル天產物又ハ製造品ハ本條約實施後三年間獨逸國ノ關稅地域內ニ輸入セラルルニ當リ一切ノ關稅ヲ免除セラルヘシ

波蘭國政府ハ此ノ免除ヲ享受スヘキ生產品ノ性質及數量ヲ每年命令ヲ以テ定ムヘク其ノ命令ハ獨逸國政府ニ之ヲ通告ス

右ニ依リ每年獨逸國ニ仕向ケ得ル各種生

產品ノ數量ハ千九百十一年乃至千九百十三年ニ仕向ケラレタル毎年ノ數量ノ平均額ヲ超過スヘカラス

（ハ）同盟及聯合國ハ本條約實施後五年間盧森堡大公國內ニ原產シ且同大公國ヨリ來ル天產物及製造品カ獨逸國ノ關稅地域內ニ輸入セラルルニ當リ關稅ノ免除ヲ許與セラルヘキコトヲ獨逸國ニ要求スルノ權利ヲ留保ス

本制度ノ利益ヲ享受スヘキ生產品ノ性質及數量ハ毎年獨逸國政府ニ之ヲ通告ス

右ニ依リ毎年獨逸國內ニ仕向ケ得ル各種生產品ノ數量ハ千九百十一年乃至千九百十三年ニ仕向ケラレタル毎年ノ數量ノ平均額ヲ超過スヘカラス

第二百六十九條

本條約實施後最初ノ六月間ニ於テハ同盟及聯合國ヨリノ輸入品ニ對シ獨逸國ノ課スル稅金ハ千九百十四年七月三十一日ニ於テ獨逸國內ヘノ輸入品ニ對シ適用セラレタル最惠稅金ヨリ高カルヘカラス

前項ノ期間滿了後更ニ三十月ノ期間前項ノ規定ハ千九百二年十二月二十五日ノ獨逸國關稅定率表第一類甲款中ニ包含セラレ且前項ノ日(千九百十四年七月三十一日)ニ於テ同盟及聯合國トノ條約ニ依ル協定稅率ノ適用ヲ受ケタル生產品竝千九百十四年七月三十一日前ニ特別協定品タリシト否トヲ問ハス各種ノ葡萄酒及植物油、人造絹絲及洗毛ニ關シ特ニ引續キ適用セラルヘシ

第二百七十條

同盟及聯合國ハ其ノ軍隊ノ占領スル獨逸國ノ版圖內ノ人民ノ經濟上ノ利益ヲ保障スル爲必要ナリト認メタル場合ニ於テハ輸出入品ニ關スル特別ノ關稅制度ヲ該占領地域內ニ施行スルノ權利ヲ留保ス

第二章　海運

第二百七十一條

同盟及聯合國ノ船舶ハ海上漁業、海上沿岸貿易及海上曳船ニ關シ獨逸國ノ領水內ニ於テ最惠國ノ船舶ニ許與セラルル待遇ヲ享受スヘシ

第二百七十二條

獨逸國ハ北海ニ於ケル漁業及火酒類販賣ニ關スル條約中ニ存スル反對ノ規定ニ拘ラス臨檢及警察上ノ一切ノ權利ハ同盟國ノ漁船ニ付テハ專ラ同盟國ノ船舶ヲ以テ之ヲ行フコトニ同意ス

第二百七十三條

同盟國又ハ聯合國ノ船舶ニ付テハ船舶ニ關スル各種ノ證明書及書類ニシテ戰前獨逸國ニ於テ有效ト認メラレ又ハ今後主要海運國ニ於テ有效ト認メラルヘキモノハ獨逸國之ヲ有效ト認メ且獨逸船舶ニ發給シタル同種ノ證明書ト同等ノ效力ヲ有スルモノト認ムヘシ

新國ノ政府カ自國ノ船舶ニ發給シタル證明書及書類ニ付テモ其ノ書類カ主要海運國ノ遵由スル一般ノ慣行ニ從ヒ發給セラルル限リ其ノ國カ海岸ヲ有スルト否トヲ問ハス前項ト同樣ノ承認ヲ與ヘラルヘシ

締約國ハ海岸ヲ有セサル同盟國又ハ聯合國ノ船舶ニシテ其ノ版圖內ノ或一定ノ地ニ於テ登錄セラレタルモノノ揭揚スル國旗ヲ承認スルコトニ同意ス其ノ地ハ之ヲ其ノ船舶ノ船籍港ト看做ス

第三章　不正競爭

第二百七十四條

獨逸國ハ商業取引上ノ一切ノ形式ノ不正競爭ニ對シ同盟及聯合國ノ一國ノ生產又ハ製造ニ係ル貨物ヲ保護スルニ必要ナル一切ノ立法上及行政上ノ措置ヲ執ルヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ貨物ノ原產地、標型、性質又ハ特徵ニ付直接又ハ間接ニ虛僞ノ表示ヲ爲サムカ爲ニ貨物自體又ハ其ノ外裝若ハ包裝上ニ附シタル標章、名稱、意匠又ハ記載ヲ有スル一切ノ貨物ノ獨逸國版圖內ニ於ケル輸入、輸出、製造、分配、販賣又ハ販賣ノ提供ヲ差押其ノ他適當ナル救濟方法ニ依リ禁止及防遏スヘキコトヲ約ス

第二百七十五條

獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國ニ生產セラルル葡萄酒又ハ火酒ニ其ノ國ニ屬スル一地方ノ名稱ヲ附スルノ權利又ハ其ノ地方名ノ使用ヲ許スニ付テノ條件ヲ決定又ハ規定スル法令又ハ其ノ法令ニ依リ行フ行政上若ハ司法上ノ裁決ニシテ同盟國又ハ聯合國ニ於テ現ニ效力ヲ有シ且適當ノ官憲ヨリ正式ノ通告ヲ受ケタルモノハ此ノ事項ニ關シ相互待遇ヲ許與セラルルコトヲ條件トシテ之ヲ尊重スヘキコトヲ約ス其ノ法令又ハ裁決ニ違反シテ地方名ヲ附シタル生產品又ハ物品ノ輸入、輸出、製造、分配、販賣又ハ販賣ノ提供ハ獨逸國之ヲ禁止シ且前條ニ規定スル措置ニ依リ之ヲ防遏スヘシ

第四章　同盟及聯合國ノ國民ノ待遇

第二百七十六條

獨逸國ハ左ノ事項ヲ約ス

（イ）生業、職業、商業及產業ニ從事スルコトニ關シ同盟及聯合國ノ國民ニ對シ一切ノ外國人ニ例外ナク均シク適用セラレサル何等ノ禁止ヲ加ヘサルコト

（ロ）前號ニ規定スル權利ニ關シ同盟及聯合國ノ國民ニ對シ前號ノ規定ニ直接又ハ間接ニ違反スル規則ヲ適用シ又ハ制限ヲ加ヘ又ハ最惠國國民ニ對シ適用スルト異ルカ若ハ之ヨリ不利益ナル規則ヲ適用シ又ハ制限ヲ加ヘサルコト

（ハ）同盟及聯合國ノ國民、其ノ財產、權利又ハ利益竝其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社又ハ組合ニ對シ獨逸國民、其ノ財產、權利又ハ利益ニ對シ課シ又ハ課スルコトアルヘキ課金、租稅又ハ賦課ト異ルカ又ハ之ヨリ高キ課金、租稅又ハ賦課ヲ直接又ハ間接ニ課セサルコト

（ニ）千九百十四年七月一日ニ同盟及聯合國ノ國民ニ對シテ適用セラレサリシ制限ハ獨逸國民ニ對シ均シク之ヲ加フルニ非サレハ同盟及聯合國ノ一國ノ國民ニ對シ之ヲ加ヘサルコト

第二百七十七條

同盟及聯合國ノ國民ハ獨逸國版圖內ニ於テ其ノ身體、財產、權利及利益ニ對シテ常ニ保護ヲ受クヘク且自由ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘシ

第二百七十八條

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ法令ニ依リ及其ノ同盟及聯合國ノ當該官憲カ歸化法又ハ條約ノ規定ニ從ヒテ爲シタル裁決ニ依リ獨逸國民ノ取得シ又ハ取得スルコトアルヘキ新國籍ヲ承認シ且其ノ國民ハ之ヲ新國籍取得ノ結果一切ノ關係ニ於テ其ノ原國籍國ニ對スル忠誠ノ義務ヲ離脫シタルモノト認ムヘキコトヲ約ス

第二百七十九條

同盟及聯合國ハ獨逸國ノ都市及港ニ總領事、領事、副領事及領事事務官ヲ駐在セシムルコトヲ得其ノ總領事、領事、副領事及領事事務官ノ氏名ハ之ヲ獨逸國ニ通知スヘク獨逸國ハ其ノ任命ヲ承認シ且通常ノ規則及慣例ニ依ル其ノ職務ノ執行ヲ許容スヘキコトヲ約ス

第五章　一般規定

第二百八十條

本款第一章竝第二章第二百七十一條及第二百七十二條ニ依リ獨逸國ニ課セラレタル義務ハ本條約實施後五年以後ニハ消滅スヘシ但シ本條約中別段ノ規定アルカ又ハ國際聯盟理事會カ前記期間滿了ノ時ヨリ少クトモ十二月前ニ其ノ義務ニ改正ヲ加ヘ又ハ加フルコトナクシテ更ニ一定ノ期間之ヲ存續セシムルコトヲ決シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四章第二百七十六條ハ五年ノ期間滿了後更ニ五年ヲ超エサル一定ノ期間ヲ國際聯盟理事會ノ過半數ニ依リ決定スルコトアルトキハ其ノ期間改正ヲ加ヘ又ハ加フルコトナクシテ其ノ效力ヲ存續スヘシ

第二百八十一條

獨逸國政府カ國際貿易ニ從事ストモ之ニ付主權ニ屬スル何等ノ權利、特權又ハ免除ヲ有スルコトナク又有スト看做サルルコトナカルヘシ

第二款　條約

第二百八十二條

本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外經濟上又ハ專門事項上ノ性質ヲ有スル數國間ノ條約及取極ハ本條以下數條ニ列記シタルモノニ限リ獨逸國ト同條約及取極ノ當事國タル同盟及聯合國トノ間ニ本條約實施ノ時ヨリ之ヲ適用ス

一　海底電信線保護ニ關スル千八百八十四

年三月十四日、千八百八十六年十二月一日及千八百八十七年三月二十三日ノ條約竝千八百八十七年七月七日ノ最終議定書

二　自動車ノ國際通行ニ關スル千九百九年十月十一日ノ條約

三　千八百八十六年五月十五日ノ稅關檢查ヲ受クヘキ鐵道貨物ノ封印ニ關スル取極及千九百七年五月十八日ノ議定書

四　鐵道ノ技術上ノ規格一定ニ關スル千八百八十六年五月十五日ノ取極

五　萬國關稅誌刊行及萬國關稅誌刊行ノ爲ノ萬國協會ノ組織ニ關スル千八百九十年七月五日ノ條約

六　國際貿易統計作成ニ關スル千九百十三年十二月三十一日ノ條約

七　土耳其國關稅率引上ニ關スル千九百七年四月二十五日ノ條約

八　「ズンド」海峽及「ベルト」海峽ノ通航稅ノ免除ニ關スル千八百五十七年三月十四日ノ條約

九　「エルベ」河通航稅ノ免除ニ關スル千八百六十一年六月二十二日ノ條約

十　「エスコー」河通航稅ノ免除ニ關スル千八百六十三年七月十六日ノ條約

十一　蘇士運河ノ自由使用ヲ保障スル確定制度ノ設定ニ關スル千八百八十八年十月二十九日ノ條約

十二　海上ニ於ケル船舶ノ衝突及海難ニ於ケル救援救助ニ付テノ規定ノ統一ニ關スル千九百十年九月二十三日ノ條約

十三　病院船ノ港內ニ於ケル租稅及課金免除ニ關スル千九百四年十二月二十一日ノ條約

十四　內地航行船舶ノ積量測度ニ關スル千八百九十八年二月四日ノ條約

十五　婦人ノ夜業禁止ニ關スル千九百六年九月二十六日ノ條約

十六　燐寸製造ニ於ケル黃燐使用ノ禁止ニ關スル千九百六年九月二十六日ノ條約

十七　醜業ヲ行ハシムル爲ノ婦女賣買禁止ニ關スル千九百四年五月十八日及千九百十年五月四日ノ條約

十八　猥褻出版物禁止ニ關スル千九百十年五月四日ノ條約

十九　千八百九十二年一月三十日、千八百九十三年四月十五日、千八百九十四年四月三日、千八百九十七年三月十九日及千九百三年十二月三日ノ衞生條約

二十　「メートル」法ノ統一及改良ニ關スル千八百七十五年五月二十日ノ條約

二十一　有效藥ノ藥局方統一ニ關スル千九百六年十一月二十九日ノ條約

二十二　標準音ノ制定ニ關スル千八百八十五年十一月十六日及十九日ノ條約

二十三　羅馬ニ於ケル萬國農事協會ノ設立ニ關スル千九百五年六月七日ノ條約

二十四　「フィロクセラ」驅除豫防ニ關スル千八百八十一年十一月三日及千八百八十九年四月十五日ノ條約

二十五　農業ニ有益ナル鳥類保護ニ關スル千九百二年三月十九日ノ條約

二十六　未成年者保護ニ關スル千九百二年六月十二日ノ條約

第二百八十三條

締約國ハ獨逸國カ本條中ノ特別規定ヲ履行スルコトヲ條件トシテ本條約實施ノ時ヨリ左記ノ條約及取極ヲ關係締約國ニ限リ更ニ適用スヘシ

郵便條約

千八百九十一年七月四日維納ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極

千八百九十七年六月十五日華盛頓ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極

千九百六年五月二十六日羅馬ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極

電信條約

千八百七十五年七月二十二日(露曆十日)聖彼得堡ニ於テ署名セラレタル萬國電信條約

千九百八年六月十一日里斯本ノ萬國電信會議ニ於テ改正セラレタル萬國電信條約書附屬國際業務規則及國際料金表

獨逸國ハ新國カ加盟シ又ハ加盟スルコトアルヘキ萬國郵便聯合及萬國電信聯合ニ關スル條約及取極中ニ規定シタル特別協定ヲ新國ト締結スルコトヲ拒マサルヘキコトヲ約ス

第二百八十四條

締約國ハ獨逸國カ同盟及聯合國ノ指示スヘキ暫定規則ヲ履行スルコトヲ條件トシテ本條約實施ノ時ヨリ千九百十二年七月五日ノ國際無線電信條約ヲ關係締約國ニ限リ更ニ適用スヘシ

本條約實施後五年以內ニ千九百十二年七月五日ノ條約ニ代ルヘキ國際無線電信ニ關スル新條約ノ締結アリタルトキハ其ノ新條約ハ獨逸國カ其ノ新條約制定ニ參加スルコト又ハ其ノ新條約ニ同意スルコトヲ拒ミタル場合ニ於テモ仍獨逸國ヲ拘束ス

前項ノ新條約ハ又第一項ノ暫定規則ニ代ルヘキモノトス

第二百八十五條

本條約實施ノ時ヨリ締約國ハ第二百七十二條ニ規定シタル條件ニ從ヒ左記ノ條約ヲ關係締約國ニ限リ適用スヘシ

一　北海ニ於ケル領海外ノ漁業ニ關スル千八百八十二年五月六日及千八百八十九年二月一日ノ條約

二　北海ニ於ケル火酒類販賣ニ關スル千八百八十七年十一月十六日、千八百九十三年二月十四日及千八百九十四年四月十一日ノ條約及議定書

第二百八十六條

千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及千九百八年十一月十三日伯林ニ於テ改正シ千九百十四年三月二十日「ベルヌ」ニ於テ署名ノ追加議定書ニ依リ補足セラレタル文學的及美術的著作物保護ニ關スル千八百八十六年九月九日ノ「ベルヌ」條約ハ本條約ニ基ク例外及制限ニ依リ之ヲ妨ケラレ又ハ變更セラレサル範圍ニ於テ本條約實施ノ時ヨリ效力ヲ囘復スヘシ

第二百八十七條

本條約實施ノ時ヨリ締約國ハ民事訴訟ニ關スル千九百五年七月十七日ノ海牙條約ヲ關係締約國ニ限リ適用スヘシ但シ佛蘭西國、葡萄牙國及羅馬尼亞國ニハ之ヲ適用セス

第二百八十八條

「サモア」ニ關スル千八百九十九年十二月二日ノ條約第三條ニ依リ獨逸國ニ付與セラレタル特殊ノ權利及特權ハ千九百十四年八月四日ヲ以テ消滅シタルモノト看做ス

第二百八十九條

各同盟國又[illegible]特別規定ノ[illegible]逸國トノ間[illegible]條約ヲ獨逸[illegible]

本條ニ定ム[illegible]由リ之ヲ行[illegible]ノ接受ヲ認[illegible]其ノ效力ヲ[illegible]

同盟及聯合[illegible]チ相互ニ約[illegible]

前記ノ通告[illegible]約ノ條項ト[illegible]做サルルモ[illegible]

意見ノ相違[illegible]チ求ムヘシ

同盟及聯合[illegible]前記ノ通告[illegible]二國條約ハ[illegible]盟及聯合國[illegible]スヘク其ノ[illegible]

前各項ノ規[illegible]盟及聯合國[illegible]二國條約ニ[illegible]戰狀態ニ在[illegible]合ト雖異ル[illegible]

第二百九十條

獨逸國ハ千[illegible]施ニ至ル迄[illegible]國、勃牙利[illegible]タル一切ノ[illegible]シタルコト[illegible]

第二百九十一條

獨逸國ハ千[illegible]

レタル條約又ハ協定ニ依リ獨逸國カ墺地利國、洪牙利國、勃牙利國若ハ土耳其國ニ又ハ右諸國ノ官吏及國民ニ許與シタル一切ノ權利及便益ノ享有ヲ其ノ條約又ハ協定カ效力ヲ有スル限リ當然同盟及聯合國竝其ノ官吏及國民ニ保障スルコトヲ約ス

同盟及聯合國ハ右ノ權利及便益ノ享有ヲ承諾スルト否トノ權利ヲ留保ス

第二百九十二條

獨逸國ハ千九百十四年八月一日前ニ又ハ同日以後本條約實施迄ニ獨逸國カ露西亞國、從前ノ露西亞國ノ版圖ノ一部ヨリ成ル國若ハ政府又ハ羅馬尼亞國ト締結シタル一切ノ條約又ハ取極ノ消滅シタルコトヲ承認ス

第二百九十三條

同盟國、聯合國、露西亞國又ハ從前ノ露西亞國ノ版圖ノ一部ヨリ成ル國若ハ政府カ千九百十四年八月一日以後軍事占領ノ理由ニ因リ又ハ其ノ他ノ方法若ハ事由ニ因リ獨逸國又ハ獨逸國民ニ許與スルコトヲ强要セラレ又ハ官憲ノ行爲ニ依ル許與ヲ認容スルコトヲ强要セラレタル利權、特權及恩典ハ其ノ種類ノ如何ヲ問ハス本條約ニ依リ當然失效シタルモノトス

前項ノ失效ヨリ生スルコトアルヘキ請求權又ハ賠償ノ要求ハ之ヲ同盟國、聯合國又ハ本條ニ依リ約定ノ解除ヲ得タル國、政府若ハ官憲ニ對シ之ヲ行フコトヲ得ス

第二百九十四條

獨逸國ハ千九百十四年八月一日ヨリ本條約實施ニ至ル迄ノ間ニ獨逸國カ條約又ハ協定ニ依リ非交戰國又ハ其ノ國民ニ許與シタル一切ノ權利及便益ヲ其ノ條約又ハ協定カ效力ヲ有スル限リ本條約實施ノ時ヨリ當然同盟及聯合國竝其ノ國民ニ許與スルコトヲ約ス

第二百九十五條

締約國ニシテ千九百十二年一月二十三日海牙ニ於テ署名セラレタル阿片條約ニ未タ署名セサルモノ又ハ署名シタルモ未タ之ヲ批准セサルモノハ該條約ヲ實施スヘキコト及此ノ目的ノ爲遲滯ナク且如何ナル場合ニ於テモ本條約實施後十二月ノ期間内ニ必要ナル法令ヲ制定スヘキコトニ同意ス

又締約國ハ本條約ノ批准ハ阿片條約ヲ批准セサル國ニ付テハ該條約ノ批准ニ及千九百十四年第三回阿片會議ノ決議ニ從ヒ該條約實施ノ爲海牙ニテ設ケラレタル特別議定書ノ署名ニ一切ノ點ニ於テ均シキモノト看做スコトニ同意ス

此ノ目的ノ爲佛蘭西共和國政府ハ本條約ノ批准書寄託ニ關スル調書ノ認證謄本ヲ和蘭國政府ニ送致シ且和蘭國政府ニ對シ該認證謄本ヲ阿片條約ノ批准書寄託及千九百十四年ノ追加議定書ノ署名トシテ承認シ且寄託スルコトヲ依賴スヘシ

第三款　金錢債務

第二百九十六條

左ノ種類ノ金錢上ノ債務ハ本條第三項(ホ)號ニ規定スル通告後三月以内ニ各締約國ノ設置スヘキ清算所ノ仲介ニ由リ之ヲ決濟ス

一　締約國ノ一國ノ版圖内ニ居住スル其ノ締約國ノ國民カ其ノ國ニ敵對スル一國ノ版圖内ニ居住スル其ノ敵對國ノ國民ニ對シテ負擔スル金錢債務ニシテ戰前辨濟期限到來シタルモノ

二　締約國ノ一國ノ版圖内ニ居住スル其ノ締約國ノ國民ニ對スル辨濟ノ期限戰時中到來シタル金錢債務ニシテ其ノ締約國ニ敵對スル一國ノ版圖内ニ居住スル其ノ敵對國ノ國民ト取引又ハ契約ヨリ生シ其ノ全部又ハ一部ノ履行カ宣戰ノ爲停止セラレタルモノ

三　締約國ノ一國ニ敵對スル一國ノ發行シタル有價證券ノ利息ニシテ其ノ締約國ノ國民ニ對シテ戰前又ハ戰時中支拂期限到來シタルモノ尤モ戰時中其ノ敵對國ノ國民又ハ中立國ノ國民ニ其ノ證券ノ利息ノ支拂カ停止セラレサリシモノニ限ル

四　締約國ニ敵對スル一國ノ發行シタル有價證券ノ元本ニシテ其ノ締約國ノ國民ニ對スル償還ノ期限戰前又ハ戰時中ニ到來シタルモノ尤モ戰時中其ノ敵對國ノ國民又ハ中立國ノ國民ニ其ノ元本ノ償還カ停止セラレサリシモノニ限ル

第四款及其ノ附屬書ニ揭クル敵人ノ財産、權利及利益ノ清算殘高ハ本條第三項(ニ)號ニ規定スル通貨及爲替相場ヲ以テ清算所ヲ經由シテ之ヲ清算シ且同款及同附屬書ノ規定スル條件ニ從ヒ清算所之ヲ處分ス

本條ニ定ムル決濟ハ左ノ原則ニ準據シ且本款附屬書ニ從ヒ之ヲ行フヘシ

(イ)　各締約國ハ本條約實施ノ時ヨリ前記金錢債務ノ支拂及辨濟ノ受領ヲ竝前記金錢債務ノ決濟ニ關スル利害關係人間ニ於ケル一切ノ通信ヲ清算所ヲ經由スルモノヲ除クノ外禁止スヘシ

(ロ)　各締約國ハ債務者カ戰前破産若ハ身代限ノ狀態ニ在リ又ハ支拂不能ノ正式ノ表示ヲ爲シタル場合又ハ金錢債務カ戰時中非常法令ニ依リテ事業ノ清算ヲ受ケタル會社ニ依リ負擔セラルル場合ヲ除クノ外自國民ノ負擔スル金錢債務ノ辨濟ニ對シ各自其ノ責ニ任スヘシ尤モ休戰前ニ敵ノ侵入又ハ占領シタル地域ノ住民ノ負擔シタル金錢債務ニ關シテハ該地域所屬國ニ於テ保證ノ責ニ任セサルモノトス

(ハ)　締約國ノ一國ノ國民ニ對シ其ノ國ニ敵對スル國ノ國民カ負擔シタル金額ハ債務者所屬國清算所ノ借方ニ計上シ債權者所屬國清算所ニ於テ債權者ニ之ヲ辨濟ス

(ニ)　金錢債務ハ當該同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國自治領若ハ印度ノ通貨ヲ以テ之ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ之ヲ計上スヘシ金錢債務カ右以外ノ通貨ヲ以テ辨濟セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ金錢債務ハ戰前ノ爲替相場ニ依リ當該同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國自治領若ハ印度ノ通貨ヲ以テ之ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

本號ニ規定スル戰前ノ爲替相場トハ戰爭開始ノ直前ノ月内ニ當該同盟國又ハ聯合國内ニ行ハレタル其ノ國ト獨逸國トノ間ノ平均電信爲替相場ヲ謂フ

金錢債務ヲ指定スル通貨ヲ當該同盟國又ハ聯合國ノ通貨ニ換算スルニ付一定ノ爲替相場ヲ契約中ニ規定シタル場合ニ於テハ爲替相場ニ關スル前記ノ規定ハ之ヲ適用セス

新國ニ關シテハ金錢債務ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ之ヲ計上スル爲用フヘキ通貨及爲替相場ハ第八編（賠償）ニ規定シタル賠償委員會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

(ホ)　本條及本條附屬書ノ規定ハ獨逸國ト同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國自治領若ハ印度ノ一トノ間ニ在リテハ當該國ニ於テ自己ノ爲又ハ當該英國自治領若ハ印度ノ爲ニ本條約ノ批准書ヲ寄託シタル後一月以内ニ各場合ニ應シ當該同盟國若ハ聯合國又ハ當該英國自治領若ハ印度ノ政府ヨリ獨逸國政府ニ其ノ適用ノ通告ヲ爲スニ非サレハ適用ナキモノトス

(ヘ)　本條及本條附屬書ヲ採用スル同盟及聯合國ハ其ノ國民ト獨逸國民トノ間ノ事項ニ關スル限リ其ノ版圖内ニ居住スル各自ノ國民ニ本條及本條附屬書ヲ適用スル爲其ノ間ニ約定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本號ノ規定ノ適用ニ依リ行ハルヘキ辨濟ハ當該同盟及聯合國清算所間ノ協定ニ從フヘシ

附屬書

一

各締約國ハ第二百九十六條第三項(ホ)號ニ規定スル通告後三月以内ニ敵金錢債務ノ取立及辨濟ノ爲清算所ヲ設置ス

締約國ハ其ノ版圖内ノ特定ノ地方ニ對シテ地方清算所ヲ設置スルコトヲ得地方清算所ハ當該地方ニ於テ中央清算所ノ行フ一切ノ職務ヲ行フコトヲ得但シ其ノ地方清算所ト敵對國内ノ清算所トノ一切ノ交渉ハ中央清算所ヲ經由シテ之ヲ行フコトヲ要ス

二

本附屬書ニ於テハ第二百九十六條第一項ニ規定スル金錢上ノ債務ヲ「敵金錢債務」、其ノ金錢上ノ債務ヲ負擔スル者ヲ「敵債務者」、其ノ金錢上ノ債權ヲ有スル者ヲ「敵債權者」ト稱シ債權者所屬國内ノ清算所ヲ「貸方清算所」、債務者所屬國内ノ清算所ヲ「借方清算所」ト稱ス

三

締約國ハ第二百九十六條第三項(イ)號ノ規定ノ違反ニ對シ各自國ノ對敵通商禁止ニ關スル法令ニ現在規定スルト同一ノ制裁ヲ加フヘシ又締約國ハ本附屬書ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外其ノ版圖内ニ於テ敵金錢債務ノ辨濟ニ關スル一切ノ訴訟手續ヲ禁止ス

四

第二百九十六條第三項(ロ)號ニ規定スル政府ノ保證ハ理由ノ如何ニ拘ラス金錢債務ヲ回收スルコトヲ得サル場合ニ效力ヲ生ス但シ其ノ金錢債務カ債務者所屬國ノ法令ニ依リ開戰ノ日ニ時效ニ罹リタル場合、債務者カ開戰ノ當時破産若ハ身代限ノ狀態ニ在リ又ハ支拂不能ノ正式ノ表示ヲ爲シタル場合又ハ金錢債務カ戰時中ノ非常法令ニ依リテ事業ノ清算ヲ受ケタル會社ノ負擔ニ係ル場合ハ此ノ限ニ在ラス此ノ但書ノ場合ニ於テハ本附屬書ニ規定スル手續ハ配當ノ支拂ニ之ヲ適用ス

「破産」及「身代限」トハ此ノ如キ法律上ノ狀態ヲ規定スル法令ノ適用セラルル事態ヲ指シ又「支拂不能ノ正式ノ表示」トハ英國法ニ於ケルト同一ノ意義ヲ有スルモノトス

五

債權者ハ其ノ有スル金錢債權ヲ貸方清算所設置後六月以内ニ其ノ清算所ニ申告シ且所要ノ文書及參考資料ヲ其ノ清算所ニ提出スヘシ

締約國ハ敵債權者及敵債務者間ノ通謀ヲ搜索シ及處罰スルニ適當ナル一切ノ措置ヲ執ルヘシ清算所ハ斯ル通謀ノ發見及處罰ニ資スルコトアルヘキ證據及參考資料ヲ相互ニ通報スヘシ

締約國ハ金錢債務ノ額ニ付協定ヲ爲サムト欲スル債權者及債務者間ノ郵便及電信ニ依ル通信ヲ關係當事者ノ費用ヲ以テ且清算所ノ仲介ニ由リ行フコトヲ能フ限リ容易ナラシムヘシ

貸方清算所ハ申告ヲ受ケタル一切ノ金錢債務ヲ借方清算所ニ通告シ借方清算所ハ相當ノ期間内ニ何レノ金錢債務カ承認セラレタリヤ又何レノ金錢債務カ否認セラレタリヤヲ貸方清算所ニ通告スヘシ金錢債務カ否認セラレタル場合ニ於テハ借方清算所ハ金錢債務不承認ノ理由ヲ示スヘシ

六

金錢債務ノ全部又ハ一部カ承認セラレタルトキハ借方清算所ハ直ニ其ノ承認セラレタル額ヲ貸方清算所ノ貸方ニ計上シ且同時ニ貸方清算所ニ之ヲ通告スヘシ

七

通告ノ受領後三月以内又ハ貸方清算所カ同意スル之ヨリ長キ期間内ニ借方清算所ヨリ金錢債務カ承認セラレサル旨ノ通告ヲ爲スニ非サレハ金錢債務ハ全部承認セラレタルモノト看做サルヘク該金額ハ直ニ貸方清算所ノ貸方ニ計上セラルヘシ

八

金錢債務ノ全部又ハ一部カ承認セラレサル場合ニ於テハ兩清算所ハ共同ニ當該事件ヲ審査シ且當事者ヲシテ協定セシムルニ力ムヘシ

九

貸方清算所ハ其ノ貸方ニ計上セラレタル金額ヲ同清算所所屬國政府カ同清算所ノ處分ニ供シタル資金中ヨリ其ノ政府ノ定メタル條件ニ從ヒ各個ノ債權者ニ支拂フヘシ但シ危險負擔、費用又ハ手數料ニ充ツル爲必要ト認ムル金額ヲ保留ス

十

敵金錢債務ノ全部又ハ一部カ承認セラレサルトキハ其ノ辨濟ヲ請求シタル者ハ過料トシテ其ノ承認ナキ部分ニ付五分ノ利息ヲ當該清算所ニ支拂フヘシ金錢債務ノ全部又ハ一部ノ承認ヲ不當ニ拒絶シタル者ハ過料トシテ其ノ拒絶ノ認メラレサリシ額ニ付五分ノ利息ヲ支拂フヘシ

前記ノ利息ハ七ニ規定シタル期間滿了ノ日ヨリ起算シ請求カ却下セラレタル日又ハ金錢債務カ辨濟セラレタル日ニ至ル迄之ヲ附ス

各清算所ハ其ノ關スル前記過料ノ徵收ニ必要ナル手段ヲ執ルヘク若シ其ノ過料ヲ徵收スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ責ニ任ス

過料ハ相手方ノ清算所ノ貸方ニ計上シ其ノ清算所ハ本諸規定ヲ施行スルノ費用ニ充ツル爲之ヲ保留スヘシ

十一

清算所間ノ貸借勘定ハ每月之ヲ行ヒ債務國ハ一週間以内ニ現金ヲ以テ差額ノ支拂ヲ爲スヘシ

尤モ該差額カ同盟及聯合國ノ一國又ハ數國ノ金錢債務ニ屬スル場合ニ於テハ其ノ差額ハ戰爭ニ基ク同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ國民ノ金錢債權ノ金額ノ完全ナル辨濟アル迄之ヲ保留スヘシ

十二

清算所間ノ協議ヲ容易ナラシムル爲各一方ノ清算所ハ他方ノ清算所所在地ニ一名ノ代表者ヲ置クヘシ

十三

特別ノ理由アル場合ヲ除クノ外請求ニ關スル一切ノ協議ハ成ルヘク借方清算所ニ於テ之ヲ行フヘシ

十四

第二百九十六條第三項(ロ)號ニ準據シ締約國ハ其ノ國民ノ負擔スル敵金錢債務ノ辨濟ニ付其ノ責ニ任ス

從テ借方清算所ハ承認セラレタル一切ノ金錢債務ヲ貸方清算所ノ貸方ニ計上スヘシ各個ノ債務者ヨリ金錢債務ヲ取立ツルコト能ハサル場合ト雖異ルコトナシ右ノ場合ニ於テモ關係政府ハ承認アリタル金錢債務ノ回收ヲ行フニ付必要ナル一切ノ權能ヲ其ノ政府ノ清算所ニ付與スヘシ

尤モ戰爭行爲ニ因リ損害ヲ受ケタル者ノ負擔スル承認アリタル金錢債務ハ其ノ損害ニ付其ノ債務者ニ補償ノ支拂アリタルトキニ限リ貸方清算所ノ貸方ニ之ヲ計上ス

十五

各政府ハ其ノ版圖内ニ設置シタル清算所ノ費用（職員ノ俸給ヲ含ム）ヲ支拂フヘシ

十六

關係二清算所間ノ意見カ請求ニ係ル金錢債務ノ正當ナリヤ否ヤニ關シ一致セサルトキ又ハ敵債務者ト敵債權者トノ間若ハ清算所間ニ意見ノ相違アルトキハ其ノ爭議ハ之ヲ當事者間ノ合意アラハ當事者間ノ合意ニ依リ定メラルル條件ノ下ニ仲裁ニ付シ又ハ之ヲ本編第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所ノ審理ニ付スヘシ

尤モ貸方清算所ノ請求アルトキハ右ノ爭議ヲ債務者住所地ノ通常裁判所ノ管轄ニ付スルコトヲ得

十七

混合仲裁裁判所、通常裁判所又ハ仲裁裁判所カ正當ト認メタル金額ハ之ヲ借方清算所ノ承認シタル金錢債務ト看做シ其ノ回收ハ清算所ヲ經由シ之ヲ行フヘシ

十八

關係各政府ハ混合仲裁裁判所ニ清算所ノ爲ニ事件ヲ提起スル任務ヲ有スル代理人ヲ任命スヘシ代理人ハ其ノ國民ノ用ヰル代表者又ハ辯護人ノ一般監督ニ任ス

判定ハ書證ニ依リテ之ヲ爲スヘシ但シ混合仲裁裁判所ハ當事者本人ノ陳述又ハ當事者ノ希望ニ依リ關係兩政府ノ承認スル代表者若ハ前項ノ代理人ノ陳述ヲ聽取スルコトヲ得其ノ代理人ハ當事者ト共ニ事件ニ參加シ又ハ當事者カ抛棄シタル請求ヲ復活シ且主張スルノ權限ヲ有ス

十九

關係清算所ハ混合仲裁裁判所ニ提起セラルル事件ノ審理ヲ迅速ナラシムル爲其ノ有スル一切ノ參考資料及文書ヲ同裁判行所ニ提出スヘシ

二十

當事者ノ一方カ二箇ノ清算所ノ合同判定ニ對シ上訴ヲ爲ストキハ手續費用ニ對シテ供託金ヲ爲スヘシ其ノ供託金ハ原判定カ上訴人ニ有利ニ變更セラルル場合ニ限リ且其ノ勝訴ノ程度ニ應シ返還セラルヘク供託金カ返還セラルル場合ニ於テハ相手方ハ之ニ相當スル額ノ手續諸費用ヲ支拂フヘシ供託金ハ混合仲裁裁判所ノ承認スル保證ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

混合仲裁裁判所ニ提起セラルル一切ノ事件ニ付テハ係爭金額ノ百分ノ五ノ手數料ヲ課ス此ノ手數料ハ該裁判所カ別段ノ指示ヲ爲ス場合ヲ除クノ外敗訴シタル當事者ノ負擔タルヘシ此ノ手數料ハ之ヲ前記供託金ト併セ課セラル

ヘク又保證トモ關係ナキモノトス

混合仲裁裁判所ハ手續上ノ諸費用ニ關スル金額ヲ當事者ノ一方ニ對シ其ノ負フヘキモノトシテ判定スルコトヲ得

本規定ノ適用ニ依リ支拂ヲ要スル金額ハ別口トシテ勝訴者ノ屬スル清算所ノ貸方ニ之ヲ計上ス

二十一

事件ノ終結ヲ迅速ナラシムル爲清算所又ハ混合仲裁裁判所ノ一切ノ職員ノ任命ニ當リ其ノ者ノ關係相手國ノ言語ノ智識ニ付相當ノ考慮ヲ爲スヘシ

各清算所ハ他ノ清算所ト通信シ且自國言語ノ文書ヲ送付スルノ自由ヲ有ス

二十二

關係政府間ニ反對ノ特別取極ノ存スル場合ヲ除クノ外金錢債務ニハ左ノ規定ニ準據シ利息ヲ附ス

配當、利息其ノ他元本ノ利息タル性質ノ定期支拂金額ニ對シテハ利息ヲ支拂ハス

利率ハ年五分トス但シ契約、法令又ハ慣習ニ依リ債權者カ別段ノ率ニ依ル利息ノ支拂ヲ受クヘキ權利ヲ有スル場合ハ此ノ限ニ在ラス此ノ但書ノ場合ニ於テハ右ノ利率ヲ適用ス

利息ハ戰爭開始ノ日（又ハ辨濟ヲ受クヘキ金錢債務ノ辨濟期限カ戰時中到來シタルトキハ其ノ期限到來ノ日）ヨリ元本カ債權者ノ清算所ノ貸方ニ計上セラルル日ニ至ル迄之ヲ附ス

利息トシテ支拂ヲ要スル金額ハ清算所ノ承認シタル金錢債務トシテ之ヲ取扱ヒ承認金錢債務ト同シク貸方清算所ノ貸方ニ之ヲ計上ス

二十三

清算所又ハ混合仲裁裁判所カ請求ヲ第二百九十六條ニ該當セサルモノト判定シタルトキハ債權者ハ通常裁判所ニ訴訟ヲ提起シ又ハ其ノ執リ得ル其ノ他ノ法律上ノ手續ニ依リ其ノ請求ヲ主張スルコトヲ得

清算所ニ請求ノ申立アリタルトキハ時效ハ其ノ進行ヲ停止ス

二十四

締約國ハ混合仲裁裁判所ノ判定ヲ終結且確定ノモノト認メ且其ノ國民ニ對シ拘束力ヲ有セシムヘキコトニ同意ス

二十五

貸方清算所カ借方清算所ニ請求ヲ通告スルコトヲ拒ミ又ハ正當ノ申告ヲ受ケタル請求ノ全部又ハ一部ヲ有效ナラシムル本附屬書ニ規定スル手續ヲ執ルコトヲ拒ミタル場合ニ於テハ敵債權者ハ請求金額ヲ記載スル證明書ヲ清算所ヨリ受領スルノ權利ヲ有スヘク且通常裁判所ニ訴訟ヲ提起シ又ハ其ノ執リ得ル其ノ他ノ法律上ノ手續ニ依リ其ノ請求ヲ主張スルノ權利ヲ有ス

第四款　財産、權利及利益

第二百九十七條

財産、權利及利益ニ關シテハ本款ニ定ムル原則及本款附屬書ノ規定ニ準據シテ處理スヘシ

（イ）獨逸國カ同盟國又ハ聯合國ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム）ノ財産、權利及利益ニ關シ本款附屬書三ニ定ムル戰時非常措置及移轉措置ヲ爲シ其ノ清算ノ未タ完了セサル場合ニ於テハ直ニ其ノ措置ヲ中止シ又ハ停止シ前記ノ財産、權利及利益ヲ其ノ所有者ニ返還スヘク所有者ハ第二百九十八條ノ規定ニ從ヒ之ニ對スル完全ナル權利ヲ享有スヘシ

（ロ）本條約中反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外同盟及聯合國ハ其ノ版圖、殖民地、屬地及保護國竝本條約ニ依リ讓受ケタル地域內ニ在ル獨逸國民又ハ其ノ管理スル會社ニ本條約實施ノ日ニ於テ屬スル一切ノ財産、權利及利益ヲ留置シ及清算スルノ權利ヲ留保ス

右清算ハ當該同盟國又ハ聯合國ノ法令ニ從ヒ之ヲ執行スヘク且右獨逸ノ所有者ハ其ノ國ノ同意ナクシテ此等ノ財産、權利及利益ヲ處分シ又ハ其ノ上ニ何等ノ負擔ヲ設定スルコトヲ得ス

本條約ノ規定ニ依リ當然同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ取得スル獨逸國民ハ之ヲ本號ノ獨逸國民ト看做ササルヘシ

（ハ）前號ニ規定シタル權利ノ行使ニ關シ生スル代金又ハ賠償額ハ該財産ノ留置又ハ清算カ行ハレタル國ノ法令ノ定ムル賣却及評價ノ方法ニ依リ決定セラルヘシ

（ニ）同盟及聯合國又ハ其ノ國民ト獨逸國又ハ其ノ國民トノ間ノ關係ニ於テハ本款附屬書ノ一及三ニ定ムル一切ノ戰時非常措置又ハ移轉措置又ハ此ノ措置ノ實行ノ爲執リ又ハ執ルヘキ行爲ハ本條約ニ規定スル留保ノ場合ヲ除クノ外最終ニシテ且何人ヲモ拘束ス

（ホ）同盟及聯合國ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社又ハ組合ヲ含ム）ハ本款附屬書ノ一及三ニ定ムル戰時非常措置又ハ移轉措置ノ適用ニ因リ千九百十四年八月一日現在ノ獨逸國版圖內ニ在ル各自ノ財産、權利又ハ利益ニ付受ケタル損害ニ關シ賠償請求ノ權利ヲ有ス此等ノ國民ノ之カ爲ニ行フ請求ハ第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所又ハ該裁判所ノ任命スル仲裁人之ヲ審査シ且其ノ賠償額ヲ決定ス此ノ賠償額ハ獨逸國之ヲ負擔スヘク且之ヲ賠償請求者所屬國ノ版圖內ニ存シ又ハ其ノ國ノ管理ノ下ニ在ル獨逸國民ノ財産上ノ負擔ニ歸セシムルコトヲ得此ノ財産ハ本款附屬書四ニ定ムル條件ニ從ヒ敵ノ債務ノ擔保ト爲スコトヲ得前記賠償額ハ同盟國又ハ聯合國ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ得ヘク其ノ金額ハ獨逸國ノ借方ニ之ヲ計上ス

（ヘ）獨逸國ノ版圖內ニ於テ移轉措置ノ適用ヲ受ケタル財産ノ所有者タル同盟國又ハ聯合國ノ國民カ其ノ財産ノ回收ノ希望ヲ表示スル場合ニ於テハ財産カ現物ノ儘存在スルトキハ其ノ財産ノ回收ニ依リ前號ニ依ル賠償ノ請求ノ目的ヲ達セシムヘシ

前記ノ場合ニ獨逸國ハ其ノ財産ノ原所有者ヲシテ其ノ財産上ニ清算後設定セラレタルコトアルヘキ一切ノ役權又ハ負擔ヲ負ハシメスシテ其ノ財産ノ占有ヲ回復セシムル爲且其ノ現物回收ニ依リ損害ヲ受ケタル一切ノ第三者ニ對シ賠償スル爲必要ナル一切ノ手段ヲ執ルヘシ

本號ニ規定スル現物回收ノ實行不能ナル場合ニ於テハ同盟國又ハ聯合國ノ國民カ其ノ喪失シタル財産、權利又ハ利益ニ代ヘテ受クルコトヲ同意スル價益又ハ之ニ相當スルモノヲ其ノ國民ニ許與シ以テ其ノ國民カ前號ニ定ムル損害賠償ヲ確保スルコトヲ得ル爲關係諸國又ハ第三款附屬書ニ定ムル清算所ノ仲介ニ依リ私ノ取極ヲ爲スコトヲ得

本條ニ依リ現物回收ノ行ハレタルトキハ前號ノ適用ニ依リ定メラレタル代金又ハ賠償額中ヨリ其ノ回收財産ノ實價額ヲ控除スヘシ尤モ其ノ財産ノ使用ヲ妨ケラレタルニ因ル損害又ハ減損ノ賠償ヲ斟酌スヘシ

（ト）前號ニ規定シタル權利ハ休戰條約署名前ニ敵人ノ財産、權利又ハ利益ノ一般的清算ヲ規定スル立法的手段ヲ版圖內ニ採用スルニ至ラサリシ同盟國又ハ聯合國ノ國民タル所有者ニ限リ之ヲ有ス

（チ）（ヘ）號ノ適用ニ依リ現物回收行ハレタル場合ヲ除クノ外戰時法令ニ依リ又ハ本條ノ適用ニ依リ行ハレタル敵人ノ財産、權利又ハ利益ノ清算純殘高及敵人ニ屬スル一切ノ現金資産ハ一般ニ左ノ方法ニ依リ之ヲ處理ス

（一）第三款及其ノ附屬書ヲ採用スル諸國ニ付テハ前記ノ清算純殘高及現金資産ハ同款及附屬書ニ依リ設置セラルル清算所ヲ通シ其ノ所有者ノ屬スル國ノ貸方ニ之ヲ計上ス但シ之カ爲生スル獨逸國ニ有利ナル貸方勘定ハ第二百四十三條ニ從ヒ之ヲ處理ス

（二）第三款及其ノ附屬書ヲ採用セサル諸國ニ付テハ獨逸國ニ依リ留置セラレタル同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ財産、權利及利益ノ清算殘高及現金資産ハ直ニ其ノ權利者又ハ其ノ權利者ノ屬スル政府ニ支拂フヘク同盟國又ハ聯合國ノ差押ヘタル獨逸國民ノ財産、權利及利益ノ清算殘高及現金資産ハ當該國其ノ法令ニ依リ之ヲ處分シ且本條又ハ本款附屬書四ニ定ムル請求及金錢債務ノ辨濟ニ之ヲ充當スルコトヲ得上記ノ方法ニ依リ處分セラレサリシ財産、權利及利益又ハ其ノ清算殘高若ハ現金資産ハ該同盟國又ハ聯合國ニ於テ留置スルコトヲ得ヘク之ヲ留置シタル場合ニ於テハ其ノ現金價額ハ第二百四十三條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處理ス

同盟及聯合國トシテ本條約ニ署名スル諸新國ニ於テ又ハ獨逸國ノ行フヘキ賠償金ノ支拂ノ分配ニ與ル權利ヲ有セサル諸國ニ於テ清算ヲ行ヒタル場合ニ於テハ此等ノ諸國ハ本條約特ニ第二百三十五條及第二百六十條ニ依リ賠償委員會カ權利ヲ有スル場合ヲ除クノ外其ノ清算ノ殘高ヲ直接所有者ニ支拂フヘシ前記所有者カ本編第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所又ハ同裁判所ノ任命スル仲裁人ニ對シ當該國政府ノ一般法令ノ規定外ニ亙リテ執リタル措置又ハ賣却條件カ清算代金ニ付所有者ニ不當ニ損害ヲ與ヘタルモノナルコトヲ證明スルトキハ同裁判所又ハ仲裁人ハ當該國ヲシテ所有者ニ公平ナル賠償ヲ爲サシムルノ判斷ヲ與フルノ裁量ヲ有ス

（リ）獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國內ニ在ル獨逸國民ノ財産、權利又ハ利益ノ清算又ハ留置ニ對シ其ノ國民ニ賠償ヲ爲スコトヲ約ス

（ヌ）同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ財産、權利及利益ニ對シ千九百十八年十一月十一日以後本條約實施後三月ヲ經ルニ至ル迄ノ間ニ又ハ戰時非常措置ノ適用ヲ受ケタル財産、權利及利益ノ場合ニ於テハ本條約ニ依ル現物回收ノ行ハルル迄ノ間ニ獨逸國カ賦課シ又ハ賦課スルコトアルヘキ元本上ノ租稅及賦課ハ之ヲ所有者ニ還付ス

第二百九十八條

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム）ノ財産、權利及利益ニシテ前條ノ（イ）號又ハ（ヘ）號ニ依リ回收セラレタルモノニ關シ左ノ措置ヲ爲スコトヲ約ス

（イ）本條約ニ明文アル場合ヲ除クノ外同盟國又ハ聯合國ノ國民ニ屬スル財産、權利及利益ハ戰前施行ノ法令ノ下ニ獨逸國民カ其ノ財産、權利及利益ニ關シ有スル其ノ法律上ノ地位ニ於テ之ヲ回復維持スヘキコト

（ロ）同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ財産、權利又ハ利益ニ對シテハ獨逸國民ノ財産、權利又ハ利益ニ對シ均シク適用スルニ非サレハ財産權ヲ侵害スヘキ措置ヲ執ラサルヘキコト及此ノ種ノ措置ヲ執ル場合ニ於テハ適當ノ賠償ヲ爲スヘキコト

附屬書

一

締約國ノ裁判所又ハ行政官廳カ敵人ノ財産、權利及利益ニ關シ戰時法令ニ基キ發シ又ハ爲シタル（發シ又ハ爲シタルモノトセラルルモノヲ含ム）權利移轉命令、事業若ハ會社ノ清算ニ關スル命令其ノ他ノ命令、指令、決定又ハ訓令ノ效力ハ第二百九十七條（ニ）號ノ規定ニ依リ之ヲ確認ス各人ノ利益ハ其ノ利益カ命令、指令、決定又ハ訓令中ニ特ニ明記セラルルト否トヲ問ハス各人ノ利害關係ヲ有スル財産ニ關スル一切ノ命令、指令、決定又ハ調令ニ依リテ有效ニ處理セラレタルモノト看做サルヘク其ノ命令、指令、決定又ハ調令ニ基キ行ハレタル財産、權利又ハ利益ノ移轉カ適法ナリヤ否ヤニ關シ爭議ヲ提起スルヲ許サス戰時法令ニ依リ敵人ノ財産、權利又ハ利益ニ關シ締約國ノ裁判所又ハ行政官廳ノ發シ又ハ爲シタル（發シ又ハ爲シタルモノトセラルルモノヲ含ム）命令、指令、決定又ハ調令ニ基キ財産、事業又ハ會社ニ付行ハレタル一切ノ措置ハ財産、事業又ハ會社ノ調査、保管、強制管理、利用、徵發、監理又ハ清算ニ關スルト財産、權利又ハ利益ノ清算、賣却又ハ管理、金錢債務ノ取立又ハ辨濟、訴訟費用、諸掛其ノ他ノ諸費用ノ支拂ニ關スルト又其ノ他如何ナルモノニ關スルトヲ問ハス其ノ有效ナルコトヲ確認ス但シ本項ノ規定ハ同盟及聯合國ノ國民カ善意及有償ニテ且財産所在地ノ法令ニ從ヒ既ニ取得シタル財産上ノ權原ニ影響ナキモノトス

獨逸國官憲カ侵入地域內又ハ占領地域內ニ於テ執リタル前記ノ措置及千九百十八年十一月十一日以後獨逸國又ハ獨逸國官憲ノ執リタル前記ノ措置ハ一切之ヲ無效トシ前項ノ規定ヲ適用セス

二

獨逸國民ノ財産、權利又ハ利益ニ關シ戰時中又ハ戰時準備ノ爲行ハレタル一切ノ作爲又ハ不作爲ニ付獨逸國又ハ獨逸國民ハ其ノ何レノ地ニ居住スルヲ問ハス同盟國若ハ聯合國ヲ相手方トシ又ハ其ノ行政官廳若ハ司法官憲ノ爲ニ又ハ其ノ命令ノ下ニ行動シタル者ヲ相手方トシテ請求又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス又同盟國又ハ聯合國ノ戰時非常措置、法令若ハ規則ノ下ニ又ハ之ニ從ヒ爲シタル一切ノ作爲及不作爲ニ付何人ニ對シテモ請求又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

三

第二百九十七條及本附屬書ニ於テ「戰時非常措置」ト稱スルハ敵人ノ財産ニ關シテ執リ又ハ將來執ルコトアルヘキ立法上、行政上、司法上其ノ他ノ一切ノ措置ニシテ所有權ニ變更ヲ加フルコトナキモ其ノ財産ニ關スル所有者ノ處分權ヲ奪フノ結果ヲ生シ又ハ生セシムヘキモノ例ヘハ監理、強制管理及保管ノ如キ措置又ハ其動機、形式又ハ場所ノ如何ヲ問ハス敵人ノ財産ノ差押、利用又ハ侵害ヲ目的トシ又ハ目的トスヘキ措置ヲ謂ヒ此等ノ措置ノ實行行爲トハ敵人ノ財産ニ對シ此等ノ措置ヲ適用スル行政官廳又ハ裁判所ノ抑留、調令又ハ命令及敵人ノ財産ノ管理又ハ監理ニ關シ個人ノ爲シタル行爲例ヘハ金錢債務ノ辨濟、金錢債權ノ取立、訴訟費用、諸掛其ノ他ノ諸費用ノ支拂、手數料ノ取立ノ如キ行爲ヲ謂フ

「移轉措置」トハ敵人ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ敵人タル所有者ノ同意ナクシテ敵人タル所有者以外ノ者ニ移轉スルニ因リテ敵人ノ財産ノ所有權ニ影響ヲ及ホシ又ハ及ホスヘキ措置例ヘハ敵ノ財産ノ所有權ノ移轉賣却若ハ清算又ハ權利證書若ハ有價證券ヲ無效ト爲スカ如キ措置ヲ謂フ

四

同盟國又ハ聯合國ノ版圖內ニ在ル獨逸國民ノ一切ノ財産、權利及利益竝其ノ賣却、清算其ノ他ノ處分ヨリ生シタル純殘高ニ付テハ當該同盟國又ハ聯合國ハ第一次ニ其ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム）ノ獨逸國ノ版圖內ニ在ル財産、權利及利益ニ關スル請求ニ基ク賠償額ノ支拂又ハ其ノ國民ニ對スル獨逸國民ノ金錢債務ノ支拂及千九百十四年七月三十一日以後當該同盟國又ハ聯合國カ戰爭ニ參加セル以前ニ獨逸國政府又ハ獨逸國官憲ノ行爲ニ因リ生シタル請求ノ支拂ニ充當スルコトヲ得前記ノ請求ノ額ハ「ギュスターヴ、アドール」氏ニシテ承諾スルニ於テハ同氏ノ任命スル仲裁人若シ同氏ニ於テ任命ヲ爲ササル場合ニ於テハ第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所ノ任命スル仲裁人ヲシテ之ヲ查定セシムルコトヲ得前記ノ財産、權利及利益竝純殘高ハ第二次ニ當該同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ獨逸國以外ノ敵國ノ版圖內ニ在ル財産、權利及利益ニ關スル請求ニ基ク賠償額ニシテ他ノ方法ニ依リ支拂ハレサルモノノ支拂ニ充當スルコトヲ得

五

第二百九十七條ノ規定ニ拘ラス同盟國又ハ聯合國內ニ於テ設立セラレタル甲會社カ其ノ勢力ノ下ニ置カルル獨逸國內ニテ設立ノ乙會社ト共同ニ第三國ニ於テ商標使用ノ權利ヲ戰爭開始ノ直前ニ有シタルトキ又ハ第三國ニ於テ販賣スヘキ貨物又ハ物品ノ特別複製方法ヲ乙會社ト共同ニ利用スルノ權利ヲ戰爭開始ノ直前ニ享有シタルトキハ甲會社ハ乙會社ヲ排除シテ單獨ニ第三國內ニ於テ商標ヲ使用スルノ權利ヲ專有スヘク且此ノ特別複製方法ハ乙

會社ニ對シ又ハ其ノ事業、營業財産又ハ株式ニ對シ獨逸國戰時法令ノ適用ニ依ル措置ノ如何ニ拘ラス甲會社ニ之ヲ引渡スヘシ但シ甲會社ハ請求ヲ受ケタルトキハ乙會社ニ對シ獨逸國內ニ於テ使用セラルヘキ物品ノ複製ノ繼續ヲ許容シ雛形ヲ交付スヘキモノトス

六

第二百九十七條ニ依リ現物回收ノ實行セラルル時期ニ至ル迄獨逸國ハ其ノ戰時非常措置ノ目的物タリシ同盟國又ハ聯合國ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム）ノ財産、權利及利益ヲ保全スルノ責ニ任ス

七

同盟國又ハ聯合國ハ本條約實施後一年以內ニ第二百九十七條（ヘ）號ニ規定スル權利ヲ行使セムトスル財産、權利及利益ヲ指定スヘシ

八

第二百九十七條ニ定ムル現物回收ハ獨逸國政府又ハ之ニ代ル官憲ノ命令ニ依リ實行セラルヘシ獨逸國官憲ハ請求ニ因リ管理人ノ管理行爲ニ關スル詳細ノ報告ヲ利害關係人ニ付與スヘシ此ノ請求ハ本條約實施後何時タリトモ之ヲ爲スコトヲ得

九

獨逸國民ノ財産、權利及利益ハ第二百九十七條（ロ）號ニ定ムル清算ノ結了ニ至ル迄其ノ財産、權利及利益ニ關シテ執ラレタル又ハ執ラルルコトアルヘキ戰時非常措置ニ引續キ服スヘシ

十

獨逸國ハ本條約實施後六月以內ニ其ノ國民ノ有スル一切ノ有價證券、證明書、捺印證書其ノ他ノ權原證書ニシテ且同盟國又ハ聯合國ノ版圖內ニ在ル財産、權利又ハ利益ニ關スルモノ（其ノ同盟國又ハ聯合國ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ノ株券、持分、社債券、社債持分證券其ノ他ノ債務證券ヲ含ム）ヲ各當該同盟國又ハ聯合國ニ引渡スヘシ

獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國ノ要求アルトキハ何時タリトモ其ノ同盟國又ハ聯合國ノ版圖內ニ在ル獨逸國民ノ財産、權利及利益ニ關シ又ハ其ノ財産、權利及利益ニ付千九百十四年七月一日以後ニ行ハレタル取引ニ關スル必要ナル參考資料ヲ提供スヘシ

十一

「現金資産」トハ宣戰前又ハ宣戰後ニ設ケタル一切ノ預金及基金竝預金、收入金及管理人、保管人其ノ他ノ者カ預入其ノ他ノ投資ノ基金ヨリ取立テタル利潤ヨリ生シタル一切ノ資産ヲ包含ス但シ同盟國若ハ聯合國又ハ同盟國若ハ聯合國內ノ各邦、州若ハ都市ニ屬スル金額ハ之ヲ包含セサルモノトス

十二

敵人ノ財産管理ノ責ニ任シ若ハ其ノ管理ヲ監督スル者ニ依リ又ハ此等ノ者若ハ總テノ官憲ノ命令ニ依リ締約國ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム）ニ屬スル現金資産ヲ以テ爲サレタル一切ノ投資ハ何レノ地ニ於テ爲サレタルヲ問ハス之ヲ無效トス其ノ現金資産ハ此ノ種ノ投資ニ拘ラス計算セラルヘシ

十三

本條約實施後一月以內ニ又ハ請求ニ因リ何時タリトモ獨逸國ハ其ノ版圖內又ハ獨逸國若ハ其ノ同盟國ノ占領地域內ニ於テ戰時非常措置又ハ移轉措置ニ付セラレタル同盟及聯合國ノ國民（其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム）ノ財産、權利及利益ニ關スル一切ノ勘定書、證書、記錄、書類其ノ他ノ參考資料ニシテ獨逸國ノ版圖內ニ存在スルモノヲ同盟及聯合國ニ引渡スヘシ

監督人、監理人、支配人、管理人、保管人、清算人及管財人ハ前記勘定書及書類ノ卽時且全部ノ引渡ニ付及此等書類ノ正確ナルコトニ付獨逸國政府ノ保證ノ下ニ各自其ノ責ニ任ス

十四

敵國內ニ在ル財産、權利及利益竝此等ノ財産、權利及利益ノ清算殘高ニ關スル第二百九十七條及本附屬書ノ規定ハ金錢債務、金錢債權及勘定ニ適用セラル第三款ノ規定ハ單ニ支拂ノ方法ヲ規定スルニ止マル

同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國ノ一自治領若ハ印度ニ於テ第三款ヲ採用スルコトノ宣言ヲ爲ササリシ場合ニ於テハ其ノ同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ其ノ英國自治領若ハ印度ト獨逸國トノ間及雙方ノ國民相互間ニ於テ第二百九十七條ニ規定スル事項ノ處理ニ當リ支拂ニ用ウヘキ通貨竝爲替相場及利率ニ關スル第三款ノ規定ハ當該同盟國又ハ聯合國ノ政府カ本條約實施後六月以內ニ此ノ規定ノ適用ナキ旨ヲ獨逸國ニ通告スルニ非サレハ之ヲ適用ス

十五

第二百九十七條及本附屬書ノ規定ハ同盟國又ハ聯合國ニ於ケル戰時特別法令ニ依リ又ハ第二百九十七條（ロ）號ノ規定ニ依リ財産、權利、利益、會社又ハ事業ノ清算中ニ處理セラレ又ハ處理セラルヘキ工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニ之ヲ適用ス

第五款　契約、時效、判決

第二百九十九條

（イ）本條及本款附屬書ニ揭クル特定ノ契約又ハ特定ノ種類ノ契約ニシテ除外例又ハ特別ノ定アルモノヲ除クノ外敵人間ノ契約ハ當事者中ノ何レカノ二人カ敵人ト爲リタル時ヨリ效力ヲ失ヒタルモノト看做ス但シ其ノ契約ニ基キ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ行爲ヲ爲シタルニ因リ生スル金錢債務其ノ他ノ金錢上ノ債務ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

（ロ）當事者ノ一方ノ屬スル同盟國又ハ聯合國ノ政府カ公益ノ爲本條約實施後六月以內ニ履行ヲ必要トスル契約ハ本條ニ依リ效力ヲ失フコトナシ

前記ノ規定ニ依リ效力ヲ保存セラレタル契約ヲ履行スルニ因リ當事者ノ一方カ通商狀態ノ變更ノ結果重大ナル損害ヲ受クル場合ニ於テハ第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所ハ被害當事者ニ對シ衡平ナル賠償ヲ與フルノ權限ヲ有ス

（ハ）亞米利加合衆國、伯剌西爾國及日本國ノ憲法及法律ノ規定ニ顧ミ本條、第三百條及本款附屬書ノ規定ハ此等諸國ノ國民ト獨逸國民トノ間ニ締結セラレタル契約ニハ之ヲ適用セス又第三百五條ハ亞米利加合衆國又ハ其ノ國民ニハ之ヲ適用セス

（ニ）當事者ノ一方カ一地域ノ住民タル故ヲ以テ當事者カ敵人タリシ契約ニ付テハ其ノ地域ノ主權カ移轉セラレ其ノ當事者ノ一方カ本條約ニ依リ同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ取得スルトキハ本條及本款附屬書ノ規定ハ之ヲ適用セス當事者ノ一方カ敵ノ占領ニ係ル同盟國又ハ聯合國ノ地域內ニ居住シタル故ヲ以テ相互間ノ取引ヲ禁止セラレタリシ場合ニ於ケル同盟及聯合國ノ國民間ノ契約ニ付テハ右規定ハ亦之ヲ適用セス

（ホ）敵人間ノ契約ニ從ヒ適法ニ行ハレタル取引カ交戰國ノ一方ノ認許ノ下ニ行ハレタル場合ニ於テハ其ノ取引ハ本條又ハ本款附屬書ノ規定ニ依リ無效ト爲ルコトナシ

第三百條

（イ）一切ノ時效期間又ハ出訴期間ハ其ノ進行ノ開始カ開戰前ナルト開戰後ナルトヲ問ハス敵人間ノ關係ニ付テハ各締約國ノ版圖內ニ於テ戰時中其ノ進行ヲ停止シタルモノト看做ス其ノ期間ハ本條約實施後少クトモ三月ヲ經過シタル時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム本號ノ規定ハ利札若ハ配當證ノ呈示ニ付又ハ當籤其ノ他ノ事由ニ因リ償還セラルヘキ有價證券ノ拂戾ヲ受クル爲ノ呈示ニ付定メラレタル期間ニ之ヲ適用ス

（ロ）戰時中或行爲ヲ爲スコト又ハ或形式ヲ履ムコトヲ怠リタルカ爲獨逸國ノ版圖內ニ於テ執行處分行ハレ同盟國又ハ聯合國ノ國民カ損害ヲ受ケタル場合ニ若シ其ノ事件カ同盟國又ハ聯合國ノ通常裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ該國民ハ其ノ請求ニ付第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所ノ審理ヲ求ムルコトヲ得

（ハ）同盟國又ハ聯合國ノ國民タル利害關係人ノ請求ニ因リ混合仲裁裁判所ハ當該事件ノ特殊ノ事情ヲ斟酌シ原狀回復カ衡平ニシテ可能ナリト認メタルトキハ前號ニ規定スル執行處分ニ因リ侵害セラレタル權利ノ原狀回復ヲ命スヘシ

若シ原狀回復カ不衡平ナルカ又ハ不可能ナルトキハ混合仲裁裁判所ハ被害當事者ニ對シ獨逸國政府ヨリ支拂ハルヘキ賠償ヲ與フルコトヲ命スルコトヲ得

（ニ）敵人間ノ契約ノ當事者ノ一方カ其ノ契約ノ條項ヲ履行セス又ハ契約中ニ定ムル權利ヲ行使シタルカ爲其ノ契約解除セラレタル場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル當事者ハ混合仲裁裁判所ニ其ノ救濟ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ混合仲裁裁判所ハ前號ニ定ムル權能ヲ有ス

（ホ）前各號ノ規定ハ侵入地域內又ハ占領地域內ニ於テ獨逸國カ行ヒタル前記ノ措置ニ因リ損害ヲ受ケタル同盟及聯合國ノ國民カ他ノ方法ニ依リ賠償ヲ受ケサリシ場合ニ之ヲ準用ス

（ヘ）獨逸國ハ前各號ノ規定ニ依リ混合仲裁裁判所ノ命シタル現物回收又ハ原狀回復ニ因リ損害ヲ受ケタル第三者ニ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

（ト）流通證券ニ付テハ（イ）號ニ定ムル三月ノ期間ハ流通證券ニ關シ關係國ノ版圖內ニ於テ施行セラレタル戰時特別法カ確定的ニ其ノ效力ヲ失フ日ヨリ始マル

第三百一條

敵人間ニ於テハ戰前ニ作成シタル流通證券ハ所要ノ期間內ニ引受又ハ支拂ノ爲ニスル證券ノ呈示ヲ爲サス振出人若ハ裏書人ニ對スル引受拒絶若ハ支拂拒絶ノ通知ヲ爲サス又ハ拒絶證書ノ作成ヲ爲サス其ノ他戰時中或形式ヲ履行セサリシ故ノミヲ以テ失效シタルモノト看做サルルコトナシ

引受又ハ支拂ノ爲ニスル流通證券ノ呈示、振出人若ハ裏書人ニ對スル引受拒絶若ハ支拂拒絶ノ通知又ハ拒絶證書ノ作成ヲ爲スヘキ期間カ戰時中經過シ且證券ノ呈示、拒絶證書ノ作成又ハ引受拒絶若ハ支拂拒絶ノ通知ヲ爲スヘキ當事者カ戰時中之ヲ爲ササリシ場合ニ於テハ證券ノ呈示、引受拒絶若ハ支拂拒絶ノ通知又ハ拒絶證書ノ作成ヲ爲ス爲本條約實施後三月ヲ下ラサル期間ノ猶豫ヲ與フヘシ

第三百二條

同盟國又ハ聯合國ノ通常裁判所カ本條約ニ依リ管轄權ヲ有スル事件ニ付爲シタル判決ハ獨逸國內ニ於テ確定ノモノトシテ之ヲ承認シ且執行判決ヲ須ヰスシテ之ヲ執行スヘシ

獨逸國裁判所カ同盟國又ハ聯合國ノ國民カ防禦ヲ爲スコト能ハサリシ事件ニ於テ爭議ニ關シ戰時中其ノ國民ニ不利益ノ判決ヲ爲シタルトキハ其ノ判決ニ因リ損害ヲ受ケタル同盟及聯合國ノ國民ハ之ニ對シ第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所ノ定ムル賠償ヲ受クルノ權利ヲ有ス

同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ請求ニ因リ前項ノ賠償ハ混合仲裁裁判所ノ發スル命令ニ基キ實行可能ナル限リ各當事者ヲ獨逸國裁判所ノ判決前ノ地位ニ回復セシムルニ依リテ之ヲ行フコトヲ得

前記ノ賠償ハ侵入地域內又ハ占領地域內ニ於ケル司法上ノ措置ニ因リ損害ヲ受ケタル同盟國又ハ聯合國ノ國民カ他ノ方法ニ依ル賠償ヲ受ケサリシ場合ニ其ノ國民ハ混合仲裁裁判所ニ出訴シテ之ヲ受クルコトヲ得

第三百三條

本編第三款乃至第五款及第七款ニ「戰時中」ト稱スルハ各同盟國又ハ聯合國ニ付其ノ國ト獨逸國トノ間ニ戰爭狀態開始ヨリ本條約實施ニ至ル迄ノ期間ヲ謂フ

附屬書

第一　一般規定

一

契約當事者間ノ取引カ其ノ當事者ノ一方ノ服從スル法律、命令又ハ規則ニ依リ禁止セラレ其ノ他不法ト爲リタルトキハ其ノ契約當事者ハ第二百九十九條乃至第三百一條ニ謂フ敵人ニシテ其ノ間ノ取引カ禁止セラレ其ノ他不法ト爲リタル日ヨリ敵人ト爲リタルモノト看做ス

二

左ニ揭クル契約ハ第二百九十九條ノ規定ニ拘ラス戰時中同盟及聯合國ノ制定シタル國內ノ法律、命令又ハ規則及契約ノ條項ニ從ヒテ其ノ效力ヲ存續ス但シ第四款第二百九十七條（ロ）號ニ規定スル權利ニ影響スルコトナシ

（イ）動産、不動産其ノ他ノ財産權ノ讓渡ヲ目的トスル契約ニシテ當事者カ敵人ト爲ルニ先チ權利ノ移轉又ハ目的物ノ引渡ヲ了シタルモノ

（ロ）土地及家屋ノ賃貸借及賃貸借ヲ目的トスル契約

（ハ）抵當權、質權其ノ他ノ擔保ノ契約

（ニ）鑛山、採石場又ハ埋藏鑛物ニ關スル特許契約

（ホ）個人又ハ會社ト國、州、都市其ノ他之ト類似ノ法人ニシテ行政上ノ職能ヲ有スルモノトノ間ノ契約及國、州、都市其ノ他之ト類似ノ法人ニシテ行政上ノ職能ヲ有スルモノノ許與シタル特許

三

契約ノ條項ノ一部カ第二百九十九條ニ依リ無效ト爲リタル場合ニ若シ其ノ契約ノ條項カ分割シ得ヘキモノナルトキハ殘餘ノ條項ハ二ト同シク國內ノ法令ニ從ヒテ其ノ效力ヲ存續ス若シ其ノ契約ノ條項カ分割シ得サルモノナルトキハ其ノ契約ハ全部無效ト爲リタルモノト看做ス

第二　特種ノ契約ニ關スル規定

四

株式取引所及商品取引所ノ契約

（イ）公認ノ取引所又ハ商事組合カ戰時中制定シタル規則ニシテ戰前ニ敵人ノ締結シタル契約ノ清算ヲ規定スルモノ及其ノ規則ニ從ヒ執リタル措置ハ締約國之ヲ確認ス尤モ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

（一）其ノ契約ハ當該取引所又ハ組合ノ規則ニ從ヒ締結スルコトヲ明示シタルモノナルコト

（二）當該規則カ一切ノ關係者ニ適用セラレタルモノナルコト

（三）契約清算ニ關スル條件カ公平且妥當ナリシコト

（ロ）前號ノ規定ハ敵ノ占領シタル地域內ノ取引所又ハ商事組合カ占領期間內ニ執リタル措置ニ之ヲ適用セス

（ハ）「リヴァプール」棉花協會ノ決議ニ依リ千九百十四年七月三十一日ニ行ハレタル棉花先物契約ノ清算モ亦之ヲ確認ス

擔保物

五

敵人ノ未拂金錢債務ノ擔保物ノ賣却ハ債權者カ善意ニ且相當ノ注意ヲ以テ之ヲ行ヒタルモノナルトキハ所有者ニ其ノ賣却ヲ通知シタルト否トニ拘ラス之ヲ有效ナリシモノト看做シ其ノ賣却ヲ理由トスル債務者ノ要求ハ之ヲ認メス

右ノ規定ハ敵ノ侵入又ハ占領ニ係ル地域內ニ於テ占領期間內ニ敵ノ行ヒタル擔保物ノ賣却ニハ之ヲ適用セス

流通證券

六

流通證券ノ發行ニ因リテ生シ敵人間ニ存スル金錢上ノ債務ハ本編第三款及其ノ附屬書ヲ採用シタル諸國ニ付テハ該附屬書ニ從ヒ清算所ノ仲介ニ依リテ之ヲ處理ス清算所ハ所持人ノ爲ニ存スル諸種ノ救濟ニ關シ所持人ノ權利ヲ行使ス

七

戰前又ハ戰時中流通證券上ノ債務ヲ負擔シタル者カ後ニ至リ敵人ト爲リタル者ノ擔保約束ニ因リテ其ノ債務ヲ負擔シタルモノナルトキハ其ノ債務負擔者ニ對スル擔保者ノ賠償ノ責任ハ戰爭開始ニ拘ラス存續ス

第三　保險契約

八

當事者ノ一方カ後ニ至リ敵人ト爲リタル保險契約ハ左ノ規定ニ依リ之ヲ處理ス

火災保險

九

當該財産ノ利害關係人ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタル火災保險契約ハ戰爭ノ開始ニ因リ又ハ當事者カ敵人ト爲リタルニ因リ又ハ戰時中及戰後三月ノ期間內ニ於ケル契約上ノ義務ノ不履行ニ因リ失效シタルモ

ノト看做サルルコトナシ但シ本條約實施後三月ノ期間滿了後ニ於ケル最初ノ年掛保險料ノ支拂期日カ到來シタルトキハ該契約ハ失效スルモノトス

戰時中ニ支拂期日ノ到來シタル未拂保險料又ハ戰時中ニ生シタル損害塡補請求權ハ之ヲ決濟スヘシ

十

戰前ニ成立シタル火災保險カ戰時中行政行爲又ハ立法行爲ニ依リ原保險者ヨリ他ノ保險者ニ移轉シタル場合ニ於テハ其ノ移轉ハ之ヲ有效トシ原保險者ノ義務ハ移轉ノ日ヨリ消滅シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テモ原保險者ハ要求ニ因リ移轉ノ條件ニ關シ詳細ナル報告ヲ受クルコトヲ得ヘク且其ノ條件衡平ナラスト認メラルル場合ニ於テハ之ヲ衡平ナラシムルニ必要ナル限度ニ於テ其ノ條件ヲ修正スルコトヲ得

又被保險者ハ原保險者ノ同意ヲ得テ請求ノ日ヨリ原保險者ニ契約ノ再移轉ヲ爲サシムルコトヲ得

生命保險

十一

保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタル生命保險契約ハ戰爭ノ開始又ハ該保險契約者カ敵人ト爲リタルコトニ因リ失效シタルモノト看做サルルコトナシ

右ノ規定ニ基キ失效セサルモノト看做サルル契約上ノ金額ニシテ戰時中支拂ヲ要スルニ至リタルモノハ支拂ヲ要スルニ至リタル日ヨリ支拂當日ニ至ル迄年五分ノ利息ヲ附シテ戰爭終了後之ヲ取立ツルコトヲ得

契約カ戰時中保險料不拂ノ爲消滅シ又ハ契約條件違反ノ爲失效シタル場合ニ於テハ被保險者、其ノ代理人又ハ權利者ハ本條約實施後十二月以内ニ於テ何時ニテモ保險者ニ對シ契約ノ消滅又ハ失效ノ日ニ於ケル保險證券ノ解約價額ヲ請求スルコトヲ得

戰時措置ノ施行ニ依リ保險料ノ支拂ヲ禁止セラレタル爲保險料ノ不拂ヲ生シ戰時中契約ノ消滅シタル場合ニ於テハ被保險者、其ノ代理人又ハ權利者ハ本條約實施後三月以内ニ保險料ニ年五分ノ利息ヲ附シタル金額ヲ支拂ヒテ契約ヲ復活スルノ權利ヲ有ス

十二

各同盟國又ハ聯合國ハ本條約實施後三月以内ニ獨逸保險會社ト自國民トノ間ニ存スル一切ノ生命保險契約ヲ自國民ニ何等損害ヲ生セシメサル條件ニテ取消スコトヲ得

此ノ目的ノ爲ニ獨逸保險會社ハ關係同盟國又ハ聯合國ノ政府ニ前記取消保險證券ニ歸屬セシムヘキ部分ノ資産ヲ交付シテ其ノ保險證券ニ關スル一切ノ責任ヲ免ルルコトヲ得交付セラルヘキ資産ハ混合仲裁裁判所ノ任命スル保險技師之ヲ決定スヘシ

十三

後ニ至リ敵國ト爲リタル國ニ設立セラレタル保險會社ノ支店ノ締結シタル生命保險契約ノ效力ハ契約ニ反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ支店所在地ノ法令ニ依ル但シ保險者ハ若シ戰時中執リタル措置ニ基キ爲サレ又ハ強制セラレタル請求カ契約ノ條項ニ適合セス又ハ契約締結當時ニ於ケル法令又ハ條約ニ違反スルトキハ被保險者又ハ其ノ代理人ニ對シ其ノ請求ニ基キ支拂ヒタル金額ノ拂戻ヲ請求スルノ權利ヲ有ス

十四

當該契約ニ適用スヘキ法令ノ規定上保險料ノ不拂ニ拘ラス被保險者ニ契約解除ノ通知ヲ爲ス迄ハ保險者カ引續キ契約ニ依リ拘束セラルヘキ場合ニ戰爭ノ爲其ノ通知ヲ爲スコト能ハサリシモノナルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シ未拂保險料ニ年五分ノ利息ヲ附シテ支拂ヲ爲スヘキコトヲ請求スルノ權利ヲ有ス

十五

人命ノ推算ト利率トヲ當事者相互間ノ約定ノ基礎トスル保險契約ハ本附屬書十一乃至十四ノ適用ニ付テハ之ヲ生命保險契約ト看做ス

海上保險

十六

保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタル海上保險契約（定期保險及航海保險ヲ含ム）ハ保險契約者カ敵人ト爲リタルニ因リ失效シタルモノト看做ス但シ契約ニ定メタル保險者ノ責任カ保險契約者ノ敵人ト爲リタル前ニ始マリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

保險者ノ責任カ始マラサリシ場合ニ於テハ支拂ヒタル保險料其ノ他ノ金額ハ保險者之ヲ拂戻スコトヲ要ス

保險者ノ責任カ始マリタル場合ニ於テハ保險契約者カ敵人ト爲リタルニ拘ラス契約ハ之ヲ有效トシ其ノ契約ニ從ヒ保險料又ハ損害塡補トシテ支拂ハルヘキ金額ハ本條約實施後之ヲ取立ツルコトヲ得

交戰國ノ國民ニ對シ又ハ交戰國ノ國民カ戰前支拂ヲ要シタル金額ニシテ戰後支拂行ハレタルモノニ對シ利息ヲ支拂フヘキ合意成立シタルトキハ該利息ハ海上保險契約ニ依リ損害ノ塡補ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ損害發生以後一年ノ期間滿了シタル時ヨリ之ヲ附スヘシ

十七

後ニ至リ敵人ト爲リタル被保險者トノ海上保險契約ハ保險者ノ屬スル國又ハ其ノ國ノ同盟國若ハ聯合國ノ戰爭行爲ニ基ク損害ヲ擔保スルモノト看做スコトヲ得ス

十八

後ニ至リ敵人ト爲リタル保險者ト戰前ニ於テ海上保險契約ヲ締結シタル者カ戰爭開始後敵人ニ非サル保險者ト同一ノ危險ヲ目的トスル新契約ヲ締結シタル場合ニ於テハ其ノ新契約ハ成立ノ日ヨリ原契約ニ代リタルモノト看做サルヘク且保險料ノ支拂ハ原保險者カ新契約成立ノ時ニ至ル迄契約上ノ義務ヲ有シタルコトヲ基礎トシテ精算セラルヘシ

其ノ他ノ保險

十九

保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ戰前成立シタル保險契約ニシテ本附屬書九乃至十八ニ規定シタル以外ノモノハ一切ノ關係ニ付同一ノ當事者間ノ火災保險カ前記ノ規定ニ依リ取扱ハルルト同一ノ基礎ニ於テ取扱ハルヘシ

再保險

二十

後ニ至リ敵人ト爲リタル者ト爲シタル一切ノ再保險契約ハ其ノ者カ敵人ト爲リタルニ因リテ失效シタルモノト看做ス但シ生命又ハ海上ノ危險ノ責任カ戰前始マリタル場合ニ於テハ戰後其ノ危險ニ關シ支拂ハルヘキ金額ノ支拂ヲ受クルノ權利ニ影響スルコトナシ

敵軍侵入ノ爲再保險契約者カ他ノ再保險者ヲ得ルコト能ハサリシ場合ニ於テハ右ノ規定ニ拘ラス再保險契約ハ本條約實施後三月間引續キ其ノ效力ヲ有ス

再保險契約カ本規定ニ依リ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ生命又ハ海上ノ危險ノ責任カ戰前始マリタルトキハ其ノ危險ニ關スル損害塡補ノ債務竝既拂及未拂ノ再保險料ニ付當事者相互間ニ計算ノ決濟ヲ爲スコトヲ要ス本附屬書十一乃至十八ニ規定スル以外ノ危險ニ付テハ當事者カ敵人ト爲リタル日ノ計算ヲ以テ計算ノ決濟ヲ爲スヘク其ノ日以後ニ生スルコトアルヘキ損害ニ對スル請求ハ之ヲ加算スルコトヲ要セス

二十一

本附屬書二十ノ規定ハ當事者カ敵人ト爲リタル日ニ存在シタル再保險ニシテ生命又ハ海上ノ危險ニ非サル危險ヲ目的トシタル保險契約ニ因リテ保險者カ負擔シタル特定ノ危險ニ對スルモノニ均シク之ヲ準用ス

二十二

特別契約ニ依リテ成立シ一般契約ニ依ラサル生命再保險ハ引續キ效力ヲ有ス

本附屬書十二ノ規定ハ敵國會社カ再保險者タル生命保險ノ再保險契約ニ之ヲ準用ス

二十三

海上保險契約ノ再保險カ戰前ニ成立シタル場合ニ再保險者ニ移轉セラレタル責任カ戰爭ノ開始前ニ始マリタルトキハ其ノ責任ノ移轉ハ有效ニシテ且戰爭ノ開始ニ拘ラス契約ハ其ノ效力ヲ有ス又再保險契約ニ依ル再保險料又ハ損害塡補トシテ支拂フヘキ金額ハ戰後之ヲ取立ツルコトヲ得

二十四

本附屬書十七、十八及十六末段ノ規定ハ海上再保險契約ニ之ヲ準用ス

第六款　混合仲裁裁判所

第三百四條

（イ）本條約實施後三月以内ニ同盟國又ハ聯合國ノ各一國ト獨逸國トノ間ニ各一箇ノ混合仲裁裁判所ヲ設置ス該裁判所ハ三名ノ審判員ヲ以テ之ヲ構成ス關係國政府ハ各右三名ノ審判員中一名ヲ任命シ審判長ハ兩關係國政府ノ合意ニ依リ之ヲ選任ス

前記ノ合意成立セサルトキハ國際聯盟理事會ニ於テ審判長及必要ノ場合ニ之ニ代ルヘキ者二名ヲ選任ス同理事會ノ設立セラルル迄ハ「ギユスターヴ、アドール」氏ニシテ承諾スルニ於テハ同氏之ヲ選任ス上記ノ審判長及之ニ代ルヘキ者ハ本戰爭中ノ中立國國民タルコトヲ要ス

審判員ノ闕員アル場合ニ關係國政府カ一月ノ期間内ニ之ヲ任命スル手續ヲ爲ササルトキハ他ノ關係國政府審判長ニ代ルヘキ前記ノ二名中ヨリ其ノ審判員ヲ選任ス

混合仲裁裁判所ノ判定ハ審判員ノ過半數ノ決定ニ依ル

（ロ）前號ノ規定ニ依リ設置シタル混合仲裁裁判所ハ本編第三款乃至第五款及第七款ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬スル一切ノ事件ヲ審判ス

前記ノ外同盟國又ハ聯合國ノ國民ト獨逸國民トノ間ニ本條約實施前ニ成立シタル契約ニ關スル一切ノ事件ハ其ノ性質ノ如何ヲ問ハス混合仲裁裁判所之ヲ審判ス但シ同盟國、聯合國又ハ中立國ノ法令ニ依リ此等ノ國ノ通常裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ハ之ヲ審判スルノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ混合仲裁裁判所ヲ排除シテ當該通常裁判所之ヲ管轄ス尤モ同盟國又ハ聯合國ノ國民タル當事者ハ其ノ國ノ法令ニ依リ禁止セラレサル限リ混合仲裁裁判所ニ事件ヲ提起スルコトヲ得

（ハ）事件數ニ應シ必要ナル場合ニ於テハ審判員ノ增員ヲ行ヒ且各混合仲裁裁判所ヲ數部ニ分ツコトヲ得各部ノ構成ハ前記ノ規定ニ依ル

（ニ）各混合仲裁裁判所ハ本條附屬書ニ規定スル場合ヲ除キ各其ノ手續ノ準則ヲ定メ且手續ノ費用ニ付敗訴者ノ支拂フヘキ額ヲ決定スルノ權能ヲ有ス

（ホ）各國政府ハ其ノ任命ニ係ル混合仲裁裁判所審判員及該裁判所ニ於テ各自國政府ヲ代表セシムル爲任命スル代理人ノ報酬ヲ支辨ス審判長ノ報酬ハ關係國政府間ノ特別取極ニ依リテ之ヲ決定シ且此ノ報酬及各混合仲裁裁判所共同ノ費用ハ兩國政府ニ於テ折半シテ之ヲ支辨ス

（ヘ）締約國ハ各自ノ通常裁判所及官憲ヲシテ直接ニ混合仲裁裁判所ニ對シ通知書ノ送達及證據ノ蒐集其ノ他權能ノ範圍内ニ於テ一切ノ助力ヲ爲サシムルコトヲ約ス

（ト）締約國ハ混合仲裁裁判所ノ判定ヲ終結且確定ノモノト認メ各自ノ國民ニ對シ拘束力ヲ有セシムルコトヲ約ス

附屬書

一

混合仲裁裁判所ノ審判員カ死亡シ退職シ又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ執務不能ト爲リタルトキハ其ノ審判員ノ任命ニ付執リタルト同一ノ手續ニ依リ之カ補闕ヲ爲スヘシ

二

混合仲裁裁判所ハ正義衡平ニ適合スル手續ノ準則ヲ採用シ各當事者ノ辯論ノ順序及時期ヲ定メ且證據調ニ必要ナル一切ノ手續ヲ定ムルコトヲ得

三

各當事者ノ代理人及辯護人ハ各事件ニ付請求ヲ維持シ又ハ防禦ヲ爲ス爲口頭及書面ニ依リ混合仲裁裁判所ニ陳述ヲ爲スノ權利ヲ有ス

四

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ提起セラレタル爭議及事件竝日附アル之ニ關スル審理手續ノ記錄ヲ保存スヘシ

五

關係國ハ各自事務官一名ヲ任命スルコトヲ得各關係國ノ任命シタル事務官ハ混合仲裁裁判所ノ混合書記局ヲ構成シ裁判所ノ指揮ヲ受クヘシ混合仲裁裁判所ハ職務ノ執行ヲ補助セシムルカ爲必要ナル他ノ一名又ハ數名ノ職員ヲ任命使用スルコトヲ得

六

混合仲裁裁判所ハ當事者ノ提出スル證據及參考資料ニ依リ同裁判所ニ提起セラレタル一切ノ爭議及事項ニ付判定ヲ爲ス

七

獨逸國ハ混合仲裁裁判所ニ其ノ審理ニ必要ナル一切ノ便宜及參考資料ヲ供與スルコトヲ約ス

八

別段ノ合意アル場合ヲ除クノ外混合仲裁裁判所ニ於ケル用語ハ關係同盟國又ハ聯合國ノ定ムル所ニ從ヒ英吉利語、佛蘭西語、伊太利語又ハ日本語トス

九

各混合仲裁裁判所開廷ノ場所及日時ハ當該混合仲裁裁判所審判長之ヲ定ム

第三百五條

本編第三款乃至第五款又ハ第七款ニ依ル事件ニ關シ管轄權ヲ有スル通常裁判所カ判決ヲ與ヘタル又ハ與フル場合ニ於テ其ノ判決カ右諸款ノ規定ト牴觸スルトキハ其ノ判決ニ因リ損害ヲ受ケタル當事者ハ混合仲裁裁判所ノ定ムル救濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ請求アルトキハ混合仲裁裁判所ハ獨逸國裁判所ノ下シタル判決以前ノ各當事者ノ地位ヲ回復セシムルコトニ依リ成ルヘク右救濟ヲ行フヘシ

第七款　工業所有權

第三百六條

第二百八十六條記載ノ巴里同盟條約及「ベルヌ」條約ニ規定シタル工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ハ戰爭狀態開始當時ノ受益者又ハ其ノ承繼人ノ爲ニ本條約實施ノ時ヨリ各締約國ノ版圖内ニ於テ之ヲ回復ス但シ本條約ニ別段ノ規定アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス戰爭ナカリセハ工業所有權保護ノ出願ニ依リ又ハ文學的若ハ美術的著作物出版ノ結果戰時中ニ於テ取得シ得ヘカリシ權利モ亦其ノ權利ヲ有シタルヘキ者ノ爲ニ本條約實施ノ時ヨリ之ヲ承認設定スヘシ

尤モ獨逸國民ノ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付戰時中同盟國又ハ聯合國ノ立法機關又ハ行政官廳ノ執リタル特別ノ措置ニ基ク一切ノ行爲ハ依然有效ニシテ且其ノ完全ナル效果ヲ保有スヘシ

獨逸國又ハ獨逸國民ハ戰時中同盟國若ハ聯合國ノ政府ニ於テ行ヒ又ハ該政府以外ノ者カ政府ノ爲ニ若ハ其ノ同意ヲ得テ行ヒタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ利用ニ付何等ノ請求ヲ爲シ又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス該權利ノ實施ニ因リ生シタル一切ノ生産品、裝置、物品又ハ作品ノ販賣、販賣ノ提供又ハ使用ニ付亦同シ

同盟國又ハ聯合國ノ一國ニ於テ本條約署名當時ノ法令ニ別段ノ規定ナキトキハ本條第一項ニ定メタル特別ノ措置ノ實行ニ因ル一切ノ行爲ニ基キテ支拂ハルヘキ又ハ支拂ハレタル金額ハ獨逸國民ニ支拂ハルヘキ他ノ債權ニ付本條約ノ規定スル所ト同樣ニ之ヲ處理スヘク又同盟國若ハ聯合國ノ國民ノ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付獨逸國政府ノ執リタル特別ノ措置ニ依リ生シタル金額ハ獨逸國民ヨリ支拂ハルヘキ他ノ一切ノ金錢債務ト同視シ之ト同樣ノ取扱ヲ爲スヘシ

同盟國又ハ聯合國ハ國防上若ハ公益上ノ必要ノ爲又ハ同盟國若ハ聯合國ノ國民カ獨逸國ノ版圖内ニ於テ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付獨逸國ノ公正ナル取扱ヲ確保スル爲又ハ本條約ニ依リ獨逸國ノ約定シタル一切ノ義務ノ完全ナル履行ヲ保障スル爲其ノ國ノ法令ニ從ヒ獨逸國民カ戰前若ハ戰時中ニ取得シ又ハ戰後ニ取得スルコトアルヘキ工業所有權（製造標若ハ商標ニ關スルモノヲ除ク）又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ヲ實施シ其ノ實施ヲ免許シ又ハ其ノ實施ニ對シ監督權ヲ行使シ及其ノ他必要ナリト認ムル期限、條件又ハ制限等ヲ附スルノ權利ヲ留保ス本條約實施後取得セラルヘキ工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニ付テハ同盟國又ハ聯合國ノ留保シタル上記ノ權利ハ國防上又ハ公益上期限、條件若ハ制限ヲ附スルコトヲ必要ナリト認ムル場合ニ限リ之ヲ行使スルコトヲ得

同盟國又ハ聯合國カ前項ノ規定ヲ適用スル場

合ニ於テハ之カ爲相當ノ補償金又ハ使用料ヲ支拂フコトヲ要ス右補償金又ハ使用料ハ本條約ノ規定ニ依リ獨逸國民ニ支拂ハルヘキ他ノ金額ト同樣ニ之ヲ處理スヘシ

同盟國又ハ聯合國ハ千九百十四年八月一日以後ニ行ハレ又ハ將來行ハルルコトアルヘキ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ全部若ハ一部ノ移轉其ノ他ノ處置ニシテ本條ノ目的ヲ阻礙スヘキモノハ之ヲ無效トスルノ權利ヲ留保ス

本條ノ規定ハ同盟國又ハ聯合國ノ戰時特別法令ニ依リ淸算セラレタル又ハ第二百九十七條(ロ)號ニ依リ淸算ヲ行フコトアルヘキ會社又ハ企業ニ屬スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ之ヲ適用セス

第三百七條

締約國國民ハ千九百十四年八月一日前ニ於テ取得シ又ハ戰爭ナカリセハ戰前若ハ戰時中ノ出願ニ依リ同日以後ニ於テ取得シ得ヘカリシ工業所有權ノ取得、保存又ハ之ニ關スル異議ノ申立ニ付本條約實施ノ時ヨリ一年ヲ下ラサル期間内ニ於テハ何等ノ附加金又ハ過怠金ヲ徵收セラルルコトナク一切ノ行爲ヲ追完シ、手續ヲ履行シ、料金ヲ納付シ其ノ他當該國法令ノ定ムル一切ノ義務ヲ履行スルコトヲ得但シ本條ノ規定ハ亞米利加合衆國ニ於テ最終ノ審問ヲ終リタル牴觸審判ノ再開ヲ請求スルノ權利ヲ與フルコトナシ

工業所有權ニシテ其ノ行爲ノ追完、手續ノ履行又ハ料金ノ納付ヲ怠リタルノ事由ニ因リ一旦失效シタルモノハ其ノ效力ヲ囘復スヘシ但シ特許及意匠ニ關スルモノニ付テハ其ノ失效シタリシ期間内ニ該特許又ハ意匠ヲ實施シ又ハ使用シタル者ノ權利ヲ保護スルカ爲同盟國又ハ聯合國ニ於テ公正ノ見地ヨリ必要ト認ムル措置ヲ執ルコトヲ得ヘク又獨逸國民ノ有スル特許權又ハ意匠ニシテ本條ノ規定ニ依リ囘復シタルモノハ實施ノ許諾ニ付テハ戰時中之ニ適用スヘカリシ規定及本條約ノ一切ノ規定ニ從フヘシ

千九百十四年八月一日ヨリ本條約實施ニ至ル迄ノ期間ハ特許ノ實施又ハ製造標若ハ商標又ハ意匠ノ使用ニ付定メラレタル期間中ニ之ヲ算入セス千九百十四年八月一日ニ於テ有效ナリシ特許、製造標若ハ商標又ハ意匠ハ本條約實施後二年ノ期間滿了ニ至ル迄單ニ其ノ不實施又ハ不使用ノ事由ノミニ依リ取消サレ又ハ失效スルコトナシ

第三百八條

發明ノ特許出願又ハ實用新案、製造標若ハ商標竝意匠及雛形ノ登錄出願ニ關シ千九百十一年華盛頓ニ於テ改正セラレタル千八百八十三年三月二十日ノ工業所有權保護ニ關スル巴里同盟條約第四條其ノ他ノ條約又ハ法律ニ於テ規定シタル優先期間ニシテ千九百十四年八月一日ニ於テ滿了ニ至ラサリシモノ及戰時中ニ於テ開始シタルモノ又ハ戰爭ナカリセハ開始シ得ヘカリシモノハ各締約國ニ於テ他ノ締約國ノ一切ノ國民ノ爲本條約實施後六月ノ期間滿了ニ至ル迄之ヲ延長ス

尤モ前項期間ノ延長ニ因リ右優先期間ヲ援用シテ其ノ權利ヲ主張スル者アル場合ニ於テモ本條約實施ノ時善意ニ工業所有權ヲ占有シタル各締約國又ハ其ノ國民カ自己又ハ本條約實施前ニ其ノ權利ヲ取得シタル代理人若ハ實施權者ニ依リ其ノ權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス且侵害ノ訴追ヲ受ケ其ノ他ノ手續ニ服スルコトナシ

第三百九條

獨逸國ノ國民又ハ其ノ版圖内ニ於テ居住シ若ハ營業ニ從事スル者及同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ其ノ版圖内ニ於テ居住シ若ハ營業ニ從事スル者竝戰時中其ノ權利ヲ取得シタル者ハ宣戰ノ日ヨリ本條約實施ノ日ニ至ル迄ノ間ニ於テ相互ノ版圖内ニ生シタル事實ニシテ戰時中或時期ニ於テ存在シ又ハ前二條ノ規定ニ依リ囘復セラレタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ侵害ト看做サルヘキコトヲ理由トシテ何等ノ訴訟又ハ請求ヲ爲スコトヲ得ス

宣戰ヨリ本條約署名ニ至ル迄ノ間ニ於ケル生産品若ハ製造シタル物品又ハ公ニシタル文學的若ハ美術的著作物ノ本條約署名後一年ノ期間内ニ於ケル一方ニ於テハ同盟國又ハ聯合國ノ版圖内ノ、他方ニ於テハ獨逸國ノ版圖内ノ販賣若ハ販賣ノ提供ニ付如何ナル場合ニ於テモ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ侵害ニ對スル訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス前記ノ物ノ取得若ハ使用ノ繼續ニ付亦同シ本項ノ規定ハ右權利者カ戰時中獨逸國ノ占領シタル地方ニ於テ其ノ住所又ハ工場若ハ商館ヲ有シタル場合ニ之ヲ適用セス

本條ハ亞米利加合衆國ト獨逸國トノ間ニ之ヲ適用セス

第三百十條

同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ其ノ版圖内ニ於テ居住シ若ハ營業ニ從事スル者ト獨逸國民トノ間ニ於テ工業所有權ノ實施許諾又ハ文學的若ハ美術的著作物ノ複製許諾ニ關シ宣戰前ニ締結シタル契約ハ獨逸國及同盟國又ハ聯合國間ニ於ケル宣戰ノ日ニ溯リ其ノ解除アリタルモノト看做ス但シ何レノ場合ニ於テモ前記契約ニ依ル從前ノ受益者ハ本條約實施後六月以内ニ於テ當該權利者ニ對シ右ノ實施又ハ複製ニ付新ナル許諾ヲ請求スルノ權利ヲ有ス當事者間ニ於テ右契約ノ條件ニ關スル協議調ハサルトキハ上記ノ權利ヲ取得シタル場合ニ於テ準據シタル法令ノ屬スル國ノ管轄裁判所之ヲ決定ス尤モ獨逸法令ニ基キ取得シタル權利ノ許諾ニ關スル契約ニ付テハ本編第六款ニ規定シタル混合仲裁裁判所ニ於テ其ノ條件ヲ決定スヘシ該裁判所ハ場合ニ依リ戰時中ニ於ケル右權利ノ使用ニ基ク補償金ニ付其ノ公正ト認ムル金額ヲモ定ムルコトヲ得

同盟國又ハ聯合國ノ戰時特別法令ニ依リ與ヘラレタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ實施ノ免許ハ戰前ノ許諾ノ繼續ニ依リ其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナク有效ニ存續シ且完全ナル效果ヲ保有スヘシ戰前ニ締結セラレタル許諾契約ニ依ル從前ノ受益者ニ對シ與ヘラレタル免許ハ戰前ノ許諾契約ニ代リタルモノト看做ス

工業所有權ノ實施又ハ文學的美術的著作物若ハ演劇脚本ノ複製若ハ興行ニ關スル戰前ノ契約又ハ許諾ニ付戰時中支拂ヒタル金額アルトキハ該金額ハ本條約ノ規定ニ從ヒ獨逸國民ノ他ノ金錢債務又ハ金錢債權ト同樣ニ之ヲ處理スヘシ

本條ハ亞米利加合衆國ト獨逸國トノ間ニ之ヲ適用セス

第三百十一條

本條約ニ依リ獨逸國ヨリ分離シタル地域内ノ住民ハ該分離及之ニ基ク國籍ノ變更ニ拘ラス分離ノ當時獨逸國ノ法令ニ依リ有シタル一切ノ工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニ付引續キ獨逸國内ニ於テ完全ナル權利ヲ享有スヘシ

工業所有權竝文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニシテ本條約ニ依リ獨逸國ヨリ分離シタル地域内ニ於テ分離ノ當時有效ナルカ又ハ第三百六條ノ規定ニ依リ囘復シタルモノハ分離地域ヲ讓受ケタル國ニ於テ之ヲ承認スヘク且該地域内ニ於テ獨逸法令ニ依リ認メラレタルト同一期間其ノ效力ヲ保有スヘシ

第八款　讓渡地域内ニ於ケル社會保險及官營保險

第三百十二條

本條約ノ他ノ條項ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外獨逸國政府ハ獨逸國ノ歐羅巴内ノ版圖ノ讓渡ヲ受ケタル國及第一編（國際聯盟）第二十二條ニ依リ受任國トシテ獨逸國ノ從前ノ版圖ニ於テ施政ヲ行フ國ニ對シ獨逸帝國政府又ハ獨逸各邦政府若ハ其ノ管理ノ下ニ在ル公私ノ機關カ該地域内ニ於テ社會保險又ハ官營保險ヲ經營スル爲積立テタル部分ノ準備金ヲ引渡スコトヲ約ス

此等基金ノ引渡ヲ受ケタル國ハ其ノ基金ヲ該保險ヨリ生スル義務履行ノ爲ニ使用スヘシ

引渡ノ條件ハ獨逸國政府ト關係國政府トノ間ニ締結セラルヘキ特別條約ニ依リ之ヲ定ムヘシ

本條約實施後三月以内ニ前項ノ規定ニ基キ前記ノ特別條約締結セラレサル場合ニ於テハ引渡ノ條件ハ各場合ニ付五名ノ委員ヨリ成ル委員會ノ議ニ付スヘシ右委員會ノ委員ハ獨逸國政府ニ於テ一名ヲ、利害關係アル他方ノ政府ニ於テ一名ヲ、國際勞働事務局勞働理事會ニ於テ其ノ他ノ國ノ國民中ヨリ三名ヲ任命スヘシ同委員會ハ國際聯盟理事會ノ議ニ付スヘキ勸告ヲ委員任命後三月以内ニ過半數ニ依リ決定スヘク聯盟理事會ノ決定ハ終結トシ獨逸國及關係國政府ハ直ニ之ニ服從スヘシ

第十一編　航空

第三百十三條

同盟及聯合國ノ航空機ハ獨逸國ノ領土及領水ヲ航空シ又之ニ著陸スルノ完全ナル自由ヲ有スヘシ且獨逸國ノ航空機ト同一ノ特權ヲ享有スヘク陸上又ハ海上ニ於ケル遭難ノ場合ニ於テ殊ニ然リトス

第三百十四條

同盟及聯合國ノ航空機ハ他ノ何レノ國ニ向ヒテノ通過中ノ場合ニ於テモ獨逸國ノ領土及領水ノ上空ヲ著陸スルコトナク飛行スルノ權利ヲ享有ス尤モ獨逸國ノ制定スル法規ニシテ獨逸國ノ航空機竝同盟及聯合國ノ航空機ニ對シ均シク適用セラルヘキモノニ常ニ準據スルヲ要スルモノトス

第三百十五條

獨逸國國内公共交通ノ爲開放セラレタル一切ノ獨逸國飛行場ハ同盟及聯合國ノ航空機ノ爲之ヲ開放スヘシ同盟及聯合國ノ航空機ハ右飛行場ニ於テ著陸手數料、設備使用料其ノ他一切ノ料金ニ關シ獨逸國ノ航空機ト同等ノ待遇ヲ受クヘシ

第三百十六條

第三百十三條乃至第三百十五條ニ規定スル航空、通過及著陸ノ權利ニ付テハ本諸規定ニ依ルノ外獨逸國ノ必要ト認メテ制定スル法規ニ準據スルヲ要ス尤モ右ノ法規ハ獨逸國ノ航空機竝同盟及聯合國ノ航空機ニ對シ何等ノ差別ナク適用セラルヘキモノナルコトヲ要ス

第三百十七條

同盟及聯合國ノ一國カ下付シ又ハ有效ト認ムル國籍證明書、堪航證明書、技倆證明書及諸免狀ハ獨逸國ニ於テ有效ト認メラレ且獨逸國ノ下付スル證明書及免狀ト均シキモノト認メラルヘシ

第三百十八條

國内ニ於ケル通商上ノ空中交通ニ關シ同盟及聯合國ノ航空機ハ獨逸國ニ於テ最惠國ノ待遇ヲ受クヘシ

第三百十九條

獨逸國ハ其ノ領土ノ上空ヲ飛行スル一切ノ獨逸航空機カ同盟及聯合國間ニ締結セラルル航空條約中ニ規定スル燈火及信號ニ關スル規則、飛行ニ關スル規則竝飛行場及其ノ近傍ニ於ケル空中交通ニ關スル規則ヲ遵守スヘキコトヲ保障スル爲必要ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

第三百二十條

前諸規定ニ依リ負フ義務ハ千九百二十三年一月一日迄存續スヘシ但シ該期日ニ先チ獨逸國カ國際聯盟ニ加入スルコトヲ許容セラレ又ハ同盟及聯合國ノ同意ニ依リ右諸國間締結ノ航空條約ニ加入スルコトヲ認許セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二編　港、水路及鐵道

第一款　總則

第三百二十一條

獨逸國ハ鐵道、航行可能水路又ハ運河ノ何レカニ由ル國際交通上最便利ナル通路ヲ經テ其ノ版圖ヲ通過スルノ自由ヲ同盟及聯合國（其ノ獨逸國ニ隣接スルト否トヲ問ハス）ノ版圖ヨリ來リ又ハ其ノ版圖ニ向フ人、貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ニ許與スルコトヲ約ス此ノ目的ノ爲ニハ領水ノ通過ヲ許與スヘシ上記ノ人、貨物、船舶、客車、貨車及郵便物ハ通過税ヲ課セラレ又ハ不當ニ遲延若ハ制限セラルルコトナカルヘク且料金、便益其ノ他一切ノ事項ニ關シ獨逸國ニ於テ國民待遇ヲ享受スヘシ

通過貨物ハ一切ノ關税其ノ他類似ノ課税ヲ免除セラルヘシ

通過運送ニ課スル一切ノ料金ハ運送ノ條件ニ應シ相當ノモノタルヘシ運送中ニ於テ使用セラレ又ハ使用セラルヘキ船舶其ノ他ノ運輸機關ノ所有者又ハ國籍ノ如何ニ依リ直接又ハ間接ニ料金、便益又ハ制限ノ差別ヲ設クルコトナカルヘシ

第三百二十二條

獨逸國ハ其ノ版圖ヲ通過スル移住者ノ運送ニ對シ旅客ノ通過カ善意ナルコトヲ確保スル爲必要ナル措置ヲ講スル外何等ノ取締ヲ設ケス又之ヲ持續セサルコトヲ約ス獨逸國ハ又運送ニ關係アル船舶會社其ノ他ノ私團體、私法人又ハ私人ヲシテ右目的ノ爲必要ナルヘキ行政事務ニ一切關與セシメス又直接又ハ間接ニ該事務ノ上ニ勢力ヲ及ホサシメサルコトヲ約ス

第三百二十三條

獨逸國ハ其ノ版圖ヘノ輸入若ハ其ノ版圖ヨリノ輸出ニ關スル關税、料金及禁止ニ付又ハ本條約中ニ特別ノ約定ナキ限リ其ノ版圖ニ入リ若ハ其ノ版圖ヨリ出ツル貨物若ハ人ノ運送ニ對スル料金及條件ニ付通過シタル國境ノ如何、運送ニ用キラレタル運輸機關（航空機ヲ含ム）ノ種類所有者又ハ國旗ノ如何、運送ニ用キラレタル船舶、車輛、航空機其ノ他ノ運輸機關ノ最初若ハ最後ノ出發地又ハ其ノ最後若ハ中間ノ到著地ノ如何、運送ノ道筋又ハ途中積換ノ場所ノ如何、貨物ノ輸入港若ハ輸出港カ獨逸港ナルカ外國港ナルカノ如何又ハ貨物ノ輸入若ハ輸出カ海路ニ由ルカ陸路ニ由ルカ又ハ空中路ニ由ルカノ如何ニ依リ直接又ハ間接ニ差別的又ハ優先的取扱ヲ爲ササルコトヲ約ス

獨逸國ハ殊ニ同盟及聯合國ノ一國ノ港及船舶ニ對シ不利益ナル何等ノ附加税及獨逸國又ハ別國ノ港又ハ船舶ニ依ル輸出又ハ輸入ニ對シ直接又ハ間接ノ何等ノ奬勵金（例ヘハ聯絡貨率）ヲ設ケサルコトヲ約ス獨逸國ハ又同盟及聯合國ノ港ヲ通過シ又ハ同盟及聯合國ノ船舶ニ依ル人又ハ貨物ニ對シ其ノ人又ハ貨物カ獨逸國ノ港若ハ別國ノ港ヲ通過シ又ハ獨逸船舶若ハ別國船舶ニ依ル場合ニ於テハ必要トセサルヘキ何等ノ手續ヲ履マシメス又何等ノ遲延ヲ生セシメサルコトヲ約ス

第三百二十四條

貨物ノ獨逸國境通過ヲ成ルヘク簡便ナラシメ且其ノ獨逸國境ヨリ發送及運送セラルルコトヲ確保スル爲一切ノ必要ナル行政上及專門事項上ノ措置ヲ執ルヘシ此ノ措置ヲ執ルニ當リテハ其ノ貨物ノ同盟及聯合國ノ版圖ヨリ獨逸國ニ來リ又ハ獨逸國ヨリ同盟及聯合國ノ版圖ニ向フモノナルト同盟及聯合國ノ版圖ヨリ來リテ獨逸國ヲ通過シ又ハ同盟及聯合國ノ版圖ニ向ヒテ獨逸國ヲ通過スルモノナルトヲ問ハサルヘク且其ノ途中ニ於ケル注意及運送ノ速度等ニ付テハ同樣ノ運送條件ノ下ニ獨逸國版圖内ヲ運送セラルル同種類ノ他ノ貨物ト實質上同一ノ條件ニ依ル就中損敗シ易キ貨物ノ運送ハ迅速ニ且規則正シク行ハルヘク又關税手續ハ聯絡列車ニ依ル貨物ノ直送ヲ妨クルコトナク爲サルヘシ

第三百二十五條

同盟及聯合國ノ海港ハ獨逸國ノ港又ハ他國ノ港ノ利益ノ爲許與セラルル獨逸國ノ鐵道又ハ航行可能水路ニ於ケル一切ノ恩典及低減貨率ノ適用ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第三百二十六條

獨逸國ハ獨逸國ノ港又ハ別國ノ港ニ對シ許與スルト同樣ノ利益ヲ同盟及聯合國ノ港ニ許與スヘキ貨率又ハ聯絡貨率ノ適用ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第二款　航行

第一章　航行ノ自由

第三百二十七條

同盟及聯合國ノ一國ノ國民竝其ノ船舶及財産ハ獨逸國ノ一切ノ港及獨逸國ノ内地水路ニ於テ獨逸國ノ國民、船舶及財産ト同一ノ待遇ヲ享受スヘシ

同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ船舶ハ獨逸船舶ノ到ルコトヲ得ヘキ獨逸國版圖内ノ何レノ港若ハ何レノ地ニモ又ハ其ノ港若ハ其ノ地ヨリ獨逸船舶ノ場合ニ適用セラルル條件ヨリ重カラサル條件ノ下ニ各種ノ貨物及旅客ヲ運送スルノ權利ヲ有スヘシ同盟國又ハ聯合國ノ船舶ハ港及碇泊所ニ於ケル各種ノ便益及料金（碇泊及貨物ノ積卸ニ對スル便益竝政府、公務員、私人又ハ各種ノ社團若ハ財團ノ名義ヲ以テ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル噸税、港税、水先案内料、燈臺税、檢疫費其ノ他之ニ類似スル一切ノ各種ノ税金及料金ヲ含ム）ニ關シテ内國船舶ト同等ノ待遇ヲ受クヘシ

獨逸國カ同盟國又ハ聯合國ノ一國ニ對シ又ハ別國ニ對シテ特惠制度ヲ許與スル場合ニ於テハ其ノ制度ハ即時且無條件ニテ一切ノ同盟及聯合國ニ適用セラルヘシ

人又ハ船舶ノ移動ニ付テハ税關、警察、衞生、移出民及移入民竝禁制品ノ輸出入ニ關スル規則ニ基ク場合ヲ除クノ外之ニ何等ノ障礙ヲ加フルコトヲ得ス此等ノ規則ハ相當ニシテ劃一ナルヘク且濫ニ交通ヲ阻礙セサルモノナルコ

トヲ要ス

第二章　港內自由地域

第三百二十八條

千九百十四年八月一日獨逸國諸港ニ存在シタル自由地域ハ之ヲ存續スヘシ右自由地域其ノ他本條約ニ依リ獨逸國版圖內ニ設定セラルルコトアルヘキ自由地域ハ次條以下ニ規定スル制度ニ從フヘシ

自由地域ニ出入スル貨物ハ第三百三十條ニ規定スル場合ヲ除クノ外何等ノ輸入稅又ハ輸出稅ヲ課セラルルコトナカルヘシ

自由地域ニ入ル船舶及貨物ハ港ノ行政費及維持改良費用ニ充當スル爲定メタル料金及諸種ノ設備ノ使用ニ對スル料金ヲ納付セシメラルルコトアルヘシ但シ此等ノ料金ハ費用ニ對シ相當ノモノニシテ且第三百二十七條ニ定ムル同等待遇ノ條件ニ依リ取立テラルルモノナルコトヲ要ス

貨物ハ專ラ當該港ニ於ケル貿易計數輯錄費用ノ支辨ニ充ツヘキ從價千分ノ一ヲ超エサル統計稅ヲ除クノ外何等ノ他ノ料金ヲ課セラルルコトナカルヘシ

第三百二十九條

倉庫ノ建設又ハ貨物ノ荷造若ハ解裝ノ爲許與セラルル便益ハ其ノ時時ノ貿易ノ必要ニ適應スルモノタルヘシ自由地域內ニ於テ消費セラルル一切ノ貨物ハ前記第三百二十八條ニ規定スル統計稅ヲ除クノ外內國消費稅タルト其ノ他ノ種類ノモノタルトヲ問ハス一切ノ稅金ヲ免除セラルヘシ

本條中ノ何レノ規定ニ關シテモ國籍ヲ異ニスル人ノ間又ハ原產地若ハ仕向地ヲ異ニスル貨物ノ間ニ何等ノ差別ヲ設クルコトヲ得ス

第三百三十條

港所在地ノ屬スル國ニ於ケル消費ノ爲自由地域ヨリ搬出スル貨物ニ對シテハ輸入稅ヲ課スルコトヲ得又反對ニ當該國ヨリ自由地域內ニ搬入スル貨物ニ對シテハ輸出稅ヲ課スルコトヲ得此ノ輸入稅及輸出稅ハ當該國ノ他ノ關稅境界ニ於テ徵收セラルル同樣ノ稅ト同一ノ基礎ニ於テ且同一ノ率ヲ以テ徵收セラルヘシ他方獨逸國ハ如何ナル名義ヲ以テスルヲ問ハス他ノ國ヨリ自由地域ニ又ハ自由地域ヨリ他ノ國ニ仕向タル爲陸路又ハ水路ニ由リ獨逸國版圖ヲ通過スル貨物ニ對シ一切ノ輸入稅、輸出稅又ハ通過稅ヲ課スルコトナカルヘシ

獨逸國ハ自由地域ニ到ルノ順路タル自國版圖內ノ鐵道及水路ニ由ル通過ノ自由ヲ確保シ且保障スル爲必要ナル規則ヲ制定スヘシ

第三章　「エルベ」河、「オーデル」河、「ニーメン」河（「ルス」河－「メーメル」河－「ニーメン」河）及「ダニューブ」河ニ關スル條項

一　一般條項

第三百三十一條

左記ノ河川ハ之ヲ國際河川ト聲明ス

「ヴルタヴァ」河（「モルダウ」河）トノ合流點ヨリ下流ノ「エルベ」河（「ラーベ」河）及「プラーグ」ヨリ下流ノ「ヴルタヴァ」河（「モルダウ」河）

「オッパ」河トノ合流點ヨリ下流ノ「オーデル」河（「オードラ」河）

「グロドノ」ヨリ下流ノ「ニーメン」河（「ルス」河－「メーメル」河－「ニーメン」河）

「ウルム」ヨリ下流ノ「ダニューブ」河

及前記河系中ノ航行可能ナル部分ニシテ一ノ船舶ヨリ他ノ船舶ヘ積換ヲ行フト否トヲ問ハス海洋ニ到ル自然的通路ヲ二箇以上ノ國家ニ供スルモノ及前記河系ノ自然的ニ航行可能ナル區域ヲ重複ニシ若ハ改良スル爲又ハ同一河川ノ自然的ニ航行可能ナル二區域ヲ連絡スル爲ニ開鑿シタル傍系ノ運河及水道

第三百五十三條ニ規定シタル條件ノ下ニ萊因河「ダニューブ」河間ニ航行可能ナル水路開鑿セラレタル場合ニ於テハ其ノ水路ハ亦國際河川タルヘシ

第三百三十二條

前條ニ依リ國際河川ト聲明セラレタル水路ニ於テハ一切ノ國ノ國民、財產又ハ船舶ハ完全ナル均等待遇ヲ受クヘク何レノ國ノ國民、財產又ハ船舶ニ對シテモ沿河國自身ノ又ハ最惠國ノ國民、財產又ハ船舶ニ比シ不利益ナル何等ノ差別ヲ設クルコトヲ得ス

但シ獨逸船舶ハ同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ特許ナキ限リ其ノ國ノ數港間ノ定期航海ニ依リ旅客又ハ貨物ノ運送ニ從事スルコトヲ得ス

第三百三十三條

現行條約ニ反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外航行可能ナル水道又ハ其ノ入口ヲ使用スル船舶ニ付テハ河川ノ區域ヲ異ニスルニ依リテ其ノ額ヲ異ニスル料金ヲ取立ツルコトヲ得但シ其ノ料金ハ河川及其ノ入口ノ航行可能ナル狀態ヲ維持シ若ハ河川及其ノ入口ヲ改良スル爲ノ費用ヲ衡平ニ支辨スルカ又ハ航行上ノ利益ノ爲ニ要シタル費用ニ充當スルノ外他ニ何等ノ目的ヲ有セサルモノナルコトヲ要ス其ノ料金表ハ右費用ヲ基礎トシテ算出シ且之ヲ各港ニ掲示スヘシ此ノ料金ハ詐欺又ハ反則ノ嫌疑アル場合ヲ除クノ外積貨ノ綿密ナル檢査ヲ要セサル樣之ヲ取立ツヘシ

第三百三十四條

前記水路ニ於ケル船舶旅客及貨物ノ通過ハ本編第一款ニ規定スル通過ニ關スル一般的條件ニ從ヒ行ハルヘシ

國際河川ノ兩岸カ同一國ニ屬スル場合ニ於テハ通過貨物ハ之ニ封印ヲ施シ又ハ稅關吏員ヲシテ之ヲ監視セシムルコトヲ得河川カ國境ヲ形成スル場合ニ於テハ通過ノ貨物及旅客ハ一切ノ稅關手續ヲ免除セラルヘク貨物ノ積卸及旅客ノ乘降ハ沿河國ノ特ニ定ムル港ニ於テノミ之ヲ行フヘシ

第三百三十五條

前記河川ノ河流又ハ河口ニ於テハ本編ニ規定スルモノヲ除クノ外何等ノ負擔ヲ課スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ沿河國カ關稅、地方入市稅又ハ消費稅ヲ定メ又ハ起重機、昇降機、陸揚場、倉庫等ノ使用ニ對シ各港ニ於テ公表料金率ニ依リ取立ツル相當ニシテ劃一ナル料金ヲ設定スルコトヲ妨ケス

第三百三十六條

航行可能水系ノ國際的部分ノ保全及改良ニ關聯スル工事ヲ遂行スル爲ノ特別機關存在セサル場合ニ於テハ各沿河國ハ航行ニ對スル障礙又ハ危險ヲ除去シ且航行ニ適當ナル狀態ノ維持ヲ確保スル爲適當ノ措置ヲ講スルノ義務ヲ有ス

前項ノ義務ヲ遵守セサル國アル場合ニ於テハ沿河國ノ何レカヨリ又國際委員會ノ設アルトキハ其ノ委員會ニ代表セラルル國ノ何レカヨリ國際聯盟ノ之カ爲設定スル裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三百三十七條

沿河國カ國際的區域ニ於ケル航行ヲ阻礙スヘキ性質ノ工事ヲ企畫スル場合ニ於テモ同一ノ手續ヲ爲スコトヲ得前條ニ規定スル裁判所ハ其ノ工事ノ中止又ハ廢止ヲ命スル權利ヲ有スヘシ尤モ同裁判所カ判定ヲ爲スニ當リテハ灌漑、水力、漁獵其ノ他內國ノ利害關係事項ニ關スル一切ノ權利ニ對シ相當ノ斟酌ヲ加フヘキモノトス此等ノ權利ハ沿河國全部ノ同意アルトキハ航行上ノ必要ニ優先スルコトヲ得國際委員會ノ設アル場合ニ於テ其ノ委員會ニ代表セラルル一切ノ國ノ同意アルトキ亦同シ

國際聯盟ノ裁判所ニ對スル出訴ノ爲工事ヲ中止セシムルコトナシ

第三百三十八條

前記第三百三十二條乃至第三百三十七條ニ規定スル制度ハ同盟及聯合國ニ於テ作成シ且國際聯盟ニ於テ承認スル國際水路一般條約中ニ規定セラルヘキ他ノ制度ヲ以テ之ニ代フヘシ右一般條約ハ特ニ前記「エルベ」河（「ラーベ」河）、「オーデル」河（「オードラ」河）、「ニーメン」河（「ルス」河－「メーメル」河－「ニーメン」河）及「ダニューブ」河ノ河系ノ全部又ハ一部竝一般定義ニ包括セラルヘキ此等河系ノ他ノ部分ニ付適用セラルヘシ

獨逸國ハ第三百七十九條ノ規定ニ依リ前項ノ一般條約ニ加入スルコト竝現行國際取極及規則ノ修正ニ關シ下記第三百四十三條ニ依リ作成セラルヘキ一切ノ條約案ニ加入スルコトヲ約ス

第三百三十九條

獨逸國ハ第三百三十一條ニ揭ケタル河系內ノ港ニ於テ登記セラレタル曳船及船舶ノ中ヨリ還付又ハ賠償ノ爲引渡ヲ了シタルモノヲ除キ其ノ一部ヲ通告アリタル日ヨリ三月以內ニ關係アル同盟及聯合諸國ニ引渡スヘシ獨逸國ハ又前記河系ノ利用ニ關シ必要ナル各種ノ材料ヲ該關係諸國ニ引渡スヘシ

引渡ノ目的タル曳船及舟艇ノ數、材料ノ數量竝此等ノ分配ハ亞米利加合衆國ノ指名スル一名又ハ數名ノ仲裁委員之ヲ決定スヘシ尤モ關係當事國ノ正當ナル要求殊ニ戰前五年間ノ航運狀態ニ對シテハ相當ノ斟酌ヲ加フルモノトス

引渡サルヘキ一切ノ船舶ハ其ノ設備及附屬具ヲ備ヘ、適當ナル修繕ヲ加ヘラレ且貨物ヲ運搬シ得ヘキ狀態ニ在ルコトヲ要ス此等ノ船舶ハ最近ノ建造ニ係ルモノノ中ヨリ之ヲ選擇スヘシ

本條ニ規定セラルル引渡ハ貸方ニ之ヲ計上シ其ノ總額ハ前記ノ一名又ハ數名ノ仲裁委員ニ於テ總金額トシテ之ヲ決定スヘク如何ナル場合ト雖引渡サレタル材料ノ設定當初ノ金額ヲ超過スルコトヲ得ス此ノ總額ハ獨逸國ノ支拂フヘキ金額總計中ヨリ之ヲ相殺スヘシ從テ所有者ニ對スル賠償ハ獨逸國之カ處理ノ責ニ任ス

二　「エルベ」河、「オーデル」河及「ニーメン」河（「ルス」河－「メーメル」河－「ニーメン」河）ニ關スル特別條項

第三百四十條

「エルベ」河（「ラーベ」河）ハ左ノ代表者ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ屬スヘシ

沿河獨逸諸邦代表者四名
「チェッコ、スロヴァキア」國代表者二名
大不列顛國代表者一名
佛蘭西國代表者一名
伊太利國代表者一名
白耳義國代表者一名

代表者ヲ出シタル各國ハ出席人員數ノ如何ニ拘ラス自國ニ割當テラレタル代表者數ト同數ノ表決權ヲ有ス

前項ノ代表者中本條約實施ノ時ニ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖委員會ノ決定ハ尙有效タルヘシ

第三百四十一條

「オーデル」河（「オードラ」河）ハ左ノ代表者ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ屬スヘシ

波蘭國代表者一名
普魯西代表者三名
「チェッコ、スロヴァキア」國代表者一名
大不列顛國代表者一名
佛蘭西國代表者一名
丁抹國代表者一名
瑞典國代表者一名

前項ノ代表者中本條約實施ノ時ニ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖委員會ノ決定ハ尙有效タルヘシ

第三百四十二條

國際聯盟ニ對シ何レカノ沿河國ヨリ請求アリタルトキハ「ニーメン」河（「ルス」河－「メーメル」河－「ニーメン」河）ハ沿河國代表者各一名及國際聯盟ニ於テ特定スル他ノ國ノ代表者三名ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ屬スヘシ

第三百四十三條

第三百四十條及第三百四十一條ニ規定スル國際委員會ハ本條約實施後三月以內ニ、第三百四十二條ニ規定スル國際委員會ハ沿河國ノ一國ノ請求アリタル日ヨリ三月以內ニ會合スヘシ

此等ノ各委員會ハ第三百三十八條ニ揭クル一般條約ニシテ既ニ締結セラレタル場合ニ於テハ其ノ一般條約ニ準據シ現行ノ國際取極及規則ヲ改訂スル條約案ノ起草ニ卽時ニ着手スヘシ該一般條約未タ成立ニ至ラサル場合ニ於テハ改訂條約案ハ前記第三百三十二條乃至第三百三十七條ノ趣旨ニ準據スヘシ

第三百四十四條

前條ニ規定シタル條約案中ニハ左ノ事項ヲ包含スヘシ

（イ）國際委員會ノ本部所在地ヲ指定シ且其ノ會長ヲ任命スル方法ヲ規定スルコト

（ロ）委員會ノ權能ノ範圍殊ニ河系ノ維持、取締及改良ニ關スル工事ノ執行、計理制度、料金ノ決定及取立竝執行規則ニ關スル權能ノ範圍ヲ特定スルコト

（ハ）國際的制度ヲ適用スヘキ河川又ハ其ノ支流ノ區域ヲ劃定スルコト

第三百四十五條

現在「エルベ」河（「ラーベ」河）、「オーデル」河（「オードラ」河）及「ニーメン」河（「ルス」河－「メーメル」河－「ニーメン」河）ノ航行ニ適用スル國際取極及規則ハ前記條約案ノ批准ヲ見ルニ至ル迄假ニ其ノ效力ヲ存續スヘシ尤モ此等效力ヲ存續スル取極及規則カ前記第三百三十二條乃至第三百三十七條ノ規定又ハ今後締結セラルヘキ一般條約ノ規定ト牴觸スル場合ニ於テハ總テ後者ニ準據スヘキモノトス

三　「ダニューブ」河ニ關スル特別條項

第三百四十六條

「ダニューブ」河歐羅巴委員會ハ其ノ戰前ニ有シタル權能ヲ回復ス但シ臨時ノ措置トシテ同委員會ハ大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國及羅馬尼亞國ノ代表者ノミヲ以テ之ヲ組織スヘシ

第三百四十七條

歐羅巴委員會ノ權限ノ終止スル地點ヨリ上流ノ第三百三十一條ニ揭クル「ダニューブ」河系ハ左記各代表者ヨリ成立スル國際委員會ノ管理ニ屬スヘシ

沿河獨逸諸邦代表者二名
其ノ他ノ沿河國代表者各一名
將來「ダニューブ」河歐羅巴委員會ニ代表セラルヘキ非沿河國代表者各一名

前項ノ代表者中本條約實施ノ時ニ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖委員會ノ決定ハ尙有效タルヘシ

第三百四十八條

前條ニ規定スル國際委員會ハ本條約實施後成ルヘク速ニ會合シ同盟及聯合國ノ指名スル諸國カ「ダニューブ」河ニ關スル確定規則ヲ制定スルニ至ル迄ノ間第三百三十二條乃至第三百三十七條ノ規定ニ準據シテ臨時同河ノ管理ニ任スヘシ

第三百四十九條

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ指定ニ係ル諸國ノ會議ニ於テ制定セラルヘキ「ダニューブ」河ニ關スル制度ヲ承認スルコトニ同意ス右會議ハ本條約實施後一年以內ニ開催セラルヘク獨逸國代表者ハ之ニ出席スルコトヲ得

第三百五十條

千八百七十八年七月十三日ノ伯林條約第五十七條ニ依リ墺地利洪牙利國ニ與ヘラレ更ニ同國ヨリ洪牙利國ニ移サレタル「アイアン、ゲーツ」ニ於ケル工事ノ執行ニ關スル委任ハ之ヲ廢棄ス此ノ部分ノ同河ノ管理ヲ委任セラレタル委員會ハ本條約財政上ノ規定ニ從ヒ收支決算ノ規定ヲ制定スヘシ料金ハ必要ナルヘキモノト雖一切ノ場合ニ於テ洪牙利國之ヲ取立ツルコトヲ得ス

第三百五十一條

國際委員會ヨリノ授權又ハ委任ニ依リ「チェッコ、スロヴァキア」國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國又ハ羅馬尼亞國カ「ダニューブ」河系中此等諸國ノ國境ヲ形成スル部分ニ於テ維持、改良、堰ノ築造其ノ他ノ工事ヲ執行スルトキハ此等諸國ハ同河ノ對岸及此等諸國ノ版圖外ニ屬スル河床ノ部分ニ於テ前記工事ノ測量、執行及維持ノ爲必要ナル一切ノ便益ヲ享受スヘシ

第三百五十二條

獨逸國ハ「ダニューブ」河歐羅巴委員會カ戰時中受ケタル損害ニ付一切ノ原狀回復、賠償及補償ヲ同委員會ニ爲スノ義務ヲ有ス

第三百五十三條

萊因河及「ダニューブ」河ヲ連結スル深吃水船航行可能水路ノ築造セラレタル場合ニ於テハ獨逸國ハ第三百三十二條乃至第三百三十八條ニ規定シタル制度ヲ之ニ適用スルコトヲ約ス

第四章　萊因河及「モーゼル」河ニ關スル條項

第三百五十四條

千八百六十八年十月十七日ノ「マンハイム」條約及同條約最終議定書ハ本條約實施後引續キ萊因河航行ノ準則タルヘシ但シ左ニ規定スル條件ニ從フコトヲ要ス

前記條約ノ規定ニシテ第三百三十八條ニ規定シタル一般條約（本條約ハ萊因河ニ適用セラル）ノ規定ト牴觸スル場合ニ於テハ右一般條約ノ規定ニ準據スヘシ

本條約實施後六月以內ニ第三百五十五條ニ規

定スル中央委員會ヲ開キ「マンハイム」條約ノ改正案ヲ作成セシムヘシ此ノ改正案ハ上記ノ一般條約カ其ノ當時既ニ締結セラレタル場合ニ於テハ該一般條約ノ規定ニ準シテ之ヲ作成シ中央委員會ニ代表セラルル各國ニ提出スヘシ此ノ手續ニ依リ作成シタル改正案ハ獨逸國之ニ加入スヘキコトヲ約ス

又次條以下ニ規定シタル變更ハ卽時ニ「マンハイム」條約中ニ之ヲ加フヘシ

同盟及聯合國ハ此ノ事項ニ關聯シ和蘭國ト了解ヲ遂クルノ權利ヲ留保ス獨逸國ハ右ノ了解ニ加ハルコトヲ要セラレタル場合ニ於テハ之ニ加ハルヘキコトヲ約ス

第三百五十五條

「マンハイム」條約ニ規定シタル中央委員會ハ左記十九名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織スヘシ

和蘭國代表者　二名
瑞西國代表者　二名
沿河獨逸諸邦代表者　四名
佛蘭西國代表者　四名
尙佛蘭西國ハ右ノ外委員長一名ヲ任命ス
大不列顚國代表者　二名
伊太利國代表者　二名
白耳義國代表者　二名

中央委員會ノ本部ハ「ストラスブルグ」ニ之ヲ置ク

代表者ヲ出シタル各國ハ出席人員數ノ如何ニ拘ラス自國ニ割當テラレタル代表者數ト同數ノ表決權ヲ有ス

前項ノ代表者中本條約實施ノ時ニ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖委員會ノ議決ハ尙有效タルヘシ

第三百五十六條

一切ノ國ノ船舶及其ノ積荷ハ萊因河ヲ航行スル船舶及其ノ積荷ニ許與セラルル權利及特典ト同一ノ權利及特典ヲ享有スヘシ

前記「マンハイム」條約第十五條乃至第二十條及第二十六條、同條約最終議定書第四條又ハ爾後ノ諸條約ノ規定ハ萊因河及此等諸條約ノ適用ヲ享クル水路ニ於テ總テノ國ノ船舶及乘組員ノ自由航行ヲ妨クルコトナカルヘシ尤モ中央委員會ニ於テ作成スル水先案內規則其ノ他ノ警察諸規則ニ從フヘキモノトス

「マンハイム」條約第二十二條及同條約最終議定書第五條ノ規定ハ萊因河ニ付登錄セラレタル船舶ニ對シテノミ之ヲ適用ス中央委員會ハ其ノ他ノ船舶カ萊因河航行ニ適用セラルル一般規則ノ諸條件ヲ充タスコトヲ確保スル爲執ルヘキ手段ヲ決定スヘシ

第三百五十七條

獨逸國ハ獨逸萊因河諸港ニ登錄セラレタル曳船及船舶中ヨリ還付又ハ賠償ノ爲引渡ヲ了シタルモノヲ除キタル殘部ノ一部ヲ又ハ萊因河ニ於テ航運業ヲ營ム獨逸諸會社ニ對スル持分ヲ之カ爲通告アリタル日ヨリ三月以內ニ佛蘭西國ニ引渡スヘシ

船舶及曳船ヲ引渡ス場合ニ此ノ船舶及曳船ハ其ノ設備及附屬具ヲ備ヘ適當ナル修繕ヲ加ヘラレ且萊因河ニ於ケル運送ヲ營ミ得ル狀態ニ在ルコトヲ要ス此等ノ船舶ハ最近ノ建造ニ係ルモノノ中ヨリ之ヲ選擇スヘシ

獨逸國カ左記諸物件ヲ佛蘭西國ニ引渡スニモ亦同一ノ手續ニ依ルヘシ

一　獨逸國臣民又ハ獨逸國會社カ千九百十四年八月一日ニ「ロッテルダム」港ニ於テ所有シタル設備、繫留及碇泊ノ設備、乘降場、船渠、倉庫、工作所等

二　獨逸國又ハ獨逸國臣民カ同日ニ前記ノ設備ニ付有シタル持分又ハ利益

上記ノ引渡ノ金額及明細書ハ本條約實施後一年以內ニ亞米利加合衆國ノ指名スル一名又ハ數名ノ仲裁委員之ヲ決定スヘシ尤モ關係當事者ノ正當ナル需要ニ付テハ相當斟酌スヘキモノトス

本條ニ規定シタル引渡ハ貸方ニ之ヲ計上シ其ノ總額ハ前記ノ一名又ハ數名ノ仲裁委員ニ於テ總金額トシテ之ヲ決定スヘク如何ナル場合ト雖引渡サレタル材料及設備ノ設定當初ノ金額ヲ超過スルコトヲ得ス此ノ總額ハ獨逸國ノ支拂フヘキ金額總計中ヨリ之ヲ相殺スヘシ從テ所有者ニ對スル賠償ハ獨逸國之カ處理ノ責ニ任ス

第三百五十八條

佛蘭西國ハ「マンハイム」條約又ハ之ニ代ルコトアルヘキ條約ノ規定及本條約ノ條項ニ從ヒ萊因河ノ佛蘭西國境上ノ二極點ノ間ニ含マルル全河流ニ於テ左ノ權利ヲ有ス

（イ）　航行用及灌漑用ノ運河（既ニ開鑿セラレ又ハ今後開鑿セラルヘキモノ）ニ給水スル爲又ハ其ノ他ノ一切ノ目的ノ爲萊因河ヨリ河水ヲ引用スルノ權利及獨逸國沿岸ニ於テ此ノ權利ヲ行使スルニ必要ナル總テノ工事ヲ執行スルノ權利

（ロ）　萊因河ノ調整工事ニ依リ生シタル動力ニ對スル獨占ノ權利但シ現實ニ生シタル動力ノ價格ノ半額ヲ獨逸國ニ支拂フコトヲ要ス此ノ支拂ハ動力ノ發生ニ必要ナル工事費ヲ斟酌シ金錢又ハ動力ヲ以テ之ヲ爲スヘク支拂ニ付協議調ハサルトキハ之ヲ仲裁ニ付ス此ノ目的ノ爲佛蘭西國ハ萊因河ノ前記ノ部分ニ於テ其ノ動力ノ發生上必要ナリト認ムル總テノ調整工事（堰又ハ其ノ他ノ工事）ヲ執行スルノ權利ヲ專有ス尙萊因河ヨリ河水ヲ引用スルノ權利ハ後ニ規定スル萊因「ムーズ」兩河ヲ連結スル航行可能水路ニ給水スル爲白耳義國ニモ之ヲ付與ス

前項（イ）號及（ロ）號ニ規定シタル權利ノ行使ハ萊因河河床又ハ之ニ代ルヘキ誘導水路內ニ於ケル航行可能狀態ヲ阻礙シ又ハ其ノ航行上ノ便益ヲ減殺スヘカラス又現行條約ノ下ニ從前取立テラレタル通行料ハ右權利ノ行使ニ因リ增額セラルルコトナカルヘシ一切ノ計畫ハ中央委員會ヲシテ其ノ上記ノ要件ニ適合スルモノタルコトヲ確認セシメムカ爲之ヲ同委員會ニ提出スヘシ

前記（イ）號及（ロ）號ノ規定ノ適切且誠實ナル實行ヲ確保スル爲獨逸國ハ左ノ義務ヲ負フ

一　佛蘭西國境ノ對岸ナル萊因河右岸ニ於テ傍系ノ運河又ハ誘導水路ヲ開鑿シ又ハ開鑿セシメサルコト

二　佛蘭西國カ今後中央委員會ノ同意ヲ得テ築造ヲ決定スルコトアルヘキ堰ノ調査、建設及作業上必要ナルヘキ萊因河右岸ニ在ル一切ノ土地ニ關シ同國カ支持權及通行權ヲ有スルコトヲ認ムルコト　佛蘭西國ハ前記中央委員會ノ同意ニ從ヒ必要ナル敷地ノ限界ヲ決定スルノ權利ヲ有シ且單純ナル通告ヨリ二月ノ期間經過後ハ該土地ヲ占有スルコトヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テ佛蘭西國ハ獨逸國ニ對シ賠償ヲ支拂フヘク其ノ總額ハ中央委員會ニ於テ之ヲ決定ス前記ノ地役ヲ課セラレ又ハ右工作物ニ依リ永久ニ占據セラルヘキ不動產ノ所有者ニ對シ賠償ヲ爲スハ獨逸國ノ責務タルヘシ

瑞西國ヨリ請求アリ中央委員會之ヲ承認シタルトキハ他ノ沿河諸國ト瑞西國トノ國境ヲ形成スル萊因河ノ部分ニ關シ右ト同樣ノ權利ヲ瑞西國ニ付與スヘシ

三　「アルザス、ロレーヌ」政廳又ハ「バーデン」大公國政府ノ作成シ又ハ受理シタル萊因河調整ニ關スル總テノ計畫、考案、特許及明細書ハ其ノ目的ノ如何ニ拘ラス本條約實施ノ翌月中ニ佛蘭西國政府ニ之ヲ交付スルコト

第三百五十九條

佛蘭西國又獨逸國ノ境界ヲ形成スル萊因河ノ區間ニ於テハ前數條ノ場合ヲ除クノ外豫メ中央委員會又ハ其ノ代理者ノ承認ヲ得ルニ非サレハ河床又ハ兩岸ニ於テ何等ノ工事ヲ執行スルコトヲ得ス

第三百六十條

佛蘭西國ハ萊因河ニ於テ執行セラルヘキ工事ニ關シ「アルザス、ロレーヌ」政廳及「バーデン」大公國ノ間ニ成立セル取極ヨリ生スル權利及義務ニ付代位スルノ選擇權ヲ留保ス

佛蘭西國ハ又本條約實施後五年ノ期間內ニ此等ノ取極ヲ廢棄スルコトヲ得

佛蘭西國ハ又「マンハイム」ヨリ上流ノ萊因河ノ航行可能狀態ヲ維持シ又ハ改良スル爲中央委員會ノ必要ト認ムルコトアルヘキ工事ヲ執行セシムルノ選擇權ヲ有ス

第三百六十一條

白耳義國カ本條約實施後二十五年ノ期間內ニ「ルーロルト」地方ニ於テ萊因「ムーズ」兩河ヲ連結スル深吃水船航行可能水路ノ開鑿ヲ決定シタルトキハ獨逸國ハ白耳義國政府カ中央委員會ノ同意ヲ經テ通牒シ來レル設計書所載ノ通獨逸國版圖內ニ在ル該航行可能水路ノ部分ヲ開鑿スルノ義務ヲ有ス

白耳義國政府ハ此ノ目的ノ爲實地ニ於テ一切ノ必要ナル測量ヲ行フノ權利ヲ有ス

獨逸國カ此ノ工事ノ全部又ハ一部ヲ執行セサル場合ニ於テハ中央委員會ハ之ニ代リテ該工事ヲ執行スルノ權利ヲ有ス該委員會ハ此ノ目的ノ爲必要ナル敷地ノ限界ヲ決定シ單純ナル通知ヨリ二月ノ期間經過後ハ其ノ地域ヲ占有スルコトヲ得但シ之ニ對シ該委員會ニ於テ其ノ額ヲ決定シ獨逸國ニ於テ支拂フヘキ補償金ノ支拂ヲ爲スヘキモノトス

本條ノ航行可能水路ハ萊因河ト同一ノ管理制度ノ下ニ置カルヘク且創築費（前項ノ補償金ヲ含ム）ハ該水路ノ通過スル諸國ニ於テ分擔スヘク其ノ分擔額ハ中央委員會之ヲ決定スヘシ

第三百六十二條

獨逸國ハ萊因河中央委員會カ其ノ管轄權ヲ左記地方ニ擴張スル爲ノ一切ノ提議ニ對シ何等ノ異議ヲ申立テサルコトヲ約ス

一　佛蘭西國ト盧森堡國トノ國境ヨリ下流萊因河ニ至ル「モーゼル」河但シ盧森堡國ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

二　「バール」ヨリ上流「コンスタンス」湖ニ至ル萊因河但シ瑞西國ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

三　萊因河又ハ「モーゼル」河ノ自然的ニ航行可能ナル區域ヲ重複ニシ若ハ改良シ又ハ此等河川ノ自然的ニ航行可能ナル二區域ヲ連絡スル爲ニ開鑿セラルルコトアルヘキ傍系ノ運河及水道並前記第三百三十八條ニ規定スル一般條約ノ適用セラルヘキ萊因河系ノ他ノ部分

第五章　「チェッコ、スロヴァキア」國ノ北部諸港使用ニ關スル條項

第三百六十三條

獨逸國ハ漢堡港及「ステッティン」港ニ於テ一定地域ヲ九十九年間「チェッコ、スロヴァキア」國ニ貸與スヘク該地域ハ一般ノ自由地域制度ノ下ニ置キ「チェッコ、スロヴァキア」國ヨリ來リ又ハ同國ニ仕向ケラルル貨物ノ直接通過ニ使用セラルヘシ

第三百六十四條

前條ノ地域ノ境界劃定及設備、經營其ノ他一般ニ其ノ利用ニ關スル一切ノ條件（借料ノ額ヲ含ム）ハ獨逸國代表者一名、「チェッコ、スロヴァキア」國代表者一名及大不列顚國代表者一名ヨリ成ル委員會之ヲ決定スヘシ此等ノ條件ハ同樣ノ方法ニ依リ十年每ニ修正スルコトヲ得

獨逸國ハ右ニ依リ定メラルヘキ決定ニ從フヘキコトヲ豫メ聲明ス

第三款　鐵道

第一章　國際運送ニ關スル條項

第三百六十五條

同盟及聯合國ノ版圖ヨリ獨逸國ニ仕向ケラルル貨物並同盟及聯合國ノ版圖ヨリ發送セラレ又ハ同盟及聯合國ノ版圖ニ仕向ケラルル貨物ニシテ獨逸國ヲ通過スルモノハ獨逸國內ノ鐵道ニ於テ運賃及料金（割引及割戾ヲ含ム）、便益其ノ他一切ノ事項ニ付其ノ國內運送ナルト輸出輸入又ハ通過ノ爲ナルトヲ問ハス運送條件（例ヘハ運送線路ノ距離ノ如キ）同樣ナル場合ニ於テ獨逸國內ノ鐵道ニ由リ運送セラルル同種貨物ニ適用セラルル最惠待遇ヲ當然享受スヘシ同盟及聯合國ノ一國又ハ數國ノ請求アルトキハ獨逸國ヨリ其ノ請求國版圖ニ仕向ケラルル貨物ニシテ其ノ國ノ特ニ指定スルモノニ對シテモ前記ノ規定ヲ適用ス

獨逸國ハ同盟及聯合國ノ一國ノ請求アルトキハ前項規定ノ貨率ニ基キタル及直通運送狀ニ依リ運送ヲ含ミタル國際貨率表ヲ定ムヘシ

第三百六十六條

本條約實施後締約國ハ關係締約國ニ限リ本條第二項ニ規定シタル留保ノ下ニ千八百九十年十月十四日、千八百九十三年九月二十日、千八百九十五年七月十六日、千八百九十八年六月十六日及千九百六年九月十九日「ベルヌ」ニ於テ署名セラレタル貨物ノ鐵道運送ニ關スル諸條約及諸協定ヲ復活セシムヘシ

本條約實施後五年以內ニ旅客、手荷物及貨物ノ鐵道運送ニ關シ前記千八百九十年十月十四日ノ「ベルヌ」條約並其ノ後ノ追加ニ代ルヘキ新條約締結セラルル場合ニ於テハ其ノ新條約及之ニ基キテ規定セラルヘキ國際鐵道運送ニ關スル補足條款ハ獨逸國カ同條約ノ審議ニ參加スルコト又ハ同條約ニ加入スルコトヲ拒ム場合ニ於テモ尙同國ヲ拘束スヘシ新條約ノ締結ニ至ル迄ハ獨逸國ハ前記「ベルヌ」條約ノ規定、其ノ後ノ追加並補足條款ニ從フヘシ

第三百六十七條

獨逸國ノ版圖ヲ通過シテ行ハルル同盟及聯合國相互間及此等諸國ト他ノ一切ノ諸國トノ間ノ鐵道交通ヲ確實ナラシムル爲同盟及聯合國ノ一國若ハ數國ノ請求アルトキハ獨逸國ハ旅客及手荷物ノ直通運送ヲ設クルコトニ協力スル義務ヲ有ス殊ニ獨逸國ハ此ノ目的ノ爲同盟及聯合國ノ版圖ヨリ來ル列車及車輛ヲ繼承シ且當該線路上ニ於ケル自國ノ最良長距離列車ト少クトモ同等ノ速力ヲ以テ之ヲ運轉スヘキモノトス此ノ種ノ直通運送ニ適用セラルヘキ運賃ハ如何ナル場合ニ於テモ同一速力及同種設備ノ下ニ於ケル同一距離ノ運送ニ對シ獨逸國ノ國內運送ニ付取立テラルル運賃ヨリ高カラサルコトヲ要ス

同盟及聯合國ノ港ニ赴キ又ハ同盟及聯合國ノ港ヨリ來ル移出民ヲ獨逸國內ノ鐵道ニテ運送スル場合ニ適用セラルヘキ運賃ハ他ノ諸港ニ赴キ又ハ他ノ諸港ヨリ來ル移出民カ同一速力及同種設備ノ下ニ同國鐵道ニ於テ享受スル最惠運賃率（割引及割戾ヲ含ム）ヨリ高キ吉米率ナルコトヲ得ス

第三百六十八條

獨逸國ハ前條ノ直通運送又ハ同盟及聯合國ノ港ニ赴キ若ハ同盟及聯合國ノ港ヨリ來ル移出民ノ運送ニ對シ右運送ヲ阻礙シ又ハ遲延セシムヘキ技術上、財政上又ハ行政上ノ措置例ヘハ稅關檢査、一般警察、衞生警察及取締ノ如キ特別ノ措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

第三百六十九條

一部ハ鐵道ニ由リ一部ハ內地水路ニ由ル運送ナルトキハ直通運送狀ニ依ルモノタルト否トニ拘ラス其ノ鐵道ニ由ル部分ニ付テハ前數條ノ規定ヲ適用ス

第二章　車輛

第三百七十條

獨逸國ハ其ノ車輛ニ左記ノ取扱ニ適スル裝置ヲ備付クルコトヲ約ス

一　千八百八十六年五月十五日締結千九百七年五月十八日改正ノ「ベルヌ」條約ノ當事國タル同盟及聯合國ノ鐵道ニ運轉スル貨物列車ニ連結シ得ヘキモノト爲スコト但シ本條約實施後十年以內ニ此等ノ國內ノ鐵道ニ付採用エルコトアルヘキ貫通制動機ノ作用ヲ妨ケサルモノナルコトヲ要ス

二　獨逸國ノ鐵道ニ運轉スル一切ノ貨物列車ニ前號ノ同盟及聯合國ニ屬スル車輛ヲ連結シ得ヘキモノト爲スコト

同盟及聯合國ノ車輛ハ運轉、保存及修繕ニ關シ獨逸國ノ鐵道ニ於テ獨逸ノ車輛ト同一ノ取扱ヲ受クヘシ

第三章　鐵道線路ノ讓渡

第三百七十一條

鐵道ノ讓渡ハ獨逸國カ主權ヲ拋棄スル地域內ニ在ル港、水路及鐵道ノ讓渡ニ關スル特別規定並職員ニ對スル退職年金ノ支給及特許權者ニ關スル財政上ノ條件ニ從フノ外左ノ條件ニ從ヒ之ヲ行フヘシ

一　一切ノ鐵道ノ工作物及設備ハ良好ノ狀態ニテ全部之ヲ引渡スヘシ

二　自線所屬ノ車輛ヲ有スル一鐵道系統全體カ獨逸國ヨリ同盟及聯合國ノ一國ニ引渡サルル場合ニ於テハ其ノ車輛ハ千九百十八年十一月十一日以前ノ最終財產目錄ニ從ヒ正常ノ保存狀態ニテ全部之ヲ引渡スヘシ

三　特ニ所屬車輛ヲ有セサル鐵道ニ付テハ同盟及聯合國ノ指名ニ係ル專門家ノ委員會ニ於テ獨逸國代表者ヲモ加ヘ其ノ鐵道ノ屬スル鐵道系統上ニ存在スル車輛中引渡サルヘキモノノ割合ヲ決定ス此等ノ委員會ハ千九百十八年十一月十一日以前ノ最終財產目錄ニ當該鐵道所屬トシテ記入

セラレタル車輛ノ數量、軌道ノ延長（側線ヲ含ム）竝運送ノ性質及數量ヲ考量シ前記ノ割合ヲ決定スヘシ又同委員會ハ各個ノ場合ニ付引渡サルヘキ機關車、客車及貨車ヲ指定スヘク又車輛受領ニ關スル條件ヲ決定シ且獨逸工場ニ於テ車輛ノ修繕ヲ爲シ得ルコトヲ確保スルニ必要ナル暫定協定ヲ爲スヘシ

四　備品、附屬品及機械類ハ車輛ト同一ノ條件ノ下ニ引渡スヘシ

前露領波蘭ノ鐵道ニシテ獨逸國カ之ヲ獨逸式軌間ニ改築シタルモノハ之ヲ普魯西國有鐵道系統ノ支派ト看做シ前記第三號及第四號ノ規定ヲ準用ス

第四章　特定ノ鐵道線ニ關スル規定

第三百七十二條

本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外新國境劃定ノ結果同一國内ノ二地間ヲ連絡スル鐵道カ他國ヲ過ルコトト爲ルカ又ハ一國ヨリノ支線カ他國内ニ其ノ終點ヲ有スルコトト爲ル場合ニ於テハ其ノ作業條件ハ當該鐵道間ノ取極ニ依リ之ヲ定ムヘシ前記取極ノ條項ニ付當該鐵道間ノ協議調ハサルトキハ前條ノ規定ニ依リ組織シタル專門家委員會之ヲ決裁スヘシ

第三百七十三條

本條約實施後五年以内ニ「チェッコ、スロヴァキア」國ハ獨逸國版圖内ニ於テ「シュラウナイ」停車場ト「ナホッド」停車場トノ間ノ鐵道敷設ヲ請求スルコトヲ得其ノ敷設費用ハ「チェッコ、スロヴァキア」國之ヲ負擔スヘシ

第三百七十四條

伊太利國政府ノ同意ヲ得テ瑞西國政府ヨリ「サン、ゴタール」鐵道ニ關スル千九百九年十月十三日ノ國際條約ヲ廢棄スヘキ旨請求アルトキハ獨逸國ハ本條約實施後十年以内ニ之ヲ承諾スルコトヲ約ス廢棄ノ條件ニ關シ協議調ハサルトキハ獨逸國ハ亞米利加合衆國ノ指名スル一名ノ仲裁委員ノ判定ニ服スヘキコトヲ約ス

第五章　經過規定

第三百七十五條

獨逸國ハ同盟及聯合國ヲ代表スル官憲カ左記運送上ノ事項ニ付獨逸國ニ與フヘキ指令ヲ實行スヘシ

一　本條約ノ規定ニ依ル軍隊ノ運送竝軍用材料、彈藥及糧秣等ノ運搬

二　一時的ノ措置トシテ特定地方ヘノ供給品ノ運送、成ルヘク迅速ナル平時運送狀態ノ回復及郵便電信事務ノ整備

第四款　紛爭及永久條項ノ改正

第三百七十六條

前各條ノ解釋及適用ニ關シ關係國間ニ生スルコトアルヘキ紛爭ノ解決ハ國際聯盟ノ定ムル所ニ依ル

第三百七十七條

國際聯盟ハ何時タリトモ前記諸條中永久的管理制度ニ關スル規定ノ改正ヲ提議スルコトヲ得

第三百七十八條

第三百二十一條乃至第三百三十條、第三百三十二條、第三百六十五條及第三百六十七條乃至第三百六十九條ノ規定ハ本條約實施後五年以後ハ何時タリトモ國際聯盟理事會ニ依リ改正セラルヘシ

前項ノ改正ナキ場合ニ於テハ同盟國又ハ聯合國ハ前記五年ノ期間滿了ノ後前項列記ノ各條ニ規定シタル事項ニ付相互待遇ヲ與ヘサル其ノ版圖内ノ地方ノ爲ニ該各條ノ規定シタル利益ヲ主張スルコトヲ得ス獨逸國カ相互待遇ヲ要求スルコト能ハサル前記五年ノ期間ハ國際聯盟理事會ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得

第五款　特別規定

第三百七十九條

獨逸國ハ本條約實施後五年以内ニ國際聯盟ノ承認ヲ得テ同盟及聯合國間ニ締結セラルヘキ通過、水路、港又ハ鐵道ノ國際制度ニ關スル何レノ一般條約ニモ加入スヘキコトヲ約ス但シ同盟及聯合國ノ利益ノ爲ニ本條約ノ定メタル獨逸國ノ特殊義務ニ影響ヲ及ホスコトナシ

第六款　「キール」運河ニ關スル條項

第三百八十條

「キール」運河及其ノ入口ハ獨逸國ト和親ノ一切ノ國ノ商船及軍艦ノ爲ニ全然均等ノ條件ニ於テ開放セラレ且常ニ自由タルヘシ

第三百八十一條

一切ノ國ノ國民、財産及船舶ハ運河ノ使用ニ付料金、便益其ノ他一切ノ事項ニ關シ完全ナル均等待遇ヲ受クヘク其ノ國民、財産及船舶ニ對シ獨逸國又ハ最惠國ノ國民、財産又ハ船舶ニ比シ不利益ナル何等ノ差別ヲ設クルコトヲ得サルモノトス

人又ハ船舶ノ移動ニ付テハ警察、關税、衛生、移出民及移入民諸規則竝禁制品ノ輸出入ニ關スル規則ニ基ク場合ヲ除クノ外之ニ何等ノ障礙ヲ加フルコトヲ得ス此等ノ規則ハ相當ニシテ劃一ナルヘク且濫ニ交通ヲ阻礙セサルモノナルコトヲ要ス

第三百八十二條

運河又ハ其ノ入口ヲ使用スル船舶ニ對シ課スルコトヲ得ヘキ料金ハ運河又ハ其ノ入口ノ航行可能ナル狀態ヲ維持シ若ハ運河又ハ其ノ入口ヲ改良スル爲ノ費用ヲ衡平ニ支辨スルカ又ハ航行上ノ利益ノ爲ニ要シタル經費ニ充當スル趣旨ノモノナルコトヲ要ス其ノ料金表ハ右諸費用ヲ基礎トシテ算出シ且之ヲ各港ニ揭示スヘシ

前項ノ料金ハ詐欺又ハ反則ノ嫌疑アル場合ヲ除クノ外積荷ノ細密ナル檢査ヲ要セサル樣之ヲ取立ツヘシ

第三百八十三條

通過貨物ハ之ニ封印ヲ施シ又ハ税關吏員ヲシテ之ヲ監視セシムルコトヲ得ヘク貨物ノ積卸及旅客ノ乘降ハ獨逸國ニ於テ特ニ定ムル港ニ於テノミ之ヲ行フヘシ

第三百八十四條

「キール」運河内又ハ其ノ入口ニ於テハ本條約ニ規定スルモノヲ除クノ外何等ノ料金ヲ課スルコトヲ得ス

第三百八十五條

獨逸國ハ航行ニ對スル障礙又ハ危險ヲ除去シ且航行ニ適當ナル狀態ノ維持ヲ確保スル爲適當ナル措置ヲ講スルノ義務ヲ有ス獨逸國ハ又本運河又ハ其ノ入口ニ於テ航行ヲ妨礙スヘキ性質ヲ有スル何等ノ工事ヲ企ツルコトナカルヘシ

第三百八十六條

第三百八十條乃至第三百八十六條ノ規定ニ對スル違反ノ場合又ハ該數條ノ解釋ニ關シ紛爭ヲ生シタル場合ニハ關係國ハ國際聯盟カ之カ爲設立スル裁判所ニ出訴スルヲ得

小問題ヲ國際聯盟ノ議ニ付スルコトヲ避ケムカ爲獨逸國ハ紛爭ヲ第一審トシテ處理スルニ足リ且關係國領事官ヲ經由シ提起セラルヘキ異議ニ對シ能フ限リ滿足ヲ與フルニ適スル一ノ地方官廳ヲ「キール」ニ設クヘシ

第十三編　勞働

第一款　勞働機關

國際聯盟ハ世界平和ノ確立ヲ目的トシ而シテ世界平和ハ社會正義ヲ基礎トスル場合ニ於テノミ之ヲ確立シ得ヘキモノナルニ因リ

多數ノ人民ニ對スル不正、困苦及窮乏ヲ伴フ現今ノ勞働狀態ハ大ナル不安ヲ釀生シ惹テ世界ノ平和協調ヲ危殆ナラシムヘキニ因リ彼ノ勞働時間ノ制定殊ニ一日又ハ一週ノ最長勞働時間ノ限定、勞働供給ノ調節、失業ノ防止、相應ノ生活ヲ支フルニ足ル賃銀ノ制定、勞務傷害及疾病ニ對スル勞働者ノ保護、兒童年少者及婦人ノ保護、老年及癈疾ニ對スル施設、自國外ニ於テ使用セラルル勞働者ノ利益ノ保護、結社自由ノ原則ノ承認、職業及技術教育ノ組織等ノ如キ手段ヲ以テ前記勞働狀態ヲ改善スルコトハ刻下ノ急務ナルニ因リ

一國ニ於テ人道的勞働條件ヲ採用セサルトキハ他ノ諸國ノ之カ改善ヲ企圖スルモノニ對シ障礙ト爲ルヘキニ因リ

玆ニ締約國ハ正義人道ヲ旨トシ世界恆久ノ平和ヲ確保スルノ冀望ヲ以テ左ノ諸條ヲ協定ス

第一章　機關

第三百八十七條

前文記載ノ目的ヲ達セムカ爲玆ニ常設機關ヲ設置ス

國際聯盟ノ原聯盟國ハ右常設機關ノ原締盟國タルヘク今後國際聯盟ノ聯盟國ト爲ルモノハ同時ニ右常設機關ノ締盟國タルヘキモノトス

第三百八十八條

常設機關ハ（一）締盟國代表者ノ勞働總會及（二）第三百九十三條ニ規定スル勞働理事會ノ管理ニ屬スル國際勞働事務局ヨリ成ル

第三百八十九條

締盟國代表者ノ勞働總會ノ會議ハ必要ニ應シ隨時ニ且少クトモ每年一回之ヲ開クヘシ勞働總會ハ各締盟國四名ツツノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス内二名ハ政府ノ代表委員、他ノ二名ハ當該國ニ於ケル使用者及勞働者ヲ各代表スル代表委員タルヘシ

各代表委員ハ顧問ヲ同伴スルコトヲ得但シ會議事項ノ各項目ニ付二名ヲ超ユルコトヲ得ス勞働總會ニ於テ特ニ婦人ニ關スル問題ヲ議スル場合ニ於テハ顧問中少クトモ一名ハ婦人タルコトヲ要ス

締盟國ハ其ノ國ニ於テ使用者又ハ勞働者ヲ最能ク代表スル産業上ノ團體カ存在スル場合ニ於テハ該團體トノ協議ニ依リ各民間代表委員及其ノ顧問ヲ任命スルコトヲ約ス

顧問ハ之ヲ同伴スル代表委員ノ請求及總會ノ議長ノ特別ノ許可アル場合ヲ除クノ外發言スルコトヲ得ス又顧問ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス

代表委員ハ議長宛ノ通告書ニ依リ其ノ顧問ノ一名ヲ自己ノ代理者トシテ指名スルコトヲ得顧問ハ右代理中發言シ及表決ヲ爲スコトヲ得

代表委員及其ノ顧問ノ氏名ハ各締盟國政府之ヲ國際勞働事務局ニ通知スヘシ

代表委員及其ノ顧問ノ委任狀ハ之ヲ勞働總會ノ審査ニ付スヘシ勞働總會ハ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ本條ニ依リ任命セラレタル者ニ非スト認ムル代表委員又ハ顧問ノ列席ヲ拒絶スルコトヲ得

第三百九十條

各代表委員ハ勞働總會ニ付議セラレタル一切ノ事項ニ付各別ニ表決ヲ爲スノ權利ヲ有ス

締盟國任命權ヲ有スルニ拘ラス民間代表委員中ノ一名ヲ任命セサルトキハ他ノ民間代表委員ハ勞働總會ニ出席シ發言スルコトヲ得ルモ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十九條ニ依リ勞働總會カ締盟國ノ一代表委員ノ列席ヲ拒絶シタルトキハ該代表委員ハ任命ナカリシモノト看做シ本條ノ規定ヲ適用ス

第三百九十一條

勞働總會ノ會議ハ國際聯盟本部所在地又ハ前會議ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ總會カ議決シタル他ノ地ニ於テ之ヲ開ク

第三百九十二條

國際勞働事務局ハ聯盟機關ノ一部トシテ國際聯盟本部所在地ニ之ヲ設置ス

第三百九十三條

國際勞働事務局ハ左ノ規定ニ依リ選任シタル二十四名ヲ以テ組織スル勞働理事會ノ管理ニ屬ス

勞働理事會ノ組織ハ左ノ如シ

政府ヲ代表スル者十二名

使用者ヲ代表スル勞働總會代表委員ノ選擧シタル者六名

勞働者ヲ代表スル勞働總會代表委員ノ選擧シタル者六名

政府ヲ代表スル十二名ノ中八名ハ主要産業國タル締盟國之ヲ任命シ他ノ四名ハ右八國以外ノ締盟國ノ勞働總會政府代表委員ニ於テ之カ爲選定シタル締盟國之ヲ任命スヘシ

主要産業國カ何レナルカノ問題ハ國際聯盟ノ聯盟理事會之ヲ決定スヘシ

勞働理事會員ノ任期ハ三年トス闕員ノ補充方法其ノ他之ニ類スル事項ハ勞働總會ノ承認ヲ條件トシテ勞働理事會之ヲ定ムルコトヲ得

勞働理事會ハ會員中ノ一名ヲ隨時ニ會長ニ選擧シ議事規則ヲ設ケ及其ノ會議ノ期日ヲ定ム臨時會議ハ會員十名以上ノ書面請求アリタルトキハ之ヲ開クヘシ

第三百九十四條

國際勞働事務局ニ局長ヲ置キ勞働理事會之ヲ任命ス局長ハ勞働理事會ノ指揮ヲ受ケ國際勞働事務局ノ事務及他ノ委託事務ノ遂行ニ付其ノ責ニ任ス

局長又ハ其ノ代理者ハ勞働理事會ノ一切ノ會議ニ列席スヘシ

第三百九十五條

國際勞働事務局ノ職員ハ局長之ヲ任命ス右職員ハ國際勞働事務局事務ノ成績ヲ擧クルニ差支ナキ限リ成ルヘク國籍ヲ異ニスル諸國人中ヨリ之ヲ選任スヘク且其ノ若干名ハ婦人タルコトヲ要ス

第三百九十六條

國際勞働事務局ノ職能ニハ勞働者ノ生活狀態及勞働條件ノ國際的調節ニ關スル一切ノ情報ノ蒐集配布、殊ニ國際條約締結ノ目的ヲ以テ勞働總會ニ提出セムトスル事項ノ審査竝勞働總會ノ命ニ依ル特別調査ノ遂行ヲ含ムモノトス

國際勞働事務局ハ勞働總會ノ會議事項ヲ準備ス

國際勞働事務局ハ國際紛爭ニ關シ本編ノ規定ニ依リ其ノ任務ヲ行フ

國際勞働事務局ハ國際利害關係アル産業及勞務ノ問題ニ付佛文、英文其ノ他勞働理事會カ適當ト認ムル言語ヲ以テ定期刊行物ヲ編輯發行スヘシ

本條ニ定メタル職能ノ外國際勞働事務局ハ勞働總會ノ委託ニ係ル一切ノ權能及任務ヲ有スルモノトス

第三百九十七條

産業及勞務ノ問題ヲ管掌スル締盟國政府ノ各省ハ勞働理事會ニ於ケル當該政府ノ代表者、代表者ナキ場合ニ於テハ之カ爲政府ノ任命シタル當該官吏ヲ經由シテ直接ニ局長ト通信スルコトヲ得

第三百九十八條

國際勞働事務局ハ國際聯盟事務總長ノ助力ヲ受クルコトヲ得ヘキ事項ニ付右助力ヲ請求スルコトヲ得

第三百九十九條

勞働總會又ハ勞働理事會ノ會議ニ出席スル代表者、代表委員及其ノ顧問ノ旅費及手當ハ各締盟國之ヲ支辨ス

國際勞働事務局竝勞働總會及勞働理事會ノ會議ニ關スル他ノ一切ノ費用ハ國際聯盟事務總長聯盟ノ一般資金中ヨリ之ヲ局長ニ交付ス

局長ハ本條ニ依リ交付ヲ受ケタル金錢ノ支出ニ付國際聯盟事務總長ニ對シ其ノ責ニ任スヘシ

第二章　手續

第四百條

勞働總會ノ一切ノ會議事項ハ勞働理事會之ヲ決定ス勞働理事會ハ締盟國政府又ハ第三百八十九條ニ依リ認メラレタル代表團體ノ[illegible]

第四百一條

局長ハ勞働總會ノ書記トシテ行動シ會議事項ハ勞働總會ノ開會四月前ニ締盟國ニ到達スル樣之ヲ送達スヘク[illegible]ニ於テハ[illegible]シ

第四百二條

締盟國政府ハ會議事項中ノ或項目ノ存置ニ對シ正式ニ反對ヲ爲スコトヲ得其ノ理由ハ局長宛ノ說明書ニ之ヲ記載スヘク局長ハ之ヲ本常設機關ノ各締盟國ニ送付スヘシ

尤モ前記反對アリタル項目ハ勞働總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ審議スルニ決シタルトキハ之ヲ會議事項ヨリ除去セス

前項ノ外勞働總會カ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ審議スヘキ旨議決シタル問題ハ之ヲ次期會議ノ會議事項中ニ加フヘシ

第四百三條

勞働總會ハ自ラ會議手續ヲ定メ及議長ヲ選擧スヘシ又各種ノ問題ヲ審査報告セシムル爲委員會ヲ設クルコトヲ得

本編ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一切ノ事項ハ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ單純多數ニ依リ之ヲ決ス

爲サレタル表決數カ勞働總會出席代表委員ノ半數ニ達セサルトキハ表決ハ無效トス

第四百四條

勞働總會ハ其ノ組織スル各委員會ニ專門委員ヲ附屬セシムルコトヲ得專門委員ハ審議ニ參加シ表決權ヲ有セス

第四百五條

勞働總會カ會議事項中ノ或項目ニ關スル提案ヲ可決シタルトキハ勞働總會ハ該提案ニ付

（イ）締盟國ヲシテ立法其ノ他ノ方法ニ依リ之カ實現ヲ爲サシムル目的ヲ以テ考慮セシムル爲該締盟國ニ送付スル勸告又ハ（ロ）締盟國ニ依リ批准セラルヘキ國際條約案ノ孰レノ形式ニ依ルヘキカヲ決定ス

勞働總會ニ於テ前項ノ勸告又ハ條約案ヲ可決確定スル爲ニハ孰レノ場合ニ於テモ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ要ス

締盟國一般ニ適用スヘキ勸告又ハ條約案ヲ立案スル場合ニ於テハ勞働總會ハ氣候ノ狀態、產業組織ノ不充分ナル發達其ノ他特殊ノ事情ニ因リ產業狀態著シキ差異アル國ニ關シ相當斟酌ヲ加フヘク且斯ノ如キ國ノ事情ニ適應セシムル爲必要ト認ムルモノアルトキハ右勸告又ハ條約案ニ加フヘキ變更ヲ提示スヘシ

勸告又ハ條約案ハ勞働總會ノ議長及局長其ノ一通ニ署名シテ之ヲ確認シ國際聯盟事務總長ニ寄託スヘク事務總長ハ其ノ勸告又ハ條約案ノ認證謄本ヲ各締盟國ニ送付スヘシ

締盟各國ハ勞働總會閉會後一年以內ニ立法其ノ他ノ措置ヲ執ルカ爲右ノ勸告又ハ條約案ヲ其ノ事項ニ付權限アル機關ノ議ニ付スヘキコトヲ約ス但シ已ムヲ得サル事情ノ爲右期間內ニ其ノ議ニ付スルコト能ハサルトキハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ勞働總會閉會後十八月ヲ超エサル期間內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

勸告ニ付テハ締盟國ハ之ニ關シ執リタル措置ヲ事務總長ニ通知スヘシ

條約案ニ付テハ締盟國ニ於テ其ノ事項ニ關シ權限アル機關ノ同意ヲ得タル場合ニ於テハ右條約ノ正式批准ヲ事務總長ニ通告シ且右條約ノ規定ノ實施ニ必要ナル措置ヲ執ルヘシ

勸告ニ付其ノ實現ニ必要ナル立法其ノ他ノ措置ヲ執ルコトナカリシ場合又ハ條約案ニ付其ノ事項ニ關シ權限アル機關ノ同意ヲ得サリシ場合ニ於テハ締盟國ハ他ノ何等ノ義務ヲ負フコトナシ

勞働事項ニ關スル條約ニ加盟スルノ權能ニ制限アル聯邦國ニ在リテハ當該國政府ハ其ノ裁量ニ依リ右制限ノ適用アル條約案ヲ單ニ勸告ト認ムルコトヲ得此ノ場合ニハ勸告ニ關スル本條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ左ノ原則ニ從ヒ之ヲ解釋スヘシ

締盟國ハ如何ナル場合ニ於テモ勞働總會カ或勸告又ハ條約案ヲ採用シタル結果トシテ其ノ國ノ現行法制上當該勞働者ニ與ヘタル保護ノ減殺ヲ要求セラルルコトナカルヘシ

第四百六條

右ニ依リ批准セラレタル一切ノ條約ハ國際聯盟事務總長之ヲ登錄スヘシ該條約ハ之ヲ批准シタル締盟國ノミヲ拘束スヘシ

第四百七條

條約案カ勞働總會ノ最終審議ニ付セラレタル場合ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ同意ヲ得サリシトキト雖本常設機關ノ締盟國ハ右條約案ヲ希望スル各國間ニ於テノミ之ヲ採用スルノ權ヲ有ス

右ニ依リ採用シタル條約ハ當該國政府國際聯盟事務總長ニ之ヲ通知シ事務總長ハ之ヲ登錄スヘシ

第四百八條

各締盟國ハ其ノ締結シタル條約ノ規定實施ノ爲執リタル措置ニ關スル年報ヲ國際勞働事務局ニ提出スルコトヲ約ス該年報ノ樣式及記載事項ハ勞働理事會ノ指定スル所ニ依ル局長ハ該年報ノ要領ヲ勞働總會ノ次期會議ニ報告スヘシ

第四百九條

使用者又ハ勞働者ノ組織スル產業上ノ團體ヨリ國際勞働事務局ニ對シ締盟國ノ一國カ其ノ締結シタル條約ニ付其ノ管轄內ニ於テ確實ナル履行ヲ爲ササルコトヲ申告シタル場合ニ於テハ勞働理事會ハ其ノ申告ヲ當該國政府ニ移牒シ且右ニ付其ノ相當ト認ムル辯明書ノ提出ヲ勸誘スルコトヲ得

第四百十條

勞働理事會ハ當該國政府ヨリ相當期間內ニ辯明書ヲ接受セス又ハ其ノ接受シタル辯明書ヲ不充分ト認ムル場合ニ於テハ右申告書及之ニ對スル辯明書アルトキハ其ノ辯明書ヲ公表スルノ權ヲ有ス

第四百十一條

各締盟國ハ他ノ締盟國カ前數條ニ依リ共ニ批准シタル條約ノ確實ナル履行ヲ爲サスト認ムル場合ニ於テハ國際勞働事務局ニ對シ異議ヲ提起スルノ權ヲ有ス

勞働理事會ハ以下規定スル所ニ從ヒテ右ノ異議ヲ勞働審理委員會ニ付スルニ先チ其ノ裁量ニ依リ第四百九條ノ定ムル方法ニ準シ右異議ノ相手國政府ニ之ヲ移牒スルコトヲ得

勞働理事會ハ右異議ヲ相手國政府ニ移牒スルノ必要ヲ認メサルトキ又ハ右移牒ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ充分ト認ムル辯明書ヲ相當期間內ニ接受セサルトキハ該異議ノ審査及之ニ關スル報告ヲ爲サシムル爲勞働審理委員會ノ設置ヲ求ムルコトヲ得

勞働理事會ハ其ノ發意ニ依リ又ハ勞働總會ノ代表委員ノ異議ニ基キ同一ノ手續ヲ爲スコトヲ得

勞働理事會第四百十條又ハ第四百十一條ノ適用ヨリ生スル問題ヲ審議スルニ當リ申告又ハ異議ノ相手國政府カ勞働理事會ニ其ノ代表者ヲ有セサル場合ニ於テハ該政府ハ其ノ審議中勞働理事會ノ議事ニ參加セシムル爲代表者ヲ出スノ權ヲ有ス審議ノ期日ハ該國政府ニ對シ適當ノ時期ニ之ヲ通知スヘシ

第四百十二條

勞働審理委員會ハ左ノ規定ニ依リ之ヲ組織ス

各締盟國ハ本條約實施後六月以內ニ產業上ノ經驗アル者三名ヲ任命スルコトヲ約ス內一名ハ使用者ノ代表者、一名ハ勞働者ノ代表者、他ノ一名ハ中立ノ地位ニ在ル者タルヘシ勞働審理委員會ノ委員ハ右任命セラレタル者ノ名簿中ヨリ之ヲ選定スヘシ

右任命セラレタル者ノ資格ハ勞働理事會之ヲ審査ス勞働理事會ハ資格カ本條ノ要件ニ適合セスト認ムル者ノ任命ニ對シ出席代表者ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ承認ヲ拒ムコトヲ得

勞働理事會ノ請求アリタルトキハ國際聯盟事務總長ハ勞働審理委員會ヲ組織セシムル爲前記名簿ノ各部ヨリ一名ツツ三名ヲ選定シ內一名ヲシテ之カ議長タラシムヘシ右三名ハ何レモ直接ニ異議ニ關係アル締盟國ノ任命シタル者ナラサルコトヲ要ス

第四百十三條

第四百十一條ニ依リ異議カ勞働審理委員會ニ付セラレタル場合ニ於テハ各締盟國ハ直接之ニ關係アルト否トニ拘ラス該異議事項ニ付其ノ有スル一切ノ資料ヲ勞働審理委員會ニ提供スルコトヲ約ス

第四百十四條

勞働審理委員會異議ニ付充分ナル審査ヲ了シタルトキハ之ニ關スル報告書ヲ作成スヘシ報告書ニハ係爭問題ノ決定ニ關係アル一切ノ事實ノ認定竝該異議ニ對シ執ルヘキ處置及之カ實行期限ニ關シ適當ト認ムル勸告ヲ記載スルモノトス

勞働審理委員會ハ又勸告ヲ實行セサル政府ニ對スル適當ナル經濟的制裁手段ニシテ他ノ諸政府之ヲ採用シテ可ナリト認ムルモノアル場合ニ於テハ之ヲ其ノ報告書中ニ指示スヘシ

第四百十五條

國際聯盟事務總長ハ勞働審理委員會ノ報告書ヲ異議ニ關係アル各國政府ニ送付シ又之ヲ公表セシムヘシ

前項ノ送付ヲ受ケタル各國政府ハ勞働審理委員會ノ報告書ニ記載スル勸告ヲ採用スルヤ否ヤ、若シ之ヲ採用セストセハ當該異議ニ付國際聯盟ノ常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムルノ意思アリヤ否ヤヲ一月以內ニ國際聯盟事務總長ニ通告スヘシ

第四百十六條

締盟國中勸告又ハ條約案ニ關シ第四百五條ニ依ル措置ヲ執ラサル者アル場合ニ於テハ他ノ締盟國ハ右ニ付常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムルノ權ヲ有ス

第四百十七條

第四百十五條又ハ第四百十六條ニ依リ常設國際司法裁判所カ裁判ヲ求メラレタル異議又ハ他ノ事項ニ付其ノ爲シタル判決ハ終結トス

第四百十八條

常設國際司法裁判所ハ勞働審理委員會ノ爲シタル事實ノ認定又ハ勸告アル場合ニ於テハ之ヲ確認シ、變更シ又ハ廢棄スルコトヲ得勸告ヲ實行セサル政府ニ對スル適當ナル經濟的制裁手段ニシテ他ノ諸政府之ヲ採用シテ可ナリト認ムルモノアル場合ニ於テハ之ヲ該判決中ニ指示スヘシ

第四百十九條

勞働審理委員會ノ報告書又ハ常設國際司法裁判所ノ判決中ニ勸告ノ記載アル場合ニ於テ締盟國カ其ノ勸告ヲ所定ノ期間內ニ實行セサルトキハ他ノ各締盟國ハ右勸告ヲ實行セサル國ニ對シ前記ノ報告書又ハ判決中ニ適當ナリトシテ指示シタル經濟的制裁手段ヲ執ルコトヲ得

第四百二十條

勸告ヲ實行セサル政府ハ勞働審理委員會ノ勸告又ハ常設國際司法裁判所判決中ノ勸告ニ遵由スルニ必要ナル處置ヲ執リタル旨何時タリトモ勞働理事會ニ通知シ且其ノ通知ノ內容ヲ確ムル爲勞働審理委員會ノ開設ヲ國際聯盟事務總長ニ申立ツルコトヲ勞働理事會ニ請求スルコトヲ得第四百十二條乃至第四百十五條、第四百十七條及第四百十八條ノ規定ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス勞働審理委員會又ハ常設國際司法裁判所カ當該政府ニ對シ有利ナル報告又ハ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ他ノ諸政府ハ直ニ之ニ對スル經濟的制裁手段ヲ停止スヘシ

第三章　一般規定

第四百二十一條

締盟國ハ本編ノ規定ニ依リ批准シタル諸條約ヲ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ左ノ條件ノ下ニ適用スルコトヲ約ス

一　條約カ土地ノ狀況ニ照シ適用不可能ニ非サルコト

二　土地ノ狀況ニ適應セシムル爲條約ニ必要ナル變更ヲ加フルコト

締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ付其ノ執リタル措置ヲ國際勞働事務局ニ通告スヘシ

第四百二十二條

本編ノ改正ハ勞働總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ之ヲ可決シ國際聯盟理事會ヲ組織スル代表者ノ屬スル各國及總數四分ノ三ノ締盟國之ヲ批准シタル場合ニ於テ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第四百二十三條

本編ノ解釋又ハ締盟國間ニ於テ將來本編ノ規定ニ基キ締結スル條約ノ解釋ニ關スル疑義又ハ紛爭ハ之ヲ常設國際司法裁判所ノ裁判ニ付スヘキモノトス

第四章　經過規定

第四百二十四條

勞働總會ノ第一回會議ハ千九百十九年十月之ヲ開クヘシ會議ノ地及會議事項ハ附屬書ニ之ヲ定ム

第一回會議ノ招集及組織ハ右附屬書ニ指定スル政府之ヲ準備ス該政府ハ勞働總會ニ提出スヘキ書類ノ作成ニ付同附屬書ニ依リ組織シタル國際準備委員會ノ助力ヲ受クヘシ

第一回會議ノ經費及國際聯盟カ一般資金ヲ設定シ得ルニ至ル迄ニ開催スル爾後ノ會議ノ經費ハ代表委員及其ノ顧問ノ經費ヲ除クノ外萬國郵便聯合總理局ノ經費分擔ノ割合ニ從ヒ締盟國之ヲ負擔ス

第四百二十五條

本款ノ規定ニ依リ國際聯盟事務總長ニ提出スヘキ一切ノ書類ハ國際聯盟ノ組織セラルル迄ノ間國際勞働事務局長之ヲ保管シ追テ國際聯盟事務總長ニ之ヲ引繼クヘシ

第四百二十六條

本編ノ規定ニ依リ常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムヘキ紛爭ハ該裁判所ノ開設ニ至ル迄ノ間國際聯盟理事會選定ノ三名ヲ以テ組織スル裁判所ニ之ヲ付託スヘシ

附屬書

千九百十九年第一回勞働總會會議

會議ノ地ハ華盛頓トス

會議ノ招集ハ亞米利加合衆國政府ニ之ヲ委囑ス

國際準備委員會ハ亞米利加合衆國、大不列顚國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、白耳義國及瑞西國ノ任命スル七名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス右委員會ハ必要ト認ムルトキハ前記以外ノ締盟國ニ對シ代表者ノ任命ヲ求ムルコトヲ得

會議事項

一　一日八時間又ハ一週四十八時間ノ原則ノ適用ノ件

二　失業ニ對スル豫防又ハ救濟ノ件

三　婦人使用ノ件
（イ）產前產後（產婦ニ對スル手當問題ヲ含ム）
（ロ）夜間
（ハ）健康上有害ナル作業

四　兒童使用ノ件
（イ）使用ノ最低年齡
（ロ）夜間
（ハ）健康上有害ナル作業

五　產業ニ使用セラルル婦人ノ夜業ノ禁止及燐寸製造ニ於ケル黃燐使用ノ禁止ニ關スル千九百六年「ベルヌ」國際條約ノ擴張及適用ノ件

第二款　一般原則

第四百二十七條

締約國ハ產業ニ從事スル賃銀生活者ノ身體上道德上及智能上ノ福祉ハ最重要ナル國際事項ナリト認メ此ノ大ナル目的ノ爲玆ニ國際聯盟ノ機關ト相待チテ第一款ニ規定スル常設機關ヲ組織シタリ

締約國ハ氣候、慣行及習俗、經濟上ノ機會竝產業上ノ因襲ノ相異ハ勞働條件ノ劃一ヲ急速ニ實現スルコトヲ困難ナラシムルモノト認ム然レトモ締約國ハ現ニ勞働カ單ナル商品ト看做サルヘキモノニ非スト認ムルカ故ニ勞働條件ヲ規律スル方法及原則ニシテ一切ノ產業國カ各自ノ特殊事情ノ許ス限リ之カ適用ヲ力ムヘキモノノ存スルヲ認ム

締約國ニ於テハ右方法及原則中左ニ揭クルモノヲ以テ特別且緊急ノ必要アルモノト認ム

一　勞働ハ單ニ貨物又ハ商品ト認ムヘキモノニ非ストノ前記ノ基本原則

二　使用者又ハ被用者カ一切ノ適法ナル目的ノ爲結社スルノ權利

三　其ノ時及其ノ國ニ於テ相當ト認メラルル生活程度ヲ維持スルニ足ル賃銀ヲ被用者ニ支拂フヘキコト

四　一日八時間又ハ一週四十八時間ノ制ヲ實行スルニ至ラサル諸國ニ於テハ之ヲ其ノ到達ノ目標トシテ採用スヘキコト

五　日曜日ヲ成ルヘク包含シ二十四時間ヲ下ラサル每週一回ノ休息ヲ與フルノ制ヲ採用スヘキコト

六　兒童勞働ヲ廢止スヘキコト及年少者ノ勞働ニ對シ其ノ教育ヲ繼續スルコトヲ得且身體ノ正當ナル發達ヲ確保スヘキ制限ヲ設クヘキコト

七　同一價値ノ勞働ニ對シテハ男女同額ノ報酬ヲ受クヘキ原則

八　各國カ其ノ法令ニ依リ定ムル勞働條件ニ關スル標準ハ適法ニ其ノ國ニ居住スル一切ノ勞働者ニ對スル衡平ナル經濟上ノ待遇ヲ確保スヘキコト

九　各國ハ被用者ノ保護ヲ目的トスル法令ヲ勵行スル爲監督ノ制度ヲ設ケ婦人ヲシテ之ニ參加セシムヘキコト

締約國ハ前記ノ方法及原則ヲ以テ完全不易ノモノト主張セスト雖右ハ國際聯盟ノ政策ヲ指導スルニ適切ナルコトヲ信シ若シ國際聯盟國タル各產業國ニシテ之ヲ採用シ且妥當ナル監督ノ制度ニ依リテ其ノ實行ヲ保障スルニ於テハ必ス世界ノ賃銀生活者ノ上ニ恆久ノ福利ヲ齎スヘキコトヲ疑ハス

第十四編　保障

第一款　西歐羅巴

第四百二十八條

獨逸國ノ本條約履行ニ對スル保障トシテ同盟及聯合國ノ軍隊ハ本條約實施後十五年間萊因河ノ西方ニ位スル獨逸國領土及萊因河橋頭地域ヲ占領ス

第四百二十九條

獨逸國カ本條約ノ各條項ヲ誠實ニ履行シタル場合ニ於テハ第四百二十八條ニ規定スル占領ハ左ノ如ク順次之ヲ限定スヘシ

一　五年後ニ於テ「コローニュ」橋頭地域及「ルール」河ニ從ヒ次テ「ユーリッヒ」―「デューレン」―「オイスキルヒェン」―「ラインバッハ」鐵道ニ依リ更ニ「ラインバッハ」―「ジンチッヒ」街道ヲ經テ「アール」河

ト萊因河トノ合流點ニ於テ萊因河ニ達スル線ノ北方ノ地域ヨリ撤兵ス但シ前記ノ道路、鐵道及場所ハ撤兵地域外トス

二　十年後ニ於テ　「コブレンツ」橋頭地域竝白耳義國、獨逸國及和蘭國國境ノ交叉點ヨリ「エークス、ラ、シャペル」ノ南方約四吉米ヲ走リ「フォルスト、ゲミュンド」山頂ニ至リ峯ヲ傳ヒ次テ「ウルフト」河谷鐵道ノ東方ヲ進ミ「ブランケンハイム」「ヲルドルフ」「ドライス」「ウルメン」ヲ經テ「モーセル」河ニ達シ「ブレンジム」ヨリ「ネーレン」ニ至ル迄ノ間同河ニ從ヒ更ニ「カッペル」及「ジンメルン」ヲ經次テ「ジンメルン」ト萊因河トノ間ノ高地ノ分水線ニ從ヒ「バッハラッハ」ニ於テ萊因河ニ達スル線ノ北方ノ地域ヨリ撤兵ス但シ前記一切ノ場所、河谷、道路及鐵道ハ撤兵地域外トス

三　十五年後ニ於テ　「マインツ」橋頭地域、「ケール」橋頭地域及占領獨逸國地域ノ殘部ヨリ撤兵ス

右十五年後ニ至リ同盟及聯合國政府カ挑發ニ基カサル獨逸國ノ侵略ニ對スル保障ヲ以テ充分ナラスト認ムルトキハ所要ノ保障ヲ得ルカ爲必要ノ期間占領軍隊ノ撤退ヲ延期スルコトヲ得

第四百三十條

賠償委員會ニ於テ獨逸國カ本條約ニ依リ負擔スル賠償上ノ義務ヲ全部又ハ一部履行セスト認ムルトキハ前記占領中タルト十五年ノ期間滿了後タルトヲ問ハス第四百二十九條ニ定ムル地域ノ全部又ハ一部ハ同盟及聯合國ノ兵力ヲ以テ直ニ之ヲ再占領スヘシ

第四百三十一條

十五年ノ期間滿了前ニ於テ獨逸國カ本條約上ノ一切ノ約定ヲ履行シ終リタルトキハ占領軍ハ直ニ撤退スヘシ

第四百三十二條

占領ニ關スル事項ニシテ本條約ニ規定セサルモノハ總テ後日ノ取極ヲ以テ之ヲ規定スヘク獨逸國ハ該取極ヲ履行スヘキコトヲ約ス

第二款　東歐羅巴

第四百三十三條

獨逸國カ「ブレスト、リトウスク」條約竝其ノ露國過激派政府ト締結シタル一切ノ條約及取極ノ失效ヲ確實ニ承認シタル本條約ノ諸條項ノ履行ノ保障トシテ又波羅的諸州及「リスアニア」ニ於ケル平和及善政ノ回復ヲ確保セムカ爲現ニ該地方ニ在ル一切ノ獨逸國軍隊ハ主タル同盟及聯合國政府カ上記地方ニ於ケル内部ノ情勢ニ照シ適當ト認ムル時期ノ到達スルト同時ニ獨逸國境内ニ歸還スヘキモノトス同軍隊ハ獨逸國ノ爲補給品ヲ得ルノ目的ヲ以テ徴發、押收其ノ他一切ノ強制手段ヲ執ルコトナカルヘク又「エストニア」「ラトウィア」及「リスアニア」諸假政府ノ執ルヘキ國防上ノ措置ニ對シ一切干渉スルコトヲ得ス

撤兵中又ハ撤兵完了後ニ於テハ他ノ獨逸國軍隊ノ前記地域内ニ入ルコトヲ許サス

第十五編　雜則

第四百三十四條

獨逸國ハ同盟及聯合國ト獨逸國ニ與シテ戰ヒタル諸國トノ間ニ締結セラルヘキ平和條約及附帶條約ノ完全ナル效力ヲ承認シ前墺地利洪牙利國、勃爾牙利王國及土耳其帝國ノ領土ニ關シ行ハルヘキ如何ナル處分ヲモ承認シ且右條約ノ定ムル國境ヲ有スル諸新國ヲ承認スルコトヲ約ス

第四百三十五條

締約國ハ千八百十五年ノ諸條約殊ニ千八百十五年十一月二十日ノ議定書ニ依リ瑞西國ノ爲ニ規定セラレタル保障ニシテ平和維持ニ關スル國際義務ヲ設定シタルモノヲ承認スト雖維納會議最終議定書第九十二條第一項及千八百十五年十一月二十日ノ巴里條約第三條第二項ニ定メタル「サヴォア」縣ノ中立地帶ニ關スル條約、宣言其ノ他追加議定書ノ規定ハ現時ノ狀態ニ適合セサルコトヲ聲明ス因テ締約國ハ該地帶ニ關スル規定ノ現在及將來ニ對スル失效ニ付佛蘭西瑞西兩國政府間ニ成立シタル取極ヲ領承ス

締約國ハ又上「サヴォア」縣及「ジェックス」郡ノ自由地帶ニ關スル千八百十五年ノ諸條約其ノ他追加議定書ノ條款カ現時ノ狀態ニ適合セサルニ至レルコトヲ承認シ且佛蘭西及瑞西兩國間ニ於テ其ノ適當ト認ムル條件ニ依リ前記地域ノ狀態ヲ決定スル爲取極ヲ爲スヘキコトヲ承認ス

附屬書

第一

瑞西聯邦政府ハ佛蘭西國政府ト同樣友好ノ精神ヲ以テ第四百三十五條ノ規定ヲ審査シ左ノ條件及保留ノ下ニ之ニ同意シ得ルコトニ決定シタルヲ欣幸トスル旨千九百十九年五月五日佛蘭西國政府ニ通告シタリ

一　上「サヴォア」縣中立地帶

(イ)　「サヴォア」縣中立地帶ニ關スル條款ノ失效ニ關シ兩國政府間ニ成立シタル取極ハ聯邦議會ニ於テ批准セサル間ハ本件ニ關シテハ當事國ノ孰レノ一方ニ於テモ何等確定セサルモノト認メラルヘシ

(ロ)　瑞西國政府カ前記條款ノ失效ニ對シ同意ヲ與フルハ千八百十五年ノ諸條約殊ニ千八百十五年十一月二十日ノ宣言書ニ依リ瑞西國ノ爲ニ設ケラレタル保障ヲ所定正文ニ從ヒ承認スルコトヲ條件トス

(ハ)　前記條款ノ失效ニ關スル佛蘭西國及瑞西國兩政府間ノ取極ハ本條カ其ノ字句通平和條約中ニ挿入セラルルトキニ於テノミ之ヲ有效ト認ム尚平和條約締結國ハ千八百十五年ノ諸條約及千八百十五年十一月二十日ノ宣言書ノ署名國ニシテ本平和條約ノ署名國ニ非サル諸國ノ同意ヲ得ルコトニ力ムヘキモノトス

二　上「サヴォア」縣及「ジェックス」郡ノ自由地帶

(イ)　聯邦政府ハ平和條約中ニ挿入スヘキ『上「サヴォア」縣及「ジェックス」郡ノ自由地帶ニ關スル千八百十五年ノ諸條約其ノ他追加議定書ノ條款カ現時ノ狀態ニ適合セサルニ至レルコト』ヲ規定スル前記條文末項ノ記述ノ解釋ニ關シ最明確ナル留保ヲ爲ス聯邦政府ハ前記ノ條句ヲ承諾シタル爲隣接地域ニ對シ地理上及經濟上ノ位置ニ適應スル特殊制度ノ便益ヲ供與スヘキ組織ニシテ既ニ試錬ヲ經タルモノノ廢止ヲ承諾シタルモノト推斷セラルルコトヲ欲セス

聯邦政府ノ意見ニ依レハ問題ハ前記諸條約ニ依リ設定セラレタル同地帶關稅制度ノ修正ニハ非スシテ單ニ該地方間ノ貨物交易ノ條件ニ付今日ノ經濟狀態ニ一層適應スル樣規定ヲ設ケムトスルニ在リ聯邦政府ハ佛蘭西國政府ノ四月二十六日附公文ニ附屬スル該地帶將來ノ組織ニ關スル條約案ヲ詳閲シタル結果以上ノ觀察ヲ爲スニ至レリ尤モ聯邦政府ハ前記ノ留保ヲ爲スト同時ニ佛蘭西國政府ニ於テ本問題ニ關シ發議スルヲ便宜ト認ムル提案アラハ最友好ノ精神ヲ以テ之ヲ考査スルニ躊躇セサルコトヲ聲明ス

(ロ)　本自由地帶ニ關スル千八百十五年ノ諸條約其ノ他追加議定書ノ條款ハ該地域ニ關スル事項ヲ規定スル佛蘭西及瑞西兩國間新協定ノ成立スル迄引續キ效力ヲ有スルコトヲ承認ス

第二

佛蘭西國政府ハ前項ノ通告ニ對スル回答トシテ千九百十九年五月十八日瑞西國政府ニ對シ左ノ公文ヲ送付シタリ

在巴里瑞西國公使館ハ五月五日附公文ヲ以テ佛蘭西共和國政府ニ對シ聯邦政府ハ提案セラレタル條項ヲ同盟及聯合國政府ト獨逸國トノ間ノ平和條約中ニ挿入スルコトニ同意シタル旨ヲ通告シタリ

佛蘭西國政府ハ斯ク成立シタル取極ヲ欣然領承シタリ而シテ該提案條項ハ同盟及聯合國政府ニ於テ既ニ承諾濟ナリシヲ以テ獨逸國全權委員ニ提示シタル平和條件中ニ第四百三十五條トシテ之ヲ挿入シタリ

本問題ニ關スル瑞西國政府ノ五月五日附公文ハ種種ノ意見及留保ヲ表明シタリ

上「サヴォア」縣及「ジェックス」郡ノ自由地帶ニ關スル見解ニ付佛蘭西國政府ハ第四百三十五條末項規定ノ趣旨ハ明瞭ニシテ誤解ノ餘地ナク殊ニ佛蘭西國及瑞西國以外ノ諸國カ該問題ニ將來利害關係ヲ有セサルヘキコトヲ暗示スルニ於テ然ルモノアルコトヲ言明スルノ光榮ヲ有ス

佛蘭西國政府ハ當該佛蘭西國領域ノ利益保護ヲ切望シ此等領域ノ特殊地位ニ鑑ミ前記ノ目的上此等領域ノ爲ニ適當ナル關稅制度ヲ確立シ且此等領域ト隣接瑞西國領域トノ兩地方ノ相互的利益ヲ斟酌シテ現時ノ狀態ニ一層適合スル樣交易ニ關スル制度ヲ決定スルノ望マシキコトニ留意ス

以上ハ佛蘭西國政治上ノ國境ニ從ヒ此ノ地方ニ於テ其ノ關稅線ヲ修正スヘキ佛蘭西國ノ權利ヲ何等妨ケサルヘキモノトス此ノ如キ修正ハ佛蘭西國ニ於テハ其ノ境界ノ他ノ部分ニ付之ヲ現行シ又瑞西國モ久シキ以前ニ此ノ地方ニ於ケル自國境界ニ付行ヒタル所ナリ

佛蘭西國政府ハ本問題ニ關シ瑞西國政府カ前記自由地帶ニ於ケル現行制度ニ代フヘキ制度ニ關スル佛蘭西國ノ何レノ提案ヲモ友好ノ態度ヲ以テ欣然考慮スヘキコトヲ茲ニ聲明シタルヲ本懷トシ佛蘭西國政府モ亦同樣友好ノ精神ヲ以テ右提案ヲ作成セムト欲ス

尚五月五日附瑞西國公使館ノ公文中ノ前記條項ニ記述シタル自由地帶ニ關スル千八百十五年ノ制度ノ一時的維持ハ現行制度ヨリ協定制度ニ至ル道程ニシテ之カ爲兩國政府ノ必要ト認メタル新地位ノ設定ヲ遲滯セシメサルヘキハ佛蘭西國政府ノ信シテ疑ハサル所ナリ以上ノ注意ハ五月五日附瑞西國公文第一項(イ)號『上「サヴォア」縣中立地帶』ナル標題ノ下ニ記載セラレタル聯邦議會ノ批准ニ亦之ヲ適用ス

第四百三十六條

締約國ハ千九百十八年七月十七日佛蘭西共和國政府及「モナコ」公殿下ノ署名シタル佛蘭西國及「モナコ」公國間ノ關係ヲ定ムル條約ヲ領承シタルコトヲ聲明シ且之ヲ記錄ニ留ム

第四百三十七條

締約國ハ反對ノ追加取極ナキ限リ本條約ノ設定スル委員會ノ議長カ可否同數ノ場合ニ於テ第二ノ表決權ヲ有スルコトニ同意ス

第四百三十八條

同盟及聯合國ニ屬シ又ハ本條約ニ依リ統治ヲ之ニ委任セラレタル地域ニ於テ獨逸ノ會社又ハ個人カ基督敎傳道會ヲ維持シタル場合ニ於テハ該同盟及聯合國ハ此等傳道會ノ財產(傳道事業支持ノ爲其ノ收益ヲ提供スル營利會社ノ財產ヲ含ム)ノ依然傳道ノ目的ニ使用セラルヘキコトヲ約ス右約定ノ實行ヲ確保スル爲同盟及聯合國政府ハ其ノ任命又ハ承認ニ係リ且前記財產ヲ所有スル傳道會ノ宗派ニ屬スル者ヨリ成ル管財委員會ニ右財產ヲ引渡スヘシ

同盟及聯合國政府ハ傳道ニ從事スル各個人ニ對シ完全ナル監督權ヲ保有スルト同時ニ該傳道會ノ利益ヲ保護スヘシ

獨逸國ハ右約定ニ鑑ミ前記傳道會又ハ營利會社ノ事業遂行ニ關シ關係同盟及聯合國政府ノ爲シ又ハ爲スヘキ一切ノ協定ヲ受諾スルコトヲ約シ且前記傳道會又ハ營利會社ノ爲一切ノ請求權ヲ拋棄ス

第四百三十九條

本條約ノ規定ニ依ルノ外獨逸國ハ本條約ノ署名國タル同盟國又ハ聯合國(宣戰セスシテ獨逸帝國トノ外交關係ヲ斷絕シタル國ヲ含ム)ニ對シ本條約實施前ノ事件ニ基ク金錢上ノ請求權ヲ直接又ハ間接ニ提出セサルコトヲ約ス

此ノ種一切ノ請求權ハ本條約ノ規定ニ依リ完全且決定的ニ除却セラレタルモノナルニ付其ノ利害關係人ノ何人タルヲ問ハス爾後消滅スヘシ

第四百四十條

獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國ノ捕獲審檢所ノ決定シタル獨逸船舶及貨物ニ關スル一切ノ判決及命令竝訴訟費用ノ支拂ニ關スル一切ノ判決及命令カ有效ニシテ且拘束力アルコトヲ認諾ス獨逸國ハ又自國民ノ爲ニ前記判決又ハ命令ヨリ生スル請求權ヲ提出セサルコトヲ約ス

同盟及聯合國ハ獨逸國捕獲審檢所ノ一切ノ判決及命令ニシテ自國民又ハ中立國國民ノ財產權ニ關係アルモノハ其ノ自ラ決定スル方法ニ依リ之ヲ審査スルノ權利ヲ留保ス獨逸國ハ事件ノ一件記錄ヲ構成スル一切ノ文書(判決及命令ヲ含ム)ノ謄本ヲ提供スルコト竝該事件ノ審査後與フヘキ勸告ヲ承諾シ且之ヲ實行スルコトヲ約ス

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ批准ヲ要ス

批准書ノ寄託ハ成ルヘク速ニ巴里ニ於テ之ヲ爲スヘシ

政府カ歐羅巴以外ノ地ニ在ル國ハ巴里ニ於ケル自國ノ外交代表者ニ由リ佛蘭西共和國政府ニ對シ單ニ其ノ批准濟ノ旨ヲ通報スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ成ルヘク速ニ批准書ヲ送付スルコトヲ要ス

批准書寄託ノ第一回調書ハ一方ニ於テ獨逸國、他ノ一方ニ於テ主タル同盟及聯合國中ノ三國カ本條約ヲ批准シタル後直ニ之ヲ作成スヘシ

本條約ハ之ヲ批准シタル締約國間ニ於テハ前記第一回調書ノ日ヨリ之ヲ實施ス本條約ニ規定スル期間ノ算定ニ付テハ總テ此ノ日ヲ以テ本條約實施ノ日トス

他ノ一切ノ關係ニ於テハ本條約ハ各締約國ノ批准書寄託ノ日ヨリ該國ニ對シ之ヲ實施ス

佛蘭西國政府ハ批准書寄託調書ノ認證謄本ヲ各署名國ニ送付スヘシ

右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名ス

千九百十九年六月二十八日「ヴェルサイユ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ佛蘭西共和國ノ記錄ニ寄託保存ス本書ノ認證謄本ハ之ヲ各署名國ニ交付スヘシ

ウードロー、ウィルソン　(印)
ロバート、ランシング　(印)
ヘンリー、ホワイト　(印)
イー、エム、ハウス　(印)
タスカー、エッチ、ブリス　(印)
ディー、ロイド、ジョージ　(印)
エー、ボナ、ロー　(印)
ミルナー　(印)
アーサー、ジェームス、バルフォア　(印)
ジョージ、エヌ、バーンス　(印)
チャールス、ジェー、ドハティー　(印)
アーサー、エル、シフトン　(印)
ダブリュー、エム、ヒユース　(印)
ジョーセフ、クック　(印)
ルイ、ボータ　(印)
ジェー、クリスチアーン、スマッツ　(印)
ダブリュー、エフ、マッセー　(印)
エドウィン、エス、モンタギュー　(印)
ビカネール王ガンガ、シン　(印)
ジェー、クレマンソー　(印)
エス、ピション　(印)
エル、エル、クロッツ　(印)
アンドレ、タルデュー　(印)
ジュール、カムボン　(印)
シドニー、ソンニノ　(印)
イムペリアリ　(印)
シルヴィオ、クレスピ　(印)
西園寺公望　(印)
牧野伸顯　(印)
珍田捨巳　(印)
松井慶四郎　(印)
伊集院彥吉　(印)
イーマンス　(印)
ジェー、ヴァン、デン、ユーヴェル　(印)
エミル、ヴァンデルヴェルド　(印)
イスマエル、モンテス　(印)
カロジェラス　(印)
ロドリゴ、オクタヴィオ　(印)
アントニオ、エス、デ、ブスタマンテ　(印)
エー、ドルン、イ、デ、アルスーア　(印)
エレフテリオス、ヴェニセロス　(印)
ニコラス、ポリティス　(印)
ホアキン、メンデス　(印)

テルテュリアン、ギルボー (印)
エム、ルステム、ヘイダール (印)
アブダル、ハディ、アウーニ (印)
ベー、ボニーヤ (印)
シー、ディー、ピー、キング (印)
サルヴァドル、チアモーロ (印)
アントニオ、アルゴス (印)
セー、ゲー、カンダモ (印)
イー、ジェー、パデレフスキー (印)
ロマン、ドゥモフスキー (印)
アフォンソ、コスタ (印)
アウグスト、ソアレス (印)
イオン、ヨタ、カパ、プラティアノ (印)
陸軍大將カパ、コアンダ (印)
ニコラス、ピー、パチッチ (印)
ドクトル、アント、トルンビック (印)
ミレンコ、ロー、ヴェスニッチ (印)
シァルーン (印)
トライドス、プラパンドゥ (印)
カーレル、クラマール (印)
ドクトル、エドゥアルド、ベネシュ (印)
ホタ、ア、ブエロ (印)
ヘルマン、ミュルレル (印)
ドクトル、ベル (印)

（地圖略ス）

議定書

本日附ヲ以テ署名ノ條約中或條項ノ履行條件ヲ明確ナラシムル爲締約國ハ左ノ通約定ス

一　主タル同盟及聯合國ハ平和條約ニ基ク「ヘリゴランド」築城ノ破壞ヲ監視セシムル爲委員會ヲ任命ス該委員會ハ防波護岸工作物中何レノ部分ヲ保存シ何レノ部分ヲ破壞スヘキカヲ決定スルノ權ヲ有ス

二　獨逸國カ第百五十六條第二項ニ掲クル鐵道及鑛山ニ付獨逸國民ノ有スルコトアルヘキ利益ニ對スル補償トシテ之ニ支拂フヘキ金額ハ賠償ノ名義ノ下ニ獨逸國ノ負擔スル金額ト相殺スル爲同國ノ貸方ニ之ヲ記入ス

三　獨逸國カ第二百二十八條第二項ニ依リ同盟及聯合國ニ引渡ヲ要スル人員ノ名簿ハ平和條約實施後一月以內ニ之ヲ獨逸國政府ニ送付スヘシ

四　第二百四十條竝第四附屬書中ノ二乃至四ニ掲クル賠償委員會ハ製造上ノ祕密及他ノ祕密事項ノ公示ヲ求ムルコトヲ得ス

五　平和條約署名後直ニ且四月以內ニ獨逸國ハ賠償ニ關スル事務ノ進捗ニ資シ以テ調査ノ簡捷及決定ノ迅速ヲ期スル爲書類及提案ヲ同盟及聯合國ノ審査ニ付スルコトヲ得

六　獨逸財産ノ淸算ニ關シ犯罪行爲ヲ爲ス者ハ之ヲ訴追スヘシ同盟及聯合國ハ右犯罪行爲ニ關シ獨逸國政府ノ提供シ得ヘキ資料及證據ヲ受領スヘシ

千九百十九年六月二十八日「ヴェルサイユ」ニ於テ本書ヲ作成ス

ウードロー、ウィルソン
ロバート、ランシング
ヘンリー、ホワイト
イー、エム、ハウス
タスカー、エッチ、ブリス
ディー、ロイド、ジョージ
エー、ボナ、ロー
ミルナー
アーサー、ジェームス、バルフォア
ジョージ、エヌ、バーンス
チャールス、ジェー、ドハティー
アーサー、エル、シフトン
ダブリュー、エム、ヒュース
ジョーセフ、クック
ルイ、ボータ
ジェー、シー、スマッツ
ダブリュー、エフ、マッセー
エドウィン、エス、モンタギュー
ビカネール王ガンガ、シン
ジェー、クレマンソー
エス、ピション
エル、エル、クロッツ
アンドレ、タルデュー
ジュール、カムボン
シドニー、ソンニノ
イムペリアリ
シルヴィオ、クレスピ
西園寺公望
牧野伸顯
珍田捨巳
松井慶四郎
伊集院彦吉
イーマンス
ジェー、ヴァン、デン、ユーヴェル
エミル、ヴァンデルヴェルド
イスマエル、モンテス
カロジェラス
ロドリゴ、オクタヴィオ
アントニオ、エス、デ、ブスタマンテ
エー、ドルン、イ、デ、アルスーア
エレフテリオス、ヴェニセロス
ニコラス、ポリティス
オアキン、メンデス
テルテュリアン、ギルボー
エム、ルステム、ヘイダール
アブダル、ハディ、アウーニ
ベー、ボニーヤ
シー、ディー、ピー、キング
サルヴァドル、チアモーロ
アントニオ、アルゴス
セー、ゲー、カンダモ
イー、ジェー、パデレフスキー
ロマン、ドゥモフスキー
アフォンソ、コスタ
アウグスト、ソアレス
イオン、ヨタ、カパ、プラティアノ
陸軍大將カパ、コアンダ
ニコラス、ピー、パチッチ
ドクトル、アント、トルンビック
ミレンコ、ロー、ヴェスニッチ
シァルーン
トライドス、プラパンドゥ
カーレル、クラマール
ドクトル、エドゥアルド、ベネシュ
ホタ、ア、ブエロ
ヘルマン、ミュルレル
ドクトル、ベル

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕大正八年六月二十八日佛蘭西國「ヴェルサイユ」ニ於テ帝國全權委員ノ同盟及聯合國全權委員竝獨逸國全權委員ト共ニ署名調印シタル平和條約及附屬議定書ヲ閲覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千五百七十九年大正八年十一月七日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣　子爵內田康哉

（備考）

同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約

目次

前文
第一編　國際聯盟規約
國際聯盟規約（第一條乃至第二十六條）
附屬書
第二編　獨逸國ノ境界
獨逸國ノ境界（第二十七條乃至第三十條）
第三編　歐洲政治條項
第一款　白耳義國（第三十一條乃至第三十九條）
第二款　盧森堡國（第四十條乃至第四十一條）
第三款　萊因河左岸（第四十二條乃至第四十四條）
第四款　「ザール」河流域（第四十五條乃至第五十條）
附屬書
第一章　鑛山ノ讓渡及採掘（一乃至十五）
第二章　「ザール」河流域地方ノ施政（十六乃至三十三）
第三章　人民一般投票（三十四乃至四十）
第五款　「アルザス、ロレーヌ」（第五十一條乃至第七十九條）
附屬書（一乃至四）

第六款　墺地利國（第八十條）
第七款　「チェッコ、スロヴァキア」國（第八十一條乃至第八十六條）
第八款　波蘭國（第八十七條乃至第九十三條）
第九款　東普魯西（第九十四條乃至第九十八條）
附屬書（一乃至六）
第十款　「メーメル」（第九十九條）
第十一款　「ダンチッヒ」自由市（第百條乃至第百八條）
第十二款　「シュレスウィヒ」（第百九條乃至第百十四條）
第十三款　「ヘリゴランド」（第百十五條）
第十四款　露西亞及露西亞諸國（第百十六條及第百十七條）
第四編　獨逸國外ニ於ケル獨逸國ノ權利及利益（第百十八條）
第一款　獨逸國殖民地（第百十九條乃至第百二十七條）
第二款　支那國（第百二十八條乃至第百三十四條）
第三款　暹羅國（第百三十五條乃至第百三十七條）
第四款　「リベリア」國（第百三十八條乃至第百四十條）
第五款　摩洛哥國（第百四十一條乃至第百四十六條）
第六款　埃及國（第百四十七條乃至第百五十四條）
第七款　土耳其國及勃爾牙利國（第百五十五條）
第八款　山東（第百五十六條乃至第百五十八條）
第五編　陸軍海軍及航空條項
第一款　陸軍條項
第一章　獨逸國陸軍ノ兵力及幹部（第百五十九條乃至第百六十三條）
第二章　兵器、彈藥及材料（第百六十四條乃至第百七十二條）
第三章　募兵及軍事教育（第百七十三條乃至第百七十九條）
第四章　築城（第百八十條）
第一附屬表　軍團司令部、步兵師團及騎兵師團ノ編制
第二附屬表　步兵師團七、騎兵師團三及軍團司令部二ニ對スル兵器最大限數表
第三附屬表　承認最大貯藏量表
第二款　海軍條項（第百八十一條乃至第百九十七條）
第三款　航空條項（第百九十八條乃至第二百二條）
第四款　同盟國國際監督委員會（第二百三條乃至第二百十條）
第五款　一般規定（第二百十一條乃至第二百十三條）
第六編　俘虜及墳墓
第一款　俘虜（第二百十四條乃至第二百二十四條）
第二款　墳墓（第二百二十五條及第二百二十六條）
第七編　制裁
制裁（第二百二十七條乃至第二百三十條）
第八編　賠償
第一款　一般規定（第二百三十一條乃至第二百四十四條）
第一附屬書
第二附屬書（一乃至二十三）
第三附屬書（一乃至九）
第四附屬書（一乃至七）
第五附屬書（一乃至十）
第六附屬書（一乃至五）
第七附屬書
第二款　特別規定（第二百四十五條乃至第二百四十七條）
第九編　財政條項
財政條項（第二百四十八條乃至第二百六十三條）
第十編　經濟條項
第一款　通商關係
第一章　稅關規則、稅金及制限（第二百六十四條乃至第二百七十條）
第二章　海運（第二百七十一條乃至第二百七十三條）
第三章　不正競爭（第二百七十四條及第二百七十五條）
第四章　同盟及聯合國ノ國民ノ待遇（第二百七十六條乃至第二百七十九條）
第五章　一般規定（第二百八十條及第二百八十一條）
第二款　條約（第二百八十二條乃至第二百九十五條）
第三款　金錢債務（第二百九十六條）
附屬書（一乃至二十五）
第四款　財產、權利及利益（第二百九十七條及第二百九十八條）
附屬書（一乃至十五）
第五款　契約、時效、判決（第二百九十九條乃至第三百三條）
附屬書
第一　一般規定（一乃至三）
第二　特種ノ契約ニ關スル規定（四乃至七）
第三　保險契約（八乃至二十四）
第六款　混合仲裁裁判所（第三百四條及第三百五條）
附屬書（一乃至九）
第七款　工業所有權（第三百六條乃至第三百十一條）
第八款　讓渡地域內ニ於ケル社會保險及官營保險（第三百十二條）
第十一編　航空
航空（第三百十三條乃至第三百二十條）
第十二編　港、水路及鐵道
第一款　總則（第三百二十一條乃至第三百二十六條）
第二款　航行
第一章　航行ノ自由（第三百二十七條）
第二章　港內自由地域（第三百二十八條乃至第三百三十條）
第三章　「エルベ」河、「オーデル」河、「ニーメン」河（「ルス」河—「メーメル」河—「ニーメン」河）及「ダニューヴ」河ニ關スル條項
一　一般條項（第三百三十一條乃至第三百三十九條）
二　「エルベ」河、「オーデル」河及「ニーメン」河（「ルス」河—「メーメル」河—「ニーメン」河）ニ關スル特別條項（第三百四十條乃至第三百四十五條）
三　「ダニューブ」河ニ關スル特別條項（第三百四十六條乃至第三百五十三條）
第四章　萊因河及「モーセル」河ニ關スル條項（第三百五十四條乃至第三百六十二條）
第五章　「チェッコ、スロヴァキア」國ノ北部諸港使用ニ關スル條項（第三百六十三條及第三百六十四條）
第三款　鐵道
第一章　國際運送ニ關スル條項（第三百六十五條乃至第三百六十九條）
第二章　車輛（第三百七十條）
第三章　鐵道線路ノ讓渡（第三百七十一條）
第四章　特定ノ鐵道線ニ關スル條項（第三百七十二條乃至第三百七十四條）
第五章　經過規定（第三百七十五條）
第四款　紛爭及永久條項ノ改正（第三百七十六條乃至第三百七十八條）
第五款　特別規定（第三百七十九條）
第六款　「キール」運河ニ關スル條項（第三百八十條乃至第三百八十六條）
第十三編　勞働
第一款　勞働機關

第一章　機關（第三百八十七條乃至第三百九十九條）
第二章　手續（第四百條乃至第四百二十條）
第三章　一般規定（第四百二十一條乃至第四百二十三條）
第四章　經過規定（第四百二十四條乃至第四百二十六條）
附屬書
第二款　一般原則（第四百二十七條）
第十四編　保障
第一款　西歐羅巴（第四百二十八條乃至第四百三十二條）
第二款　東歐羅巴（第四百三十三條）
第十五編　雜則
雜則（第四百三十四條乃至第四百四十條）
附屬書（第一及第二）
末文

（大正九年一月十日外務省告示第二號）

大正八年十二月二十六日在佛松井大使ハ大正八年六月二十八日調印ノ對獨平和條約及附屬議定書御批准濟ノ旨チ佛蘭西國政府ニ通報シ又大正九年一月十日同大使ハ英帝國、佛蘭西國、伊太利國、白耳義國、「ボリヴィア」國、伯剌西爾國、「グアテマラ」國、秘露國、波蘭國、暹羅國、「チェッコ、スロヴァキア」國、「ウルグァイ」國及獨逸國ノ代表者ト共ニ巴里ニ於テ同條約及同附屬議定書ノ第一回批准書寄託調書チ作成シタリ

（大正九年三月三十一日外務省告示第十七號）

大正九年三月十九日在佛松井大使ハ同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約末文第三項後段ノ規定ニ基キ同條約及附屬議定書並波蘭國ニ關スル條約ノ御批准書チ佛蘭西共和國政府ニ寄託シタル旨今般同大使ヨリ通報アリタリ

●國際聯盟規約第四條改正議定書

（大正十五年九月六日條約第二號）

朕樞密顧問ノ諮詢チ經テ大正十年十月五日瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ第二回國際聯盟總會帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル國際聯盟規約第四條改正議定書チ批准シ玆ニ之チ公布セシム（總理、外務大臣副署）

聯盟規約第四條改正議定書

第二回國際聯盟總會ハ「ヨンクヘール」、ハー、アー、ヴァン、カルネベーク」議長ノ下ニ事務總長「サー、イーリック、ドラモンド」之チ補佐シ千九百二十一年十月五日ノ會議ニ於テ聯盟規約第四條ノ改正タル左ノ決議チ採擇シタリ

第四條ノ第二項ト第三項トノ間ニ左ノ一項チ加フ

聯盟總會ハ聯盟理事會非常任代表國ノ選擧ニ關スル規則特ニ其ノ任期及再選ノ條件ニ關スル規則チ三分ノ二ノ多數ニ依リ定ムヘシ

正當ノ委任チ受ケタル下名ハ其ノ代表スル聯盟國ノ名ニ於テ右改正チ受諾スルコトチ聲明ス

聯盟國ハ何時ニテモ本議定書ニ署名スルコトチ得本議定書ハ批准チ要ス批准書ハ成ルヘク速ニ聯盟事務局ニ寄託セラルヘシ

本議定書ハ聯盟規約第二十六條ノ規定ニ依リ其ノ效力チ生スルモノトス

本議定書ノ認證謄本ハ事務總長聯盟各國ニ之チ送付スヘシ

千九百二十一年十月五日「ジュネーヴ」ニ於テ本書一通チ作成シ佛蘭西語及英吉利語ノ本文チ以テ共ニ正文トス本書ハ聯盟事務局ノ記錄ニ之チ保存スヘシ

第二回聯盟總會議長
ヴァン、カルネベーク
事務總長
イーリック、ドラモンド
（南阿弗利加）
イー、エッチ、ウォルトン
（「アルバニア」國）
エフ、エス、ノリ
（支那國）
顧維鈞
（哥倫比亞國）
後日ノ立法上ノ同意チ留保ス
フランシスコ、ホセ、ウルーティア
アー、ホタ、レストレポ
（「コスタ、リカ」國）
マヌエル、エメ、デ、ペラルタ
（丁抹國）
ヘルルーフ、ザーレ
（「エストニア」國）
アント、ピープ
（佛蘭西國）
レオン、ブルジョア
（伊太利國）
ヴィットリオ、ジアローヤ
（日本國）
林權助
（「ラトヴィア」國）
ヴェー、サルナイス
（「リスアニア」國）
ガルヴァナウスカス
（諾威國）
ミカエル、ハー、リー
（和蘭國）
アー、ストロイケン
（波斯國）
公爵アルファ・エド・ドウレー
エミール、ヅカ・エド・ドウレー
（波蘭國）
オルシォフスキー

天佑チ保有シ萬世一系ノ帝祚チ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書チ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國全權委員カ大正十年瑞西國「ジュネーヴ」ニ開催セラレタル國際聯盟總會第二回會議ニ於テ國際聯盟國ノ全權委員ト共ニ決議シ同年十月五日右帝國全權委員ノ署名調印シタル國際聯盟規約第四條改正議定書チ閲覽點檢シ之チ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十三年大正十二年三月八日沼津ニ於テ親ラ名チ署シ璽チ鈐セシム

御名國璽
攝政名
外務大臣　伯爵　内田康哉

（大正十五年九月六日外務省告示第五十五號）

大正十年十月五日瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ第二回國際聯盟總會帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル國際聯盟規約第四條改正議定書ハ本年七月二十九日西班牙國ノ批准寄託チ以テ聯盟理事會チ構成スル代表者チ出ス聯盟各國及聯盟總會チ構成スル代表者チ出ス過半數聯盟國ノ批准チ了シタルニ依リ聯盟規約第二十六條ノ規定ニ基キ同日ヨリ其ノ效力チ發生セル旨在巴里杉村國際聯盟帝國事務局長ヨリ通報アリタリ右改正議定書ノ批准チ了セル國名左ノ如シ

國名	批准書チ聯盟事務局ニ寄託シタル日
南阿弗利加聯邦	大正十二年二月三日
「アルバニア」國	大正十三年一月三日
「オーストラリア」	大正十二年二月三日
白耳義國	大正十二年九月二十八日
「ブラジル」國	大正十二年七月七日
英帝國	大正十二年二月三日
「ブルガリア」國	大正十一年十月四日
「カナダ」	大正十二年二月三日
支那國	大正十二年七月四日
「キューバ」國	大正十二年五月七日
「チェッコスロヴァキア」國	大正十二年九月一日
丁抹國	大正十一年八月十一日
「エストニア」國	大正十二年九月七日
「フィンランド」國	大正十二年六月二十七日
佛蘭西國	大正十五年五月十九日
希臘國	大正十二年四月九日
「ハイティ」國	大正十四年十一月二日
「ハンガリー」國	大正十二年六月二十二日
印度	大正十二年二月三日
伊太利國	大正十一年八月五日
日本國	大正十二年六月十三日
「ラトヴィア」國	大正十三年二月十二日
「リベリア」國	大正十三年五月一日
「リスアニア」國	大正十四年三月十三日
和蘭國	大正十二年四月四日
「ニュー、ジーランド」	大正十二年二月三日
諾威國	大正十一年三月二十九日
「ポーランド」國	大正十一年十二月十五日
「ポルトガル」國	大正十二年十月五日
「ルーマニア」國	大正十二年九月五日
「サルヴァドル」國	大正十三年九月三日
暹羅國	大正十一年十二月四日
西班牙國	大正十五年七月二十九日
瑞典國	大正十一年八月二十四日
瑞西國	大正十二年三月二十九日
「ウルグァイ」國	大正十三年一月十二日
「ヴェネズエラ」國	大正十四年三月二十四日

●國際聯盟規約第六條改正議定書

（大正十三年十一月八日條約第十三號）

朕樞密顧問ノ諮詢チ經テ大正十年十月五日瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ第二回國際聯盟總會帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル國際聯盟規約第六條改正議定書チ批准シ玆ニ之チ公布セシム（總理、外務大臣副署）

聯盟規約第六條改正議定書

第二回國際聯盟總會ハ「ヨンクヘール」、ハー、アー、ヴァン、カルネベーク」議長ノ下ニ事務總長「サー、イーリック、ドラモンド」之チ補佐シ千九百二十一年十月五日ノ會議ニ於テ聯盟規約第六條ノ改正タル左ノ決議チ採擇シタリ

聯盟規約第六條末項チ左ノ通改ム

聯盟ノ經費ハ聯盟總會ノ決定スル割合ニ從ヒ聯盟國之チ負擔ス

正當ノ委任チ受ケタル下名ハ其ノ代表スル聯盟國ノ名ニ於テ右改正チ受諾スルコトチ聲明ス

聯盟國ハ何時ニテモ本議定書ニ署名スルコトチ得本議定書ハ批准チ要ス批准書ハ成ルヘク速ニ聯盟事務局ニ寄託セラルヘシ

本議定書ハ聯盟規約第二十六條ノ規定ニ依リ其ノ效力チ生スルモノトス

本議定書ノ認證謄本ハ事務總長聯盟各國ニ之チ送付スヘシ

千九百二十一年十月五日「ジュネーヴ」ニ於テ本書一通チ作成シ佛蘭西語及英吉利語ノ本文チ以テ共ニ正文トス本書ハ聯盟事務局ノ記錄ニ之チ保存スヘシ

第二回聯盟總會議長
ヴァン、カルネベーク
事務總長
イーリック、ドラモンド
（南阿弗利加）
イー、エッチ、ウォルトン
（「アルバニア」國）
エフ、エス、ノリ
（支那國）
顧維鈞
（哥倫比亞國）
アー、ホタ、レストレポ
（丁抹國）
ヘルルーフ、ザーレ
（「エストニア」國）
アント、ピープ
（佛蘭西國）
レオン、ブルジョア
（伊太利國）
ヴィットリオ、ジアローヤ
（日本國）
林權助
（「ラトヴィア」國）
ヴェー、サルナイス
（「リスアニア」國）
ガルヴァナウスカス
（諾威國）
ミカエル、ハー、リー
（和蘭國）
アー、ストロイケン
（波斯國）
公爵アルファ・エド・ドウレー
エミール・ヅカ・エド・ドウレー
（波蘭國）
オルシォフスキー
（暹羅國）
シァルーン

天佑チ保有シ萬世一系ノ帝祚チ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書チ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國全權委員カ大正十年瑞西國「ジュネーヴ」ニ開催セラレタル國際聯盟總會第二回會議ニ於テ國際聯盟國ノ全權委員ト共ニ決議シ同年十月五日右帝國全權委員ノ署名調印シタル國際聯盟規約第六條改正議定書チ閲覽點檢シ之チ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十二年大正十一年十二月二十六日沼津ニ於テ親ラ名チ署シ璽チ鈐セシム

御名國璽
攝政名
外務大臣　伯爵　内田康哉

（大正十三年十一月八日外務省告示第七十四號）

大正十年十月五日瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ第二回國際聯盟總會帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル國際聯盟規約第六條改正議定書ハ本年八月十三日伯剌西爾國ノ批准寄託チ以テ聯盟理事會チ構成スル代表者チ出ス聯盟各國及聯盟總會チ構成スル代表者チ出ス過半數聯盟國ノ批准チ了シタルニ依リ聯盟規約第二十六條ノ規定ニ基キ同日ヨリ其ノ效力チ發生セル旨第五回國際聯盟總會帝國全權ヨリ通報アリタリ右改正議定書ノ批准チ了セル國名左ノ通

國名	批准書チ聯盟事務局ニ寄託シタル日
諾威國	大正十一年三月二十九日
丁抹國	大正十一年八月十一日
瑞典國	大正十一年八月二十四日
暹羅國	大正十一年九月十二日
勃爾牙利國	大正十一年十月四日
英帝國	大正十一年十一月二十三日
加奈陀	右ニ同シ
濠太利	右ニ同シ
南阿弗利加	右ニ同シ
新西蘭	右ニ同シ
印度	右ニ同シ
波蘭國	大正十一年十二月十五日
瑞西國	大正十二年三月二十九日
和蘭國	大正十二年四月四日
希臘國	大正十二年四月九日
日本國	大正十二年六月十三日
洪牙利國	大正十二年六月二十二日
芬蘭國	大正十二年六月二十七日
支那國	大正十二年七月四日
佛蘭西國	大正十二年八月二日
「チェッコ、スロヴァキア」國	大正十二年九月一日
羅馬尼亞國	大正十二年九月五日
「エストニア」國	大正十二年九月七日
白耳義國	大正十二年九月二十八日
葡萄牙國	大正十二年十月五日
「ラトヴィア」國	大正十二年十二月二十九日
「アルバニア」國	大正十三年一月三日
「ウルグァイ」國	大正十三年一月十二日
西班牙國	大正十三年一月三十一日
「リベリア」國	大正十三年五月一日
伊太利國	大正十三年六月十一日
伯剌西爾國	大正十三年八月十三日

●國際聯盟規約第十二條改正議定書

（大正十三年十一月八日條約第十四號）

朕樞密顧問ノ諮詢チ經テ大正十年十月五日瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ第二回國際聯盟總會帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル國際聯盟規約第十二條改正議定書チ批准シ玆ニ之チ公布セシム（總理、外務大臣副署）

聯盟規約第十二條改正議定書

第二回國際聯盟總會ハ「ヨンクヘール」、ハー、アー、ヴァン、カルネベーク」議長ノ下ニ事務

總長「サー、イーリック、ドラモンド」之ヲ補佐シ千九百二十一年十月四日ノ會議ニ於テ聯盟規約第十二條ノ改正タル左ノ決議ヲ採擇シタリ

第十二條ヲ左ノ通改ム

聯盟國ハ聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛爭發生スルトキハ當該事件ヲ仲裁裁判若ハ司法的解決又ハ聯盟理事會ノ審査ニ付スヘク且仲裁裁判官ノ判決若ハ司法裁判ノ判決後又ハ聯盟理事會ノ報告後三月ヲ經過スル迄如何ナル場合ニ於テモ戰爭ニ訴ヘサルコトヲ約ス

本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ仲裁裁判官ノ判決又ハ司法裁判ノ判決ハ相當期間内ニ、聯盟理事會ノ報告ハ紛爭事件付託後六月以内ニ之ヲ爲スヘシ

正當ノ委任ヲ受ケタル下名ハ其ノ代表スル聯盟國ノ名ニ於テ右改正ヲ受諾スルコトヲ聲明ス

聯盟國ハ何時ニテモ本議定書ニ署名スルコトヲ得本議定書ハ批准ヲ要ス批准書ハ成ルヘク速ニ聯盟事務局ニ寄託セラルヘシ

本議定書ハ聯盟規約第二十六條ノ規定ニ依リ其效力ヲ生スルモノトス

本議定書ノ認證謄本ハ事務總長聯盟各國ニ之ヲ送付スヘシ

千九百二十一年十月五日「ジュネーヴ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス本書ハ聯盟事務局ノ記録ニ之ヲ保存スヘシ

第二回聯盟總會議長
ヴァン、カルネベーク
事務總長
イーリック、ドラモンド
（支那國）
顧維鈞
（哥倫比亞國）
後日ノ立法上ノ同意ヲ留保ス
フランシスコ、ホセ、ウルーティア、アー、ホタ、レストレポ
（丁抹國）
ヘルルーフ、ザーレ
（佛蘭西國）
レオン、ブルジョア
（伊太利國）
イムペリアリ
（日本國）
林　權助
（暹羅國）
シアルーン

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國全權委員カ大正十年瑞西國「ジュネーヴ」ニ開催セラレタル國際聯盟總會第二回會議ニ於テ國際聯盟國ノ全權委員ト共ニ決議シ同年十月五日右帝國全權委員ノ署名調印シタル國際聯盟規約第十二條改正議定書ヲ閲覽點検シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十二年大正十一年十二月二十六日沼津ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽
攝政名
外務大臣　伯爵　内田　康哉

大正十三年十一月二十八日
外務省告示第七十八號

大正十年十月五日瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ第二回國際聯盟總會帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル國際聯盟規約第十二條、第十三條及第十五條改正議定書ハ本年九月二十六日ヲ以テ聯盟理事會ヲ構成スル代表者ヲ出ス聯盟各國及聯盟總會ヲ構成スル代表者ヲ出ス過半數聯盟國ノ批准寄託ヲ了シタルニ依リ聯盟規約第二十六條ノ規定ニ基キ同日ヨリ其ノ效力ヲ發生セル旨今般在巴里松田國際聯盟帝國事務局長ヨリ通報アリタリ右改定議定書ノ批准寄託ヲ了セル國名左記ノ通リ

諾威國	大正十一年三月二十九日
伊太利國	大正十一年八月五日
丁抹國	大正十一年八月十一日
瑞典國	大正十一年八月二十四日
暹羅國	大正十一年九月十二日
勃牙利國	大正十一年十月四日
波蘭國	大正十一年十二月十五日 十二條　十三、十五條
英帝國	大正十二年七月五日 大正十二年二月三日
加奈陀	大正十二年七月五日 大正十二年二月三日
濠太利	大正十二年七月五日 大正十二年二月三日
南阿弗利加	大正十二年七月五日 大正十二年二月三日
新西蘭	大正十二年七月五日 大正十二年二月三日
印度	大正十二年七月五日 大正十二年二月三日
瑞西國	大正十二年三月二十九日
和蘭國	大正十二年四月四日
玖馬國	大正十二年五月七日
日本國	大正十二年六月十三日
洪牙利國	大正十二年六月二十二日
芬蘭國	大正十二年六月二十五日
支那國	大正十二年七月四日
伯剌西爾國	大正十二年七月七日
佛蘭西國	大正十二年八月二日
希臘國	大正十二年八月二十日
「チェッコ、スロヴァキア」國	大正十二年九月一日
羅馬尼亞國	大正十二年九月五日
「エストニア」國	大正十二年九月七日
白耳義國	大正十二年九月二十八日
葡萄牙國	大正十二年十月五日
「ウルグァイ」國	大正十三年一月十二日
「ラトヴィア」國	大正十三年二月十二日
西班牙國	大正十三年九月二十六日

●國際聯盟規約第十三條改正議定書

大正十三年十一月二十八日　條約第十五號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正十年十月五日瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ第二回國際聯盟總會帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル國際聯盟規約第十三條改正議定書ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

聯盟規約第十三條改正議定書

第二回國際聯盟總會ハ「ヨンクヘール、ハー、アー、ヴァン、カルネベーク」議長ノ下ニ事務總長「サー、イーリック、ドラモンド」之ヲ補佐シ千九百二十一年十月四日ノ會議ニ於テ聯盟規約第十三條ノ改正タル左ノ決議ヲ採擇シタリ

聯盟國ハ聯盟國間ニ仲裁裁判又ハ司法的解決ニ付シ得ト認ムル紛爭ヲ生シ其ノ紛爭カ外交手段ニ依リテ滿足ナル解決ヲ得ルコト能ハサルトキハ當該事件全部ヲ仲裁裁判又ハ司法的解決ニ付スヘキコトヲ約ス

條約ノ解釋、國際法上ノ問題、國際義務ノ違反ト爲ルヘキ事實ノ存否竝該違反ニ對スル賠償ノ範圍及性質ニ關スル紛爭ハ一般ニ仲裁裁判又ハ司法的解決ニ付シ得ル事項ニ屬スルモノナルコトヲ聲明ス

審理ノ爲紛爭事件ヲ付託スヘキ裁判所ハ第十四條ノ規定ニ依リ設立セラレタル常設國際司法裁判所又ハ當事國ノ合意ヲ以テ定メ若ハ當事國間ニ現存スル條約ノ規定ノ定ムル裁判所タルヘシ

聯盟國ハ一切ノ判決ヲ誠實ニ履行スヘク且判決ニ服スル聯盟國ニ對シテハ戰爭ニ訴ヘサルコトヲ約ス判決ヲ履行セサルモノアルトキハ聯盟理事會ハ其ノ履行ヲ期スル爲必要ナル處置ヲ提議スヘシ

正當ノ委任ヲ受ケタル下名ハ其ノ代表スル聯盟國ノ名ニ於テ右改正ヲ受諾スルコトヲ聲明ス

聯盟國ハ何時ニテモ本議定書ニ署名スルコトヲ得本議定書ハ批准ヲ要ス批准書ハ成ルヘク速ニ聯盟事務局ニ寄託セラルヘシ

本議定書ハ聯盟規約第二十六條ノ規定ニ依リ其ノ效力ヲ生スルモノトス

本議定書ノ認證謄本ハ事務總長聯盟各國ニ之ヲ送付スヘシ

千九百二十一年十月五日「ジュネーヴ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス本書ハ聯盟事務局ノ記録ニ之ヲ保存スヘシ

第二回聯盟總會議長
ヴァン、カルネベーク

事務總長
イーリック、ドラモンド
（南阿弗利加）
イー、エッチ、ウォルトン
（「アルバニア」國）
エフ、エス、ノリ
（支那國）
顧維鈞
（哥倫比亞國）
後日ノ立法上ノ同意ヲ留保ス
フランシスコ、ホセ、ウルーティア、アー、ホタ、レストレポ
（「コスタ、リカ」國）
マヌエル、エメ、デ、ペラルタ
（丁抹國）
ヘルルーフ、ザーレ
（「エストニア」國）
アント・ピープ
（佛蘭西國）
レオン、ブルジョア
（伊太利國）
ヴィットリオ・シアローヤ
（日本國）
林　權助
（「ラトヴィア」國）
ヴェー、サルナイス
（「リスアニア」國）
ガルヴァナウスカス
（諾威國）
ミカエル、ハー、リー
（和蘭國）
アー、ストロイケン
（波斯國）
公爵　アルファ・エド・ドウレー
エミール、ヅカ・エド・ドウレー
（波蘭國）
オルシオフスキー
（暹羅國）
シアルーン

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國全權委員カ大正十年瑞西國「ジュネーヴ」ニ開催セラレタル國際聯盟總會第二回會議ニ於テ國際聯盟國ノ全權委員ト共ニ決議シ同年十月五日右帝國全權委員ノ署名調印シタル國際聯盟規約第十三條改正議定書ヲ閲覽點検シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十二年大正十一年十二月二十六日沼津ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽
攝政名
外務大臣　伯爵　内田　康哉

●國際聯盟規約第十五條改正議定書

大正十三年十一月二十八日　條約第十六號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正十年十月五日瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ第二回國際聯盟總會帝國全權委員カ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル國際聯盟規約第十五條改正議定書ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

聯盟規約第十五條改正議定書

第二回國際聯盟總會ハ「ヨンクヘール、ハー、アー、ヴァン、カルネベーク」議長ノ下ニ事務總長「サー、イーリック、ドラモンド」之ヲ補佐シ千九百二十一年十月四日ノ會議ニ於テ聯盟規約第十五條ノ改正タル左ノ決議ヲ採擇シタリ

第十五條第一項ヲ左ノ通改ム

聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛爭發生シ第十三條ニ依ル仲裁裁判又ハ司法的解決ニ付セラレサルトキハ聯盟國ハ當該事件ヲ聯盟理事會ニ付託スヘキコトヲ約ス何レノ紛爭當事國モ紛爭ノ存在ヲ事務總長ニ通告シ以テ前記ノ付託ヲ爲スコトヲ得事務總長ハ之カ充分ナル取調及審理ニ必要ナル一切ノ準備ヲ爲スモノトス

正當ノ委任ヲ受ケタル下名ハ其ノ代表スル聯盟國ノ名ニ於テ右改正ヲ受諾スルコトヲ聲明ス

聯盟國ハ何時ニテモ本議定書ニ署名スルコトヲ得本議定書ハ批准ヲ要ス批准書ハ成ルヘク速ニ聯盟事務局ニ寄託セラルヘシ

本議定書ハ聯盟規約第二十六條ノ規定ニ依リ其ノ效力ヲ生スルモノトス

本議定書ノ認證謄本ハ事務總長聯盟各國ニ之ヲ送付スヘシ

千九百二十一年十月五日「ジュネーヴ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス本書ハ聯盟事務局ノ記録ニ之ヲ保存スヘシ

第二回聯盟總會議長
ヴァン、カルネベーク
事務總長
イーリック、ドラモンド
（支那國）
顧維鈞
（哥倫比亞國）
後日ノ立法上ノ同意ヲ留保ス
フランシスコ、ホセ、ウルーティア、アー、ホタ、レストレポ
（「コスタ、リカ」國）
マヌエル、エメ、デ、ペラルタ
（丁抹國）
ヘルルーフ、ザーレ
（佛蘭西國）
レオン、ブルジョア
（伊太利國）
イムペリアリ
（日本國）
林　權助
（暹羅國）
シアルーン

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國全權委員カ大正十年瑞西國「ジュネーヴ」ニ開催セラレタル國際聯盟總會第二回會議ニ於テ國際聯盟國ノ全權委員ト共ニ決議シ同年十月五日右帝國全權委員ノ署名調印シタル國際聯盟規約第十五條改正議定書ヲ閲覽點検シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十二年大正十一年十二月二十六日沼津ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽
攝政名
外務大臣　伯爵　内田　康哉

●對獨平和條約第八編（賠償）第二附屬書中改正決議

大正十年八月二十日　外務省告示第二十六號

同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約第八編（賠償）第二附屬書中改正ニ關シ帝國代表者ハ白耳義國、佛蘭西國、大不列顛國及伊太利國ノ各代表者ト共ニ本年五月五日倫敦ニ於テ左ノ決議ヲ爲シ帝國政府ハ之ヲ接受シタリ

正當ニ署名ノ權限ヲ有スル下名ハ左ノ通協定セリ

賠償委員會ニ代表セラル、政府タル白耳義國、佛蘭西國、大不列顛國、伊太利國及日本國ノ各政府ハ「ヴェルサイユ」條約第八編第二附屬書二十二ニ依リ右附屬書中下ニ掲クル諸項ヲ左ノ通修正スルコトヲ全會一致ヲ以テ決議ス

本決議ハ同條約署名國及賠償委員會ニ之ヲ通告スヘシ

平和條約第八編第二附屬書中改正

十二ノ二

(イ)第八編第二附屬書十二ノ(ハ)號ノ規定ニ拘ラス賠償委員會ハ同號(一)及(二)ニ依リ發行セラレタル又ハ發行セラルヘキ債券ニ付千九百二十一年五月一日ヨリ千九百二十六年五月一日ニ至ルノ間利率ヲ二分五厘ヨリ五分ニ引上ケ且千九百二十一年五月一日以後右債券ニ對スル減債基金ノ積立ヲ開始スルノ權限ヲ有ス但シ前記ノ利息ノ增加及減債基金ノ積立ノ爲ニ要スル追加額ハ債券ヲ以テ辨濟セラレサル債務ニ關シ第二附屬書十六ニ從ヒ千九百二十一年五月一日以後獨逸國ノ借方ニ計上セラルヘキ利息ノ率ヲ五分以下ニ減少スルコトニ依リ之ヲ塡補スヘキモノトス

(ハ)號ノ(一)及(二)ニ依リ既ニ發行セラレタル債券ノ交付ヲ賠償委員會ヨリ受クルト引換ニ千九百二十一年五月一日ヨリ五分ノ利息ノ外一分ノ減債基金ヲ附シタル新債券ヲ發行スルコトヲ獨逸國ニ要求スルノ權限ヲ同委員會ニ付與ス

(ハ)號ノ(一)及(二)ニ依リ發行セラレタル債券ト引換ニ發行セラルヘキ新債券ノ全部又ハ一部ニ對スル利息支拂及減債基金積立ノ開始期ヲ千九百二十一年五月一日ヨリ十一月一日迄延期スルノ權限ヲ賠償委員會ニ付與ス

白耳義國ノ債務ニ關シ條約第二百三十二條ニ規定シタル特別ノ債券發行ヲ一般ノ債券發行ニ合併スルノ權限ヲ賠償委員會ニ付與ス

債券ノ總額ヲ優先權ノ順位ノ異ル數種ニ分割スルノ權限ヲ賠償委員會ニ付與ス

(ロ)特定セラルヘキ收入及資産ヲ全債券又ハ個々ノ種類ノ債券ノ利拂及償還ニ充當スルコトヲ獨逸國ニ要求スルノ權限ヲ賠償委員會ニ付與ス

(ハ)特別ノ收入及資産ノ右充當ヲ十二ノ(ハ)號ニ依リ發行セラルヘキ債券ノ條件中ニ明記スルコトヲ要求スルノ權限ヲ賠償委員會ニ付與ス

右充當ヲ明記シタル債券ハ獨逸國ノ原賠償債務ヲ發生セシメタル諸政府以外ノ者ニ完全ニ讓渡サレタル場合ニ於テモ十二ノ(ニ)號ノ規定ニ拘ラス獨逸國ノ賠償債務ノ一部トシテ殘存スルモノト看做サルヘシ

(ニ)充當セラレタル收入ノ使用ヲ監督スルノ權限竝債券ノ利拂及償還ニ付負擔スル金額ノ支拂又ハ獨逸國ノ債務ニ關スル他ノ支拂ノ時期及方法ヲ定ムルノ權限ヲ賠償委員會カ第二附屬書ノ七ニ依リ任命スヘキ保障委員會ニ付與ス

獨逸國政府ニ依リ充當セラルヘキ收入ハ左ノ如シ

(一)獨逸國ノ一切ノ海陸關稅ノ收入及特ニ一切ノ輸出入稅ノ收入

(二)獨逸國ノ一切ノ輸出品ノ價格ニ對スル二割五分ノ賦金ノ收入但シ何レカノ同盟國ノ法律ニ依リ二割五分ヲ下ラサル賦金ヲ課セラル、輸出品ハ之ヲ除ク

(三)直接稅、間接稅又ハ他ノ財源ニシテ前記(一)及(二)ニ定メタル財源ノ追加又ハ之ニ代ルモノトシテ獨逸國政府ニ依リ提議セラレ且保障委員會ニ於テ承諾スルコトアルヘキモノ、收入

保障委員會ハ獨逸國ノ行政ニ干涉スルコトヲ得サルヘシ

(ホ)修正セラレタル十二ノ(ハ)號ニ從ヒ發行シタル債券ニ依リテ差當リ辨濟セラレサル債務ノ部分ニ關シ無利札債券ノ發行ヲ要求スルノ權限ヲ賠償委員會ニ付與ス獨逸國政府カ利息及減債基金ノ債務ヲ履行シ得ルコトヲ賠償委員會ニ於テ確認スルニ至リタルトキハ同委員會ノ定ムヘキ期日ヨリ前記債券ニ關シ利札ヲ發行スルコトヲ獨逸國政府ニ要求スヘシ減債基金ノ積立ハ右期日ヨリ之ヲ開始スヘシ

利札ヲ發行セサル債券ハ修正セラレタル第二附屬書十六ニ依リ利息ヲ借方ニ計上スル關係ニ於テハ債券ニ依リテ辨濟セラレサル債務ト看做サルヘシ

十九ノ第二項

獨逸國ハ何レカノ同盟國カ其ノ荒廢地回復ノ爲又ハ其ノ產業及經濟生活ヲ回復シ若ハ發達セシムル爲賠償委員會ノ事前ノ承認ヲ以テ要求スルコトアルヘキ物資又ハ勞力ヲ請求次第直ニ供給スヘシ右物資及勞力ノ價格ハ獨逸國ノ任命スル一名ノ評價人及當該國ノ任命スル一名ノ評價人之ヲ決定ス兩者ノ意見一致セサルトキハ賠償委員會ノ指名スル一名ノ審判人之ヲ決定スヘシ

千九百二十一年五月五日倫敦ニ於テ

ア、ー、ジァスパール
アリスティード、ブリアン
ディー、ロイド、ジョージ
チ、スフォルツァ
林　權助

●「ヴェルサイユ」條約第八編第二附屬書ノ修正議定書

（大正十四年三月五日外務省告示第二十九號）

倫敦協定（大正十四年三月五日外務省告示第二十八號）第四附屬書第一條ノ規定ニ基キ帝國政府代表者ハ白耳義國、佛蘭西國、大不列顚國、伊太利國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ各政府代表者ト共ニ大正十三年八月三十日倫敦ニ於テ左ノ如ク協定セリ

「ヴェルサイユ」條約第八編第二附屬書ヲ修正スル千九百二十四年八月三十日倫敦ニ於テ署名セラレタル議定書

署名ノ權限ヲ有スル下名ハ左ノ如ク協定セリ

賠償委員會ニ代表セラルル白耳義國、佛蘭西國、大不列顚國、伊太利國、日本國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ政府ハ「ヴェルサイユ」條約第八編（賠償）第二附屬書二十二ニ從ヒ行動シ左記ノ二ノ二及十六ノ二ヲ挿入スルコト及十七ヲ左記ノ如ク修正スルコトニ依リ該第二附屬書ヲ修正スルコトニ全會一致ヲ以テ決定セリ

二ノ二「千九百二十三年十一月三十日賠償委員會ニ依リ任命セラレタル第一專門委員會ヨリ千九百二十四年四月九日賠償委員會ニ提出セラレタル報告書ニ關スル問題ニ付賠償委員會カ議事ヲ爲ストキハ下記ノ規定ニ依リ任命セラルヘキ一名ノ亞米利加合衆國人ハ本附屬書二ニ依リ任命セラレタル場合ト同樣ニ議事ニ參與シ且表決ヲ爲スヘシ

右亞米利加合衆國人ハ本修正採用後三十日以內ニ賠償委員會ノ全會一致ノ投票ニ依リ任命セラルヘシ

賠償委員會カ全會一致ヲ得サル場合ニハ右任命ハ海牙ニ於ケル常設國際司法裁判所ノ當時ノ裁判所長ニ依リ行ハルヘシ

任命セラレタル者ノ任期ハ五年トシ再選ヲ妨ケス闕員ヲ生シタル場合ニハ後任者ノ任命ニ付右ト同一ノ手續ヲ適用スヘシ

亞米利加合衆國カ其ノ代表者ニ依リ賠償委員會ニ正式ニ代表セラルル場合ニハ本

規定ニ依リ任命セラレタル亞米利加合衆國人ノ任期ハ終了スヘク且亞米利加合衆國カ右ノ如ク正式ニ代表セラルル間ハ本規定ニ依ル新ナル任命ハ行ハレサルヘシ」

十六ノ二「千九百二十年一月十日實施セラレ次テ本附屬書二十二ニ依リ修正セラレタル本條約本編中ニ又ハ千九百二十四年四月九日附專門家計畫中ニ規定セラルル義務ノ何レカニ付獨逸國ノ不履行アリタルコトヲ宣言スヘキコトノ請求アリタル場合之ヲ決定スルハ賠償委員會ノ任務タルヘシ右請求ヲ受諾シ又ハ却下スル賠償委員會ノ決議カ多數決ヲ以テ爲サレタル場合ニハ表決ニ加ハリタル賠償委員會委員ハ該決議ノ日ヨリ八日以內ニ右決定ニ付仲裁委員會ニ上訴スルコトヲ得仲裁委員會ハ三名ノ公平ニシテ獨立ナル者ヨリ成リ其ノ決定ハ最終的ノモノトス仲裁委員會ノ委員ハ賠償委員會ノ全會一致ノ決定ニ依リ又ハ右全會一致ヲ得サルトキハ海牙ニ於ケル常設國際司法裁判所ノ當時ノ裁判所長ニ依リ五年ノ任期ヲ以テ任命セラルヘシ五年ノ任期終了シタルトキ又ハ右期間中ニ闕員ヲ生シタルトキハ第一回任命ノ場合ト同一ノ手續ヲ行フヘシ仲裁委員會ノ議長ハ亞米利加合衆國人タルヘシ」

十七「獨逸國ニ依ル不履行カ上記條件ニ依リ確認セラレタル場合ニハ委員會ハ速ニ之ヲ關係各國ニ通知シ且右不履行ノ爲執ルヘキ行動ニ付必要ト認ムル建議ヲ爲スコトヲ得」

本決定ハ「ヴェルサイユ」條約ノ署名國及賠償委員會ニ通知セラルヘシ

千九百二十四年八月三十日倫敦ニ於テ

男爵モンシュール
サントレール
エア、エー、クロー
トレッダ
林　權助
カザリロヴィッチ

●「ヴェルサイユ」條約第八編第二附屬書中修正議定書

（大正十四年三月三十日外務省告示第三十五號）

「ヴェルサイユ」條約第八編第二附屬書二十二ノ規定ニ基キ帝國政府代表者ハ佛蘭西國、「グレート、ブリテン」國、伊太利國、白耳義國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ各政府代表者ト共ニ大正十三年十一月二十二日巴里ニ於テ左ノ如ク協定セリ

「ヴェルサイユ」條約第八編第二附屬書十三ノ修正議定書

「ヴェルサイユ」條約第二百三十三條ニ依リ設立セラレタル賠償委員會ニ代表セラルル佛蘭西國、「グレート、ブリテン」國、伊太利國、日本國、白耳義國及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國ノ政府ハ

「ヴェルサイユ」條約第八編第二附屬書二十二即チ「本條約ノ規定ニ依ルノ外本附屬書ハ時々委員會ニ代表セラルル政府ノ一致ノ決定ヲ以テ之ヲ修正スルコトヲ得」ノ規定ヲ適用スルコトニ全會一致ヲ以テ決定シ正當ノ權限ヲ有スル下名ハ左ノ如ク協定セリ

一

「ヴェルサイユ」條約第八編（賠償）第二附屬書十三(ヘ)ニ左ノ字句ヲ追加スヘシ

「本編ノ解釋ニ付委員間ニ意見ノ相違アルトキハ委員ノ全會一致ノ同意ヲ以テ問題ヲ仲裁裁判ニ付スルコトヲ得、仲裁裁判者ハ一切ノ委員ノ全會一致ヲ以テ選定セラルルコトヲ要シ又右一致ナキ場合ニハ聯盟理事會之ヲ任命スルコトヲ要ス仲裁裁判者ノ裁定ハ一切ノ利害關係國ヲ拘束スヘシ」

二

從テ前記十三ノ本文ハ今後左ノ如クナルヘシ

「委員會ハ表決ニ關シ左ノ規則ヲ遵守スヘシ

委員會ノ決定ヲ爲スニ當リテハ表決權ヲ有スル各委員ノ表決、其ノ闕席ノ場合ニ於テハ其ノ副委員ノ表決ヲ記錄スヘシ表決ノ棄權ハ審議中ノ議案ニ反對スル表決トシテ之ヲ取扱フヘシ陪席委員ハ表決權ヲ有セス

左記ノ問題ニ關シテハ全會ノ一致ヲ要ス

(イ)同盟及聯合國中ノ一國ノ主權ニ關スル問題又ハ獨逸國ノ金錢債務若ハ債務ノ全部若ハ一部ノ免除ニ關スル問題

(ロ)獨逸國政府ノ發行スヘキ債券其ノ他ノ債務證書ノ金額及條件ヲ定ムル問題及該債券ノ賣却、讓渡又ハ分配ノ時期及方法ヲ定ムル問題

(ハ)千九百二十一年五月一日以後千九百二十六年末日以前支拂期ニ達スヘキ割賦ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ千九百三十年末日ヨリ後ニ延期スルコト

(ニ)千九百二十六年ヨリ後ニ於テ支拂期ニ達スヘキ割賦ノ全部又ハ一部ノ支拂ヲ三年ヲ超ユル期間延期スルコト

(ホ)特定ノ場合ニ於テ從來同樣ノ場合ニ適用シタルモノト異ナル損害計算方法ヲ適用スル問題

(ヘ)本編ノ規定ノ解釋ニ關スル問題、本編ノ解釋ニ付委員間ニ意見ノ相違アルトキハ委員ノ全會一致ノ同意ヲ以テ問題ヲ仲裁裁判ニ付スルコトヲ得、仲裁裁判者ハ一切ノ委員ノ全會一致ヲ以テ選定セラルルコトヲ要シ又右一致ナキ場合ニハ聯盟理事會之ヲ任命スルコトヲ要ス仲裁裁判者ノ裁定ハ一切ノ利害關係國ヲ拘束スヘシ

前記ノ外一切ノ問題ハ表決ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

一ノ問題カ其ノ決定ニ全會一致ヲ要スルモノナリヤ否ヤニ付委員間ニ意見ノ相違アリテ其ノ本國政府ニ請訓スルモ尙解決スルコト能ハサル場合ニ於テハ速ニ之ヲ各本國政府ノ同意シタル公平ナル人士ノ仲裁ニ付スヘク同盟及聯合國政府ハ其ノ裁定ヲ承認スルコトヲ約ス」

三

本決定ハ「ヴェルサイユ」條約ノ署名國及賠償委員會ニ通知セラルヘシ

千九百二十四年十一月二十二日巴里ニ於テ作成ス

エー、エリオ
クルー
ロマノ、アヴェツァナ
石井菊次郎
エー、ドゥ、ゲーッフィエ
エム、スパライコヴィッチ

●對獨平和條約第八編第一款第一附屬書第一號等ニ該當スル損害申告方

大正九年五月十日外務省令第三號

第一條　同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約第八編（賠償）第一款第一附屬書第一號第二號第三號第八號第九號又ハ第十號ニ該當スル損害ヲ受ケタル帝國臣民（帝國法人ヲ含ム）ハ本令ニ依リ其ノ損害ヲ外務大臣ニ申告スヘシ

第二條　前條ノ申告ハ別記樣式ニ依リ大正九年七月十日迄ニ申告者ノ居住地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ提出スヘシ

第三條　申告書ハ三通ヲ作成シ且損害ヲ證スル書類三通ヲ添附スヘシ

第四條　地方長官前條ノ申告書ヲ受理シタルトキハ調査ノ上意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ外務大臣ニ進達スヘシ

第五條　虛僞ノ申告ヲ爲シタル者ハ七十圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

第六條　本令中地方長官トアルハ外國ニ在リテハ在外公館長トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（外務、大藏、農商務、遞信大臣連署）

（別記）

第一號樣式

損害申告書

申告者	居住地
	職業

損害				備考
被害者ノ氏名及年齡	被害者ノ職業並年收入額及其ノ內譯	被害發生ノ事情及被害ノ程度	損害總額及其ノ算出ノ基礎	
被害者ノ住所	被扶養者ノ氏名及被害者トノ關係			
被害發生ノ年月日及場所	損害該當條項			

右申告候也

年　月　日

申告者　氏　名　印

外務大臣宛

第二號樣式

損害申告書

申告者	居住地
	職業

損害				備考
被害財產ノ種類及數量	保險金額及其ノ受領ノ有無	被害發生ノ事情及被害ノ程度	損害總額及其ノ算出ノ基礎	
被害發生ノ年月日及場所	損害該當條項			

右申告候也

年　月　日

申告者　氏　名　印

外務大臣宛

第三號樣式

損害申告書

申告者	現住所
	職業

損害					備考
被害船舶ノ船籍港	被害船舶ノ種類船舶番號名稱總噸數速力及進水年月	[illegible]者ノ[illegible]住所（事務所）氏名（商號）保險ノ[illegible]受領ノ有無	被害發生ノ事情及被害ノ程度	損害總額及其ノ算出ノ基礎	
被害發生ノ年月日及場所		損害該當條項			

右申告候也

年　月　日

申告者　氏　名　印

外務大臣宛

凡例

一、平和條約第八編第一款第一附屬書第一、二、三、八、十號ノ損害ハ第一號樣式ニ依リ第九號ノ損害（船舶ノ損害ヲ除ク）ハ第二號樣式ニ依リ船舶ノ損害ハ第三號樣式ニ依ルコト

一、申告書ハ一事件每ニ別ニスルコト

一、第一附屬書第八、九及十號ノ損害ニシテ被害者死亡シ其ノ相續人ヨリ之ヲ申告スルトキ竝同附屬書第一、二、三號ノ損害ヲ申告スルトキハ戶籍謄本ヲ添附スルコト

一、被扶養者多數アル場合ニ於テハ之ヲ一括シテ申告スルコト

●獨、墺、洪及勃國トノ平和條約及補充協定ノ適用ニ關スル或種ノ問題ヲ解決スル爲ノ同盟國間ノ協定

大正十四年三月五日外務省告示第二十五號

獨逸國、墺地利國、洪牙利國及勃牙利國トノ平和條約及補充協定ノ適用ニ關スル或種ノ問題ヲ解決スル爲帝國政府ノ代表者ハ白耳義國、佛蘭西國、大不列顛國、伊太利國及葡萄牙國政府ノ各代表者ト共ニ大正九年七月十六日「スパ」ニ於テ左ノ如ク協定セリ

獨逸國、墺地利國、洪牙利國及勃牙利國トノ平和條約及補充協定ノ適用ニ關スル或種ノ問題ヲ解決スル爲ノ同盟國間ノ協定

白耳義國、佛蘭西國、大不列顛國、伊太利國、日本國及葡萄牙國ノ政府ハ平和條約及補充協定ノ適用ニ關シテ生スル或種ノ問題ヲ其ノ相互間ニ速ニ解決スルコトノ全般ノ利益タルヲ認メ夫々下名ヲ代表トシ左ノ事項ヲ協定セリ

第一編

第一條

賠償トシテ獨逸國ヨリ受クル金額ハ「ヴェルサイユ」條約第二百三十七條ニ從ヒ左ノ割合ヲ以テ之ヲ分配ス

英帝國	百分ノ二十二
佛蘭西國	百分ノ五十二
伊太利國	百分ノ十
日本國	百分ノ〇・七五
白耳義國	百分ノ八
葡萄牙國	百分ノ〇・七五

百分ノ六・五ハ希臘國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スローヴェーヌ」國及賠償ヲ受クル權利アルモ本協定ノ署名國タラサル其ノ他ノ國ノ爲ニ之ヲ留保ス

第二條

賠償トシテ墺地利國、勃牙利國及洪牙利國ヨリ受クル總額竝ニ千九百十九年九月十日及十二月八日ノ協定ニ基キテ伊太利國、「チェッコ、スロヴァキア」國、羅馬尼亞國及「セルブ、クロアート、スローヴェーヌ」國ヨリ受クル金額ハ左ノ如ク之ヲ分配ス

（イ）半額ハ第一條ニ揭ケタル同盟國政府間ニ同條ニ定メタル割合ヲ以テ之ヲ分配ス

（ロ）他ノ半額ノ內百分ノ四十ハ伊太利國之ヲ受領シ百分ノ六十ハ希臘國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スローヴェーヌ」國及賠償ヲ受クル權利アルモ本協定ノ署名國タラサル其ノ他ノ國ノ爲ニ之ヲ留保ス

第二編

第三條

同盟國政府ハ「ヴェルサイユ」條約第二百三十一條及第二百三十二條ニ基キ獨逸國ノ負擔スル債務ノ總額ヲ決定スルコト竝左記事項ヲ內容トスル協定ヲ基礎トシテ右債務ノ支拂方法ヲ規定スルコトノ全般ノ利益タルヲ承認ス

（一）獨逸國ノ支拂フヘキ年次金ノ決定

（二）右年次金ノ一部又ハ全部ノ割引支拂ニ依リ獨逸國カ期限前ニ債務ヲ免レ得ヘキコト

（三）獨逸國ノ國內需要及同盟國ニ對スル債務ノ迅速ナル履行ニ充テラルヘキ公債ノ獨逸國ニ依ル發行

同盟國政府ハ此ノ種ノ協定ヲ容易ナラシムルニ適當ナリト思惟スル措置ヲ共ニ直ニ執ラムトスルノ意嚮ナルコトヲ宣言ス

第三編

第四條

（一）賠償委員會ハ各同盟國ニ付左記形式ヲ以テ千九百二十一年五月一日現在ノ勘定一覽表ヲ調製スヘシ

千九百二十一年五月一日

貸方	借方
（イ）千九百二十一年五月一日迄ノ占領軍ノ費用	（ニ）占領軍費用ニ充ツル爲受領シタル金額
（ロ）千九百十八年十一月十一日以前ニ於テ白耳義國ニ貸出タル金額竝之ニ對スル千九百二十一年五月一日迄ノ利子	（ホ）「ヴェルサイユ」條約第二百三十八條ニ依ル還付ヲ除キタル千九百二十一年五月一日迄ノ實物引渡ノ價格
（ハ）賠償債權ノ現在價額	（ヘ）「ヴェルサイユ」條約第二百四十三條ニ依リテ獨逸國ノ貸方ニ計上スヘキ金額但シ第十編（經濟條項）第三款及第四款ニ規定セラルル最終殘額竝本協定第五條（甲）ニ依リ白耳義國ノ優先權ヲ滿足セシムル爲振當ラルル額ヲ除ク

獨逸國ノ賠償支拂カ割引シ得ヘキ年次金又ハ定期金ヨリ成ルトキハ各國ノ賠償債權ノ現在價格トシテ前記（ハ）ニ揭クヘキ金額ハ年次金又ハ定期金中該國ニ割當ラレタル取分ヲ年五分ニテ割引シテ之ヲ定ムヘシ但シ前記取分カ元本トシテ決定セラレタル例外ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

（ヘ）ニ記載セラルヘキ額カ勘定一覽表調製ノ時未タ確定セサル場合ニ於テハ賠償委員會ハ右ノ額ヲ見積リ記入スヘシ右ノ額カ確定シタルトキハ同委員會ハ該勘定ニ對シ必要ナル修正ヲ加フヘシ

（二）前記勘定一覽表ニ於テ貸方（イ）（ロ）及（ハ）ノ全額ヨリモ（ニ）（ホ）及（ヘ）ノ金額カ多額ナルコト明カトナリタル國アルトキハ賠償委員會ハ該國ニ對シ其ノ超過額ヲ通告スヘク而シテ該國ハ通告ノアリタル日ヨリ三月以內ニ其ノ超過額ヲ賠償委員會ニ拂戾スヘシ

（三）一切ノ場合ニ於テ又前記拂戾ノアリタル場合ニモ借方（ニ）（ホ）及（ヘ）ノ貸方（イ）ニ對スル超過額ハ左ノ目的ノ爲ニ之ヲ保留ス

（イ）白耳義國ニ付テハ右超過額ハ二十五億金貨「法」ノ優先權ニ對スル支拂ノ一部ト看做サルヘシ

（ロ）白耳義國以外ノ各同盟國ニ付テハ右超過額ハ後ニ規定シタル方法ニ依リ拂戾サルヘキ前拂金ト看做サルヘシ之ニ對シテハ年五分ノ利子ヲ附スヘク該利子ハ第四項ニ揭ケタル特別利子勘定ノ貸方ニ計上セラルヘシ

前記ノ前拂金トシテ取扱ハルヘキ金額ハ獨逸國ノ債務不履行ノ場合且五年間賠償委員會ヲシテ本協定第三條（三）ニ記載セル獨逸國公債ノ全部又ハ一部ノ支拂ニ充テシムル目的ヲ以テ之ヲ臨時保留資金ト爲スヘシ

右目的ノ爲各國ニ對スル右金額ハ之ヲ五等分シ其ノ一ヲ五年間ノ各年ニ割當ツヘシ或年度ノ割當金額カ獨逸國公債ノ支拂ノ爲ニ必要ナラサルトキハ左ノ目的ノ爲

ニ左ノ順序ニ從テ之ヲ使用スヘキモノトス

(1) 占領軍ノ費用トシテ當該國ニ對シ獨逸國カ支拂フヘキ額ノ支拂

(2) 白耳義國カ千九百十八年十一月十一日以前ノ借入金ニ付當該國ニ對シ支拂フヘキ額（元本及利子）ノ支拂

(3) 當該國ニ對シテ獨逸國ノ支拂フヘキ年次金ノ支拂

(4) 伊太利國及日本國ニ關シテハ右二國ニ對スル年次金ノ將來ノ割賦金前拂（最近ノ割賦金ヨリ開始ス）但シ右二國ト賠償委員會トノ間ニ於テ隨時協定スヘキ五分ヲ下ラサル割引率ニ依ル

上記ノ目的ノ爲必要ナラサル殘額全部ハ第一條ニ定メタル割合ヲ以テ同盟國間ニ分配スル爲之ヲ賠償委員會ニ拂込ムヘシ

(四) 各國ニ付特別利子勘定ヲ設クヘク(三)ニ揭ケタル前貸金ノ利子ハ千九百二十一年五月一日後右勘定ニ之ヲ拂込ムヘシ右勘定ノ貸方殘額ハ第一條ニ定ムル割合ヲ以テ白耳義國以外ノ各國間ニ之ヲ分配スヘシ

第五條

獨逸國ニ對スル債權者タル各國カ第三條ニ揭ケタル公債ノ成功ヲ確保スル目的ヲ以テ全般ノ利益ノ爲ニ爲シタル犧牲ニ顧ミ且同盟國間ニ於ケル財政上ノ整理ノ困難ヲ避クル目的ヲ以テ白耳義國ハ千九百十九年六月十六日ノ協定ニ基ク優先權ニ依リ同國ノ受領スヘキ二十五億金貨「法」ノ金額カ左記ノ條件ニ依リテ確保セラルヘキコトヲ承認シ仍テ締約國ハ茲ニ之ヲ協定セリ

白耳義國ハ本協定第四條ニ定ムル所ニ從ヒ千九百二十一年五月一日前ニ受領シタル實物ノ引渡竝獨逸國ノ權利及利益ノ讓渡ニ依リ生シタル超過額ヲ保有ス二十五億金貨「法」中ノ殘額ハ第四條ニ依リ支拂ヘレサル占領軍ノ費用ノ支拂アリタル後且白耳義國ニ認メラレタル優先權ノ滿足セシメラルル迄左ノ方法ニ依リ支拂ハルルモノトス

(甲) 千九百二十一年五月一日ニ至ル迄ハ第二百四十三條ニ依リ賠償委員會ノ受領スル一切ノ現金支拂額殊ニ左ノ項目ノ下ニ受領セラルル金額ヨリ

(一) 「ヴェルサイユ」條約第二百四十三條ニ揭ケタル實物引渡又ハ獨逸國ノ權利若ハ利益ノ讓渡ヲ受ケタル同盟國カ第四條ニ規定スル條件ノ下ニ爲スヘキ拂戻但シ右拂戻ハ當該國ノ占領軍ノ費用、損害賠償及千九百十八年十一月十一日迄ノ白耳義國ニ對スル貸出金ノ償還ニ基キ當該國ノ獨逸國ニ對シ有スル債權額ヲ超過スル額ニ於テ之ヲ爲スモノトス

(二) 「ヴェルサイユ」條約第二百九十六條ニ規定シタル清算所ヨリ獨逸國ノ貸方トナレル最終殘額ニ關スル受領竝同盟國カ各自國領域ニ於テ差押ヘタル獨逸國民ノ財產、權利及利益ノ清算殘額ニシテ同條約第二百九十七條(チ)ノ規定ニ依リ賠償委員會ニ支拂ハルルモノノ受領

(三) 獨逸帝國又ハ獨逸各邦ノ負擔タル債務ノ一部分ニシテ「ヴェルサイユ」條約第二百五十四條ニ基キ丁抹國（「シュレスウィヒ」）「チェッコ、スロヴァキア」國又ハ「ダンチッヒ」自由市ニ依リテ引受ケラレタルモノノ支拂

(四) 「ヴェルサイユ」條約第二百五十六條ニ依リ獨逸國ノ讓渡地域內ニ於ケル獨逸帝國及其ノ各邦ノ財產及所有物ノ價額ニシテ丁抹國（シュレスウィヒ）「チェッコ、スロヴァキア」國及「ダンチッヒ」自由市ヨリ支拂フヘキモノ

(五) 「ヴェルサイユ」條約第二百六十條ニ揭ケタル諸國及諸領土內ニ於ケル公共事業又ハ特許事業ニ關スル獨逸國民ノ權利及利益ノ同條ニ依ル取得

(六) 「ヴェルサイユ」條約第百六十九條ニ從ヒ破壞セラルヘキ兵器、彈藥、軍用材料及機械ノ賣却

(七) 「ヴェルサイユ」條約第八編（賠償）第五附屬書五ノ實行トシテ引渡サレタル獨逸石炭ノ「ルクセンブルグ」國ニ對スル賣却

(八) 「ヴェルサイユ」第八編（賠償）第六附屬書ニ揭クル條件ニ基キ獨逸國カ引渡シタル染料及化學藥品ノ賠償委員會ニ依ル分配又ハ賣却

(乙) 千九百二十一年五月一日以後ハ占領軍ノ費用ノ優先支拂ヲ除クノ外獨逸國ノ爲セル一切ノ引渡又ハ支拂ノ價額及其ノ他賠償委員會ノ一切ノ受領額ニシテ分配シ得ヘキモノヨリ

(丙) 下ニ定メタル範圍內ニ於テ第一次（及第二次以下）ノ獨逸國公債ノ賣却代金中ヨリ白耳義國ハ公債ノ成功ヲ確保セムカ爲ニハ獨逸國ニ對スル債權者ノ成ルヘク多數ヲシテ該公債ノ成功ニ利害關係ヲ有セシメ賣却代金ノ殆ト全部ヲ一國ニノミ留保セサルノ妥當ナルコトヲ承認ス右公債ノ賣却代金中ヨリ獨逸國ノ爲ニ留保セラレタル額ヲ控除シタル後白耳義國ハ必要アラハ賣却代金ノ五割迄ヲ受領スヘシ

(丁) 賠償トシテ獨逸國ノ負擔スル金額ノ支拂カ年次金ノ形式ヲ以テ定メラレタルトキハ優先權ノ理由ニ依リテ白耳義國ニ支拂ハレタル額ハ年次金ニ對スル同國ノ取分ヨリ又ハ年次金ノ全部又ハ一部カ割引セラルル場合ニハ該年次金ノ收得額ニ對スル同國ノ取分ヨリ之ヲ控除スヘシ右控除ハ獨逸國ヨリノ受領額ノ現在價格ニ對スル白耳義國ノ取分ヲ本協定第一條ニ依リテ同國ニ割當テラレタル百分率ト一致セシムル如ク之ヲ行フヘシ

第六條

(一) 獨逸國ハ「ヴェルサイユ」條約第八編（賠償）第三附屬書ニ依リ又墺地利國及洪牙利國ハ「サン・ジェルマン」及「トリアノン」條約ノ該當條項ニ依リ戰爭ノ爲ニ喪失又ハ破損シタル一切ノ商船及漁船ニ對シ噸數對噸數及等級對等級ノ現物代償ヲ受クル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認シタルコト竝引渡船舶ノ大部分ハ現實ニ賣却セラレタル後ニ非レハ其ノ公平ナル價額ヲ定ムルコトノ甚タ困難ナルニ鑑ミ左ノ如ク協定セリ

英帝國ニ割當テラレタル船舶ハ千九百二十一年五月一日前ニ賠償委員會之ヲ英國市場ニ於テ英國國民ニ賣却スヘシ

英帝國ニ割當テラレ又ハ同盟國間ノ協定ニ依リテ後ニ同國ニ讓渡セラルル商船及漁船ニ關シ舊敵國ノ貸方ニ計上セラルヘキ額ハ右賣却ニ依リテ收得セラレタル實際價額タルヘシ但シ修繕又ハ引渡費用ノ爲必要トナリタル勘定ノ整理ヲ爲スヘシ

他ノ諸國ニ付テハ此等諸國ニ割當テラレ又ハ同盟國間ノ協定ニ基キ後ニ讓渡セラルル商船及漁船ニ關シ其ノ借方ニ計上セラルヘキ額ハ英國市場ニ於ケル各等級ノ同種船舶ノ賣上平均額トス但シ前項ト同樣ノ整理ヲ爲スヘシ

右ノ如ク決定セラレタル價額ハ左記ノ日附ヲ以テ同盟國ノ借方ニ計上シ且關係舊敵國ノ貸方ニ計上スヘシ獨逸國ニ付テハ千九百二十年一月十日、其ノ後ノ讓渡船舶ニ付テハ其ノ引渡日墺地利國及洪牙利國ニ付テハ各此等諸國トノ平和條約實施ノ日

前記各日附ヨリ船舶ノ賣却セラレタル日迄又ハ船舶カ千九百二十一年五月一日迄ニ賣却セラレサルトキハ同日迄ノ年五分ノ利子ハ英帝國ニ割當テラレ又ハ讓渡サレタル船舶ニ關シ之ヲ同國ノ借方ニ計上スヘク且第四條ニ揭ケタル特別利子勘定ノ貸方ニ計上スヘシ

他ノ各國ニ付テハ一定總額ヲ利子トシテ其ノ借方ニ計上シ特別利子勘定ノ貸方ニ計上スヘシ右總額ト利子トシテ英帝國ノ借方ニ計上セラルル總額トノ割合ハ該國ニ割當テラレ又ハ讓渡セラレタル噸數全額ノ價額ト英帝國ニ割當テラレ又ハ讓渡セラレタル噸數全額ノ價額トノ割合ト同一ナルヘシ

(二) 船舶ヲ割當テラレタル同盟國カ該船舶ヲ各平和條約實施後ニ於テ使用スルモ之カ爲何等該國ノ借方ニ計上セラルルコトナシ

(三) 讓渡船舶ノ場合ニ於テハ船舶ノ讓受國ハ讓渡セラルル迄ノ備船料ヲ讓渡國ニ支拂フヘシ右支拂ハ船舶讓受國カ獨逸國、墺地利國又ハ洪牙利國ノ何レカヨリ最モ早ク受領シタル第一同步合支拂（實物及役務ニ依ル支拂ヲ除ク）中ヨリ右備船料及船舶讓渡ノ日ヨリ之ニ附セラルル年五分ノ利子ヲ控除シ之ヲ讓渡國ノ受領スヘキ第一同步合支拂ニ加フルノ方法ニ依リ爲サルヘシ

(四) 賠償委員會ノ最終ノ噸數割當後白耳義國ハ噸數分配ヲ受クル他ノ諸國ノ取分中ヨリ休戰後白耳義國捕獲審檢所ニ於テ沒收ノ判決ヲ受ケタル船舶ノ噸數ト均シキ噸數迄噸數對噸數割當ヲ爲スニ充分ナル噸數ヲ受領スヘシ右噸數ハ船齡、船型及價格ニ於テ沒收ノ判決ヲ受ケタル船舶ト近似スルコトヲ要ス各讓渡國ノ出捐ハ舊敵國噸數ノ噸數對噸數割當ニ對スル確定請求額ノ割合ニ依ルヘク讓渡サレタル船舶ノ價格ハ讓渡國カ右出捐ヲ爲シタル割合ニ比例シテ之ヲ讓渡國ノ借方ニ計上スヘシ

同盟國ハ白耳義國捕獲審檢所ニ依ル前記船舶ノ沒收宣告ヲ承認セサルヲ以テ白耳義國ハ前記決定ノ有效ナルコトハ之ヲ主要スルモ本條(四)ニ基キ同國ニ讓渡セラルル噸數ヲ考量シ此等船舶ニ對シ前記宣告ヲ理由トシテ如何ナル權利ヲモ要求セサルコトニ同意ス

第七條

沈沒軍艦ノ代償トシテ千九百二十年一月十日ノ議定書ニ依リ既ニ引渡サレ又ハ引渡サルヘキ輕巡洋艦、浮船渠又ハ材料ニ關シテハ何等獨逸國ノ貸方ニ計上スルコトナシ

沈沒セル獨逸國船舶ニシテ既ニ救助セラレ又ハ救助セラルヘキモノニ關シテハ此等船舶割當ヲ既ニ受ケ又ハ受クヘキ總テノ國ハ此等船舶ノ救助費用ヲ負擔シタル國ニ對シ右費用ヲ支拂フヘシ

第八條

「ヴェルサイユ」條約海軍條項ニ基キテ引渡サレタル軍艦及海軍材料ノ賣上金ニ關シテハ何等獨逸國ノ貸方ニ計上スルコトナシ最高會議ノ要求ニ基キ賠償委員會カ既ニ賣却シ又ハ賣却スヘキ海軍材料ヨリ生スル賣上金亦同シ此等ノ金額ハ千九百二十年一月十日ノ議定書ニ基キ引渡サレタル材料ニ付最高會議ノ承認シタル割合ト同一割合ニ於テ之ヲ同盟國間ニ分配スヘシ

第九條

伊太利國ハ「サン、ジェルマン」條約第八編（賠償）第百八十九條及第三、第四及第五附屬書竝「トリアノン」條約ノ該當條項ニ基キテ千九百二十一年五月一日迄ニ讓渡サレタル財產及給付セラレタル役務ノ價額ニ關シ又千九百十九年九月十日調印セラレ千九百十九年十二月八日巴里ニ於テ修正セラレタル伊太利國ノ賠償勘定ニ關スル協定ニ規定セラレタル額ニ關シ伊太利國カ賠償委員會ニ支拂フヘキモノト同委員會ニ於テ決定スヘキ額ニ等シキ額ヲ他ノ一切ノ同盟國ニ優先シテ留保シ之ヲ墺地利國、洪牙利國及勃牙利國カ占領軍及賠償ニ關シ伊太利國ニ支拂フヘキ金額ノ代償ニ充ツルノ權利ヲ有ス仍テ伊太利國ハ前記ノ代償ニ依リ其ノ債務カ消滅セサル場合及範圍內ニ於テノミ前記協定ノ第四條ニ揭ケラレタル債券ヲ發行スルノ義務ヲ負フニ止マル

第十條

本協定ノ條項ハ之ヲ讓渡國ニ適用セス讓渡國カ舊露西亞帝國ノ一部トシテ被リタル損害ノ賠償請求權ハ「ヴェルサイユ」條約第百十六條及「サン、ジェルマン」條約第八十七條ニ從ヒ之ヲ留保ス

「ヴェルサイユ」條約第九十二條及第二百四十三條及「サン、ジェルマン」條約第百八十九條ニ依リ獨逸國及墺地利國ノ貸方ニ計上セラルヘキ額ハ年五分ノ利子ヲ附セラルヘキ假勘定ニ繰入レラルルモノトス

第十一條

本協定ノ規定ハ「ヴェルサイユ」條約第二百三十二條第三項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

千九百十八年十一月十一日迄ニ白耳義國ノ借入レタル金額及其ノ支拂期日迄ノ年五分ノ利子ハ第五條ニ揭ケタル二十五億金貨「法」ノ支拂ノ直後ニ順位シ之ヲ千九百二十六年五月一日前ノ獨逸國ノ毎年ノ支拂額ニ出來得ル限リ平分シテ割當ツヘシ

獨逸國ノ前拂シタル金額ハ同國ノ年次支拂ノ右ノ部分ヲ割引スル爲使用セラレサルヘシ

第十二條

本協定ノ條項ハ舊敵國ニ供與セラレタル救助貸金ノ拂戻ニ對スル同盟國ノ權利ヲ妨クルコトナシ

第十三條

占領軍ノ費用ヲ一切ノ同盟及聯合國ニ付均一ノ基礎ニ減少スルノ問題ハ亞米利加合衆國ト共ニ討議スル爲之ヲ留保ス

白耳義國　レオン、ドゥラクロア（署名）
佛蘭西國　アー、ミルラン（署名）
大不列顛國　ディー、ロイド、ジョージ（署名）
伊太利國　シー、スフォルザ（署名）
日本國　珍田捨巳（署名）
葡萄牙國　アフォンソ、コスタ（署名）

千九百二十年七月十六日「スパ」ニ於テ
「スパ」會議事務總長　ロラン、ジァックマン（署名）

●「ヴェルサイユ」條約ノ規定ニ基キ損害總額ヲ決定シタル賠償委員會ノ決議

（大正十四年三月五日外務省告示第二十六號）

賠償委員會ハ對獨平和條約第二百三十三條ノ規定ニ基キ獨逸國カ同條約第二百三十二條第二項及第八編第一附屬書ノ規定ニ依リ賠償ヲ爲スヘキ損害總額ニ關シ大正十年四月二十七日左ノ如ク決定セリ

「ヴェルサイユ」條約第二百三十三條ノ規定ニ依ル賠償委員會ノ決議

賠償委員會ハ「ヴェルサイユ」條約第二百三十三條ノ規定ニ基キ獨逸國カ同條約第二百三十二條第二項及第八編第一附屬書ノ規定ニ依リ賠償ヲ爲スヘキ損害總額ヲ千三百二十億金貨「マルク」ト決定ス

右金額ノ決定ニ當リ委員會ハ同條約第二百三十八條ニ依リ爲サレタル又ハ爲サルヘキ返還ニ付テ斟酌シ損害總額ヨリ右返還額ノ控除ヲ行ヒタリ從テ右返還ニ付テハ何等獨逸國ノ貸方ニ計上セラルルコトナシ

賠償委員會ハ同條約第二百三十二條第三項ニ依リ獨逸國ノ負擔スヘキ白耳義國カ千九百十八年十一月十一日迄ニ同盟及聯合國ヨリ借入レタル金額竝右金額ニ對スル年五分ノ利息ヲ償還スヘキ義務ノ額ハ之ヲ前記損害總額中ニ包含セシメス

●「ヴェルサイユ」條約ノ規定ニ從ヒ獨逸國ノ負擔スル一切ノ賠償義務ノ保障竝履行ノ時期及方法ヲ規定スル支拂計畫

（大正十四年三月五日外務省告示第二十七號）

賠償委員會ハ對獨平和條約第二百三十三條ニ基キ獨逸國カ同條約第二百三十一條、第二百三十二條及第二百三十三條ニ依リ負擔スル一切ノ賠償義務ノ保障竝履行ノ時期及方法ヲ規定スル支拂計畫ヲ大正十年五月五日左ノ如ク決定セリ

「ヴェルサイユ」條約第二百三十一條、第二百三十二條及第二百三十三條ニ從ヒ獨逸國ノ負擔スル一切ノ賠償義務ノ保障竝履行ノ時期及方法ヲ規定スル支拂計畫

賠償委員會ハ「ヴェルサイユ」條約第二百三十三條ニ基キ獨逸國カ同條約第二百三十一條、第二百三十二條及第二百三十三條ニ依リ負擔

スル一切ノ賠償義務ノ保障並履行ノ時期及方法ヲ左ノ通決定セリ

此ノ決定ハ第二百三十八條ニ依ル獨逸國ノ還付ノ義務又ハ條約ニ依ル其ノ他ノ義務ニ何等ノ變更ヲ加ヘサルモノトス

第一條

獨逸國ハ賠償委員會カ「ヴェルサイユ」條約第二百三十一條、第二百三十二條及第二百三十三條ニ從ヒ定メタル總額千三百二十億金貨「マルク」ノ支拂義務ヲ本計畫ニ定メラレタル方法ニ依リテ履行スヘシ

但シ右總額ヨリ(イ)賠償トシテ既ニ支拂ハレタル額(ロ)割讓セラレタル領土等ニ於ケル獨逸國有財產ノ代償トシテ隨時獨逸國ノ貸方ニ計上セラルヘキ額及(ハ)獨逸國以外ノ敵國又ハ舊敵國ヨリ受領シタル金額ニシテ賠償委員會ノ決定ニ依リ獨逸國ノ貸方ニ計上セラルヘキ額ヲ控除スヘシ同盟國ニ對スル白耳義國ノ債務額ハ之ヲ前記總額ニ追加スヘシ此等ノ加除スヘキ金額ハ後日賠償委員會之ヲ決定ス

第二條

獨逸國ハ「ヴェルサイユ」條約第八編(賠償)ノ第二附屬書十二(ハ)ニ依リ既ニ交付セラレ又ハ交付セラルヘキ債券ニ代ヘ左ニ規定スル債券ヲ作製シ之ヲ賠償委員會ニ交付スヘシ

イ　百二十億金貨「マルク」ノ債券

本債券ハ遲クトモ千九百二十一年七月一日ニ作製交付セラルヘシ千九百二十一年五月一日以後本計畫ノ定ムル所ニ依リ獨逸國カ調達スヘキ資金中ヨリ每年右發行債券ノ額面價格ノ六分ニ相當スル金額ノ支拂ヲ爲スヘシ右支拂金額ヨリ未償還債券ニ對シテ半年每ニ支拂ハルヘキ年五分ノ利子ヲ支拂ヒ其ノ殘額ハ每年ノ抽籤ニ依ル債券ノ額面償還ノ爲ノ減債基金ニ之ヲ充當スヘシ

前記債券ハ本計畫ニ於テ之ヲ甲種債券ト稱ス

ロ　別ニ三百八十億金貨「マルク」ノ債券

本債券ハ遲クトモ千九百二十一年十一月一日ニ作製交付セラルヘシ千九百二十一年十一月一日以後本協定ノ定ムル所ニ依リ獨逸國カ調達スヘキ資金中ヨリ每年右發行債券ノ額面價格ノ六分ニ相當スル金額ノ支拂ヲ爲スヘシ右支拂金額ヨリ未償還債券ニ對シテ半年每ニ支拂ハルヘキ年五分ノ利子ヲ支拂ヒ其ノ殘額ハ每年ノ抽籤ニ依ル債券ノ額面償還ノ爲ノ減債基金ニ之ヲ充當スヘシ

前記債券ハ本計畫ニ於テ之ヲ乙種債券ト稱ス

ハ　八百二十億金貨「マルク」ノ債券但シ此ノ金額ハ第一條ノ適用ニ依リ必要ト認メラルヘキ增減ヲ後日受クルコトアルヘク右增減ハ債券ノ作製又ハ廢棄ニ依リテ行ハルヘシ

此ノ債券ハ遲クトモ千九百二十一年十一月一日ニ之ヲ作製シ利札ヲ附セスシテ賠償委員會ニ交付スヘシ本債券ハ本計畫ニ從ヒ獨逸國ノ爲スヘキ支拂カ右債券ノ利子及減債基金ノ支拂ヲ爲スニ充分ナリト賠償委員會ニ於テ認定スルニ從ヒ同委員會之ヲ發行ス

賠償委員會カ右債券ヲ發行シタル日以後本計畫ノ定ムル所ニ依リ獨逸國ノ調達スヘキ資金中ヨリ每年右發行債券ノ額面價格ノ六分ニ相當スル金額ノ支拂ヲ爲スヘシ右支拂金額ヨリ未償還債券ニ對シテ半年每ニ支拂ハルヘキ年五分ノ利子ヲ支拂ヒ其ノ殘額ハ每年ノ抽籤ニ依ル債券ノ額面償還ノ爲ノ減債基金ニ之ヲ充當スヘシ

賠償委員會カ右債券ヲ發行スルニ從ヒ獨逸國政府ハ右債券ニ對スル利札ヲ同委員會ニ引渡スヘシ

前記債券ハ本計畫ニ於テ之ヲ丙種債券ト稱ス

第三條

第二條ニ規定スル債券ハ獨逸國政府ノ署名シタル持參人拂債券タルヘク且之ニ流通性ヲ有セシムル爲賠償委員會ノ定ムヘキ樣式及額面價格ヲ附シ又現在及將來ニ於テ獨逸國ノ各種ノ租稅及負擔ヲ總テ免除セラルヘシ

「ヴェルサイユ」條約第二百四十八條及第二百五十一條ノ規定ヲ留保シ、前記債券ハ獨逸國及獨逸各邦ノ一切ノ財產及收入殊ニ本計畫第七條ニ揭ケタル財產及收入ニ依リテ擔保セラル甲乙丙各種債券ニ關スル支拂ハ前記ノ財產及收入ノ上ニ夫々第一、第二及第三順位ノ優先權ヲ有スヘク且本計畫ニ從ヒ獨逸國ノ爲スヘキ支拂ニ依リ確保セラルヘシ

第四條

獨逸國ハ第二條ニ定ムル債券カ減債基金ノ作用ニ依リ償還セラルル迄每年左ノ金額ヲ支拂フヘシ

(一)二十億金貨「マルク」ノ金額

(二)(イ)賠償委員會ノ定ムル所ニ依リ千九百二十一年五月一日以後每十二月ノ期間ニ於ケル獨逸國輸出額ノ二割五分ニ相當スル金額

又ハ

(ロ)獨逸國カ提議シ賠償委員會カ承認シタル別ノ指數ニ基キ定メラルヘキ右ト相當ノ金額

(三)更ニ前記輸出額ノ一分ニ相當スル金額又ハ右(ロ)ニ規定スル方法ニ依リ定メラルヘキ之ト相當ノ金額

但シ獨逸國カ本計畫ニ定メラレタル義務中未償還債券ニ關スル義務以外ノ一切ノ義務ヲ履行シタル場合ニ於テハ右項ニ依リ每年支拂ハルヘキ額ハ該年ニ於テ未償還債券ニ對スル利子及減債基金ノ支拂ニ必要ナル額迄之ヲ減少ス

第五條ノ場合ヲ除クノ外前記(一)ノ支拂ハ三月每ニ卽チ每年遲クトモ一月十五日、四月十五日、七月十五日及十月十五日ニ之ヲ爲スヘシ

前記(二)及(三)ノ支拂ハ三月每ニ卽チ每年遲クトモ二月十五日、五月十五日、八月十五日及十一月十五日ニ之ヲ爲スヘク且當該期ノ前前期ノ輸出額ヲ基礎トシテ之ヲ計算スヘシ最初ノ支拂ハ遲クトモ千九百二十一年十一月十五日ニ之ヲ爲スヘク且千九百二十一年七月三十一日ヲ以テ終了スル三月間ノ輸出ヲ基礎トシテ之ヲ計算スヘシ

第五條

獨逸國ハ本計畫ノ通告後二十五日以內ニ金貨又ハ承認セラレタル外國通貨又ハ承認セラレタル外國手形又ハ承認セラレタル獨逸國銀行ノ裏書アル三月拂ノ獨逸國國庫宛手形ヲ以テ十億金貨「マルク」ヲ支拂フヘシ右手形ハ倫敦ニ於テ「磅」ヲ以テ巴里ニ於テ「法」ヲ以テ紐育ニ於テ「弗」ヲ以テ又ハ賠償委員會ノ指定スル其ノ他ノ場所ニ於テ其ノ他ノ貨幣ヲ以テ支拂ハルヘキモノナルコトヲ要ス本條ノ支拂ハ第四條(一)ニ規定スル支拂ノ最初ノ二期分ノ割賦金ト看做サルヘシ

第六條

賠償委員會ハ本計畫ノ通告後二十五日以內ニ條約ノ第二附屬書十二ノ二(ニ)(修正ノ分)ニ基キ保障委員會ト稱スル特別小委員會ヲ設立スヘシ

保障委員會ハ現在賠償委員會ニ代表者ヲ有スル同盟國ノ代表者ヨリ成リ亞米利加合衆國カ其代表者ヲ任命スルコトヲ欲スル場合ニハ之ヲ加フ

本計畫ニ依リ發行セラレタル債券ノ多數カ前記諸國以外ノ國民ノ手ニ存在シ從テ保障委員會ニ此等國民ノ代表者ヲ加フルヲ正當トスルノ事實ヲ賠償委員會ニ於テ認メタルトキハ保障委員會ハ三名ヲ限リ此等國民ノ代表者ヲ選定スヘシ

第七條

保障委員會ハ「ヴェルサイユ」條約第二百四十一條及第二百四十八條ノ適用ヲ確保スルノ職務ヲ有ス

保障委員會ハ第四條ニ依リ獨逸國ノ爲スヘキ支拂ノ擔保ニ振當テラルル資金ヲ第二條ニ規定スル債券ノ利子支拂及償還ニ充當スルコトヲ監督ス右資金ハ左ノ如シ

(イ)獨逸國ノ海陸關稅收入殊ニ輸入稅及輸出稅ノ收入

(ロ)獨逸國總輸出額ニ對スル二割五分ノ課金ノ收入但シ第九條ニ揭ケタル法律ニ依リ二割五分ヲ下ラサル課金ヲ徵セラルヘキ輸出品ヲ除ク

(ハ)　直接稅若ハ間接稅ノ收入又ハ其ノ他ノ資金ニシテ前期(イ)又ハ(ロ)ニ揭クル資金ニ追加シ又ハ之ニ代ルヘキモノトシテ獨逸國政府カ提議シ且保障委員會カ承認シタルモノ

右振當資金ハ保障委員會ノ名ニ於テ開カレ且之ニ依リテ監督セラルヘキ勘定ニ金貨又ハ保障委員會ノ承認シタル外國通貨ヲ以テ拂込マルヘシ

獨逸國政府ハ輸出者ニ對シ獨逸國ノ通貨ヲ以テ(ロ)ニ揭ケタル二割五分ノ課金ニ相當スル額ヲ支拂フヘシ

獨逸國政府ハ振當資金ノ收入額ノ減少ヲ來スヘキ行爲ヲ爲サムトスルトキハ之ヲ保障委員會ニ通告スヘク且同委員會ノ要求アルトキハ其ノ承認シタル他ノ資金ヲ以テ之ニ代フヘシ

保障委員會ハ又賠償委員會ニ代リ「ヴェルサイユ」條約第八編第二附屬書十二ノ二(ロ)ニ定メタル檢査ヲ爲シ且第四條(二)ニ依リ每年又ハ三月每ニ支拂ハルヘキ額ノ計算ノ爲メ獨逸國ノ輸出額トシテ獨逸國政府ノ提示シタル金額及本條ニ依リ債券ノ利子支拂及償還ノ爲ニ振當テラルル資金ノ額ノ檢査及必要ナルトキハ其ノ訂正ヲ爲スヘキ職務ヲ有ス

保障委員會ハ其ノ職務ノ適當ナル遂行ノ爲必要ナリト認ムル一切ノ措置ヲ執ルノ權利ヲ有ス

保障委員會ハ獨逸國ノ行政ニ干涉スルコトヲ得ス

第八條

條約ノ第二附屬書十九第二項(修正ノ分)ニ依リ獨逸國ハ同盟國ノ要求ニ基キ同盟國カ荒廢地ノ回復ノ爲又ハ其ノ產業的若ハ經濟的生活ヲ回復シ若ハ發達セシムル爲要スルコトアルヘキ物資又ハ勞力ヲ豫メ賠償委員會ノ承認ヲ經テ供給スヘシ右物資及勞力ノ價格ハ獨逸國及當該關係國ノ一名ツツ任命スヘキ二名ノ專門家ニ於テ各場合ニ付之ヲ決定ス兩者ノ意見一致セサルトキハ賠償委員會ノ指名スル審判者之ヲ決定ス

前項ノ規定ハ「ヴェルサイユ」條約第八編第三、第四、第五及第六附屬書ニ依リ爲サルヘキ引渡ノ評價ニ之ヲ適用セス

第九條

獨逸國ハ英本國ニ於テ實施中ナル千九百二十一年ノ獨逸國賠償回收法及其ノ他ノ同盟國ニ於テ制定セラレタル同樣ノ法律カ其ノ效力ヲ有スル限リ其ノ實施ヲ容易ナラシムヘキ一切ノ立法上及行政上ノ措置ヲ執ルヘシ右法律ノ實施ニ依リ爲サルル支拂ハ第四條(二)ニ依リテ爲サルヘキ支拂ノ一部トシテ獨逸國ノ貸方ニ計上セラルヘシ

獨逸國政府ハ輸出者ニ對シ獨逸國ノ通貨ヲ以テ同額ノ支拂ヲ爲スヘシ

第十條

提供セラレタル一切ノ役務、一切ノ實物引渡及第九條ニ依ル一切ノ收入ニ對シテハ之ヲ受領シタル同盟國ヨリ其ノ受領ノ日ヨリ一月以內ニ現金又ハ滿期利札ヲ以テ賠償委員會ニ支拂ヲ爲スヘシ右金額ハ第四條ニ依リ獨逸國ノ爲スヘキ支拂ノ一部トシテ其ノ貸方ニ計上セラルヘシ

第十一條

第四條(三)ニ依リテ支拂ハルヘキ額及第四條(一)及(二)ニ依ル賠償委員會ノ每年ノ受領金ノ中當該年度ニ於ケル未償還債券ノ利子及減債基金ノ支拂ニ必要ナラサル過剩額ハ賠償委員會之ヲ積立テ其ノ適當ト認ムル時期ニ其ノ積立金額ノ限度內ニ於テ、既發行ノ債券ニ依リ辨濟セラレサル債務ノ殘額ニ對スル利子ノ支拂ニ使用ス右利子ハ單利トシ千九百二十一年五月一日ヨリ千九百二十六年五月一日迄ハ二分五厘以下其ノ後ハ五分以下トス

右債務ノ殘額ニ對スル利子ハ之ヲ積立ツルコトヲ得ス又右債務殘額ニ對シテハ本條ニ規定スルモノ以外何等ノ利子ヲ附セサルモノトス

第十二條

本計畫ハ「ヴェルサイユ」條約ノ實施ヲ保障スル諸條項ニ何等ノ變更ヲ加フルモノニ非ス右諸條項ハ本計畫ノ規定ニ適用セラルヘキモノトス

●倫敦協定（大正十四年三月五日外務省告示第二十八號）

大正十二年十一月三十日賠償委員會ニ依リ任命セラレタル第一專門委員會ヨリ大正十三年四月九日賠償委員會ニ提出セラレタル計畫(所謂「ドーズ」案)ノ適用問題ニ關シ七月十六日ヨリ倫敦ニ於テ關係國ノ會議開催セラレ其議事ノ終了ニ際シ八月十六日日本國、白耳義國、英國(加奈陀、濠太利聯邦、新西蘭、南阿弗利加聯邦及印度ト共ニ)、佛蘭西國、希臘國、伊太利國、葡萄牙國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國、獨逸國、亞米利加合衆國及賠償委員會間ニ左ノ最終議定書ヲ作成シ尋テ八月三十日該議定書ノ條項ニ基キ帝國政府代表者ハ關係各國代表者ト共ニ該議定書ノ第二附屬書、第三附屬書及第四附屬書タル協定ニ署名セリ

最終議定書

千九百二十三年十一月三十日賠償委員會ニ依リ任命セラレタル第一專門委員會ヨリ千九百二十四年四月九日賠償委員會ニ提出セラレタル計畫ノ適用ニ關スル倫敦會議ノ議事ノ終了ニ際シ白耳義國政府、英國政府(加奈陀、濠太利聯邦、新西蘭、南阿弗利加聯邦及印度ノ政府ト共ニ)、佛蘭西國政府、希臘國政府、伊太利國政府、日本國政府、葡萄牙國政府、羅馬尼亞國政府、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國政府及獨逸國政府ノ代表者ハ特定ノ制限ヲ附セラレタル權限ヲ有スル亞米利加合衆國政府ノ代表者及賠償委員會ノ代表者ト共ニ、總理大臣兼外務大臣「ジェームス、ラムジ、マクドナルド」議長ノ下ニ外務省ニ會合シ

議長ハ關係國政府全部及賠償委員會カ各該計畫ノ受諾ヲ確認シ其ノ實施ニ同意シタルコト及會議ノ議事進行中該計畫ヲ實施スル爲ニ必要ナル或協定カ關係當事者ニ依リ起草セラレ又ハ既ニ署名セラレタルコトヲ陳述セリ確定的ノモノトシテ(本議定書第三附屬書ヲ構成スル協定ニ規定セラルル日ヲ十七日延期スルコトニ關スルモノヲ除ク)署名セラレ又ハ頭字署名ヲ施サレ且本議定書ノ附屬書ヲ成ス此等ノ協定ハ相互ニ相關聯スルモノトス關係當事國ノ代表者ハ該國ニ關係シ且未タ署名セラレサル文書ニ付一同ノ會合ニ於テ正式署名ヲ爲ス爲來ル八月三十日倫敦ニ會合スヘシ同盟國政府間ニ締結セラレタル協定ノ認證謄本ハ其ノ際獨逸國政府ニ交付セラルヘシ

議長ノ陳述ハ關係國政府及賠償委員會ノ代表者ニ依リ全會一致ヲ以テ承認セラレ議長ハ會議議事ノ終了ヲ宣言セリ

千九百二十四年八月十六日倫敦ニ於テ

議　長
ジェー、ラムジ、マクドナルド

事務總長
エム、ピー、エー、ハンケー

白耳義國書記官
ジァック、ダヴィニョル

英國書記官
ラルフ、エフ、ウイグラム

佛蘭西國書記官
エル、マシグリ

希臘國書記官
ジォルジ、ヴェー、メラス

伊太利國書記官
ジノ、アティ

日本國書記官
德川家正

葡萄牙國書記官
ヂョアオ、デ、ピアンチ

羅馬尼亞國書記官
ディー、エヌ、チオトリ

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」國書記官
ジー、ディウリッチ

獨逸國書記官
エー、ヴイール

賠償委員會代表者

第一附屬書

賠償委員會及獨逸國政府間ノ協定

締約當事者ハ

賠償委員會ニ依リテ任命セラレタル第一專門委員會ヨリ千九百二十四年四月九日賠償委員會ニ提案セラレタル「ヴェルサイユ」條約ニ基

タ獨逸國ノ賠償義務及其ノ他ノ金錢上ノ債務ノ履行ニ對スル計畫（右計畫ハ本協定ニ於テハ之ヲ專門家計畫ト稱ス）ヲ實施スルコトヲ希望シ並倫敦ニ於テ現ニ開會中ナル會議ニ於テ今後獨逸國政府及同盟國政府間ニ成立スルコトアルヘキ追加協定ヲ賠償委員會及獨逸國政府各自ノ權限ニ屬スル限リ實施スルコトニ依リ專門家計畫ノ實行ヲ容易ナラシムルコトヲ希望シ

賠償委員會ハ上記ノ條約ニ依リ賦與セラレタル權限ノミナラス專門家計畫中ニ處理セラルルモ上記條約第八編ニ包含セラレサル獨逸國ノ一切ノ支拂ニ關シ上記會議ニ代表者ヲ出セル同盟國政府ニ依リテ與ヘラレタル權限ニ基キ行動シ

玆ニ左ノ如ク協定セリ

第一

獨逸國政府ハ專門家計畫ヲ實施シ且其ノ永續的實行ヲ確保スル爲一切ノ適當ナル措置ヲ執ルコトヲ約ス特ニ

（イ）右目的ノ爲必要ナル法律及規則（特ニ銀行、獨逸國鐵道及工業債券ニ關スル法律）ヲ賠償委員會ニ依リ承認セラルル形式ニ於テ公布施行スル爲必要ナル一切ノ措置ヲ執ルヘシ

（ロ）專門家計畫ニ基ク年次支拂金ノ擔保トシテ指定セラレタル收入ノ監理及其ノ他ノ事項ニ關スル本協定第一附屬書ノ規定ヲ適用スヘシ

第二

賠償委員會ハ專門家計畫ヲ實施シ且其ノ永續的實行ヲ確保スル爲及特ニ左記ノ目的ノ爲一切ノ適當ナル措置ヲ執ルコトヲ約ス

（イ）專門家計畫ニ於テ計畫セラレタル獨逸國公債ノ發行ヲ容易ナラシムル爲

（ロ）專門家計畫ヲ充分ニ實施スルニ必要ナル一切ノ財政上及會計上ノ調節ヲ爲ス爲

第三

（イ）賠償委員會及獨逸國政府ハ左記ヲ協定ス各自ノ權限ニ屬スル限リ現ニ倫敦ニ於テ開會中ナル上記會議ニ於テ今後獨逸國政府及同盟國政府間ニ成立スルコトアルヘキ追加協定特ニ專門家計畫ヲ實施スル爲又ハ該計畫實行上ノ細目ノ修正ヲ施ス爲ニ協定セラルルコトアルヘキ規定ヲ實施スルコト右追加協定締結セラルルトキハ第二計畫書トシテ本書ニ追加セラルヘク且賠償委員會ヲ代表スル同委員會委員二名及正當ナル權限ヲ賦與セラレタル獨逸國政府ノ代表者二名ノ署名ニ依リ認證セラルヘシ

（ロ）本協定及其ノ計畫書又ハ專門家計畫又ハ該計畫實施ノ爲制定セラレタル獨逸國法律ノ解釋ニ關シ賠償委員會及獨逸國政府間ニ生スルコトアルヘキ紛爭ハ專門家計畫ノ解釋問題ニ對シ倫敦會議ニ依リ決定セラルル方法ニ據リ且右ニ依リ確定セラルヘキ條件ニ從ヒ仲裁裁判ニ付セラルヘシ

右規定ハ專門家計畫、上記獨逸國法律又ハ本協定附屬書ニ含マルル仲裁裁判條項ノ效力ヲ妨クルモノニ非ス

第四

專門家計畫ヲ實施スル目的ノ爲倫敦會議ニ於テ同盟國政府及獨逸國政府間ニ協定成立セサルトキハ本協定ハ無效タルヘシ

賠償委員會ヲ代表シテ署名ス

ルイ、バルツー

ジョン、ブラッドブリ

サルヴァゴ、ラッギ

レオン、デラクロア

獨逸國政府ヲ代表シテ署名ス

マルクス

千九百二十四年八月九日倫敦ニ於テ

千九百二十四年八月九日獨逸國政府及賠償委員會間ニ締結セラレタル協定ノ附屬書

獨逸國ノ豫算ヨリ爲サルヘキ支拂並關稅及酒精、煙草、麥酒、砂糖ノ諸稅ヨリ生スル收入ニ對スル監理ノ設置ニ關スル議定書

第一章　豫算上ノ支拂

一　獨逸國ハ每年賠償支拂取扱人ニ對シ其ノ豫算ヨリ左ノ額ヲ支拂フコトヲ要ス

（イ）專門家計畫實施ノ第三年即チ千九百二十六—千九百二十七年ニ於テ一億一千萬金貨「マルク」

（ロ）專門家計畫實施ノ第四年即チ千九百二十七—千九百二十八年ニ於テ五億金貨「マルク」

（ハ）專門家計畫實施ノ第五年及爾後ノ年度即チ千九百二十八年以後ニ於テ十二億五千萬金貨「マルク」

（此等ノ支拂ハ運送稅ヲ包含セス）

二　第三章ニ於テ確定セラルル監理收入全部ノ收益カ第三年ニ於テ十億ヲ超過シ又ハ爾後ノ年度ニ於テ十二億五千萬ヲ超過スル場合ニ於テハ豫算上ノ支拂ハ右超過額ノ三分ノ一ニ相當スル額タケ增加セラルヘシ但シ右增加額ハ二億五千萬「マルク」ヲ超過スルコトヲ得ス

之ニ反シ右收入全部カ第三年ニ於テ十億ニ達セス又ハ第四年ニ於テ十二億五千萬ニ達セサル場合ニ於テハ各支拂總額ハ右不足額ノ三分ノ一タケ減少セラルヘシ但シ右減少額ハ二億五千萬ヲ超ユルコトヲ得ス

豫算上ノ支拂額カ增加セラレ又ハ減少セラルル額ハ各年ノ末ニ於テ確定セラルヘシ右ニ依リ必要ト爲ルヘキ追加支拂又ハ拂戾ハ次年度ノ第三、第四、第五及第六月ノ各月ニ於テ四分ノ一宛支拂フコトニ依リ行ハルヘシ

三　本議定書ニ基キ獨逸國ニ依リ又ハ獨逸國ノ爲ニ賠償支拂取扱人ニ爲サルヘキ一切ノ支拂ハ「ライヒスバンク」ニ對シ金貨「マルク」又ハ之ニ相當スル獨逸國通貨ヲ以テ爲サルヘシ

本規定ノ適用ニ付テハ一金貨「マルク」ハ倫敦相場ニ於ケル純金二千七百九十分ノ一瓩ノ價値ニ均シキモノト認メラルヘシ右價値ハ支拂日ヨリ三日前ノ市場日ニ於ケル倫敦ノ金ノ價格ヲ基礎トシテ決定セラルヘシ獨逸國通貨ニ換貨スルハ各割賦金支拂日ヨリ三日前ニ於ケル倫敦宛電報爲替ニ對スル伯林株式取引所ノ最後ノ公定相場ノ平均相場（「中相場」）ヲ基礎トスヘシ合意ニ依リ支拂カ支拂日前ノ期日ニ爲サルヘキ場合ニハ換貨ノ目的ノ爲事實上支拂ヲ爲ス日ヲ以テ支拂日ニ代フヘシ

第二章　豫算上ノ追加的支拂

一　計畫實施ノ第六年ヨリ即チ千九百二十九年—千九百三十年以後標準年度（千九百二十八年）ニ對シ規定セラルル豫算上ノ支拂ヲ增加スルハ左記ノ繁榮指數ニ從フヘシ

二　指數確定ノ目的ノ爲ニ左記ノ統計的材料使用セラルヘシ

（イ）獨逸國ノ輸出及輸入ヲ合シタル總額

（ロ）豫算上ノ收入及支出ヲ合シタル總額

右ハ「プロシア」「サクセン」及「バヴァリア」ノ各邦ノ豫算上ノ收入及支出ノ總額ヲ含ム但シ當該年度ノ平和條約上ノ支拂額ハ之ヲ双方ヨリ控除ス

（ハ）運送セラレタル重量ノ統計ニ依リ測定セラルル鐵道運輸額

（ニ）消費者ノ現實ニ支拂ヒタル價格ニ依リ測定セラルル獨逸國ニ於ケル砂糖、煙草、麥酒及酒精ノ消費ノ總金錢價格

（ホ）最近ノ國勢調査、動態統計及移民統計ヨリ計算セラレタル獨逸國ノ總人口

（ヘ）一人當石炭及褐炭（之ニ相當スル石炭ニ換算シタル）ノ消費量

三　基礎數ノ計算ニ當リ（ロ）豫算上ノ收入及支出（ホ）人口數及（ヘ）一人當石炭消費量ニ付テハ千九百二十七年、千九百二十八年及千九百二十九年ノ三年ノ平均統計ヲ採ルヘク其ノ他ノ項目ニ付テハ千九百十二年、千九百十三年、千九百二十六年、千九百二十七年、千九百二十八年及千九百二十九年ノ六年ノ數字ヲ採ルヘシ後者ノ場合ニハ最初ノ二年ヲシテ最後ノ四年ト比較シ得ヘキモノタラシムル爲人口數ノ差異及金價値ノ變動ヲ斟酌スヘシ基礎數ト比較セラレタル右六組ノ各ノ百分率ノ變動ハ之ヲ各別ニ計算シ之ニ依

テ得タル六個ノ百分率ノ算術的平均ヲ指數トシテ採用スヘシ

四　千九百二十九年—千九百三十年乃至千九百三十三—千九百三十四年ノ五年間ハ各年ノ追加額ヲ得ル爲指數ハ十二億五千萬ノ額即チ標準支拂額ノ半額ニノミ適用セラルヘク爾後即チ千九百三十四—千九百三十五年以後ハ標準支拂額即チ二十五億ニ適用セラルヘシ

五　追加支拂額ノ計算ハ二分ノ一「パーセント」以上ノ指數ニ付テノミ之ヲ行フヘシ即チ平均指數十一「パーセント」三五ハ十一「パーセント」トシテ計算セラルヘシ

六　追加額アルトキハ右ハ計畫實施ノ各年末ニ於テ前曆年ノ數字ノ基礎ノ上ニ算出セラルヘク其ノ結果ハ賠償委員會ニ通知セラルヘシ千九百二十九—千九百三十年ニ對スル追加額ハ千九百二十九年自體ノ統計ヲ基礎數ト比較シテ算出セラルヘク且千九百三十—千九百三十一年ノ第四月末前ニ支拂ハルヘシ

七　或年度ノ指數カ追加額トシテ負數額ヲ表示シタル場合ニハ平常支拂額ハ引續キ支拂ハルヘシ但シ爾後ノ追加支拂ハ之ヨリ前諸年度ノ右不足額即チ負數額ヲ控除シタル後ニ非サレハ之ヲ支拂フヲ要セス

八　指數算出ノ規則並指數ノ諸要素ヲ供給スル統計カ能フ限リ正確且疑ナキモノタルコトヲ確保スル爲使用セラルル材料及方法ノ詳細ハ四名ヨリ成ル委員會之ヲ定ムヘシ右ノ內二名ハ獨逸國政府ニ依リ他ノ二名ハ賠償委員會ニ依リ任命セラルヘシ獨逸國政府ハ獨逸國統計局ヲシテ委員會ノ指示シタル方法ニ從ヒ指數ヲ算出セシムヘシ

委員會ハ（イ）及（ヘ）（第二章ノ二）ノ計算ノ基礎ヲ爲ス統計（特ニ申告及表）ヲ確ムルノ權限ヲ有ス

右統計ハ右ト同一ノ條件ノ下ニ且請求ニ依リ監理收入監理人ニ通知セラルヘシ

右各種ノ問題ニ付委員會ノ委員ノ意見一致セサル場合ニハ委員會ハ國際聯盟財政部ニ對シ議長ノ任命ヲ請求スヘシ獨逸國政府ノ要求アルトキハ右議長ハ獨逸國ノ國籍ヲ有スル者及賠償委員會ニ代表セラルル國ノ國籍ヲ有スル者タルコトヲ得ス

指數ノ基礎タルヘキ統計及其ノ適用又ハ指數自體ノ算出ニ關シ獨逸國政府及賠償委員會間ニ生スル紛爭ハ右委員會ニ依リ右ト同一ノ手續ニ依リ解決セラルヘシ

九　千九百二十八年以後何レノ年ニ於テモ獨逸國政府、賠償委員會及賠償委員會ニ代表セラルル政府ハ何レモ金ノ一般購買力カ千九百二十八年ニ比シ一割以上變化シタルコトヲ理由トシテ獨逸國ノ債務ノ改訂ヲ要求スルコトヲ得右改訂ハ標準支拂及指數ニ依リ確定セラルル追加支拂ノ兩者ニ之ヲ適用スルコトヲ得但シ後者ニ關シテハ金ノ購買力ノ變化カ既ニ繁榮指數ノ諸要素ノ數字決定ニ關係セサリシ場合ニ限リ之ヲ適用スヘシ意見ノ一致ヲ見サル場合ニハ國際聯盟ノ任命スル仲裁委員會ニ依リ決定セラルヘシ右決定後ハ變更セラレタル基礎ハ當事者ノ一方カ變更ノ適用アリタル年以來更ニ一割以上ノ變化アリタルコトヲ主要スル迄各年ニ付引續キ維持セラルヘシ

本項ニ基ク變更ハ一般ニ承認セラルル物價指數（獨逸國ノ物價又ハ其ノ物價ニ付）ニシテ當事者カ合意シ又ハ仲裁裁判ニ依リ決定セラルヘキモノノ偏倚又ハ組合セニ基キ行ハルヘシ

第三章　擔當收入ノ監理

一　獨逸國政府ハ獨逸國豫算上ノ支拂（第一章及第二章）ニ對スル保障トシテ並獨逸國政府カ獨逸國鐵道株式會社定款及工業負擔法ノ下ニ規定セラレタル支拂ニ對シ供與シタル擔保ニ對スル附隨的保障トシテ關稅並酒精、煙草、麥酒及砂糖ノ諸稅ヨリノ收入ヲ擔當テ且之ヲ左ノ條件ノ下ニ監理ニ付スヘシ

二　監理ノ實行ハ當該事項ニ關スル經驗及能力ノ一般ニ認メラレタル監理人ニ委託セラルヘシ右監理人ハ賠償委員會ニ依リ任命セラルヘク且同委員會ニ對シ責任ヲ負フヘシ五箇ノ擔當收入ノ各ニ對シ監理人ハ監理ノ實行ニ付輔佐ヲ受クル爲一名ツツノ副監理人ヲ有スヘシ

監理人ハ諮問委員會ノ輔佐ヲ受クヘシ右諮問委員會ニ對シ亞米利加合衆國、佛蘭西國、大不列顛國、伊太利國及白耳義國ハ各一名ノ代表者ヲ任命スヘシ

三　獨逸國ノ當該官廳ハ擔當收入ヲ監理人ニ引渡スヘシ右引渡ハ監理人ニ依リ指定セラルヘタ「ライヒスバンク」ノ支店ニ於ケル監理人ノ勘定ニ左ノ方法ニ依リ遲クトモ各月二十日ニ之ヲ爲スヘシ

（イ）十個ノ最重要ナル租稅金庫ハ五個ノ監理收入ニ關シ前月中ニ自ラ徵收シタル金額全部ヲ直接ニ引渡スヘシ

（ロ）上級財政金庫ハ五個ノ監理收入ニ關シ前月中ニ自ラ又ハ上記（イ）ニ揭ケタルモノヲ除ク租稅金庫カ徵收シタル金額全部ヲ引渡スヘシ

（ハ）酒精專賣局ハ前月中ニ自ラ徵收シタル酒精專賣收入ノ全額ヲ支拂フヘシ

支拂ハルヘキ金額ハ關稅並煙草、麥酒及砂糖ノ諸稅ノ場合ニハ總收入又酒精專賣ノ場合ニハ純收入タルヘシ

現會計年度ニ對スル（イ）ノ意義ニ於ケル十個ノ最重要ナル租稅金庫トハ現會計年度ノ最初ノ三月中ニ於テ獨逸國ノ爲ニ關稅並煙草、麥酒及砂糖ノ諸稅ヨリ最大ノ收入ヲ徵收シタルモノヲ云フ爾後ノ會計年度ニ對シテハ最大ノ租稅金庫トハ常ニ前曆年中ニ於テ監理收入ヨリ最大ノ收入ヲ擧ケタルモノヲ云フ

監理收入ヨリ生スル收入額ハ收稅官廳ニ設ケラルル各別ノ收入勘定ニ振込マルヘシ右金額ハ監理人ノ勘定ニ引渡サルル時迄上記（イ）（ロ）及（ハ）ニ揭ケラレタル支拂官廳ニ之ヲ留置キ以テ右支拂官廳カ自己ニ對シ直接ニ支拂ハレ又ハ引渡サレタル額ニ均シキ金額ヲ常ニ處分シ得ヘキコトヲ確保スヘシ

獨逸國ノ租稅收入ニ關スル每月ノ政府報告書ニ於テハ擔當收入ハ別個ノ項目ノ下ニノミ揭載セラルヘシ

四　監理人ハ引渡サレタル金額ヲ左ノ方法ニ依リ處分スヘシ

（イ）獨逸國カ其ノ通常豫算ヨリ支拂ヲ爲スノ義務ヲ負ハサル第一年及第二年即チ千九百二十四年—千九百二十五年及千九百二十五年—千九百二十六年ニ於テ監理人ハ自己ノ勘定ニ支拂ハレタル金額ハ監理人カ擔當收入ノ收益ヨリ生スル金額全部ヲ受取リタルトキ直ニ獨逸國政府ニ返還セラルヘキ旨五ノ第二項及十六ニ從ヒ命令スヘシ

（ロ）第三年以後ハ監理人ハ每月ノ支拂額ヨリ當該年度ノ豫算上ノ債務ノ十分ノ一ヲ償フニ必要ナル額ヲ保留スヘシ

（第一章及第二章參照）

但シ右保留金額中ヨリ監理人ハ每月賠償支拂取扱人ニ對シ當該年度ニ對スル豫算上ノ債務十二分ノ一ヲ引渡スヘシ監理人ハ其ノ殘額ヲ利子ヲ合シ一億金貨「マルク」ニ達スル迄積立金トシテ積立ツヘシ爾後積立金カ一億金貨「マルク」ヲ持續スル限リ監理人ハ每月支拂額ヨリ當該年度ノ豫算上ノ債務ノ十二分ノ一ヲ償フニ必要ナル額ノミヲ保留スヘシ

上記ノ規定ニ從ヒ監理人ニ依リ保留セラレサル金額ハ擔當收入ヨリ生スル每月ノ受取額全部カ監理人ニ引渡サレタル時ヨリ遲クトモ一週內ニ監理人ニ依リ獨逸國政府ニ返還セラルヘシ

積立金ハ擔當收入カ或月ニ於テ當該年度ノ豫算上ノ債務ノ十二分ノ一ニ達セサル場合其ノ不足ヲ補フコトヲ第一ノ目的トス積立金カ不足ヲ補フ爲引出サレタル場合ニハ積立金ハ上記ノ手續（積立金カ再ヒ一億金貨「マルク」ニ達スル時迄每月十二分ノ一ノ代リニ十分ノ一及利子ヲ保留ス）ニ從ヒ再ヒ充塡セラルヘシ

監理人ハ積立金ノ金錢ヲ最有利ナル方法ニテ投資スルノ義務ヲ有ス但シ之カ爲監理人

ハ監理人ニ缺クヘカラサル行動ノ自由ヲ失フヘカラス利子ハ積立金ニ繰込マルヘク積立金カ一億金貨「マルク」ニ達シタルトキ以後ハ獨逸國政府ニ引渡サルヘシ

五　鐵道債券及工業債券ノ利子及減債基金ノ支拂カ支拂日ニ行ハレス又ハ全額ニ付行ハレス且右債券ノ受託人カ監理人ニ對シ右利子及減債基金ニ付爲サルヘキ支拂ヲ要求シタル場合ニハ監理人ハ四ニ揭クル積立金ヲ使用スヘシ積立金カ不足額ヲ償フニ不充分ナル限定ニ於テ監理人ハ受託人ニ依リ要求セラレタル支拂ヲ爲ス爲及積立金ヲ舊狀ニ復スル爲充分ナル額迄上記ノ規定ニ從ヒ獨逸國政府ニ返還セラルヘキ金額中ヨリ保留スヘシ積立金カ不足額ヲ償フニ充分ナル場合ニモ積立金ヲ原狀ニ復スル爲同一ノ手續ヲ採用スヘシ監理人ハ資金ヲ返還スル代リニ獨逸國政府ニ對シ支拂濟ノ利札及債券ヲ引渡スヘシ

鐵道債券受託人又ハ工業債券受託人カ右債券ノ利子及減債基金ニ對スル定期支拂カ支拂期日ニ行ハレス又ハ全額ニ付行ハレサルノ虞アルコトヲ監理收入監理人ニ通告シタル場合ニ於テハ監理人ハ受託人ニ依リ通告セラレタル生スルコトアルヘキ不足額ヲ償フニ充分ナル額ヲ右通告ノ日ヨリ保留スルノ權利ヲ有ス右通告ハ上記ノ各別ノ利子及減債基金ノ支拂日前六週以後及計畫實施ノ第二年以後ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得積立額カ當該ノ利子及減債基金ノ金額ノ支拂ノ爲必要ナラサルニ至リタルトキハ直ニ且必要ナラサルニ至リタル限度ニ於テ右金額ハ其ノ利子ト共ニ獨逸國政府ニ拂戻サルヘシ

六　專門家報告書ノ實施ノ日ヨリ監理人ハ左ノ權利ヲ有スヘシ

（イ）監理人ハ一切ノ振當收入カ規則的ニ納稅者ヨリ徵收セラレ且監理機關ヲ通過シタリヤ否ヤヲ確認スルコトヲ得ル爲每月監理收入ノ各ニ付其ノ全體及收稅官廳別ノ連續的報道ヲ包含スル認證セラレタル表ヲ交付セラルヘシ右ノ外監理人ハ獨逸國會計官廳ノ起草ニ係ル監理收入ノ收益ヲ表示スル月報ノ基礎ヲ爲シ且獨逸國本金庫ノ監理收入勘定作成ノ基礎ヲ爲ス文書ヲ檢閲スルノ權利ヲ有スヘシ

（ロ）更ニ監理收入ニ關スル一切ノ法律案及命令ハ監理人ニ通知セラルヘシ公布ノ爲獨逸國議會ノ同意ヲ要スル法律案及命令ハ獨逸國議會ニ通知セラルルト同時ニ又其ノ他一切ノ命令ハ地方財政官廳ニ通知セラルルト同時ニ監理人ニ通知セラルヘシ振當收入ノ徵收及勘定ニ關スル地方財政官廳宛囘章ハ同官廳ニ通知セラルルト同時ニ監理人ニ通知セラルヘシ

監理人及副監理人ハ絕エス獨逸國大藏省ト連絡ヲ保ツヘシ監理人及副監理人ハ大藏大臣自身並當該次官及局長ト面會スルコトヲ得右局長ハ監理人、副監理人及其ノ代表者ヲシテ其ノ任務遂行ノ爲有用ナルヘキ官吏ト永續的連絡ヲ保タシムルニ努ムヘシ監理人ハ其ノ任務遂行ノ爲有益ナリト思考スル報道ヲ請求スルノ權利ヲ有ス獨逸國大藏省ノ當該局ハ能フ限リ速ニ右報道及必要ナル書類及材料ヲ監理人ニ提供スヘシ監理人ハ又右報道ヲ獲得スル目的ノ爲財政監督ニ服スル地方官廳及工場ニ臨檢スルコトヲ得且上記ノ官廳ニ於テ振當收入ニ關スル帳簿及書類ヲ檢閲スルコトヲ得監理人ハ又同一ノ目的ノ爲其ノ代表者又ハ專門家ヲ派遣スルコトヲ得右臨檢ヲ爲ス場合監理人又ハ其ノ代理人ハ獨逸國大藏省ノ任命スル官吏ニ同伴セラルヘシ但シ必要ナル時ニ同伴官吏ヲ得ルコト能ハサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

七　六ニ揭ケラルル監理人ノ權利ハ左ノ場合ニ於テ擴張セラルヘシ

（イ）監理人ノ勘定ニ拂込マレタル振當收入ノ金額カ引續キ三月間每月該年度ノ豫算上ノ債務ノ十二分ノ一ノ十二割ニ達セサル場合（第一章及第二章參照）又ハ

（ロ）關係法律殊ニ稅率ニ變更ナキトキ引續キ六月間監理人ノ勘定ニ拂込マレタル振當收入ノ金額カ全額ニ於テ前年ノ相當月ノ金額ノ三割五分以上不足スルカ若ハ前二年ノ相當月ノ平均金額ノ三割以上不足スル場合又ハ

（ハ）關係法律殊ニ稅率ニ變更ナキトキ引續キ六月間監理收入ノ一ヨリ生スル收益全額カ前年ノ相當月間ノ收益ノ五割以上不足スル場合

監理人カ個別的ニ又ハ併行的ニ行使シ得ヘキ擴張權利ハ左ノ如シ

（イ）監理人ハ獨逸國大藏大臣カ現行法ニ依リ賦與セラレタル權限ヲ與フ限リ嚴重ニ且其ノ最大限度迄振當收入ノ收益ヲ增加スル爲行使スヘキコト或ハ監理人ノ權利ノ擴張ノ基礎タル條件カ存在セサルニ至ルトキ迄租稅ノ全部若ハ一部ノ返還又ハ支拂猶豫ノ如キ現行法ノ下ニ於テ許與セラルル便益及輕減ヲ取消スヘキコトヲ提議スルコトヲ得

監理人ハ右提議ヲ爲スニ當リ經濟的必要殊ニ輸出ニ關スルモノヲ財政的必要ト兩立シ得ル最大限度迄斟酌スヘシ

（ロ）監理人ハ關稅ノ場合ヲ除キ收益ノ減少シタル收入ニ對スル稅率ヲ輕減スル措置ヲ拒否スルコトヲ得又收益ノ減少シタル一切ノ收入ノ場合ニ付個別ノ輕減ニ對シ又ハ右收入ノ收益ヲ減少若ハ遲延セシムルノ虞アル一般的性質ヲ有スル措置ニ對シ抗議スルコトヲ得從テ監理收入ニ關スル一切ノ法律案及命令竝地方財政官廳ニ囘付セラルル監理收入ノ徵收及勘定作成ニ關スル一切ノ囘章ハ獨逸國議會又ハ地方財政官廳ニ交付セラルル前ニ監理人ニ通知セラルヘシ法律案其ノ他ノ通知ノ日ヨリ一週以內ニ監理人カ抗議セサルトキハ監理人ハ右法律案其ノ他ニ付同意シタルモノト推定セラル

（ハ）監理人ハ其ノ代理人又ハ專門家ニ對シ或收入ノ收益ノ減少ノ特別原因ヲ確ムヘキコトヲ命令スルヲ得右目的ノ爲監理人ハ獨逸國大藏省ニ通告シタル上一定ノ地方財政官廳、地方稅關官廳又ハ其ノ雙方ニ代表者又ハ專門家ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニハ右代表者又ハ專門家ノ受任事項ノ實行ヲ容易ニシ且代表者又ハ專門家ヲシテ官廳ノ內外事務ノ詳細ヲ知ラシムル爲獨逸國ノ官吏一名ヲ之ニ附スヘシ

（ニ）監理人ハ第三章三ニ規定セラルル上級財政金庫ニ依ル監理收入ノ收益ノ送金ニ付不規則ヲ生シタルコトヲ認ムルトキハ直接支拂ヲ爲スノ義務アル重要租稅金庫ノ數ヲ十一箇以上ニ增加スヘキコトヲ要求スルノ權利ヲ有ス

八　監理人ノ擴張權利ハ右擴張ノ原因タル事由カ存在セサルニ至リ且右新事態カ三月間維持セラレタルトキヲ以テ終止ス

左記何レカノ場合ニ於テ獨逸國政府ハ從來振當テラレタル收入ト合シ每月當該年度ノ豫算上ノ債務ノ少クトモ十分ノ一ニ相當スル額（第一章及第二章參照）ヲ生セシムルニ足ル右以外ノ間接稅ヲ從來ノ振當收入ノ擔保ヲ規定スル條件ト同一ノ條件ヲ以テ一時的ニ擔保ニ振當ツヘシ

（イ）監理收入ノ收益減少シ積立金全部ノ使用ニ拘ラス引續キ三月ニ亙リ又ハ大藏大臣カ監理人ノ爲シタル提議（七第二項（イ））ヲ實行セサリシ場合ニハ二月ニ亙リ每月監理人カ賠償支拂ニ對シ支拂期限到來セル豫算上ノ債務ノ十二分ノ一（第一章及第二章參照）ヲ支拂フコト能ハサルニ至リタルトキ

（ロ）獨逸國大藏大臣カ監理人ノ爲シタル提議ヲ實行セス且監理人カ其ノ提議ヲ爲シタル時ヨリ起算シ第四月、第五月及第六月中監理人ニ引渡サレタル振當收入ノ收益[illegible]分カ再ヒ當該年度ノ豫算上ノ債務ノ十二分ノ一ノ十二割ニ達スヘキコトヲ確保スヘキ限度迄振當收入ノ收益カ增加セサリシトキ

最初ノ振當收入カ單獨ニテ引續キ三月間再ヒ當該年度ノ豫算上ノ債務ノ十二分ノ一ノ

十二割以上ニ相當スル額ヲ生シタルトキハ新租稅ノ一時的擔保ハ終止スヘシ之ト同時ニ監理人ノ權利ハ縮少シテ再ヒ六ニ揭クル權利ニ復スヘシ

九　他方新舊擔保租稅ノ全收益ノ合計減少シ引續キ三月間ニ少クトモ當該年度ノ豫算上ノ債務ノ十分ノ三ヲ償フニ足ル額ヲ引渡スコト能ハサルニ至リタル場合ニハ監理人ハ左ノ權利ヲ有スヘシ

監理人ハ賠償支拂取扱人ト協議ノ上現存ノ缺陷ヲ補塡スル爲及不足額ヲ生セシメタル租稅收入ノ收益ヲ增加スル爲必要且適當ナリト認ムル措置ノ實行ヲ要求スルコトヲ得右措置カ執ラレ及適用セラレ且擔保トシテ振當テラレタル租稅カ少クトモ引續キ四月間每月豫算上ノ債務ノ少クトモ十分ノ一ニ相當スル額ヲ生シ大藏大臣及監理人カ右措置ハ最早必要ナラスト思考スルトキハ右措置ハ全部又ハ一部廢止セラルヘシ

十　右措置カ現行法ノ範圍內ニ在ル場合直ニ實行セラレサルトキ及現行法ノ變更ヲ必要トスル場合二月內ニ實行セラレサルトキ又ハ右措置ノ結果右措置ノ實施ノ日ヨリ遲クトモ第四月ニ當該年度ノ豫算上ノ債務ノ少クトモ十分ノ一カ引渡サルルニ至ラサルトキハ監理人ハ賠償支拂取扱人ト協議ノ上該收入ノ管理カ變更セラルヘキコトヲ要求スルコトヲ得右目的ノ爲監理人ハ國家ヨリ獨立スル一個又ハ數個ノ自治的機關カ組織セラレ右不足ヲ惹起シタル種類ノ不充分ナル課稅ヲ管理スヘキコトヲ要求スルヲ得但シ獨逸國大藏大臣ノ要求アル場合ニハ右ノ如キ組織ノ變更ハ十四ニ揭ケラルル仲裁裁判者カ右措置ノ租稅收入ヲ增加シ以テ豫算上ノ年次債務ヲ保障スルニ必要且適當ナルモノナルコトヲ決定シタル後ニ於テノミ實行セラルヘシ（第一章及第二章參照）

十一　獨逸國政府ハ監理人ノ同意アルニ非レハ酒精、煙草、麥酒及砂糖ニ關スル振當租稅ノ稅率ヲ輕減スルコトヲ得ス

十二　監理人ハ獨逸國政府ノ關稅率政策ニ對シ一切ノ干涉ヲ避クヘシ

十三　本議定書ノ一切ノ規定ハ監理收入ノ監理ヲ委託セラレタル者及監理人ニ依リ任命セラレタル專門家カ其ノ監理ニ關聯シ知リタル事實ニ付其ノ職務執行中ニ非サルトキノミナラス其ノ監理者トシテノ行動期間終了後ニ於テモ最嚴重ナル祕密ヲ守ルヘキコト竝殊ニ各種關係事業ノ財政上及取引上ノ祕密ノ犯サレサルヘキコトヲ保障スル樣解釋セラレ且適用セラルヘシ

十四　本議定書ノ解釋ニ關シ殊ニ監理人ノ享有スヘキ權利ニ關シ監理人及獨逸國政府間ニ意見ノ相違生シタルトキハ右意見ノ相違ハ獨逸國政府又ハ監理人ノ請求ニ基キ海牙ニ於ケル常設國際司法裁判所ノ當時ノ裁判所長ニ依リ任命セラルル仲裁裁判者ニ依リ決定セラルヘシ右仲裁裁判者ハ獨逸國政府ノ請求アルトキハ獨逸國ノ國籍ヲ有スル者及賠償委員會ニ代表セラルル國ノ國籍ヲ有スル者タルコトヲ得ス十二ニ依リ規定セラルル場合ヲ除キ仲裁裁判者ニ對スル訴ハ行動ヲ停止スルノ效力ヲ有セス

十五　監理人、副監理人及其ノ部員全部ノ一切ノ經費ハ獨逸國ニ依リ支拂ハルヘキ確定年次金ノ一部ヲ以テ之ニ充ツヘク右確定年次金ヲ增加スヘカラス監理人ノ正當ナル要求カ獨逸國ノ行政官廳ノ容ルル所ト爲ラサリシ事實ニ因リ發生シタル監理ノ追加的經費ハ第一章及第二章ニ揭ケラルル豫算上ノ債務ノ外ニ獨逸國政府ニ依リ負擔セラルヘシ十四ニ規定セラルル仲裁裁判者ハ獨逸國カ右ノ如キ債務ヲ負擔スヘキヤ否ヤ又負擔スヘキ場合ニ於ケル負擔ノ程度ヲ決スヘシ

十六　獨逸國鐵道會社ノ優先株ノ賣却又ハ內債カ計畫實施ノ第二年中ニ支拂フヘキ特別債務額二億五千萬金貨「マルク」ヲ償フニ足ル額ヲ生セサルノ危險該年度ノ最後ノ三月ノ始ニ於テ起ルトキハ賠償支拂取扱人ノ請求ニ依リ監理人ハ該年度ノ最後ノ三月中及次年度ノ第一月中引渡ヲ受ケタル受領額中ヨリ右不足ヲ償フ爲必要ナル額ノ四分ノ一ツツ每月保留スルノ權利ヲ有ス

十七　或收入ヲ擔保トシテ振當ツルコトニ關スル本章ノ規定ハ第一章及第二章ニ規定セラルル豫算上ノ債務ニ影響ヲ及ホスコトナシ

オーイン、ディー、ヤング

第二附屬書

千九百二十四年八月九日ノ獨逸國政府及賠償委員會間ノ協定ニ關スル同盟國政府及獨逸國政府間ノ協定

倫敦ニ會合シタル政府代表者ハ

千九百二十四年八月九日倫敦ニ於テ署名セラレタル獨逸國政府及賠償委員會間ノ協定ノ條項竝該協定第三ニ基キ解決ヲ完了スルコトヲ要スル諸問題ヲ了承シ

左記ノ條項ヲ以テ該協定ノ一部タラシムルコトヲ約ス

第一條項

千九百二十四年八月九日ノ前記協定第三（ロ）ニ規定セラルル紛爭解決ノ手續ハ左ノ如クナルヘシ

「ヴェルサイユ」條約第八編第二附屬書十二ニ依リ賠償委員會ニ付與セラレタル解釋權及右以外特ニ專門家計畫又ハ右計畫實施ノ爲制定セラルル獨逸國法律中ニ規定セラルル仲裁裁判條項ヲ留保シ賠償委員會及獨逸國間ニ締結セラレタル協定、專門家計畫又ハ右計畫實施ノ爲制定セラルル獨逸國法律ノ解釋ニ關シ右兩者間ニ生スルコトアルヘキ一切ノ紛爭ハ五年ノ任期ヲ以テ任命セラルル三名ノ仲裁裁判者ノ決定ニ付セラルヘシ仲裁裁判者ノ一名ハ賠償委員會ニ依リ、一名ハ獨逸國政府ニ依リ竝議長ノ職務ヲ行フヘキ他ノ一名ハ賠償委員會及獨逸國政府間ノ協定ニ依リ又ハ右協定成立セサルトキハ常設國際司法裁判所ノ當時ノ裁判所長ニ依リ任命セラルヘシ

係爭問題ノ最終決定ヲ爲ス前ニ於テ且之ニ影響ヲ及ホスコトナク議長ハ當事者一方ノ請求アルトキハ計畫ノ規則的實行ノ中止ヲ避ケ及各當事者ノ權利ヲ保障スル爲適當ナル暫行的措置ヲ命スルコトヲ得

仲裁裁判者ノ反對ノ決定ナキ限リ手續ハ國際紛爭平和的處理ニ關スル千九百七年十月十八日ノ海牙條約ノ規定ニ依ルヘシ

第二條項

獨逸國政府ハ左ノ如ク宣言ス

（イ）獨逸國政府ハ賠償委員會（引渡委員會ト協議シタル上）又ハ下記（二）ニ規定セラルル仲裁委員會カ隨時決定スル計畫[illegible]ラルル物品又ハ役務殊ニ石炭、骸炭、染料及「ヴェルサイユ」條約ニ特ニ規定セラルル其ノ他ノ物品（此等物品ニ關スル該條約ノ義務履行後ニ於テモ）ノ商慣習[illegible]引渡ニ對スル支拂ニハ引渡委員會[illegible]分シ得ヘキ資金ヲ專門家報告書[illegible]ヒ自由ニ使用シ得ヘキモノナルコト

（ロ）獨逸國政府ハ通常ノ取引條件[illegible]ルヘキ引渡ノ爲賠償委員會（引渡委員會ト協議ノ上）又ハ下記（二）ニ規定セ[illegible]委員會ノ決定スル計畫ハ生產品[illegible]シテハ「ヴェルサイユ」條約ニ依[illegible]會カ獨逸國ヨリ要求シ得ヘキ引[illegible]該條約上ノ制限ニ服セサルモノ[illegible]ト但シ右計畫ハ獨逸國ニ於ケル同國ノ原料品供給ノ狀況、同國ノ經濟的生活ノ維持ニ必要ナル限[illegible]內國ノ需要竝專門家報告書ニ揭[illegible]制限ニ適當ナル考量ヲ爲シタル[illegible]ルヘシ

（ハ）獨逸國政府ハ條約又ハ專門家報告書[illegible]ク一切ノ引渡ニシテ通常ノ取引[illegible]締結セラルル商事契約ニ依ルモ[illegible]計畫ノ實行ヲ出來得ル限リ容易[illegible]キコト又特ニ通常ノ取引條件ノ[illegible]獲得スルコトヲ不可能ナラシム[illegible]生スヘキ措置ヲ執ラサルヘク且[illegible]ルヘキコト

同盟國政府ハ又各自其ノ關スル限[illegible]リ受領シタル引渡物品ノ再輸出ヲ出[illegible]

リ防止スヘキコトヲ約ス但シ專門家報告書第六附屬書第五ノ規定ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラス

（二）尙獨逸國政府ハ下記ノ生産品ニ關スル條約上ノ義務ヲ履行シタル後ニ於ケル右生産品ノ引渡ニ關スル計畫ノ決定及實行ニ關スル左記ノ追加的規定ニ同意スルコトヲ宣言ス

（一）賠償委員會ノ委員間又ハ全會一致ヲ以テ行動スル賠償委員會及獨逸國政府間ニ此等生産品ノ引渡ノ計畫ニ關スル合意成立セサル場合ニハ三名ノ獨立且公平ナル仲裁委員ヨリ成ル仲裁委員會ハ本協定第三條項ニ揭クル特別委員會ノ決定スヘキ期間ニ對シ通常ノ商慣習ヲ斟酌シタル計畫ヲ作成スヘシ右仲裁委員會ノ委員ハ全會一致ヲ以テ行動スル賠償委員會及獨逸國政府間ノ協定ニ依リ又ハ右協定成立セサル場合ニハ海牙ニ於ケル常設國際司法裁判所ノ當時ノ裁判所長ニ依リ一定ノ期間ニ對シ豫メ任命セラルヘシ仲裁委員會ノ議長ハ亞米利加合衆國ノ人民タルヘキモノトス

（二）右計畫ノ作成ニ際シ仲裁委員會ハ獨逸國ニ於ケル生産能力、同國ノ原料品供給ノ狀況、同國ノ社會的及經濟的生活ノ維持ニ必要ナル限度ニ於ケル國內需要竝專門家報告書ニ揭ケラレタル條件ヲ考量スヘク又引渡委員會カ獨逸國爲替ノ維持ノ爲決定スヘキ限度ヲ超エサルヘシ

（三）右計畫ヲ定ムル仲裁委員會ノ決定ハ最終的タルヘシ

（四）同盟國ノ政府及國民ハ獨逸國ノ供給者トノ直接ノ商事契約ノ方法ニ依リ此等ノ計畫ニ於テ定メラレタル額全部ノ引渡ヲ獲得スル爲一切ノ努力ヲ爲スヘシ

（五）同盟國政府ハ獨逸國ノ政府又ハ國民ノ故意ノ差別待遇又ハ故意ノ妨害ノ措置ニ因リ該同盟國ノ政府又ハ國民カ計畫ノ額全部ニ付商事契約ヲ締結スルコト能ハサリシト思惟スルトキハ仲裁委員會ニ對シ理由ヲ附シタル申請ヲ爲スコトヲ得仲裁委員會ハ當事者ノ主張ヲ聽取シタル後上記（二）ニ揭ケタル條件ヲ考量シ事實上獨逸國政府又ハ獨逸國ノ供給者ニ於テ故意ノ差別待遇又ハ故意ノ妨害ノ措置アリタリヤ否ヤヲ衡平ノ問題トシテ決スヘシ

（六）仲裁委員會カ本問題ヲ肯定的ニ決定シタル場合ニハ同委員會ハ其ノ決定スヘキ數量カ其ノ決定スヘキ條件殊ニ價格ニ關スル條件ニ於テ引渡サルヘキコトヲ確保スヘキコトヲ獨逸國政府ニ要求スヘシ

（七）仲裁委員會ノ決定ノ解釋ニ關シ生スルコトアルヘキ紛爭ハ最終的決定ノ爲同委員會ニ付セラルヘシ

（八）本條項ノ規定ハ專門家報告書ニ揭ケラレタル引渡委員會ノ權限ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非ス

上記ノ手續ハ左記ノ生産物ニ之ヲ適用ス

（一）石炭、骸炭及褐炭ノ煉炭

（二）合成法ニ依ル硫酸「アンモニア」及其ノ他ノ合成含窒素生成物、右後者ノ要求ハ合成硫酸「アンモニア」ノ要求ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ要シ且同一製造期間ニ於ケル硫酸「アンモニア」ニ比例シ該生産物カ製造セラルル數量ノ限度內ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

（三）「ヴェルサイユ」條約（英文）第八編第六附屬書五ニ揭クル生産物但シ化學藥品ニ關シ單一ノ製造所ニ依リ製造セラルル特殊品ヲ除ク

（二）及（三）ノ生産物ニ關シテハ（二）ノ特別規定ハ千九百二十八年八月十五日ニ於テ其ノ適用ヲ終止ス

上記（二）及（三）ノ生産物ニ關シテハ第三條項ニ規定セラルル特別委員會ハ更ニ詳細ナル表ヲ作成スヘシ右委員會ハ右生産物ノ或モノニ對シテハ重量又ハ價格ニ付最大限ヲ定ムルコトヲ得ヘク又或種ノ生産物カ獨逸國民經濟ノ保護ニ缺クヘカラスト認メラルルトキハ之ヲ除外スルコトヲ得ヘシ

第三條項

獨逸國政府ハ夫々賠償委員會及獨逸國政府ニ依リ任命セラルヘキ同數ノ同盟國代表者及獨逸國代表者ヨリ成ル六名ヲ超エサル特別委員會ノ任命ニ同意ス右委員會ハ意見ノ一致ヲ見サル場合同盟國委員及獨逸國委員ノ合意ニ依リ又ハ右合意成立セサルトキハ賠償委員會ニ依リ任命セラルヘキ中立國人タル委員一名ヲ加フルノ權能ヲ有ス右委員會ハ左記ノ職責ヲ有ス

（一）實物引渡ノ滿足ナル實行ヲ確保スル爲能フ限リ通常ノ商慣習ヲ遵守シテ注文ノ手續及實物引渡ノ實行條件ヲ決定スルコト

（二）獨逸國政府カ本協定第二條項（ハ）及（ニ）ニ依リテ爲スヘキ約定ノ履行ヲ確保スル最善ノ方法殊ニ右履行ニ關シ關係當事者間ニ生スルコトアルヘキ意見ノ不一致ヲ仲裁裁判ニ付シ當事者ハ仲裁裁判者ノ決定ニ拘束セラルヘキコトヲ規定スルコトニ依ルモノヲ審査スルコト

（三）引渡物品ヲ非經濟的性質ヲ具有セサルモノニ制限スルコトニ關スル專門家報告書ノ規定ヲ適用スル最善ノ方法ヲ審査シ且引渡物品ノ再輸出ノ禁止ニ違反スル者ニ對シテ執ルヘキ措置ヲ勸告スルコト

委員會委員ハ其ノ必要ナリト認ムル專門家ノ補助ヲ受クルコトヲ得右委員會ノ事業ハ如何ナル場合ニ於テモ專門家計畫ノ實施ヲ遲延セシムヘカラス又其ノ決定ハ如何ナル場合ニ於テモ該計畫ニ於テ定メラレタル引渡委員會ノ權限ヲ侵スヘカラス從テ其ノ決定ハ實行セラルルニ先チ賠償委員會ニ依リ及引渡委員會ノ關スル限リ之ニ依リ承認セラルルコトヲ要ス本委員會ノ決定ハ獨逸國政府ノ同意アルニ非サレハ修正セラルルコトナキモノトス

第四條項

專門家報告書第六附屬書第六ノ實施ニ關スル左ノ諸點卽チ

（一）或種目ノ財產ヲ表中ニ記入スルコト

（二）表ノ修正

（三）右記入セラレタル種目ノ範圍又ハ

（四）右手續ニ依リ爲サルヘキ投資カ一時的性質ノモノタラサルコトヲ保障スル爲執ラルヘキ措置

ノ一ニ付引渡委員會及獨逸國政府間ニ意見ノ相違生シタル場合ニハ當事者一方ノ請求ニ依リ右紛爭ヲ兩當事者間ノ合意ニ依リテ選定セラレ又ハ右合意成立セサルトキハ海牙ニ於ケル常設國際司法裁判所ノ當時ノ裁判所長ニ依リ指名セラルヘキ一名ノ仲裁裁判者（獨逸國政府カ希望スルトキハ獨逸國賠償支拂ニ關係ヲ有セサル國ノ國民タルヘシ）ノ決定ニ付スヘシ仲裁裁判者ハ爲サレタル要求又ハ申立テラレタル異議カ理由アルモノナリヤ否ヤヲ決定スヘク且右決定ヲ爲スニ當リ第六ニ揭ケタル原則卽チ（一）投資ハ一時的性質ノモノタルヘカラス（二）獨逸國政府ハ其ノ債權者ニ對シ最大限ノ支拂ヲ爲スノ必要ヲ充分ニ考量スヘキコトヲ要求セラルルモ又其ノ國內經濟ニ對スル監理ヲ維持スルコトヲ考量スルノ權利ヲモ有ストノ原則ニ對シ殊ニ考慮ヲ加フヘキモノトス

同盟國政府ハ引渡委員會カ上記第六ノ規定ニ基ク購入ノ爲「マルク」ヲ移轉スルハ積立資金カ發行銀行ニ依リ短期預金トシテ受入レラルル金額ヲ超過スル場合ノミニ限ルコトニ同意ス

第五條項

專門家報告書第六附屬書第八ノ意義ニ於ケル財政上ノ共謀的術策ノ開始セラレタリヤ否ヤノ問題ニ關シ引渡委員會ノ意見カ可否同數ナルトキハ右問題ハ獨立且公平ナル一名ノ仲裁裁判者ニ付託セラルヘク仲裁裁判者ハ委員會ノ各委員ノ意見ヲ聽取シタル上之ヲ決定スヘシ仲裁裁判者ハ引渡委員會委員ノ合意ニ依リ又ハ合意成立セサル場合ニ於テハ海牙ニ於ケル常設國際司法裁判所ノ當時ノ裁判所長ニ依リ選定セラルル財政專門家タルヘシ

右以外ノ一切ノ問題ニ付引渡委員會ノ意見カ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決スヘシ

賠償支拂取扱人ノ處分シ得ヘキ資金カ獨逸國ニ於テ何時ニテモ專門家報告書第六附屬書第十（イ）ニ規定セラレタル五十億金貨「マルク」又ハ同第十（ロ）ニ基キ引渡委員會ノ決定スルコトアルヘキ五十億金貨「マルク」以下ノ金額ノ限度迄積立テラレ且引渡委員會カ該附屬書第八ノ意義ニ於ケル財政上ノ共謀的術策ノ行ハレサリシコト又ハ同第八ニ規定セラレタル術策ヲ失敗ニ終ラシムヘキ一定ノ措置ノ執ルヘカラサルコトヲ過半數ヲ以テ決定シタル場合ニハ引渡委員會ノ小數派ノ各委員ハ八日以內ニ右決定ニ對シ仲裁裁判所ニ上訴スルコトヲ得ヘク右仲裁裁判所ノ決定ハ最終的タルヘシ仲裁裁判所ハ其ノ議長タルヘキ亞米利加合衆國人民ヲ含ム三名ノ獨立且公平ナル財政專門家ヨリ成ルヘシ該專門家ハ引渡委員會ノ全會一致ニ依リ選定セラレ又ハ右全會一致ヲ見サル場合ニ於テハ海牙ニ於ケル常設國際司法裁判所ノ當時ノ裁判所長ニ依リ指名セラルヘシ

第六條項

何レノ關係國（同盟國又ハ獨逸國）政府モ獨逸國ノ支拂ノ收納又ハ之ニ對スル擔保ノ監理ニ關シ專門家計畫ノ技術的實行ニ付缺點存在シ而シテ右缺點カ計畫ノ主要ナル原則ニ影響スルコトナクシテ訂正シ得ヘキモノナルコトヲ認ムルトキハ右問題ヲ賠償委員會ニ提出スルコトヲ得賠償委員會ハ直ニ賠償支拂取扱人、鐵道債券及工業抵當債券ニ對スル一名又ハ數名ノ受託人、鐵道監理人、銀行監理人及監理收入監理人ヨリ成ル委員會ニ本問題ヲ付託シ之ニ對スル調査及意見ヲ求ムヘシ

右委員會ハ成ルヘク速ニ賠償委員會ニ全會一致ノ報告書又ハ多數意見及少數意見ノ報告書ヲ提出スヘク必要アル場合ニハ注意ヲ喚起セラレタル缺點ニ付右報告書ニ於テ之カ除去ノ提議ヲ爲スヘシ

賠償委員會カ全會一致ノ決定ヲ得タルトキハ右決定ニ對シ獨逸國政府ノ同意ヲ求ムヘシ右ニ付獨逸國政府トノ合意成立シタルトキハ必要ナル措置ハ遲滯ナク實行セラルヘシ

賠償委員會カ全會一致ヲ得サルトキハ其ノ全會一致ヲ以テ爲シタル決定カ獨逸國政府ノ同意ヲ得サルトキハ關係當事者ノ一ハ全會一致ヲ以テ決定スル賠償委員會及獨逸國政府間ノ合意ニ依リ又ハ右合意成立セサル場合ニ於テハ海牙ニ於ケル常設國際司法裁判所ノ當時ノ裁判所長ニ依リ選定セラルヘキ三名ノ獨立且公平ナル專門家ヨリ成ル委員會ニ右問題ヲ付託スルコトヲ得右委員會ノ決定ハ最終的タルヘシ

右規定ハ賠償支拂取扱人ノ勘定ニ拂込マルヘキ資金ノ使用ニ關スル問題又ハ專ラ引渡委員會ノ權限ニ屬スル其ノ他ノ事項ニ之ヲ適用セサルモノトス

千九百二十四年八月三十日倫敦ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ英國皇帝陛下ノ政府ノ記錄ニ寄託保存ス右政府ハ千九百二十四年八月九日ノ協定ニ包含セシムル爲本書ノ認證謄本ヲ賠償委員會ニ送付スヘク且之ヲ署名國ニ送付スヘシ

男爵モンシュール
エア、エー、クロー
エス、エー、ベルコート
ジオセフ、クック
ジエー、アレン
イー、エッチ、ワルトン
ダディバ、メルロシジエー、ダラル
サントレール
ディー、カクラマノス
トレッタ
林權助
ノルトン、デ、マトス
ラデユ、ティー、ヂユヴアラ
ガヴリロヴィッチ
シユターマー

第三附屬書

同盟國政府及獨逸國間ノ協定

白耳義王國政府、英國皇帝陛下ノ政府（加奈陀、濠太利聯邦、新西蘭、南阿弗利加聯邦及印度ノ政府ト共ニ）佛蘭西共和國政府、希臘共和國政府、伊太利王國政府、日本帝國政府、葡萄牙共和國政府、羅馬尼亞王國政府及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」王國政府

以上ヲ一方トシ

獨逸共和國政府

之ヲ他ノ一方トス

此等諸國ハ「獨逸國ノ豫算ヲ均衡セシムル方法及其ノ通貨ノ安定ナラシムル爲執ラルヘキ措置ヲ考究スル爲」千九百二十三年十一月三十日賠償委員會ニ依リテ任命セラレタル第一專門委員會ヨリ千九百二十四年四月九日賠償委員會ニ提出セラレ且同委員會ノ承認及關係各國ノ受諾ヲ得タル計畫ヲ各政府ノ關係スル限リニ於テ成ルヘク速ニ實現セムコトヲ希望シ

此目的ノ爲一ノ協定ヲ締結スルコトニ決シタルニ因リ正當ナル委任ヲ受ケタル下名ハ左ノ如ク協定セリ

第一條

（甲）千九百二十四年四月九日ノ專門家計畫中同盟國政府ニ依リ執ラルヘキ措置ニ關スル以外ノモノハ賠償委員會カ千九百二十四年七月十五日ノ同委員會決議第二千八百七十七號（四）ニ於テ [illegible] ヲ以テ實施 [illegible] セラレタルモノト認メラルヘシ

（一）獨逸國カ左ノ措置ヲ執リタルコト

（イ）該計畫ノ實行ニ必要ナル法律ヲ賠償委員會ノ承認シタル形式ニ於テ獨逸國議會ニ依リ可決セシメ且之ヲ公布スルコト

（ロ）該計畫ニ規定セラルル一切ノ執行機關及監理機關ヲ設置シ其ノ活動ヲ爲サシムル爲 [illegible] スルコト

（ハ）當該法律ノ規定ニ依リ銀行及獨逸國鐵道會社ヲ設立スルコト

（ニ）[illegible] 會ノ報告書ニ基キ [illegible] 種ノ證券ヲ受託人ニ寄託スルコト

（二）該計畫ノ實施後直ニ八億金貨「マルク」ノ公債ノ募入ヲ確保スヘキ契約ノ締結セラレ且專門家報告書ニ揭ケラレタル一切ノ條件カ成就セラレタルコト

（乙）獨逸國ノ財政的及經濟的統一ハ同盟國政府カ左ノ措置ヲ執リタルトキハ專門家計畫ニ從ヒ回復セラレタルモノト認メラルヘシ

（一）千九百二十三年一月十一日以來獨逸國ノ財政的及經濟的立法ニ加ヘラレタル一切ノ妨害ノ除去及廢止、關稅、租稅、外國貿易、木材、森林及鑛山（第五條ニ特記スル條件ノ下ニ）ニ關スルモノヲ含ム一切ノ財政的及經濟的行政 [illegible] 千九百二十三年一月十一日前占領地域內ニ於テ獨逸國官憲ノ行使シタル [illegible] 回復、[illegible] 萊因地方協定 [illegible] 吏ノ採用 [illegible] 國權力 [illegible] 速ナラシム [illegible] 切ハ「ヴェルサイユ」條約、萊因地方協定及專門家計畫ノ規定 [illegible] 制限 [illegible]

（二）千九百二十三年一月十一日以來同盟國ノ管理ノ下ニ經營セラレ又ハ占領官憲カ一時 [illegible] 一切ノ鑛山、骸炭製造所、其ノ他ノ工業、農業、森林及船舶ニ關スル企業ノ其ノ所有者ニ對スル還付

（三）擔保物ヲ利用スル爲設置セラレタル特別機關ノ撤廢及右機關ノ活動ノ爲サレタル徵發ノ解除

（四）人、貨物及運搬具ノ移動ニ關スル制限ノ撤廢但シ萊因地方協定ノ規定ニ從フコトヲ要ス

（五）一般ニ同盟國政府ハ占領地域ニ於テ獨逸國ノ財政的及經濟的統一ヲ確保スル爲萊因地方高等委員會 [illegible] 千九百二十三年一月十一日以來同委員會ノ施行

シタル命令ヲ調節スルノ手續ヲ萊因地方協定ノ規定ニ從ヒ執ラシムヘシ

第二條

專門家計畫ハ成ルヘク速ニ之ヲ實施スヘシ右目的ノ爲第一條ニ揭ケラレタル措置ハ成ルヘク速ニ之ヲ執ルヘク特ニ該計畫ノ實行ニ必要ナル法律ハ其ノ可決セラレタル後直ニ之ヲ公布スヘシ

第三條

（一）專門家計畫ヲ千九百二十四年十月二十二日以前ニ完全ニ實施スル爲一切ノ努力ヲ爲スヘシ

（二）遲クモ千九百二十四年九月二日ニ賠償委員會ハ右計畫實行ノ爲必要ナル獨逸國ノ法律カ同委員會ノ承認スル文言ニ於テ公布セラレタルコト及賠償支拂取扱人カ其ノ職責ヲ開始シタルコトヲ宣言シ得ルコトヲ要ス

（三）右第一次宣言ノ日ヨリ五週間（三十五日）以內ニ（卽チ千九百二十四年十月七日以前ニ）賠償委員會ハ第一條ニ揭ケラレタル千九百二十四年七月十五日ノ同委員會決議ニ於テ決定セラレタル其ノ他ノ措置カ實行セラレタルコトヲ宣言シ得ルコトヲ要ス

賠償委員會ハ必要ナル場合事情ノ許ス限リ上記ノ期日ヲ繰上ケ又ハ上記ノ規定ノ完全ナル實行ノ爲缺クヘカラスト思惟セラルル限リ之ヲ延期スルノ權限ヲ有スヘシ

佛蘭西國政府及白耳義國政府ハ第二次確認ノ日ヨリ一週間以內（卽チ千九百二十四年十月二十二日迄ニ）第一條ニ規定セラレタル獨逸國ノ財政的及經濟的統一ノ回復ニ對スル計畫ヲ實行スヘキコトヲ約ス右二政府ハ右ノ實行アリタルコトヲ賠償委員會ニ通知スヘシ賠償委員會ハ右計畫カ完全ニ實行セラレタルコトヲ決議スヘシ

第四條

（イ）佛蘭西國政府及白耳義國政府ハ成ルヘク速ニ獨逸國ノ財政的及經濟的統一ヲ大ナル程度ニ於テ回復セムコトヲ希望スルヲ以テ賠償委員會カ千九百二十四年七月十五日ノ決議ニ於テ決定シタル措置ノ完全ナル遂行ヲ待タス第三條（二）ニ規定セラレタル第一次宣言後直ニ（卽チ千九百二十四年九月二日ニ於テ）且第一次宣言及第二次宣言間ノ過渡期間（卽チ千九百二十四年九月二日乃至十月七日ノ期間）ニ於テ左ノ手段ヲ執ルヘシ

第一次宣言後八日目（卽チ千九百二十四年九月十日）ニ東方關稅線（卽チ占領地及非占領地間ノ關稅境界）ニ於ケル課稅ハ廢止セラルヘシ

第一次宣言後二十日目（九月二十二日）且出來得レハ其ノ以前ニ同盟國官憲ハ千九百二十三年一月十一日以來人、貨物及運搬具ノ移動特ニ占領地及非占領地間ノ移動ニ對シ加ヘラレタル制限ヲ能フ限リ輕減スヘシ右期間內ニ佛蘭西國政府及白耳義國政府ハ該東方關稅線ヲ廢止シ且其ノ占領地域內ニ於テ賦課スル一切ノ種類ノ取立及負擔竝外國貿易ノ制度ニ關シテハ非占領地帶ニ行ハルル法律及稅率ノミヲ適用スヘシ但シ佛白鐵道管理部ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス右ハ引繼キ同鐵道ノ稅率ヲ適用スヘシ

（ロ）前記ノ政府ハ上記ノ如ク調節セラレタル取立及負擔ヲ引續キ賦課スヘキモ新制度ノ適用ニ依リ第一次宣言（千九百二十四年九月二日）後取得セラルヘキ收入（佛白鐵道管理ヨリノ純益ヲ含ム）ハ之ヲ賠償支拂取扱人ニ引渡スヘキモノトス但シ過度期間ノ取立費用ヲ償フ爲每月二百萬金貨「マルク」ノ額ヲ右收入ヨリ控除スヘシ

（ハ）獨逸國政府ハ過渡期間中月次支拂金ヲ賠償支拂取扱人ニ支拂ヒ之ニ依リ賠償支拂取扱人ヲシテ右月次支拂金ニ前項ノ收入ヲ合スレハ專門家計畫ノ第一年次支拂金ノ十二分ノ一ニ相當スル金額ヨリ英國賠償回收法又ハ他ノ同盟國政府ニ依リ採用セラルルコトアルヘキ之ニ相應スル措置ノ適用ヨリ生スヘキ該月ノ見積收入額及占領軍ニ供給セラレタル紙幣「マルク」ヲ控除シタル金額ヲ處分シ得ルニ至ラシムヘシ過渡期間中獨逸國ニ課セラルヘキ月次負擔ハ專門家計畫第十一ニ確定セラレタル獨逸國ノ負擔スヘキ支拂額總計ノ第一年次負擔ノ十二分ノ一タルヘシ右月次負擔ニハ過渡期間中每月上記ノ二百萬金貨「マルク」ヲ附加スヘシ

上記ノ月次額ノ支拂ハ每十日ニ之ヲ爲スヘシ

（ニ）獨逸國ニ依ル第一回支拂ハ第一次宣言ノ日（千九百二十四年九月二日）ニ之ヲ行フヘシ佛蘭西國政府及白耳義國政府ニ依ル第一回支拂ハ十日後（千九百二十四年九月十二日）ニ之ヲ爲スヘシ

獨逸國ニ依ル第一回及第二回ノ支拂ハ每回二千萬金貨「マルク」トス第三回支拂ハ獨逸國ニ依リ第一月中ニ爲サルヘキ支拂ノ殘額ヨリ成ル

獨逸國ニ依ル爾後ノ支拂ハ賠償支拂取扱人ニ依リ決定セラルヘク且之ニ佛蘭西國政府及白耳義國政府ニ依リ爲サルヘキ支拂及賠償回收法等ヨリ生スヘキ收入ヲ加フルトキハ每十日ノ期間內ニ上ニ規定セル月次負擔ノ三分ノ一ヲ賠償支拂取扱人ノ處分ニ委シ得ルカ如キ金額タルヘシ

（ホ）佛蘭西國政府及白耳義國政府ニ依ル支拂ハ獨逸國政府カ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テノミ要求セラルヘシ

賠償支拂取扱人ハ右ノ如ク處分ヲ委セラレタル財源ヲ同盟及聯合國政府カ分配ニ關シテ爲スヘキ決定ニ從ヒ過渡期間中賠償及其ノ他ノ條約上ノ負擔ノ支拂ニ充ツヘシ賠償支拂取扱人ハ殊ニ左記目的ノ爲必要ナル金額ヲ關係國政府ニ交付スヘシ

（一）過渡期間中關係國政府又ハ其ノ代表者ニ依リ繼續セラレ又ハ締結セラレタル實物引渡ニ關スル一切ノ協定上ノ完全ナル支拂（「ヴェルサイユ」條約ノ規定スル該引渡ノ運搬費ヲ含ム）ヲ確保スル爲

（二）同盟國ノ經營スル鑛山及骸炭製造所ノ事業費（國境ニ至ル迄ノ運搬費ヲ含ム）ヲ償フ爲

右規定ノ結果トシテ又獨逸國ノ支拂カ第一年次支拂ノ爲決定セラレタル割合ニ依リ爲サルヘキ期間ヲシテ一年ヲ超過セシメサル爲專門家計畫中ノ第一年次支拂ニ相應スル期間獨ハ過渡期間ニ均シキ期間タケ之ヲ短縮スヘク又第二年次支拂ハ爾後直ニ（卽チ千九百二十五年九月二日）開始スヘシ

第五條

第二次宣言ト共ニ（千九百二十四年十月七日）獨逸國ノ鐵道系統ハ專門家計畫ニ規定セラレタル新會社ニ引渡サルヘシ現ニ獨逸國鐵道廳ニ依リ運用セラルル一切ノ線ノ經營ハ右期日以後該會社ニ移ルヘシ第二次宣言（千九百二十四年十月二十二日）後二週間目ヨリ現ニ佛白管理部ニ依リテ運用セラルル線ハ鐵道設立委員會ノ監督ノ下ニ該會社ノ計算ニ於テ運用セラルヘシ

本協定署名セラレタル上ハ設立委員會ハ直ニ右引渡ノ細目ヲ決定スル爲佛白管理部ト交涉ヲ開始スヘシ管理部ヨリ會社ヘノ實際上ノ引渡ハ設立委員會ノ監督ノ下ニ秩序的引渡ヲ害セサル限度ニ於テ成ルヘク速ニ漸次行ハルヘシ右引渡ハ六週間內ニ（千九百二十四年十二月七日迄ニ）完了セラルヘシ但シ設立委員會ハ細目取極ノ爲期日ノ延長ヲ許可スルノ權限ヲ有スヘシ

第六條

第一條（乙）、第二條、第三條及第四條（イ）ノ規定ヲ實行スル爲適用セラルヘキ措置ノ細目及設置セラルヘキ機關ハ關係同盟國官憲ノ代表者及獨逸國ノ關係部局ノ代表者間ノ技術的會議ニ依リ研究セラルヘシ右會議ハ倫敦會議後直チニ「コブレンツ」及「デュッセルドルフ」ニ於テ開會スヘシ

適用セラルヘキ措置及暫行的措置ハ慣習的形式ニ於テ占領地域內ニ於テ實施セラルヘシ

第七條

相互的和解ヲ實現スル爲及出來得ル限リ過去ヲ一掃スル爲同盟國政府及獨逸國政府ハ左ノ規定ニ同意ス但シ將來ノ事件ニ關シテハ獨逸國ノ管轄權及法律（殊ニ獨逸國ノ安全ニ關シ）及占領官憲ノ管轄權及法律（殊ニ占領官憲ノ安全ニ關シ）ハ平和條約及萊因地方協定ニ從ヒ夫々通常ノ通行ハルヘシ

（一）專ラ若クハ主トシテ政治的理由ニ依リ爲サレタル行爲ノ爲又ハ千九百二十三年一月十一日ヨリ本協定實施ノ日ニ至ル迄ノ間占領地域內ニ於ケル政治的態度ノ爲又ハ占領官憲若ハ獨逸國官憲カ夫々公布シタル「命令、條令、布告若ハ其ノ他ノ規則ニシテ同期間中ニ起リタル」事件ニ關スルモノニ對スル違由若ハ違反ノ爲又ハ該官憲トノ關係ノ爲何人ト雖モ如何ナル口實ノ下ニ於テモ訴追セラレ、妨害セラレ、迫害セラレ又ハ物質的若ハ精神的ノ損害ヲ被ラシメラルルコトナカルヘシ

（二）獨逸國政府及關係同盟國政府ハ千九百二十三年一月十一日ヨリ本協定實施ノ日ニ至ル迄ノ上記ノ事實ノ爲ニ課セラレタル一切ノ司法上又ハ行政上ノ宣告及刑罰ヲ免除スヘシ既ニ支拂ハレタル司法上又ハ行政上ノ罰金其ノ他ノ金錢上ノ刑罰ハ拂戾サルルコトナキモノトス

（三）右（一）及（二）ノ規定ハ人命ニ對シ行ハレタル犯罪ニシテ人ヲ死ニ至ラシメタルモノニハ之ヲ適用セス

（四）右（一）及（二）ニ規定セラルル大赦ノ適用ヲ受ケス且本協定ニ依リ廢止セラルヘキ特別機關ノ設置ニ依リ現ニ占領官憲ノ管轄ニ屬スル犯罪ハ獨逸國裁判所ニ移管セラルヘシ

（五）關係各政府ハ各自ノ關スル限リ本條ノ履行ヲ確保スル爲必要ナル措置ヲ執ルヘシ必要起リタル場合ニハ右履行ハ關係諸政府ニ依リ及必要アル場合ニハ共同ノ合意ニ依リ設置セラレタル混成委員會ニ依リ友誼的ニ措置セラルヘシ

第八條

制度ノ變更ニ因リ同盟國商人及獨逸國官憲間ニ起ルコトアルヘキ紛爭ヲ決定スルノ職責ヲ有シ且千九百二十年ニ任命セラレタル委員會ニ類似スル獨逸國及同盟國仲裁委員會ハ關係國政府ニ依リ任命セラルヘシ

第九條

「バード、エムス」小委員會ノ千九百二十四年十月二十二日ニ於ケル廢止ハ「ヴェルサイユ」條約第二百六十四條乃至第二百六十七條ノ完全ナル實行ヲ妨ケサルヘシ

第十條

本協定ニ關シ一方同盟諸國政府又ハ其ノ一ト他方獨逸國トノ間ニ起ルコトアルヘキ一切ノ紛爭カ商議ニ依リ解決セラレ得サルトキハ之ヲ常設國際司法裁判所ニ付託スヘシ

第十一條

本協定ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ署名ノ時ヨリ效力ヲ發生スヘシ

千九百二十四年八月三十日倫敦ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ英國皇帝陛下ノ政府ノ記錄ニ寄託保存ス右政府ハ本書ノ認證謄本ヲ各當事國ニ交付スヘシ

男爵モンシュール
エア、エー、クロー
エヌ、エー、ベルコート
ジオセフ、クック
ジェー、アレン
イー、エッチ、ヲルトン
ダディバ、メルヲンジェー、ダラル
サントレール
ディー、カクラマノス
トレフタ
林權助
ノルトン、デ、マトス
ラデュ、ティー、ザュヴァラ
ガヴリロヴィッチ
シュターマー

第四附屬書

同盟國間ノ協定

白耳義王國政府、英國皇帝陛下ノ政府（加奈陀、濠太利聯邦、新西蘭、南阿弗利加聯邦及印度ノ諸政府ト共ニ）佛蘭西共和國政府、希臘共和國政府、伊太利王國政府、日本帝國政府、葡萄牙共和國政府、羅馬尼亞王國政府及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」王國政府ハ「獨逸國ノ豫算ヲ均衡セシムル方法及其ノ通貨ヲ安定ナラシムル爲執ラルヘキ措置ヲ考究スル爲」千九百二十三年十一月三十日賠償委員會ニ依リテ任命セラレタル第一專門委員會ヨリ千九百二十四年四月九日賠償委員會ニ提出セラレ且同委員會ノ承認及關係各國ノ受諾ヲ得タル計畫ヲ各政府ノ關係スル限度ニ於テ完全ニ實行スルコトニ關シ規定ヲ設クルコトヲ希望シ

此ノ目的ノ爲一ノ協定ヲ締結セムコトニ決シタルニ因リ正當ナル委任ヲ受ケタル下名ハ左ノ如ク協定セリ

第一條

賠償委員會ニ代表セラルル政府ハ「ヴェルサイユ」條約第八編（賠償）第二附屬書二十二ニ基キ左記ノ二ノ二及十六ノ二ノ挿入竝左記十七ノ修正ニ依リ該第二附屬書ヲ修正スヘシ

二ノ二　「千九百二十三年十一月三十日賠償委員會ニ依リ任命セラレタル第一專門委員會ヨリ千九百二十四年四月九日賠償委員會ニ提出セラレタル報告書ニ關スル問題ニ付賠償委員會カ議事ヲ爲ストキハ下記ノ規定ニ依リ任命セラルヘキ一名ノ亞米利加合衆國人ハ本附屬書二ニ依リ任命セラレタル場合ト同樣ニ議事ニ參與シ且表決ヲ爲スヘシ

右亞米利加合衆國人ハ本修正採用後三十日以內ニ賠償委員會ノ全會一致ノ投票ニ依リ任命セラルヘシ

賠償委員會カ全會一致ヲ得サル場合ニハ右任命ハ海牙ニ於ケル常設國際司法裁判所ノ當時ノ裁判所長ニ依リ行ハルヘシ

任命セラレタル者ノ任期ハ五年トシ再選ヲ妨ケス闕員ヲ生シタル場合ニハ後任者ノ任命ニ付右ト同一ノ手續ヲ適用スヘシ

亞米利加合衆國カ其ノ代表者ニ依リ賠償委員會ニ正式ニ代表セラルル場合ニハ本規定ニ依リ任命セラレタル亞米利加合衆國人ノ任期ハ終了スヘク且亞米利加合衆國カ右ノ如ク正式ニ代表セラルル間ハ本規定ニ依ル新ナル任命ハ行ハレサルヘシ」

十六ノ二　「千九百二十年一月十日實施セラレ次テ本附屬書二十二ニ依リ修正セラレタル本條約本編中ニ又ハ千九百二十四年四月九日附專門家計畫中ニ規定セラルル義務ノ何レカニ付獨逸國ノ不履行アリタルコトヲ宣言スヘキコトノ請求アリタル場合之ヲ決定スルハ賠償委員會ヘノ任務タルシ右請求ヲ受諾シ又ハ却下スル賠償委員會ノ決議カ多數決ヲ以テ爲サレタル場合ニハ表決ニ加ハリタル賠償委員會委員ハ該決議ノ日ヨリ八日以內ニ右決定ニ付仲裁委員會ニ上訴スルコトヲ得仲裁委員會ハ三名ノ公平ニシテ獨立ナル者ヨリ成リ其ノ決定ハ最終的ノモノトス仲裁委員會ノ委員ハ賠償委員會ノ全會一致ノ決定ニ依リ又ハ右全會一致ヲ得サルトキハ海牙ニ於ケル常設國際司法裁判所ノ當時ノ裁判所長ニ依リ五年ノ任期ヲ以テ任命セラルヘシ五年ノ任期終了シタルトキ又ハ右期間中ニ闕員ヲ生シタルトキハ第一回任命ノ場合ト同一ノ手續ヲ行フヘシ仲裁委員會ノ議長ハ亞米利加合衆國人タルヘシ」

十七　「獨逸國ニ依ル不履行カ上記條件ニ依リ確認セラレタル場合ニハ委員會ハ速ニ之ヲ關係各國ニ通知シ且右不履行ノ爲執ルヘキ行動ニ付必要ト認ムル建議ヲ爲スコトヲ得」

第二條

專門家計畫ノ規定ニ從ヒ「ヴェルサイユ」條約第八編（賠償）第二附屬書十八ニ據ル制裁ハ該專門委員會報告書第一編第三ノ意味ニ於ケル不履行カ本協定ニ基キ修正セラレタル該附屬書ニ揭クル條件ノ下ニ宣言セラレタル場合ニ非サレハ獨逸國ニ對シ之ヲ課セサルヘシ

此ノ場合ニハ署名國政府ハ自國ノ財政上ノ利益及該案ノ計畫ニ從ヒ貸付ヲ爲ス者ノ財政上ノ利益ニ付共同受託ノ觀念ヲ以テ行動シ、適用セラルヘキ制裁ノ性質及其ノ迅速ニシテ有效ナル適用方法ニ關シ直ニ協議スヘシ

第三條

專門家計畫ニ規定セラレタル八億金貨「マルク」ノ公債ノ利子支拂及償還ヲ保障セムカ爲及右公債ノ公募ヲ容易ナラシメムカ爲署名國政府ハ獨逸國ニ依ル不履行ノ爲制裁ヲ課スルヲ要スル場合右公債ノ利子支拂及償還ノ保障ニ供セラレタル特殊ノ擔保ヲ保護スヘキコトヲ茲ニ宣言ス

尙署名國政府ハ右公債ノ利子支拂及償還カ右公債ノ利益ノ爲一般的擔保ニ當テラルル獨逸

國ノ財源ニ關シ及制裁ノ適用ニ因リ生スルコトアルヘキ財源ニ關シ絕對的優先權ヲ有スト認ムル旨ヲ宣言ス

第四條

本協定第二條又ハ第三條ヨリ生スル署名國政府間ノ紛爭ハ商議ニ依リ解決セラレ得サル場合ニハ常設國際司法裁判所ニ付託セラルヘシ

第五條

本協定ノ前記諸條ニ明ナル反對ノ明文ナキ限リ「ヴェルサイユ」條約(第二條ニ揭ケル專門家報告書ヲ參酌スヘシ)ニ基ク署名國政府ノ一切ノ現存ノ權利ハ之ヲ留保ス

第六條

本協定ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ署名ノ時ヨリ效力ヲ發生スヘシ

千九百二十四年八月三十日倫敦ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ英國皇帝陛下ノ政府ノ記錄ニ寄託保存ス右政府ハ本書ノ認證謄本ヲ各當事國ニ交付スヘシ

男爵モンシュール
エア、エー、クロー
エス、エー、ベルコート
ジオセフ、クック
ジェー、アレン
イー、エッチ、ワルトン
ダディバ、メルワンジェー、ダラル
サントレール
アィー、カクラマノス
トレッテ
林權助
ノルトン、デ、マトス
ラデユ、ティリ、ザュヴァラ
カザリロヴィッチ

●倫敦協定第二附屬書ノ規定ニ基ク實物引渡規程

大正十五年三月五日
外務省告示第十九號

獨逸國ニ依リ爲サルヘキ一切ノ實物引渡ノ手續ニ關シ倫敦協定第二附屬書第三條項ノ規定ニ基キ任命セラレタル特別委員會ノ作成シタル左記ノ實物引渡規程ハ引渡委員會及賠償委員會ノ承認並獨逸國政府ノ同意ヲ經タル上大正十四年五月一日ヨリ實施セラルルニ至レリ

實物引渡規程目次

第一條　實物引渡トシテ供給セラレ得ヘキ物品及役務ノ定義
第二條　機關
第三條　表ノ調製及改訂
第四條　丙表ノ係數ヲ決定スル方法、引渡價格ノ一部ノ直接支拂ニ適用セラルヘキ規定
第五條　計畫ノ作成
第六條　契約ノ承認
第七條　平和條約ノ附屬書ノ期限滿了セサル限リ同附屬書ハ實行ニ關スル計畫及倫敦協定第二附屬書第二條項(ニ)ノ實行ニ關スル計畫中商事契約ノ適用ナキ部分ノ獨逸國政府ニ依ル實行ニ關スル規定
第八條　賠償委員會ノ註文及「ベメルマン、クンツェ」協定(千九百二十二年六月二日伯林)及「ジレ、ルツベル」協定(千九百二十二年六月巴里)ニ基キ千九百二十四年九月一日前ニ締結セラレタル契約
第九條　支拂
第十條　倫敦協定第二附屬書第二條項(ハ)第二項(再輸出)ノ適用ニ關スル措置
第十一條　仲裁裁判
第十二條　違反及詐欺
第十三條　本規程ノ改訂
附屬書

實物引渡規程

獨逸國ニ依リ爲サルヘキ一切ノ實物引渡ニ左ノ手續ヲ適用ス

第一條　實物引渡トシテ供給セラレ得ヘキ物品及役務(註)ノ定義

一　獨逸國ノ經濟制度ニ依リ生產セラルル一切ノ物品又ハ役務ハ左記ノ條件ニ從ヒ實物引渡ノ目的物ト爲ルコトヲ得卽チ專門家計畫ニ基キ賠償支拂取扱人ノ勘定ニ拂込マレタル獨逸國ノ通貨ヨリ成ル資金中ヨリ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得

(甲)　「除外物品」トシテ甲表(附屬書一)ニ表示セラルル物品ハ實物引渡トシテ之ヲ要求スルコトヲ得ス

(乙)　「制限物品」トシテ乙表及丁表(附屬書一)ニ表示セラルル物品ハ乙表ニ付テハ左記第五條ニ規定セラルル手續ニ從ヒ作成セラルル計畫ニ依リテノミ又丁表ニ付テハ同表ニ依リ夫々定メラルル各限度內ニ於テノミ實物引渡トシテ之ヲ要求スルコトヲ得

(丙)　丙表(附屬書一)ニ表示セラルル物品ハ其ノ價格ノ一部カ左記第四條及第九條第二節ニ揭クル條件ニ依リ直接ニ支拂ハレサル限リ實物引渡トシテ之ヲ供給スルコトヲ得ス

二　甲表、乙表及丁表ニ表示セラレサル一切ノ物品及役務又ハ左記四ニ依ル一切ノ物品及役務ハ左記第五條及第六條ニ規定セラルル方法ニ依ル引渡契約ノ承認ノミヲ條件トシテ數量ノ制限ナク之カ引渡ヲ爲スコトヲ得

三　尤モ千「ライヒスマルク」未滿ノ契約ハ既ニ承認セラレタル契約ノ追加ニ非サル限リ實物引渡契約トシテ之ヲ認ムルコトヲ得ス

四　「ヴェルサイユ」條約第八編第五附屬書及倫敦協定第二附屬書第二條項(ニ)ニ依ル物品ノ引渡ハ左記第七條ニ規定セラルル方法ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

(註)　「役務」ナル語ハ倫敦會議ニ於テ同語ニ與ヘラレタル意味及解釋ニ依ルヘキモノトス(第三委員會報告、千九百二十四年八月十日附書翰參照)

第二條　機關(註一)

一　實物引渡ノ最有效ナル運用ヲ確保セムカ爲ニハ計畫ノ作成及契約ノ承認ノ爲成ルヘク簡單且迅速ナル手續ヲ定ムルノ必要アルコトハ特別委員會全會一致ノ意見ナリ

二　依テ賠償委員會ハ本規程ニ定メラルル手續ノ嚴重ナル適用ノ任ニ當リ且其ノ責ニ任スル「賠償委員會實物引渡事務所」ト稱スル專門的事務所ヲ巴里ニ於テ同委員會ノ本部ニ設置スヘシ獨逸國政府ハ右事務所ト密接ナル連絡ヲ有スル「獨逸國實物引渡事務所」(以下獨逸國事務所ト稱ス)ト稱スル專門的事務所ヲ巴里ニ於テ戰爭債務委員會ノ本部ニ設置スヘシ右獨逸國事務所ハ本規定ニ基ク獨逸國政府ノ權利ヲ行使スル爲全權ヲ以テ同政府ヲ代表シ得ル樣組織セラルヘシ

三　倫敦協定第二附屬書第二條項(ロ)ノ適用ニ付獨逸國事務所ハ債權國政府(註二)ノ要求ニ依リ賠償委員會事務所ニ對スル契約ノ寄託ニ先タツ一切ノ調查ニシテ契約ノ承認ニ關スル手續ノ適用ヲ容易且迅速ナラシムヘキモノニ付右政府ヲ援助スヘシ

(註一)　附屬書七、第十二回會議議事錄拔萃第四參照

(註二)　本規程ニ於テ「債權國政府」ナル字句ハ專門家計畫ニ基ク年次金ニ付取分ノ權利アル國ヲ意味ス

第三條　表ノ調製及改訂

一　甲表、乙表及丙表ハ每二年ニ改訂セラルルコトヲ得第一期ノ二年ハ千九百二十七年四月一日ニ終ル

債權國政府又ハ獨逸國政府カ右表ノ改訂ヲ希望スル場合ニハ改訂ヲ行ヒ得ヘキ期日前三月內ニ賠償委員會ニ其ノ要求ヲ提出スルコトヲ要ス

二　右ノ如キ場合ニハ賠償委員會及獨逸國政府ハ本規程ヲ作成シタル特別委員會ト同一ノ方法ニ依リ構成セラルル特別委員會ヲ直ニ召集スヘシ右委員會ノ決定ハ現特別委員會ノ決定ト同一ノ方法ニ依リテ承認セラレ且實施セラルヘシ

三　丁表ハ千九百二十七年四月一日ニ終ル二年間有效トス同表ハ之ニ規定セラルル方法ニ依リ改訂セラルルコトヲ得

四　附屬丙表ハ「ベメルマン、クンツェ」協定ノ乙表ヲ變更シタルモノニ過キスシテ同表ニ表示セラルル係數ニ關スル限リ改訂セラルヘシ但シ第四條ニ定メラルル規定ヲ考量スヘキモノトス

五　委員會カ正式ニ本規程ヲ賠償委員會ニ送付シタル後ニ直ニ爲サルヘキ右改訂ハ同盟國人及獨逸國人タル技術的專門家ヨリ成ル委員會ニ依リ爲サルヘキ提案ニ基クコトヲ要シ且賠償委員會及獨逸國政府間ノ協定ニ依リ該目的ノ爲ニ權限ヲ擴張セラルル現特別委員會ニ依リテ行ハルヘシ

六　改訂ハ遲クモ千九百二十五年四月三十日迄ニ完了セラルヘシ

七　右改訂ニ至ル迄ノ間ノ暫行措置トシテ、物品ノ價格中第四條及第九條(第二節)ニ依リ定メラルル條件ノ下ニ直接ニ支拂ハルヘキ部分ハ賠償支拂取扱人ニ依リテ支拂ハルヘシ賠償支拂取扱人ハ右目的ノ爲債權國政府ノ各ニ付「前渡」勘定ヲ開クヘシ右勘定ハ改訂ノ完了後其ノ結果ヲ相當斟酌シテ第九條第二款五及六ニ定メラルル方法ニ依リ之ヲ締切ルヘシ

第四條　丙表ノ係數ヲ決定スル方法、引渡價格ノ一部ノ直接支拂ニ適用セラルヘキ規定

第一節

一　丙表ノ係數ハ工場又ハ倉庫ニ於テ引渡サルル物品ノ賣價ニ對スル右物品中ニ包含セラルル外國原料ノ價格ノ割合ヲ表示スヘキモノトス

二　右係數ハ物品ノ賣價ノ精細ナル見積書ニ基クモノトス

三　各改訂後ノ丙表ハ物品ニシテ前記一ニ指示セラルル如ク決定セラレタル其ノ係數カ二割五分以上ナルモノヲ包含スヘシ

四　右ノ如キ物品ニ付テハ工場又ハ倉庫ニ於テ引渡サルル物品ノ賣價ノ一部ハ其ノ係數ニ應シ左記第九條第二節ニ定メラルル方法ニ依リ直接ニ支拂ハルヘシ

第二節

一　契約カ物品ノ獨逸國外ノ運送(陸路ニ依リ又ハ獨逸國以外ノ國旗ノ下ニ可航水路若ハ海路ニ依ルモノ)ニ關シ賣主ニ責任アリト爲ストキハ右ノ如キ運送ハ其ノ費用カ四百金貨「マルク」ヲ超過スル場合ニ非サレハ直接支拂ヲ生セス右超過ノ場合ニハ獨逸國外ノ運送ノ總費用ハ直接ニ支拂ハルヘシ

右規定ハ本規程附屬書五ニ依リ定メラルル賠償石炭ノ水路ニ依ル運送ニハ適用ナキモノトス

二　契約カ獨逸國外ノ建設ニ關シ賣主ニ責任アリト爲ストキハ右ノ如キ建設ハ其ノ費用カ千金貨「マルク」ヲ超過スル場合ニ非サレハ直接支拂ヲ生セス右超過ノ場合ニハ獨逸國外ノ建設費ノ五割ハ直接ニ支拂ハルヘシ

右規定ハ左記四ニ規定セラルル獨逸國外ノ勞力ノ使用ニハ適用ナキモノトス

三　結合物(工場又ハ機械ノ据付、船舶等)ノ供給ニ關スル契約カ右結合物ノ一部トシテ丙表中ノ物品ノ引渡ヲ含ムトキハ工場又ハ倉庫ニ於テ引渡サルル右物品ノ價格カ契約ノ總額ノ一割ヲ超過スル場合ニ非サレハ之等物品ノ引渡ニ付直接支拂ヲ生セス右超過ノ場合ニハ丙表ニ包含セラレ且全體ノ一部トシテ引渡サルル物品ノ各カ各別ニ引渡サレタリト假定シタル場合ト同一ノ價格ニ付直接支拂ヲ爲スヘキモノトス

四　第五條六ニ規定セラルル特別契約ニシテ獨逸國外ニ於ケル獨逸人ノ勞力ノ使用ヲ含ムモノニ付テハ右勞力ノ使用ニ關シ爲サルヘキ直接支拂ノ割合(豫メ最終的ニ決定スルコトヲ得ス)ハ各特別契約ニ付其ノ契約ヲ承認スル決議ニ依リテ定メラルヘシ但シ海外ニ於ケル獨逸人ノ勞力ノ使用及之ニ對スル支拂方法ニ關スル契約當事者間ノ合意ニ付考量スヘキモノトス尤モ契約ノ作成ヲ容易ナラシムル爲獨逸國事務所ハ各關係債權國政府ノ請求ニ依リ獨逸國外ニ於ケル獨逸人ノ勞力ノ使用ニ關シ爲サルヘキ直接支拂ノ割合ヲ豫メ定ムル或種契約ノ原則ノ決定ヲ得ル爲ノ調查ニ協力スヘシ右原則ノ決定ハ特別契約ニ關シ第六條ニ揭ケラルル方法ニ依リテ爲サルヘシ

五　獨逸國ノ國旗ノ下ニ獨逸國內又ハ獨逸國外ニ於テ可航水路又ハ海上ニ依リ爲サルル運送ハ其ノ單ニ賠償引渡ニ附帶スルモノナルト契約ノ唯一ノ目的ナルトヲ問ハス直接支拂ヲ生セス

第五條　計畫ノ作成

一　「ヴェルサイユ」條約第八編第五附屬書ノ有效期間中ニ於ケル其ノ實施ノ爲ノ計畫ハ本規程附屬書四(石炭等)ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作成スヘシ(註一)

賠償委員會事務所ハ各關係債權國カ要求セムトスル最大數量ヲ包含スル表ヲ計畫決定期日直前ノ會議ニ於テ引渡委員會ニ提出シタル上同委員會カ右計畫ニ反對セサルコトヲ右期日內ニ確保スヘシ

二　計畫ハ約六月ノ期間ヲ置キ作成セラルヘク每回次ノ十八月ノ期間內ニ取得セラルヘキ乙表ニ包含セラルル物品ノ最高數量ヲ決定スヘシ

各計畫實施ノ正確ナル期日ハ前記ノ指示及引渡委員會ノ會議ノ時ヲ考量シ且左記三所定ノ手續開始前少クトモ滿十五日前債權國政府及獨逸國事務所ニ該期日ヲ通告スルコトヲ得ル樣賠償委員會事務所ニ依リ決定セラルヘシ

三　二ニ揭クル計畫ヲ作成スル手續ハ左ノ如クナルヘシ

(イ)　債權國政府ニ依ル其ノ注文ノ賠償委員會事務所ヘノ發送、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、二十三日

(ロ)　賠償委員會事務所ニ依ル右注文ノ獨逸國事務所ヘノ通知、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、二十一日

(ハ)　右注文ヲ共同ニ審査スル爲ノ二事務所ノ會合(何レカ一方カ專門家ノ召集ヲ希望スルトキハ其ノ援助ヲ求ム)、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、十三日

(ニ)　獨逸國事務所ニ依ル其ノ最終的意見ノ賠償委員會事務所ヘノ送達、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、八日

(ホ)　賠償委員會事務所ニ依ル其ノ報告ノ賠償委員會及引渡委員會ヘノ發送(右報告ニハ獨逸國事務所ノ意見ヲ添附スヘク又獨逸國事務所ハ右報告書ノ寫ヲ受領スヘシ)、、、六日

(ヘ)　引渡委員會ノ意見

(ト)　賠償委員會ノ決定、、、、、、引渡委員會ノ意見ノ後五日內

四　木材、粗糖、合成法ニ依ル硫酸「アンモニア」及其ノ他ノ合成含窒素生成物、染料及化學藥品ニ關スル計畫ハ本規程ノ附屬書一(丁表)、三及四ニ表示ス

五　獨逸國產又ハ獨逸國內ニテ製造セラレ又ハ獨逸國ヨリ直接來ル一切ノ其他ノ物品ハ右諸計畫ニ特ニ揭ケラレサル場合ニモ賠償委員會ノ計畫ニ包含セラルルモノト見做サルヘシ

各債權國カ其ノ處分シ得ヘキ債權ノ範圍內ニ於テ取得シ得ヘキ右物品ノ數量ニ關シテハ倫敦協定第二附屬書第二條項(ロ)及專門家計畫ニ規定セラルル制限ヲ除キ何等ノ權限ナキモノトス(註二)

六　債權國政府ハ特別契約ノ承認ヲ求ムル爲之ヲ提出スルコトヲ得左記ハ特別契約ト認メラルヘシ

(イ)　完全ナル据付、公共事業、造船ニ關スル契約

(ロ)　二十四月ヲ超ユル期間ニ亙ル引渡又ハ支拂ヲ定ムル契約(擔保トシテ保留セラルル額ニシテ契約ノ總價格ノ一割ヲ超エサルモノヲ包含セス)

(ハ)　計畫又ハ丁表ニ依リテ制限セラレサル物品ニ關スル契約ニシテ一年ニ付千二百

萬金貨「マルク」ヲ超過スル支拂ヲ含ムモノ

七　倫敦協定ノ意味ニ於ケル「役務」ハ計畫ニヨリ定メラルルコトヲ要セス右ノ如キ役務ニ關スル契約ハ普通契約トシテ取扱ハルヘク又賠償委員會ノ委員タル亞米利加合衆國人民カ獨逸國事務所ノ要求ニ基キ之ヲ特別契約ト決定スルトキハ特別契約トシテ取扱ハルヘシ

八　附屬書ニ反對ノ規定アル場合ヲ除キ賠償委員會ニ依ル計畫ノ決定ハ該計畫ニ揭ケタル額ニ達スル迄契約ヲ爲スノ選擇權ヲ債權國ニ與フヘシ但シ債權國政府ハ右計畫ニ定メラルル數量ノ引渡ヲ受クル何等ノ義務ヲ負ハサルモノトス

（註一）　一及二ニ基キ作成セラルル計畫ニ依リテ決定セラルル數量ハ賠償委員會之ヲ債權國間ニ分配スヘシ

一國ニ割當テラレタル數量ニシテ其ノ國ニ依リ拋棄セラレタルモノハ之ヲ他ノ債權國間ニ分配スルコトヲ得

（註二）　附屬書七（第十二會議議事錄拔萃第五）及「實物引渡及正常ナル獨逸國ノ輸出貿易」ニ關スル獨逸國ノ宣言參照

第六條　契約ノ承認

甲　普通契約

一　第五條六ニ於テ特別契約トシテ定メラレタルモノヲ除ク一切ノ契約ハ左ノ如ク處理セラルヘシ

（イ）各契約（註一）ハ關係債權國ニ依リ賠償委員會事務所ニ三通送付セラルヘク同事務所ハ日附ヲ附シタル受領證ヲ交付スヘシ一通ハ同日同事務所ヨリ獨逸國事務所ニ轉送セラルヘシ

（ロ）前記事務所ノ契約受領後休日ヲ除キ滿三日內ニ賠償委員會事務所カ右契約ニ對シ異議ヲ唱ヘサルカ又ハ獨逸國事務所カ賠償委員會事務所ニ書面ニテ異議ヲ通告セサル場合ニハ賠償委員會事務所ハ該契約カ承認セラレタルモノトシテ之ニ捺印スヘク且之ヲ引渡委員會ニ通告シ契約所定ノ期日ニ支拂ヲ爲サシムル爲直ニ之ヲ賠償支拂取扱人ニ送付スヘシ債權國及獨逸國事務所ハ直ニ右通告ヲ受クヘシ

（ハ）契約受領後休日ヲ除キ滿三日內ニ獨逸國事務所ニ於テ右契約カ本規程ノ條項ニ適合セストノ理由ニ依リ該契約ニ對シ異議ヲ有スルカ又ハ右期間內ニ賠償委員會事務所カ異議ヲ唱フル場合ニハ右問題ハ直ニ賠償委員會ノ委員タル亞米利加合衆國人民ニ付託セラルヘク同委員ハ休日ヲ除キ通常滿三日ノ期間內ニ最終的決定ヲ爲スヘシ（註二）右決定カ契約ノ承認ヲ包含スル場合ニハ賠償委員會事務所ハ該契約カ承認セラレタルモノトシテ之ニ捺印スヘク且之ヲ引渡委員會ニ通告シ契約所定ノ期日ニ支拂ヲ爲サシムル爲直ニ之ヲ賠償支拂取扱人ニ送付スヘシ債權國及獨逸國事務所ハ直ニ右通告ヲ受クヘシ

例外ノ場合ニハ獨逸國事務所ハ契約ヲ審査スル爲亞米利加合衆國人民タル委員ニ四十八時間ノ延長ヲ請求スルコトヲ得ヘク同委員ハ賠償委員會事務所ト協議シタル後之ヲ決定スヘシ

（ニ）承認又ハ拒否ニ關スル決定ハ遲滯ナク爲サルヘキモノナルコトノ最重要ナルコトハ全會ノ一致スル所ナルモ賠償委員會ノ委員タル亞米利加合衆國人民ハ例外ノ場合ニ於テ且其ノ權限ニ基キ右決定ヲ事件カ同委員ニ付託セラレタル日ヨリ起算シ長クトモ十八日間延期スルノ權限ヲ有ス

二　何時ニテモ債權國政府ノ地位ヲ知ラムカ爲賠償委員會ハ賠償支拂取扱人ニ依リ供給セラレタル情報ニ基キ債權國政府カ尙利用シ得ヘキ見積債權額及次ノ二十四月間ニ於ケル其ノ契約ヲ示スヘキ口座ヲ各政府ニ付設クヘシ

右特殊ノ見地ヨリスル契約ノ承認又ハ拒否ニ關シテハ賠償委員會事務所ハ賠償委員會及引渡委員會ニ依リ起草セラルヘキ特別ノ規則ヲ適用スヘシ但シ右規定ハ承認ニ關スル前記時間ノ制限ヲ變更スルコトナキモノトス

本項ノ規定ハ獨逸國事務所ニ關係ナキモノトス

乙　特別契約

一　各契約ハ關係債權國ニ依リ賠償委員會事務所ニ三通送付セラルヘク同事務所ハ日附ヲ付シタル受領證ヲ交付スヘシ

一通ハ同日同事務所ヨリ獨逸國事務所ニ轉送セラルヘシ

契約ノ承認ニ關スル手續ハ左ノ如クナルヘシ

賠償委員會ノ委員タル亞米利加合衆國人民又ハ其ノ代表者ノ議長ノ下ニ於ケル兩事務所ニ依ル契約ノ共同審査（各事務所ハ其ノ希望スル專門家ノ援助ヲ受クヘキ權利ヲ有シ、關係債權國政府ハ代表セラルヘク又契約當事者ハ發表セラレタル意見ニ從ヒ契約ヲ修正スルノ全權ヲ有スルモノトス）、、、、、、、、契約寄託ノ日ノ後十三日內

獨逸國事務所ニ依ル書面ニ認メラレタル最終的意見ノ賠償委員會事務所ヘノ寄託、、、、、、、契約寄託ノ日ノ後十五日內

賠償委員會ニ依ル兩事務所ノ意見ノ引渡委員會及賠償委員會ヘ送達（一通ハ獨逸國事務所ニモ送付セラル）、、、、、、、契約寄託ノ日ノ後二十日內

前記手續ノ完了後引渡委員會ノ最初ノ會議ニ於ケル同委員會ノ意見

賠償委員會ノ決定、、、、、、、引渡委員會ノ意見ノ後五日內

契約ハ賠償委員會及引渡委員會ノ雙方ニ依ル同意的決定アリタル場合ニ於テノミ承認セラルヘシ

二　契約カ計畫ニ依リテ制限セラルル物品ニ關シ且計畫ノ有效期間ヲ超ユル場合ニハ賠償委員會ハ其ノ承認ヲ與フル前ニ右契約ヲ提出スル國以外ノ同盟國ノ權利ヲ考慮スヘシ

決定カ暫定的ノ拒否又ハ條件附ノ承認ニシテ且關係債權國政府カ要求セラレタル修正ヲ加ヘテ契約ヲ賠償委員會事務所ニ再ヒ提出スル場合ニハ之ニ對スル最終的承認ハ普通契約ト同一ノ形式及時間ノ制限內ニ於テ與ヘラレ且通告セラルヘシ

休日ヲ除キ滿三日內ニ賠償委員會ノ委員タル亞米利加合衆國人民ニ於テ普通契約又ハ特別契約カ其ノ包含スル條項ニ依リ特別契約ノ部類ニ屬スルモノト認メサル限リ右追加契約ハ普通契約ニ關シ規定セラルル手續ニ從ヒテ處理セラルヘシ

（註一）　本規定ノ意味ニ於ケル契約ハ左ノモノト了解セラルヘシ

（イ）兩當事者ニ依リ署名セラレタル文書

（ロ）明細書ノ有無ヲ問ハス確定的申込ニシテ買主ニ依リ書面又ハ電報ヲ以テ無留保ニテ承諾セラレタルモノ

（ハ）確定的申込ニシテ賣主ニ依リ書面又ハ電報ヲ以テ無留保ニテ承諾セラレタルモノ

（註二）　亞米利加合衆國人民カ本規程ニ依リ負ヒタル義務ヲ實行スルコト能ハサル場合ニハ同人ハ其ノ代理人ヲ選任スヘシ

第七條　平和條約ノ附屬書ノ期限滿了セサル限リ同附屬書ノ實行ニ關スル計畫及倫敦協定第二附屬書第二條項（ニ）ノ實行ニ關スル計畫中商事契約ノ適用ナキ部分ノ獨逸國政府ニ依ル實行ニ關スル規定

右規定左ノ如シ

合成法ニ依ル硫酸「アンモニア」及其他ノ合成含窒素生成物ニ付テハ本規程ノ附屬書三

石炭、骸炭及褐炭ニ付テハ本規程ノ附屬書四

石炭、骸炭及褐炭ノ運送ニ付テハ本規程ノ附屬書五

染料及化學藥品ニ付テハ本規程ノ附屬書六

第八條　賠償委員會ノ注文及「ベメルマン、クンツェ」協定（千九百二十二年六月二日伯林）及「ジレ、ルッペル」協定（千九百二十二年六月巴里）ニ基キ千九百二十四年九月一日前ニ締結セラレタル契約

一　「ヴェルサイユ」條約第八編第二附屬書、第三附屬書及第四附屬書ニ基キ締結セラレタル賠償委員會ノ一切ノ舊注文竝「ベメルマン、クンツェ」協定及「ジレ、ルッペル」協定ニ基キ爲サレタル一切ノ契約ニシテ千九百二十四年九月一日前ニ締結セラレタルモノハ左記ノモノヲ除キ千九百二十五年七月一日ニ於テ取消サレタルモノト認メラルヘシ

（イ）既ニ原注文又ハ契約ノ全部又ハ一部ノ履行ヲ定ムル追加契約ノ目的ト爲リ且千九百二十四年九月一日以後同盟國政府、獨逸國政府及賠償委員會ニ依リテ承認セラレタル注文又ハ契約

（ロ）千九百二十五年七月一日前ニ注文又ハ契約ノ全部又ハ一部ノ履行ヲ定ムル追加契約ノ目的ト爲リ且同盟國政府、獨逸國政府及賠償委員會ニ依リテ承認セラレタル注文又ハ契約

關係同盟國政府ハ獨逸國政府トノ合意ニ依リ前記（イ）及（ロ）ニ揭クル一切ノ注文及契約ノ完全ナル表ヲ千九百二十五年七月一日迄ニ賠償委員會事務所ニ提出スヘシ右表ニハ注文及契約ノ履行セラルヘキ優先順位ヲ記載スヘシ右優先順位ニ關シ獨逸國政府及關係同盟國政府間ニ生スルコトアルヘキ一切ノ紛爭ハ賠償委員會ノ委員タル亞米利加合衆國人民ニ依リテ解決セラルヘシ實物引渡ニ關スル獨逸國事務所及賠償支拂取扱人ハ該表ノ寫ヲ受領スヘシ

二　前記ノ注文又ハ契約ニ關シ關係同盟國政府ハ二十四月ヲ超エサル期間內ニ爲サルヘキ一切ノ引渡及必要ナル支拂ニ關スル細目（期日ヲ含ム）ヲ賠償委員會事務所ニ時時通報スヘシ如何ナル場合ニ於テモ右ノ如キ支拂ハ當該期間內ニ關係國ノ爲ニ使用シ得ヘキ賠償支拂取扱人保管ノ資金ヲ超過スルコトヲ得ス賠償委員會事務所ハ右細目ノ寫ヲ獨逸國事務所及賠償支拂取扱人ニ送付スヘシ本條約ニ基キ爲サレタル引渡ハ本規程第四條ノ意味ニ於ケル直接支拂ヲ生セサルモノトス但シ右ハ一部支拂カ千九百二十四年九月一日前ニ獨逸國政府ニ依リテ爲サレタル場合ニ限ル

三　契約ニ依リ定メラルル支拂ヲ專門家計畫ノ年次金中ニ包含セシムルコトニ關スル問題ニ付賠償委員會、關係債權國政府及獨逸國政府ノ一切ノ權利ハ留保セラルルモノトス

第九條　支拂

第一節　賠償勘定ニ於ケル支拂

一　關係債權國政府ノ權限アル代表者ハ買主ノ要求ニ依リ契約ノ履行ニ關シ賣主ニ支拂フヘキ金額ニ付爲替手形ヲ振出スヘク右代表者ノ署名ハ賠償支拂取扱人ニ移牒セラルヘシ

右爲替手形ノ振出ハ普通ノ商業上ノ意義ヲ有スル外別ニ左記事項ヲ意味ス

（イ）爲替手形ヲ振出ス政府ハ支拂期日ニ於テ手形面記載ノ金額ヲ賠償支拂取扱人ニ依リ借記セラルルコトニ同意ス

（ロ）爲替手形ヲ振出ス政府ハ右手形カ正當ナル形式ニ於テ振出サレタルモノナルコトヲ保證ス

（ハ）定期拂ノ爲替手形ノ場合ニ於テ賠償支拂取扱人カ滿期日ニ右手形ノ支拂ニ要スル資金ヲ供スルノ準備ナキトキハ右手形ヲ振出シタル政府ハ右手形ノ支拂ニ必要ナル資金ヲ滿期日ノ二日前ニ伯林ニ於ケル「ライヒスバンク」ノ「ライヒスクレディットゲセルシャフト」ノ使用ニ供スルコトヲ約ス

二　債權國政府ハ振出ノ日ヨリ六月內ニ支拂期日ノ到來スル爲替手形ノミヲ振出スヘシ

三　買主ハ賣主ノ爲ニ裏書シタル爲替手形ヲ賣主ニ送付スヘシ

四　爲替手形ハ原則トシテ「ライヒスマルク」ニテ作成セラルヘシ

但シ契約カ他ノ通貨ニテ表示セラレタル價格ヲ計算ノ貨幣トシテ定ムル場合ニハ爲替手形ハ右通貨ニテ作成セラルヘク且支拂期日ニ於テ右手形ノ金額ハ賠償支拂取扱人ニ依リ支拂期日ノ伯林取引所ノ公定率ヲ以テ「ライヒスマルク」ニ換算セラルヘシ

五　爲替手形ハ附屬書二ニ包含セラルル形式ノ一ニ依ルヘシ形式甲ハ一覽後五日拂ノ手形ニ又形式乙ハ定期拂ノ手形ニ使用セラルヘシ右手形ニハ獨逸語ノ本文ト之ヲ手形振出債權國ノ國語ニ翻譯セルモノトヲ揭クヘシ

爲替手形ノ形式ハ賠償委員會、引渡委員會及獨逸國政府間ノ協定ニ依リ變更セラルルコトヲ得

六　「ヴェルサイユ」條約第八編第五附屬書ニ基ク引渡ニ對スル支拂ニシテ商事契約ノ適用ナキモノハ債權國政府ノ權限アル代表者ニ依リ獨逸國政府又ハ其ノ受任者ノ爲拂出サレ且賠償支拂取扱人ニ宛テタル支拂命令ニ依リテ爲サルヘシ

七　契約履行ノ結果トシテ又ハ契約ニ結末ヲ付クル爲賣主カ買主ニ對シ現金支拂ヲ爲スヘキ場合ニハ買主ハ之ヲ自國ノ政府ニ通報シ且賣主ニ對シ賠償支拂取扱人ニ支拂ヲ爲スヘキコトヲ請求スルコトヲ要ス賠償支拂取扱人ハ右金額ヲ關係國政府ニ貸記スヘシ尤モ右規定ハ最高一萬金貨「マルク」ノ契約ノ總額二割ヲ超エサル支拂ニシテ契約ノ定ムル最後ノ支拂カ爲サレタル後賣主カ買主ニ爲スヘキモノニハ適用ナキモノトス右支拂ハ商業ノ通常ノ規則ニ從ヒ賣主ニ依リ買主ニ對シ直接ニ爲サルヘシ

八　債權國政府ハ二十四時間內ニ其ノ代表者ノ署名アル左記ヲ賠償支拂取扱人ニ送付スヘシ

（イ）一日中ニ債權國ニ依リ振出サレタル支拂命令及一覽後五日拂ノ爲替手形ノ附屬書二乙ノ形式ニ依ル摘要及右摘要ノ副本

（ロ）一日中ニ債權國ニ依リ振出サレタル定期拂ノ爲替手形ノ附屬書二丁ノ形式ニ依ル摘要及右摘要ノ副本

定期拂ノ爲替手形ノ場合ニハ右ノ外債權國政府ハ右摘要（附屬書二丁）ノ副本ヲ「ライヒスクレディットゲセルシャフト」ニ送付スヘシ

債權國ハ又一週間中ニ同國ニ依リテ振出サレタル支拂命令及爲替手形ノ摘要ヲ每週賠償委員會事務所ニ供給スヘシ

賠償支拂取扱人ハ其ノ爲シタル各支拂ニ對シ借記證書ノ原本一通及其ノ寫二通ヲ賠償委員會ニ送付スヘク右借記證書ノ原本ハ關係債權國ノ代表者ヲ通シ直ニ同國ニ又其ノ寫ノ一通ハ賠償委員會事務所ニ送付セラルヘシ

第二節　直接支拂

一　或種ノ物品又ハ或種ノ役務ノ價格ノ一部ノ直接支拂ニ關スル本規程第四條ノ規定ハ左ノ方法ニ依リ各契約ニ適用セラルヘシ

（イ）契約中ニ右ノ趣旨ノ條項ヲ挿入スルコト

（ロ）契約ヲ承認スル決定ニ依ルコト

二　右（イ）ノ場合ニ於テ契約ニハ直接ニ爲サルヘキ支拂ノ期日及金額ヲ正確ニ記載スヘク且契約當事國ハ契約ヲ本規程第四條ノ規定ニ依リテ調節スル爲契約ヲ承認スル決定カ定ムルコトアルヘキ方法ニ於テ其ノ契約ヲ變更スルコトヲ互ニ約ス

三　右（ロ）ノ場合ニ於テ契約ヲ承認スル決定ニハ直接ニ爲サルヘキ支拂ノ期日及金額ヲ正確ニ記載スヘシ賠償委員會事務所ト獨逸國事務所トノ間ニ協定ナキ限リ契約ニ依リ支拂期日到來セル各金額ハ契約ノ目的タル物品ニ適用セラルヘキ係數ニ相當スル一部ノ直接支拂ヲ包含スヘシ兩事務所ノ間ニ別段ノ合意アル場合ヲ除キ獨逸國外ノ運送及建設ノ費用ニ關シテハ之ニ相當スル直接支拂ハ該役務カ爲サレタル後直ニ到來スヘキ契約上ノ支拂期日ニ於テ爲サルヘシ

四　右何レノ場合ニ於テモ賠償支拂取扱人ハ前記第一節ニ揭ケラルル規定ニ從ヒ賠償勘定ニテ支拂ヒ得ヘキ金額ヲ支拂フヘシ買主ハ普通ノ商業上ノ慣習ニ從ヒ賣主ニ直接支拂ヲ爲スヘシ

五　尤モ前記ノ條項ハ賠償支拂取扱人ヲシテ或種ノ契約ノ場合ニ契約ニ依リ規定セラル

ル支拂ノ金額ヲ支拂フコトヲ得シムル爲ノ取極ヲ債權國政府カ賠償支拂取扱人ト結ハムトスルコトヲ妨クルモノニ非ス但シ右ノ場合ニハ支拂中直接ニ爲サルヘキ部分ハ特別勘定ニ於テ關係債權國ニ借記セラルヘク右債權國ハ金融市場ニテ買入レタル「ライヒスマルク」ヲ右特別勘定ニ拂込ムコトニ依リ時時之ヲ締切ルコトヲ要ス

六　右勘定ハ少クトモ毎二月ニ一回又同勘定ノ借記額ノ殘高カ佛蘭西國ノ場合ニハ四百萬金貨「マルク」、其ノ他ノ關係國ノ場合ニハ其ノ賠償分配率ノ割合ニテ右金額ヲ減額シタルモノヲ超過セサルコトヲ確保スル爲必要ナル回數ニ於テ之ヲ締切ルヘシ

第十條　倫敦協定第二附屬書第二條項(ハ)第二項(再輸出)ノ適用ニ關スル措置

再輸出禁止ニ關スル條項ノ適用ニ關シ各債權國政府ハ左記ノ甲乙二方法中ノ一ヲ選擇スルコトヲ得右選擇ハ一年間有效ナルヘク且第一回ハ本規程實施後二月內ニ又第二回ハ第一年ノ終了前二月內ニ之ヲ行フヘシ

二方法中ノ一ノ選擇ハ賠償委員會事務所ニ通告セラルヘク且右事務所ニ依リ直ニ獨逸國事務所ニ通知セラルヘシ

右通告ヲ爲ササルカ又ハ其ノ通告ヲ爲ス迄ノ間ハ乙方法ノミ適用セラルヘシ第二回ノ選擇カ行ハレサル場合ニハ第一年度ニ對シテ採用セラレタル方法ハ第二年度ニ對シテモ有效ナルヘシ

右二方法中ニ規定セラルル條件ニ拘ラス關係國政府ハ獨逸國ヨリ引渡トシテ受領シタル物品ノ再輸出ニ關シ倫敦協定ニ於テ爲サレタル約束ヲ維持スヘシ

甲方法

一　專門家計畫第六附屬書第五ニ規定セラルル方法ニ依リ再輸出ノ認メラレタルコトアルヘキ物品又ハ總價格カ三千金貨「マルク」ヲ超エサル物品ニ關スル契約ノ場合ヲ除キ關係債權國政府ハ買主ニ依リ署名セラルル左記ノ宣言書ヲ添附セスシテ其ノ國民カ締結シタル一切ノ契約ヲ賠償委員會事務所ニ寄託セサルヘシ

「余ハ契約第、、、、號ニ基キ買入レタル物品ヲ、、、、ヨリ再輸出セサルコトヲ約ス

又余カ右物品ノ全部又ハ一部ヲ賣却スル場合ニハ余ハ其ノ買主ニ對シ余カ本宣言書ニ依リ爲シタル一切ノ約束ヲ同人ニ於テモ爲スヘキコト及爾後ノ買主ヲシテ同一ノ約束ヲ爲サシムヘキコトヲ要求スルコトヲ約ス

又余カ右約束ノ何レカヲ履行セサルトキハ余ハ二年間賠償勘定ニ於テ契約ヲ爲シ得サルコトニ同意シ且再輸出ヲ禁止スル條項ヲ附セスシテ再輸出シ又ハ轉賣シタル物品ノ價格ノ二割五分ニ等シキ金額ヲ、、、、ノ政府(關係債權國政府)ニ支拂フヘシ

他ノ物品トノ合成又ハ變形ノ場合ニハ賠償勘定トシテ獨逸國ニ依リ引渡サレサル物品ノ價格カ輸出セラルル物品ノ、、、、(註一)國境ノ價格(關稅ヲ含マス)又ハ、、、、(註二)ノ甲板渡ノ價格ノ六割ヲ超ヘサルトキハ再輸出ト認メラレサルヘシ

物品カ關係債權國政府ノ殖民地又ハ屬地ニ發付セラルルトキハ再輸出ト認メラレサルヘシ」

政府カ自ラ契約ヲ締結スル場合ニハ右政府ハ再輸出ヲ爲ササル約束ヲ附シテ之ヲ提出スルコトヲ要シ又政府カ國內ニ於テ轉賣ヲ爲ス場合ニハ右ニ規定セラルル形式ニ依ル約束ヲ爲スヘキコトヲ其ノ買主ニ要求スルコトヲ要ス(註三)

二　倫敦協定第二附屬書第二條項(ハ)ノ規定ニ從ヒ右約束ハ契約當事者カ契約中ニ挿入スル再輸出禁止ニ關スル合意ヲ妨クルモノニ非ス但シ違約金ノ重課ヲ許サス卽チ違約金カ契約ニ基キテ支拂ハルルトキハ宣言書ニ基キテ支拂ハルヘキ違約金ハ之ニ應シテ減額セラルヘキモノトス

三　再輸出ノ禁止ニ違反スル同盟國ノ買主ハ賠償契約ヲ爲スノ權利ヲ二年間喪失スヘシ

再輸出アリタリヤ否ヤニ關シ債權國ト獨逸國政府トノ間ニ意見ノ相違ヲ生スルトキハ關係當事者ハ倫敦協定及本規程ノ意義ニ於ケル再輸出アリタルヤ否ヤヲ決定スヘキ仲裁裁判者ヲ指名スヘキコトヲ本規程第十一條ニ基キテ設置セラレル仲裁裁判所ノ裁判長ニ要求スヘシ

乙方法

一　專門家計畫第六附屬書第五ニ規定セラルル方法ニ依リ再輸出ノ認メラレタルコトアルヘキ物品又ハ總價格カ三千金貨「マルク」ヲ超エサル物品ノ場合ヲ除キ賠償契約トシテ提出セラルル一切ノ商事契約ハ左記ノ條項ヲ包含スヘシ

「買主ハ本契約、、、、ニ基キ買入レタル物品ヲ、、、、ヨリ再輸出セサルコトヲ約ス

又買主カ右物品ノ全部又ハ一部ヲ賣却スル場合ニハ買主ハ第二ノ買主ニ對シ買主カ買入レタル物品ニ付爲シタルト同一ノ約束ヲナスヘキコト及右物品ノ爾後ノ買主ヲシテ同樣ノ約束ヲ爲サシムヘキコトヲ要求スルコトヲ約ス

又買主カ右約束ノ何レカヲ履行セサルトキハ買主ハ二年間賠償勘定ニテ契約ヲ爲シ得サルコトニ同意ス

他ノ物品トノ合成又ハ變形ノ場合ニハ賠償勘定トシテ獨逸國ニ依リ引渡サルル物品ノ價格カ輸出セラルル物品ノ、、、、(註四)ノ國境ノ價格(關稅ヲ含マス)又ハ、、、、(註五)ノ甲板渡ノ價格ノ六割ヲ超エサルトキハ再輸出ト認メラレサルヘシ

物品カ關係債權國政府ノ殖民地又ハ屬地ニ發付セラルルトキハ再輸出ト認メラレサルヘシ」

二　契約當事者ハ前記約束ノ不履行ニ對スル違約金又ハ損害賠償金ノ支拂ヲ約スル條項ニシテ受領國ノ法令ニ違反セサルモノヲ契約中ニ挿入スルノ權利ヲ有ス

三　再輸出ノ禁止ニ違反スル同盟國ノ買主ハ賠償契約ヲ爲スノ權利ヲ二年間喪失スヘシ

再輸出アリタリヤ否ヤニ關シ債權國ト獨逸政府トノ間ニ意見ノ相違ヲ生スルトキハ關當事者ハ倫敦協定及本規程ノ意義ニ於ケル再輸出アリタリヤ否ヤヲ決定スヘキ仲裁裁判者ヲ指名スヘキコトヲ本規程第十一條ニ基キテ設置セラルル仲裁裁判所ノ裁判長ニ要求スヘシ

(註一)　例ヘハ佛蘭西國ニ於ケル

(註二)　例ヘハ佛蘭西國ノ港ニ於ケル

(註三)　特別委員會ハ各政府カ其ノ賠償引渡物品ヲ再輸出スル場合ノ制裁ヲ規定セサリキ蓋シ右ノ如キ行爲ハ明カニ倫敦協定ニ反スルモノナレハナリ

(註四)　例ヘハ佛蘭西國ニ於ケル

(註五)　例ヘハ佛蘭西國ノ港ニ於ケル

第十一條　仲裁裁判

賠償委員會、引渡委員會若ハ債權國ノ一ト獨逸國政府トノ間ニ本規程ノ解釋若ハ適用ニ關シ紛爭ヲ生スルトキ又ハ一債權國若ハ賠償委員會ニ於テ獨逸國政府カ倫敦協定第二附屬書第二條項(ハ)ノ第一項ニ基キテ有スル義務ヲ履行セスト認ムルトキハ右紛爭ハ當事者ノ合意ニ依リ指名セラルル一名又ハ三名ノ仲裁裁判者ニ付セラルヘク右合意ヲ得サルトキハ倫敦協定第二附屬書第一條項ニ依リ設ケラルル仲裁裁判所ニ依リ指名セラルル三名ノ仲裁裁判者ニ附セラルヘシ

仲裁判決ヲ爲ス前ニ於テ且係爭問題ニ影響ヲ及ホスコトナク仲裁裁判者ハ何レカノ當事者ノ發議アルトキハ當事者ノ利益保護ノ爲必要ナル暫行的措置ヲ命スヘシ

第十二條　違反及詐欺

一　債權國政府、獨逸國政府竝巴里ニ於ケル賠償委員會及獨逸國政府ノ各事務所ハ情報交換ニ依リ本規程ノ違反又ハ本規程ニ基キテ承認セラレタル契約ノ履行ニ關スル詐欺ヲ防遏スル爲一切ノ手段ヲ講スヘシ

二　賠償委員會ニ依ル契約ノ承認後關係債權國及獨逸國政府ハ契約ノ履行ニ付本規程ノ違反又ハ詐欺アリヤ否ヤヲ確ムル爲各自國內ニ於テ其ノ必要ナリト思考スル調査ヲ爲スコトヲ得賠償委員會事務所又ハ關係債權國ニ對シ引渡カ現實ニ爲サレタリヤ否ヤヲ判斷スルコトヲ得ヘキ貨物引渡證又ハ其ノ他ノ證據ヲ要求スル等ノ調査ヲ時時爲スコトヲ得

三　關係債權國又ハ獨逸國政府(其ノ事務所ヲ通シ)ハ契約ニ關スル右調査ヲ爲サムトスルノ意思ヲ賠償委員會事務所ニ通告シ且右調査ノ結果ヲ證據書類ト共ニ同事務所ニ送付スヘシ

賠償委員會事務所ハ各場合ニ應シ關係債權國又ハ巴里ニ於ケル獨逸國事務所ニ右情報ヲ通知スヘク又其ノ爲シタル調査ノ結果ヲ關係債權國及巴里ニ於ケル獨逸國事務所ニ通知スヘシ

四　本國政府ニ依リ本規程ノ故意ノ違反又ハ詐欺ヲ爲シタリト認メラルル買主ノ氏名ハ關係債權國ヨリ賠償委員會事務所ニ通告セラルヘク同事務所ハ之ヲ獨逸國事務所ニ通知スヘシ

獨逸國政府ニ依リ本規程ノ故意ノ違反又ハ詐欺ヲ爲シタリト認メラルル賣主ノ氏名ハ獨逸國事務所ニ依リ賠償委員會事務所ニ通告セラルヘク獨逸國事務所ハ右決定ニ關スル理由ヲ供給スヘシ賠償委員會事務所ハ之ヲ一切ノ債權國政府ニ通知シ且特ニ關係アル國ノ政府ニ右理由ヲ通報スヘシ

右通告ノ日ヨリ二年間賠償委員會事務所ハ氏名ノ通告セラレタル賣主又ハ買主カ契約當事者ノ一タル一切ノ契約ノ承認ヲ拒絕スヘシ

關係國政府ハ本條ニ基キ獨逸國政府ニ依リテ執ラレタル特殊ノ措置カ倫敦協定第二附屬書第二條項(ハ)第一項ノ規定ニ違反スト認ムルトキハ本規程第九條ニ依リテ定メラルル仲裁裁判所ニ右措置ノ取消ヲ訴フルノ權利ヲ有スヘシ

五　契約ニ基ク最終支拂前ニ買主又ハ賣主ノ何レカ一方カ其ノ本國政府ニ依リ本規程ノ故意ノ違反又ハ詐欺ヲ爲シタリト認メラレ且其ノ氏名カ前記四ノ規定ニ依リ賠償委員會事務所ニ通告セラレタルトキハ賠償支拂取扱人ハ右契約ニ關スル爾後ノ支拂ヲ爲ササルヘク且同盟國人タル買主及獨逸國人タル賣主ハ其ノ間ニ於テ直接ニ該契約ノ履行ヲ繼續スヘキモノトス

第十三條　本規程ノ改訂

本規程ハ四月一日ヨリ實施セラルヘキ改訂ヲ二年毎ニ加ヘラルルコトヲ得第一回ノ改訂ハ千九百二十七年四月一日附トス

第一回ノ改訂ノ要求ハ債權國ノ一、賠償委員會、引渡委員會(引渡委員會ノ關スル限リ)又ハ獨逸國政府ニ依リ改訂ノ年ノ一月一日前ニ賠償委員會事務所ニ提出セラルヘシ

改訂ハ本規程ヲ作成シタル委員會ト同一ノ方法ニ依リ構成セラレ且之ト同一ノ權限ヲ有スヘキ特別委員會ニ依リテ爲サルヘシ

本規程ハ佛蘭西語、英吉利語及獨逸語ヲ以テ作成セラレ解釋ニ關シテハ右三本文ヲ以テ共ニ正文トス尤モ解釋ニ關シ仲裁裁判ニ付シタル場合ニ於テ且仲裁裁判所ノ判決アル迄ハ關係債權國ニ依リ實物引渡ノ適當ナル實行上最有利ナリト認メラルル解釋ヲ以テ正當ナルモノト爲スヘシ

千九百二十五年三月六日巴里ニ於テ作成ス

特別委員會ヲ代表シテ
議長　マルク、ワレンベルク

附屬書一

(本附屬書ハ佛蘭西語、英吉利語及獨逸語ヲ以テ作成セラレ解釋ニ關シテハ獨逸語ノ本文ヲ以テ正文トス)

表

甲　「賠償」勘定ニテ引渡スコトヲ得サル物品

乙　制限物品

丙　賠償支拂取扱人ノ資金中ヨリ一部ノミ支拂ヲ爲シ得ル物品

丁　制限カ特別委員會ニ依リテ決定セラレタル制限物品

甲表　「賠償」勘定ニテ引渡スコトヲ得サル物品(註一)

第一類

(イ)　獨逸國ノ領域內ニテ加工セラレサリシ外國產ノ一切ノ物品

(ロ)　輸入原料品ヲ以テ製造セラレタル食料品

(ハ)　金、白金及銀ノ製品

第二類　契約締結ノ時ニ於テ輸出ヲ禁止セラレ居ル工業生產品

第三類　各種ノ工業生產品

(イ)　屑鐵及屑銅(八四三イ)

(ロ)　鞣皮及毛皮(一五三乃至一五五)

(ハ)　紙屑、反古等(六七三イ)

(ニ)　屑絲、屑綿等、機織屑及其ノ他ノ屑ニシテ製紙ニ使用セラルルモノ(五四三ロ)

第四類　各種ノ農業生產品

(イ)　亞麻(二八ハ及ニ)及大麻(二八ホ)

(ロ)　各種ノ穀類(一乃至八)、油糟(一九三)及野菜類(一一及一二)但シ乙表ニ掲クルモノ及乾菜類ヲ除ク

(ハ)　牛乳及バター(一三三及一三四)卵(一三六)蜂蜜(一三九及一四〇)

(ニ)　馬鈴薯(二三)

(ホ)　甜菜(二五)

(ヘ)　穀類製食麵麭類(一六二イロ但シ一六二ハヲ除ク)

(ト)　獸脂(一二六乃至一三二)動物性肥料(一六一)

(チ)　丸太材但シ坑內支柱ヲ除ク

乙表　制限物品(註二)

一　「コールター」(二四四イ)及「ヴエルサイユ」條約第八編第五附屬書八ノ末項ニ掲クル其ノ他ノ生產品

二　「ベンゾール」(二四五イ)

三　「パラフイン」(二五〇及二五一)

四　耐火粘土(二二三及二二六但シ硅岩ヲ除ク)

五　各種ノ農業生產物

(イ)　「ビクトリア、ピーズ」(一一ロヲ除ク)

(ロ)　含油果實(一三乃至一七)

(ハ)　家畜(一〇〇乃至一〇七)

(ニ)　各種ノ農業用種子、育種場培養物

(ホ)　幼魚及魚卵

倘輸出禁止貨物ハ輸出許可ノ日ヨリ二年間引續キ本乙表中ニ記載セラルヘシ

(註一)(註二)　括弧內ノ數字ハ獨逸國ノ物品統計表ノ物品ノ番號ナリ

丙表　賠償支拂取扱人ノ資金中ヨリ一部ノ支拂ノミヲ爲シ得ル物品

本表ハ實物引渡規程第三條四乃至六ニ掲ケラルル修正濟ノ表ナリ

類別目次

類別

一　鐵以外ノ一切ノ卑金屬ノ鑛材、半製品、粗製品及精製品ニシテ鑄造又ハ延展セラレタルモノ

二　銑鐵、粗鋼、鐵ノ合金

三　電線、蓄電池、電信電話線、電極

四　化學製品、人造肥料、鞣皮製品

五　油及脂肪工業製品、鑛油、「ベンヂン」、臘、魚油、藥用植物及樹皮

六　護謨、「コルク」製品、石綿製品

七　絹、羊毛、綿、其ノ他ノ植物性纖維原料

八　上等皮(加工品)、生毛皮、剝製動物

九　皮類、獸皮未製品、足袋類、馬具、高級柔皮製品、手袋、未加工皮革製調帶、各種柔皮製品

一〇　帚、塗刷毛及其ノ他ノ刷毛類、羽帚、麥稈眞田製品

一一　樽及家具類、鉛筆、石盤、海綿、「ボタン」

（布著セ「ボタン」ヲ除ク）、彫刻可能ナル動物生成物、裝飾用羽毛、煙草、木質「パルプ」

（細目及附屬書省略）

（昭和二年三月十二日外務省告示第十二號）

大正十五年三月五日附外務省告示第十九號實物引渡規程第十三條ニ依リ同規程改訂ノ要求ヲ昭和二年二月一日前ニ賠償委員會事務所ニ提出シタルモノナク仍テ規程ノ改訂ヲ爲ササルコトニ決定セル處賠償委員會ト獨逸國政府トノ合意ニ基キ昭和三年一月一日前ニ改訂ノ要求アラハ同年四月一日ヨリ改訂ヲ爲シ得ルコトトナレリ

●對獨賠償債權讓渡ノ件

（大正十五年九月三日大藏省告示第百三十一號）

對獨賠償債權讓渡ノ件

政府ハ對獨賠償債權中ドーズ年次金餘裕額五百萬麻ヲ限度トシ此ノ際之ヲ民間希望者ニ對シ讓渡スルコトトナシタルニ付テハ其ノ方法竝條件ハ實物引渡規程（大正十五年三月五日外務省告示第十九號）竝左記各號ニ定ムル所ニ依ルモノトス

一、賠償債權ノ讓渡ヲ受ケ得ル者ハ引續キ三年以上獨逸商品ノ輸入ニ從事シ且信用アル商人タルコトヲ要ス

二、賠償債權ノ讓渡ヲ希望スル者ハ其ノ金額、該債權ヲ利用シ購入セムトスル獨逸商品ノ種類數量價格及其ノ代金支拂ノ時期竝前號ノ資格ヲ具備スル旨ヲ明記シタル對獨賠償債權讓渡申請書ヲ大藏省理財局長宛ニ提出スヘシ

三、前號ノ申請書ハ大正十五年十月末日迄ニ提出スルコトヲ要ス但シ右期間內ト雖申請額カ讓渡豫定額ヲ超過スル場合ニハ申請書ヲ受理セサルコトアルヘシ

四、賠償債權ヲ利用シテ購入スル獨逸商品ハ國產振興ノ趣旨ニ反セス且贅澤品ニ非サルモノナルコトヲ要ス

五、賠償債權讓渡額ハ原則トシテ一契約十萬麻又ハ其ノ相當額以上トス

六、政府ハ對獨賠償債權讓渡申請書ヲ調査シ大藏省賠償物件處理委員會ノ審議ニ附シ賠償債權ノ讓渡ヲ受ク可キ者竝讓渡金額ヲ決定シタル上申請者ト契約ヲ締結スルモノトス

七、賠償債權ノ讓渡ハ巴里ニ於ケル帝國政府代表者ノ振出ス賠償爲替手形ノ交付ニ依リ之ヲ行フモノトス

八、賠償爲替手形ハ原則トシテ麻貨ニテ作成ス但シ商品購入契約カ麻貨以外ノ通貨ニテ表示セラレタルトキハ右通貨ニ依リ作成ス

九、賠償債權讓渡ノ代金ハ賠償爲替手形ノ金額ヲ其ノ讓渡契約成立ノ日ニ於ケル橫濱正金銀行對外爲替相場ニ依リ換算シタル邦貨額トス

十、賠償債權ヲ讓渡シタル場合其ノ代金ノ納付ニ付テハ賠償爲替手形交付ノ日ヨリ一年六箇月以內ノ延納ヲ認ムルコトヲ得ルモノトス

十一、前號ニ依リ延納ヲ認メタル場合ニハ擔保トシテ國債ヲ提供セシムルモノトス

（昭和二年三月三十日大藏省告示第四十八號）

對獨賠償債權讓渡ノ件

政府ハ對獨賠償債權中ドーズ年次金餘裕額四百萬麻ヲ限度トシ此ノ際之ヲ民間希望者ニ對シ讓渡スルコトトナシタルニ付テハ其ノ方法竝條件ハ實物引渡規程（大正十五年三月五日外務省告示第十九號）竝左記各號ニ定ムル所ニ依ルモノトス

一、賠償債權ノ讓渡ヲ受ケ得ル者ハ引續キ三年以上獨逸商品ノ輸入ニ從事シ且信用アル商人タルコトヲ要ス

二、賠償債權ノ讓渡ヲ希望スル者ハ其ノ金額、該債權ヲ利用シ購入セムトスル獨逸商品ノ種類數量價格及其ノ代金支拂ノ時期竝前號ノ資格ヲ具備スル旨ヲ明記シタル對獨賠償債權讓渡申請書ヲ大藏省理財局長宛ニ提出スヘシ

三、前號ノ申請書ハ昭和二年四月末日迄ニ提出スルコトヲ要ス但シ右期間內ト雖申請額カ讓渡豫定額ヲ超過スル場合ニハ申請書ヲ受理セサルコトアルヘシ

四、賠償債權ヲ利用シテ購入スル獨逸商品ハ國產振興ノ趣旨ニ反セス且贅澤品ニ非サルモノナルコトヲ要ス

五、賠償債權讓渡額ハ原則トシテ一契約十萬麻又ハ其ノ相當額以上トス

六、政府ハ對獨賠償債權讓渡申請書ヲ調査シ大藏省賠償物件處理委員會ノ審議ニ附シ賠償債權ノ讓渡ヲ受ク可キ者竝讓渡金額ヲ決定シタル上申請者ト契約ヲ締結スルモノトス

七、賠償債權ノ讓渡ハ巴里ニ於ケル帝國政府代表者ノ振出ス賠償爲替手形ノ交付ニ依リ之ヲ行フモノトス

八、前號ノ賠償爲替手形ノ交付ハ昭和二年六月以降ニ於テ之ヲ行フモノトス

九、賠償爲替手形ハ原則トシテ麻貨ニテ作成ス但シ商品購入契約カ麻貨以外ノ通貨ニテ表示セラレタルトキハ右通貨ニ依リ作成ス

十、賠償債權讓渡ノ代金ハ賠償爲替手形ノ金額ヲ其ノ讓渡契約成立ノ日ニ於ケル橫濱正金銀行對外爲替相場ニ依リ換算シタル邦貨額トス

十一、賠償債權ヲ讓渡シタル場合其ノ代金ノ納付ニ付テハ賠償爲替手形交付ノ日ヨリ一年以內ノ延納ヲ認ムルコトヲ得ルモノトス

十二、前號ニ依リ延納ヲ認メタル場合ニハ擔保トシテ國債ヲ提供セシムルモノトス

（昭和二年五月二十六日大藏省告示第九十一號）

對獨賠償債權讓渡ノ件

政府ハ對獨賠償債權中ドーズ年次金餘裕額二百萬麻ヲ限度トシ此ノ際之ヲ民間希望者ニ對シ讓渡スルコトトナシタルニ付テハ其ノ方法竝條件ハ實物引渡規程（大正十五年三月五日外務省告示第十九號）竝左記各號ニ定ムル所ニ依ルモノトス

一、賠償債權ノ讓渡ヲ受ケ得ル者ハ引續キ三年以上獨逸商品ノ輸入ニ從事シ且信用アル商人タルコトヲ要ス

二、賠償債權ノ讓渡ヲ希望スル者ハ其ノ金額、該債權ヲ利用シ購入セムトスル獨逸商品ノ種類數量價格及其ノ代金支拂ノ時期竝前號ノ資格ヲ具備スル旨ヲ明記シタル對獨賠償債權讓渡申請書ヲ大藏省理財局長宛ニ提出スヘシ

三、前號ノ申請書ハ昭和二年六月十日迄ニ提出スルコトヲ要ス但シ右期間內ト雖申請額カ讓渡豫定額ヲ超過スル場合ニハ申請書ヲ受理セサルコトアルヘシ

四、賠償債權ヲ利用シテ購入スル獨逸商品ハ國產振興ノ趣旨ニ反セス且贅澤品ニ非サルモノナルコトヲ要ス

五、賠償債權讓渡額ハ原則トシテ一契約十萬麻又ハ其ノ相當額以上トス

六、政府ハ對獨賠償債權讓渡申請書ヲ調査シ大藏省賠償物件處理委員會ノ審議ニ附シ賠償債權ノ讓渡ヲ受ク可キ者竝讓渡金額ヲ決定シタル上申請者ト契約ヲ締結スルモノトス

七、賠償債權ノ讓渡ハ巴里ニ於ケル帝國政府代表者ノ振出ス賠償爲替手形ノ交付ニ依リ之ヲ行フモノトス

八、前號ノ賠償爲替手形ノ交付ハ昭和二年六月以降八月末迄ニ於テ之ヲ行フモノトス

九、賠償爲替手形ハ原則トシテ麻貨ニテ作成ス但シ商品購入契約カ麻貨以外ノ通貨ニテ表示セラレタルトキハ右通貨ニ依リ作成ス

十、賠償債權讓渡ノ代金ハ賠償爲替手形ノ金額ヲ其ノ讓渡契約成立ノ日ニ於ケル橫濱正金銀行對外爲替相場ニ依リ換算シタル邦貨額トス

十一、賠償債權ヲ讓渡シタル場合其ノ代金ノ納付ニ付テハ賠償爲替手形交付ノ日ヨリ一年以內ノ延納ヲ認ムルコトヲ得ルモノトス

十二、前號ニ依リ延納ヲ認メタル場合ニハ擔保トシテ國債ヲ提供セシムルモノトス

●倫敦協定ニ依ル專門家計畫

（「ドーズ」案）

（大正十四年三月五日外務省告示第三十號）

倫敦協定（大正十四年三月五日外務省告示第二十八號）ニ依リ實施セラルルコトニ決定シタル專門家計畫（所謂「ドーズ」案）ノ全文左ノ如シ

第一專門委員會報告書

目次

第一編ノ概要
第一編
第二編
第三編
第一附屬書　獨逸國ニ於ケル發行銀行設立ニ關スル計畫
第二附屬書　提議セラレタル繁榮指數
第三附屬書　獨逸國鐵道ニ關スル一般報告書
第四附屬書　會社ニ對スル獨逸國鐵道經營ノ特許
第五附屬書　工業債券
第六附屬書　賠償支拂額ノ引渡
第七附屬書　獨逸國ニ於テ流通セル通貨ニ關スル覺書
第八附屬書　獨逸國豫算ノ假一覽表
第九附屬書　配當金ヨリ生スル各種收入ノ比較狀況

第一專門委員會報告書

第一編ノ概要

（註）本概要ハ單ニ讀者ノ便宜ノ爲作成シタルモノニシテ第一編第二編及附屬書カ委員會案唯一ノ正文ナリ

第一　委員會ノ態度

イ　其ノ採リタル立脚點ハ實務的ニシテ政治的ニ非ス

ロ　政治的要素ハ計畫ノ實行性ニ影響ヲ及ス範圍內ニ於テノミ考慮セラレタリ

ハ　債務ノ回收ヲ目的トシ利潤ヲ目的トセス

ニ　獨逸國ニ依ル右債務ノ支拂ハ戰爭ノ損害ノ復舊ニ對スル其ノ當然ノ負擔ナリ

ホ　一切ノ事業ノ基本タル誠意ヲ以テ本計畫ヲ實行スルコトハ當事國全部ノ利益ナリ吾人ノ計畫ハ右原則ニ基クモノナリ

ヘ　獨逸國ノ復興ハ單獨ニ之ヲ目的トセス歐羅巴復興ノ一層大ナル問題ノ一部ヲ爲スニ過キス

ト　提案セラレタル保障ハ經濟的ニシテ政治的ニ非ス

第二　獨逸國ノ經濟的統一

通貨ノ安定及豫算ノ均衡ニ成功セムカ爲ニハ獨逸國ハ「ヴェルサイユ」條約ニ依リ確定セラレタル獨逸國領域ノ資源及之ニ於ケル自由ナル經濟的活動ヲ必要トス

第三　軍事的方面―保障及課セラルルコトアルヘキ制裁

イ　政治的保障及制裁ハ吾人ノ權限外ナリ

ロ　本問題ノ軍事的方面ハ吾人ノ委任セラレタル權限ノ外ナリ

ハ　統一セラレタル領域內ニ於テ本計畫ヲ有效ニ實施スルニハ左ノ事項ヲ必要トス

一　軍事組織ノ存在スルトキハ該組織ハ經濟的活動ノ自由ヲ妨ケサルコトヲ要ス

二　本計畫ニ依リ提案セラレタルモノノ外ハ何等ノ外國ノ經濟的監理又ハ干涉ナカルヘシ

ニ　然レトモ適當ニシテ生產的ナル保障ハ之ヲ設ケタリ

第四　委員會ノ任務

イ　通貨ノ安定及豫算ノ均衡ハ審査ノ爲假ニ分離セラレ得ヘキモ密接ニ關聯スル問題ナリ

ロ　通貨ノ安定ハ豫算カ正常ニ均衡ヲ保ツトキニ於テノミ維持セラレ得ヘク豫算ハ安定ニシテ信用アル通貨ノ存在スルトキニ於テノミ均衡ヲ保ツコトヲ得

ハ　此等兩者ハ獨逸國ヲシテ國內ノ需要及條約上ノ支拂ニ應セシメムカ爲ニ必要ナリ

第五　獨逸國將來ノ經濟

イ　生產力ハ增加スル人口、專門的熟練、豐富ナル物質的資源及國內ニ於ケル工業科學ノ優越ヨリ期待セラルヘシ

ロ　設備ノ能力ハ戰爭以來增加シ且改善セラレタリ

第六　通貨及發行銀行

イ　一切ノ階級ハ安定セル通貨ニ依リ利益ヲ享クヘシ殊ニ勞働階級ニ於テ然リトス

ロ　現狀ニ於テハ「レンテンマルク」ノ安定ハ單ニ一時的ナリ

ハ　新銀行ヲ設立シ又ハ「ライヒスバンク」ヲ改造スルコトトス

ニ　右銀行ノ主要ナル特徵ハ左ノ如シ

一　排他的特權ヲ以テ金ニ據ル安定セル基礎ノ上ニ銀行券ヲ發行スルコト

二　銀行ノ銀行ニシテ割引ノ公定率ヲ定ムルモノナルコト

三　政府ノ銀行ナルモ政府ノ監理ヲ免ルルモノナルコト

四　政府ニ對スル貸出ハ嚴格ニ制限セラルヘキコト

五　賠償支拂金ノ預入ヲ受クルコト

六　右銀行ノ資本ハ四億金貨「マルク」タルコト

七　同銀行ハ獨逸國人タル總裁及理事會ニ依リテ統轄セラルヘク此等ハ獨逸國人ヨリ成ル評議員會ノ補佐ヲ受クルヲ得ヘキコト

八　其ノ定款ノ適當ナル遵守ハ更ニ監事會ニ依リ保障セラルヘク右監事會員ノ半數（監理人ヲモ包含ス）ハ外國人ヨリ成ル

第七　豫算及一時的賠償猶豫

獨逸國豫算ノ均衡ニハ左ノ事項ヲ要ス

イ　本報告ニ定ムル監督ニ從フヲ條件トスル完全ナル經濟上及財政上ノ主權

ロ　安定ナル通貨

ハ　條約上ノ義務ニ基ク豫算上ノ負擔ノ一時的猶豫

ニ　右猶豫ハ須要ナル實物引渡ヲ停止スルモノニ非ス

第八　獨逸國ノ年次負擔ノ基礎的原則

イ　條約上ノ義務及豫算均衡ノ繼續

一　豫算ノ均衡ニハ單ニ國內行政費ヲ償フノミニテハ不充分ナリ

二　獨逸國ハ亦其ノ條約上ノ對外義務ニ對シテモ其ノ能力ノ最大限度迄資金ヲ調達スルコトヲ要ス

三　必シモ獨逸國ノ債務總額問題ヲ處理セストモ豫算ノ均衡ヲ保チ得ヘシ

四　豫メ明確ニ決定セラレタル基礎ノ上ニ年次負擔金カ長期間ニ付定メラルルニ非サレハ豫算ハ繼續的ニ均衡ヲ保ツコト能ハサルヘシ

ロ　課稅ノ相應

一　政府ノ國內債務ハ通貨ノ低落ニ依リ實際上消滅セリ

二　新債務負擔ハ佛蘭西國、英吉利國、伊太利國及白耳義國ノ納稅者ノ負擔ト相應セサルヘカラス

三　平和條約ハ右原則ヲ承認ス

四　右ハ道徳的ニ公正ナリ

五　右ハ生産費ニ對スル其ノ影響ニ於テ經濟的ニ正當ナリ

六　右原則ハ實行シ得ル限リ適用セラレタリ

ハ　一　獨逸國ノ繁榮ニ對スル同盟國ノ取分

二　獨逸國ニ對スル債權者ハ獨逸國ノ繁榮増進ニ對シ取分ヲ有ス

右ハ繁榮ノ指數ニ依リテ行ハルヘシ

ニ　租税支拂ノ獨逸國人ノ能力ト富ヲ外國ニ移轉スル獨逸國ノ能力トノ間ニ重大ナル差異アリ

第九　支拂ノ行ハルヽ通常財源

獨逸ハ三種ノ財源即チイ租税、ロ鐵道、ハ工業債券ヨリ條約上ノ負擔ヲ支拂フモノトス

イ　經常豫算ヨリ

一　千九百二十四－千九百二十五年豫算ハ平和條約ニ基ク負擔ヲ免除セラルルニ於テハ均衡ヲ保チ得ヘシ

二　千九百二十五－千九百二十六年豫算ハ特別財源ヨリ五億金貨「マルク」ヲ受入レ而シテ右金額ヲ賠償トシテ支拂フコトヲ得ヘシ

三　千九百二十六－千九百二十七年
一億一千萬金貨「マルク」（註）

四　千九百二十七－千九百二十八年
五億金貨「マルク」（註）

五　千九百二十八－千九百二十九年
十二億五千萬金貨「マルク」

右ハ通常年度ニシテ標準支拂ト認メラルヘシ爾後ハ繁榮ノ程度ニ應シ増額支拂ヲ爲スヘシ

（註）特定ノ場合ニ於テ増額又ハ減額スルコトヲ得

ロ　鐵道ヨリ

一　鐵道債券

イ　二百六十億ノ資本價格ニ對シ第一抵當權ヲ有スル百十億ノ債券ハ賠償ノ爲ニ發行セラルヘシ

ロ　右債券ハ年利五分及減債基金年一分ヲ負擔ス

ハ　改造ヲ顧慮シ左ノ利子ヲ附ス

千九百二十四－千九百二十五年
三億三千萬金貨「マルク」
千九百二十五－千九百二十六年
四億六千五百萬金貨「マルク」
千九百二十六－千九百二十七年
五億五千萬金貨「マルク」
千九百二十七－千九百二十八年以後
六億六千萬金貨「マルク」

右債券ノ外ニ左記ヲ發行スヘシ

一般賣出ニ留保セラルヘキ二十億ノ優先株及

百三十億ノ普通株

優先株賣上金ノ四分ノ三ハ必要ニ應シ債務ノ支拂及鐵道ノ資本支出ニ充テラルヘシ

殘餘ノ五億ノ優先株及一切ノ普通株ハ獨逸國政府ノ有ニ歸ス

二　運送税

千九百二十五－千九百二十六年以後毎年二億九千萬金貨「マルク」ハ之ヲ賠償ニ充テ且殘額ハ獨逸國政府ノ有ニ歸ス

ハ　工業債券

一　五十億ノ工業債券ハ賠償ニ充テラルヘシ

二　因テ生スル工業上ノ負擔ハ之ヲ戰前ニ存在シ且現在通貨ノ低落ニ依リテ消滅セル負擔ヨリ少額ナリ

三　右債券ハ年利五分及減債基金一分即チ年額三億金貨「マルク」ヲ負擔ス

四　經濟復興ノ期間利子及減債基金ハ左ノ如ク附セラルヘシ

第一年ナシ
第二年一億二千五百萬金貨「マルク」
第三年二億五千萬金貨「マルク」
爾後三億金貨「マルク」

第十　條約上ノ支拂ニ對スル財源ノ要約

イ　一　豫算ヨリスル支拂ノ猶豫期間

第一年　外債及鐵道債券利子ノ一部ヨリ
計　十億金貨「マルク」

第二年　鐵道債券及工業債券ノ利子ノ一部及鐵道株券五億金貨「マルク」ノ賣却ニ依ル豫算上ノ支出ヨリ
計　十二億二千萬金貨「マルク」

二　過渡期間

第三年　鐵道債券及工業債券ノ利子、運送税又豫算ヨリ
計　十二億金貨「マルク」
（場合ニ依リ二億五千萬金貨「マルク」ノ増減アルヘシ）

第四年　鐵道債券及工業債券ノ利子、運送税及豫算ヨリ
計　十七億五千萬金貨「マルク」
（場合ニ依リ二億五千萬金貨「マルク」ノ増減アルヘシ）

三　標準年度

第五年　鐵道債券及工業債券ノ利子、運送税及豫算ヨリ
計　二十五億金貨「マルク」

爾後ハ繁榮ノ指數ニ基キテ計算セラレタル追加額ヲ二十五億ニ加算ス

債券ノ利子ハ右金額ニ含マルルモ債券ノ賣上金ハ之ニ含マレス

ロ　第一年ハ本計畫カ承認セラレ且有效ニ實施セラルルノ日ヨリ始マル

第十一　總計實物引渡

イ　前記ノ金額ハ獨逸國カ同盟及聯合國ニ支拂フヘキ總テノ金額ヲ包括ス

ロ　實物引渡ハ繼續セラルヘキモ銀行ニ於ケル差引殘額ヨリ支拂ハルヘシ

第十二　獨逸國カ年次支拂ヲ爲ス方法

イ　金額ハ金貨「マルク」ヲ以テ調達セラレ且銀行ニ支拂ハルルモノトス

ロ　此等ノ支拂ハ獨逸國ノ年次債務ニ充ツ

第十三　債權者カ支拂ヲ受領スル方法

イ　獨逸國ニ對スル債權者ハ獨逸國内ニ於テ右金額ヲ使用スルカ又ハ外國貨幣ニ之ヲ換フ

ロ　換貨カ安全ニ實行セラレ得ル換算率及限度ハ經驗ニ依ルヘシ

ハ　過多ノ送金カ通貨安定ニ及ス危險ハ引渡委員會ニ依リテ除カルヽモノトス

ニ　送金セラレサル金額ハ積立テラルルモ或ル一定ノ額ヲ限度トス

第十四　鐵道債券及工業債券以外ノ保障

イ　左ノ收入ハ豫算上ノ支出其ノ他ノ支拂ニ對スル保障ト爲ス

一　酒精
二　煙草
三　麥酒
四　砂糖
五　關税

ロ　右收入ノ實收ハ必要ナル支拂額ヲ著シク超過スヘシト認定セラル

ハ　超過額ハ之ヲ獨逸國政府ニ返還ス

第十五　對外借款－其ノ條件及目的

八億金貨「マルク」ノ對外借款ハ二重ノ目的ニ充ツ

イ　新銀行ノ金準備ノ必要

ロ　千九百二十四－千九百二十五年ニ於ケル條約上ノ須要ナル目的ニ對スル國内支拂

第十六　組織

組織ハ左記ヨリ成ル

イ　鐵道債券及工業債券ニ對スル受託人

ロ　（一）鐵道（二）銀行（三）監理セラルル收入ニ對スル三名ノ監理人

ハ　上記ノモノノ活動ニ協力シ且引渡委員會ノ議長タルヘキ賠償支拂取扱人

第十七　本計畫ノ性質

イ　本計畫ハ不可分ノ一體ナリ

ロ　本計畫ノ目的ハ左ノ如シ

一　獨逸國ヨリ能フ限リ多額ノ年次支拂ヲ行ハシムル組織ヲ立ツルコト

二　獨逸國ニ對スル債權者ニ對シテ最大限度ノ引渡ヲ爲スヲ得シムルコト

三　「獨逸國ハ何ヲ支拂ヒ得ヘキカ」ノ問題ヲ臆測ノ範圍ヨリ引離シ之ヲ實證ノ範圍ニ置クコト

四　事情ノ許ス限リ速ニ一切ノ賠償問題及之ニ關聯スル問題ニ付最終的且包括的協定ヲ容易ナラシムルコト

第一專門委員會報告書

吾人ハ賠償委員會ノ千九百二十三年十一月三十日ノ決議ニ依リ左ノ目的ノ爲招集セラレタリ

獨逸國ノ「豫算ノ均衡ヲ保タシムル方法及通貨ヲ安全ナラシムル措置ヲ攻究スルコト」

吾人ハ伯林ニ於テ二週間ヲ費シタル外千九百二十四年一月十四日以來引續キ巴里ニ於テ會合シタリ

吾人ハ攻究ノ題目ト爲レル各種ノ問題ニ付優秀ナル專門的助言者ノ援助ヲ求メ且常ニ獨逸國ノ代表的意見ト接觸ヲ保チタリ

吾人ハ吾人ノ研究及調査ノ結果得タル全會一致ノ結論ヲ記載セル左記報告書ヲ提出スルノ光榮ヲ有ス

本報告書ノ第一編ニハ吾人ノ任務ニ對スル吾人ノ見解、結論及吾人ノ計畫ノ梗概ヲ記載ス

第二編ニハ吾人ヲシテ其ノ結論ニ達セシメタル考察殊ニ茲ニ記述セラルル獨逸國ニ於ケル現在ノ財政的及經濟的狀態ノ或方面ニ關スルモノヲ記載ス

第三編ハ吾人ノ各種建策ニ關シ專門的細目ヲ述ヘタル諸附屬書ヨリ成リ第一編ノ相當項目ニ對スル補遺トシテ讀マルヘキモノナリ

第一編　委員會ノ結論及考案

第一　委員會ノ態度

吾人ハ有數ナル結果ヲ得ルヲ念トスル實務家トシテ吾人ノ任務ニ當リタリ吾人ハ吾人ニ提供セラレタル問題ニ關シ專門的ニシテ政治的ナラサル方面ニ付攻究シタリ尤モ吾人ハ解決案カ受諾ノ機會ヲ與ヘラレムカ爲ニハ政治的考量ヨリ必然的ニ生スル一定ノ制限内ニ於テ之ヲ見出スヲ要スルコトヲ認メ此ノ範圍内ニ於テ且此ノ範圍内ニ於テノミ政治的考量ヲ念頭ニ置キタリ

獨逸國ノ豫算中最主要ナル部分ハ「ヴェルサイユ」條約ノ規定スル對同盟國義務ナリ吾人ハ右債務取立ニ關スル實際方法ヲ攻究シ科刑ノ問題ニハ觸ルルコトナカリキ吾人ノ提議スル保障ハ經濟的ノモノニシテ政治的ノモノニ非ス同時ニ吾人ノ取扱フモノハ普通ノ債務ニ非ス蓋シ獨逸國ハ何等認メ得ヘキ荒廢ヲ被ラス而シテ戰爭ニ依リ甚シク損害ヲ被リタルモノニ對シ一次的道徳上ノ義務ヲ負フヘキヲ以テナリ

過去ノ歴史ニ關シテハ獨逸國ノ財政及通貨ノ現狀ヲ誘致シタル原因及右原因ニ對スル責任ヲ確ムルノ必要ナシト認メラレタリ尤モ救濟方法ノ案出ノ爲右原因ノ性質ノ認定ヲ必要トスル場合ヲ除ク

終リニ臨ンテ一言セム如何ナル建設的方案ト雖之ヲ誠實ニ實行スルコトカ總テノ關係國ニ取リ利益ナリトノ事實ニ依リテ保障セラルルニ非スムハ之ヲ立テ難キコトヲ確信スルヲ以テ吾人ハ右利益ヲ基礎トスル案ヲ提出セリ吾人ハ本計畫ノ性質カ其ノ遂行ニ缺クヘカラサル右保障ヲ自ラ確保スルニ資セムコトヲ希望ス但シ右保障ヲ維持シ若ハ確實ニスル爲必要ナル措置ヲ執ルノ任ハ主トシテ委員會以外ニ在ルコト言ヲ俟タサルナリ

第二　獨逸國ノ經濟的統一

委員會ハ獨逸國カ其ノ領土ノ一部ニ對スル財政的及ヒ經濟的權力ヲ制限セラルルコト今日ノ如キ狀態ニ於テ如何ナル程度迄豫算ノ均衡及通貨ノ安定ヲ永久的ニ復活セシメ得ヘキヤニ付考究セサルヲ得サリキ

吾人ハ先ツ斯クノ如キ狀態ノ下ニ在リテハ豫算及通貨ノ永久的安定ヲ確保スルノ實際的方法ヲ見出スノ不可能ナリシコトヲ高調セサルヘカラス吾人ハ斯ノ如キ方法ノ存在スヘシトハ思考セサルナリ吾人ニ提出セラレタル二問題ノ解決ハ實ニ國外及國内ニ於ケル獨逸國ノ信用ノ回復ヲ意味スルモノナリ然ルニ前記ノ狀態ノ下ニ在リテハ此ノ回復ヲ圖ルコト不可能ナリト思惟セラレタリ從テ吾人ハ獨逸國ノ財政的及經濟的統一ハ回復セラルヘシトノ推定ヲ爲スノ已ムナキニ至レリ報告書ノ全部ハ此ノ假定ニ基クモノナリ

第三　軍事的方面、課セラルルコトアルヘキ制裁及保障

本提案ノ遂行ヲ確保セムカ爲ノ政治的保障及懲罰ヲ望マシト認ムルトキト雖右ハ委員會ノ權限外ニ屬ス

軍事的占領ノ問題モ亦吾人ニ委託セラレタル權限内ニ在ラス

然レトモ吾人ノ豫想ハ獨逸國ノ經濟的活動カ茲ニ掲ケル監理以外如何ナル外國ノ機關ニ依リテモ妨害セラレ又ハ影響セラルルコトナカルヘシトノ推定ニ基キテ爲サレタルモノナルコトヲ明確ニ指摘シ置クハ吾人ノ義務ナリ因テ右經濟的活動ヲ妨クルモノナル限リ現行ノ措置ハ獨逸國カ本計畫ヲ遂行スルト同時ニ廢止セラレ又ハ充分ニ變改セラルヘク又共同ノ合意ニ依リ採用セラレタル條件ニ付著シキ不履行アル場合ノ外右措置ヲ再ヒ課スルコトナカルヘシトノ推定ニ基キテ本計畫ハ立テラレタリ右不履行ノ場合ニ於テハ課セラルヘキ制裁ノ性質及其ノ迅速ニシテ有效ナル適用方法ヲ決定スルハ明白ニ債權國政府ノ任務ニシテ該政府ハ自國及本計畫ニ從ヒ貸付ヲ爲スコトアルヘキ他ノモノノ財政上ノ利益ニ付共同委託ノ觀念ヲ以テ行動スヘキモノトス

右ノ記述ヲ爲スニ當リ吾人ハ占領地域ニ於テ現ニ行ハルル經濟的制度カ變改セラルルニ於テハ賠償ノ解決ハ適當ニシテ生産的ナル擔保ニ依リ更ニ確實ナラシムルヲ要ストノ點ニ付意見ノ一致ヲ見タルコトヲモ玆ニ附加セムトス此ノ目的ノ爲ニ吾人ハ有效ニシテ同時ニ財政上ノ安定ノ回復ヲ妨クルコトナシト信スル監理制度ヲ提案セリ（下記第十四參照）

第四　委員會ノ任務

委任セラレタル權限ノ示ス如ク二個ノ主要ナル問題ハ吾人ノ攻究ニ委託セラレタリ即チ獨逸國通貨ノ安定及獨逸國豫算ノ均衡之ナリ右二問題カ密接ニ關聯スルモノナルコトハ言フヲ俟タス國ノ通貨ハ其ノ國ノ豫算カ正常ニ均衡ヲ保ツニ非サレハ安定ヲ維持スルコト能ハス蓋シ支出カ引續キ收入ヲ超過スルニ於テハ遂ニ其ノ超過ヲ償フ爲ニ新紙幣ヲ印刷スルノ外途ナキニ至ルヘク而シテ其ノ通貨ノ膨脹ハ必然其ノ低落ヲ伴フヘケレハナリ又他方ニ於テ通貨カ相對的ニ安定ナラサル限リ豫算ノ均衡ヲ保ツコト不可能ナリ蓋シ通貨カ低落シツツアル場合ニハ收入及支出ノ計算共ニ信頼シ難ク殊ニ課税ト徴收トノ間ニ必然存スヘキ時間ノ經過ニ依リ司税官憲ハ絶エス損失ヲ被ルヘケレハナリ故ニ右二問題ハ其ノ性質上最初別別ニ研究スルコト必要ナレトモ其ノ密接ノ關聯ハ常ニ忘ルヘカラサルナリ吾人ハ兩者ヲ別別ニ調査スルニ當リ暫ク他方ノ問題ハ既ニ解決セラレタルモノナリトノ假定ヲ爲シタルモ常ニ通貨ノ安定ト豫算ノ均衡トハ獨逸國ヲシテ其ノ須要ノ要求ヲ充スヲ得セシメ且西部歐羅巴ノ復興ニ必要缺クヘカラサル條約上ノ義務履行ヲ爲スヲ得シムル爲ノ手段ナルコトノ事實ヲ忘ルルコトナカリキ此等義務ノ履行ハ獨逸國ニ對シ債權ヲ有スル國ニ取リテノミナラス獨逸國自身ニ取リテモ亦緊要缺クヘカラサルモノナルコトヲ忘ルヘカラス實際再ヒ經濟的ニ繁榮スルコトアリトスルモ獨逸國ハ其ノ周圍ノ諸國ニ於ケル財政的及經濟的危機ニ永ク抵抗シ得サルコト明白ナリトス獨逸國ノ復興ヲシテ決定的ナラシメムトセハ他ノ諸國モ亦其ノ財政的及經濟的生存ノ爲ニ必要ナル狀態ニ復歸シ且一般的繁榮ノ前提タル貨物ノ正常ナル交換ヲ實行シ得ルニ至ルコトヲ要ス

第五　獨逸國ノ經濟的潛勢力

獨逸國ノ現狀カ正確ニ其ノ潛勢的能力ヲ反映スルモノナリトセハ吾人ノ事業ハ成功ノ見込ナカルヘシ此ノ場合ニ於テハ獨逸國民ノ生産ヨリ生スル收得ハ國民ノ需要ヲ充シ且外債ノ支拂ヲ確保スルコト能ハサルヘキナリ

然レトモ増加率大ニシテ且勤勉ナル獨逸國民、其ノ優レタル專門的熟練、其ノ物質的資源ノ富力、其ノ農業ノ進歩發達及其ノ工業科學ニ於ケル優越等此等一切ノ要素ハ其ノ將來ノ生産ニ關シ吾人ヲシテ期待ヲ抱カシムルニ足ル

尙千九百十九年以來獨逸國ハ其ノ產業設備ニ改善ヲ加ヘツツアリ鐵道調査ノ爲特ニ任命セラレタル專門家ハ其ノ報告書ニ於テ獨逸國カ鐵道組織改善ニ當リ費用ヲ吝マサリシコトヲ指示セリ電話及電信ノ通信ハ最新式ノ裝置ニ依リテ確保セラレ港灣及運河モ亦發達セリ尙工業家ハ全然新式ナル設備ヲ增加スルコトヲ得タルヲ以テ多クノ工業ニ於テ戰前ヨリモ更ニ大ナル生產ヲ爲シ得ルノ狀況ト爲レリ

故ニ獨逸國ハ充分ニ資源ヲ保有シ大規模ニ之ヲ開發スルノ手段ヲ有ス現在ノ信用缺乏ヲ除クコトヲ得ハ貿易ノ常態カ漸次回復セラレツツアル世界ノ活動場裡ニ於テ再ヒ有利ナル地位ヲ獲得シ得ルニ至ルヘシ

獨逸國ハ其ノ生產ニ依リテ國內ノ所要ヲ充シ且賠償義務トシテ本計畫ニ考案セラレタル金額ヲ調達シ得ヘシト豫想スルモ決シテ樂觀ニ過クルコトナカルヘシ獨逸國ノ財政狀態及通貨ノ回復ハ世界カ健實ナル經濟狀態ニ復歸スルコトト相竝ヒテ右結果ヲ得ルニ必要缺クヘカラス且適當ナル條件ヲ爲スモノト思惟セラル

第六　通貨ノ安定

新發行銀行

吾人ハ先ツ通貨問題ヲ取扱ハムトス

獨逸國ニ於ケル財政及通貨ノ現狀ハ第二編ニ記載セラル通貨ハ「レンテンマルク」ニ依リテ數月間安定ヲ保チタレトモ右ハ他ノ方法ヲ缺クニ於テハ一時的ニ過キサル基礎ノ上ニ保タレタルモノナルコトハ後ニ說クカ如シ

委員會ハ獨逸國ニ統一アル安定ナル通貨ヲ創設スルニ缺クヘカラサル機關トシテ新發行銀行ノ設立又ハ「ライヒスバンク」ノ改造ヲ提議ス委員會ハ斯ノ如キ通貨ハ獨逸國ノ財政ノ復興ノ爲其ノ豫算ノ均衡ノ爲及對外信用ノ回復ノ爲必要ナリト信ス第一附屬書ニ記述スル銀行計畫ノ要點ハ左ノ如シ

銀行ハ其ノ特許期間卽チ五十年間獨逸國ニ於テ紙幣發行ノ排他的權利（或些少ノ制限ヲ附シタル）ヲ有スヘシ現ニ獨逸國ニ於テ流通スル多數ノ種類ノ紙幣ハ一切（特定ノ邦立銀行ノ制限セラレタル銀行券發行ヲ除キ）市場ヨリ漸次回收セラレ之ニ代フルニ單一ニシテ統一セル紙幣卽チ新銀行ノ銀行券ヲ以テスヘシ右銀行券ハ三割三分三分ノ一ニ相當スル通常法定準備金及其ノ他ノ正金ニ換ヘ易キ資產ヲ以テ保證セラルヘシ準備金ノ大部分ハ外國銀行ニ於ケル預金ノ形式ヲ以テ保有セラルヘシ本計畫ハ永續的方針トシテハ右銀行券カ金ト兌換セラルヘキモノナルコトヲ豫想ス然レトモ委員會ハ銀行設立ノ當初ニ於テハ事態ハ一時右兌換ノ法則ノ適用ヲ許ササルヘシト思考ス故ニ委員會ハ金ニ對シ安定ヲ維持シ且事情ノ許ス限リ速ニ兌換ノ基礎ニ留カルヘキ通貨ノ創設ヲ提議ス

新銀行ハ現在ノ「ライヒスバンク」ノ如ク銀行ノ銀行トシテノ任務ヲ盡シ最確實ナル短期手形等ノ再割引ヲ爲シ以テ公定割引率ヲ定ムヘシ又他ノ銀行ノ爲ニ銀行債權ノ移轉ニ付振替制度ヲ取扱フヘシ

銀行ハ公衆ト取引ヲ爲シ短期ノ商業貸附及割引ヲ爲シ振替ヲ取扱ヒ竝預金ノ收受ヲ爲スヘシ

銀行ハ獨逸國政府ノ預金ヲ受ケ且其ノ出納取扱者タルヘシ銀行ハ政府ヘ短期ノ貸付ヲ爲スコトヲ得ルモ右貸付ノ金額及性質ハ嚴重ニ制限セラレ且右貸付ノ許容ニ付テハ愼重ナル注意ヲ爲スヘシ獨逸國政府ハ銀行ノ利益ノ分配ニ與ルヘキモ銀行ハ全然政府ノ監理又ハ干涉ヲ受クルコトナカルヘシ

獨逸國ニ於テ徵收セラルル條約上ノ債務支拂資金ハ特別勘定ノ貸方トシテ總テ新銀行ニ預ケ入レラレ該資金ハ獨逸國ノ爲替市場、債權國ノ利益及獨逸國ノ經濟ヲ適當ニ保護スヘキ條件及保障ノ下ニ於テノミ債權國ニ依リ引出サルヘシ

新銀行ハ四億（四〇〇、〇〇〇、〇〇〇）金貨「マルク」ノ資本ヲ有スヘク其ノ一部ハ獨逸國ニ於テ他ハ外國ニ於テ之ヲ募集スヘク銀行ハ獨逸人タル總裁及獨逸人ヨリ成ル理事會ニ依リテ統轄セラルヘシ理事會ハ「ライヒスバンク」ノ如ク諮問委員會ノ援助ヲ受クルコトヲ得右獨逸人理事會ト竝ヒテ他ニ監事會ト稱スル他ノ機關ヲ設クヘシ同會ハ獨逸人七名及外國人七名（英國、佛蘭西國、伊太利國、白耳義國、亞米利加合衆國、和蘭國及瑞西國ノ七國ヨリ各一人ヲ出ス）ヨリ成ル右監事會ハ銀行ノ組織及運用ノ事項ニシテ債權國ノ利益ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ付廣汎ナル權能ヲ付與セラルヘシ外國人タル監事ノ一名ハ監理人ト稱セラレ銀行券ノ發行及銀行準備金ノ維持ニ關スル條規ニ付違反ナキ樣注意スルノ責任ヲ負フヘシ監事會ノ議決ニハ十四票中十票ノ多數ヲ要ス但シ總裁及監理人カ共ニ多數側ニ在ル場合ニハ過半數ヲ以テ足ル斯クノ如クニシテ銀行カ或ル行動ヲ爲スニ付テハ兩部委員ノ協力ヲ必要トス

政府ニ對スル銀行ノ獨立ヲ確保スル爲發行部ヲ外國ニ設置シ之ヲ監理人ノ權能ノ下ニ置キ準備金及銀行券ノ發行ニ付責任ヲ負ハシムヘシトノ意見各方面ニ在ルモ斯ノ如キ保障ハ其ノ性質寧ロ政治的ニシテ專門的ニ非ス之ヲ提議スルハ委員會ノ權限ニ屬セサルナリ

委員會ノ勸告ヲ充分ニ了解セムカ爲ニハ附屬書ノ研究ヲ要ス玆ニハ委員會カ重要ナリト思考スル要點ニ付注意ヲ喚起スルニ止メタリ

尙豫算問題カ充分解決セラレタルモノト暫ク假定シテ之ヲ見ルニ吾人ノ勸告ハ獨逸國ノ爲替ヲ安全ナラシムルノミナラス獨逸國ノ國力ノ回復及賠償金ノ支拂ニ須要ナル信用ヲ安定ナル價値ニ於テ獨逸國ノ經濟ニ得シムルノ實行的方法ヲ與フルモノナリト信ス

勞働者モ利益ヲ享クヘシ何トナレハ其ノ利益ハ殊ニ通貨ノ安定ニ據レハナリ社會ノ或階級ニ在リテハ通貨ノ膨脹ニ依リテ生スル驚クヘキ財產上ノ顚倒ニ付代償ヲ得ヘシ卽チ或者ハ利益ヲ享ケ他ノ者ハ損失ヲ享ケム然レトモ勞働者階級ニ取リテハ通貨ノ不安定ハ全然害惡ニシテ何等ノ代償ヲ齎スコトナシ右ニ關シ吾人ハ伯林ニ於テ面會シタル勞働者ノ代表者カ述ヘタル意見ヲ揭ケム「グラスマン」氏ハ獨逸國民全部ニ代リテ述ヘスシテ單ニ其ノ代表スル階級ノ爲ニ述ヘテ曰ク「獨逸國ノ勞働者階級ハ通貨膨張カ之以上繼續スルコトニ堪フル能ハス彼等ハ賃金ヲ受取リタル後四週間ヲ經ルモ漸之ヲ以テ何物カヲ買得ルカ如キ安定セル通貨ヲ與ヘラレムコトヲ世界ニ訴ヘサルヘカラス」ト銀行ノ定款カ嚴重ニ遵守セラルルニ於テハ將來通貨膨張ノ危險ヲ殆ト生セサルハ明ナリ期待シ得ヘキ利益ノ一ハ現ニ獨逸ニ於テ靜止ノ狀態ニ在リテ經濟上不生產的ナル外國通貨カ本銀行ノ株式拂込又ハ預金ノ形式ニ於テ出動シ再ヒ經濟上ニ利用セラルヘキコト之ナリ

第七　豫算及一時的賠償猶豫

今ヤ吾人ノ問題ノ他ノ主要ナル方面卽チ豫算均衡ノ問題ニ注意ヲ向クルモ可ナラム吾人ハ先ツ獨逸國ノ一般豫算ヲ考察シ次ニ又之トハ別個ノ問題トシテ現ニ一般豫算ニ何等ノ寄與スル所ナキ鐵道ニ付考察セム

豫算ハ前述ノ安定セル通貨及經濟的統一ノ外ニ尙條約上ノ目的ノ爲ノ卽時ノ負擔ニ付一定ノ猶豫ヲ與ヘラレムコトヲ必要トス右猶豫ハ一方豫算ノ狀態ヲ確實ナラシムルト同時ニ他方同盟國ニ取リ缺クヘカラサル實物引渡ノ形式ニ依ル支拂ヲ中止スルコトナカルヘキモノナリ

第八　獨逸國年次負擔ノ基礎的原則

イ　條約上ノ義務及其ノ豫算均衡ノ繼續ニ對スル關係

豫算ノ均衡ハ通貨ノ安定ト均シク之ヲ維持シ得ルニ非サレハ效ナキコト明白ナリ一箇又ハ數箇ノ豫算ノ均衡ヲ確保シ得ルモ未タ足レリトセス假リニ行政宜シキヲ得タリト推定シ如何ナル條件ノ下ニ財政及通貨ノ安定カ永續的ニ保障セラルヘキカ又ハ寧ロ加何ナル條件ノ下ニ一旦得ラレタル右ノ安定カ危險ニ陷ルヘキカヲ考察スルノ要アリ故ニ吾人ハ獨逸國カ其ノ條約上ノ對外義務ヲ漸次履行シ行クヘキ爾後ノ年度ニ關シ固ヨリ細目ニハ亙ラサルモ主要ナル諸點ニ適當ナル注意ヲ拂ヒツツ研究ヲ爲スヲ要ス獨逸國ハ其ノ財源ヨリ先ツ其ノ國內ノ經費全部ヲ支拂ヒ條約上ノ義務ニハ單ニ獨逸國カ得ムト欲スルコトアルヘキ剩餘收入ヲ充當スヘシトノ見解ハ固ヨリ吾人ノ採ラサル所ナリ然レトモ或年ニ於テ獨逸國カ優先的ニ支拂フコトヲ要スル賠償債務ノ金額ト其ノ國內ノ經費ノ爲必要ナル最少限度ノ金額トノ合計カ其ノ擔稅力ヲ超ユル場合ニハ玆ニ直ニ豫算ノ不均衡ヲ生シ通貨ノ不安定モ亦恐ラク之ニ伴フヘシ此ノ場合ニ於テハ該年度ノ條約上ノ義務ヲ調節スルノ外他ニ途ナキコト明ナリ故ニ安全ニ決定セラレ得ヘキ賠償金額ハ獨逸國ノ最大限ノ收入ト其ノ國內ノ需要ヲ充ス爲ノ最少限ノ經費トノ差ニ近シ通貨ノ安定及豫算ノ均衡ノ前提ニシテ是認セラレムカ豫算財源中ヨリ爲シ得ヘキ賠償支拂ノ金額及右支拂ヲ實行シ得ヘキ方法ニ關シ後ニ吾人カ論究セサルヘカラサルニ至ルハ當然ニシテ又免ルヘカラサル所ナリ吾人カ他ノ方面ヨリ其ノ任務ニ著手スルハ正義ノ原則、吾人提案ノ採否ヲ決定スヘキ實際的條件竝吾人ニ與ヘラレタル委託條項ノ文意及明白ナル目的ヲ無視スルモノナルヘシ

吾人カ右ノ如クシテ賠償支拂ニ關スル考究ヲ爲スニ至ルモ右ハ今後數年ノ復興期間ニ於ケル支拂ニ之ヲ限ルヘシトモ考ヘ得ヘシ吾人ノ任務ハ通貨ノ安定及豫算ノ均衡ニ到達スル方法ニ付建言スルニ在リテ右目的ノ達成セラレタル曉ニ於テ獨逸國ニ要求スヘキ金額ニ關シテハ何等言及スヘキニ非ストモ云フコトヲ得ヘシ然レトモ期間ヲ斯ノ如ク劃然區分スルコトハ左ノ理由ニ依リ不可能ナリ

一　復興期間ノ終末ニ於ケル豫算均衡ノ基礎及右豫算ノ包含スル賠償金額ハ其ノ後年年支拂ハルヘキ金額ヲ大體決定スヘキモノナルコト明ナリ然ラストセハ一且得タル均衡ハ上述ノ如ク直ニ失ハルヘシ斯クシテ努力ハ畫餠ニ歸シ同一ノ問題ハ再ヒ發生スヘシ

二　更ニ重要ナルハ財政的安定ニ到達セムカ爲ノ吾人ノ提案ノ成否ハ主トシテ信賴心ノ恢復ニ懸ルノ事實之ナリ右信賴心ノ恢復ナクハ外國ニ投資セラレタル獨逸資本ノ復歸、本計畫中ニ揭ケタル目的ノ爲ノ外國資本ノ誘致、日常ノ事業經營ノ爲ノ外國信用ノ誘致及租稅ノ適當ナル徵收ハ均シク不可能ナルヘシ

今後長期間獨逸國ノ財政及其ノ對外關係ハ新ナル紛爭ノ發生ニ依リテ危カラシメラルルコトナシトノ保障ヲ與フト獨逸國及其ノ他ノ世界各國カ信スルカ如キ一ノ解決ヲ今日遂クルニ非スムハ右信賴心ハ之ヲ得ルコト能ハス右ノ如キ保障トハ後述ノ如ク或年限ノ間獨逸國ノ負擔年額ニ變更ナキコトヲ云フニ非ス又其ノ各年ニ負擔セラルヘキ額ヲ豫メ決定スルコトヲ意味スルニモ非スシテ負擔額ノ增加ヲ決定スヘキ方法ヲ豫メ定メ置クヲ云フナリ

「長期間」ニ涉リ右方法ヲ採用スト言フニ當リ吾人ハ主トシテ吾人ノ計畫ノ實行ニ必要ナル金錢ヲ供給スル貸主及投資家カ考慮スヘキ期間ヲ考フルモノナリ後述スルカ如ク吾人ノ計畫ハ發行銀行ノ資本ニ對シ外國及內國ヨリノ應募ヲ要シ殊ニ賠償支拂ヲ可能確實ナラシムルノ一要件トシテ外債ヲ必要トス吾人ハ獨逸國ノ支拂ハ其ノ增加スルコトアルヘキ將來ノ支拂能力ニ比例シテ增加スヘシトノ條約ノ原則ヲ支持スルコトノ必要ニシテ且正當ナルコトヲ充分ニ承認ス

又吾人ハ今日永久確定的ニ作成セラルル見積ハ將來ノ支拂能力ヲ低ク見積過クルノ虞アルコト及同盟諸國カ獨逸國ノ繁榮增進ノ利益ヲ享クルコトカ正當且可能ナルコトヲ認ム唯吾人カ安定ノ一條件トシテ缺クヘカラスト認ムルハ獨逸國ノ支拂能力ノ增加ニ對應スヘキ要求額ノ增加ハ最初ノ解決案中ニ明定セラレタル方法ニ依リ決定セラルルコト竝右ノ方法カ自動的適用又ハ少クトモ專門的ニシテ公平ナル且實際上論議ノ餘地ナキ適用ヲ爲シ得ルモノタルヘキコト之ナリ

右ノ必要ニ應セムカ爲吾人ハ後述ノ如ク一定ノ年次支拂ニ加フルニ獨逸國ノ支拂能力增加ヲ示スヘキ合成指數ニ基キテ增減スル追加支拂ヲ設ケタリ

右指數ノ運用ニ付年限又ハ金額ヲ限定スルコトハ委員會ノ權限外ニ屬ス獨逸國カ支拂フヘキ年限ヲ定ムルコトハ實際ニ於テ新ニ獨逸ノ元本債務ヲ決定スルニ均シキヲ以テ之亦委員會ノ權限ニ屬セス戰爭ヨリ生シタル各種ノ國際的ノ財政上ノ債務ヲ確定的ニ解決セシムル爲何等カ新ナル取極ヲ見ル場合ニ於テハ獨逸國債務ニ關シ委員會案ヲ右ノ新事態ニ適應セシムルコト容易ナルヘシ

ロ　課稅ノ相應

吾人ハ課稅ノ相應ノ原則ヲ適用スルニ最善ノ力ヲ盡シタリ

單ニ正義ノ原則ニ依ルモ獨逸國民ハ少クモ同盟諸國民ノ負擔スルト同一程度ニ重キ租稅ヲ負擔スヘキハ論ナキ所ニシテ又條約ノ豫想スル所ナリ獨逸人中個人ノ資格ヲ以テスル場合ニ於テモ將又國民ノ或部分ヲ代表スル場合ニ於テモ卒直ニ此ノ原則ヲ尋ネラレタルトキ誰一人トシテ之ヲ承認セサル者ナシ此ノ原則ニ對シ何等カ制限ヲ加フトセハ右ハ實際上ノ理由ニ依ル制限タルカ又ハ同盟國自身ノ利益ノ爲一般經濟的便宜ヨリ生スルモノナラサルヘカラス此ノ原則ノ道德上正シキハ明白ナリ戰爭ニ因リ廣大且重要ナル地方ヲ荒ラサレタル國ノ納稅者カ右荒廢地復興ノ負擔ヲ荷ハサルヘカラサルニ對シ戰爭ニ因リ之ニ比スヘキ荒廢ヲ領土內ニ於テ被ラサリシ獨逸國ノ納稅者カ之ヨリモ輕キ負擔ヲ荷フノミナリトセハ其ハ明ニ自然的正義ノ觀念ニ反スヘシ此ノ原則ハ同時ニ經濟的ニモ正當ナリ何トナレハ同盟諸國ノ納稅者カ消費者トシテハ戰爭ノ結果生スル租稅ノ一層重キ負擔ヲ荷フノ事實ニ依リ又商業上ノ競爭ニ於テハ賃金ヲ含ム生產費ニ付獨逸人タル競爭者ヨリ一層大ナル負擔ヲ荷フノ事實ニ依リ苦シメラルルハ明白ニ不公平ニシテ且如何ナル點ヨリ見ルモ望マシカラサレハナリ

獨逸國ノ債務カ實際上消滅シタル事實ノ重大ナルコト及同盟諸國ニ於ケル重稅ノ負擔一般的ナルノ事實ハ吾人ノ念頭ニ置キタル所ナリ第二編ニ於テ一層詳細ニ述フルカ如ク理論上及實際上幾多ノ困難アルニ拘ラス吾人ハ吾人ノ提案ヲシテ「負擔ノ相應」ノ原則ノ能フ限リ公平ナル解釋及適用タラシメムコトニ最善ヲ盡シタリ吾人ハ其ノ提案ニ於テ一層重キ負擔ヲ獨逸國ニ課スルモノニ非スト信ス又實行シ得ル限リ右原則ヲ獨逸國ノ利益ノ爲ノミナラス同盟諸國ノ利益ノ爲ニモ同樣適用シタリト信ス

ハ　繁榮指數ハ同盟諸國ヲシテ獨逸國ノ增進セル繁榮ノ利益ヲ享ケシムルニ必要ナリ

吾人ハ暫時ノ復興期間經過スレハ獨逸國ノ財政的及經濟的狀態ハ常態ニ復スヘシト信ス爾後其ノ指數ハ其ノ作用ヲ開始スヘシ

不確定年次金制度ハ支拂計畫ニ於ケル先例ノ承認スル所ナリ然レトモ吾人ハ輸出金額ニ依リテ決定セラルル現在ノ指數ハ之ヲ變更スルノ可ナルコトニ付最モ愼重ナル考慮ヲ促サムト欲ス吾人ハ右指數ヲ以テ不完全ナリト思考ス

提案セラルヘキ測定ノ標準ノ何レニ付テモ贊否共ニ有力ナル理由アルハ吾人ノ知ル所ニシテ吾人ハ此等ノ理由ヲ精細ニ檢察セムトスルモノニ非ス吾人ハ個個ノ指數ニ存スル疑ナキ缺點ハ合成指數ヲ採用スルニ依リ大ニ緩和セラルヘシトノ意見ニシテ之ニ依リテ獨逸國ノ繁榮增進ノ程度ヲ公平ニ測定シ得ト信スルモ不當ナラサルヘシ斯ル指數ヲ得ル爲多種ノ案ヲ考究シタル後ニ得タル吾人ノ提案ハ第二附屬書ニ之ヲ陳述ス吾人ハ方針ヲ示スノ意味ニ於テ右提案ヲ賠償委員會ニ勸告セムトス

吾人ハ少クトモ其ノ提案スル公債ノ償却期間中ハ獨逸國ノ年次負擔ハ右指數ノ適用ヨリ生スル額ヲ超過スヘカラスト思考ス尙右期間後ト雖支拂カ上述ノ額ヲ超過スル場合ニハ豫算ノ均衡ニ對シ何等責任ヲ負フコトヲ得ス

吾人ハ數年（主トシテ千九百二十六年、千九百二十七年、千九百二十八年及九百二十九年）ノ平均ヲ基礎トシテ採用スヘキコト、六箇ノ代表的統計（鐵道運輸、人口、外國貿易、煙草等ノ消費、豫算上ノ支出及石炭ノ消費）ノ各カ示ス增加率ヲ確ムヘキコト竝此等六箇ノ率ノ平均ヲ取リ之ヲ以テ將來ノ特定年度ニ於テ要求セラルル條約上ノ額ニ追加スヘキ比例的增加ヲ示スヘキコトヲ提議ス

此ノ制度ニ依レハ一方獨逸國ハ其ノ繁榮增進ノ利益ノ大部分ヲ保有スヘキカ故ニ其ノ發展ヲ刺激セラルヘク又地方同盟諸國ハ右增進ノ

利益ノ相當ナル分前ニ與リ且獨逸國將來ノ能力ヲ倘早ニ見積ルコトニ因ル損失ノ危險ヲ免ルヘシ

倘裁量的ニ非スシテ自動的ナル適用ヲ見ルヘキ制度ノ採用ハ最初ヨリ獨逸國ニ對シテノミナラス世界全般ニ對シテモ本解決ノ關係スル期間中ハ條約上ノ要求額カ再ヒ交渉及紛爭ノ目的ト爲ルコトナカルヘシトノ保障ヲ與フヘシ

然レトモ吾人ハ何一ツノ全ク性質ヲ異ニセル匡正方法ヲ提案セントス但シ右ハ單ニ萬一ニ備ヘムトスル措置ニシテ或ハ實施ヲ見ルコトナカルヘシ條約ハ獨逸國ノ債務ヲ定ムルニ金ヲ以テス而シテ吾人モ便宜上吾人ノ見積ヲ爲スニ金ヲ以テシタリ然レトモ獨逸國ノ條約上ノ支拂ノ負擔及之ヨリ生スル同盟國ノ利益ハ物品及勞務ヨリ成ル金ハ價値ノ尺度ニ過キス多年ニ亙リテハ不確實且不完全ナルヤモ計リ難シ尤モ何等カノ行動ヲ必要トスルハ眞ニ重大ナル變化ノ發生スル場合ニノミ限ラル故ニ吾人ハ金ノ一般的購買力ニ變化ヲ生シ右變化カ公平ナル專門家ノ判定ニ依リ一割ヲ超エタリト認メラレタル場合ニハ右變化ニ相應シテ自動的ニ標準支拂額及追加支拂額カ減少セラレ增加セラルヘキコトヲ提案ス

二　獨逸國ニ於ケル納税者ノ「支拂能力」ト獨逸國ノ同盟諸國ニ對スル支拂能力トノ區別

過去ニ於テ二箇ノ相關聯スルモ全ク別異ノ問題即チ第一ニ賠償協定ニ充ツル爲獨逸國カ調達シ得ヘキ收入金額ト第二ニ外國ヘ移轉シ得ヘキ金額トヲ混同スルノ傾向アリタリ調達ノ上賠償協定トシテ同盟國ニ移轉セラルル資金カ獨逸國ノ國際貸借ノ許ス額ヲ超過スルニ於テハ結局通貨及豫算ノ不安定ヲ來ササルヲ得サルヘシ然レトモ課税ニ依リテ調達シ得ヘキ豫算ノ剩餘額ハ國外移轉ノ條件ナル全ク異ナル問題ニ依リ制限セラルルコトナキハ明ナリ仍テ吾人ハ此ノ二箇ノ問題ヲ判然區別シ先ツ最大限ノ豫算剩餘ノ問題ヲ論シ次ニ同盟諸國ニ對スル支拂ノ問題ヲ論セムトス過去ニ於テ獨逸國ノ「能力」ニ付下サレタル斷定ハ種種異ナルモノアリシカ其ハ屢此等二方法ノ何レヲ選定シタルカニ基因ス

問題審査ノ第一方法トシテ豫算ヲ規準トスルハ明ニ利益アリ賠償ハ先ツ第一ニ豫算中ノ一項目トシテ規定セラレサルヘカラス

豫算ハ單一ノ權力ニ依リ爲サレタル決定ノ總體ナリ豫算ニ付テハ專門的判斷ヲ下シ得ヘク又過誤ニ陷ルノ虞比較的ニ少クシテ計算及分析ヲ爲シ得ヘシ

之ニ反シテ一國ノ「經濟的殘額」ナルモノハ精確ナル計算ヲ許サス右差額ハ或時期ニ於テモ僅ニ大體ノ計算ヲ爲シ得ルニ止マル何トナレハ右差額ノ重要ナル一部ヲ成ス外面ニ現ハレサル輸出及輸入ハ精確ニ之ヲ知ルヲ得サレハナリ而シテ潛在的ノ經濟的殘額ニ至リテハ更ニ一層不確實ナリ右ハ單一ノ權力ノ決定ニ依リテ左右セラルルコトナク各個ノ商業者及製造業者ノ企業ニ依リテ左右セラルレハナリ賠償ノ要求自體ハ右差額ヲ增加スヘシ對外債務ノ壓迫ノ下ニ長期間ニ亙リ如何ナル程度迄經濟的順應カ可能ナリヤハ臆測ノ問題ナリ此ノ種債務カ永ク作用シテ國ノ經濟ニ影響ヲ與フルニ至ル以前ニ存在スル經濟的殘額ナルモノハ頗ル不確實ナル規準ナリ故ニ經濟的殘額ハ豫算ニ比シ精密ナル計算ヲ許サス「處理シ難ク」且餘ニ彈力性ヲ有ス然レトモ經濟的殘額ハ精確ニ之ヲ決定シ待ストハ云ヘ之カ設クル制限ハ實在ス一國ノ通貨安定ヲ永久ニ維持セムカ爲ニハ單ニ豫算ヲ均衡セシムルニ止マラス倘其ノ外國ヨリ得ル金額ヲ其ノ外國ニ對シテ爲スヘキ支拂ニシテ輸入品ニ對スル支拂額及賠償トシテ支拂ハルル金額ヲ含ムモノニ均シカラシメサルヘカラス豫算ノ均衡自體モ亦同樣ノ條件ニ依ルニ非サレハ之ヲ維持シ難シ起債ハ一時事態ヲ糊塗シ或ハ其ノ實際的結果ヲ遲延セシメ得ヘキモ之ヲ變更スルコト能ハス賠償カ豫算中ニ一項目ヲ設クルコトニ依リ即チ國内經費ヲ超過スル租税ヲ徵收スルコトニ依リテ支拂ハレ得ヘク且支拂ハレサルヘカラストセハ之カ對外支拂ハ獨逸國ノ活動ニ依リ得タル經濟的剩餘ニ依リテノミ之ヲ爲シ得ヘキモノナリ

後述ノ如ク吾人ハ論理的ニシテ且實際的ナリト信スル方法ニ依リ此第二種ノ考察ニ實效アラシメムコトヲ努メタリ吾人ハ獨逸國豫算ノ可能性ヲ考究シタル後其ノ金貨「マルク」ヲ以テ支拂ヒ得ヘシト思惟セラルル金額ヲ見積ルモ右「マルク」支拂ヲ外國爲替ニ變換スルコトカ通貨ノ安定ヲ破壞シ茲ニ將來ノ賠償支拂ヲ危クスルノ虞アルカ如キ場合ニ對スル保障ヲ提案ス

可能的經濟的殘額ヲ豫想シ之ニ依リ豫算上可能ナリト思考セラルル金額ヲ差引クノ方法ニ比較スレハ本案ハ左ノ利益アリ

イ　最大限ノ金額ヲ得シメ之ヲ同盟諸國ノ勘定ニ支拂ハシム

ロ　外國貨幣ニ變換スルヲ制限スルハ事實上現ハルル精確ナル經濟的狀態ニ據ルヘク必然疑アルヲ免レサル推測ニ據ラサルヘシ此ノ制限ハ實際上必要ナル範圍内ニ於テノミ適用セラルヘシ

ハ　賠償ノ爲支拂ハルル金額ノ全部カ送付セラレ得サル場合ニモ同盟國ハ或條件ノ下ニ之ヲ獨逸國内ノ投資トシテ使用スルヲ得

就中吾人ハ吾人ノ提案ヲ左記ノ理由ニ依リ推薦ス即チ本案ハ自動的ニ實狀ニ適合ス獨逸國ノ納税者ノ負擔ハ當然同盟諸國ノ納税者ノ負擔ニ相應スヘキハ明白ニシテ最已ムヲ得サル且事實ヲ以テ證明セラルル必要起ルニ非サレハ之ヲ輕減スヘキニ非スト信ス將來ノ爲替狀況ノ如何ヲ豫想シ其ノ疑ハシキ推測ニ依リ豫メ獨逸國ノ負擔ヲ決定スルハ投機的ナルト共ニ不正ナルヘシ實際上幾何ノ金額ヲ外國通貨ニ變換シ得ルカハ唯經驗ニ依リテノミ之ヲ判斷スヘキナリ當分吾人ノ提案ハ獨逸國納税者ニ課スヘキ適當ナル負擔ヲ規定シ之ニ相應スル金貨「マルク」預金ヲ同盟諸國ノ勘定ニ拂込ムヘキコトヲ規定ス而シテ此ノ「マルク」預金ヲ何時ニテモ爲替相場ノ實狀ノ許ス限リ成ル可ク多額ニ外國通貨ニ變換スヘキコトヲ確保ス

第九　獨逸國カ支拂ヲ爲スヘキ通常ノ財源

上記ノ原則ノ下ニ吾人ハ獨逸國カ左記ノ財源ヨリ其ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ勸告ス

（イ）其ノ通常豫算ヨリ

（ロ）鐵道債劵及運送税ヨリ

（ハ）工業債劵ヨリ

吾人ハ順次右三者ヲ考究スヘシ

イ　條約上ノ支拂ニ對スル豫算上ノ財源、豫算均衡

獨逸國カ其ノ通常豫算ヨリ幾何ノ支拂ヲ爲シ得ルカ又何レノ日ヨリ之ヲ爲シ得ルカヲ勸告スルハ要スルニ吾人ニ諮問セラレタル二箇ノ特殊問題ノ第一即チ如何ニシテ獨逸國ノ豫算ヲ均衡セシムヘキカノ問題ニ對シ答案ヲ與フルコトトナラム何トナレハ獨逸國ノ經濟的及財政的統一カ回復セラレ、安定セル通貨カ確立セラレ竝其ノ豫算カ條約ニ基ク支拂ヨリ一時免ルルヲ得ハ獨逸國ハ一般的且恆久的ナル解決カ與フヘシト期待セラルル信賴心ニ依リ支持セラルル熱心ナル國内的努力ニ依リ自國ノ財源ヲ以テ豫算ヲ均衡セシムヘク爾後ハ條約上ノ將來ノ支拂負擔額カ同國ノ支拂能力ヲ超過セサルヘキコトヲ保障スル一ノ方法ニ依リ右負擔額カ決定セラルルニ於テハ豫算ノ均衡ヲ保持シ得ヘキナリ

換言スレハ吾人ハ獨逸國ニ於テハ墺地利國及洪牙利國ノ場合ノ如ク過渡期間特ニ其ノ通常不足ヲ補フ爲ニ外債ヲ要スルコトナシト思考ス外債ハ吾人ノ計畫ノ須要ナル部分ナルカ其ハ一部ハ新發行銀行ヲ設立スル爲一部ハ過渡期間實物引渡ノ中絶スルコトヲ防止セムカ爲及殊ニ右計畫ノ成否ノ懸ル信賴心ヲ創造セムカ爲ナリ然レトモ吾人ハ右外債ハ過渡期間ニ於テモ通常支出ノ不足ニノミ特ニ充當セラルヘキコトヲ建議スルモノニ非ス却テ後述ノ如ク吾人ハ國内ノ財源カ最初ヨリ國内ノ通常支出ヲ支辨スヘク且近キ將來ニ於テハ對外債務支拂ノ爲相當多額ナル負擔ヲ爲シ得ルニ至ルヘシト思考ス

現在ノ豫算狀態ニ付テハ第二編ニ相當詳細ニ說述シタリ右第二編ニハ支出ノ節減及課税ノ增加ノ爲實行シ得ヘシト信スル措置ニ付吾人

ノ批評及勸告ヲ載セタリ

吾人ハ茲ニハ唯節約ニ基ク支拂ノ爲講セラレ得ヘキ方法ニ付吾人ノ結論ヲ述フルニ止メム

一　千九百二十四—千九百二十五年豫算

第一年（千九百二十四—千九百二十五年）ニ於テ通常豫算ハ均衡セラレ得ヘシト思考ス假令不足アリトスルモ其ハ通貨ノ安定ヲ危クスルカ如キ性質ノモノニ非サルヘク又最惡ノ場合ニ於テモ獨逸國ハ正常ノ手段即チ現在ノ課税ノ增加、新非常税及内債ニ依リテ之ヲ支辨シ得ヘシト信ス

假令獨逸國カ千九百二十四—千九百二十五年ニ於ケル不足ヲ除去スルカ爲有力ナル措置ヲ執ルトスルモ吾人ハ獨逸國カ支出ノ節減又ハ收入ノ增加ニ依リ其ノ豫算財源ヨリ同盟國ニ對スル平和條約上ノ債務ノ支拂ヲ調達スルコトハ期待シ難ク又其ノ支拂ヲ要求スルハ豫算ノ組立及通貨ノ安定ヲ危クスルモノナリトノ結論ヲ得タリ他ノ方法ニ依リ如何ニシテ賠償債權國ニ救濟ヲ與ヘ得ルヤハ別ニ考究スル所アルヘシ

諸邦（「プロシア」「バヴァリア」等）及諸地方團體ノ財政カ獨逸國ノ豫算ノ安定ニ及ホス影響ノ極メテ重要ナル所以ハ大ニ吾人ノ考慮ヲ煩ハシタル所ニシテ補助金及地方費ノ制度ニ關スル吾人ノ意見ハ之ヲ第二編ニ記載シタリ

二　千九百二十五—千九百二十六年豫算

千九百二十五—千九百二十六年ノ豫算ニ關シテハ現在ノ材料ハ其ノ細目ノ豫測ニ付精確ナル判斷ヲ下スニ不充分ナルハ明白ナリ然レトモ或一般的斷定ヲ得ルハ不可能ナラス

收入ノ方面ニ於テハ整理及通貨ノ安定ノ一年ヲ經過スレハ收入ハ自ラ增加スヘシ右回復期間カ倘短キニ依リ所得税ニ依ル收入ヲ全然復舊スルコト能ハサルヘキモ千九百二十四—千九百二十五年ノ金貨「マルク」收益ハ少クトモ相當ノ所得査定ノ基礎ヲ爲シ得ヘシ消費税ハ景氣ノ回復ニ依リ直接ニ影響ヲ受クヘシ

支出ノ方面ニ於テハ失業ニ對スル支出ノ著シク減少スヘキハ相當ノ確信ヲ以テ期待シ得ヘシ軍事費モ減少スルコトヲ得ヘシ恩給金支出モ自動的減少ヲ示スヘシ然レトモ前記項目又ハ其ノ他ノ項目ニ付斯ク節約セラルル金額ハ豫算上ノ純益ヲ示スモノト期待スヘカラス殊ニ獨逸國ノ俸給支出ノ增加アルヘキハ豫想セラレサルヘカラサル所ニシテ右ハ人員ノ減少ニ依リテ全部償ハルルコト難カルヘシ右ノ事實ハ爾後數年ノ豫算ニ付テモ亦現ハルヘシ

故ニ支出ノ多少增加スルハ之ヲ豫期セサルヘカラス然レトモ差引ニ於テ吾人ハ收入ノ增加カ支出ノ增加ヲ償ヒテ餘アルヘシト思考ス千九百二十四—千九百二十五年豫算ノ結果ニ付如何ナル意見ヲ立テ得ルニモセヨ第二年ハ之ニ比シ著シキ改善ヲ示スヘキハ吾人ノ確信スル所ナリ故ニ第一年ノ結果ハ次年ノ結果カ實際相當ノ剩餘ヲ生スルヤ否ヤヲ豫測スルニ當リ之ヲ考慮ニ容レサルヘカラス千九百二十四—千九百二十五年豫算カ課税ノミニ依リテ均衡ヲ得ルコト能ハサルニ至リタル場合ニハ次年ニ於テ期待シ得ヘキ改善ハ豫算ノ均衡ノ確保ニ止マルヘシ之ニ反シ千九百二十四—千九百二十五年ニ於テ何等ノ起債ヲ必要トセサルニ於テハ次年ニ於ケル改善ハ純剩餘タルヘク全部之ヲ平和條約上ノ負擔ニ充當スルコトヲ得ヘシ

吾人ハ此ノ二年ヲ一括スルニ於テハ收入ハ通常支出ヲ償フニ足ルヘシト確信シ且恐ラクハ少計ノ剩餘ヲ生スルコトアルヘキヲ否定セス之ニ反シ平和條約上ノ負擔ニ對スル強制的債務ヲ豫算中ニ加フルニ於テハ豫算均衡ノ全部ヲ破壞スルノ虞ナキヤ明言スルコト能ハス而シテ回復期間ニ於ケル最初ノ支拂額トシテ事態カ正當トセサル金額ヲ決定スルノ過誤ヲ爲スヘカラサルコトハ明ニ緊要ナリ

斯クテハ將來ノ賠償支拂及獨逸國ノ一般ノ信用ヲ危クスルニ至ルヘシ

倘考慮ニ容ルヘキ一事アリ吾人ノ後述スヘキ鐵道事業計畫ノ實行ヲ成功セシムル爲ニハ運送税ノ收入ノ中二億五千萬金貨「マルク」ヲ本年度豫算ノ收入ノ部ヨリ差引キ之ヲ條約上ノ負擔支拂ニ充當スルヲ必要ナリトス

他方右計畫ハ鐵道會社カ額面二十億金貨「マルク」ノ優先株ヲ賣出スコト其ノ賣上高ノ四分ノ一ヲ獨逸國豫算ノ收入ト爲スコト竝殘餘ヲ鐵道ノ過去及將來ニ於ケル資本支出ニ充ツルコトヲ規定シタリ該鐵道計畫ヲ實行シテ效ヲ收メムカ爲吾人ハ此等優先株ノ公賣ニ重ヲ置クモノニシテ千九百二十五—千九百二十六年度末以前ニ獨逸國政府ハ右賣出ノ結果トシテ五億金貨「マルク」ヲ確實ニ所有スルニ至ルヘシト推定スルモ誤ナカルヘシト信ス故ニ豫算ハ右金額ノ增補ヲ受クヘク運送税ニ關スル二億五千萬金貨「マルク」ノ引出ヲ計算ニ入ルルモ倘二億五千萬金貨「マルク」ノ殘額アルヘシ右殘額ハ之ヲ平和條約上ノ負擔ノ充當ニ用フルヲ得ルコトト爲ルヘシ

前述ノ手續ニ依レハ獨逸國豫算ノ通常財源ヨリ倘早ニ支拂ヲ求ムルコトニ依リ將來ノ安定ニ障礙ヲ來スノ危險ヲ除去シ得ヘク又優先株ヲ個人ノ所有ニ移スノ一誘因ヲ作リ得ヘシ

故ニ吾人ハ千九百二十五—千九百二十六年ニ於テ獨逸國カ其ノ豫算ヨリ二億五千萬金貨「マルク」ヲ平和條約上ノ負擔ニ充當スルコトヲ要求セラルヘキヲ勸告ス吾人ノ期待ニ反シ優先株ノ賣出ヨリ五億金貨「マルク」ヲ調達スルコト能ハサル場合ニ於テハ不足額ハ内債ニ依リテ之ヲ補ヒ得ヘシト思惟ス

運送税ノ收入ハ爾後之ヲ豫算ノ收入ノ部ニ編入スヘカラス但シ千九百二十五—千九百二十六年ニ於テハ二億五千萬金貨「マルク」ヲ超過スル額及爾後ノ年ニ於テハ二億九千萬金貨「マルク」ヲ超過スル額ハ此ノ限ニ在ラス

吾人ハ他ノ方法ニ依リテ右以外ノ賠償支拂ヲ爲スヲ得セシムルノ問題ヲ再ヒ留保ス

三　其ノ後ノ年度ノ豫算　既ニ述ヘタルカ如ク獨逸國ノ信用ハ唯其ノ豫算ヲ均衡セシムルコトノミニ賴ルコトヲ得ス永久ニ右均衡ヲ維持シ得ヘキコト明白ナラサルヘカラス故ニ吾人ハ右ノ均衡ヲ危カラシムルコトナクシテ獨逸國カ近キ將來ニ於テ如何ナル負擔ヲ爲シ得ルヤヲ考察スルノ要アリ此ノ點ニ關シテハ必然的ニ或假定ヲ設クルコトヲ要ス二年間獨逸國ノ豫算カ平和條約上ノ負擔ヲ免除セラレ且通貨ノ安定カ回復セラルルニ於テハ獨逸國ハ千九百二十六年ニ於テ完全ナル回復ニ向ヒテ長足ノ進歩ヲ爲スヘク其ノ後三年ヲ經即チ千九百二十八年迄ニ正常ノ經濟狀態ニ到達スヘシト思惟セラレタリ吾人ハ獨逸國ノ諸種ノ租税ノ豫定收入額及其ノ全體トシテノ納税能力ヲ考慮シ竝此等改善シツツアル狀態ニ於テ支出上ニ起ルヘキ變化ヲ考慮シタリ而シテ吾人ハ誤算ニ對シ充分ノ酌量ヲ加ヘタル後豫算ノ安定ヲ危カラシムルコトナクシテ平和條約上ノ負擔ノ爲決定セラレ得ヘキ金額ニ付確定的斷案ニ到達セリ吾人ハ右結果ヲ獨逸國民ノ收入カ現狀ヨリ增加スト期待セラレ得ル最大限及課税ニ依リ右增收ヨリ吸收シ得ヘキ割合ノ最大限ト關聯シテ考慮シタリ

吾人ハ避ク可カラサル或程度ノ支出增加ヲ參酌シタル上爾後ノ三年間ノ豫算ハ左ノ最大限金額ヲ計上スルモ安全ナリトノ結論ヲ得タリ

千九百二十六—千九百二十七年
　一億一千萬金貨「マルク」
千九百二十七—千九百二十八年
　五億金貨「マルク」
千九百二十八—千九百二十九年
　十二億五千萬金貨「マルク」

然レトモ千九百二十六—千九百二十七年及千九百二十七—千九百二十八年ニ於ケル獨逸國ノ回復カヲ推測スルコト困難ナルノ事實ニ鑑ミ吾人ハ二億五千萬金貨「マルク」ヲ超ヘサル限度内ニ於テ次ノ計畫ニ從ヒ此等ノ金額變更セラルルコトアルヘキヲ提案ス即チ第十四ニ規定セラルル監理收入ノ總計カ千九百二十六—千九百二十七年ニ於テ十億ヲ超過シタル場合又ハ千九百二十七—千九百二十八年ニ於テ十二億五千萬ヲ超過シタル場合ニ於テハ右超過額ノ三分ノ一ニ相